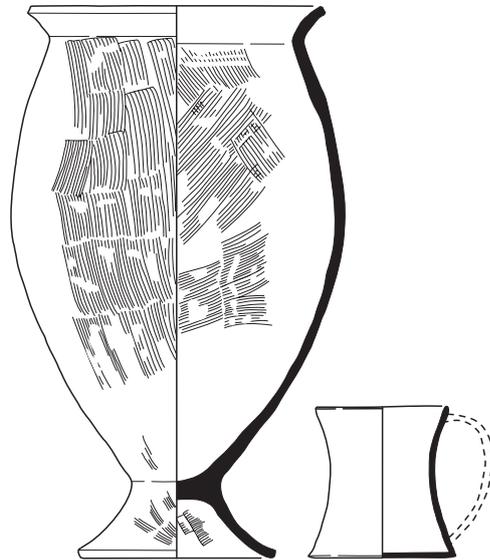


熊本県文化財調査報告第 283 集

築地館跡

一般国道 208 号玉名バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査



March.2013

熊本県教育委員会



築地館跡 全景



遺跡遠景 W→E



遺跡遠景 S→N



SD01 完掘状況 E→W



SD01 土層断面及び遺物出土状況 W→E



SD05 土層断面 E→W



SB01 及び SF01 完掘状況 E→W



SF02 完掘状況 E→W



SF02 土層断面 N→S



SI14 出土土器



SI17 出土土器



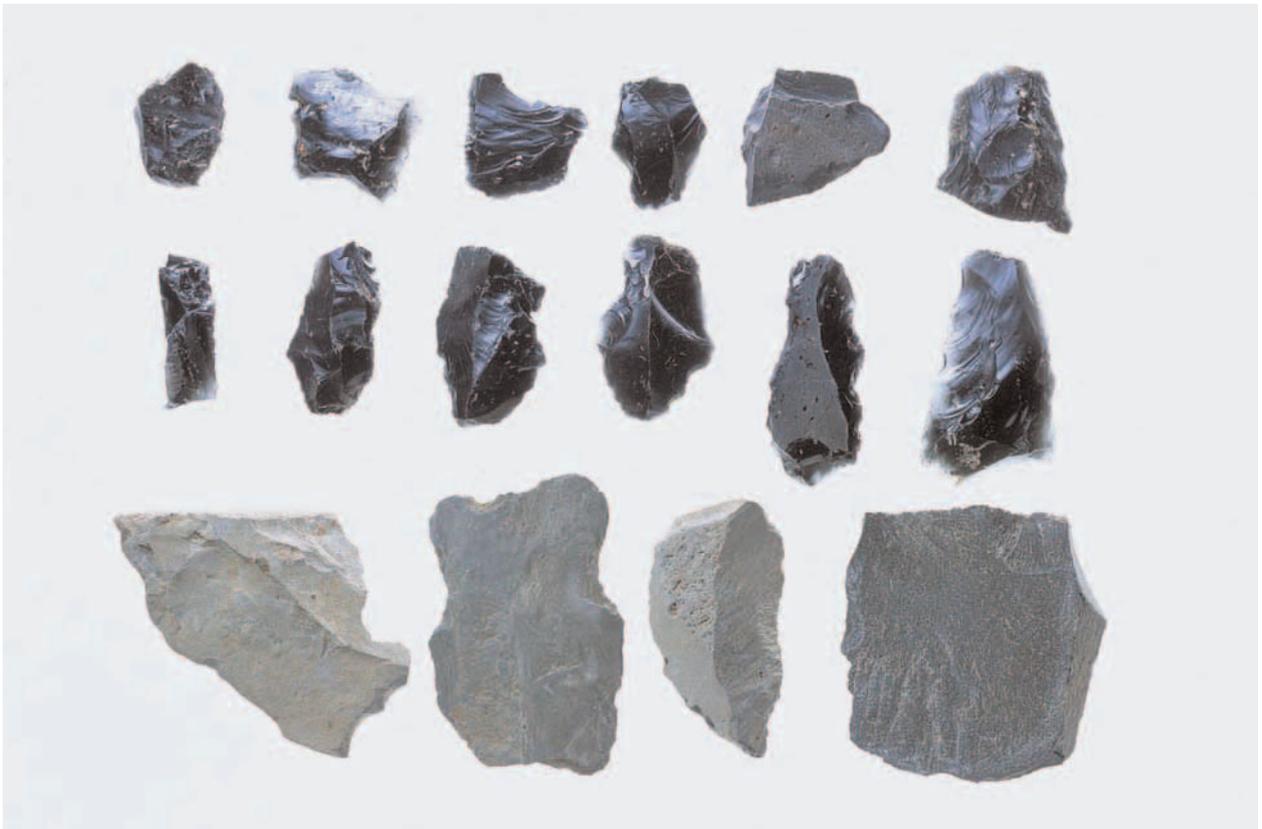
S113 出土土器



ジョッキ形土器



石鏃

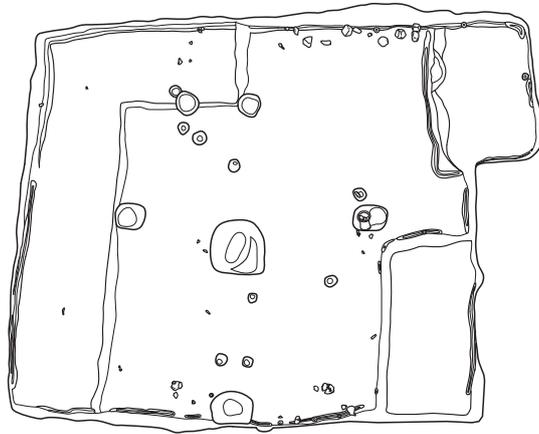


スクレイパー

熊本県文化財調査報告第 283 集

築地館跡

一般国道 208 号玉名バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査



March.2013

熊本県教育委員会



序 文

熊本県玉名市の築地館跡は、一般国道 208 号玉名バイパス改築事業地内に所在した遺跡である。玉名市寺田字榎原を起点とし玉名市岱明町開田を終点とする延長 8.5km の玉名バイパスを整備するにあたり、熊本県教育委員会が同地内の埋蔵文化財確認調査をおこなったところ、縄紋時代から中世にまでわたる有力な遺跡が存在することが判明した。

玉名バイパスの整備に先立ち、熊本県教育委員会では平成 21 年度に玉名市築地字那木野に所在する築地館跡の発掘調査を実施した。調査の結果、弥生時代の環濠を伴う集落跡、中世の城館を囲む濠跡等、多種の遺構と多量の遺物を発掘した。

なかでも、弥生時代集落の環濠には側溝が附設され、大小の住居跡 24 棟が確認される等、拠点集落の様相がうかがえる結果を得ている。また、出土遺物にも、ジョッキ形土器のように熊本の弥生時代を代表する貴重な資料が多々含まれている。

これらにつき、報告書として刊行し、滅失した遺跡の記録としたい。

なお、調査の実施にあたっては、国土交通省熊本河川国道事務所の協力はもとより、地元の玉名市、玉名市教育委員会、築地地区の皆さんの多大な協力と援助があった。心から厚く御礼申し上げる。

平成 25 年 3 月 31 日

熊本県教育長 田崎 龍一

例言

- 1 本書は、一般国道 208 号玉名バイパス改築事業に伴い記録保存を目的として実施した熊本県玉名市築地字那木野所在の築地館跡（調査範囲は調査後に滅失）の発掘調査報告書である。
- 2 当該遺跡の調査は、熊本県教育委員会が調査主体となり、同教育総務局文化課が調査を担当した。
- 3 発掘資料の整理は、熊本県文化財資料室（熊本市南区城南町）で実施した。なお、記録及び遺物は、熊本県文化財資料室が保管している。
- 4 本書の編集は、宮崎敬士（文化財調査第一係）が担当し、野中愛（嘱託）がこれを補佐した。

Table of CONTENTS

口絵 Frontispieces

序文 Introduction

例言 Preface

目次 Contents

1 調査の目的と方法

1-1 発掘調査の概要	3
1-1-1 調査の目的	3
1-1-2 調査の経緯	3
1-1-3 調査体制	4
1-1-4 調査経過	4
1-1-5 整理体制	12
1-1-6 整理経過	12
1-1-7 保存及び活用	12
1-1-8 調査協力者	12
1-2 遺跡の概要	15
1-2-1 遺跡の諸元	15
1-2-2 自然	15
1-2-3 人文	17
1-3 調査の方法	21
1-3-1 現地調査の概要	21
1-3-2 発掘の方法	21
1-3-3 遺構及び遺物	21
1-3-4 整理の方法	23

2 発掘調査の成果

2-1 掘立柱建物 (SB)	27
2-2 竪穴住居 (SI)	29
2-3 溝 (SD)	84
2-4 土壌 (SK)	103
2-5 道路 (SF)	114

3 分析と考察

3-1 出土弥生土器の時期的変遷	159
3-2 打製石器の分類と同定	163
3-3 花粉分析	205
3-4 放射性炭素年代測定	209
3-5 弥生集落の変遷と中世館跡	213

4 写真図版

抄録 Abstract

奥付 Colophon

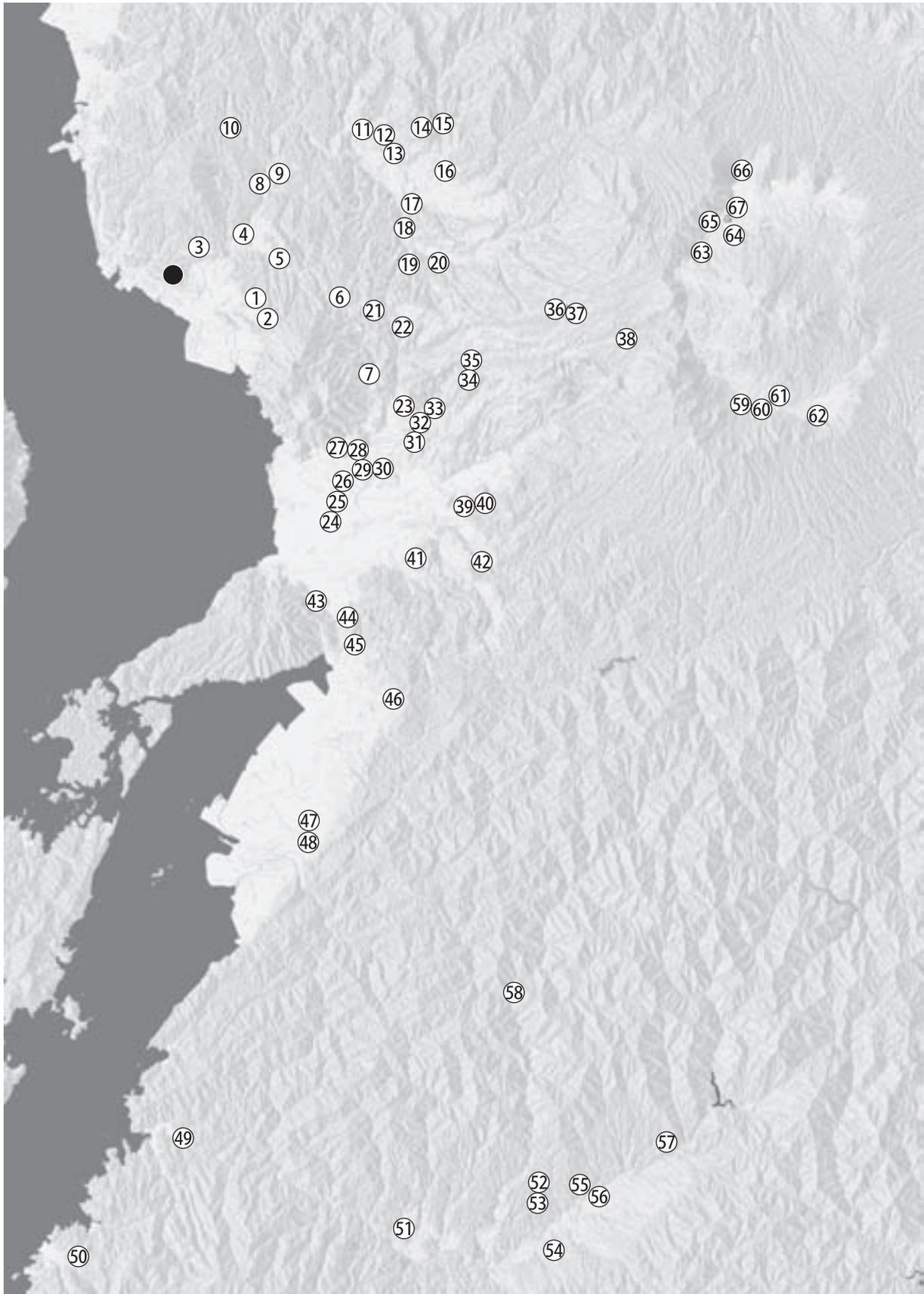


1 調査の目的と方法

築地館跡は熊本県玉名市築地字那木野に所在する。

築地館跡は小岱山南麓から有明海に伸びた丘陵上に位置する。ここで報告する築地館跡の埋蔵文化財発掘調査は、一般国道 208 号玉名バイパス改築事業に先立ち、熊本県教育委員会が調査主体となり実施された。築地館跡の埋蔵文化財発掘調査は、平成 20 年度に予備調査、平成 21 年度に本調査、平成 22 年度から平成 23 年度まで整理作業が実施された。その発掘調査面積は 6,647 m²である。

調査の結果、築地館跡は竪穴住居 24 棟、溝 2 条、土壇等で構成された弥生時代後期の集落、掘立柱建物 1 棟、溝 1 条、土壇等で構成される中世の館跡が複合した遺跡であることが明らかになった。



1野部田 2齊藤山 3東南大門 4柳町 5稲佐津留 6ヲスギ 7五丁中原 8前田 9諏訪原 10大場石棺群 11桜町 12古閑白石 13方保田東原 14蒲生上原 15津袋 16台 17小野崎 18北無田 19石川 20石立・八反田 21小糸山 22梶尾 23黒髪 24八ノ坪 25権藤 26白藤 27上高橋高田 28二本木田崎 29八島町 30平田町 31神水 32大江 33新南部 34弓削山尻・石原亀甲 35梅ノ木 36西弥護免 37大松山 38外牧 39石塚 40二子塚 41新御堂 42上山神・下山神 43西岡台 44東松山 45大塚台地 46大坪貝塚・田中 47上日置・女夫木 48西片町 49宮浦 50北園貝塚 51荒毛 52新深田・高ノ原 53夏女 54本目 55沖松 56市房隠 57ヤリカケ松 58頭地 59小無田鶴 60西一丁田 61南鶴 62幅・津留 63宮山 64下山西・鏡山下 65狩尾遺跡群 66陣内 67小野原遺跡群 ●築地館跡

図1 弥生時代の主要遺跡

1-1 発掘調査の概要

1-1-1 調査の目的

一般国道 208 号玉名バイパス改築事業に伴い、当該用地内において周知の埋蔵文化財包蔵地である築地館跡が滅失するため、その発掘調査を実施し、記録保存を行うことを目的とした。

1-1-2 調査の経緯

一般国道 208 号線は、熊本県熊本市を起点とし玉名市、荒尾市等を経由し佐賀県佐賀市に至る、総延長 74km の主要幹線道路である。国土交通省（建設省）は、この一般国道 208 号線について、交通渋滞の緩和、道路交通環境の改善、地域開発計画の支援のため、玉名市寺田字榎原を起点とし玉名市岱明町開田を終点とする延長 8.5km の玉名バイパスを整備することを計画した。玉名バイパスは、昭和 49 年度に事業化され、平成 6 年度から供用（部分）されている。

平成 20 年度、玉名バイパス改築予定地（第 3 工区）には周知の埋蔵文化財包蔵地である築地館跡が含まれるため、熊本県教育庁は国土交通省熊本河川国道事務所の依頼を受けて予備調査を実施した。予備調査の結果、築地館跡において埋蔵文化財を確認し、工事着手前に発掘調査が必要な旨を通知した。この後、熊本河川国道事務所と熊本県教育庁文化課とが協議し、平成 21 年度に記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

平成 20 年度、国土交通省熊本河川国道事務所長は文化財保護法第 94 条第 1 項の規定により土木工事等のための発掘について熊本県教育長あて通知した。これを受け、熊本県教育長は発掘調査が必要と国土交通省熊本河川国道事務所長あて通知している。

平成 21 年度、現地における発掘調査が実施され、後、報告書作成のための整理が平成 22 年度から平成 23 年度まで実施された。

以下、発掘調査の実施に係る諸手続を記す。

予備調査

平成 20 年 6 月 3 日付け国九整熊二調第 7 号で国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あて予備調査の依頼があった。これは、玉名

バイパスの未供用部分全体についての依頼であり、予備調査は地権者承諾等の調査実施環境が整った地点から、複数回に分けて実施されている。

築地館跡に係る確認調査は、平成 20 年 7 月 22 日から 9 月 9 日まで（11 日間）長谷部善一参事、稲葉一文文化財保護主事が実施し、埋蔵文化財を確認している。この確認調査結果は、平成 20 年 10 月 9 日付け教文第 624 号で熊本県教育長から熊本河川国道事務所長あて通知されるとともに、その内容が玉名市教育長あて通知された。その後、追加実施された予備調査の結果を平成 20 年 7 月 22 日付け教文第 624 号の 2 で、玉名バイパス全体の予備調査結果を取りまとめた報告を平成 20 年 12 月 11 日付け教文第 624 号の 3 で熊本県教育長から熊本河川国道事務所長あて通知するとともに、その内容を玉名市教育長あて通知している。

周知の埋蔵文化財包蔵地である築地館跡は、以上の確認調査の結果、竪穴住居、溝等の遺構、弥生土器等の遺物が確認された。

土木工事等による発掘

文化財保護法第 94 条第 1 項の規定により平成 21 年 2 月 12 日付け国九整熊三工第 121 - 2 号で国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あて土木工事等による発掘について通知があり、平成 21 年 3 月 5 日付け教文第 2869 号で熊本県教育長から国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長あて発掘調査が必要な旨が通知された。

埋蔵文化財の発掘

平成 21 年 5 月 11 日付け国九整熊二調第 13 号で国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から熊本県教育庁文化課長あて発掘調査の依頼があり、文化財保護法第 99 条第 1 項の規定により平成 21 年 5 月 29 日付け教文第 605 号で熊本県教育庁文化課長から熊本県教育長あて埋蔵文化財の発掘調査について通知するとともに、その内容を国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長及び玉名市教育長あて通知した。

文化財の発見

文化財保護法第100条第1項の規定により平成22年4月2日付け教文第18号で熊本県教育長から玉名警察署長あて文化財の発見について通知するとともに、その内容を国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長及び玉名市教育長あて通知した。

1-1-3 調査体制

築地館跡の発掘調査は熊本県教育庁が調査主体となり、熊本県教育庁文化課が調査を担当した。

なお、調査担当者等は以下のとおりである。

調査責任者

文化課長が担当した。
米岡正治（文化課長）

調査統括

課長補佐が担当した。
木崎康弘（課長補佐）

調査指導

文化財調査第一係長が担当した。
村崎孝宏（文化財調査第一係長）

調査担当

職員が担当した。
稲葉一文（文化財保護主事）
野中愛（非常勤嘱託）
西山真美（非常勤嘱託）
横矢晋二郎（非常勤嘱託）

調査作業員

荒木康利、荒木征子、池田秀盛、井上征一、今村東亜子、植田トミヨ、植田ナツヨ、大久保正春、大久保靖子、大隅清成、小山恵子、川上政巳、川上壽賀子、北原美和子、北嶋百合子、木戸博長、木村利男、木本勝雄、坂崎和仁、志水静喜、高津千尋、田口一美、田添幸子、武田昭男、徳永幸代、徳永良弘、中林静代、仲山サチ子、仲山陸郎、西由起子、西村真由美、西村清美、西嶋ヨシエ、西嶋喜久代、林弘子、廣瀬悦子、

平山竹次、福永保郎、古城明憲、古川佐和子、三森敏子、松村鈴子、松本えり子、眞村俊昭、水村つよし、村上美枝子、山内恵美子、吉川ゆかり、吉田ムツ子、吉田成文（以上、50名）。

1-1-4 調査経過

現地における発掘調査は平成21年4月21日から平成22年3月31日まで実施した。築地館跡のみを調査対象としていることから、調査班は1班体制を採り、職員1名、嘱託2名の構成で調査を開始した。後、10月から横矢嘱託を加え、職員1名、嘱託3名の構成となった。

以下に、現地における発掘調査の概要を記す。

4月21日 調査西区橋建設用ブロック設置用地（緊急調査）の表土掘削開始。表土中から弥生土器、土師器及び須恵器等が出土。

4月22日 表土掘削後、2層上面の清掃を行った結果、土壇状の遺構（SD01）、ピット群を検出。

4月23日 土壇、ピット群の半裁、その後、写真撮影。

4月24日 溝状遺構（SD02）の検出、その後トレンチを設定し掘削を開始。溝の底付近から弥生土器、須恵器が出土しそれらの遺物とともに焼土を検出。

4月27日 SD01、SD02及びピット群の掘削、埋土断面の写真撮影、実測等を実施。

4月28日 調査西区橋建設用ブロック設置用地の本調査が終了し工事業者に引き渡し。

5月7日 安全対策のため調査西区にフェンスを設置。

5月8日 調査西区表土掘削を開始。

5月12日 表土掘削2日目。西側にのびる溝状遺構（SD01）を確認。溝の幅は約7m。

5月13日 表土掘削3日目。SD01を検出するため清掃を実施。

5月14日 SD01の検出（西側）。道状遺構（SF01）とそれに伴う溝状遺構の確認。

5月15日 表土掘削4日目。SD01の検出（東側）。住居跡（SI02、SI03、SI04）の確認。

5月18日 表土掘削5日目。SI02、SI03の検出及び写真撮影。

5月19日 表土掘削6日目。SD01に土層観察用のベ

- ルトを設定し、埋土の掘削及び南側トレンチの掘削を開始。
- 5月20日 表土掘削7日目。SD01の埋土掘削及び東側の埋土上部に波板状圧痕を確認。SI02、SI03の四分割掘削及び外部委託（九州文化財研究所）による平板測量を開始。
- 5月21日 降雨のため室内作業。
- 5月22日 SI02、SI03の四分割掘削。SI04の検出及びサブトレンチ掘削。
- 5月25日 表土掘削8日目、本日で表土掘削終了。SI02の柱穴、炉の半裁。SI04の四分割掘削及びベッド状遺構の確認。SI05の確認及びトレンチの掘削。
- 5月26日 SI04のベッド状遺構の検出及び床硬化面の確認。SI05の立ち上がり、床硬化面及び焼土の確認。
- 5月27日 SI04の床面付近から鉄器、土器及び石器が出土。SI05は中央付近に炉を確認、埋土から大型の土器片が多数出土。
- 5月28日 SI04は床硬化面まで掘削、L字状のベッド状遺構を検出。また床面から礫数点と彫刻刀状の石器1点出土。
- 5月29日 SI04に柱穴2基及び側壁溝を確認。調査西区中央道路を人力により表土掘削。
- 6月1日 SI04で2箇所から赤色顔料を検出。北側トレンチ付近から住居跡（SI06）を確認。
- 6月2日 SI06から赤色顔料を検出。調査西区中央道路から波板状遺構（SF02）を確認。SI02、SI04完掘状況の写真撮影。
- 6月3日 降雨のため発掘調査を中止。
- 6月4日 SF02検出状況の写真撮影及びSF02に伴う側溝の確認。北トレンチ付近のピット掘削。
- 6月8日 発掘調査区内のメッシュ杭設置を開始。
- 6月9日 調査西区中央道路の掘削。その過程で南端の地山から土留めに用いられたと思われる木杭及び溝を確認。
- 6月10日 降雨のため発掘調査を中止。
- 6月11日 SI02、SI04の実測。試掘トレンチ3、4及びサブトレンチ4の掘削。
- 6月12日 調査西区中央道路で硬化面（道路状）とそれに伴う溝状遺構を確認。SI02、SI04の遺物出土状況を実測。
- 6月15日 SF01、SF02の掘削。SD01、SI02、SI04及びSF02の実測。
- 6月16日 SF01延長線上の清掃、SF02の掘削。SI02の柱穴、炉及び下端、SF02の下端、中端の実測。
- 6月18日 SD01の埋土掘削。SF02、SI03の掘削。SF01の上端、SF02の埋土縦断面の実測。SF02の半裁状況、中央道路の硬化面と側溝（2本）の検出状況の写真撮影。
- 6月19日 SD01の埋土、中央道路3層、SF02の掘削。中央道路3層の平面、SI02、SF01、SF02の実測。
- 6月22日 降雨のため室内で土器洗いを実施。
- 6月23日 降雨のため発掘調査中止。
- 6月24日 SD01、中央道路の掘削。SF01平面、ピットの实測。
- 6月25日 SF01の半裁、中央道路3層の掘削。SF02上端、下端及び埋土断面、中央道路溝の木杭の実測。SF01の検出状況、SF02完掘状況の写真撮影。
- 6月30日 降雨のため室内で土器洗い実施。
- 7月1日 降雨のため発掘調査中止。
- 7月2日 昨日の降雨により調査区が水没、午前中に水抜きを行った。中央道路5、9層、SD01埋土2層の掘削。L4グリッド出土した土器、SI04石器、鉄器の取り上げ及びSF01埋土断面の実測。L4グリッド土器、SI04石器、鉄器出土状況の写真撮影。
- 7月3日 午前中降雨のため作業中止、午後から開始。SD01埋土2層、中央道路5層を掘削、SD01南横を清掃し、SD03を確認。SI05は平面での遺構プランが不明であるため全体に1cmずつ掘削し、立ち上りを明確にするためにサブトレンチを延長した。平面では確定できず、さらに掘削を行う。SF01半裁状態で実測、註記が終了し完掘。SF01付近で掘立柱跡（SB01）を確認。
- 7月7日 SD01埋土2層、SI05は立ち上がりを見てセクションで分けて埋土1層を掘削、SB01の半裁。SF01は完掘後上端、下端、断面、SF02南壁の断面を実測。中央道路硬化面、溝の写真撮影。
- 7月8日 SI05の掘削、SF01の側溝（SD11）を確認、完掘し写真撮影。調査西区ピットの完掘と実測。

SF02 埋土断面の実測。

7月9日 SD01 埋土2層の掘削。SI05は床面まで掘り下げたところ焼土、炭化物が検出され住居跡と確定した。SB01埋土断面、SD11平面、中央道路硬化面範囲、I4グリッドのピットを実測。

7月13日 SD01は壁の立ち上がりを検出するため掘削。SI03は硬化面まで掘削し下端の実測。SI05の掘削、SB01は埋土断面の実測、註記、写真撮影の終了後完掘。

7月14日 高木正文さん来跡。SD01埋土2層、SD02、中央道路硬化面の掘削。SB01の完掘後、平面を実測。SI03完掘平面、SI02、SI03遺物出土状況、SI05遺物出土状況、SI04埋土断面を実測。

7月15日 SI06は硬化面まで掘削、清掃し、上端と遺物出土状況を実測。両側にベッド状遺構を確認。中央道路の掘削では、木杭を検出。SD02埋土、SI03硬化面、SF02の掘削。SI05上端と遺物出土状況の実測。SB01完掘状況の写真撮影。

7月16日 SF02その周辺を掘り下げ、地山で道路状遺構の基礎的な掘りの跡を確認。SD02埋土、SI04セクションベルト、中央道路の掘削。SI03完掘平面、SI05埋土断面、SI06完掘平面及び遺物出土状況を実測。中央道路の木杭検出状況の写真撮影。

7月21日 降雨のため発掘調査中止。

7月22日 皆既日食。昨日の降雨により調査区水没、午前中は水抜きを行った。SD02埋土、中央道路4層の掘削。SI04は、セクションベルトの掘削、床面から鉄器1点出土。中央道路の木杭検出状況の写真撮影。

7月23日 SI04を清掃した後、出土した鉄器の検出状況の写真撮影。その時、柱穴2箇所を確認。SD02埋土3層、SI06、SF02、中央道路の掘削。SF02埋土断面、SI03完掘状況、SI05検出状況、埋土断面、SI06遺物出土状況の写真撮影。

7月24日 降雨のため発掘調査中止。

7月27日 SI05は埋土断面の実測が終了、セクションベルトを掘削。SD01埋土2、3、4層、SD02埋土3層、中央道路を掘削。

7月28日 連日の降雨により雨水が溜まり、ぬかる

んでいるため、作業が進まなかった。SD01埋土2、3、4層、SD02埋土、SI05セクションベルトの掘削、SI04炉・柱穴の半裁。

7月29日 降雨のため室内で土器洗いを実施。

7月30日 SD01埋土2、3、4層の掘削。SI04より出土した鉄器出土状況、SI04炉、柱穴平面の実測。

8月3日 昨日の降雨により調査区水没、水抜き実施。午後、隣接する工事現場から石灰の粉が飛来、匂いもあったため一時待機。SI05セクションベルト掘削は、床面直上に近い埋土5層で多数の土器片が出土。中央道路客土4層掘削中、古銭1点出土。SD01埋土2、3層の掘削。

8月4日 宮崎敬士、亀田学が来跡。SI05セクションベルトは多量の土器片出土のため慎重に掘削を行った後、遺物出土状況の実測、写真撮影。中央道路客土4層の掘削中、昨日に引きつづき古銭1点出土。SD02はベルトを清掃し、埋土断面の実測と写真撮影。SD01埋土2、3、4層の掘削。SD02遺物出土状況、炭化物検出状況、中央道路古銭出土状況の写真撮影。

8月5日 玉名市教育委員会文化課職員3名来跡。SI04炉、柱穴は埋土断面の実測後、写真撮影。SI05は埋土中の遺物の点取り上げ実施。SD01埋土2、3、4層、中央道路の掘削。中央道路西側の土層断面と遺物出土状況の実測と写真撮影。

8月6日 中央道路客土を掘削。SD01埋土2、3、4層掘削中、埋土3層より石鏃1点出土。SD02は註記が終了し、ベルトを掘削。

8月7日 SI04は炉、柱穴を完掘、柱穴からジョッキ形土器が出土し実測、写真撮影。SD01埋土2、3、4層、SD02の掘削。SI05床面直上の遺物出土状況、中央道路東側の埋土断面の実測。SI04炉の焼土の写真撮影。

8月11日 SD01埋土2、3、4層、中央道路客土4層の掘削、SI04炉、柱穴の完掘。SD02平面、遺物出土状況の実測。

8月12日 降雨のため発掘調査中止。

8月13日 SD01埋土3、4層、中央道路客土4層の掘削。

8月14日 SD01埋土3、4層、中央道路客土4層の掘削。SD02完掘状況、遺物出土状況の実測。SI04炉、

- 柱穴完掘状況の写真撮影。
- 8月17日 午後降雨のため一時待機。SD01 埋土1、4層の掘削。
- 8月18日 SD01 埋土2、3、4、5層の掘削中、埋土5層より大型の弥生土器が多数出土。SD02は壁出し実施。SI04 炉、柱穴の下端の実測。
- 8月19日 SD02はほぼ完掘し、東半分の上端、下端の実測も終了し、南壁土層断面の実測を行った。SD01 埋土5、6層、中央道路の掘削。中央道路の石群の実測。
- 8月20日 亀田学来跡。SD01は区に分けて掘削を行っているが、各区埋土5層下部から多数の土器片が出土。中央道路の掘削。SD02 平面の実測。
- 8月24日 SD01 埋土5層の掘削、多数の弥生土器片に混じり須恵器片も出土。
- 8月25日 高木正文さん来跡。SD01 埋土5層下部の掘削。中央道路西側の土層断面の実測。
- 8月26日 中央道路掘削、最下面で土壙(SK01、SK02)が確認され写真撮影を行った。SD01 埋土5層、SD02の掘削。SD01(A区)埋土6層直上の遺物出土状況、SD02より検出された炭化物、中央道路東側の土層断面の写真撮影。
- 8月27日 SD01 埋土5層下部、6層の掘削では土が硬く、土器片も多数出土しているので、水を染み込ませながら掘りやすくして作業を実施。SK01、SK02の半裁、SK02より礫が多数出土。
- 8月28日 降雨のため発掘調査中止。
- 8月31日 室内にて土器洗いを実施。
- 9月1日 SD01 埋土5層下部、6層の掘削。SK01、SK02の半裁。SD01(D区)埋土6層直上遺物出土状況、SK01、SK02埋土断面の写真撮影。
- 9月2日 200個土嚢作り。SD01 埋土5、6層の掘削。SD01 埋土断面、中央道路平面の実測。
- 9月3日 SD01 埋土5、6層の掘削、側壁を確認するためにサブトレンチを3本設置。SK02の清掃を行い、礫出土状況の写真撮影。中央道路の硬化面をSF03とし実測。SD01(C区)埋土6層の直上遺物出土状況、埋土断面の写真撮影。
- 9月4日 SD01(B、C、D区)は遺物を取り上げ、埋土6層を掘削、E区は埋土5層を掘削、清掃。SK01、SK02の完掘、SK02 礫が多数出土。
- 9月7日 SD01(A、B、C区)埋土5、6層の掘削。
- 9月8日 調査西区南側表土掘削を開始。SD01(A区)は埋土6層直上遺物出土状況の写真撮影を行い、遺物を取り上げ埋土6層、他埋土5、6層の掘削。中央道路SF03硬化面直上の遺物点取り上げ、平面を実測。SD01 平面、SK01、SK02 平面、中央道の実測。調査区(西区)全景の写真撮影。
- 9月9日 表土掘削2日目。SD01 埋土6層の掘削。SD01 埋土断面の実測。SD01 埋土6層直上遺物出土状況の写真撮影。
- 9月10日 表土掘削3日目。SD01 埋土6層の掘削。SD01 埋土6層の遺物出土状況を写真撮影。
- 9月11日 表土掘削4日目。SD01 埋土6層の掘削。
- 9月15日 表土掘削5日目、調査東区の表土掘削開始。SD01の掘削。SD02 下端、遺物出土状況、SK03、SK04 平面、埋土断面の実測。SD01 完掘状況(A、E区)、遺物出土状況(A区)の写真撮影。
- 9月16日 表土掘削6日目(調査東区)。SD01、調査西区南側の掘削。
- 9月17日 表土掘削7日目。SD01、調査西区南側の掘削。SD01 平面、ピットの実測。
- 9月18日 山田松尾平遺跡へ発掘調査の手伝い。
- 9月24日 調査西区南側の掘削。調査東区範囲測量。
- 9月25日 SD01(D区)は遺物の取り上げを実施。SI04の掘削。
- 9月28日 事務所にて写真、遺構台帳の整理を実施。
- 9月29日 事務所にて図面の整理を実施。
- 10月1日 調査西区南側、調査北区の掘削。
- 10月2日 降雨のため室内で土器洗い実施。
- 10月5日 調査北区、遺構検出のため掘削。住居跡(SI12)を確認。
- 10月6日 台風対策のため発掘調査中止。
- 10月7日 台風のため発掘調査中止。
- 10月9日 台風後、復旧作業のため発掘調査中止。
- 10月13日 発掘調査中止。
- 10月19日 調査西区南側、調査北区の掘削、遺構検出のため清掃。北区東西トレンチ内より土器片が多数出土。
- 10月20日 調査北区、遺構検出のための掘削。

- 10月21日 調査北区、調査西区南側の掘削。
- 10月22日 調査北区の掘削。SD01の実測。
- 10月23日 発掘調査中止。
- 10月26日 調査北区、遺構検出面まで掘削。
- 10月27日 調査西区、北区、東区の掘削。SD01の実測。SD01に沿ってSD03を確認。
- 10月28日 SD03、調査北区客土の掘削。SD01の実測。
- 10月29日 SK03、SK04、調査北区客土の掘削。SD01、SD03の平面の実測。調査北区は遺構検出のため掘削、土器片が多数出土。
- 11月4日 SK03、SK04、調査西区南側、調査北区客土の掘削。
- 11月5日 調査北区客土の掘削。SK03、SK04下端、SD03の実測。SK03完掘状況、SK04完掘状況の写真撮影。
- 11月6日 SD01、SI04、SI05、調査北区客土の掘削。
- 11月9日 調査東区、表土掘削。SD01、調査北区客土の掘削。
- 11月10日 表土掘削2日目。降雨のため発掘調査中止。
- 11月11日 降雨のため発掘調査中止。
- 11月12日 表土掘削3日目。SI04、調査北区客土の掘削。SI04焼土検出状況、石包丁出土状況の写真撮影。SI04より石包丁が1点出土。貯蔵穴も検出。
- 11月13日 表土掘削4日目。調査北区客土の掘削。調査北区で住居跡(SI09)、調査東区の表土掘削で東西方向に大溝(SD05)を確認。
- 11月16日 表土掘削5日目。SI05、調査北区、遺構検出のため掘削、住居跡(SI08、SI10)2棟を確認。
- 11月17日 降雨のため発掘調査中止。
- 11月18日 表土掘削6日目。SI05炉の半裁、調査北区遺構検出のため掘削、住居跡(SI12)を確認。
- 11月19日 表土掘削7日目。SI02、SI03、調査北区遺構検出のため掘削。SI05埋土断面の実測。
- 11月20日 SK05の半裁、調査北区客土2層、調査東区の掘削。SI04平面の実測。SI02、SI03、SI04、SI05完掘状況の写真撮影。調査北区、土器集中区は、住居跡(SI13、SI14)のプランを検出。
- 11月24日 調査北区、東区の掘削。SI04の実測。
- 11月25日 調査北区、東区遺構検出のため客土の掘削。SI05の実測。
- 11月26日 SI13(土器密集箇所)の清掃。調査東区の精査。
- 11月27日 調査北区は遺構検出のため精査。午後から現場説明会のためシートはぎ、水出し、清掃を実施。
- 11月29日 現場説明会を実施。
- 11月30日 調査西区は遺構検出のため精査し、SI15とSI04はトレンチを設定しベッド状遺構部分に貼り床を確認。SI08、SI09の掘削。SK05埋土断面、SI05平面の実測。
- 12月1日 SI04は貼り床の実測をし、掘削。SI15は検出状況の写真撮影を行った後、サブトレンチをいれ硬化面まで掘削し、柱穴、炉、側壁溝が確認されたので半裁。SI05貼り床を掘削。SF03(5e層)遺物点取り上げ、SI04、SI05、SD03埋土断面、SK05平面の実測。SD03埋土断面、SK05完掘状況の写真撮影。
- 12月2日 SI04、SI05貼り床、SD01セクションベルトの掘削、SI15柱穴の半裁。SF03(5e層)、SK02遺物点取り上げ、SI05、SI15、SD03埋土断面の実測。
- 12月3日 SI04は貼り床を掘削し、完掘状況の写真撮影。SI05貼り床、SI15柱穴の掘削。
- 12月4日 調査東区は遺構検出のため精査及び掘削、黒曜石の矢鏃1点、鉄斧の破片1点が出土。SI07、SI08の掘削。
- 12月7日 調査東区は遺構検出のため掘削、黒曜石が多量に出土。SK02平面の実測後、遺物の点取り上げを実施し、完掘。SI07、SI08、SF03付近、SD12の掘削、SI05の完掘。SD03埋土断面、SI04平面の実測。
- 12月8日 SI05は完掘し写真撮影。SI07、SI15柱穴、SF02の側溝(SD12)、SD06の掘削。SK02完掘状況の実測と写真撮影。SI04、SF03平面の実測。
- 12月9日 SI15柱穴の掘削、SK02は清掃し写真撮影。午後から降雨のため発掘調査中止。
- 12月10日 降雨のため発掘調査中止。事務作業。
- 12月11日 降雨のため発掘調査中止。

- 12月14日 調査東区は遺構検出のため掘削。SI08掘削し埋土断面、貯蔵穴埋土断面の写真撮影。SI07、SI09の掘削。SI15、SK06、SF03の実測。
- 12月15日 SF03硬化面から出土した礫や白磁などの遺物を残しながら掘削。SF02完掘状況の写真撮影のため清掃中、土壙(SK07、SK08)を検出しサブトレンチを設定し、掘削し、埋土断面の実測。SI08掘削、横にSD04を確認し掘削を開始。SI15柱穴、SI07、SI09の掘削、ピット51～56は半裁し埋土断面の実測。SF02完掘状況の実測。SI07、SI09埋土断面の写真撮影。
- 12月16日 調査東区、遺構検出のため掘削。SI12、SI13はサブトレンチを設定し、掘削を開始。SK07、SK08、ピット51～56完掘し写真撮影を行った。SI07柱穴、SD01の掘削。SF03遺物点取り上げ、SI07、SI09埋土断面の実測。SF02完掘状況、SF03埋土断面の写真撮影。
- 12月17日 調査東区、遺構検出のため掘削。SD01(C区)平面の実測。SD01全体完掘状況の写真撮影。
- 12月21日 玉名市教育委員会文化課中山課長来跡。SI15は完掘し写真撮影。SD02の完掘。SD01(F区)の実測。SD05検出状況の写真撮影。
- 12月22日 玉名市用地課職員が来跡。調査東区、遺構検出のため掘削、土壙(SK09)を確認しサブトレンチを設定。SD05掘削。SD01、SD03、SF02、ピット51～56平面の実測。
- 12月24日 村崎孝宏係長、長谷部善一が来跡。SF03掘削、それに伴う溝(SD06)を検出し掘削、遺物出土状況の実測を行った。SD05掘削。SF02平面の実測。
- 12月25日 調査東区、遺構検出のため掘削を行った。SD05の掘削。SF02、SF03平面の実測。午後から大掃除。
- 1月6日 玉名市用地課職員が来跡し、墓石の措置について協議。SI13掘削、住居跡(SI19)を検出しサブトレンチを設定。調査東区は遺構検出のため客土を掘削。SI10、SI12、SD05の掘削、SK09の完掘。
- 1月7日 調査東区、西側を遺構検出のため掘削、SI17を検出し、写真撮影、サブトレンチを設定。SD05を3区(A、B、C)に分け埋土1、2層掘削を行った。SI13は掘削し埋土断面の実測、SI12は埋土断面を実測し、写真撮影。SI10の掘削、SK09の完掘。SF03遺物点取り上げ。SI14埋土断面、SI12炉跡検出状況の写真撮影。
- 1月8日 調査区内から墓石を外部へ移動。調査西区中央、表土掘削を開始。SI10、SI14、SI19は、埋土を掘削し土器廃棄状況の写真撮影。SI17、SD05(A、B、C区)埋土1、2、3層の掘削。
- 1月12日 表土掘削2日目。SI10、SI19、SI17、SD05(A、B、C区)埋土3a、3b、4層の掘削、SI09、SI12の完掘。SI13埋土断面の実測。
- 1月14日 表土掘削3日目、石畳が出土。調査北区、焼土が少しまとまって出土した焼土壙(SK10)を確認し、焼土出土状況を写真撮影。SI12は遺物を検出、SI14は埋土断面の実測の後、それぞれ写真撮影。SI08貯蔵穴、SI13、SD05(A、B、C区)埋土3a、3b層の掘削。SI19埋土断面の写真撮影。
- 1月15日 降雨のため発掘調査中止。
- 1月18日 表土掘削4日目。高木正文さん来跡。高木さんの助言と明治以降の遺物が多数出土したことから、石畳を近代の道路(SF05)として検出。調査東区は遺構検出のため掘削。SI10、SI13の掘削。SI07、SI09柱穴埋土断面の実測と写真撮影。
- 1月19日 表土掘削5日目。調査東区、遺構検出のため掘削により住居跡(SI20、SI21、SI22、SI23)、土壙(SK12)を検出。SI20、SI21はサブトレンチを設定。SI12は遺物出土状況を実測し、遺物点取り上げ実施。SI10、SI13埋土の掘削。SI19埋土断面の実測。SF05検出状況、SI07、SI09完掘状況、SI08柱穴埋土断面の写真撮影。
- 1月20日 玉名市用地課職員が来跡、墓石の措置について協議。調査東区、遺構検出のため掘削。SI20、SI21、SI22、SI23は検出状況の写真撮影、後、サブトレンチを設定し、掘削。SI10、SI14埋土、SI12炉の掘削。SI07、SI09平面の実測。SD04埋土断面の写真撮影。
- 1月21日 午前中は降雨のため発掘調査中止、土器洗いを行った。午後からSI20、SI21、SI22、SI23はサブトレンチを設定、SD05(C区)埋土4

層の掘削。

- 1月22日 SF03は立ち上がり検出のため掘削、硬化面直上から古銭が出土。SF03に伴う溝状遺構をSD06とし掘削。SI12は炉跡検出状況の写真撮影し、掘削。SI13は柱穴を検出し掘削、埋土断面の写真撮影。SI10、SI14埋土、SI19柱穴、SD05(A、B、C区)埋土4、5層の掘削。SF03古銭出土状況の写真撮影。
- 1月25日 SI10は埋土断面の実測し写真撮影、SI19は柱穴を検出し掘削、埋土断面の実測、写真撮影を実施。SI13、SI14柱穴の掘削。SI08使用状況の写真撮影。
- 1月26日 表土掘削6日目。高木正文さん来跡。SF03、SD06は立ち上がり検出のためトレンチを設定し、掘削。SD05(A、B、C区)埋土の掘削。
- 1月27日 SF03の続きを検出するため掘削。調査北区、土壙(SK14)を検出し半裁、埋土断面の写真撮影、SI12は炉埋土断面を実測し写真撮影。SI10埋土、SI14柱穴、SD05(A、B、C区)埋土5層の掘削。SI08貯蔵穴完掘状況、SI13、SD04完掘状況の写真撮影。
- 1月29日 SF03検出のための掘削。
- 2月2日 SF03は硬化面検出のため掘削、SI08は完掘し写真撮影。SI20、SD05(A、B、C区)、SD06埋土の掘削、SI10の完掘、SI17はサブトレンチを延長。調査西区南側丘、SI13平面、SK10焼土出土状況の実測。
- 2月3日 国交省職員が来跡。SI12は炉を掘削、使用状況の写真撮影、SI14は柱穴を4基確認し、半裁し、埋土断面の実測と写真撮影。SI10は柱穴検出のため掘削、3基検出。SD06は埋土掘削、SF03と一緒に平面の実測。SI20、SK12はサブトレンチをいれ、SD05(A、B、C区)は埋土の掘削。
- 2月4日 SI10は柱穴を4基検出し、半裁。SI23は床面から黒曜石が多量に出土。SF03は平面を実測し、検出状況の写真撮影、SD06は平面の実測、完掘状況の写真撮影。SI20、SD05(B区)埋土の掘削。SI14完掘状況、SD05(C区)埋土断面の写真撮影。
- 2月5日 SF03は硬化面(約5cm)の掘削。あまり遺

物は出土していない。SD06は西側と東側がSF05の石橋付近でつながっている。調査東区、遺構検出のため掘削、住居跡(SI29)を検出しサブトレンチを設定。SI20掘削、床面より石包丁1点が出土。SI10は柱穴の半裁、埋土断面の写真撮影、SI19、SK14は完掘し写真撮影、SK10は焼土を検出、焼成部の写真撮影。SI23、SK12埋土の掘削。

- 2月8日 SF03は下部の硬化面検出のため掘削。調査北区、土壙(SK15)を検出し半裁、SD05(A区)遺物出土状況の写真撮影、遺物を点取り上げ、SF03は検出状況の写真撮影、平面と下部硬化面検出状況を実測。SI20、SI23、SI29埋土の掘削。
- 2月9日 熊本県教育次長、玉名市文化課長、職員、村崎孝宏係長、長谷部善一が来跡。午前中は降雨のため室内にて土器洗いを実施。午後から調査東区、遺構検出のため掘削。SI17、SI29埋土の掘削。
- 2月12日 調査東区、大きな焼土の塊を、散らばり方と埋土の入り方を含めて焼土壙(SK17)として掘削し、写真撮影。SK15は土器が多量出土、半裁し埋土断面の写真撮影。SI10柱穴、SI29埋土、SF03下部硬化面の掘削。SI12柱穴埋土断面の写真撮影。
- 2月16日 SF03は基礎面(地山)まで掘削、礫や土器片が多く出土。SK17はサブトレンチを設定、SI20、SI29は埋土を掘削。
- 2月17日 長谷部善一が来跡。調査東区は遺構検出のため掘削、SK17はサブトレンチを設定、SI20、SI17、SI29は埋土の掘削。SF03下部硬化面遺物出土状況の実測、写真撮影。
- 2月18日 調査東区、遺構検出のため掘削、焼土壙(SK21)を確認し写真撮影、SD06、SF03は掘削、SF03下部硬化面遺物出土状況の実測。SI22はサブトレンチを設定、掘削。SI17、SI21、SK17、SD05埋土、SI20柱穴の掘削。
- 2月19日 調査東区、遺構検出のため掘削、住居跡(SI32)、ピット数基を検出、掘削を開始。SD05(A区)の掘削。SK17焼土検出状況の写真撮影。
- 2月22日 調査東区、遺構検出のため掘削。SK17は掘り進めていく中で、2つに焼土壙が分かれることを確認、もう1つの遺構をSK18と設定。調

- 査西区掘削、土壙 (SK19) を確認、写真撮影、掘削。SD05(A、B、C区) は完掘し写真撮影。SI21、SK12埋土の掘削。ピット60～97埋土断面の実測。SK17焼成部検出状況、調査西区中央掘り込み土層断面、SF03土層断面の写真撮影。
- 2月23日 調査東区、遺構検出のため掘削、住居跡 (SI33)、焼土壙 (SK20)、土壙 (SK22) を検出。SI21は埋土断面を実測し掘削、柱穴4基を検出。SI29は壁出し、遺物出土状況の実測、点取り上げ。SK17、SK18は焼土をしっかりと検出し焼成部検出状況を写真撮影。ピット60～97は完掘し平面、埋土断面を実測。SI17、SD05埋土の掘削。SK09平面の実測。
- 2月24日 調査東区、遺構検出のため掘削、住居跡 (SI36) を検出。SI17は埋土を掘削、土器片が多量に出土、写真撮影し、実測、点取り上げ。SI21は埋土を掘削、埋土断面の写真撮影。SI29は埋土断面の実測、写真撮影。SK20は検出状況と埋土断面を実測して完掘。SK22の半裁。SK09埋土断面、SK21検出状況の実測。
- 2月25日 SI36は検出状況の写真撮影の後、サブトレンチを設定、掘削を開始。SI20、SI21は埋土断面の実測、壁、セクションベルトの掘削。SK20は完掘状況の実測、写真撮影。SK22は半裁し埋土断面の実測、写真撮影。SI17、SI29埋土の掘削。SF03遺物点取り上げ、土層断面、調査西区中央掘り込み土層断面の実測。
- 3月1日 SI29、SI36、SK21、SK22埋土の掘削、SF03の完掘。午後から降雨のため発掘調査中止。
- 3月2日 長谷部善一が来跡。SI29は柱穴、硬化面、側壁溝を確認。SI36は埋土断面を実測、註記。SI17、SI20、SI21埋土の掘削。SK22、SK21、SF03の完掘。SK12埋土断面、SF03平面の実測。
- 3月3日 SI29は硬化面、柱穴、炉跡の範囲を検出し実測、写真撮影。SI20は柱穴を半裁し埋土断面の写真撮影。SF03の完掘。SD05(A区)埋土断面の実測。SK17焼土廃棄状況の写真撮影。
- 3月4日 降雨のため発掘調査中止。
- 3月5日 SI29は柱穴、側壁溝の掘削を開始、硬化面、炉跡検出状況、貯蔵穴埋土断面の写真撮影。SI17、SI21埋土の掘削、SF03の完掘。調査西区中央掘り込み平面の実測。SI20、SF03、SK19完掘状況の写真撮影。
- 3月8日 SD01、SD05花粉分析のため各層埋土を採集し、採集ポイントの写真撮影を実施。SI33はサブトレンチを設定し掘削を開始。SI29は柱穴の半裁、貯蔵穴の掘削、SK17は焼土掘削後の写真撮影。SI21、SI36埋土、SK12ベルトの掘削。
- 3月9日 降雨のため発掘調査中止、室内にて土器洗いを実施。
- 3月10日 風雪のため発掘調査中止。
- 3月11日 SI22、SI23は埋土断面の写真撮影、ベルトの掘削。SK22は完掘状況の実測、写真撮影。SI29は貯蔵穴埋土断面、炉埋土断面、柱穴埋土断面の実測、側壁溝埋土断面とともに写真撮影。SI17、SK12埋土、SK21周囲の掘削。ピット98～119平面の実測。SI36炭化物検出状況の写真撮影。
- 3月12日 調査東区、住居跡 (SI38) を検出、サブトレンチを設定、掘削を実施、床面直上の埋土3層では炭化物を多量検出。SI33プラン検出のため掘削、炉が検出され土器も出土。SI21、SI22、SI23は完掘し平面の実測と写真撮影、SI29は炉の掘削、側壁溝埋土断面の実測。SI17、SI36埋土、SI32柱穴の掘削。SI10、SI12完掘状況の写真撮影。
- 3月16日 午前中、遺跡全体の航空写真撮影の準備。SI32は掘削、埋土断面の実測と写真撮影。SI17、SI38埋土、SI29柱穴の掘削。SI22完掘状況の写真撮影。
- 3月17日 午後から遺跡全体の航空写真撮影の準備。SI17は硬化面を検出し、埋土断面と遺物出土状況の写真撮影。SK18は埋土断面の写真撮影終了後、完掘。SI38埋土の掘削、SI32の完掘。SI17埋土断面の写真撮影。
- 3月18日 遺跡全体の航空写真撮影。午後から調査開始。SI33はもう少し拡大すると予想しトレンチを延長。SI36埋土、SI38柱穴の掘削。SI17埋土断面の実測。
- 3月23日 降雨のため発掘調査中止、事務所撤収の準備。
- 3月24日 降雨のため発掘調査中止、事務所にて図

面整理。

3月25日 SI36は掘削、南壁沿いに礫が出土したので写真撮影、SK12は多量に遺物が出土し写真撮影、完掘。SK17、SK18の完掘。

3月26日 SI38の埋土3層は炭化物の多い黒褐色土層で、床面直上から多量の土器が出土したため焼失住居の可能性があります、炭化物層検出状況の写真撮影を実施。SI12、SI29は炉を完掘し、実測。SI36は掘削し柱穴、貯蔵穴埋土断面の実測と写真撮影。SI33は炭化物層検出状況の写真撮影終了後、完掘、SK12は完掘後、写真撮影、SK17、SK18は埋土断面の実測と写真撮影、完掘。SI17セクションベルトの掘削。

3月29日 SI17はセクションベルト掘削終了、中央に炉跡を検出、遺物出土状況とともに写真撮影を行い半裁。SI38は埋土断面の実測、床直上で検出した鉄鏟とともに写真撮影、セクションベルトの掘削。SI36は平面の実測と完掘状況の写真撮影。SI33完掘状況の写真撮影。

3月30日 午前中は事務所撤収の準備。午後から調査開始。SI17は柱穴、炉、側壁溝の掘削、SI38は貼り床を掘削し柱穴を2基検出、半裁。

3月31日 SI17は平面の実測と完掘状況の写真撮影、SI38は柱穴を完掘、全体の平面実測、完掘状況の写真撮影。事務所撤収。本日で現地調査は終了。

1-1-5 整理体制

整理作業は、平成22年度から平成23年度まで熊本県文化財資料室（熊本市南区城南町沈目）にて実施した。

なお、整理担当者は以下のとおりである。

整理責任者

文化課長が担当した。
小田信也（文化課長）

整理統括

課長補佐が担当した。
H22 木崎康弘（課長補佐）

整理指導

文化財調査第一係長が担当した。
村崎孝宏（文化財調査第一係長）

整理担当

職員が担当した。
H22 稲葉一文（文化財保護主事）
H22～H23 野中愛（非常勤嘱託）
H23 宮崎敬士（参事）

整理作業員

山内洋子、青山玲子、金子美代子、興梠富貴子、原田春子、前田佳代子、溝口健造、村上千恵子、山下千栄子、山元友子、木村奈美、中島美絵。

1-1-6 整理経過

整理作業は、平成22年度から平成23年度まで熊本県文化財資料室で実施した。

整理作業は水洗、註記、接合、復元、実測、製図の各作業を経て、その成果が報告書に編集される。これらの作業を、水洗から復元までの作業を主に担当する一次整理と、実測、製図を主に担当する二次整理とに分ち、実施した。

文化財資料室における整理作業は土器等の水洗作業から開始されている。水洗、註記から接合、復元までの一次整理は、山内洋子を中心となって平成22年度に実施した。遺物の実測から遺構図等の製図までの二次整理は、野中愛が中心となり平成22年度から平成23年度まで実施している。

1-1-7 保存及び活用

築地館跡の調査は、現地における発掘調査の段階においても埋蔵文化財の活用を図るため、現地説明会を実施し、平成21年度発掘調査速報会に出展している。

1-1-8 調査協力者

調査に際しては、高木正文さんから現地指導をいただいた。また、北原美和子さんにも遺構掘削のご指導をしていただいた。併せて、玉名市、玉名市教育委員会には始終あたたかな協力をいただいた。

石器の石材同定に際しては馬場正弘、遺物写真の撮影に際しては村田百合子、上田佳奈子、蓮池千恵の協力を得た。

なお、報告書の編集に際しては山口節子、末武希代子、田中知恵美、渡邊いわ子から多大なる協力を得た。

1-2 遺跡の概要

1-2-1 遺跡の諸元

築地館跡は、熊本県教育庁文化課が平成10年3月31日に発行した『熊本県遺跡地図』地図18(玉名)に熊本県(43)玉名市(206)の168築地館跡として記載されている。

築地館跡の近傍は、弥生時代後期の遺跡で野部田式を出土する築地遺跡として知られていた(隈1983、表「熊本県弥生時代後期の遺跡」に6番として記載)。遺跡の詳細範囲確定過程を経て、発掘調査前には、築地館跡の範囲は中世館跡として認識されるようになる。丘陵上に方形に巡る溝、残存した土塁等がその根拠である。既往調査には平成15年度に玉名市が実施した確認調査(末永2006)があるが、中世と弥生時代の土器片が表採されているにすぎない。

1-2-2 自然

九州の位置と構造

日本列島は、ユーラシア大陸の東縁に位置する5つの島弧の集合である。九州(筑紫島)は、列島の最も西側に位置する琉球弧の中では最大の島であり、かつ、琉球弧の北端に位置する。また、九州は対馬海峡を経て、韓半島から大陸に連なり、関門海峡、豊後水道を挟んで西南日本弧を構成する本州西半部及び四国に接している。

九州及び四国では中央構造線が東西に走向し、その南部には山地が連続して形成されている。九州においては臼杵-八代構造線の南側に急峻な九州山地が形成され、構造線の北側には別府-島原地溝が並走し、九州の南北を地形的に画す結果となっている。別府-島原地溝内には島原、阿蘇、九重、由布、鶴見の各火山が分布し、火砕流をはじめとする第四紀以後の火山噴出物が厚く堆積し、規模の大きい地震が多発している。

他方、九州は、九州脊梁山地を境として東西に区分することもできる。この九州を東西に画する区分は平野部に主眼を置いた区分ともいえるが、九州西半部のほぼ中央に熊本地域が位置する。九州西半部では、平野部が日本海及び有明海に面して連続し、又は山塊、丘陵等により断続されて広がる。この連続又は断続する平野部の南限は、先の臼杵-八代構造線であり、球

磨川に沖積された八代平野が最南の平野部にあたる。ただし、内陸部にまで展開する平野部は、宇土半島基部の山塊を隔てて八代平野に北接する熊本平野のみである。

玉名の地形と地質

熊本地域は、九州の西半部中央に位置する。北から菊池川、白川、緑川及び球磨川が西流し、有明海及び八代海に注いでいる。各河川の下流域には玉名平野(菊池川)、熊本平野(白川、緑川)、八代平野(球磨川)の沖積平野が広がり、中流域には山鹿盆地、菊池平野(菊池川)、阿蘇西麓台地(菊池川、白川、緑川)等が展開する。

築地館跡が位置する玉名地域は、菊池川下流域に位置し、小岱山等の低い山塊とそれに連なる丘陵部、菊池川によって沖積された玉名平野部によって構成される。その西側には有明海が位置し、その向こうには雲仙火山を要する島原半島を望む。北は筑後平野、南は熊本平野、東は山鹿盆地が控えているが、それぞれ小岱山、金峰山、国見山により遮られ、平野部が断続した地形を呈している。ひるがえせばこの様相は、各平野部は水文によって接続している、と表現することができる。そして、対岸の島原半島も同表現の範疇に加わることとなる。

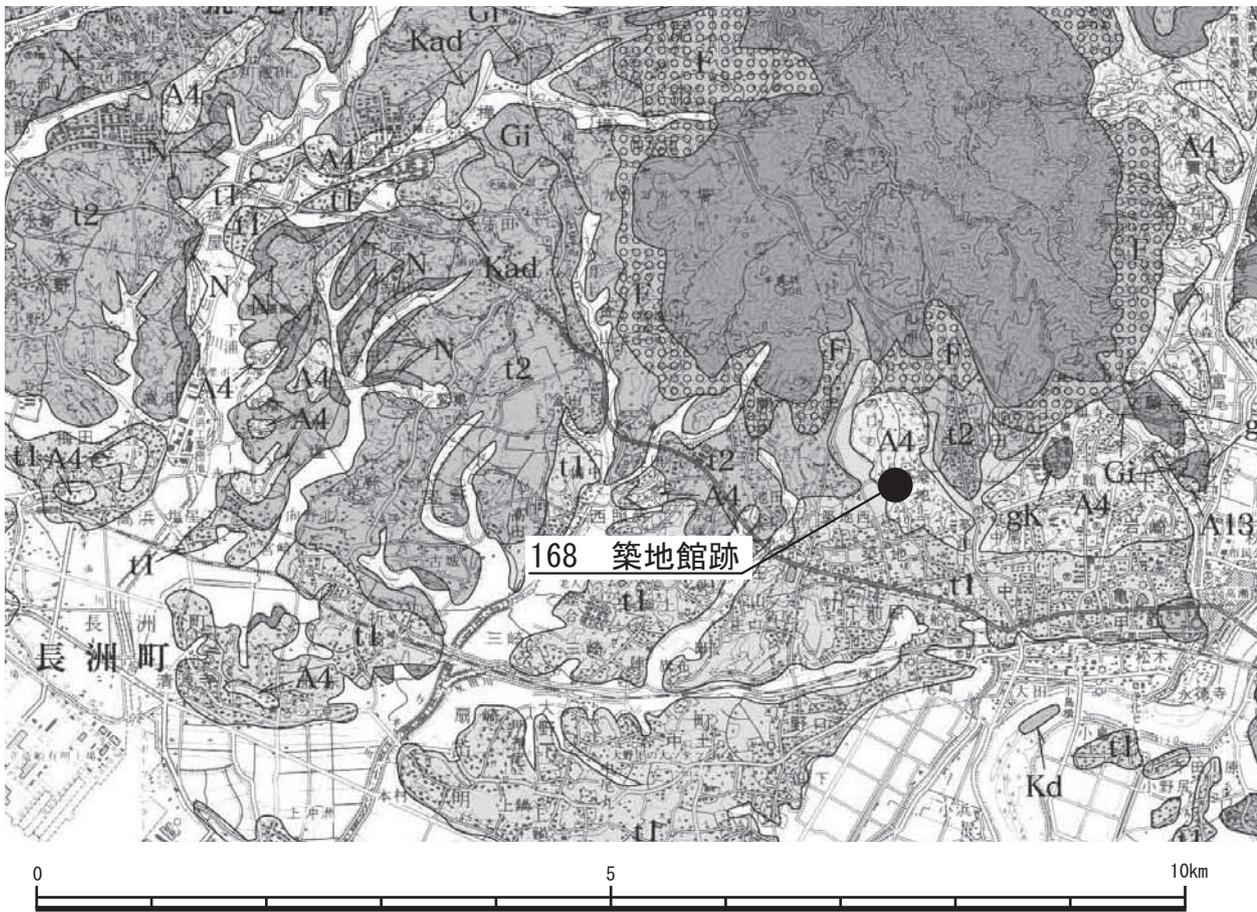
玉名地域では、小岱山、金峰山から発した山麓が有明海に向かい、汀線に沿って縦走する丘陵部を帯状に形成している。この帯状の丘陵部が菊池川の流路部分により途切れ、その海側には砂州(三角州)、陸側には平野部が形成された構造が、玉名地域の基本構造である。帯状の丘陵部は、本来、同一の台地を形成していたが、菊池川水系河川の開析により分断されている。小岱山から伸びた玉名台地は、海岸部との比高差を有し、広域な上部平坦面が残存している部分である。なお、小岱山の東山麓には菊池川水系繁根木川が南流し、阿蘇凝灰岩露頭が連続している。

玉名台地は、現在は干拓地となった海岸部との境に段丘を有し、上部平坦面は小岱山に向かい緩やかに標高をあげていく。玉名台地の段丘崖は、有明海に接した部分では明瞭な崖面が連続しているが、菊池川に面して湾曲した部分では緩斜面が入り混じった様相とな



図2 周辺の遺跡

熊本県教育委員会 1998『熊本県遺跡地図』に拠る。



A4 阿蘇4火砕流堆積物 t1 低位段丘堆積物 t2 中位段丘堆積物 gK 花崗岩類 F 府本層
kd 金峰火山北麓岩屑堆積物 A13 阿蘇1～3火砕流堆積物 Gi 銀水層 Kad 勝立層 N 長洲層

図3 周辺の地質

熊本県地質図編纂委員会 2008『熊本県地質図』に拠る。

る。築地館跡は玉名台地に位置するが、小岱山麓との境界に近く上部平坦面の端部に占地している。この位置は、帯状の丘陵部が菊池川により切られた箇所近く、かつ、菊池川が形成した砂州に向かう緩斜面にも臨んでいる。地質としては、低位段丘堆積物と中位段丘堆積物との境界に隣接し、小岱山の東山麓に分布する阿蘇4火砕流堆積物の西端部分にあたる。

1-2-3 人文

以下では、築地館跡に集落が営まれた弥生時代を中心とした人文環境の概略を述べる。

熊本の弥生時代

熊本の弥生時代には、大きな画期が2つ認められる。1つめは縄紋時代晩期と弥生時代前期との間にあり、2つめは弥生時代中期前半と後半との間に存在する。第1の画期は、平野部集落の形成、甕棺墓葬の受容、金属器等の文物の搬入または受容の3点から導くことができる。この画期には、遺跡数の減少が副次的に伴う。第2の画期は、土器、金属器に特徴的な地域性の形成、甕棺墓、支石墓から木棺墓、石棺墓への墓葬の交代、小地域の版図及び拠点の形成の3点から導くことができる。この画期には、遺跡数の増大、地域間の交流、そして交流チャンネルの転換という現象が副次的に伴う。

なお、これら2つの画期は、前代の要素すなわち編籠等の編み物といった技術、石鏃等の狩猟具、磨石及び石皿といった製粉具、双角状礫器、石錘等の漁撈具といった各種道具類、及びタイ、ボラ、マガキ、サルボウ、シジミ、イノシシ、シカ、ドングリ等、捕食対象を引き継いでいる。また、他地域の土器形式が流入した場合も、流入当初から変容し、所謂在地化現象を起こしている例も存在する。したがって、在地の要素に外来の要素が複合し、在来の要素が変容する形態をもって画期が進行した、としてよい。

第1の画期

熊本県内における弥生時代前期の遺跡数は少なく、その多くが有明海沿岸部に点在している。縄紋時代後晩期、内陸の台地部に集落数が増大し、同時に大規模化する現象と対照的である。

集落例には、前期後半には集落が展開している熊本市八ノ坪遺跡があげられよう。八ノ坪遺跡は前期後半に属する朝鮮系無文土器が出土している。墓葬以外の遺跡（おそらく集落としてよい）としては、玉名市岱明町中道貝塚、玉名市城ヶ崎貝塚及び五社貝塚、玉名市天水町斎藤山遺跡といった玉名平野の台地端部に営まれた貝層を有する遺跡、玉名市中道貝塚（前述）、熊本市新屋敷遺跡、宇土市宇土城三ノ丸遺跡といった条溝（環濠）を有する遺跡がある。熊本市新屋敷遺跡を除き、すべて有明海に隣接した遺跡である。

主な墓葬は、甕棺墓及び支石墓である。中道貝塚で確認された石蓋土壇の他、土壇墓及び木棺墓も存在することが確実であるが、土壇墓は用途比定が、木棺墓は時期比定が困難である。ただし、甕棺墓と木棺墓が切り合う場合、ほぼ木棺墓が古くなることが和木町菊水の長小田宮ノ前遺跡で確認されている。また、近年の低地部での調査により、熊本市八ノ坪遺跡のように前期の土壇墓内に人骨が遺存する例も確認されたので、土壇墓を比定できる要件が整いつつある。甕棺墓は、下益城郡松橋町曲野遺跡、熊本市泉ヶ丘小学校校庭遺跡で夜臼式の甕棺が出土したのが時期的に遡る例である。弥生時代前期には、山鹿市山鹿市立博物館敷地内遺跡、菊池市七城町岡田遺跡、熊本市城南町沈目立山遺跡、熊本市御坊山遺跡、熊本市御幸木部遺跡、熊本市八ノ坪遺跡等で甕棺墓が確認されている。前期に属する支石墓は、熊本市植木町塔の本遺跡、上益城郡甲佐町八ツ割ドルメン群の2例があげられる。この2例を除く支石墓は、中期前半に開始されるが、その分布域は熊本平野の南限まで、面的な分布域は白川以北に限定され、甕棺墓の分布域に重なる（島津1997）。なお、支石墓と甕棺墓が同一遺跡内に存在する場合、支石墓は甕棺墓群から隔たった位置を占める（熊本市梅ノ木遺跡例）。以上の墓葬には、熊本市八ノ坪遺跡、権藤遺跡、白藤遺跡の青銅器関連遺物及び朝鮮系無文土器群、玉名市岱明町の年の神遺跡（田添1969）の支石墓出土ゴホウラ製貝輪（諸岡型7点）が伴う例が注目されている。

鉄器の出現は、弥生時代前期の玉名市天水町の斎藤山遺跡例を嚆矢とする。斎藤山遺跡から出土した鑄造鉄斧片は列島最古鉄器例の一つである。これはスク

ラップの再生品であり、熊本市神水遺跡の青銅製ヤリガンナ例と同様、転用された金属器である。

第2の画期

弥生時代中期後半以後は、集落、墓葬共に遺跡数が増大し、規模も大きくなる。

中期後半には、大規模な墓群が形成され、一定範囲の遺跡間に中枢と周辺の格差が生じる。後期には白川水系型壺の成立（島津1983）に見るように土器組成のフェイズに地域性が、菊池川、白川及び緑川、球磨川の河川流域に発現する。同時に、大規模集落の形成が認められ、集落のフェイズにおいても拠点集落を核とした地域性が確立される。この時期に発現した地域性と地域拠点は、以後、少なくとも律令期まで継続する。すなわち、基本的な領域区分が成立する、としてよい。

中期後半になると、菊池川流域では玉名郡和水町菊水の長小田宮ノ前遺跡、白川及び緑川流域では熊本市白藤遺跡等、低平な地域に大規模な甕棺墓群が形成される。もっとも、台地部にも大規模な甕棺墓群は展開しており、菊池川流域の玉名市東南大門遺跡、玉名郡和水町菊水の前原長溝遺跡、緑川流域の下益城郡嘉島町上官塚遺跡等がその代表例である。なお、甕棺墓の面的な分布範囲は熊本平野の南限（宇土半島基部）までであり、以南には鹿児島県吹上浜所在の遺跡群が点在するに過ぎない。また、白川流域では甕棺墓群が大規模化し区画溝を有する例（熊本市神水遺跡）、木棺墓が群集し区画溝を有する例（阿蘇郡南阿蘇村幅遺跡）が出現する。このように階層分化を示す例を菊池川流域に求めれば、玉名市前田遺跡の祭祀用土器の廃棄例があげられる。しかし、前田遺跡例は住居跡への廃棄であり、北部九州における土壌内廃棄例と同一ではない。同様な変容は石器にも生じており、石戈の住居跡への廃棄（玉名市前田遺跡、玉名市北の崎遺跡）をあげることができる。蛇足ながら、熊本県域における石戈は、阿蘇市表採例、熊本市上高橋高田遺跡例、宇土市境目遺跡例の3例であったが、先の玉名地域の2例が加わり甕棺出土地域内の同質性を補強している。

鉄器の普及は後期に入ってからである。鏃には、鉄鏃と石鏃が並存していること（熊本市神水遺跡、阿蘇

市阿蘇町下扇原遺跡等）は確実視できよう。穂摘具においても、石庖丁と摘鎌が共に多数出土し（阿蘇市阿蘇町狩尾遺跡群、下扇原遺跡等）、並存した状況を示している。石器と鉄器の交代が認められるのは鈍、加工斧、刀子等の加工工具、鋤先（打製石斧と交代）といった起耕具及び剣等の手持武具である。また、鉄器の普及に伴い新たに加わる形式には、鉄鎌、鑿等がある。石皿及び磨石の製粉具、魚網錘といった漁撈具（中でも網漁）には、継続して石器が用いられる。熊本市上高橋高田遺跡では中期の石錘、石銛等の漁撈具が出土しているが、漁撈具に鉄器が組成するのは早くとも後期（菊池市七城町小野崎遺跡）、遅くとも古墳時代前期（熊本市江津湖苗代津遺跡）の釣針例である。以上のとおり、単純に利器の鉄器化を唱えることができる様相ではない。下益城郡嘉島町二子塚遺跡では鍛冶道具が出土したが、鑿以外の道具、すなわち槌、台石、砥石はすべて石器であった。鍛冶には、挟む、叩く、折り曲げる、裁断する等の所作が伴うが、鉄を裁つという以外の所作は石器（挟むは竹木類であろう）で行っていることとなる（村上1998）。このことは余人をもって代え難い用途においてのみ鉄器が用いられていることを象徴的に示している。なお、菊池川流域の遺跡群は、弥生時代の鉄器生産について繰り返し問題を提起している。玉名市岱明町下前原遺跡では微小鉄片の集中域が地床式鍛冶炉となる可能性を指摘し（田辺・田添1957）、山鹿市方保田東原遺跡では三角形鉄片、棒状鉄片等、微小鉄片が鉄素材となる可能性を考究している（坂本1982）。和水町菊水の諏訪原遺跡ではこの微小鉄片を鍛冶副産物（小鍛冶）と位置付けていた（緒方1971）が、方保田東原遺跡も同じ位置付けに修正された（中村1987）。玉名市天水町斎藤山遺跡（乙益1961）を源泉とした鉄器生産への探求は、継続して体系化がなされている。

熊本地域における弥生時代後期の遺跡は、約200遺跡を数える。遺跡の内容は集落、墓葬、及び両者を具えるものと分別され、集落遺跡は住居総数が100単位となる集落とその他の集落とに分別することができる。前者は、青銅器を伴うこと、条溝を伴うこと、大型住居等、特殊な遺構を伴うこと等から拠点集落と考えることができる。拠点集落がほぼ全掘され、その構

造が判明する調査例は、菊池郡大津町西弥護免遺跡（瀬丸 他 1980）、下益城郡嘉島町二子塚遺跡（島津・村上 1992）及び阿蘇市阿蘇町下扇原遺跡（宮崎 2010）の3例のみである。なお、山鹿市方保田東原遺跡（中村 1982 他）は、現状保存を目的とした調査のため発掘の割合が低いが、規模、内容ともに最も卓越した部類の集落である。上記遺跡は、いずれも内陸部に位置する。これは、後期の集落が台地または丘陵の頂部平坦面に位置し、自然崖面等を集落施設の一部として利用していること、自然崖面近傍の湧水地点を利用していることに起因した現象と考えられる。しかし、沿海地域での様相は不詳である。玉名地域の遺跡では、斎藤山遺跡、下前原遺跡、野部田遺跡の調査段階から環濠の存否が検討されていた。築地館跡は、玉名市山田松尾平遺跡、玉名市塚原遺跡等と共に、沿海地域における集落の様相を示す例となろう。

玉名地域の弥生時代の遺跡

ここでは、玉名地域の弥生時代遺跡のうち、調査年度が古く一般に知られていないもの、かつ重要と考えるものを選び、以下に要約した。なお、原文のうち動物遺存体名等はカナ表記に変更した。

中道貝塚

玉名郡岱明町山下の中道貝塚は、昭和 27 年県立玉名高校考古学部の夏期合宿発掘として調査された。

上端幅約 3m、底面幅約 1m、深さ 1.5m の条溝内にポケット貝層が形成されており、板付式の土器、土製紡錘車、打製石鏃、石匙、石斧が出土した。なお、貝層は、カキを主体とし、ハマグリ、シオフキ、アゲマキ、バイガイ、サルボウ、ハイガイ、アカガイ、ニシ、ツメタガイ、オオシジミ、シジミ等により構成され、イノシシ下顎骨、イヌ犬歯、ボラ肋骨、ウニ等の動物遺存体、炭化米数十粒という植物遺存体も包含している。また、条溝の外側に石蓋土壇 2 基、土器片を蓋とした土壇 1 基が検出され、石蓋土壇からは石庖丁を石斧に再利用したもの、扁平片刃石斧が出土している。

斎藤山遺跡

玉名市天水町尾田の斎藤山遺跡は、斎藤山貝塚とも表

記される。台地端部の崖面で発見され、1955 年に乙益重隆、田辺哲夫、玉名高校考古学部等により 3 箇所

の貝層が検出され、うち下側 2 箇所の貝層が調査されている。この調査により、中段の貝層から板付式に伴う鉄斧破片（鑄造鉄斧片）が出土した。なお、土器は夜臼式、板付式が共伴し、柳葉状の黒曜石製石鏃、サヌカイト製石匙等の石器を伴う。また、貝層はカキ、ハマグリ、ハイガイ、シジミ、アカニシ、テングニシ、マテガイ等により形成され、タイ、スズキ、イノシシ、シカ、タヌキといった動物遺存体を包含していた。おって、近傍では田辺哲夫により太型蛤刃石斧が採集されている。

城ヶ崎貝塚

玉名市伊倉北方の城ヶ崎貝塚は台地端部に位置し、海水産の貝により形成された小貝塚である。1948 年に調査された。

出土土器は薄手であり、研磨され平行条線文や刻文があり、丹塗土器も出土した。深鉢が多く御領系の縄紋式土器に似た底部もある。石器は扁平片刃石斧、石匙、黒曜石屑が出土している。獣骨、魚骨も含まれる。

五社貝塚

玉名市伊倉北方の五社貝塚は、前述の城ヶ崎貝塚と同一台地の端部に位置し、海水産の貝により形成されたポケット貝塚（群）である。1948 年に調査され、弥生土器は器台を含む後期土器が採集された。

貝層には、黒曜石屑が含まれる。なお、後に前期土器、石剣、太型蛤刃石斧を含む採集品が届けられたことにより、弥生前期の土器を主体とする貝塚であると考えられる。

下前原遺跡

玉名市岱明町下前原の下前原遺跡は、小岱山麓の洪積台地に位置する。縄紋の古閑原貝塚や弥生前期中道貝塚、年の神支石墓等の近傍である。

2 反半の土地に 6m おきに掘られたブドウ畑溝に 31 基の堅穴が見られ、内、12 箇所を発掘したところ、9 箇所で堅穴住居のプランを検出した。堅穴は長方形、

大きいもので8.6×5.3m、小さいもので4.8×3.6m、コの字形に幅1mのベッド状遺構を備えた住居が5例、ベッド状遺構を両側に備えた住居は2例である。中央に方形の炉を掘り、柱穴は内部には2基あり、外部には見当たらない。6号住居には中心部に炉がなく、狭いベッド状遺構に接して焼土があり、その中に採集不可能な鉄片の腐植が一面にあり、外側からは鍛冶の原料たる玉鉄が一個採集された。この堅穴住居が他と著しく異なる形態を示す点等から、作業小屋であったと考えられる。

この遺跡から採集された土器は、弥生時代後期の高三瀆式が多く、一部に初期の土師器を含んでいる。遺跡の周囲に濠がめぐるが、当時の濠であると積極的に証明するものがないが、注意しておく必要があろう。

(参考文献)

- 大沢正己 1977「蓮花寺跡出土鉄滓の調査」『蓮花寺跡・相良頼景館跡』熊本県文化財調査報告第22、熊本県教育委員会
- 緒方勉 1971「諏訪原遺跡発掘調査概報」『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査概報』福岡熊本線(南関～植木)、熊本県九州縦貫自動車道関係文化財調査団
- 乙益重隆 1961「5 熊本県斎藤山遺跡」『日本農耕文化の生成』東京堂
- 隈昭志 1983「中九州」『三世紀の考古学』下、学生社
- 坂本重義 1982「方保田東原遺跡出土の鉄器について」『方保田東原遺跡』山鹿市立博物館調査報告書2、山鹿市教育委員会
- 坂本経堯 1951「熊本県玉名郡城ヶ崎貝塚」『日本考古学年報1』日本考古学協会
- 坂本経堯 1951「熊本県玉名郡五社貝塚第一号」『日本考古学年報1』日本考古学協会
- 島津義昭 1983「阿蘇の先史時代」『えとのす22号』新日本教育図書
- 島津義昭 1997「熊本県」『東アジアにおける支石墓の総合的研究』九州大学文学部考古学研究室
- 島津義昭・村上恭通 1992『二子塚』熊本県文化財調査報告117、熊本県教育委員会
- 末永崇 2006「16 築地館跡」『玉名市内遺跡調査報告書』築地館跡

- III、玉名市文化財調査報告15、玉名市教育委員会
- 瀬丸敬二 他 1980『西弥護免遺跡調査概報』西弥護免遺跡調査団
- 田添夏喜 1969「年の神遺跡調査報告」『熊本史学』39、熊本史学会
- 田添夏喜 2005「第五章 クニの出現」『玉名市史通史篇』上巻、玉名市
- 田辺哲夫 1952『中道具塚調査概要報告』玉名高校考古学部
- 田辺哲夫・田添夏喜 1957「ベッドを有する弥生末期の方型堅穴住居群—肥後下前原遺跡—」『日本考古学協会彙報別篇』8、日本考古学協会
- 中村幸史郎他編 1982『方保田東原遺跡』山鹿市立博物館調査報告書2、山鹿市教育委員会
- 中村幸史郎 1987「石包丁形鉄器について」、『方保田東原遺跡』3、山鹿市立博物館調査報告書7、山鹿市教育委員会
- 松本健郎 1979「弥生時代の鉄生産」『生産遺跡基本調査報告書』I、熊本県文化財調査報告第38、熊本県教育委員会
- 宮崎敬士 2010『小野原遺跡群』熊本県文化財調査報告257、熊本県教育委員会
- 村上恭通 1998『倭人と鉄の考古学』青木書店

1-3 調査の方法

1-3-1 現地調査の概要

発掘は、重機による表土（耕作土）剥ぎを行い、その後、国土座標軸を利用したグリッド法（5m×5m）を用い、遺物包含層（2層）から遺構検出面（3層）まで人力によって掘り下げた。調査内容は、生活面の確認、精査、遺構の検出、さらに検出した遺構についての観察、測量、図面作成、写真撮影及び光波による遺物の取り上げ等を順次繰り返し行った。遺構や調査区内の地質等の詳細については、外部委託による自然科学分析を行い、情報を記録した。

出土遺物は、住居の床面及び床面付近から出土したもの、道の硬化面から出土したものについては原則としてすべて座標値、標高値、出土層位名、遺構名を記録し取り上げた。検出遺構及び土層観察用ベルト等の実測は、10分の1縮尺、20分の1縮尺を組み合わせながら行なった。

写真撮影は、中判カメラ、35mmカメラを使用し、モノクロ、カラーリバーサルフィルムに記録した。調査区全体を含む高所からの各層での遺物出土状況及び遺跡周辺地形の写真撮影は、ローリングタワーの使用と委託による実機セスナで実施した。

委託による自然科学分析は、遺物の出土が少なかった住居や溝（弥生の区画用溝）から出土した炭化物による放射性炭素年代測定及び溝（弥生の区画用溝）2本の埋土による花粉分析を行なった。（以上は、現地調査段階の資料から引用した）

現地調査終了後は、熊本県文化財資料室で整理作業を進めた。整理に際しては、製図作業のデジタル化等を行っている。

1-3-2 発掘の方法

発掘調査は、グリッド調査法及び分層調査法を用いた。

なお、調査の進捗状況及び調査区内の地形に因り、西区、北区及び東区の調査区を設定している。東区は現用舗装道路により他調査区と離れ、北区は現用未舗装道路により西区と画されている。

グリッド

グリッドは、5mグリッドを基本単位とした。これは、道路事業に伴う発掘調査のため、調査範囲が細長い形状となることによる。

グリッドは、平面直角座標系第Ⅱ系 X=-6904.924、Y=-43951.111 を原点とし、座標北から51度49分18秒東に振った軸を主軸として、5mグリッドを設定した。グリッドのX軸には南から北に1から37の数字を、Y軸には西から東にAからZ、後、aからdまでのアルファベットを付し、グリッド名=アルファベット+数字として表記した。例えば、X=6、Y=Mのグリッドは、「M6グリッド」と表記される。

分層

層位は、遺構外の層序（以下「基本土層」という。）及び遺構内の層序（以下「遺構埋土」という。）に分類し、分類ごとに分層した。

ア 層位名 層位名は、上層から、算用数字を用い「χ層」と表記した。

イ 註記 註記は、次に示す項目を表記した。

(ア) 土色（色彩） 黒褐色、赤褐色、黄灰色 等

(イ) 土種（粒度） 礫、砂、シルト、粘土 等

(ウ) 成分（混合物） 砂礫混、焼土混 等

(エ) その他 しまり、粘性、被熱等の強弱、その他

1-3-3 遺構及び遺物

遺構名及び遺物名は、連番、略号を用いて記録している。

遺構名

遺構には、その種類ごとに連番（以下、「遺構番号」という）を付した。

遺構には、その種類に応じて次に示す略号（以下、「遺構記号」という）を付した。

SB 掘立柱建物、SD 溝、SF 道路、SI 堅穴住居、SK 土壌

例えば、「第6号堅穴住居と第6号道路」は、「SI06とSF06」と表記される。

遺物名

点取りをした遺物は、遺構ごとに遺物の種類に関係

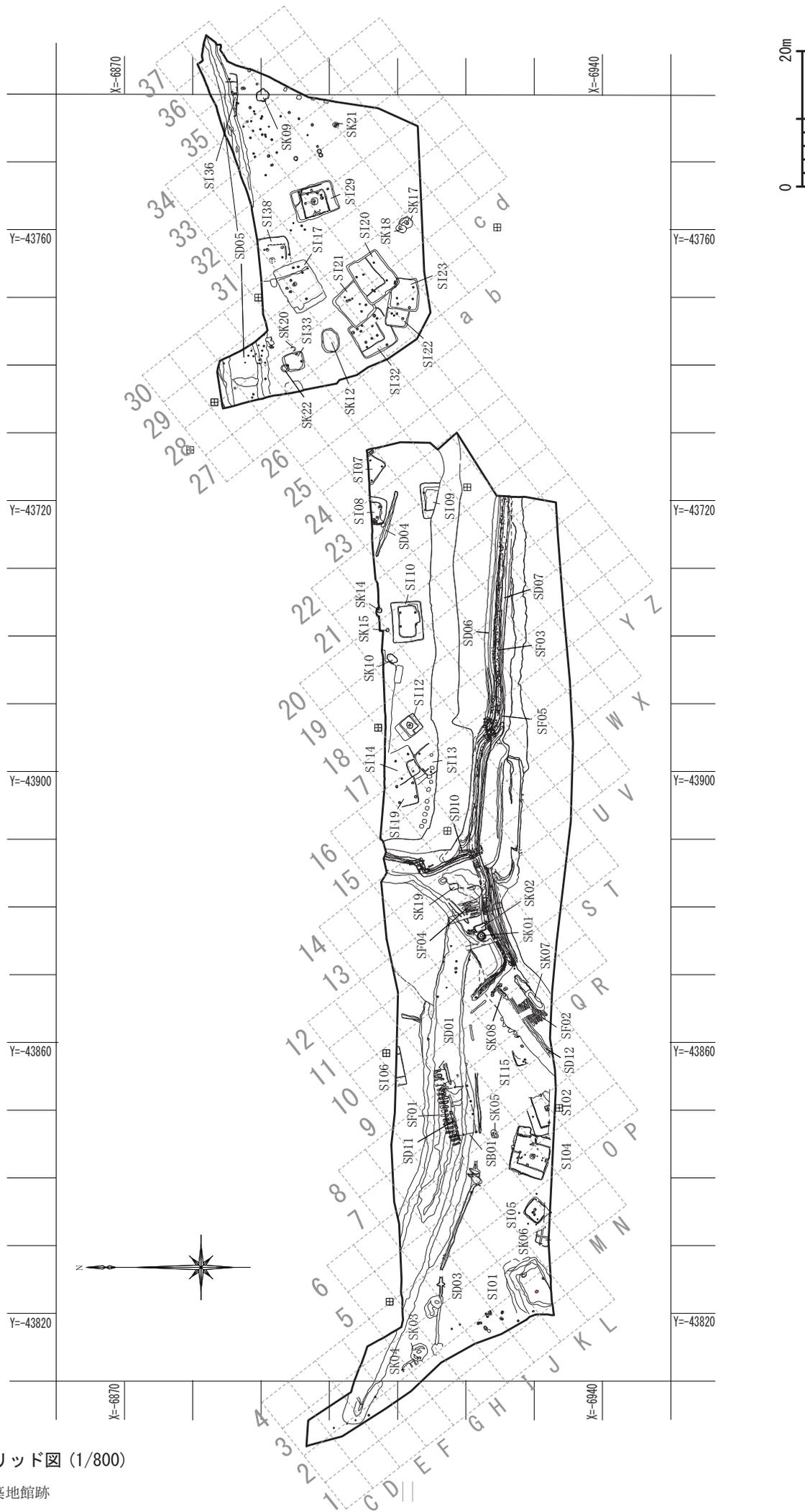


図4 グリッド図 (1/800)

なく連番（以下「遺物番号」という）を付した。

1-3-4 整理の方法

整理作業は、熊本県文化財資料室で行った。

一次整理

まず、出土品を水洗し、出土情報を註記した。次に、土器等の接合作業を実施した。

接合作業は、調査区を作業単位として展開し、まず、遺構またはグリッド（5mグリッド）を単位として接合を実施し、後、遺構とグリッド、さらに隣接グリッドとの相互接合を実施した。なお、土器の接合には接着剤「セメダインC」（セメダイン会社製）を用いた。

復元作業は、調査区を作業単位として実施した。また、土器の復元には修復材「SSS 歯科用焼石膏」（サンエス石膏株式会社製）を用いた。おって、写真撮影、展示等を実施するため、復元部分をポスターカラーで彩色している。

二次整理

二次整理は、実測及び製図作業である。作業量が二次整理担当の処理能力を上回るため、その一部は外部に委託している。

遺物実測は、遺物の種類を問わず、すべて縮尺1/1で実施し、実測用紙には1mm方眼紙を用いた。実測作業は、平成22年度に復元作業が終了した土器、石器の実測を外部委託により実施した。後、平成23年度には実測対象の見直しを図り、実測対象を増加させている。

製図作業は、電子トレース方式で実施した。電子トレースは、実測図をスキャンした後、電子トレースソフト「トレースくん」（株式会社CUBIC製）を用いた。

なお、土器等の整理作業に際しては、接合作業の後、順次、遺物に連番を付し（実測番号）、復元、実測、製図作業を実施した。このため、遺構等、出土単位内で実測番号が連続するとは限らない。この報告書では、読者の便を図るため、この実測番号を用いず、掲載図版の順に図版番号を付し、図版番号を用いて本文を記述している。

金属製品の措置

築地館跡の調査では一定量の金属製品が出土した。

出土した鉄器、銭貨、煙管等の金属製品及びスラッグ等、金属製品の副産物は、現地調査中に複数回、及び現地調査終了後に、その保存処理を目的として熊本県文化財資料室保存処理班に持ち込まれ、引き継がれている。なお、現地調査の期間に、現地調査担当者が袋状鉄斧、鉋、板状鉄片各1点、合計3点についてX線写真の撮影を実施している。また、報告書の作成に際しても、報告書担当者が平成23年夏までには金属製品リストを作成し、保存処理の日程希望等とともに保存処理班に伝えていた。

しかし、一切の保存処理は実施されることなく、遺物も凶化、撮影等が困難な状態にまで劣化が進行したものが多。

については、以下に金属製品のリストを掲載し、報告とする。なお、スラッグ等、金属製品の副産物はリストから除外した。

表1 金属製品（RM）一覧

番号(RM)	出土地点	層位	形式	種別
1	SI04	埋1層	鉋	鉄製品
2	SI04	埋1層	板状鉄片	鉄製品
3	SI04	床直上	袋状鉄斧	鉄製品
4	SI04	床直上	鉄片	鉄製品
5	SD01	埋2層	棒状鉄片	鉄製品
6	SI01	埋一括	圭頭鏃	鉄製品
7	SI17	埋一括	袋状鉄斧	鉄製品
8	SI29	埋3層	棒状鉄片	鉄製品
9	SI38	埋3層	圭頭鏃	鉄製品
10	SD05	埋5層	圭頭鏃	鉄製品
11	東区	攪乱	袋状鉄斧	鉄製品
12	SF03	硬化面直上	銭貨	銅製品
13	P11	地山直上	銭貨	銅製品
14	P11	地山直上	銭貨	銅製品
15	西区	2層	煙管	銅製品
16	SF03	埋土下部	筭	銅製品



2 発掘調査の成果

築地館跡では弥生時代、中世及び時期不明の遺構が検出された。

弥生時代の遺構は、竪穴住居 24 棟、溝 2 条、土壇等である。竪穴住居は、平面は方形を呈し、2 本または 4 本柱建てで、ベッド状遺構を備える例もある。溝 2 条は、集落を画する条溝とその側溝であり、出入口部分が検出されている。

中世の遺構は、掘立柱建物 1 棟、溝 1 条、土壇等である。これらの遺構は、弥生時代より後代の遺構であるが、溝出土試料の放射性炭素 14 年代測定の結果から、中世としている。

この他、道路 5 条、道路に伴う溝等を検出した。

なお、出土遺物観察表を章末に附した。遺物の出土層序、法量、色調等の詳細は当該表に記載しているので、こちらを参照していただきたい。

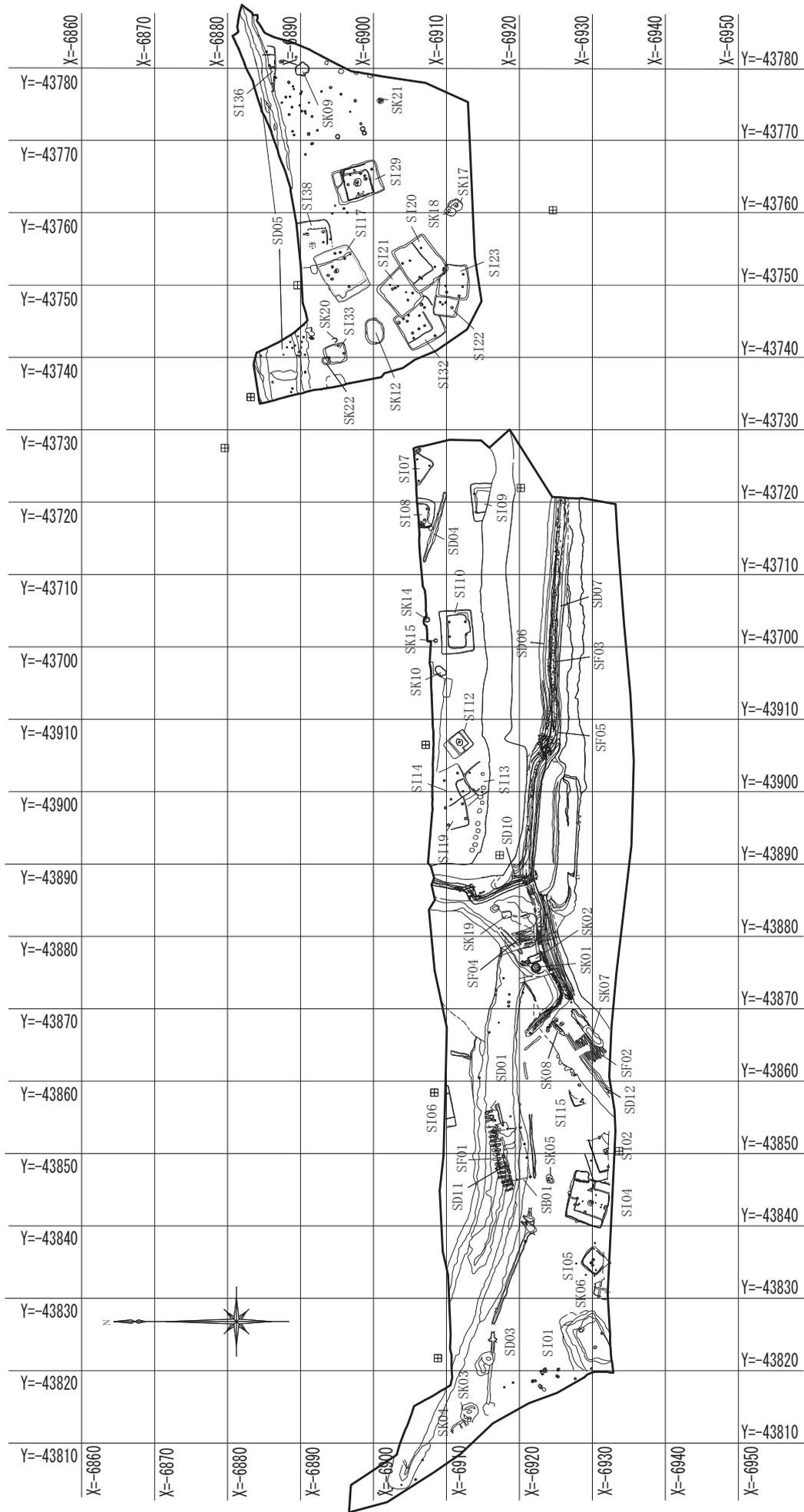


图 5 遺構配置図 (1/800)

2-1 掘立柱建物 (SB)

掘立柱建物は、SB01、1棟を検出した。

遺構の所属時期は、弥生時代より後代であるが詳細は不明である。

SB01

SB01は、長軸を南北方向に採る桁行3間×梁行2間の掘立柱建物である。SF01の調査過程で認識されたことから、SF01に切られていると推測している。L8グリッドに位置する。

桁行7.0m×梁行3.8mであり、柱間寸法は桁間2.7～1.9m、梁間2.0～1.8mである。南辺の柱穴列は、西から2.7、1.9、2.4mの桁間を採り、最短の桁間1.9mが中央に位置すること、西辺の梁間1.9mに等しいことから、掘立柱建物南辺中央に入口を設けたものと考えられる。

柱穴は直径30cm程度の円形を呈し、遺構確認面からの深さは20～50cmであった。北西隅柱穴、及び南辺柱穴のうち南西隅を除く3柱穴には直径15cmの柱痕跡が確認されている。各柱穴列は、柱心を通した配置とは言い難く、底面標高を揃えているとも評価できない。

以下に土層註記を記す。

1：10YR2/2 黒褐色粘質土。きめは粗く、粘性、しまり共にややある。小さな土器片を少し含む。

2：10YR2/2 黒褐色粘質土。きめは粗く、1の土に比べ粘性はやや弱く、しまりが強い。10YR4/6 褐色の土を極小大で少量含む。

3：10YR3/2 黒褐色粘質土。きめは粗く、粘性があり、しまりは弱い。10YR4/6 褐色の極小の土を1%弱の割合で含む。

4：10YR3/2 黒褐色粘質土。きめは粗く、粘性、しまり共にややある。小さな土器片を含んでいる。

5：10YR2/2 黒褐色粘質土。きめは粗く、4の土に比べ粘性は弱く、しまりが強い。10YR4/4 褐色の土を極小の大きさとまばらに含む。

6：10YR2/2 黒褐色粘質土。きめは粗く、粘性がややあり、しまりもある。10YR5/8 黄褐色の土を極小程度の大きさと、まばらに含んでいる。

7：10YR3/2 黒褐色粘質土。きめは粗く、粘性がややあり、硬くしまっている。

8：10YR2/2 黒褐色粘質土。きめは粗く、7の土に比べ粘性があり、しまりは弱い。10YR4/6 褐色の土を1%弱の割合で少量まばらに含む。

9：10YR2/2 黒褐色粘質土。きめは粗く、粘性、しまり共にややある。極小大の10YR4/6 褐色の土を5%程度、10YR6/4 にぶい黄橙色の1cm程度の土を1%弱程度含む。

10：10YR3/2 黒褐色粘質土。小さな土器片を少し含んでいる。なお、中央付近の底部で石が1つ出土した。

11：10YR2/2 黒褐色粘質土。きめは粗く、粘性があり、しまりは弱い。極小の10YR4/6 褐色の土を1%程度含む。

12：10YR2/2 黒褐色粘質土。きめは粗く、硬くしまり、粘性は弱い。10YR4/6 褐色の極小大の土を含み、さらに砂粒をまばらに含んでいる。

13：10YR2/2 黒褐色粘質土。きめは粗く、粘性は弱いが、12の土に比べややしまりがある。極小大の10YR4/6 褐色の土と砂粒を少量まばらに含んでいる。

14：10YR2/2 黒褐色粘質土。きめは粗く、粘性があり、ややしまった土。10YR4/6 褐色の極小大の土を1%弱程度含み、さらに砂粒をまばらに含んでいる。

15：10YR2/2 黒褐色粘質土。きめは粗く、粘性もあるが、14の土に比べてややしまっている。極小大の10YR4/6 褐色の土と砂粒をそれぞれ1%弱含んでいる。

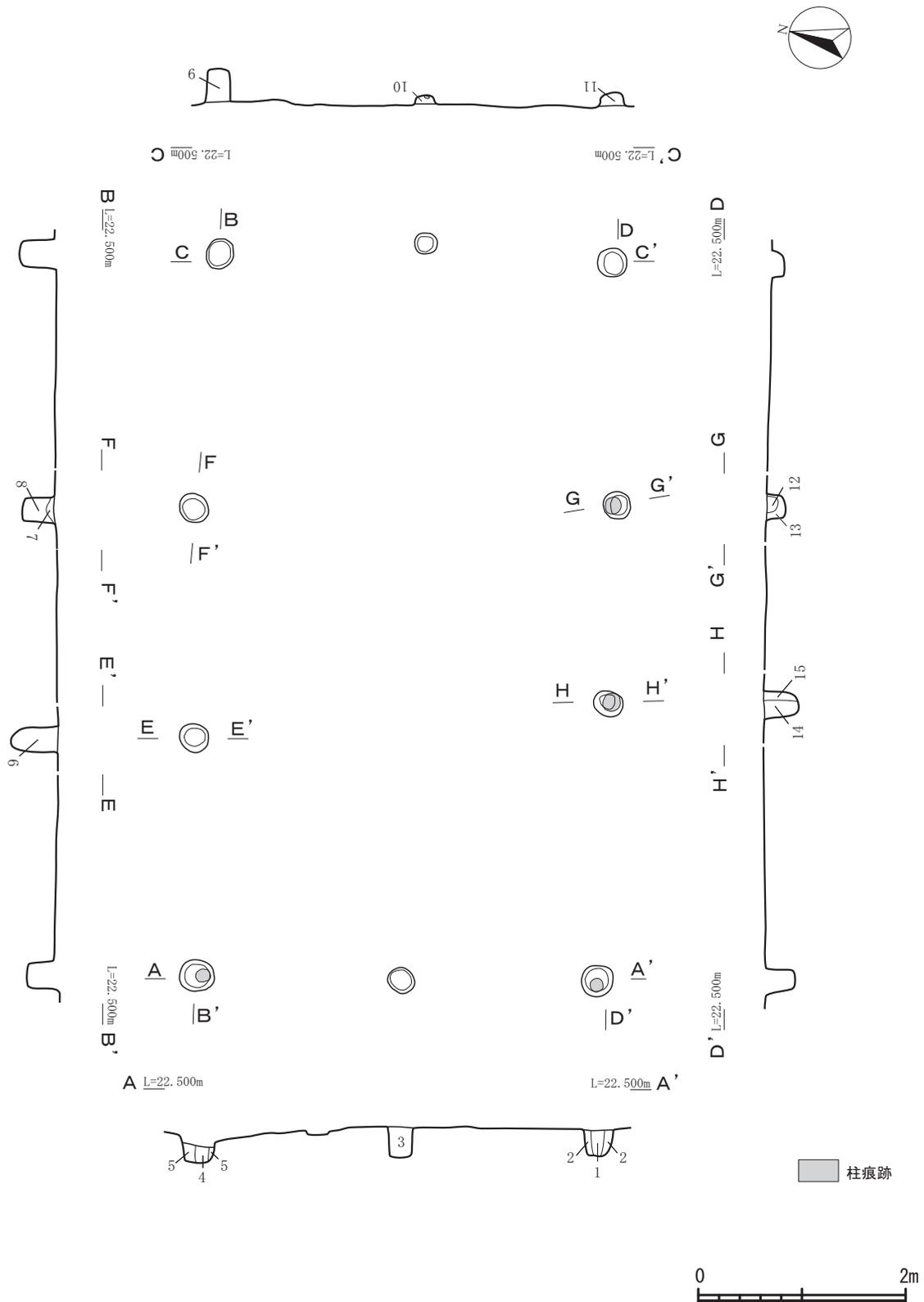


图 6 SB01 实测图 (1/60)

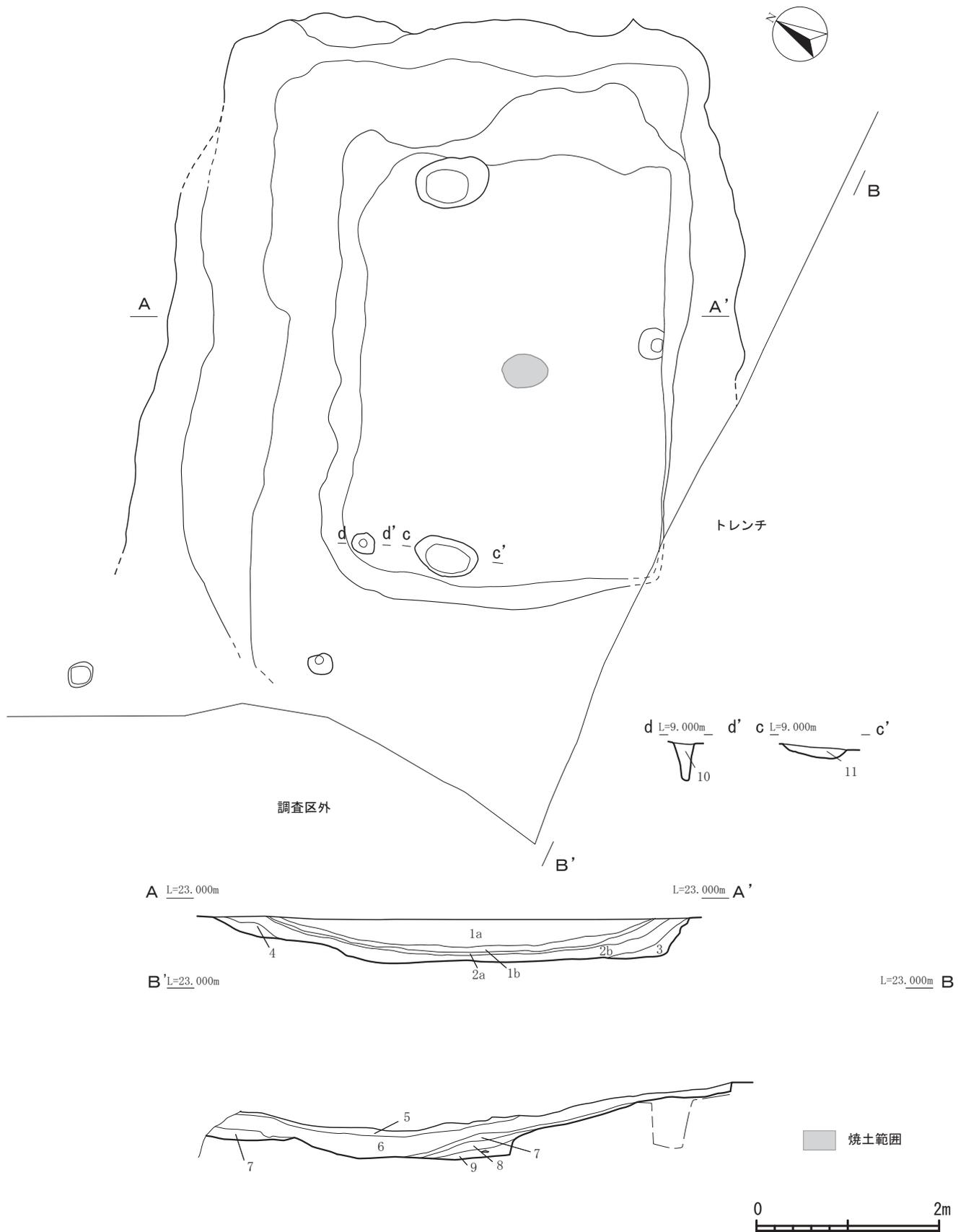


図7 SI01 実測図 (平面図・1/60)



図8 SI01 実測図（遺物出土状況・1/60）

2-2 竪穴住居（SI）

竪穴住居は、西区ではSI01、02、04、05、06、15の6棟、北区ではSI07、08、09、10、12、13、14、19の8棟、東区ではSI17、20、21、22、23、29、32、33、36、38の10棟、合計24棟を確認した。なお、03、11、16、18、24、25、26、27、28、30、31、34、35、37は欠番である。また、SI01は、現地調査段階では溝（SD02）と最終判断されたが、整理段階で再検

討した結果、竪穴住居であると結論している。

これら24棟の竪穴住居は、すべて弥生時代に所属する遺構である。

SI01

SI01は、長方形を呈する2本柱建て竪穴住居跡である。ベッド状遺構を備える。炉、Kピットは、復元することができる。K2グリッドに位置する。

SI01の法量（いずれも推定復元値）は、南北4.7m、

東西 7.1m、遺構の深さ 40 cm である。SI01 は床面に近いほど遺存状況が良い。

床面は、南北に短軸をもつ 3.3m × 4.6m の長方形に復元できる。床面は 4 cm 程度の高低差を有するものの、ほぼ水平な面として捉えることができる状態である。

ベッド状遺構は、床面の 10 cm 程度上位に位置し、東側壁、北側壁、西側壁に接続して設置されている。西側壁に沿ったベッド状遺構は、西側壁中央付近で高さを減じ、床面へ続く傾斜に変化している。傾斜面に続く床面は、床面中央部と一連の面を形成し、その高さも概ね等しい。したがって、西側壁に沿ったベッド状遺構は、上面の幅 1.1m 程度で、西側壁中央部付近で途切れるものとして復元する。北側壁に沿ったベッド状遺構は、上面の幅 1.0m 程度で、4 cm 程度の高低差を有しながらも、北側壁全体に設置されている。東側壁に沿ったベッド状遺構は、上面の幅 1.1m 程度で、東側壁全体に設置されている。その南半部は弧状に挟れているが、挟れ部分の北端、東側壁の中央に位置している。この箇所を境としてベッド状遺構南半部分の上面は、北半部分より約 10 cm 高くなる。すなわち、東側壁に沿ったベッド状遺構は東側壁中央付近で段構造を採り、南半部分が高くなっている、と復元する。なお、ベッド状遺構が高まっているため、損壊が大きくあられ、挟れ部分が生じたもの、と理解している。

南側壁は、床面から 30 cm 程度直立していることが土層断面で確認することができる。また、西、北、東辺と異なり南辺に沿った平坦面は存在しない。したがって、南側壁にはベッド状遺構は付設されなかったものと復元する。

Kピットは、小ぶりながらも、南側壁に付設された形で 1 基復元することができる。床面南辺の中央から東寄りの位置には南側壁に接した土層が確認されている。これが Kピットとして復元することができる設備である。長径 35 cm と小規模な土層であるが、その床面直上で確認された炭化物層に被覆されており、確実に堅穴住居の設備と判断できるため、その設置位置から Kピットとして復元した。

支柱穴は現地調査段階では認識されていないが、東、西、2 基の支柱穴を復元することができる。床面東辺には中央より北側に長径 90 cm の楕円形を呈する土層

が確認されている。この土層南端は、東側壁の中央部分で、東側壁に沿ったベッド状遺構の段構造があり、対辺西側壁に沿ったベッド状遺構が途切れる部分と一致、対応した位置である。床面西辺でも同様の位置に同規模の土層が確認されている。これら 2 基の土層がいくばくか北に偏った位置だとしても、支柱穴を結んだ軸線に北接して炉が設置されることを考えれば、むしろ支柱穴の位置としてふさわしい。また、この支柱穴の位置は、4 本柱建ての配置ではなく、2 本柱建ての配置に一致している。

炉は、検出されていないが、支柱穴を結んだ軸線に北接して焼土が検出されており、ここに炉が設置されていたものと推定する。

南側壁際の床面には、その直上に炭化物層が分布し、炭化物層の上位に弥生土器等、遺物が散在していた。なお、南側壁西端部、及び支柱穴を結ぶ軸線西端部では焼土層が確認されている。

以下に、土層註記を記す。

1a : 10YR3/3 暗褐色土。きめはやや細かく、粘性もややあり、硬くしまっている。砂粒を少量、10YR5/8 黄褐色の極小大の土（火山灰か？）を全体的に 1% 弱、さらに 5YR5/8 明赤褐色の極小大の土を所々まばらに含んでいる。

1b : 10YR3/3 暗褐色粘質土。基本の土質、混入物共に 1a と同じだが、1a と比べ、やや粘性が強く、しまりもやや強い。直下の 2a の影響を受けた人工堆積層と思われる。

2a : 10YR2/2 黒褐色粘質土。きめは細かく、しまり、粘性共にある。全体的に砂粒及び 10YR5/8 黄褐色の極小大の土（火山灰か？）を 1% 弱含む。底面に白っぽい粘土層を伴っている。1b の影響を受けた自然堆積層と思われる。

2b : 10YR2/1 黒色粘質土。きめは細かく、粘性があり、しまっている。全体的に 10YR5/8 黄褐色の極小大の土及び 2.5YR5/8 明赤褐色の極小大の土を 1% 弱含んでいる。さらに、全体的に砂粒を少量含んでいる。自然堆積層と思われる。

3 : 10YR4/4 褐色粘質土。きめは細かく、粘性が強く、しまりは弱い。黄褐色及び明赤褐色の極小大の土をまばらに含む。

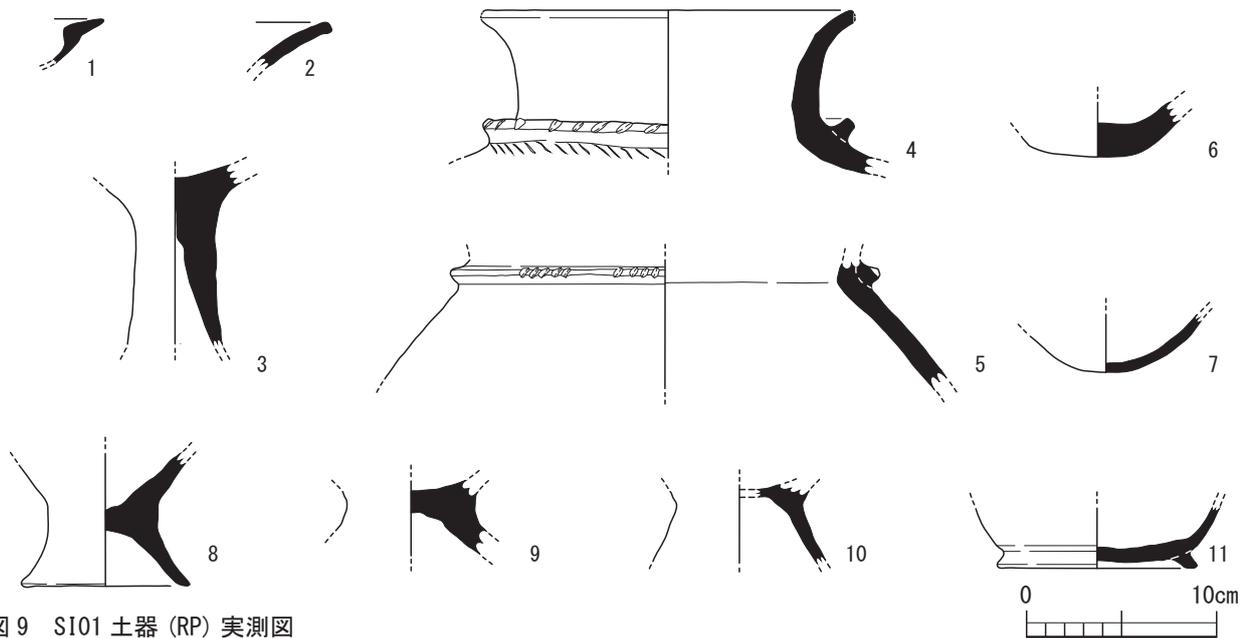


図9 SI01 土器 (RP) 実測図

4: 10YR4/6 褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性はややあり、硬くしまっている。極小大の黄褐色の土を1%弱含んでいる。

5: 10YR2/2 黒褐色粘質土。きめが細かく、粘性がややあり、非常に硬くしまっている。極小大～粒状の黄橙色、明黄褐色の土及び砂粒を少し含む。

6: 10YR2/2 黒褐色粘質土。きめは細かく、5より粘性があり、しまりはやや弱い。極小大～粒状の黄橙色、明黄褐色の土及び砂粒を少し含む。

7: 7.5YR4/4 褐色粘質土。きめは粗く、粘性も少しあり、しまっている。極小大の砂粒、黄橙色の土を少し含む。

8: 7.5YR4/4 褐色粘質土。きめは粗く、しまりはやや弱い。粘性も7より少し強い。極小大の砂粒、黄橙色の土に加え、5mm大の粒状の赤褐色土が少し入る。

9: 7.5YR4/4 褐色粘質土。きめは粗く、しまりが弱い。さらに、入る赤褐色の土が2～3cm大と大きく、多くない。極小大の炭化物が少し混ざっている。

10: 7.5YR3/2 黒褐色粘質土。粘性強く、きめは粗い、しまった土。

11: 7.5YR4/4 褐色粘質土。粘性強く、きめは粗い、しまった土。焼土と炭化物含む。

SI01 調査の経緯

SI01 は、この遺構を溝 (SD02) とした現地調査段階の判断を再検討し、結果、この遺構は竪穴住居 (SI01) であると結論した。この結論を受け、SD02 を欠番とし、

この遺構に SI01 (調査当初に付された遺構番号と同じ番号である) の名称を付し、報告している。以下にその経緯を記す。

この遺構は、当初は竪穴住居として現地調査が開始されている。しかし、「形があまりしっかりしていないこと」から「自然の土穴」の可能性を、「割と深く、土器も多く出土すること」から竪穴住居の可能性を並立させていた。2日後、この遺構は「溝状遺構」との認識のもとトレンチが入り、「表土の上面から最も深いところで約 100 cmの深度があったため」「ゴムキャタのコンマ2のバックホーを使って埋土を掘削」されている。その結果、「溝の底から約 20 cmのところまでカマドラしき焼土が検出され、溝のそこ付近から弥生の土器が多量に出土」したとの結果を得た。翌作業日には「溝状遺構から検出された住居跡は番号 (SI01) とし」、翌日に「完掘状況」を撮影し、調査を一旦終了している。

この時点では、「溝状遺構」と竪穴住居 (「SI01」) が認識され、調査されていたことになる。

さらに3ヶ月後、現地調査は「SI01 清掃、住居跡プラン検出の為の掘削」を再開する。そして、竪穴住居 SI01 と「SI01 の上層の溝 (SD02)」とを弁別するため、土層断面、平面プランの両面から検討した。土層断面からの検討は、「南側に」竪穴住居の「立ち上がり」がはっきり見える」と認識しているが、「北側の SI01 の立ち上がりは確認できない」として結論を保留してい

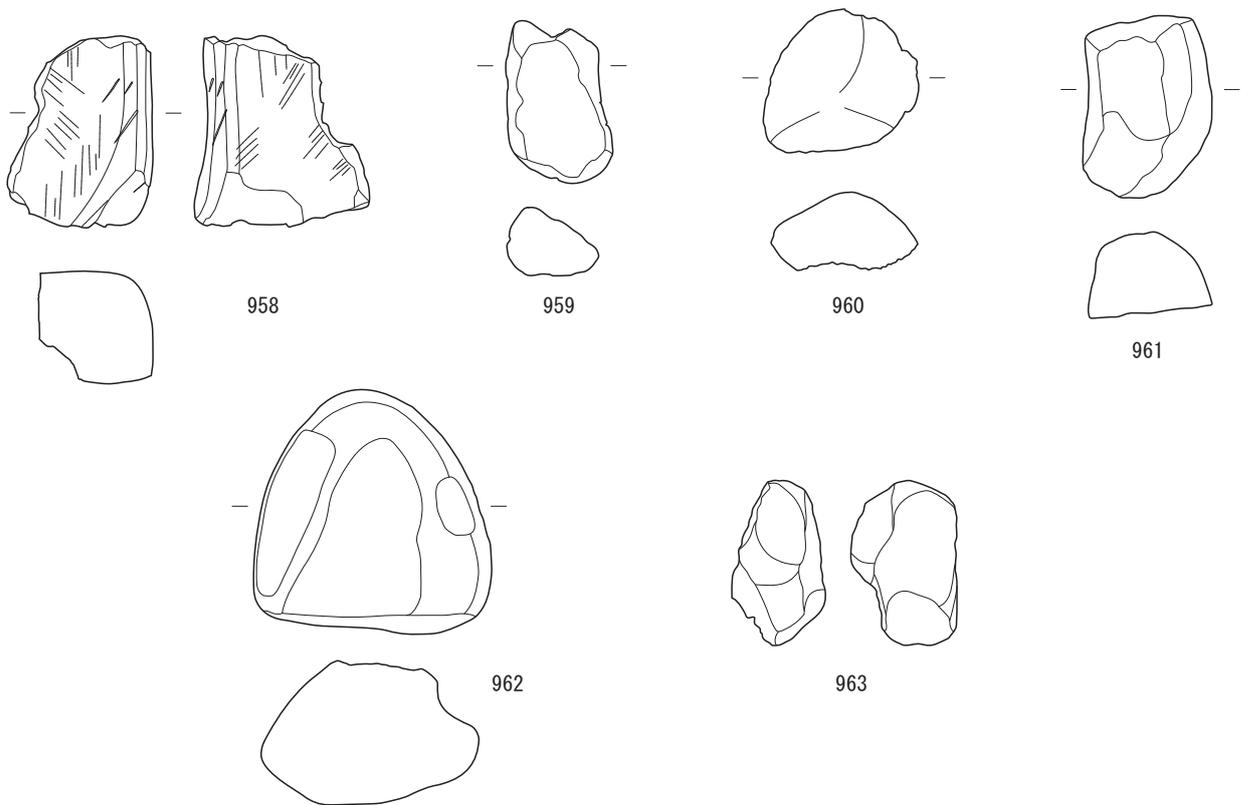


図 10 SI01 石器 (RQ) 実測図

る。一方、平面プランからの検討は「SI01の上層の溝(SD02)を含む層を平面でおとしていったが、溝の埋土のラインとの区別もはっきりつかず、住居の平面プランを確認するには至らなかった」ため、「住居跡では無い可能性が高くなり、SD02のプランを検出した後、埋土として掘削」している。

この時点から、この遺構は溝(SD02)として取り扱われることとなる。

以下は、整理段階での再検討を記す。

この遺構の平面実測図は、重機により掘削された難を経てまなお、長方形プランを呈しベッド状遺構を備える竪穴住居と認識するのに十分である。

なお、この遺構の最下層は、竪穴住居側壁際の三角堆積と一致し、層全体に包含される弥生土器、層最下面に位置する焼土、炭化物の存在は竪穴住居床面を最初に埋めた層序であることを示している。

また、現地調査では、この遺構の層序は他の遺構と著しく異なり、その上位は「1~2cm程度のブロック状の土のかたまりが含まれていて攪乱された土」である「人工堆積」、下位は「土壌化は進んでいるものの割と均一な状態」である「自然堆積」により構成され、

これらの最上部を「自然堆積」層が被覆している、と観察している。「人工」、「自然」の当否は保留しても、この遺構が大きく2段階に分別できる埋没過程を経ている、と理解する点は承認できる。ここで、初回調査時の「溝状遺構」と竪穴住居が累重していると認識した現地調査段階での認識に立ち返り、最下部には竪穴住居が存在し、その埋土(下位層序)も弁別できていた、と評価する。

おって、竪穴住居の上の「溝状遺構」は、掘削痕跡等、人為痕を、現地調査段階、整理段階のいずれにおいても認識されていないため、「溝状遺構」は「竪穴住居が廃棄されたくぼみ」と評価することはできるが、遺構とは判断できない。

すなわち、この遺構は、竪穴住居に炭化物、焼土が形成される火を用いた行為があり、後、側壁際に三角堆積が形成され、その上層は擬礫層が形成されたものである、と結論する。

最後に、この遺構を現地において竪穴住居跡であると指摘した者が、報告者を含め複数あり、さらに複数の者が同様の認識をもっていたことを整理段階で表明したことを付記する。



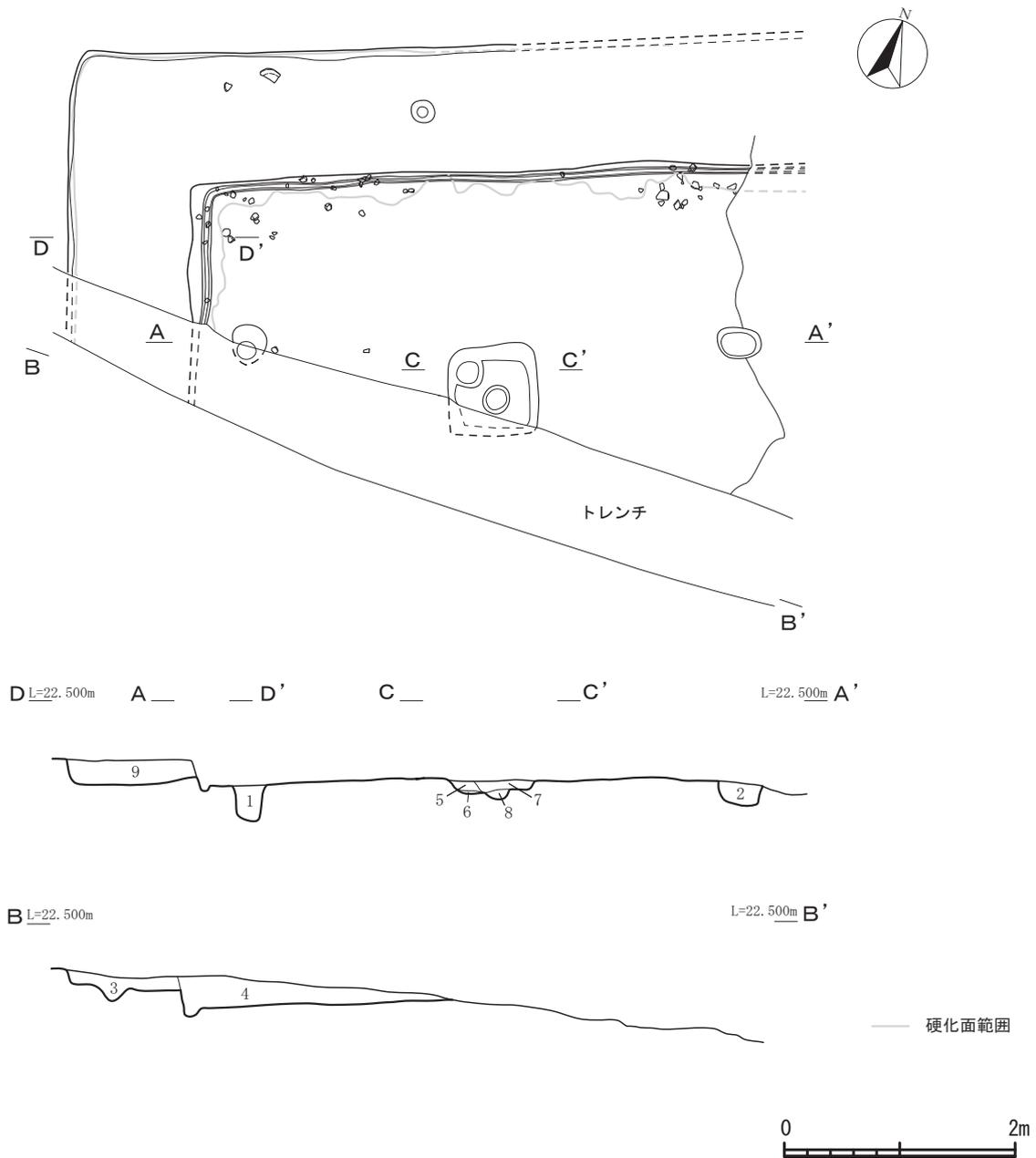


図 11 SI02 実測図 (1/60)

SI02

SI02 は、正方形を呈する 2 本柱建て堅穴住居跡である。この遺構の南半部は調査区外、東側は削平を受けているため、堅穴住居の北半部を調査し、炉及びベッド状遺構を確認した。N6 グリッドに位置する。

SI02 の法量は、南北 2.9m、東西 5.9m、遺構確認面からの深さ 30cm を測る。

主柱穴は 2 基検出した。西主柱穴は、西側ベッド状遺構の下端から 20 cm 程内側に設けられ、30 cm の深さ

を測る。東主柱穴は深さ 20 cm を測る。両主柱穴を結ぶ軸線は堅穴住居の北側壁と平行に位置し、その中央には、軸線に北接して炉が設置されている。

炉は、南北 65cm、東西 80cm の正方形を呈し、深さは 10cm である。炉底は皿形に掘りくぼめられ、さらに炉内南東隅に 5 cm 程度の深さのくぼみが設えられている。また、炉底は概ね平面であるが、炉中央部には 5 cm 程度の深さで円形のくぼみが存在する。当該部分の埋土は炭化物を交えた焼土であり、火床の中心部で

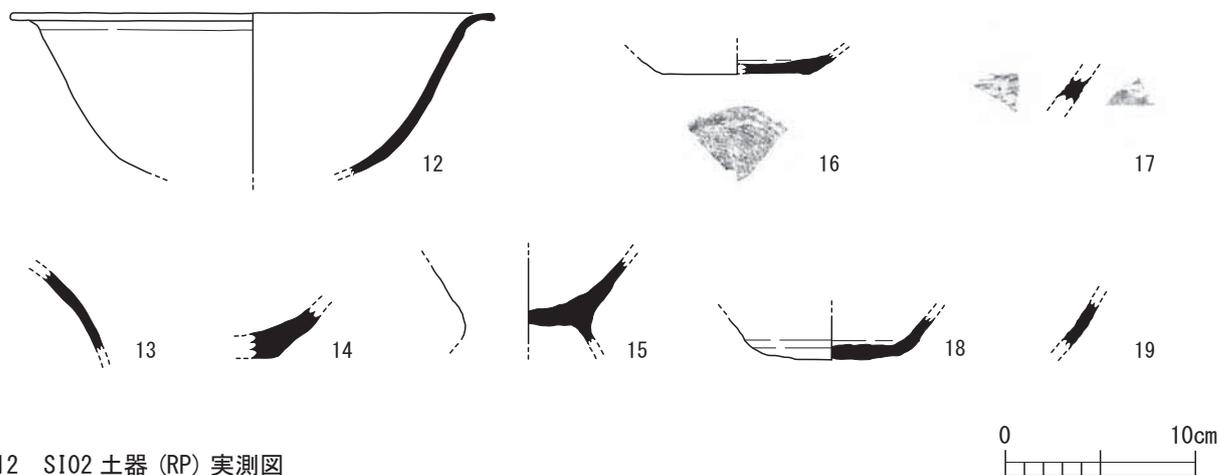


図 12 SI02 土器 (RP) 実測図

あったと理解することができる。炉の北辺、西辺は住居の北側壁、西側壁に平行で、中張りみすることなく精緻に切られている。

ベッド状遺構は北側壁、西側壁に沿って設置されている。その上面は幅 100 cm を測り、床面との接合部には幅 5～10 cm、深さ 5 cm の溝が巡る。西側壁に接したベッド状遺構の側面は傾斜し、北側壁に接したベッド状遺構の側面は直立している。なお、北側壁に接したベッド状遺構には直径 20 cm、深さ 20 cm のピットが穿たれている。当該ピットは炉の西側壁の延長上に位置している。

床には硬化面が形成されている。炉、支柱穴の周囲からベッド状遺構の際まで一様に形成された硬化面である。

なお、現地調査の段階ではベッド状遺構部分を SI03、炉、柱穴等が位置するベッド状遺構の内側部分を SI02 とし、遺物整理に至るまで 2 つの遺構として取り扱われている。しかし、当該遺構は、上述のとおり一軒の竪穴住居跡である。

壺、甕、鉢等の破片が出土しているが、その出土位置は側壁際、ベッド状遺構際であり、須恵器、陶器が混入するほど削平による影響を受けている。

以下に土層註記を記す。

- 1：10YR3/4 暗褐色粘質土。きめは粗く、粘性はややあり、硬くしまる。土器片を 1 片含む。
- 2：10YR3/4 暗褐色粘質土。きめは粗く、粘性はややあり、硬くしまる。土器片を 5 片含む。
- 3：10YR4/6 褐色粘質土。きめは粗く、粘性はややあり、

硬くしまっている。1 cm 前後の黒い粒や白い砂をまばらに含む。

4：10YR3/3 暗褐色粘質土。きめは粗く、粘性は少なく、硬くしまっている。0.5 cm 前後の黒い粒や白い砂をまばらに含む。

5：10YR2/3 黒褐色土。きめは粗く、粘性はほとんどない。まばらに炭化物や焼土、白い砂を含む。

6：5YR5/6 明赤褐色土。きめは粗く、粘性はほとんどなく、硬くしまる（焼土まばらに炭化物を含む）。

7：10YR2/3 黒褐色土。きめは粗く、粘性はほとんどなく、硬くしまっている。白い砂や炭化物を含む。

8：10YR2/3 黒褐色土。きめは粗く、粘性はほとんどなく、硬くしまっている。白い砂や炭化物、マンガンを含む。

9：10YR3/4 暗褐色粘質土。きめは粗く、粘性は少なく、硬くしまっている。極小～1 cm の黒い粒や砂粒をまばらに含む。

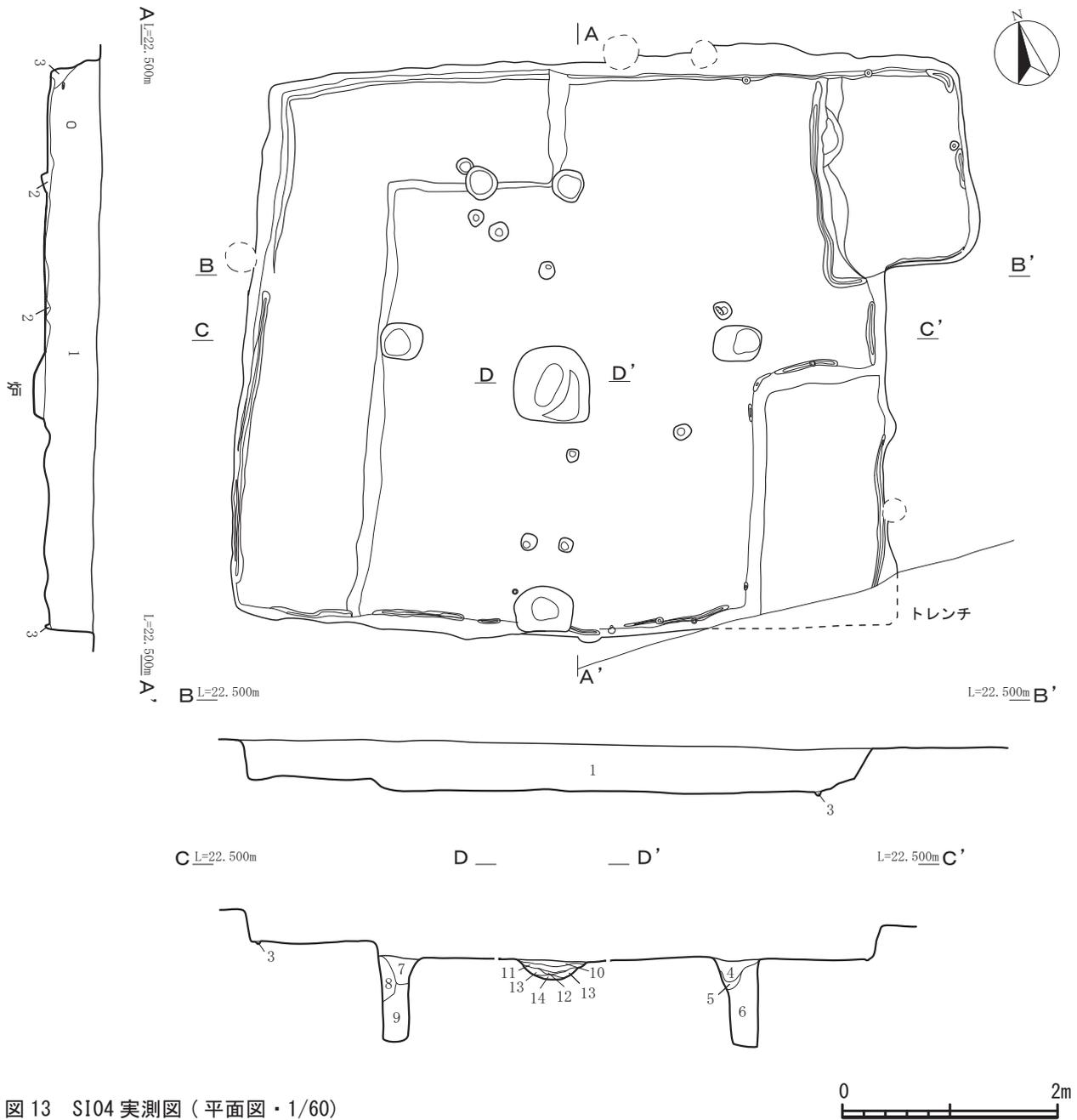


図 13 SI04 実測図 (平面図・1/60)

SI04

SI04 は、正方形を呈する 2 本柱建て竪穴住居跡である。炉、K ピット、及びベッド状遺構を備える。東側壁には張出部を備える。この遺構の南東隅は調査区外のため調査していないが、竪穴住居の全容を知ることができる。M5 グリッドに位置する。

SI04 の法量は、南北 5.5m、東西 5.9m、遺構確認面からの深さ 50cm を測る。

主柱穴は 2 基検出した。各主柱穴は、西側ベッド状遺構の下端に接して設けられ、床面からの深さは 80

cm、ともに内傾している。両主柱穴を結ぶ軸線は竪穴住居の南北両側壁と平行に位置し、その中央には、軸線に北接して炉が設置されている。

炉は、南北 75cm、東西 75cm の正方形を呈し、深さは 20cm である。炉底はボウル形に掘りくぼめられ、さらに炉内中位、南東隅にテラスが設えられている。このテラスより下位の埋土は炭化物を含まない黄褐色砂で、上位の埋土は炭化物を含む褐色シルト、黒褐色シルト、または焼土である。すなわち、テラス部の高さにおいて埋土は分別され、その界面はほぼ平坦な状

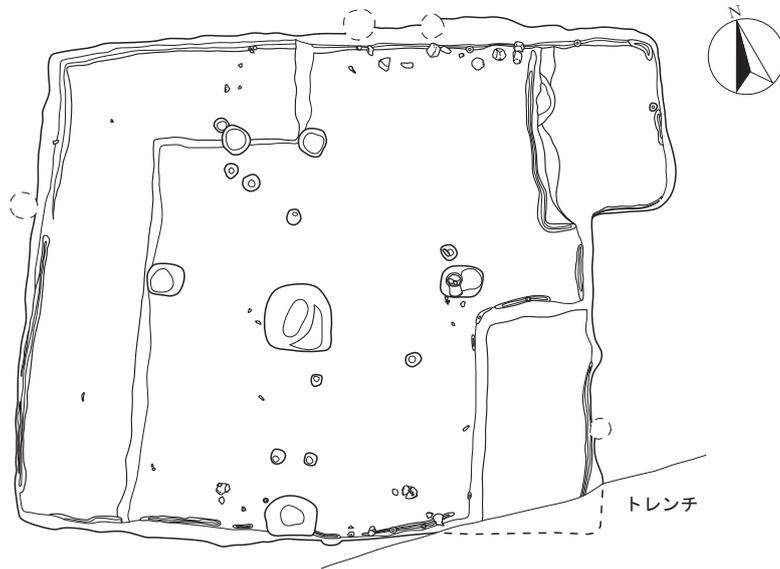


図 14 SI04 実測図 (遺物出土状況・1/80)

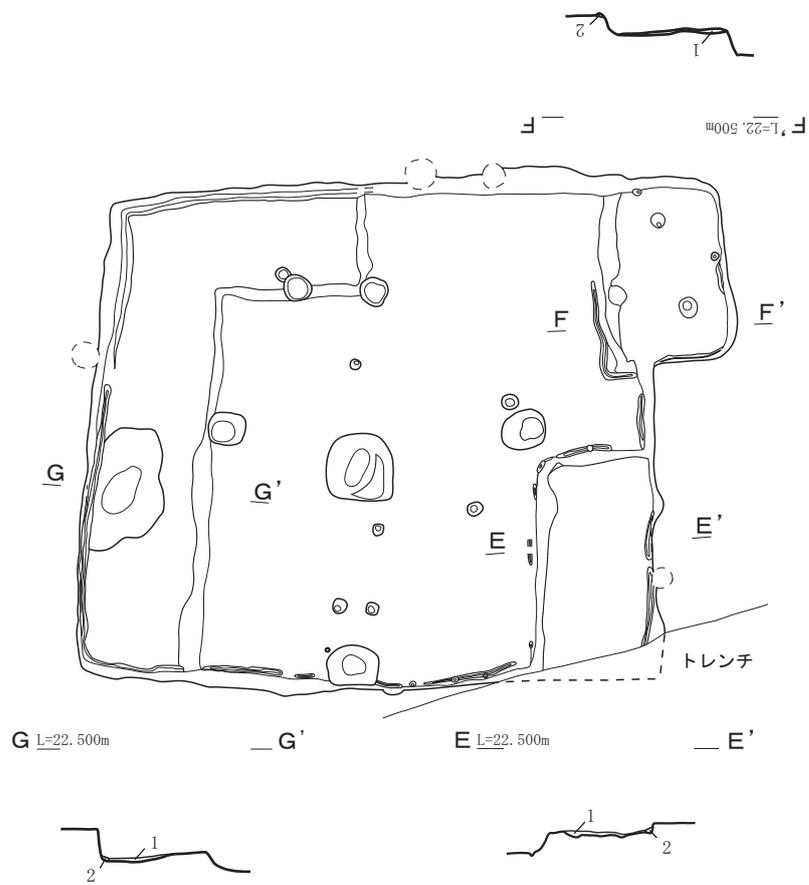


図 15 SI04 実測図 (地山検出状況・1/80)



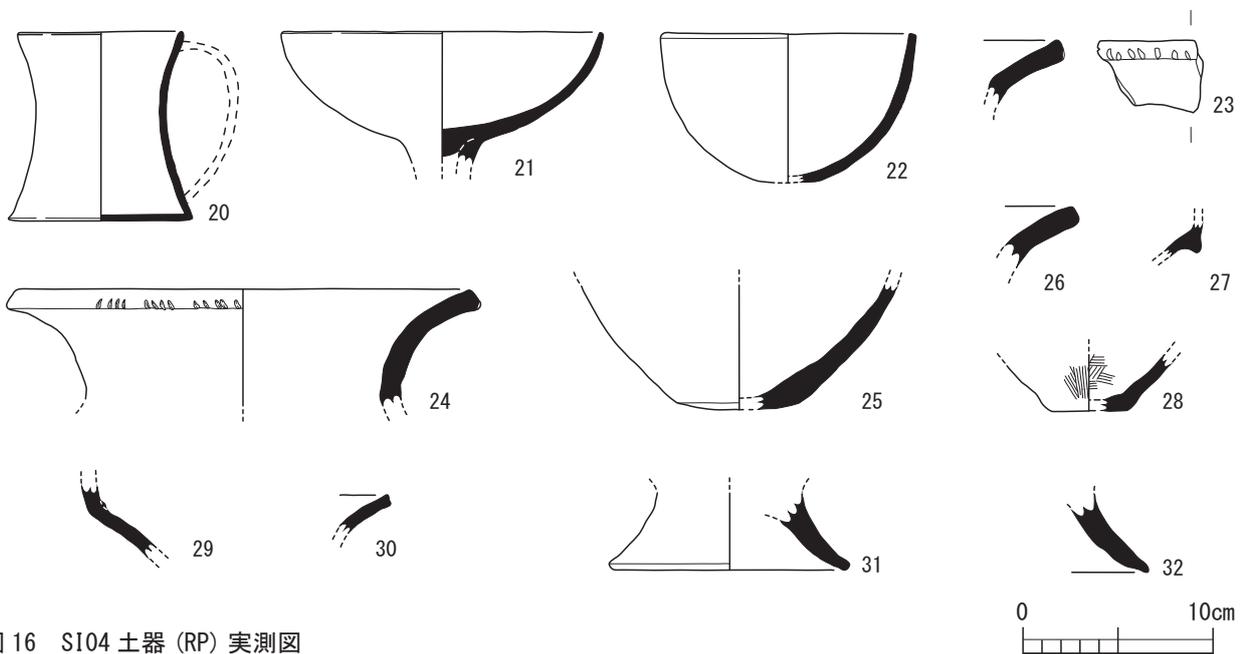


図 16 SI04 土器 (RP) 実測図

態を呈している。このことから、炉の火床はテラスの高さにあり、皿形を呈していたものと理解することができる。炉の南辺、西辺は直線的に切られ、炉壁の傾斜も急角度であるが、北辺、東辺は弧状に切られ、緩やかな角度の炉壁である。炉の周囲には、高さ 5 cm、幅 5 cm 程の周堤が備わっている。

K ピットは長方形を呈し、南側壁に接して、その中央に位置する。北辺が弧状に切られている点は炉の平面形と類似している。深さは 20 cm を測り、底部は平坦に、斜面は緩やかに堀りくぼめられている。K ピットの北 40 cm にはピット 2 基、1 対が K ピットの東西端部に対応する位置に設けられている。

ベッド状遺構は北側壁、東側壁、西側壁に沿って設置されている。その上面幅は、北側壁に沿う部分では 100 cm、他の部分では 110 cm を測り、北側壁、東側壁に沿うベッド状遺構は各側壁中位で途切れている。東側壁に沿うベッド状遺構と床面との接合部には幅 5 ~ 10 cm、深さ 5 cm 程の溝が巡る。東側壁の北半部には、幅 90 cm 程の張出し部が備わる。この張出し部平坦面の高さは、東側壁南半部に沿うベッド状遺構の平坦面の高さと同じであり、床面との接合部に溝が巡る点も同じである。また、住居内にも 30 cm 程張出ししている。このことから、当該部分は、竪穴住居の建設当初からベッド状遺構が張出し部と複合して設置されていたものと理解することができる。なお、北側壁に沿うベッ

ド状遺構の南東隅には深さ 5 cm 程の円形を呈するくぼみが存在し、その周囲には床面からわずかに隆起した高まりが認められる。柱、容器等を置くために設えられた可能性がある。

床に硬化面が形成されていたか否かは不明である。

ベッド状遺構と張出し部に挟まれた北側壁際には、掌大の礫 6 個、拳大の礫 3 個が床上に並んで出土した。

床面には 2 箇所赤色顔料が検出されている。その位置は、東側壁に沿ったベッド状遺構の西側下端部の前面にあたり、南北に並ぶ形で確認されている。

壺、甕、高坏、鉢等の破片の他、ジョッキ形土器が出土している。広口壺の口縁端部にはキザミを施した例があり、台付甕の脚部は、高さが低く、器壁が肥厚する。

以下に土層註記を記す。

1 : 10YR3/3 暗褐色粘質土。きめは粗く、粘性は弱く、硬くしまっている。10YR6/8 明黄褐色の 5mm 前後の土を 1% 弱程度、10YR2/2 黒褐色の 5mm 前後の粒 (マンガカ?) を上部に 10% 位多く含んでいる。下にいくほど 1% 弱と少なく含んでいる。全体として、まばらに砂粒を含んでいる。

2 : 10YR5/4 にぶい黄褐色土。きめはやや粗く、砂質土であるが、粘性は少しあり、ややしまっている。1 ~ 5 cm 大のブロック状の 10YR6/8 明黄褐色の土及び黒褐色の土をまばらに含んでいる。

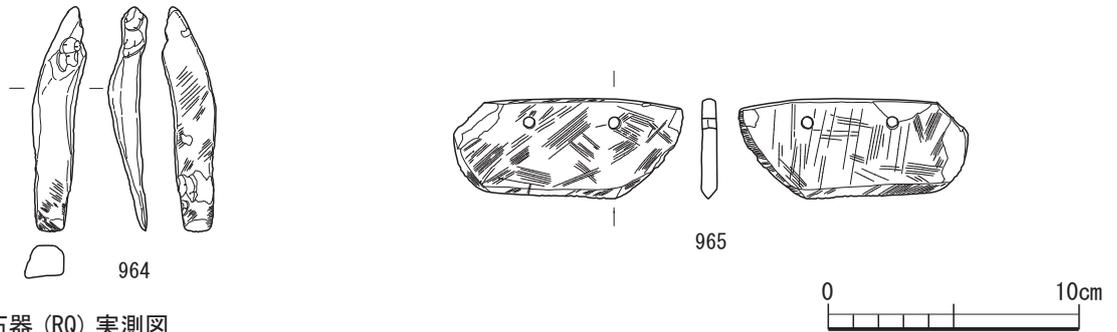


図 17 SI04 石器 (RQ) 実測図

3 : 10YR4/4 褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性が少しあり、しまっている。砂粒が全体的に少量混ざっている。側壁溝。

4 : 10YR4/4 褐色粘質土。きめは粗く、粘性もあり、しまりはやや弱い。極小大の 10YR5/8 黄褐色の土や 10YR3/3 暗褐色及び 10YR2/1 黒色の土を 1%弱程度含んでいる。

5 : 10YR4/4 褐色粘質土。きめは粗く、4 の土より粘性が強く、しまりは弱い。10YR5/8 黄褐色の極小大の土及び 10YR6/8 明黄褐色の極小大の土を含んでいる。

6 : 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性、しまり共に 5 の土と同じ。10YR5/8 黄褐色の極小大の土を全体的に、10YR3/2 黒褐色の 1 cm 大の土をブロック状に所々含んでいる。

7 : 10YR4/4 褐色粘質土。きめは粗く、粘性があり、しまりはやや弱い。10YR3/3 暗褐色や 10YR5/8 黄褐色の土及び 10YR2/2 黒褐色の土を 1 cm 前後の大きさでブロック状に 10%程度含んでいる。

8 : 10YR4/4 褐色粘質土。きめは粗く、粘性が強く、しまりは弱い。多量 (30%位) に極小大の 10YR6/8 明黄褐色及び 10YR5/8 黄褐色の土を含み、さらに所々に 10YR2/2 黒い極小大のブロック状の土を含む。

9 : 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性は強く、しまりは弱い。2 cm 程度のブロック状に 10YR5/8 黄褐色のマンガンの黒い粒を内を含んだ土及び 10YR2/2 黒褐色の土を多量 (30%位) 含んでいる。

10 : 10YR4/4 褐色土。きめは粗く、粘性ほとんどなく、ややしまりがある。1 cm 弱大の炭化物をまばらに含んでいる。極小大の赤い粒及び黄色の粒を数箇所を含んでいる。

11 : 10YR2/2 黒褐色粘質土。きめは粗く、粘性があり、しまりはないが、フカフカしている。下部により集中

して 5YR4/8 赤褐色の 0.5 ~ 2 cm 大のブロック状の土を 20%程度含み、さらに 1 cm 弱大の炭化物をまばらに含んでいる。

12 : 5YR4/6 赤褐色粘質土 (焼土)。きめは粗く、粘性はややあり、フカフカしている。より明るい 5YR4/8 赤褐色の土や黒褐色の土をまばらに含んでいる。砂粒も少量含んでいる。

13 : 10YR5/6 黄褐色砂。ややしまっていて、混入物はない。

14 : 10YR5/4 にぶい黄褐色砂。ややしまっている。下部に数箇所 10YR5/8 黄褐色の極小大の土を含んでいる。13 の土に比べ、やや灰色味が強い。

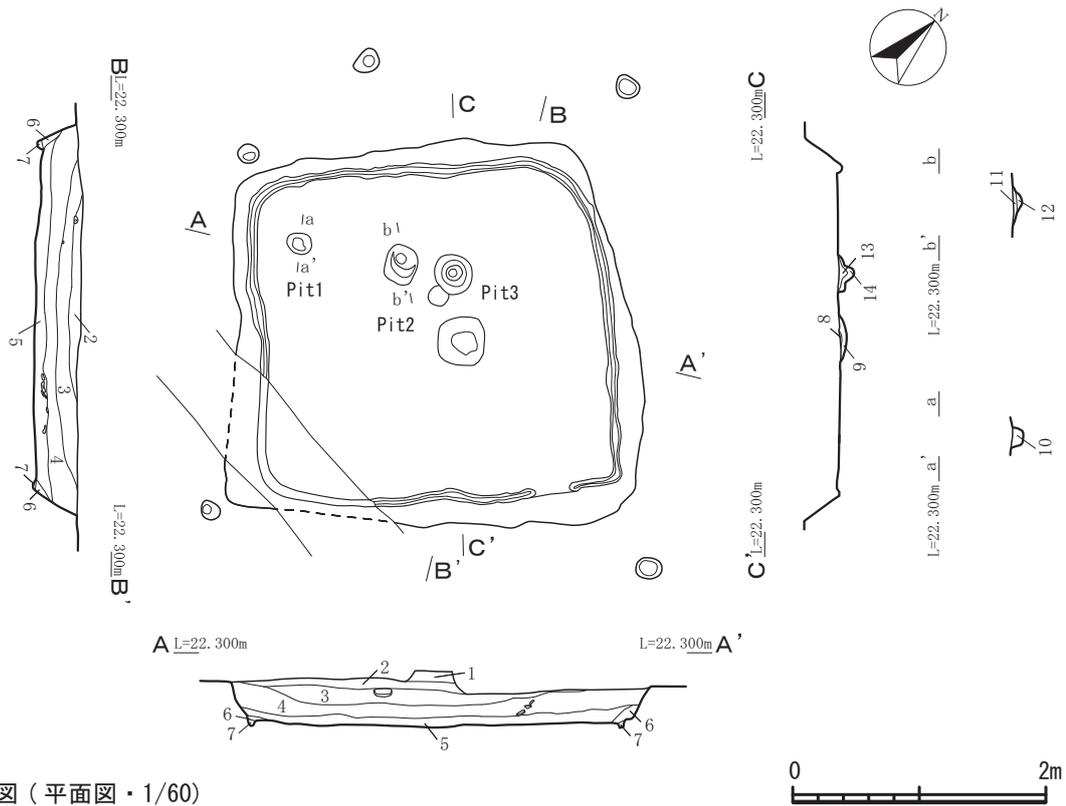


図 18 SI05 実測図（平面図・1/60）

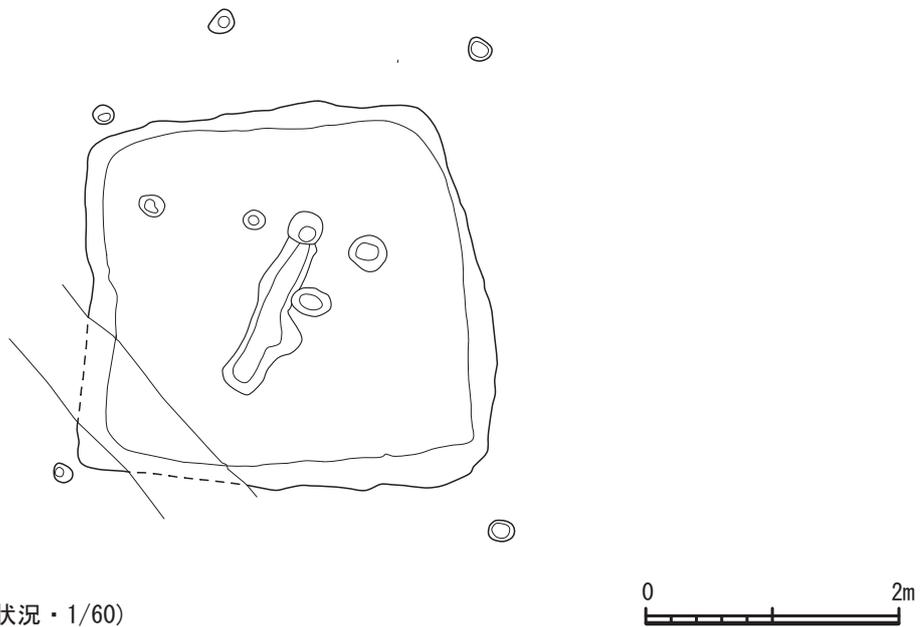


図 19 SI05 実測図（地山検出状況・1/60）

SI05

SI05 は、正方形を呈する柱建て不明の堅穴住居跡である。炉を備える。現地調査段階では、堅穴の外部に位置する 5 基の小ピットを柱穴の候補として実測したが、各ピットの深さは 6～25 cm、平面形、底部形、堅穴との相関位置も異なっているため、柱建て不明とする。L4 グリッドに位置する。

SI05 の法量は、南北 2.7m、東西 2.7m、遺構確認面

からの深さ 35cm を測る。

炉は、南北 40cm、東西 35cm の隅丸方形を呈し、深さは 6cm である。炉はボウル形に掘りくぼめられている。炉の埋土は固く焼きしまり、下層には炭ブロックが 2 単位混じっていた。この他、調査者はピットとして取り扱っているが、炉と同程度の規模を有し、焼土、炭化物を含み、2 段掘りの構造を備えた土壌が 2 例検出されている。炉の西側に位置する Pit2 及び Pit3 で



図 20 SI05 実測図（遺物出土状況・1/60）

ある。Pit2の上層は炭化物を含み固く焼きしまり、下層は炭化物を含み粗く締まっている。Pit3の上層には炭化物が多く含まれ焼土粒も認められ、下層は炭化物を含み粗く締まっている。Pit2及びPit3の上下層の界面は2段掘りの変換点にあり、かつ下層は同一の内容であるため、Pit2及びPit3は同一の下部構造と皿型の火床を備えた炉であると理解することができる。したがって、SI05には3基の小型炉が営まれていたと結論する。

竪穴住居の側壁際には、側壁溝が巡る。

床面の西隅には深さ15cmのPit1が在る。

調査者は、貼り床を除去したところPit3から竪穴住居の対角線に沿うような長さ125cm、幅30cm、深さ10cmの溝を検出している。

3基の小型炉、支柱穴不明の小型竪穴、竪穴中心部に溝が斜行する地下構造は、SI05が鍛冶遺構であることを示している。

壺、甕、高坏、鉢等の破片が埋土5層からまとまって出土している。

以下に土層註記を記す。

1：10YR3/4 暗褐色土。きめは粗く、粘性はなく、硬くしまっている。大きめの砂粒を多量に含み、さらにマンガンを少量、土器片を少量含む。

2：10YR2/2 黒褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性、しまり共にややある。極小大の10YR4/6 褐色土を少量含む。砂粒はほとんど含んでいない。

3：10YR2/2 黒褐色粘質土。きめはやや細かく、2に比べて粘性は弱く、砂を多く含み、よりしまっている。1cm大の10YR4/4 褐色土をブロック状に所々含んでい

る。土器片をまばらに含む。

4：10YR3/2 黒褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性は強く、ややしまっている。極小大の10YR4/6 褐色土を少量（1%弱）含み、砂粒をまばらに少量、土器片もまばらに含んでいる。

5：10YR4/4 褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性は強く、ややしまっている。極小大の10YR2/2 黒褐色の土と10YR5/8 黄褐色の極小大の土をまばらに含む。砂粒と土器片を少量まばらに含む。

6：10YR4/6 褐色粘質土。きめはやや細かく、ややしまっており、粘土に近い。極小大の黒い粒を少量含む。

7：10YR4/4 褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性があり、ややしまっている。極小大の明黄褐色、黒色の粒状の土を少量含んでいる。側壁溝。

8：7.5YR6/6 橙色土。粘性はなく、硬く焼きしまっている。

9：2.5YR4/6 赤褐色粘質土。硬く焼きしまっている。炭をブロック状に2つ含む。

10：2.5YR3/2 暗褐色粘質土。きめは粗く、ザラザラしており、硬くしまっている。

11：10YR4/4 褐色粘質土。きめは細かく、硬く焼きしまっている。炭化物も含む。

12：7.5YR5/4 にぶい褐色粘質土。きめは粗く、しまっている。炭化物をやや含む。

13：7.5YR4/2 灰褐色粘質土。しまっており、炭化物を多く含む。焼土粒もやや含む。

14：7.5YR5/4 にぶい褐色粘質土。きめは粗く、しまっており、炭化物をやや含む。



图 21 S105 土器 (RP) 実測図

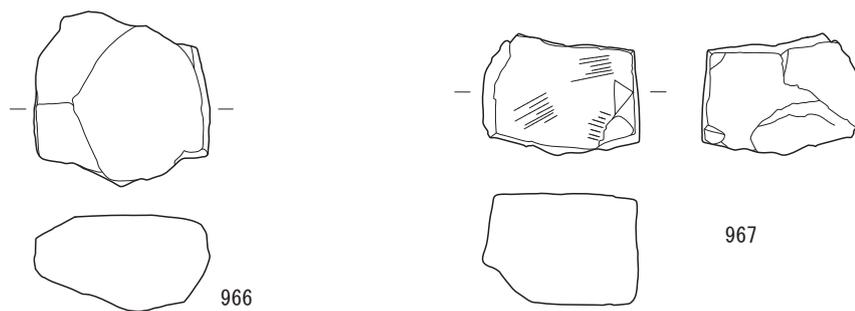


图 22 S105 石器 (RQ) 実測図

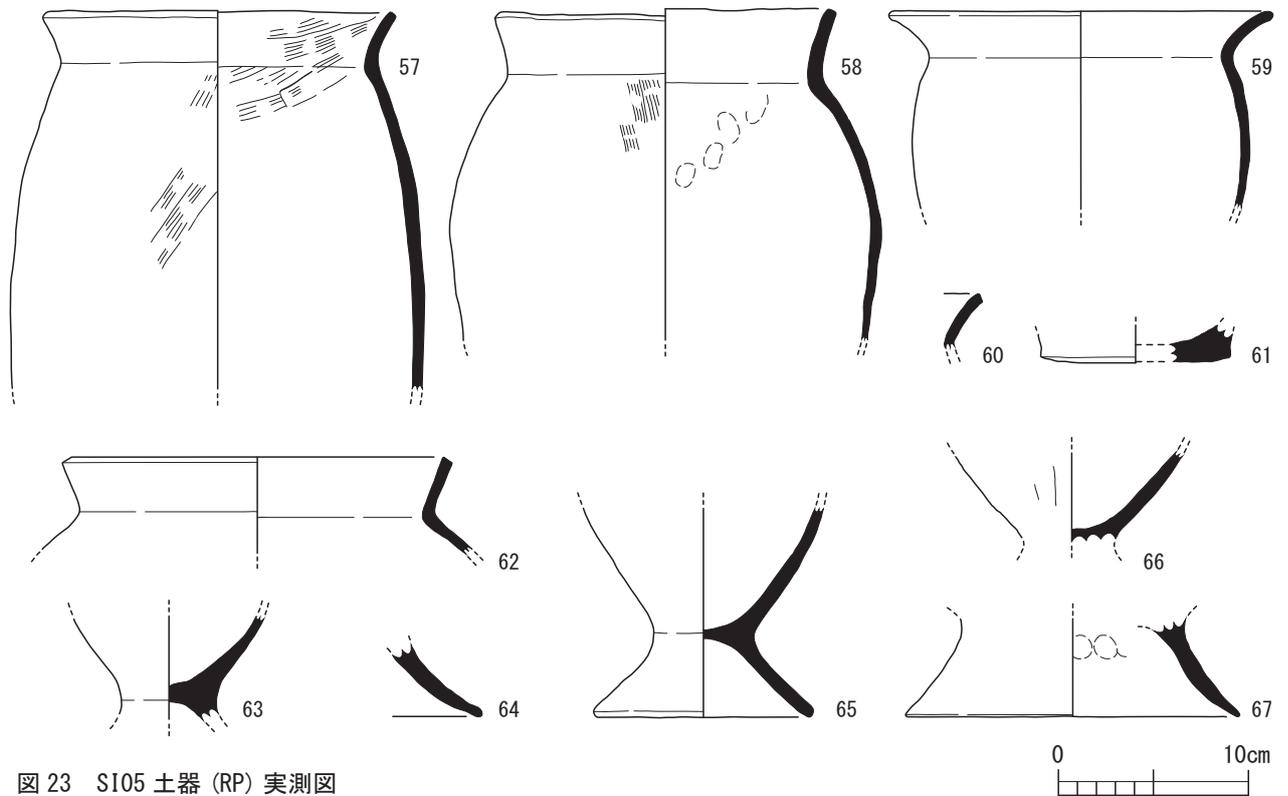


図 23 SI05 土器 (RP) 実測図

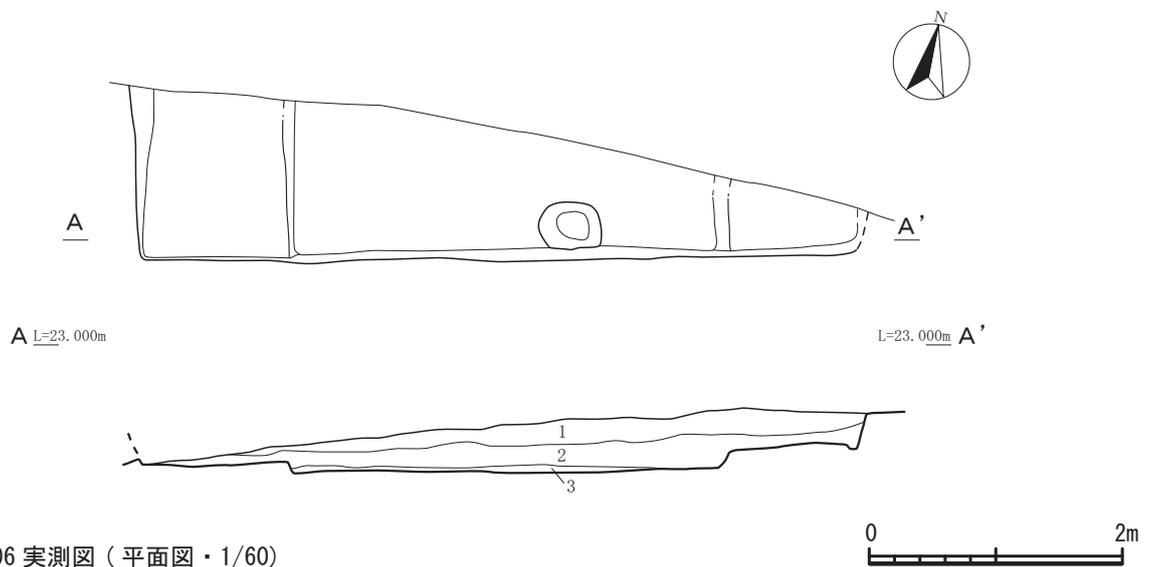


図 24 SI06 実測図 (平面図・1/60)

SI06

SI06 は、方形を呈する竪穴住居跡である。K ピット及びベッド状遺構を備える。この遺構の大部分は調査区外のため調査していない。L10 グリッドに位置する。

SI06 の法量は、南北不明、東西 5.7m、遺構確認面からの深さ 50cm を測る。

支柱穴、炉は調査区外に位置し、未調査である。

K ピットは隅丸方形を呈し、南側壁に接して、その

中央から東に位置する。深さは 10 cm を測り、底部は平坦に、斜面は緩やかに掘りくぼめられている。K ピットの支柱は確認されていない。

ベッド状遺構は東側壁、西側壁に沿って設置されている。その上面幅は、西側壁に沿う部分では 110 cm、東側壁に沿う部分では 100 cm を測る。

側壁溝は東側壁に沿って設置されている。なお、この側壁溝は、土層断面図では東側壁際に表現されてい

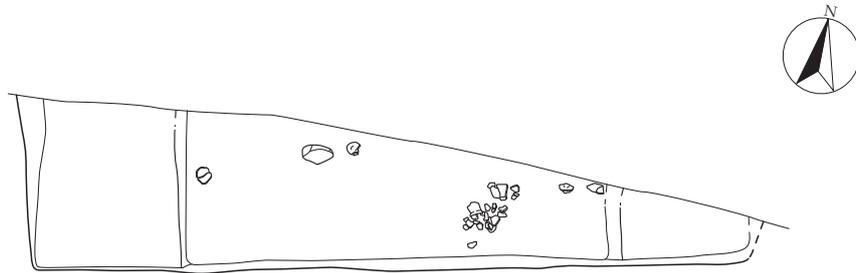


図 25 SI06 実測図 (遺物出土状況・1/60)

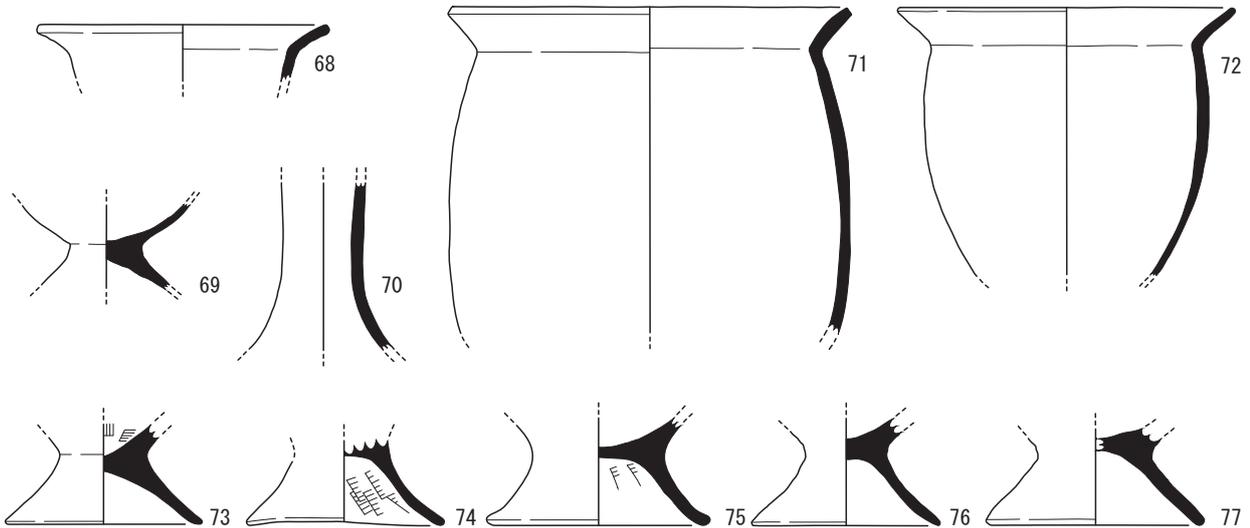


図 26 SI06 土器 (RP) 実測図

るが、平面図には表現されていない。当該部は調査面積が特に狭くなるため平面図に表現できなかったものと推量し、ここでは土層断面図の表現を採用した。

床に硬化面が形成されていたか否かは不明である。

床面では1箇所赤色顔料が検出されている。赤色顔料は塊状で検出されたが、その位置は逸失された。

Kピットでは土器片が集中した状態で出土した。

甕、高坏、鉢等の破片が出土している。

以下に土層註記を記す。

1: 10YR4/4 褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性、しまり共にある。極小大～5mm大の粒状、ブロック状の黄褐色の土が少し入っている。

2: 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土。きめは細かく、粘性が少しあり、1より硬くしまっている。1と同じ黄褐色土に加え、極小大の砂粒を多く含んでいる。大きめの土器片が多量に入っている。

3: 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土。基本的に2と同じだが、やや粘性が2より強い。しまりも若干2より弱い。

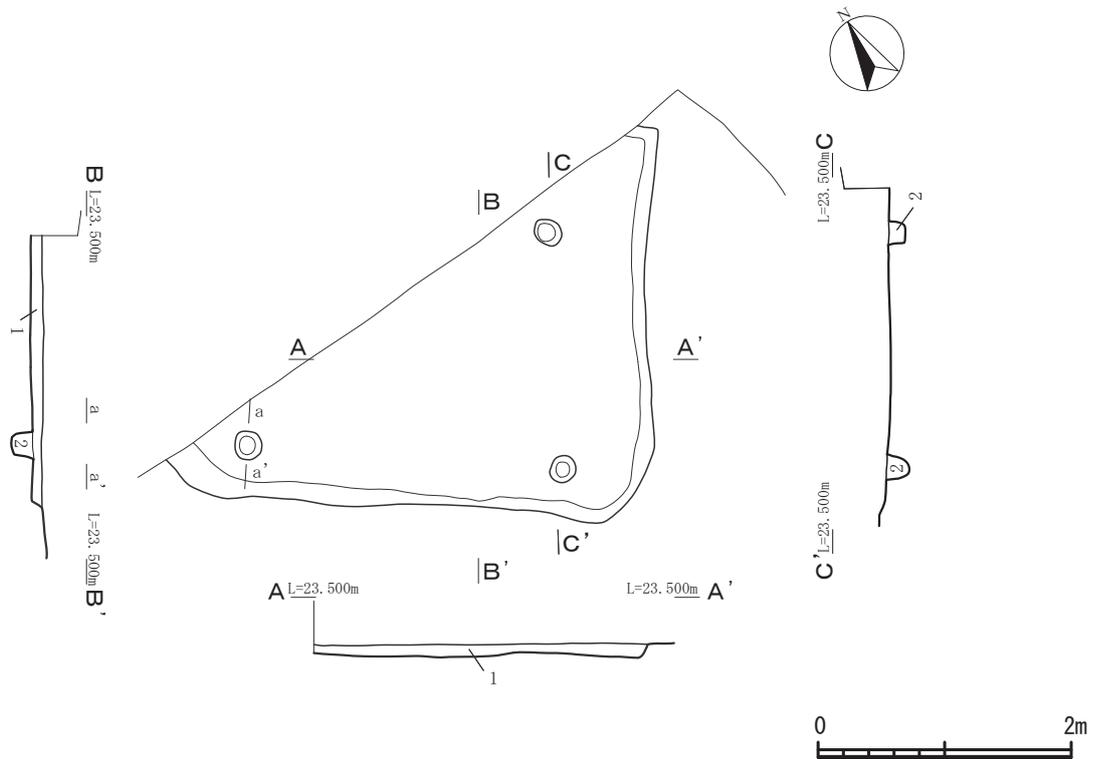


図 27 SI07 実測図 (1/60)

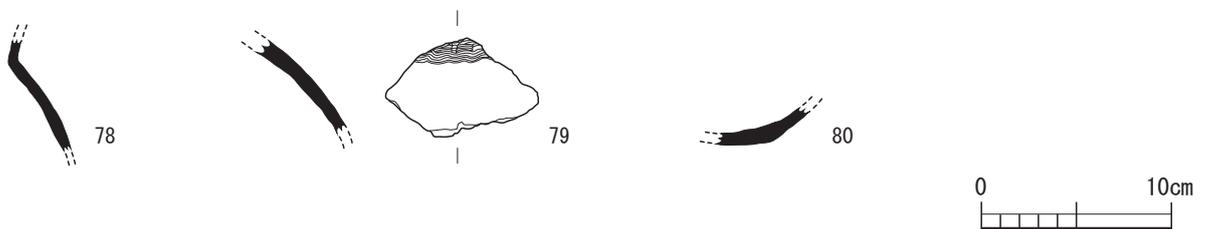


図 28 SI07 土器 (RP) 実測図

SI07

SI07は、方形を呈する4本柱建て堅穴住居跡である。炉、Kピット、ベッド状遺構等は検出されていない。北西部は調査区外にあり、北東隅を攪乱墳に破壊されている。V24グリッドに位置する。

SI07の法量は、南北不明、東西4.0m、遺構確認面からの深さ10cmを測る。

主柱穴は、北東、南西、南東隅に位置する3基を検出したが、2×2の計4基に復元することができる。いずれの主柱穴も、直径20cm程度、床面からの深さ15cmを測り、暗褐色シルトの埋土には焼土粒が少量含まれている。

炉、Kピット、ベッド状遺構等、その他の設備は検出していない。

床に硬化面が形成されていたか否かは不明である。

壺破片が出土している。

以下に土層註記を記す。

1：10YR3/3 暗褐色シルト。粘性は少しあり、しまりは良い。床面に0.2～0.4cm大の炭化物粒を10%含む。さらに、10YR3/2 黒褐色土が斑点状に少し混在している。土器も床面を中心に少し出土。

2：10YR3/4 暗褐色シルト。きめは少し細かく、粘性は少し強く、しまりもある。0.2～0.4cm大の焼土粒を少し含む。

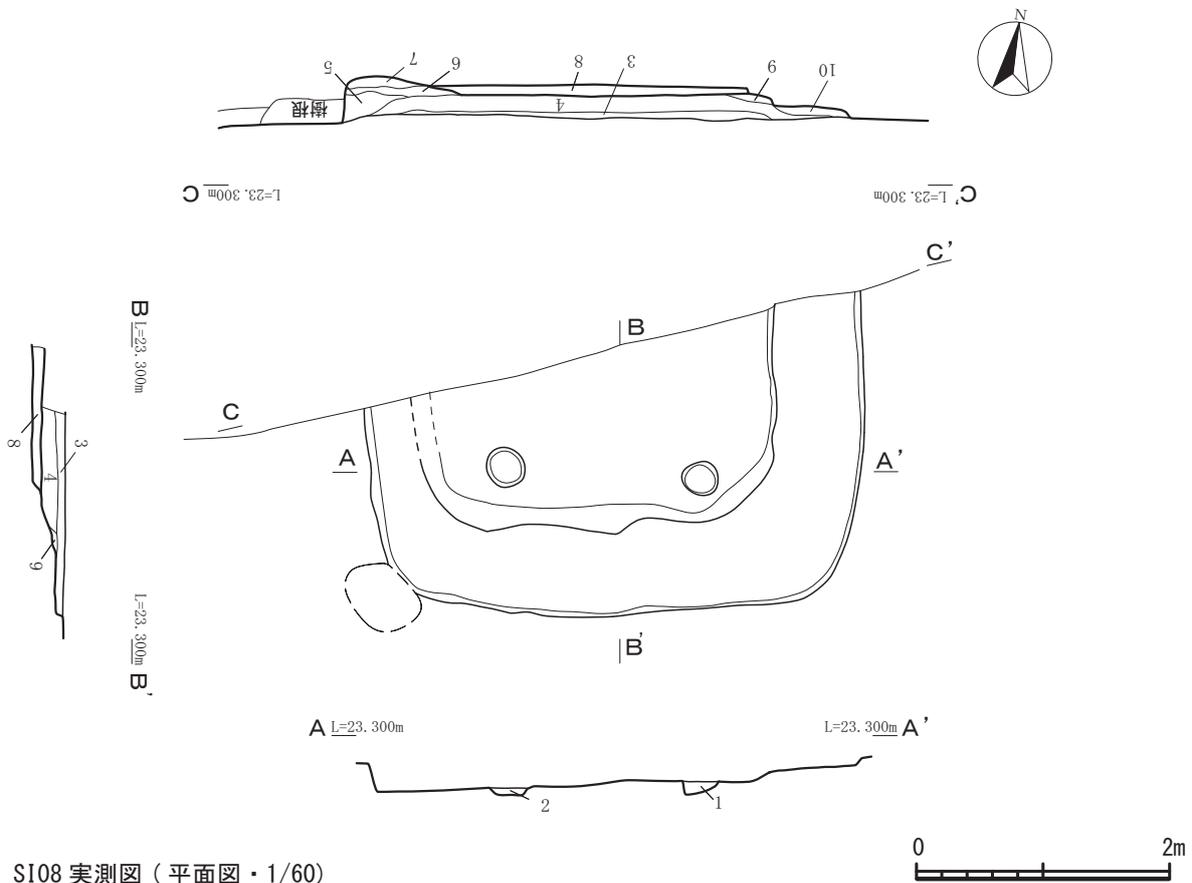


図 29 SI08 実測図 (平面図・1/60)

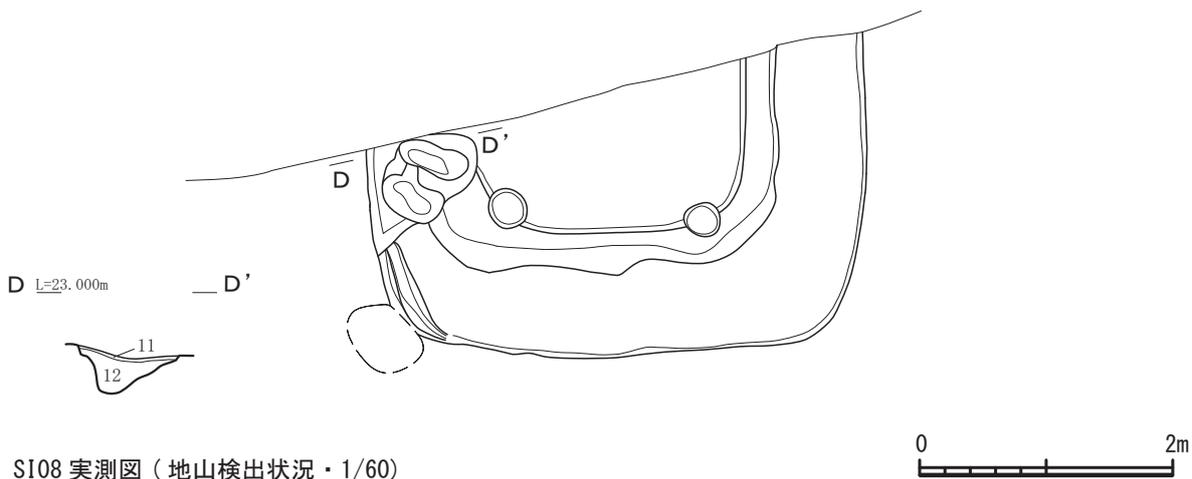


図 30 SI08 実測図 (地山検出状況・1/60)

SI08

SI08は、方形を呈する4本柱建て竪穴住居跡である。ベッド状遺構を備える。この遺構の北半部は調査区外のため調査していない。U23グリッドに位置する。

SI08の法量は、南北不明、東西4.0m、遺構確認面からの深さ30cmを測る。

主柱穴は、南西、南東隅に位置する2基を検出した

が、2×2の計4基に復元することができる。いずれの主柱穴も、直径30cm程度、床面からの深さ5cm程度を測る。

ベッド状遺構は南側壁、東側壁に沿い、接続して設置されている。その上面は幅70cmを測る。なお、現地調査段階では以下の観察をしている。東側のベッド状遺構の一部に貼り床がある。ベッド自体は地山削り

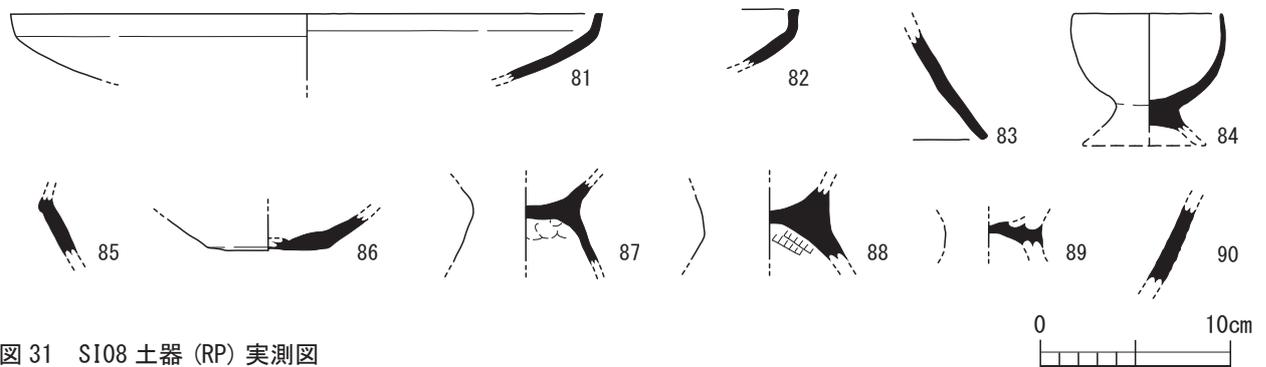


図 31 S108 土器 (RP) 実測図

出しのタイプ。おそらく、ベッドを平坦にするために、部分的に補修したのではないかと考えられる。

南西隅の西側壁際には、側壁溝と同様の溝が走る。

床は貼り床であり、支柱穴の設置箇所より内側を 7 cm 程度掘りくぼめ、暗褐色粘質土を敷き込み、表面を硬化させている。なお、西側壁に接して、平面形が 50 × 20 cm の楕円を呈し床面からの深さ 30 cm 程度の 2 土層で形成された不整形土層が位置する。調査段階では「貯蔵穴」としているが、当該土層の下層 2 層の上端面は床面と同じ高さ、かつ、水平状態であり、その上層以上は当該堅穴遺構のレンズ状堆積を示す層序と変わらない。このことから、この不整形土層は堅穴の掘方開始部分であると理解し、掘方図に編集した。なお、当該土層の類例には、埋置された鏡片が出土した例（上益城郡山都町北中島西原遺跡）、鉄片等を埋納した例（玉名市岱明町下前原遺跡）、壺等を設置した例（阿蘇郡南阿蘇村柏木谷遺跡）等、多様性に富むものであることを付記する。

炉、K ピット等、その他の設備は検出していない。

壺、甕、高坏、鉢等の破片が出土している。

以下に土層註記を記す。

- 1: 10YR3/4 暗褐色シルト。しまりがあり、粘性もある。0.2 cm 大の焼土粒及び炭化物を少し（1%）含む。土器も出土。
- 2: 10YR3/4 暗褐色シルト。しまりがあり、粘性もある。0.2 cm 大の焼土粒及び炭化物を少し（1%）含む。
- 3: 10YR3/1 黒褐色粘質土。粘性は少し強く、しまりが良い。0.2 ~ 0.4 cm 大の焼土粒を 1% 程含む。土器片も少し含む。
- 4: 10YR3/2 黒褐色粘質土。きめは細かく、きれいで、粘性は少し強く、しまりが良い。0.1 ~ 0.3 cm 大の焼

土粒を 1% 程含む。土器片も含む。

5: 10YR2/1 黒色粘質土。粘性が強い、しまりがある。

0.2 cm 大の小礫をわずかに含む。

6: 7.5YR3/3 暗褐色粘質土。粘性は強く、しまりがあり、5 より柔らかい。黒色土と明褐色土が混在する。

7: 7.5YR5/4 にぶい褐色シルト。きめは良く、削ると細かくなり、粘性は少し強く、しまりがある。土器片も出土。

8: 10YR3/3 暗褐色粘質土。粘性は強く、しまりがとても良く、叩きしめた感じがする。黒色土が粒状に少し混ざる。0.1 ~ 0.2 cm 大の焼土粒を 1% 程含む。この土の表面は硬くしまっていて、床面として貼り床がされている。土器も少し出土。

9: 10YR4/2 灰黄褐色シルト。粘性は少しあり、しまりもある。表面は硬くしまっている。

10: 10YR4/3 にぶい褐色シルト。きめは細かく、きれいで、他の埋土より柔らかく、粘性も少しあり、しまりもある。

11: 7.5YR3/3 暗褐色粘質土。粘性が強く、しまりもあり、5 より柔らかい。黒色土と明褐色土が混在する。

12: 10YR2/1 黒色粘質土。流れ込んだままのふわふわの土で、粘性が強く、しまりは弱い。粒状の褐色土を 1% 程含む。

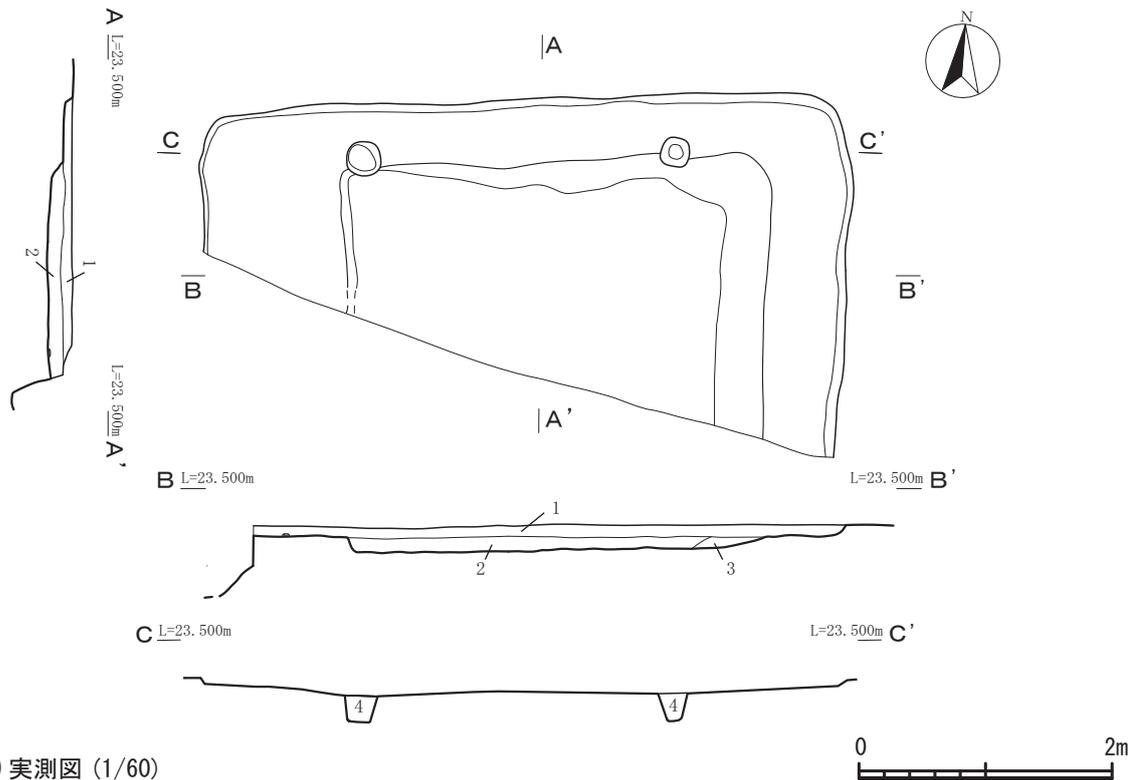


図 32 SI09 実測図 (1/60)

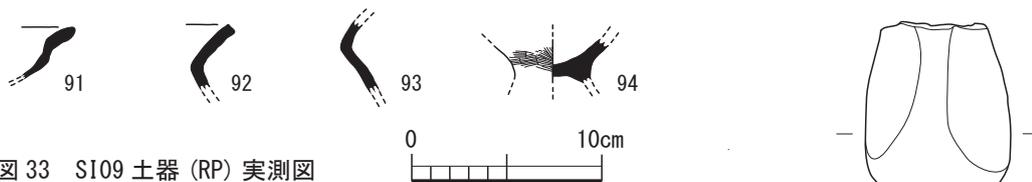


図 33 SI09 土器 (RP) 実測図

SI09

SI09は、方形を呈する4本柱建て竪穴住居跡である。ベッド状遺構を備える。SI09の南半部は、後代の道路に切られている。W23グリッドに位置する。

SI09の法量は、南北不明、東西5.3m、遺構確認面からの深さ20cmを測る。

主柱穴は、北西、北東隅に位置する2基を検出したが、2×2の計4基に復元することができる。いずれの主柱穴も直径25cm程度、床面からの深さ20cm程度を測る。北側壁に沿ったベッド状遺構の上面端部、東西側壁からは1.2m内側に位置している。

ベッド状遺構は北側壁、東側壁、西側壁に沿い、連続して設置されている。その上面幅は、西側壁に沿う部分では110cm、北側壁に沿う部分では40cm、東側壁に沿う部分では60cmを測る。ただし、ベッド状遺構の下端部では西側壁、東側壁に沿うベッド状遺構は同程度の幅となる。

床に硬化面が形成されていたか否かは不明である。

炉、Kピット等、その他の設備は検出していない。

甕、高坏等の破片が出土している。

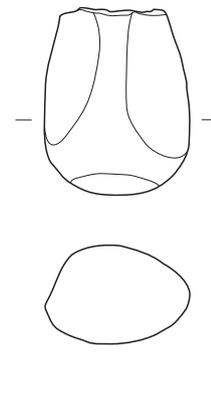


図 34 SI09 石器 (RQ) 実測図

以下に土層註記を記す。

1 : 10YR2/1 黒色シルト。粘性、しまり共にある。0.2～1cm大の石英などの小礫を少し(10%)含む。土器も出土。

2 : 7.5YR3/2 黒褐色シルト。7.5YR4/4 褐色シルトが下層に多く(30%)見られる。両方ともしまりがあり、粘性も少しある。0.3～0.5cm大の焼土粒を1%程含む。0.4cm大の炭化物粒を1%程含む。土器も出土している。

3 : 7.5YR4/4 褐色シルト。粘性が少しあり、しまりもある。0.2～0.4cm大の焼土粒を1%程含む。2より少し柔らかい土。

4 : 10YR3/3 暗褐色シルト。きめは少し細かく、粘性、しまり共にある。0.2cm大の焼土粒を少し(1%)含む。

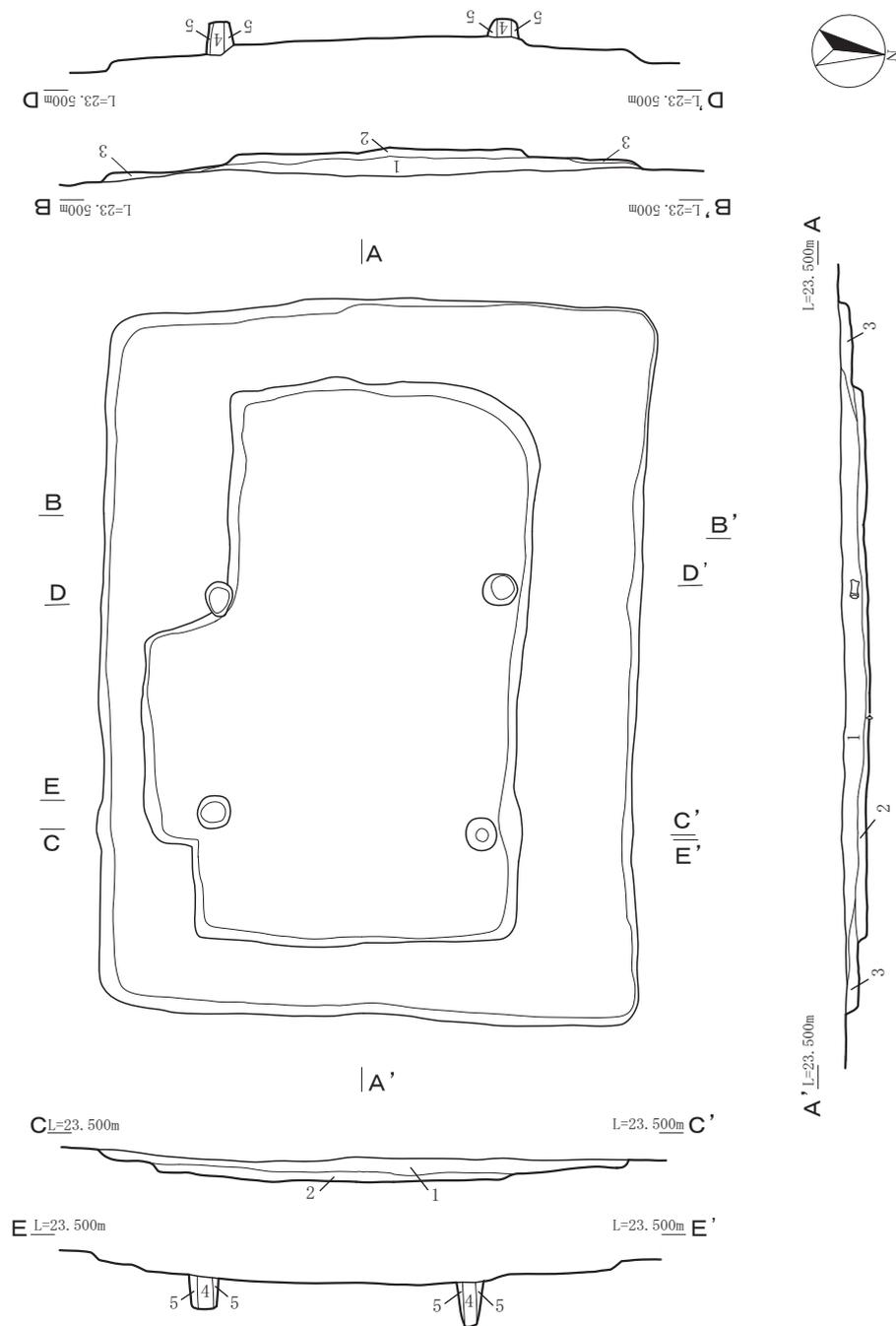


図 35 SI10 実測図 (1/60)

SI10

SI10 は、長方形を呈する 4 本柱建て堅穴住居跡である。ベッド状遺構を備える。T20 グリッドに位置する。

SI10 の法量は、南北 4.4m、東西 6.0m、遺構確認面からの深さ 20cm を測る。

主柱穴は、2 × 2 の計 4 基を検出した。いずれの主柱穴も、柱痕跡が残存した土層断面を確認している。各主柱穴はベッド状遺構の端部に位置し、主柱穴を結

ぶ東西方向の軸線は堅穴住居の南北側壁と平行である。なお、南北方向の軸線は北に向かって開く。4 基の主柱穴は堅穴住居の東側に偏って配置されているが、西側壁に沿ったベッド状遺構の幅を減じれば、主柱穴群は堅穴住居中央の配置となる。

ベッド状遺構は、堅穴住居の側壁全周に接続して設置されている。その上面幅は、西側壁に沿う部分では 70 cm、北側壁に沿う部分では 90 cm、東側壁に沿う部分では 60 cm を測る。南側壁に沿うベッド状遺構は幅

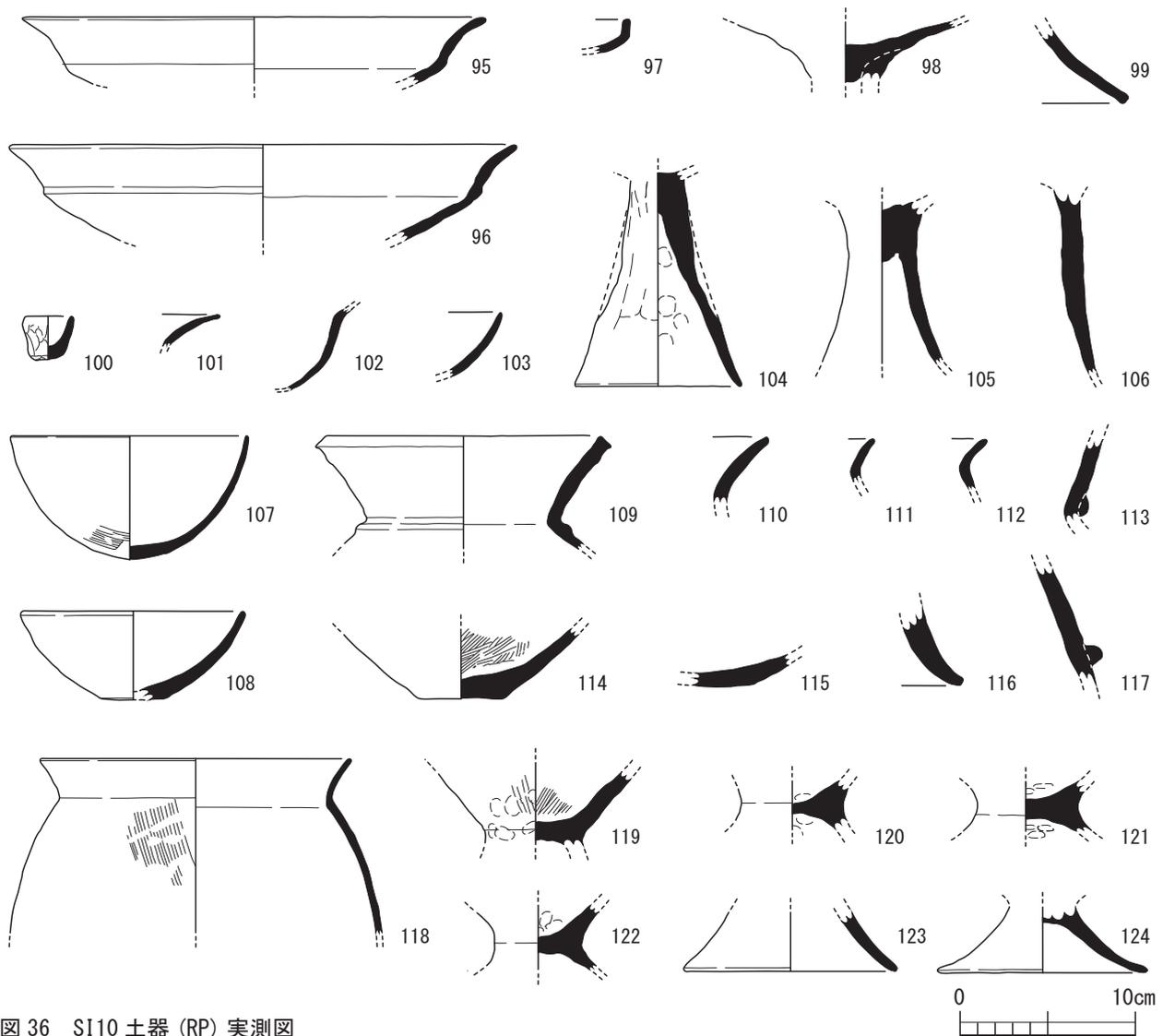


図 36 SI10 土器 (RP) 実測図

95 cmを測るが、南西支柱穴から南東支柱穴の間では幅 30 cmと狭くなる。前述のとおり各辺のベッド状遺構は接続しているが、その高さは一様ではない。北側壁に沿う部分が最も低く、西側壁に沿う部分は 3 cm程度、東側壁に沿う部分では 6 cm程度高くなり、最も高い南側壁に沿う部分では 10 cmの差が生じる。なお、南側壁に沿うベッド状遺構の高さは、南西支柱穴から南東支柱穴の間では 3 cm程低くなっている。

炉、Kピット等、その他の設備は検出していない。

床に硬化面が形成されていたか否かは不明である。

なお、この竪穴住居は、支柱穴の配置及びベッド状遺構の高さの変化から元来正方形を呈した竪穴住居を、その西側に向かってベッド状遺構分の幅で増築した例であると考えられる。

以下に土層註記を記す。

1 : 10YR2/1 黒色粘質土。粘性が強く、しまりも良い。

0.2 ~ 1 cm大の焼土粒を 5%含む。また、0.1 ~ 0.6 cm大の炭化物粒を 3%含む。2との境界に塊が少しあり、土器も多く出土している。住居が埋まる途中で捨てた可能性がある。

2 : 10YR3/3 暗褐色粘質土。粘性が少し強く、しまりもある。7 : 3の割合で黒色土も混在する。また、0.2 ~ 0.5 cm大の焼土粒を 3%程、0.2 cm大の炭化物粒も 10%程含む。

3 : 10YR3/4 暗褐色シルト。他の埋土より、少しふわふわで粘性があり、しまりもある。

4 : 10YR3/3 暗褐色シルト。粘性が少しあり、しまりもある。0.2 cm大の焼土粒を少し含む。

5 : 柱痕よりも、しまりが良い。0.2 ~ 0.6 cm大の小礫を 10%程度含む。

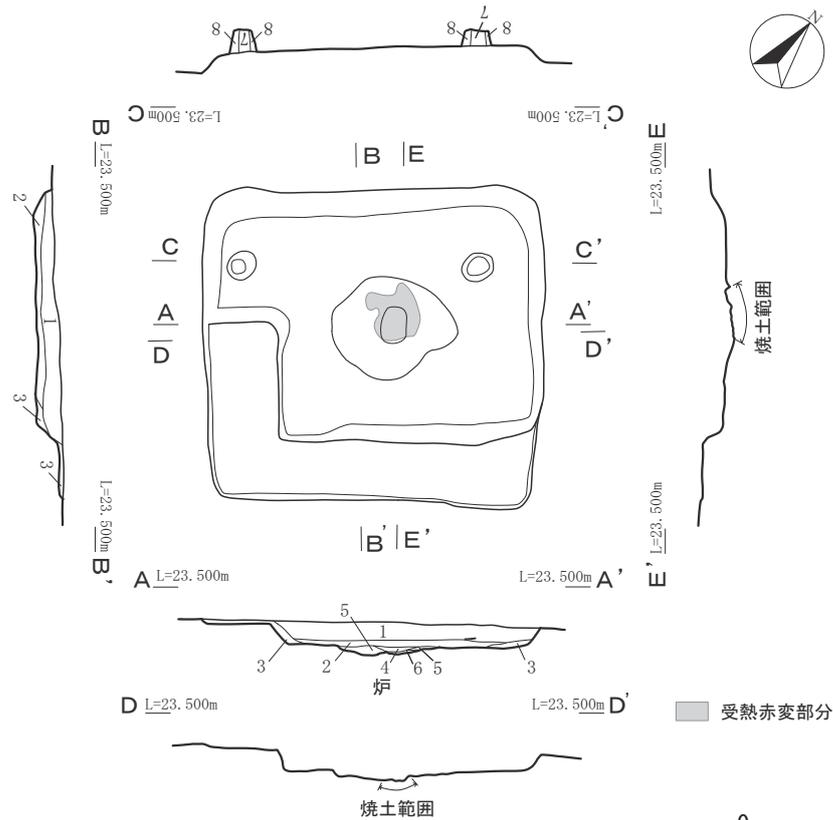


図 37 SI12 実測図 (平面図・1/60)

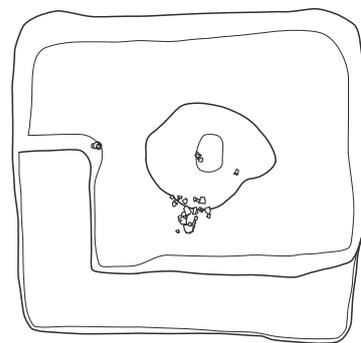


図 38 SI12 実測図 (遺物出土状況・1/60)

SI12

SI12 は、正方形を呈する 2 本柱建て竪穴住居跡である。炉及びベッド状遺構を備える。R18 グリッドに位置する。

SI12 の法量は、南北 2.6m、東西 2.7m、遺構確認面からの深さ 20cm を測る。

主柱穴は 2 基検出した。各主柱穴は、直径 25 cm 程の円形の平面プランを呈し、床面からの深さ 20 cm を測る。いずれの主柱穴も、柱痕跡が残存した土層断面を確認している。西主柱穴は西側壁際に位置し、東主柱穴は東側壁から 25 cm 内側にある。両主柱穴は北側壁からは 25 cm 内側に位置し、両主柱穴を結ぶ東西方向の軸線は竪穴住居の南北側壁と平行である。この軸線の中央より東の位置に、軸線に北接して炉が設置さ

れている。

炉は、直径 80cm の円形を呈し、深さは 7cm 程度である。炉底は皿形に掘りくぼめられ、埋土には焼土粒、炭化物が含まれ、炉底は固く焼き締り、受熱により赤変していた。

ベッド状遺構は、竪穴住居の南側壁及び西側壁南半に接続して設置されている。その上面幅は、南側壁に沿う部分では 50 cm、西側壁に沿う部分では 60 cm を測る。西側壁に沿うベッド状遺構は、炉の中心の東西軸線上で途切れる。

床に硬化面が形成されていたか否かは不明である。

以下に土層註記を記す。

1 : 10YR3/3 暗褐色シルト。粘性が少しあり、しまりは良い。0.2 ~ 1 cm 大の焼土粒を 3%、0.2 ~ 0.4 cm

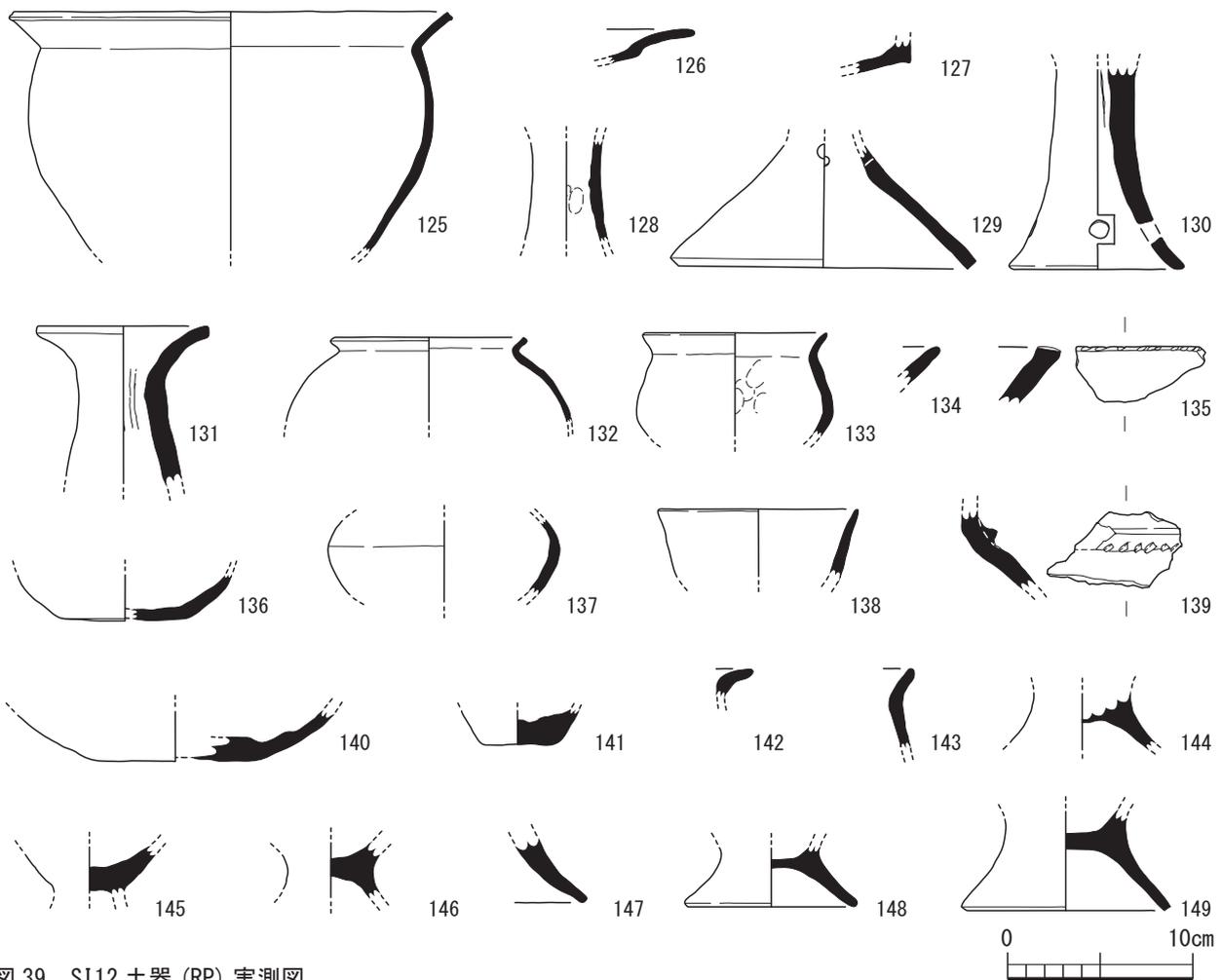


図 39 SI12 土器 (RP) 実測図

大の炭化物粒を 1% 程含み、0.1 cm 大の白色粒子が 5% 程全体に広がっている。土器片も出土している。

2: 10YR3/2 黒褐色シルト。粘性、しまり共にある。

0.2 ~ 0.5 cm 大の焼土粒が 3%、1 ~ 2 cm 大の炭化物ブロックが 5% 程、炉跡の上に集中している。土器片も出土。

3: 10YR4/3 暗褐色シルト。粘性、しまり共にある。肩部に流れ込んだ土で、地山と似ているが、若干柔らかい。

4: 10YR2/3 黒褐色シルト。粘性が少しあり、しまりもある。0.2 ~ 0.4 cm 大の焼土粒を 5% 程含み、下層に集中して 1.0 ~ 3.0 cm 大の焼土ブロックを 2 つ含み、0.2 ~ 0.4 cm 大の炭化物を 1% 程含む。

5: 10YR3/3 暗褐色シルト。粘性が少しあり、しまりもある。0.2 ~ 0.4 cm 大の焼土粒と 0.2 cm 大の炭化物粒を 1% 程度、さらに 1.0 ~ 6.0 cm 大の炭化物ブロックが 7% 程、炉状面の外線部に広がる。

6: 焼成部。明褐色土。しっかりと硬く、焼きしまつ

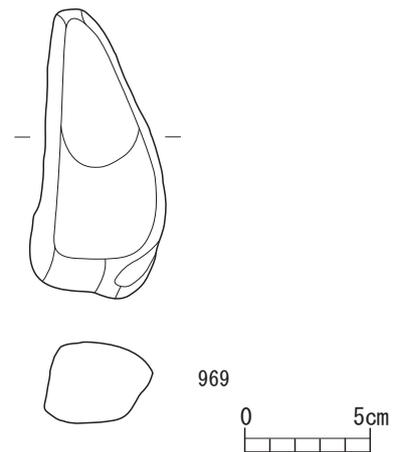


図 40 SI12 石器 (RQ) 実測図

ている。

7: 10YR3/3 暗褐色粘質土。粘性が強く、しまりもある。0.2 ~ 0.5 cm 大の焼土粒を少し含む。褐色土が少し (10%) 混在する。

8: 10YR3/4 暗褐色のシルト。粘性、しまり共にあり、内側より硬い。

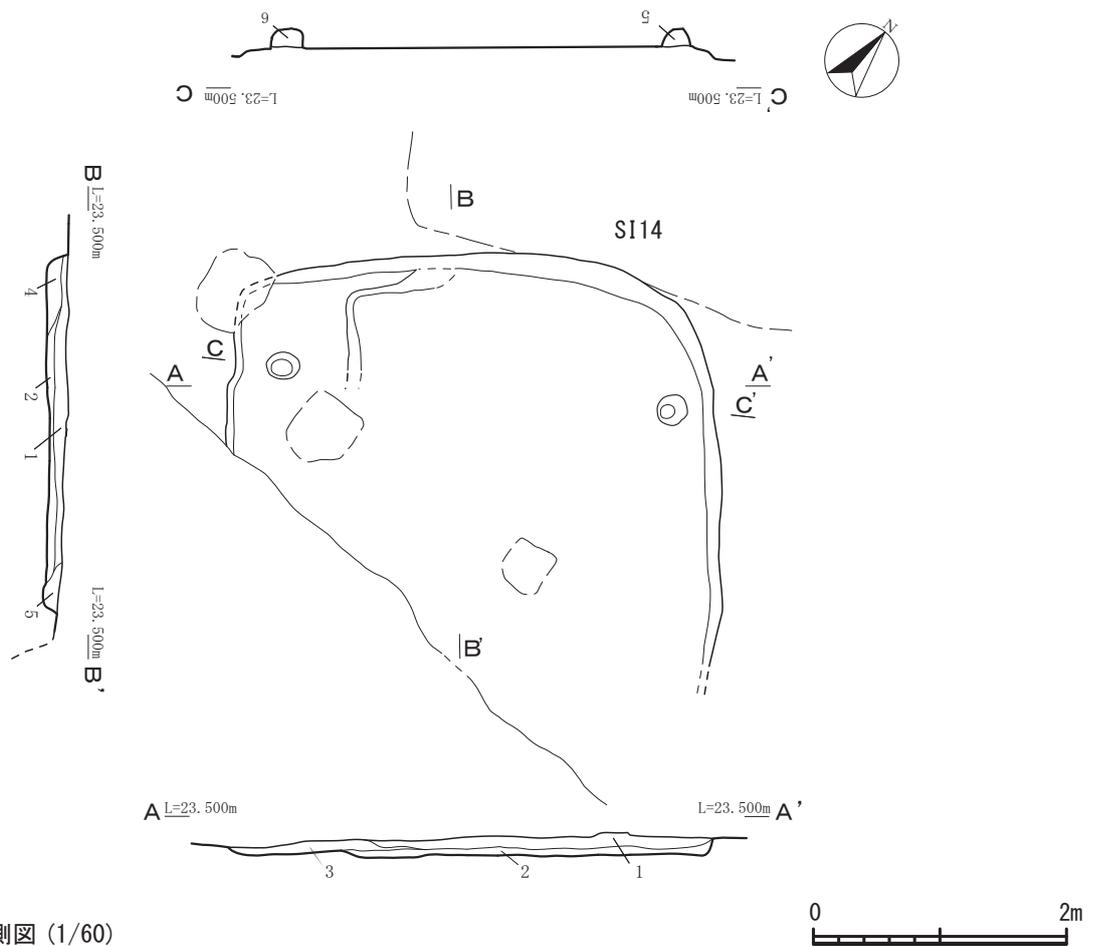


図 41 SI13 実測図 (1/60)

SI13

SI13は、方形を呈する4本柱建て竪穴住居跡である。ベッド状遺構を備える。SI13の北東隅はSI14を切り、SI13の南半部は後代の道路に切られている。R16グリッドに位置する。

SI13の法量は、南北不明、東西3.9m、遺構確認面からの深さ20cmを測る。

主柱穴は、北西、北東隅に位置する2基を検出したが、2×2の計4基に復元することができる。各主柱穴は、直径20cm程の円形の平面プランを呈し、床面からの深さ15cmを測る。北西主柱穴はベッド状遺構の中、西側壁から20cm内側に、北東主柱穴は東側壁から10cm内側に位置し、両主柱穴を結ぶ軸線は北側壁と平行ではない。

ベッド状遺構は、北西隅において西側壁に沿って設置されている。ベッド状遺構の上面幅は85cmを測り、その北端部は東に向かい角状に突出している。

炉、Kピット等、その他の設備は検出していない。

床に硬化面が形成されていたか否かは不明である。

SI13からは多量の土器がローリングを受けた状態

で出土している。この状況は隣接するSI14でも同様である。このため、調査者は、隣接するSI13、SI14の出土遺物は後代の耕作により攪拌され混在している、と現地判断している。

以下に土層註記を記す。

1: 10YR3/2 黒褐色シルト。粘性、しまり共にある。0.2cm大の白色粒子を全体的に3%程含んでいる。土器片が非常に多く出土している。

2: 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト。粘性、しまり共にある。0.2cm大の焼土粒を1%程含む。土器も少し出土している。

3: 1より少ししまりが弱い。土器が少し出土している。

4: 10YR3/3 暗褐色シルト、10YR5/8 黄褐色シルト。暗褐色シルトと黄褐色シルトが8:2の割合で混在している。土質は、しまり、粘性共にある。しかし、他の埋土に比べ、少し柔らかく、最初に流れ込んだ土と思われる。土器が出土している。

5: 攪乱。竹の根などによって、土が乱れている。

6: 10YR3/2 黒褐色シルト。粘性、しまり共にある。黒色土を少し含む。0.4cm大の焼土粒を少し含む。

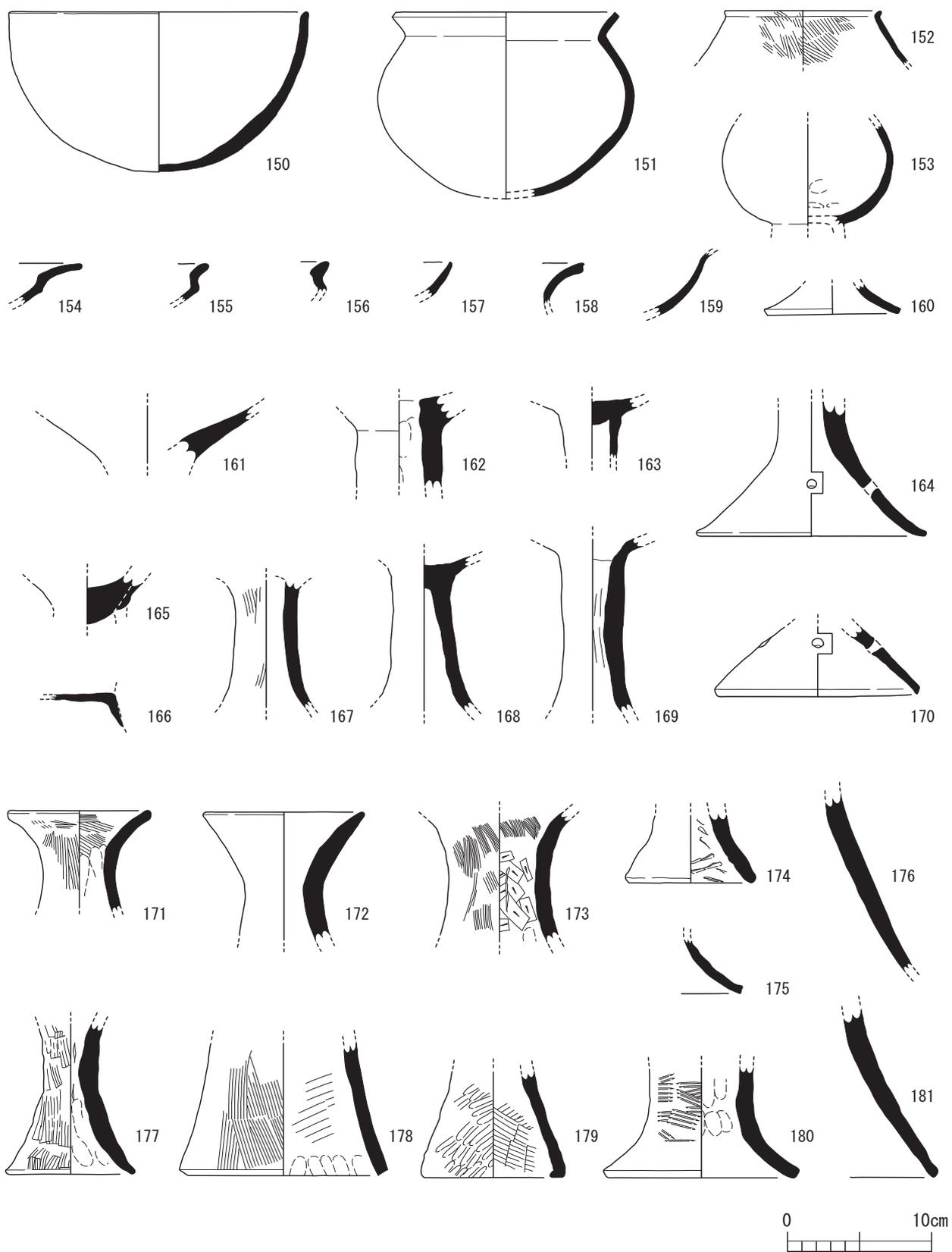


图 42 SI13 土器 (RP) 实测图

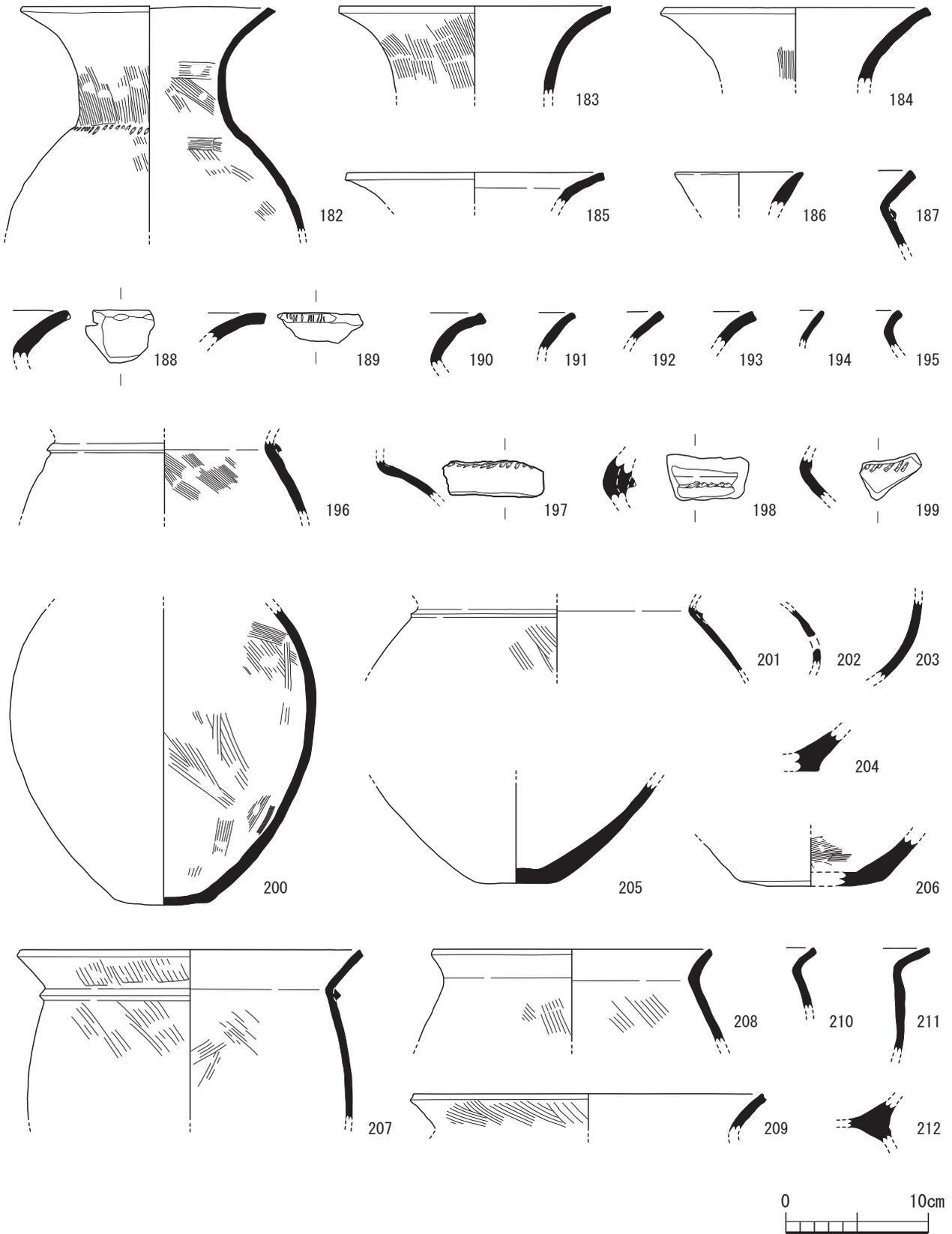


图 43 SI13 土器 (RP) 实测图

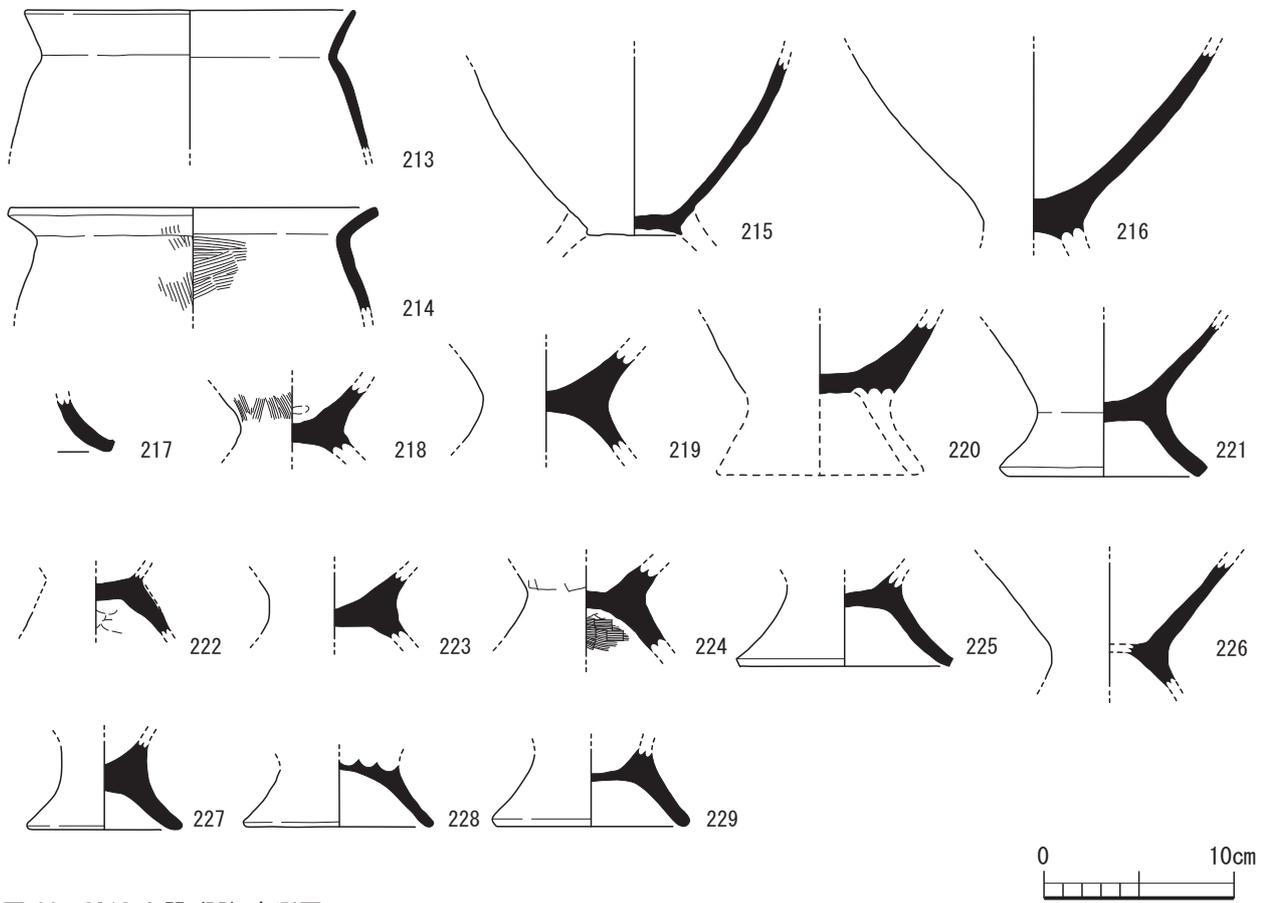


图 44 SI13 土器 (RP) 实测图

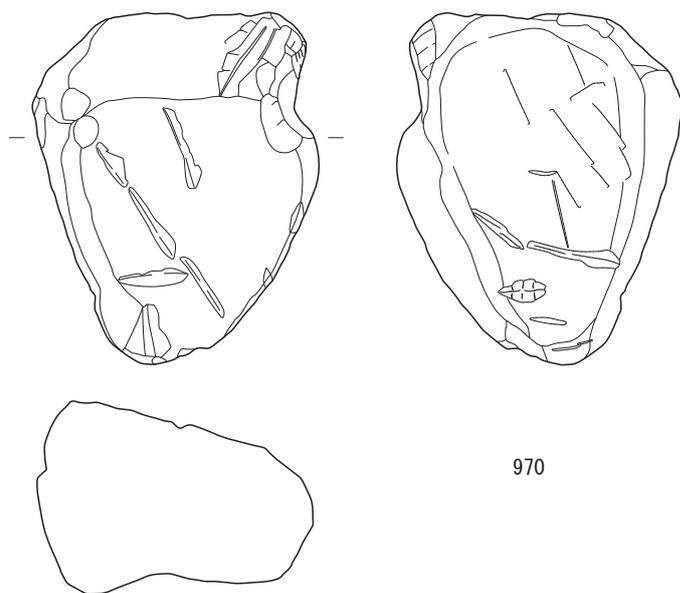


图 45 SI13 石器 (RQ) 实测图

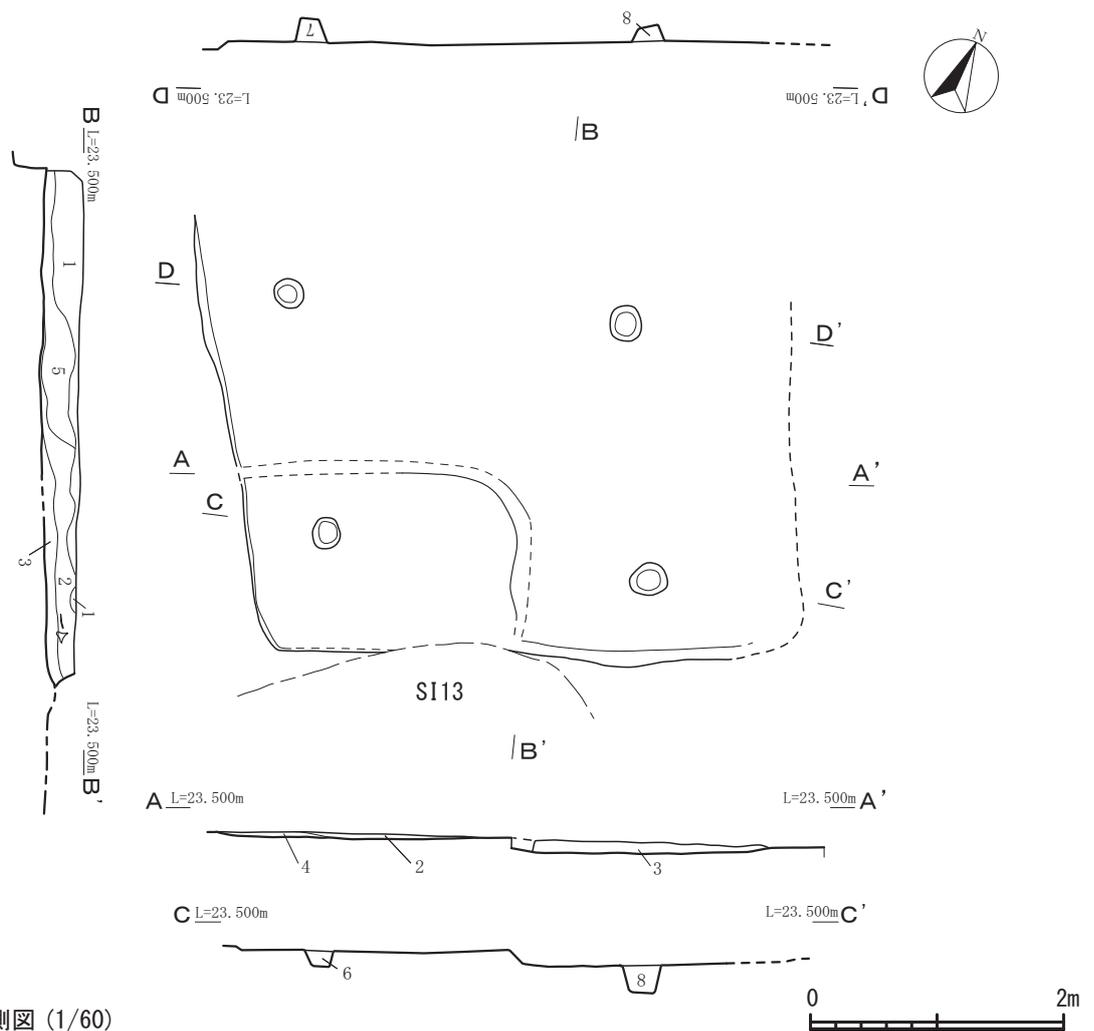


図 46 SI14 実測図 (1/60)

SI14

SI14は、方形を呈する4本柱建て竪穴住居跡である。ベッド状遺構を備える。SI14の北東隅はSI13に切られ、SI14の西半部はSI19を切っている。Q17グリッドに位置する。

SI14の法量は、南北不明、東西4.5m、遺構確認面からの深さ25cmを測る。

主柱穴は、2×2の計4基を検出した。各主柱穴は、直径20cm程度の円形の平面プランを呈し、深さ15cm程度である。北西主柱穴と南西主柱穴、北東主柱穴と南東主柱穴を結ぶ軸線は、竪穴住居の西側壁と平行に位置し、4主柱穴を結び形成される方形は平行四辺形を呈する。

ベッド状遺構は、南西隅において南側壁に沿って設置されている。ベッド状遺構の上面幅は1.4mを測り、竪穴住居の中央部で途切れている。

炉、Kピット等、その他の設備は検出していない。

床に硬化面が形成されていたか否かは不明である。

SI14からは多量の土器がローリングを受けた状態で出土している。この状況は隣接するSI13でも同様である。このため、調査者は、隣接するSI13、SI14の出土遺物は後代の耕作により攪拌され混在している、と現地判断している。

以下に土層註記を記す。

1: 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト。現代の耕作に伴う溝の跡である。粘性が少し強く、しまりは少し弱い。全体的にぼさぼさした土で、白色粒子や0.5～1.0cm大の小礫を少し含む。

2: 10YR3/2 黒褐色シルト。粘性が少し強く、しまりもある。0.1cm程の礫や長石などの白色粒子を全体に含む。0.2cm大の焼土粒を少し(10%)含む。土器を非常に多く含む。

3: 10YR3/3 暗褐色シルト。粘性が少し強く、しまりもある。0.1～0.2cm大の石英や長石などの白色粒子を全体に含む。0.2cm大の焼土粒を少し(10%)含む。土器も少し含む。



図 47 SI14 土器 (RP) 実測図

4 : 3 より少しやわらかく、土のきめが少し細かい。

5 : 攪乱。しまりは弱く、ぼさぼさした土。現代の畑を作る時、堆肥と混ぜ合わせたようだ。

6 : 10YR3/3 暗褐色シルト。粘性が少し強く、しまり

がある。0.2 cm大の焼土粒を少し (1%) 含む。

7 : 10YR3/4 暗褐色粘質土。粘性が強く、しまりは良く、地の土より柔らかい。土器が出土。

8 : 7.5YR3/4 暗褐色粘質土。粘性が強く、しまりは良い。

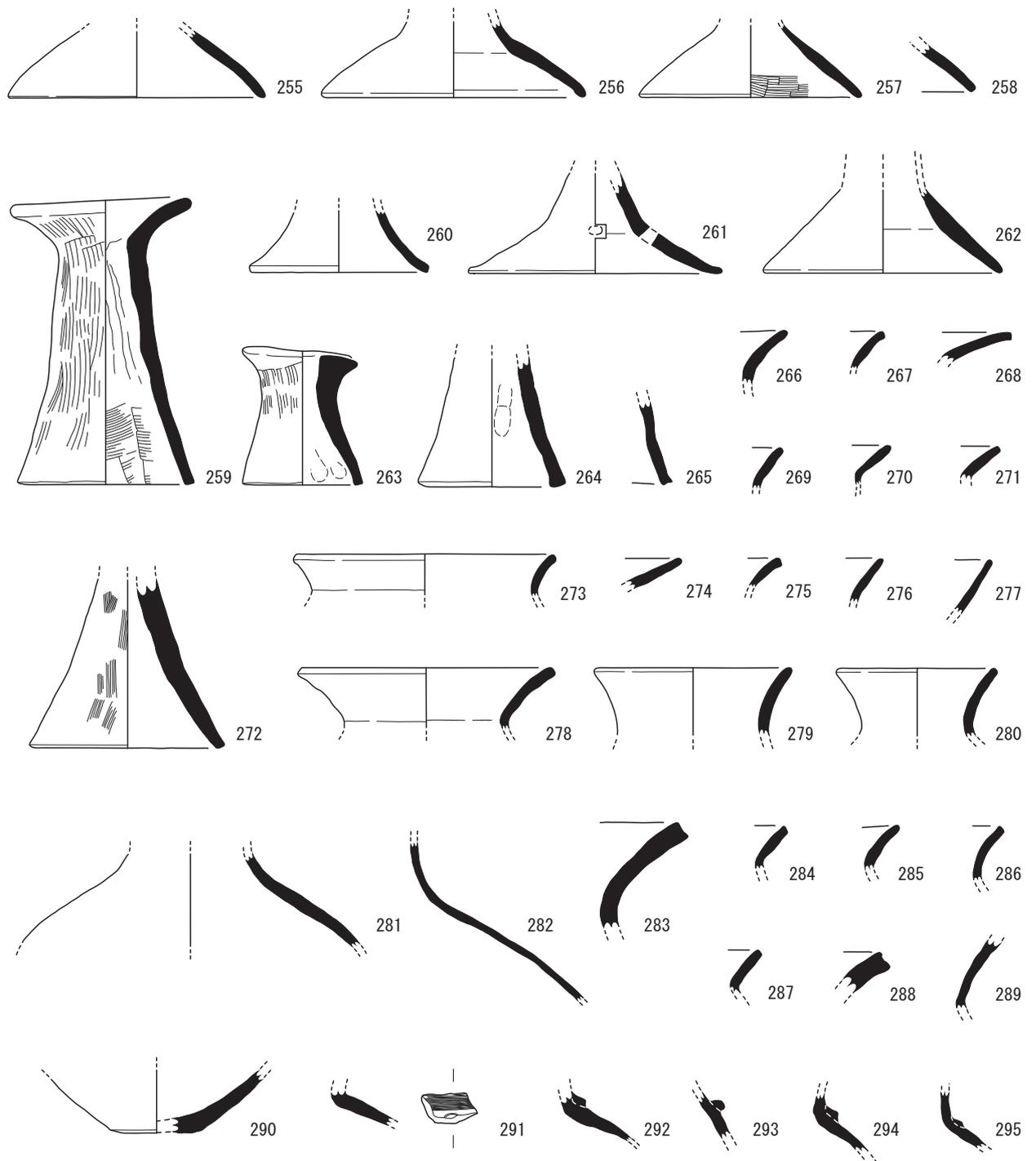


图 48 S114 土器 (RP) 实测图

0 10cm

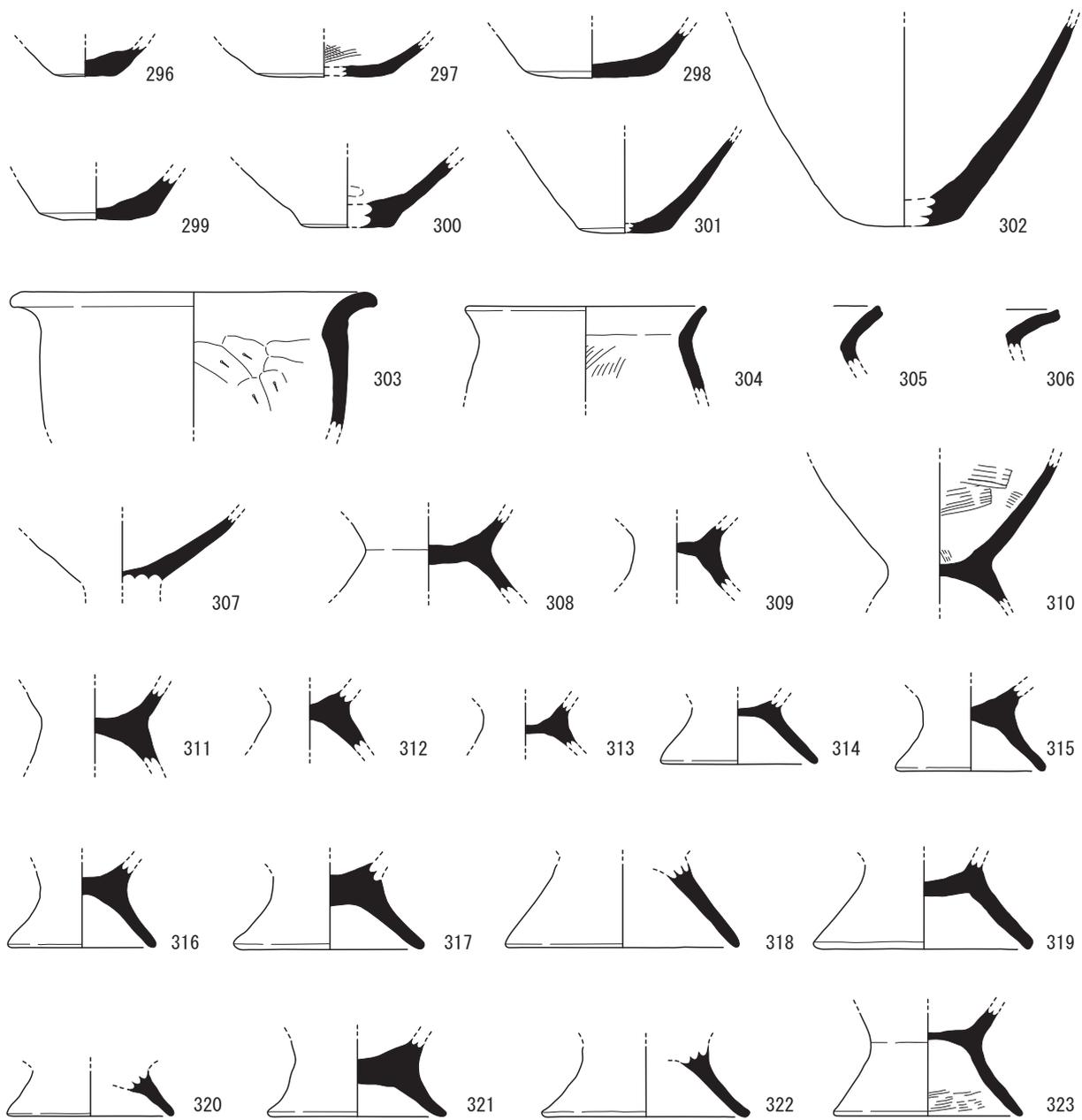


图 49 S114 土器 (RP) 实测图



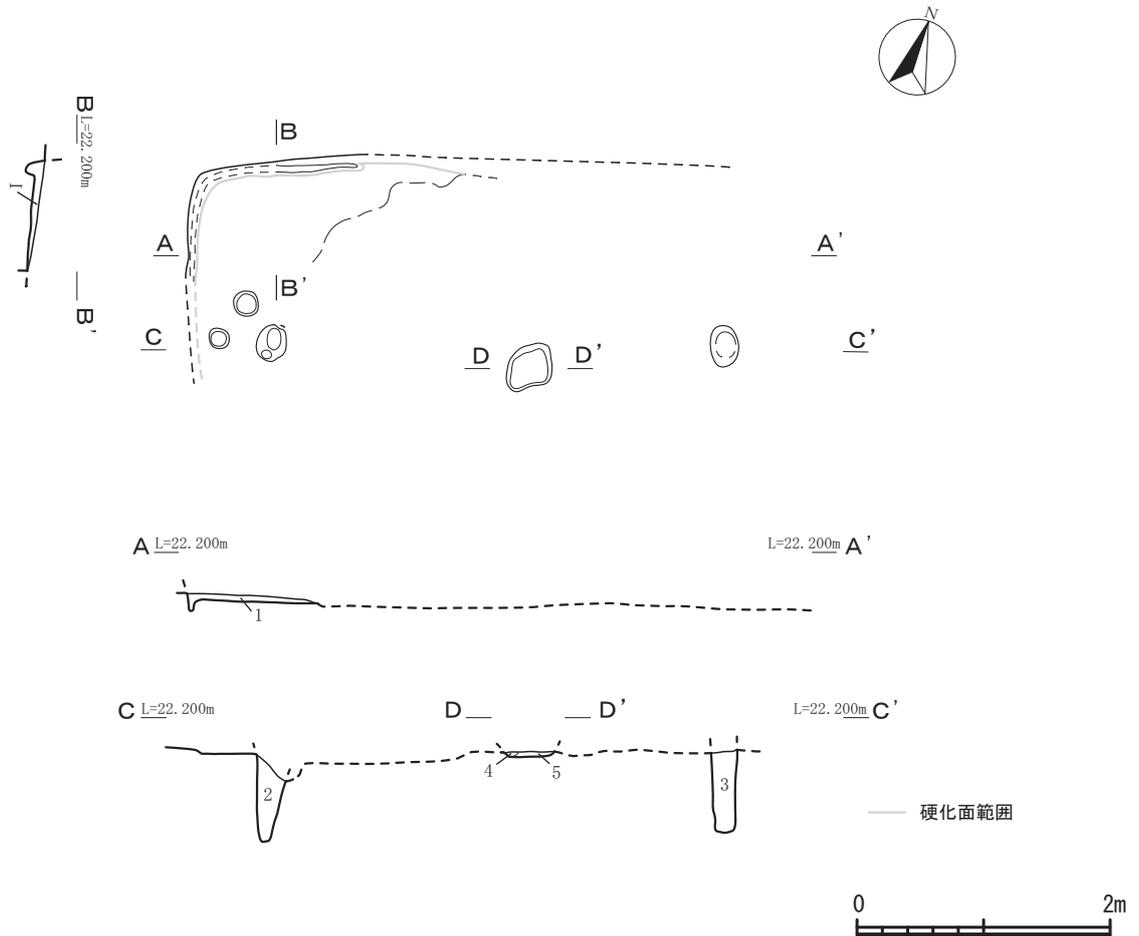


図 50 SI15 実測図 (1/60)

SI15

SI15 は、平面形が不明な 2 本柱建て堅穴住居跡である。炉を備える。その他の設備は未確認である。東側壁には張出部を備える。この遺構は後代の削平を受け、床面の大半が欠失した状態で調査された。08 グリッドに位置する。

SI15 の法量は、南北不明、東西不明、遺構の深さ不明である。

主柱穴は 2 基検出した。各主柱穴は、20 × 30 cm 程の楕円形の平面プランを呈し、確認面からの深さ 65 ~ 70 cm で、ともに内傾している。主柱穴は 3.3m の距離を隔て、主柱穴を結ぶ軸線は堅穴住居の北両側壁に平行である。その軸線の中央より東の位置に、軸線に北接して炉が設置されている。

炉は、南北 35cm、東西 40cm の正方形を呈し、残存する深さは 5cm である。炉底は皿形に掘りくぼめられ、

埋土には大量の炭化物が含まれていた。

床面は、堅穴住居の北西部分に残存していた例が検出されている。この残存する床には、前面に硬化面が形成されていた。なお、硬化面の北端、西端は側壁溝が直角に曲がって位置しており、堅穴住居の北西角部分と認める。また、床面西端と西主柱穴との距離は 40 cm 程度と狭いことから、床面西端の立ち上がりをベッド状遺構の下端と理解することも十分可能である。

土層註記等は記録されていない。

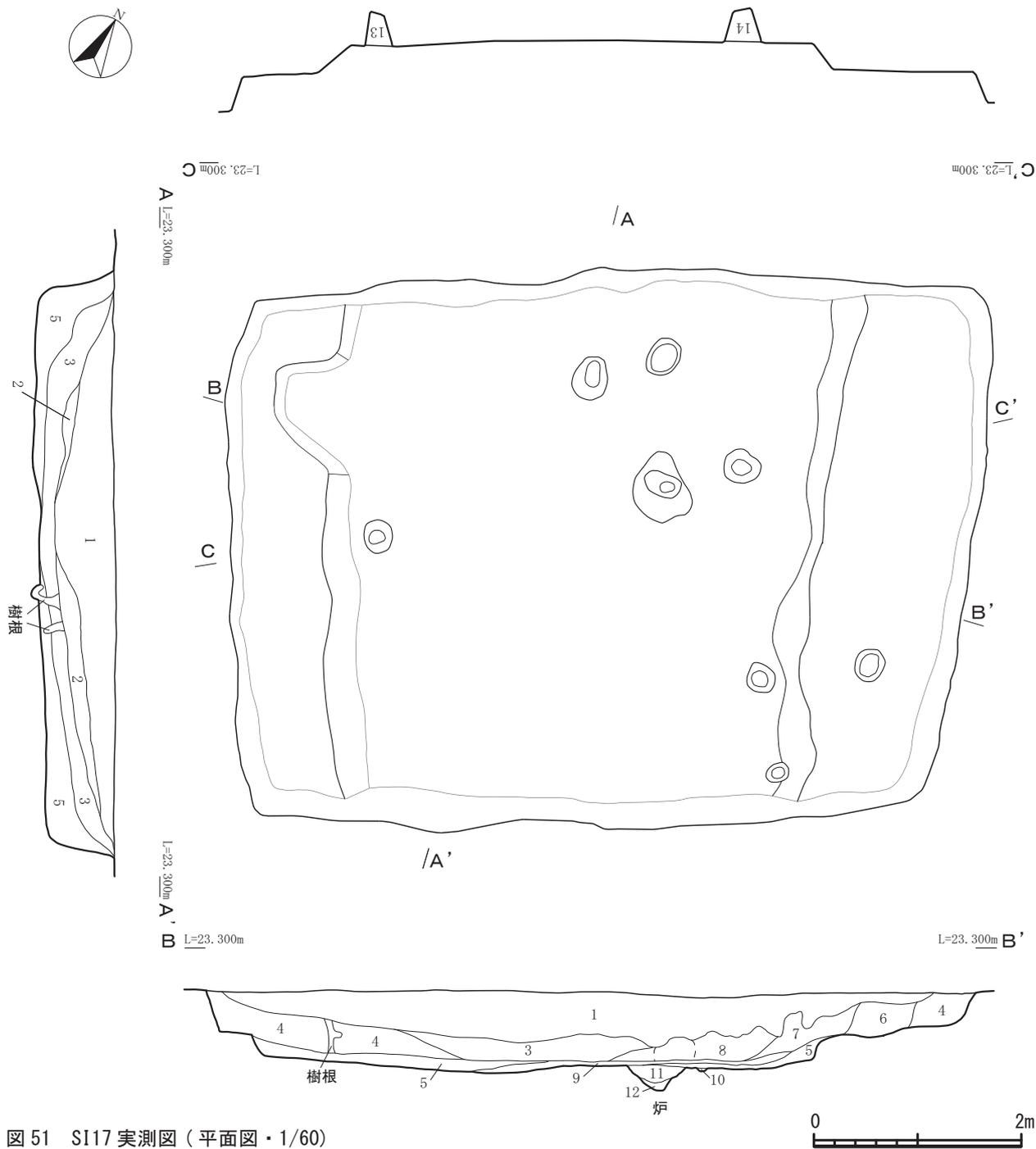


図 51 SI17 実測図 (平面図・1/60)

SI17

SI17 は、長方形を呈する 2 本柱建て竪穴住居跡である。炉及びベッド状遺構を備える。SI17 の北東隅は SI38 を切っている。X30 グリッドに位置する。

SI17 の法量は、南北 5.3m、東西 7.2m、遺構確認面からの深さ 70cm を測る。

主柱穴は 2 基検出した。各主柱穴は、直径 35 cm 程の円形の平面プランを呈し、床面からの深さ 25 cm を測る。西主柱穴は西側ベッド状遺構下端から 15 cm 内側、北側壁からは 210 cm 内側に位置し、東主柱穴は東

側ベッド状遺構下端から 50 cm、北側壁からは 150 cm 内側に位置する。両主柱穴を結ぶ東西方向の軸線は竪穴住居のいずれの側壁とも平行、直行関係をもたない。なお、東主柱穴から 40 cm 西よりの位置に、軸線に北接して炉が設置されている。

炉は、直径 50cm の不整な円形を呈し、深さは 25cm 程度である。炉底はボウル形に 2 段に掘られ、深さ 15 cm に段掘りがくる。炉の埋土は焼土粒、炭化物が含まれ、段掘りから下層は粘性が増していた。したがって、炉の上層下面が火床であった、と理解すること

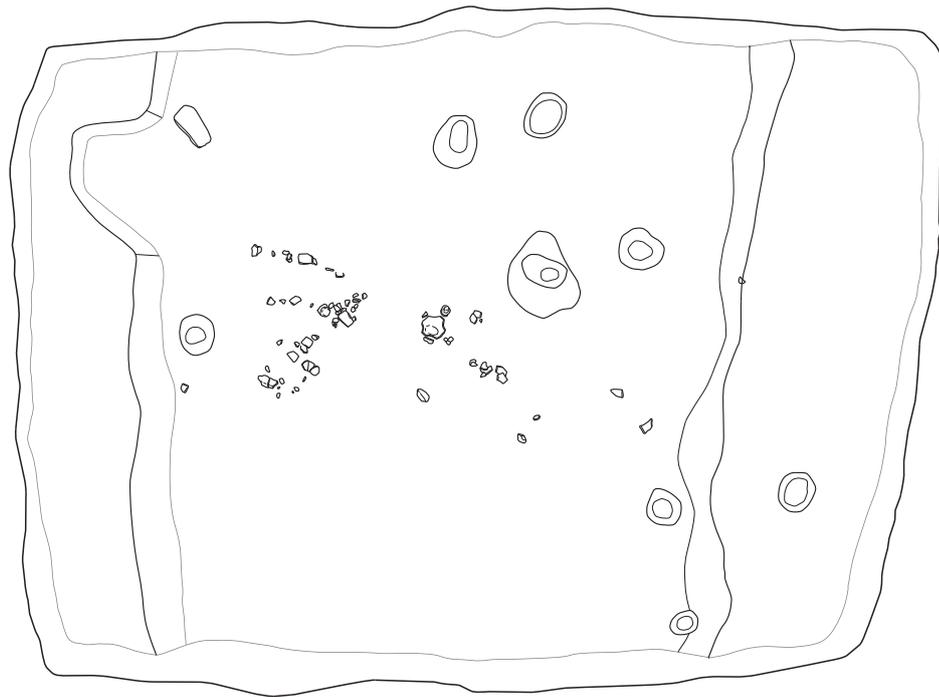


図 52 SI17 実測図 (遺物出土状況・1/60)



ができる。

ベッド状遺構は、竪穴住居の西側壁及び東側壁に沿って設置されている。その上面幅は、西側壁に沿う部分では 75 cm、東側壁に沿う部分では 140 cm を測る。西側壁に沿うベッド状遺構は、西支柱穴から北側壁の間、約 1m の部分が上面幅 30 cm に狭まり、くぼんだ形となっている。

床に硬化面が形成されていたか否かは不明である。

土器は、壺、甕、高坏、鉢等が出土している。

石器は、砥石、敲石、台石が出土している。

以下に土層註記を記す。

1 : 10YR2/2 黒褐色シルト。きめは細かく、粘性が少しあり、しまりもある。0.2 ~ 1.0 cm 大の焼土粒を 3% 程全体に含む。0.2 ~ 0.4 cm 大の長石、石英などの白色粒子が 3% 程全体に広がる。小礫も少しある。さらに、土器片も多く、住居中央よりに集中し、3 との境界に多く出土している。

2 : 10YR3/3 暗褐色シルト。きめは細かく、粘性、しまり共に少しある。褐色土が少し混在している。土器も出土している。

3 : 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト。きめは細かく、粘性が少しあり、しまりもある。0.2 ~ 0.4 cm 大の長石、石英など白色粒子を 3% 程全体に含む。土器も出土している。

4 : 10YR3/2 黒褐色シルト。粘性があり、しまりも少しある。

5 : 10YR3/2 黒褐色シルト。きめは細かく、粘性、しまり共に少しある。0.1 ~ 0.5 cm 大の 2.5YR5/6 黄褐色土の粒を 1% 程含む。

6 : 4 の土に 0.2 ~ 0.4 cm の明褐色粒が 3% 程全体に広がる。

7 : 10YR3/2 黒褐色シルトと 7.5YR5/8 明褐色シルトが 5 : 5 の割合で混在している。粘性、しまり共にある。0.1 ~ 1.0 cm 大の粒状の 2.5YR5/6 黄褐色土を全体に 3

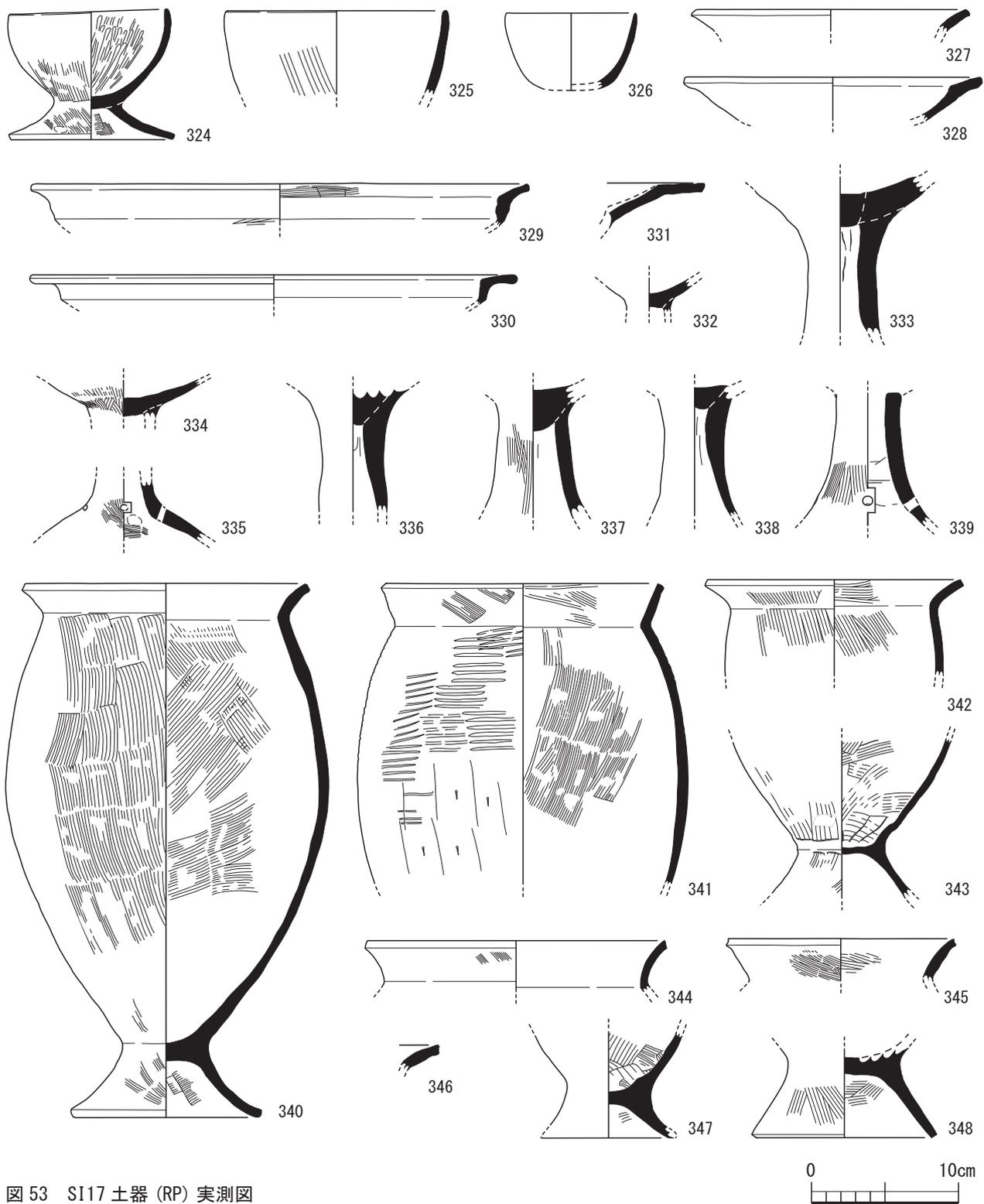


図 53 SI17 土器 (RP) 実測図

%程含む。

8 : 7.5YR5/8 明褐色シルト。きめは細かく、粘性が少しあり、しまりもある。10YR3/2 黒褐色シルトが3割程混在している。

9 : 7の土と似ているが、黄褐色土の粒は混じっていない。

10 : 10YR3/3 暗褐色粘質土。粘性が少し強く、しまりもある。側壁溝。

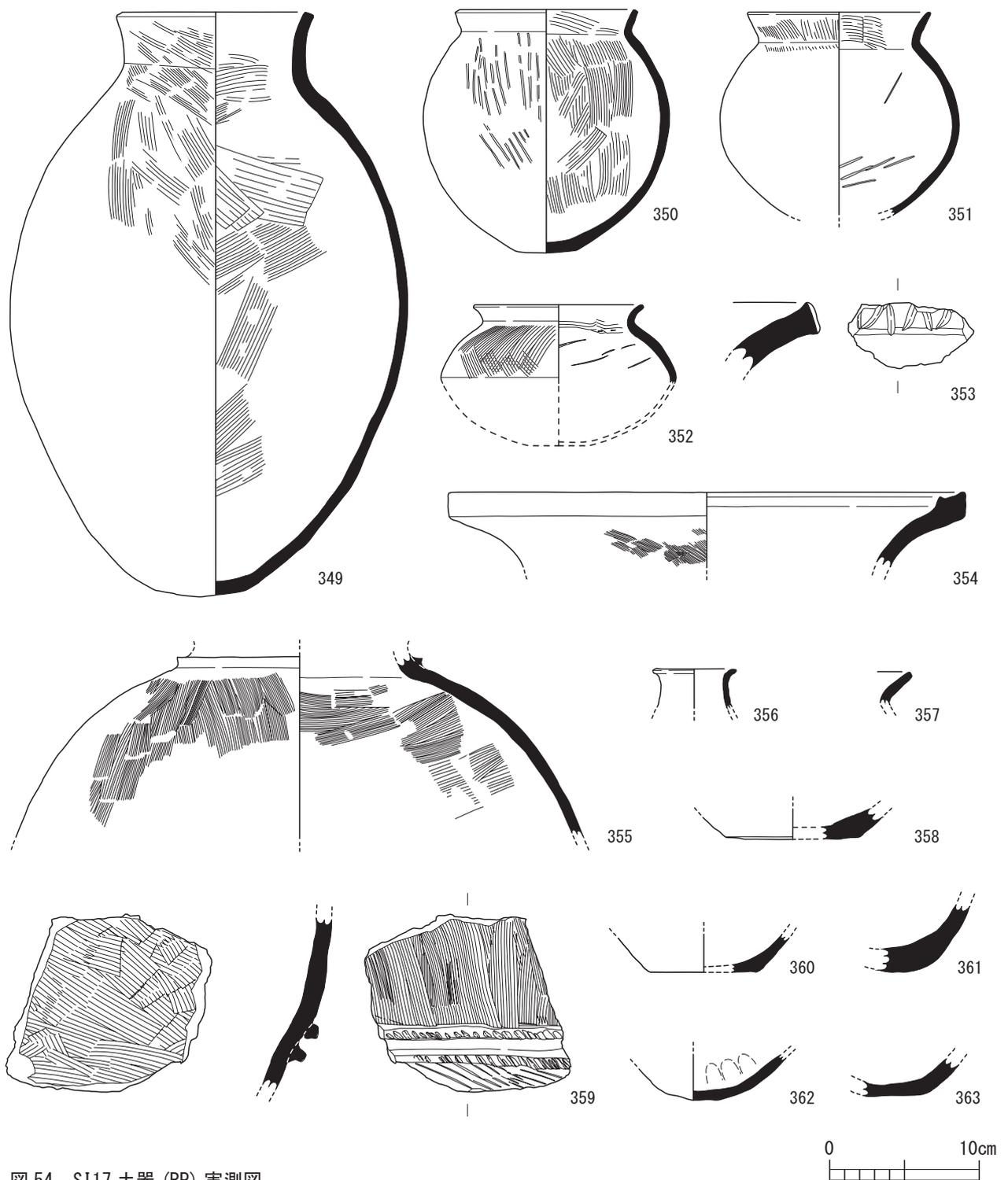


図 54 S117 土器 (RP) 実測図

11 : 10YR3/3 暗褐色シルト。粘性が少しあり、しまりもある。0.5 ~ 2.0 cm 大の焼土粒を少し (1%)、全体に含む。0.1 ~ 0.4 cm 大の炭化物粒を少し (1%) 含む。
 12 : 11 より粘性が強い。
 13 : 10YR2/2 黒褐色粘質土。粘性は少し強く、しまり

は弱い。
 14 : 10YR3/4 暗褐色シルト。粘性があり、しまりはやや強い。極小大の焼土粒を全体に 3% 程含む。0.1 cm 大の白色粒子を 1% 程含む。



图 55 SI17 土器 (RP) 实测图

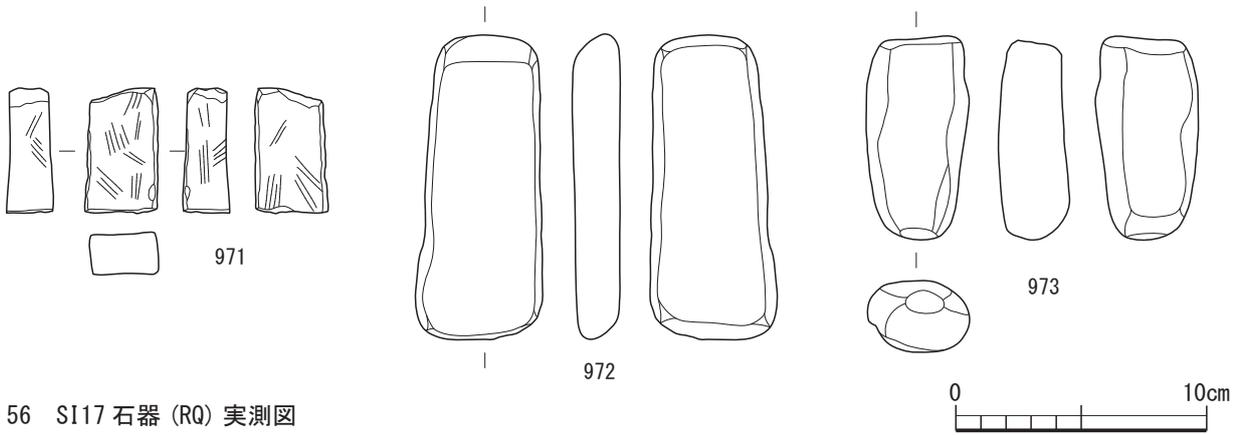


图 56 SI17 石器 (RQ) 实测图

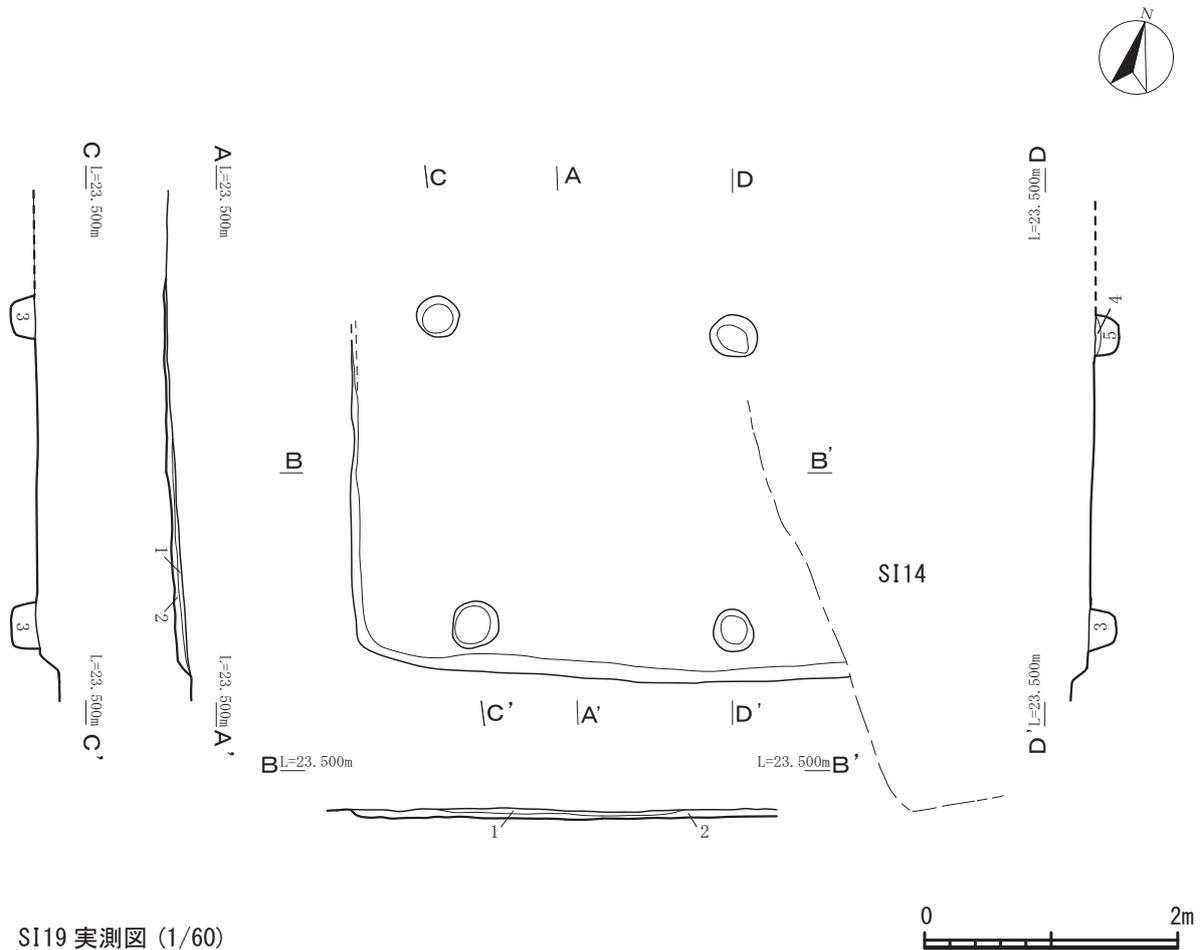


图 57 SI19 实测图 (1/60)

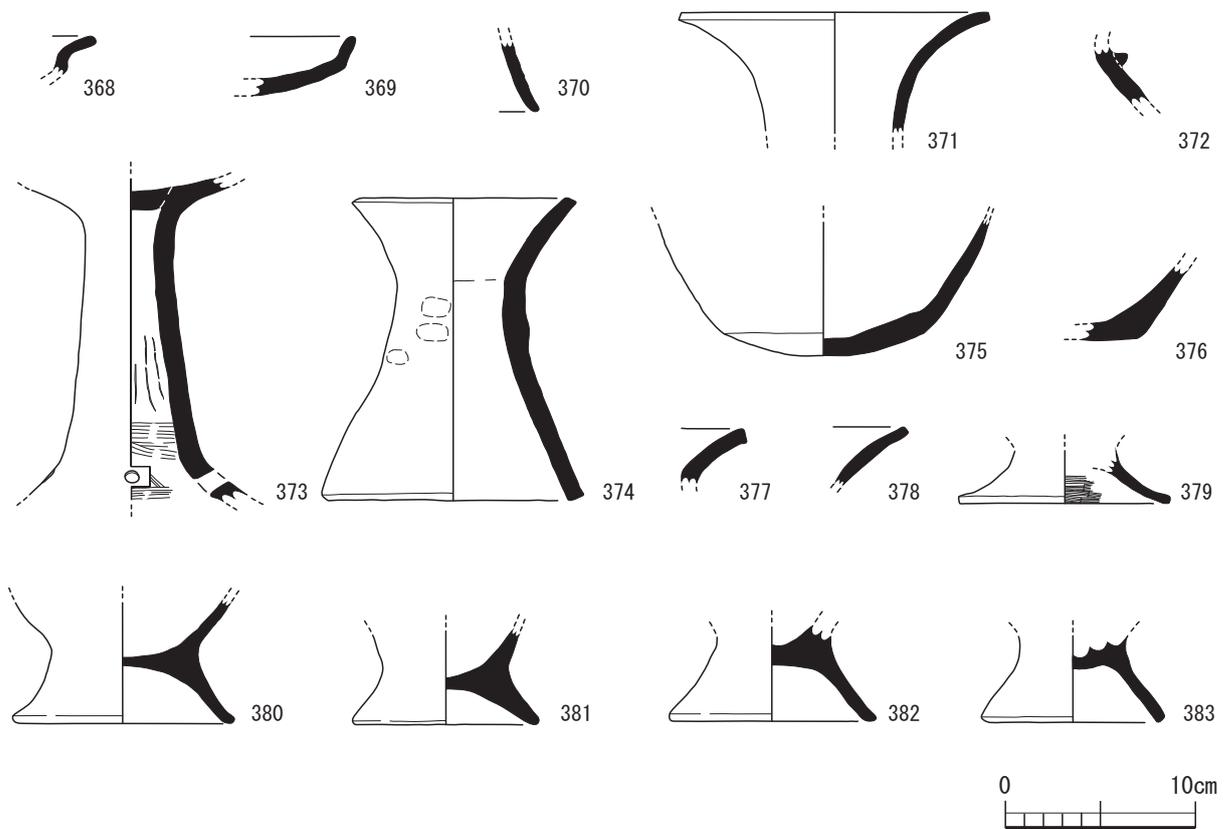


図 58 SI19 土器 (RP) 実測図

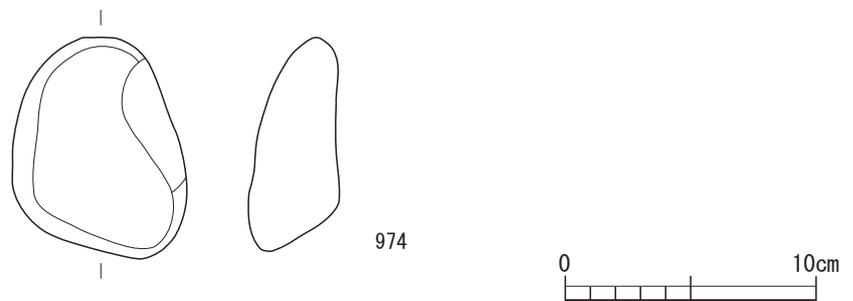


図 59 SI19 石器 (RQ) 実測図

SI19

SI19は、方形を呈する4本柱建て堅穴住居跡である。SI19の東辺はSI14に切られ、北側は現代耕作により削平を受けている。Q16グリッドに位置する。

SI19の法量は、南北不明、東西不明、遺構確認面からの深さ8cmを測る。

主柱穴は、2×2の計4基を検出した。各主柱穴は、直径35cm程度の円形の平面プランを呈し、深さ20cm程度である。各主柱穴を結ぶ軸線は、堅穴住居の西側壁、南側壁と平行に位置し、4主柱穴を結び形成される方形は平行四辺形を呈する。

炉、Kピット、ベッド状遺構等、その他の設備は検

出していない。

床に硬化面が形成されていたか否かは不明である。

以下に土層註記を記す。

- 1：10YR3/4 暗褐色シルト。粘性、しまり共にある。土器が多数出土している。
- 2：10YR3/3 暗褐色シルト。粘性、しまり共にある。白色粒子を少し含む。土器が少し出土している。
- 3：7.5YR3/4 暗褐色粘土。粘性は少し強く、しまりがある。
- 4：埋土に黒色土が混じっている。
- 5：7.5YR3/4 暗褐色粘質土。粘性が少し強く、しまりがある。

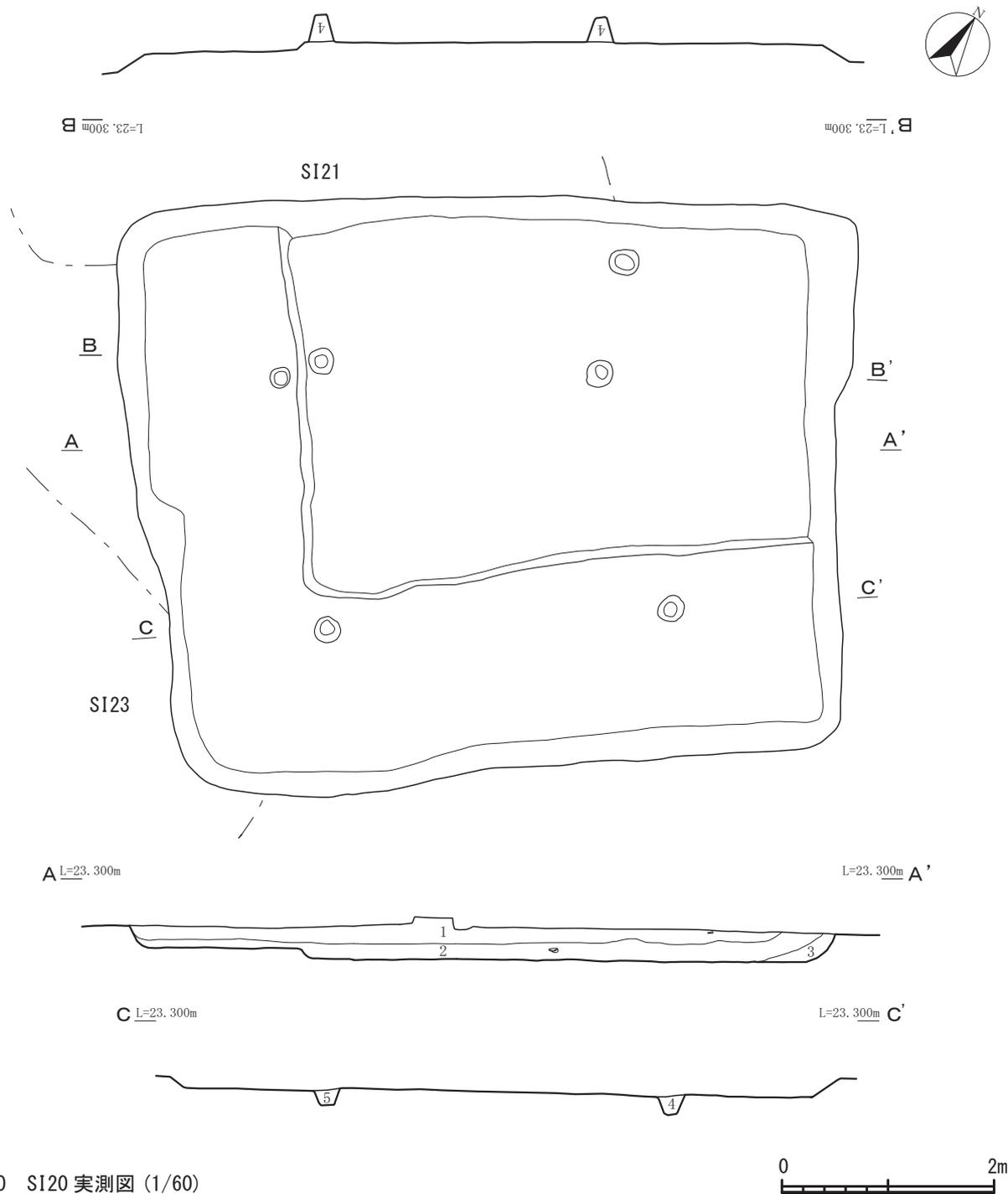


図 60 SI20 実測図 (1/60)

SI20

SI20 は、正方形を呈する 4 本柱建て竪穴住居跡である。ベッド状遺構を備える。SI20 の北側壁西半部は SI21 を切り、SI20 の南西隅は SI23 を切っている。Z29 グリッドに位置する。

SI20 の法量は、南北 5.6m、東西 6.5m、遺構確認面からの深さ 30cm を測る。SI20 の平面形は、西側壁北半部、東側壁北半部、南側壁西半部で 20 cm 程度外部

に張出すため、整った正方形ではない。

主柱穴は、2 × 2 の計 4 基を検出した。いずれの主柱穴も直径 25 cm 程度であるが、北東、北西主柱穴は床面からの深さ 25 cm、南西、南東主柱穴はベッド状遺構の上面からの深さ 15 cm を測る。北東、北西主柱穴を結ぶ軸線、南東、南西主柱穴を結ぶ軸線、北西、南西主柱穴を結ぶ軸線は、それぞれ北側壁、南側壁、西側壁と平行である。

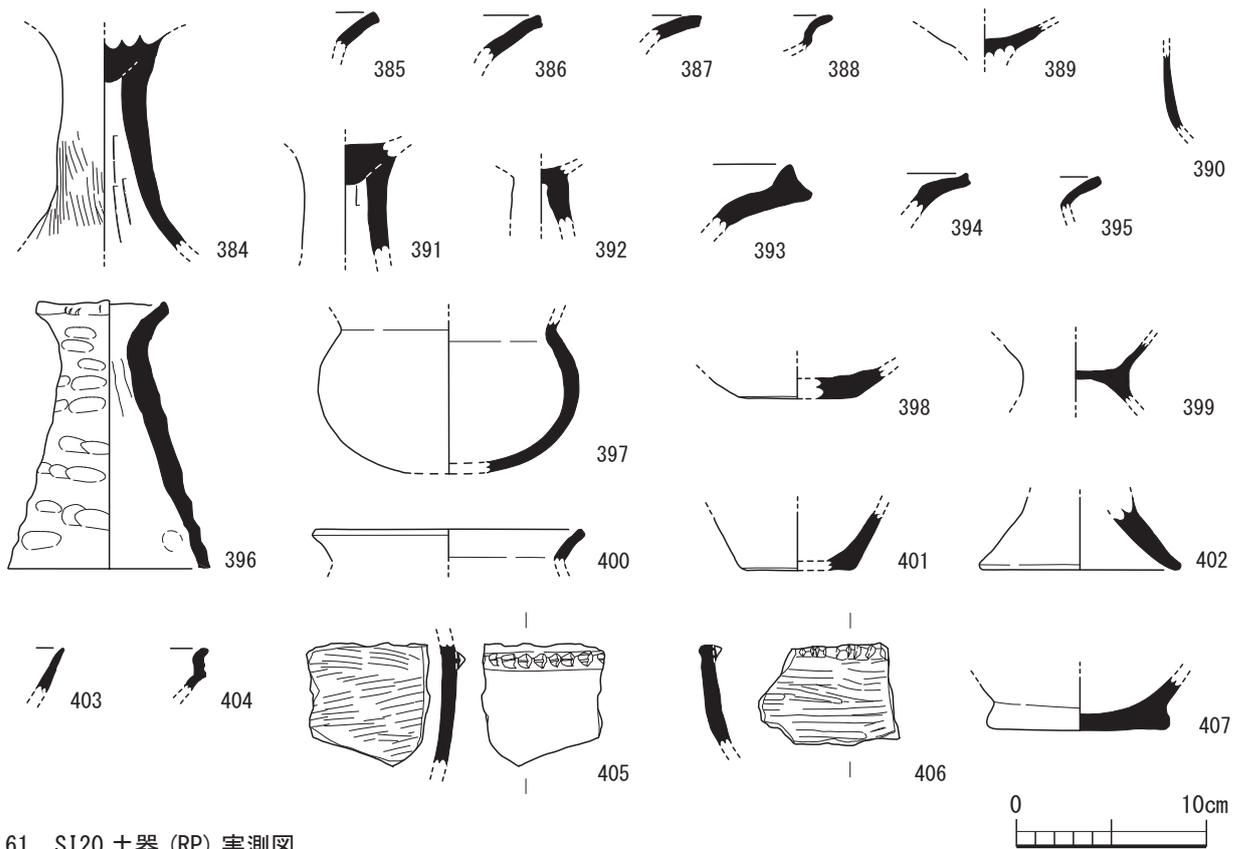


図 61 SI20 土器 (RP) 実測図

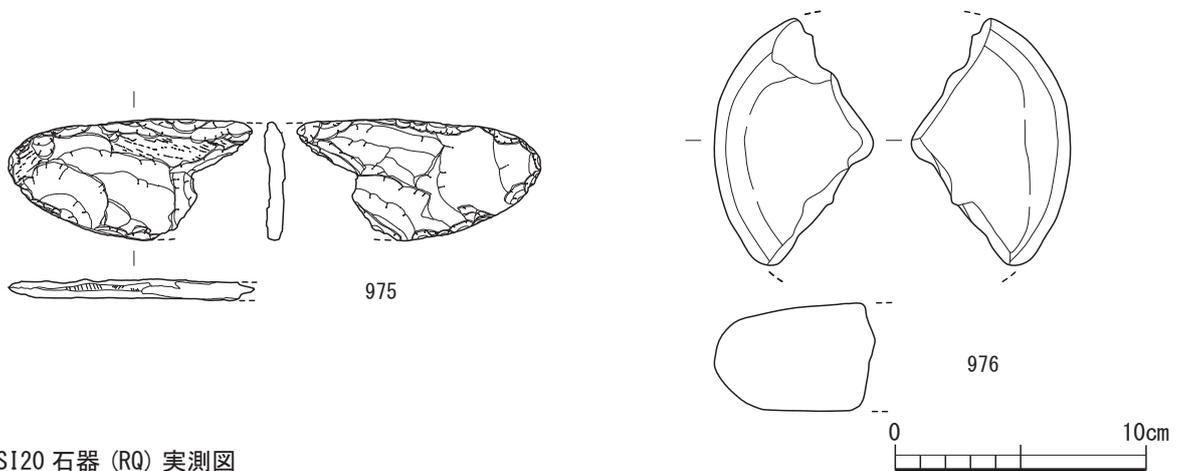


図 62 SI20 石器 (RQ) 実測図

ベッド状遺構は、竪穴住居の西側壁、南側壁に沿い、南西隅で接続して設けられている。その上面幅は、西側壁に沿う部分では 110 cm、東側壁に沿う部分では 160 cm を測る。さらに、西側壁北半部、南側壁西半部では 20 cm 程度幅を増し、竪穴住居外に向かって張出している。

炉、K ピット等、その他の設備は検出していない。床に硬化面が形成されていたか否かは不明である。土器は、壺、甕、高坏、鉢、器台が出土している。石器は磨石、石庖丁未成品が出土している。以下に土層註記を記す。

1: 10YR3/2 黒褐色シルト。粘性が少し強く、しまりもよい。全体に 0.1 cm 大の石英など白色粒子を 3% 程含む。

2: 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト。きめは細かく、粘性がなく、しまりはある。10YR3/1 黒褐色シルトが 3 割程混ざる。

3: 2 の埋土より粘性が強い。

4: 10YR3/3 暗褐色シルト。粘性、しまり共にある。褐色土が斑点状に 1% 程広がる。

5: 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト。粘性が少し強く、しまりもある。

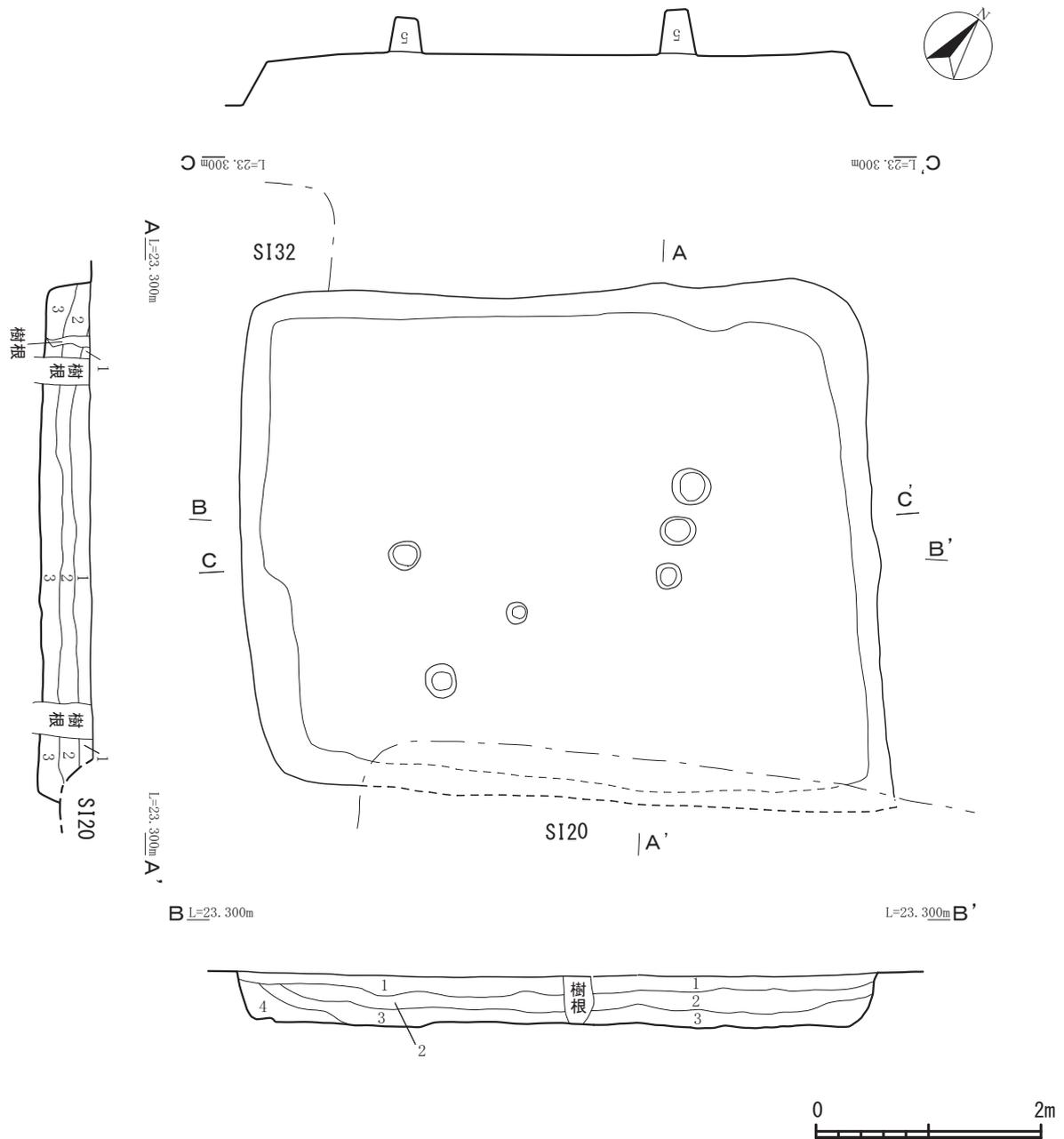


図 63 SI21 実測図 (1/60)

SI21

SI21 は、正方形を呈する 2 本柱建て堅穴住居跡である。SI21 の西側壁部分は SI32 を切り、SI21 の南側壁周辺部は SI20 に切られている。Y28 グリッドに位置する。

SI21 の法量は、南北 4.6m、東西 5.6m、遺構確認面からの深さ 40cm を測る。

主柱穴は、2 基、検出した。いずれの主柱穴も直径 30 cm 程度で、床面からの深さ 15 cm を測る。両主柱穴を結ぶ軸線は、北側壁に平行である。

炉、K ピット、ベッド状遺構等、その他の設備は検出していない。

床に硬化面が形成されていたか否かは不明である。

土器は、壺破片等が出土している。

石器は、黒曜石剥片が多く出土している。

以下に土層註記を記す。

1 : 10YR3/2 黒褐色シルト。粘性、しまり共にある。0.1 ~ 0.2 cm 大の 10YR5/4 にぶい黄褐色土を斑点状に全体に 3% 程含む。0.1 ~ 1.0 cm 大の石英、小礫など白色粒子を全体に 3% 程含む。土器あり。

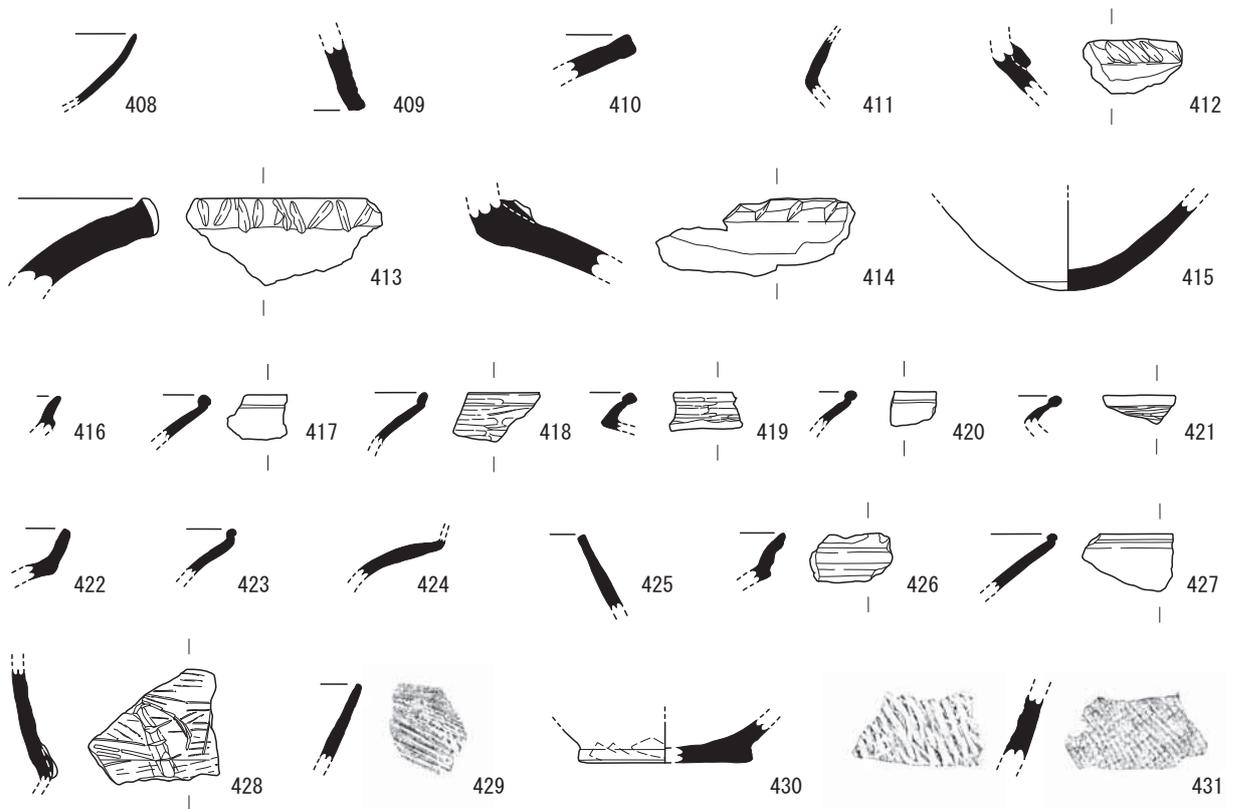


図 64 SI21 土器 (RP) 実測図



図 65 SI21 石器 (RQ) 実測図

2: 7.5YR4/4 褐色シルト。粘性が少し強く、しまりもある。土器が少し多く出土している。

3: きめは細かく、2より粘性があり、少ししまりは弱い。突帯、へら磨きのある土器出土。

4: 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト。粘性が強く、しまりもある。

5: 10YR3/2 黒褐色シルト。粘性が少しあり、しまり

もある。

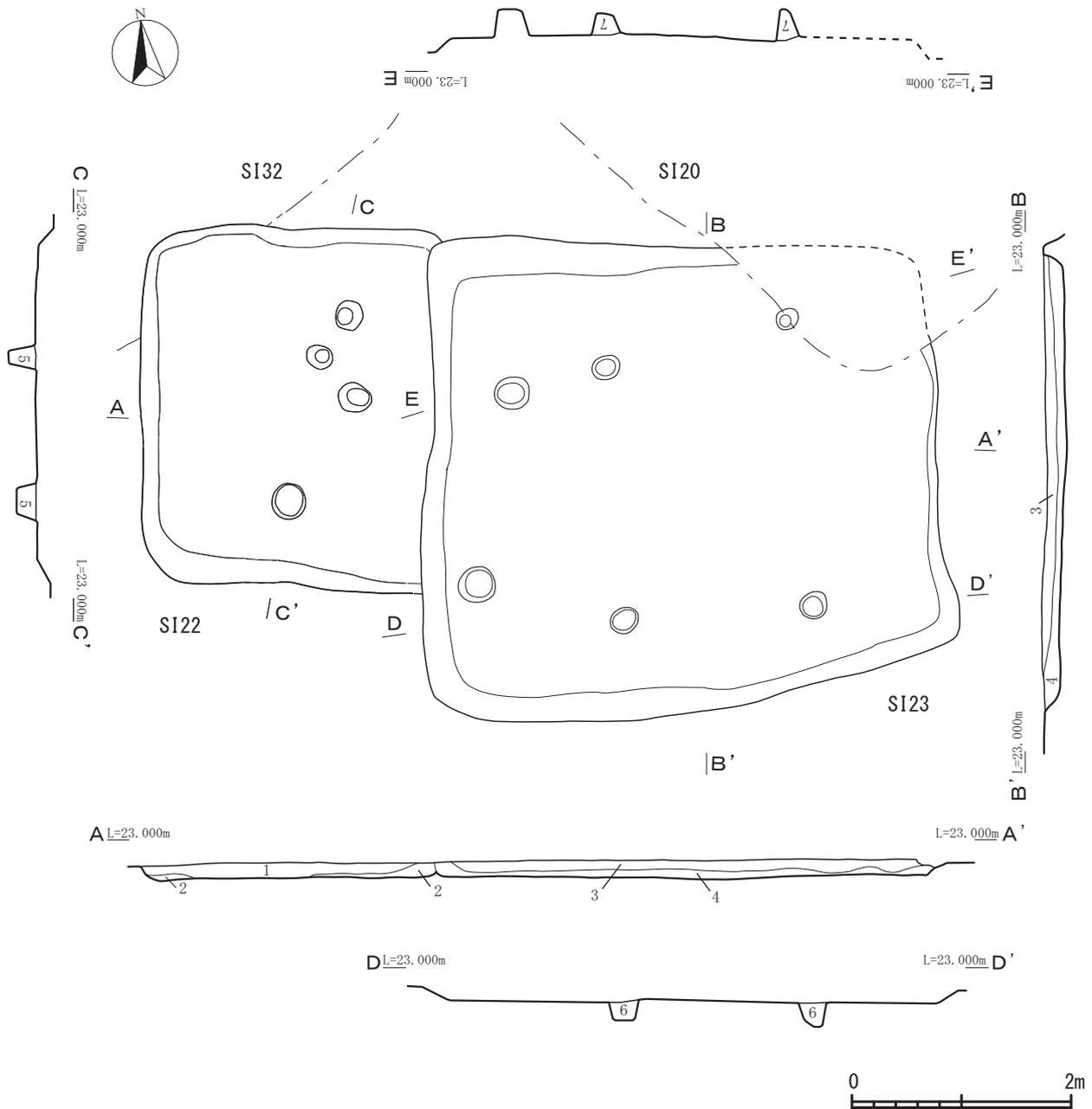


図 66 SI22、SI23 実測図 (1/60)

SI22

SI22 は、正方形を呈する 2 本柱建て竪穴住居跡である。SI22 の北西隅は SI32 を切り、SI22 の東側壁部分は SI23 に切られている。Z27 グリッドに位置する。

SI22 の法量は、南北 3.8m、東西 2.8m、遺構確認面からの深さ 15cm を測る。その東側壁は SI23 に切られているが、平面プランにおいては北東隅の隅丸部分が、土層断面においては東側壁際の立ち上がり部分が検出されているため、上記の法量を記述している。

主柱穴は、2 基、検出した。北主柱穴は直径 20 cm

程度の楕円形プランを呈し深さ 25 cm を測り、南主柱穴は直径 30 cm の円形プランを呈し深さ 15 cm を測る。両主柱穴を結ぶ軸線は、いずれの側壁とも平行、直行しない。

炉、K ピット、ベッド状遺構等、その他の設備は検出していない。

床に硬化面が形成されていたか否かは不明である。

土器は、壺、甕破片が出土している。

以下に土層註記を記す。

1 : 10YR2/3 黒褐色シルト。粘性が少し強く、しまり

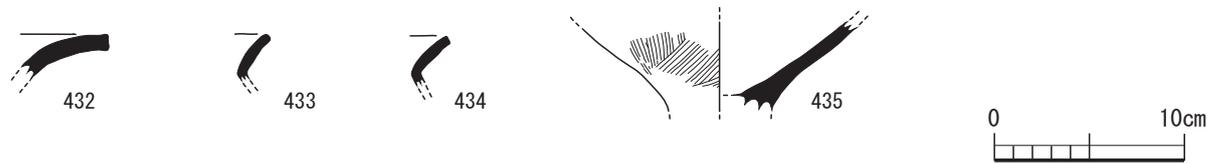


図 67 SI22 土器 (RP) 実測図

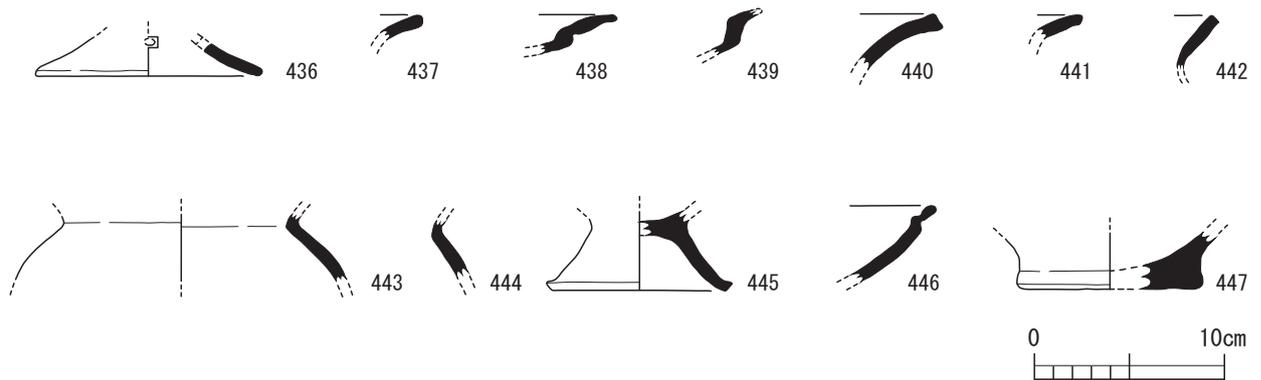


図 68 SI23 土器 (RP) 実測図

もある。全体に 0.2～0.6 cm 大の焼土粒を 3% 程含む。
 0.2～0.5 cm 大の炭化物粒を 1% 程含む。
 2：10YR3/3 暗褐色シルト。粘性、しまり共にある（3よりやわらかい）。0.2～0.4 cm 大の焼土粒を 1% 程含む。
 5：10YR3/3 暗褐色シルト。粘性、しまり共にある。土器が出土。

SI23

SI23 は、正方形を呈する 4 本柱建て堅穴住居跡である。SI23 の北東隅は SI20 に切られ、SI23 の西側壁は SI22 を切っている。Z28 グリッドに位置する。

SI23 の法量は、南北 4.4m、東西 4.7m、遺構確認面からの深さ 15cm を測る。

主柱穴は、2×2 の計 4 基を検出した。北東主柱穴は直径 20 cm、その他の主柱穴は直径 25 cm の円形プランを呈し、北東主柱穴は 28 cm、北西主柱穴は 15 cm、南東主柱穴は 15 cm、南西主柱穴は 20 cm の深さを測る。北西、南西主柱穴を結ぶ軸線は西側壁に平行である。

炉、Kピット、ベッド状遺構等、その他の設備は検出していない。

床に硬化面が形成されていたか否かは不明である。

土器は、壺、甕、高坏破片が出土している。

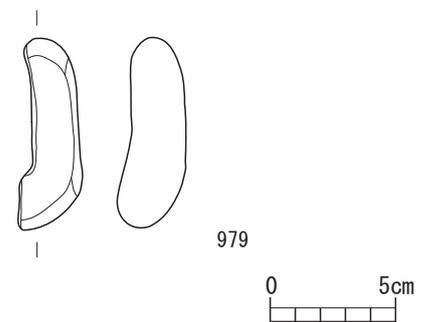


図 69 SI23 石器 (RQ) 実測図

以下に土層註記を記す。

3：10YR3/3 暗褐色シルト。粘性が強く、しまりもある。全体に 0.1 cm 大の白色粒子と 0.2 cm 大の焼土粒を 1% 含む。土器片あり。

4：10YR4/3 にぶい黄褐色シルト。粘性が少し強く、しまりもある。全体に 0.1 cm 大の白色粒子を 1% 程含む。0.2～0.4 cm 大の焼土粒が 3% 程全体に広がる。土器片あり。

6：10YR3/3 暗褐色シルト。粘性、しまり共にある。

7：10YR3/3 暗褐色シルト。粘性、しまり共にある。0.2 cm 大の焼土粒を 1% 程含む。

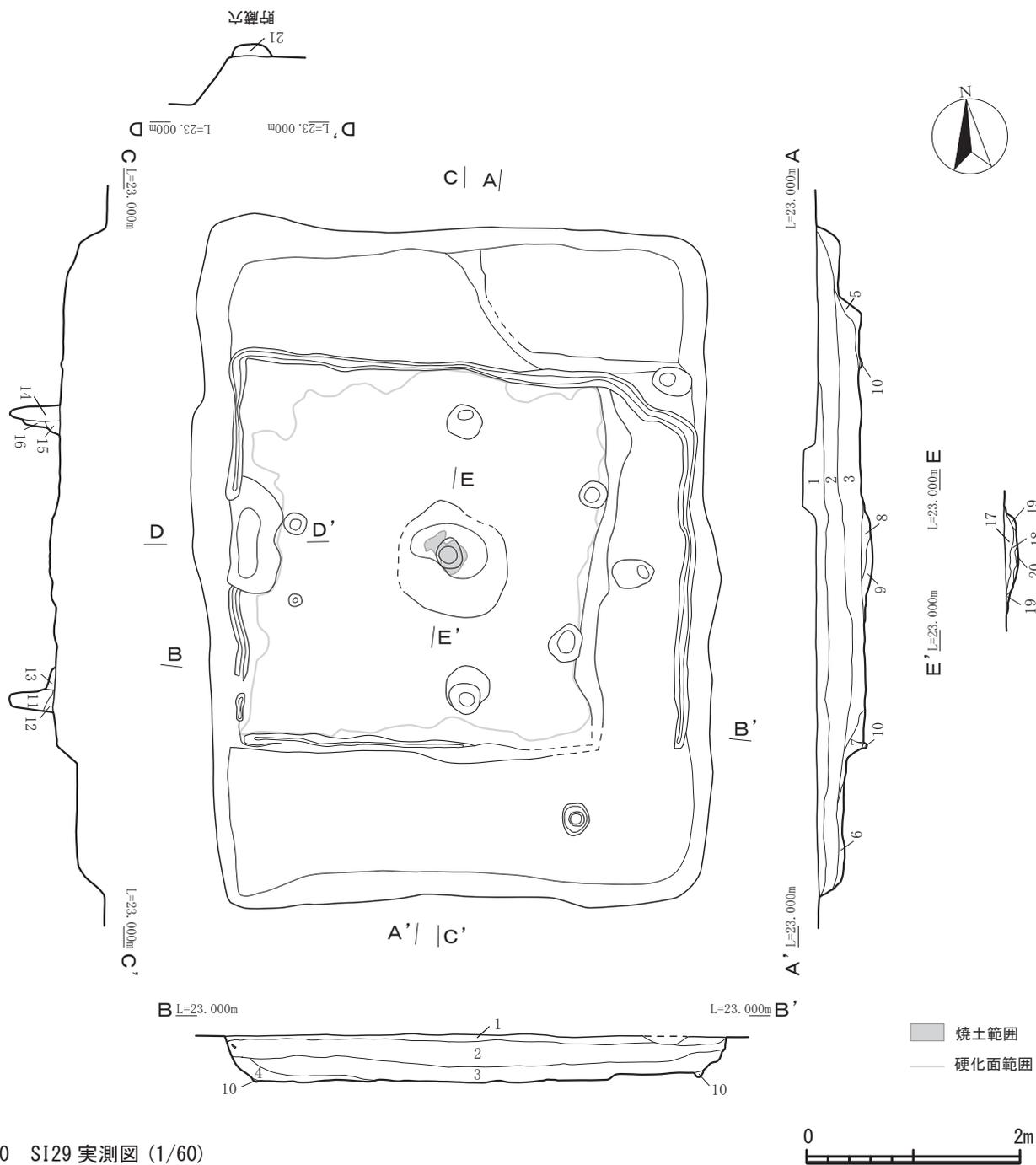


図 70 SI29 実測図 (1/60)

SI29

SI29 は、長方形を呈する 2 本柱建て竪穴住居跡である。炉、K ピット及びベッド状遺構を備える。Z31 グリッドに位置する。

SI29 の法量は、南北 6.4m、東西 4.7m、遺構確認面からの深さ 45cm を測る。

主柱穴は、2 基、検出した。両主柱穴は、竪穴住居の廃棄に際し柱を抜き取ったと考えられる土層断面を確認している。両主柱穴の平面プランは直径 30 cm の円形を呈し、床面からの深さ 50 cm を測る。各主柱穴

を結ぶ軸線は、竪穴住居の南側壁、北側壁と平行に位置している。その軸線のほぼ中央に炉が設置されている。

主柱穴以外にも複数のピットが検出されている。東側ベッド状遺構では、上面中央部には深さ 15 cm 程のピットが位置し、下端上には南北から 1/3 の位置に深さ 25 cm 程のピットが各 1 基、合計 2 基、位置している。また、北東隅には深さ 25 cm 程のピットが穿たれ、側壁溝は当該ピットを迂回している。南側ベッド状遺構の上面には深さ 10 cm 程のピットが、東側ベッド状遺

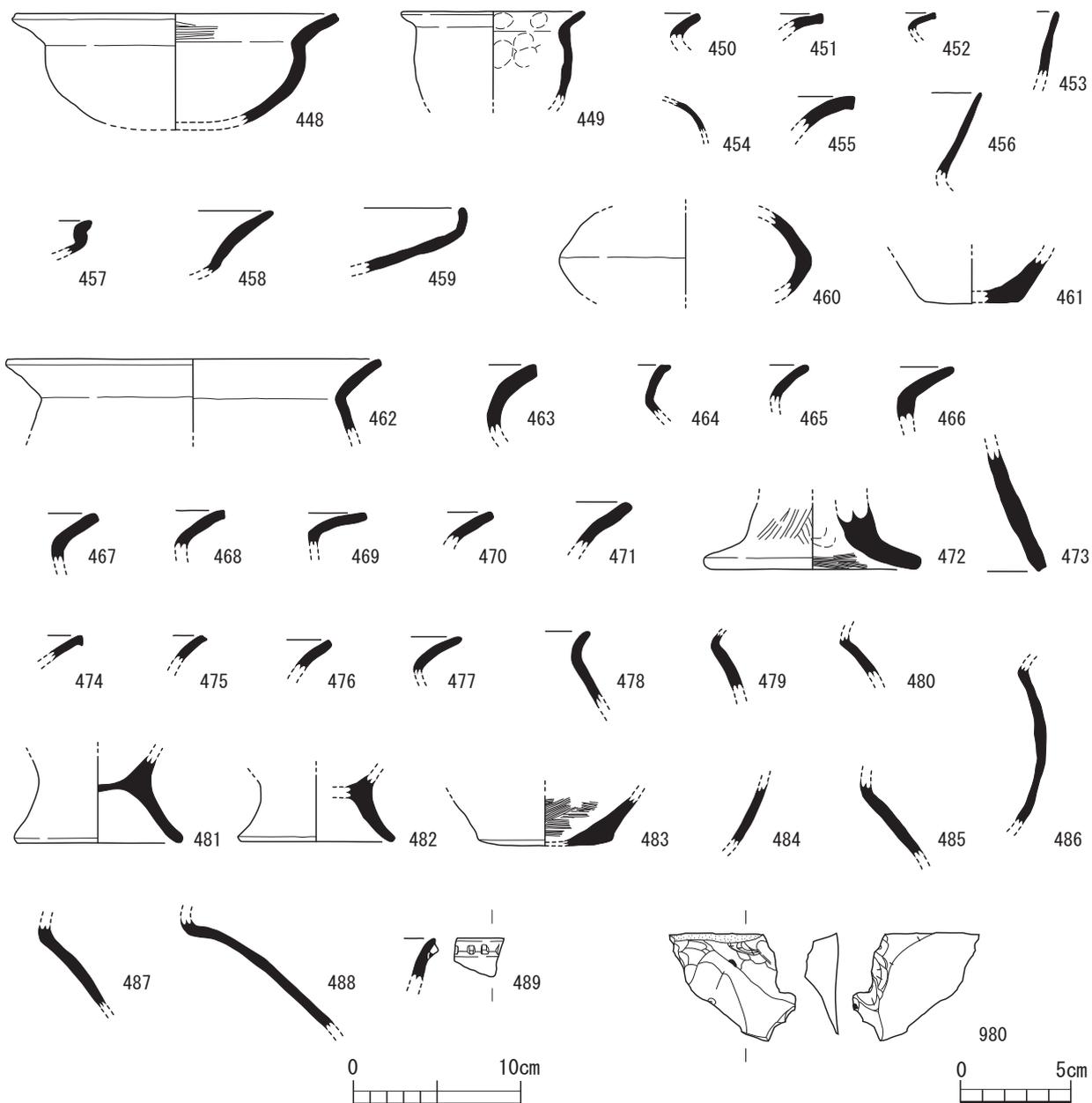


図 71 SI29 土器 (RP) 実測図

図 72 SI29 石器 (RQ) 実測図

構の下端の延長上に位置している。以上のように、堅穴住居の他設備と関連する配置をとるピット群が認められる。

炉は、南北 105cm、東西 100cm の円形を呈し、深さは 15cm である。炉底は皿形に掘りくぼめられ、その西半部は受熱のため赤変している。炉底の中心は直径 25 cm 程の円形に 5 cm 程くぼんでいるが、2 段掘りと形容するタイプのものではない。炉全体が緩やかな傾斜で構成されており、当該くぼみは火床の中心と理解することが適切である。

Kピットは、概ね長方形を呈し、南側壁に接して主

軸上に位置する。床面から 15 cm 程掘りくぼめられた深度であるが、その東辺には 2 基の柱穴が、炉の端部に対応する位置に設けられている。

ベッド状遺構は、北側壁、南側壁、東側壁に沿って接続して設けられている。北側壁に沿ったベッド状遺構は東半部のみ設置されており、北支柱穴の位置で途切れている。南、北側壁に沿ったベッド状遺構は、その長さの違いを除けば、同じ高さ、同じ幅（上面幅 100 cm）と相似した設備である。東側壁に沿ったベッド状遺構は、両ベッド状遺構より高さは 5 cm 程低くなり、上面幅も 70 cm と狭くなる。

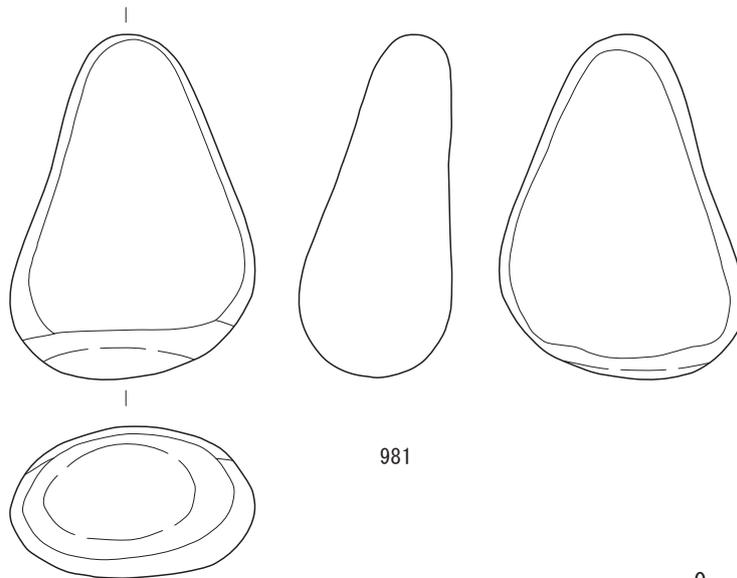


図 73 S129 石器 (RQ) 実測図

床には、ほぼ全面に硬化面が形成されている。床面の南、西、北辺には側壁溝が巡る。なお、北辺東端部の側壁溝は、東側ベッド状遺構を横断し、東側壁沿いに、南側ベッド状遺構に突き当たる箇所まで走る。すなわち、側壁溝は、床面と東側ベッド状遺構を囲むように設置されている。

土器は、壺、甕、高坏、鉢、器台が出土している。

石器は、磨石、搔器が出土している。

以下に土層註記を記す。

- 1 : 10YR3/1 黒褐色シルト。粘性が少し強く、しまりもある。0.2 cm 大の焼土粒と 0.4 cm 大の炭化物粒を 1% 程含む。褐色土が斑点状に全体に広がる。土器片あり。
- 2 : 10YR3/4 暗褐色シルト。粘性が少しあり、しまりもある。0.2 cm 大の焼土粒を 3% 程全体に含む。0.2 cm 大の炭化物粒を 1% 程含む。
- 3 : 10YR3/3 暗褐色シルト。0.2 cm 大の焼土粒と炭化物粒が 1% 程全体に広がる。土器も多く出土している。
- 4 : 3 よりも粘性がなく、やわらかい。
- 5 : 3 の土に明褐色土が混在している。粘性が少しあり、しまりは少し弱い。
- 6 : 2 よりも粘性があり、しまっている。
- 7 : 3 よりもしまりが弱く、褐色土が少し混ざる。
- 8 : 10YR3/3 暗褐色粘質土。粘性が強く、しまりは少し良く、10YR4/4 褐色土が少し混じり、粒状に全体に広がる。0.4 cm 大の焼土粒を 1% 程含む。
- 9 : 10YR2/2 黒褐色粘質土。粘性が強く、しまりもある。0.1 ~ 1.0 cm 大の 10YR4/4 褐色土粒を全体に 5% 程含む。0.2 ~ 1.2 cm 大の焼土粒を 5% 程含む。0.4 cm 大

の炭化物粒も 1% 程含む。

10 : 10YR3/2 黒褐色シルト。粘性が少し強く、しまりは少し弱い。0.1 ~ 0.3 cm 大の焼土粒を全体に 3% 程含む。側壁溝。

11 : 10YR3/2 黒褐色粘質土。粘性が強く、しまりは少し良い。土器が出土。

12 : 11 の土に褐色土が混在。肩部の土が崩れて流れ込んだと考える。

13 : 10YR3/3 暗褐色粘質土。粘性が強く、しまりは非常に硬く、しまっている。

14 : 10YR3/2 黒褐色粘質土。粘性が強く、しまりは少し良い。0.2 cm 大の焼土粒を 1% 程含む。

15 : 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土。粘性が強く、しまりは少し弱い。

16 : 10YR3/3 暗褐色粘質土。粘性が強く、しまりは非常に硬く、しまっている。

17 : 10YR3/3 暗褐色粘質土。粘性は強く、しまりは少しある。粒状に 10YR4/4 褐色土が少し全体に混ざっている。0.4 cm 大の焼土粒を少し (1%) 含む。

18 : 10YR2/2 黒褐色粘質土。粘性が強く、しまりもある。0.1 ~ 1.0 cm 大の 10YR4/4 褐色土の粒 5% 程全体に含む。0.2 ~ 1.2 cm 大の焼土粒 (1%) を含む。

19 : 10YR3/3 暗褐色粘質土。粘性が強く、しまりは少しある。

20 : 焼成部。明褐色土。少し硬く焼きしまっている。

21 : 10YR3/4 暗褐色シルト。粘性が少し強く、しまりもある。10YR4/3 にぶい黄褐色シルトが少し混ざる。0.2 cm 大の焼土粒を 1% 程含む。土器片あり。

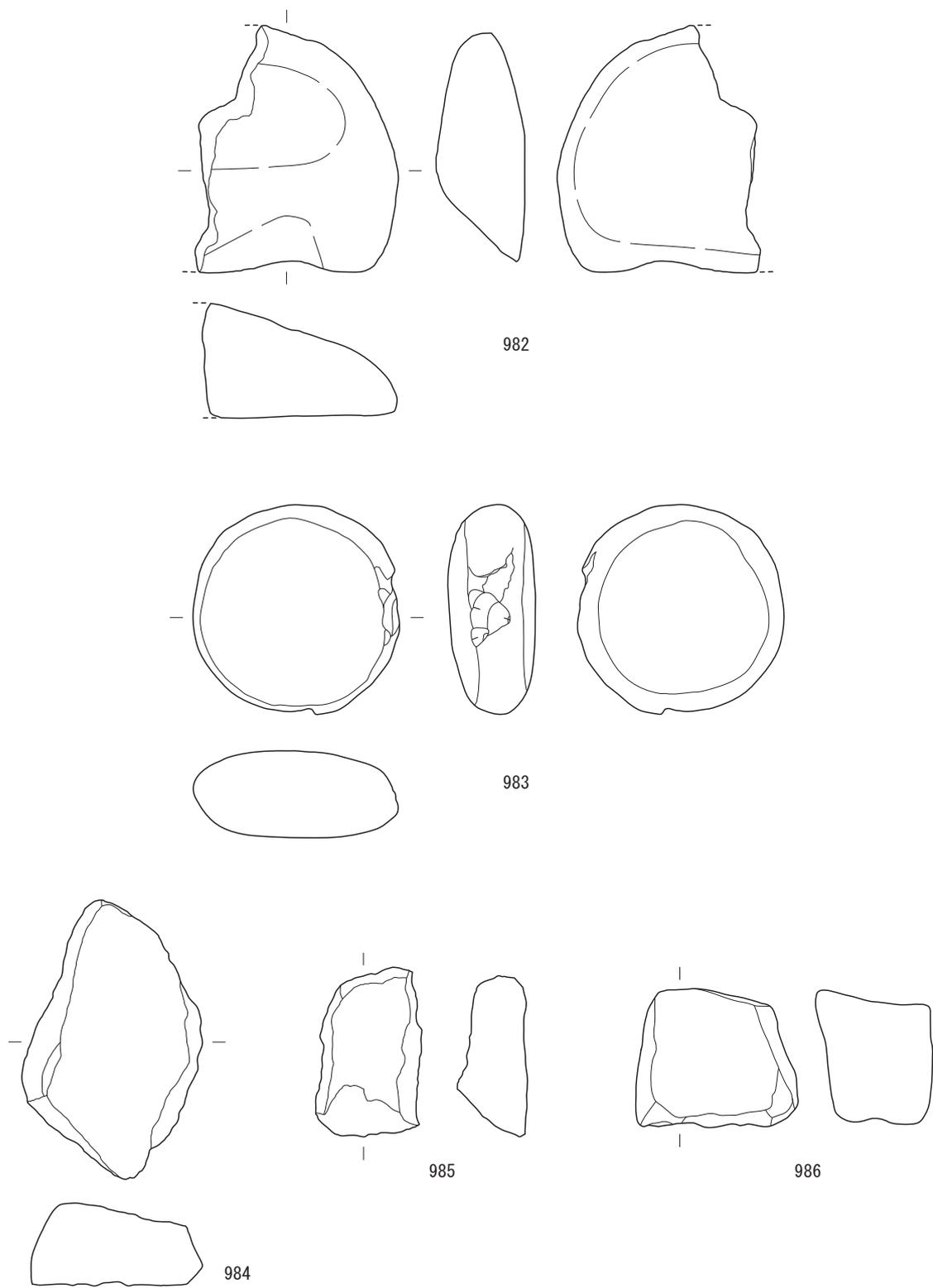


图 74 S129 石器 (RQ) 实测图

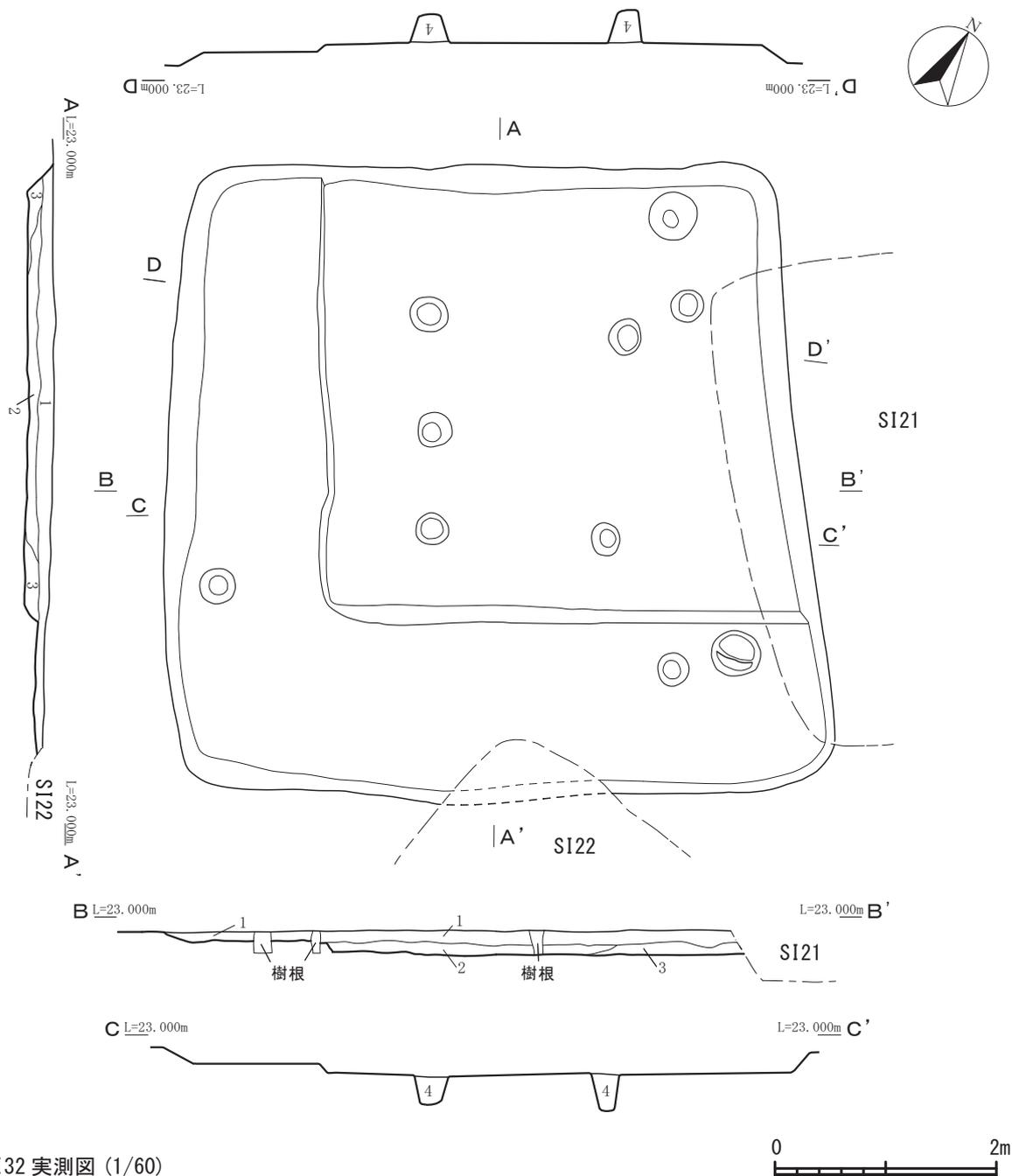


図 75 SI32 実測図 (1/60)

SI32

SI32 は、正方形を呈する 4 本柱建て堅穴住居跡である。ベッド状遺構を備える。SI32 の東側壁部分は SI21 に切れ、SI32 の南側壁中央部は SI22 に切られている。Y27 グリッドに位置する。

SI32 の法量は、南北 5.8m、東西 5.4m、遺構確認面からの深さ 20cm を測る。

主柱穴は、2 × 2 の計 4 基を検出した。各主柱穴は直径 30 cm 程の円形プランを呈し、床面から深さ 22 cm ~ 33 cm を測る。北西主柱穴と南西主柱穴を結ぶ軸線は西側壁と平行に位置し、南西主柱穴と南東主柱穴を

結ぶ軸線は南側壁と平行位置する。各主柱穴は、側壁、ベッド状遺構から離れた位置にあり、柱間も南北 2.0m、東西 1.6m と狭い値をとる。

ベッド状遺構は西側壁、南側壁に沿い、南西隅で接続して設置されている。その上面は西側壁に沿う部分で幅 110 cm、南側壁に沿う部分で幅 140 cm を測る。南側壁に沿うベッド状遺構は、南東主柱穴の位置で途切れる。

炉、K ピット等、その他の設備は検出していない。

土器は、壺、甕、高坏破片の他、ジョッキ形土器が出土している。

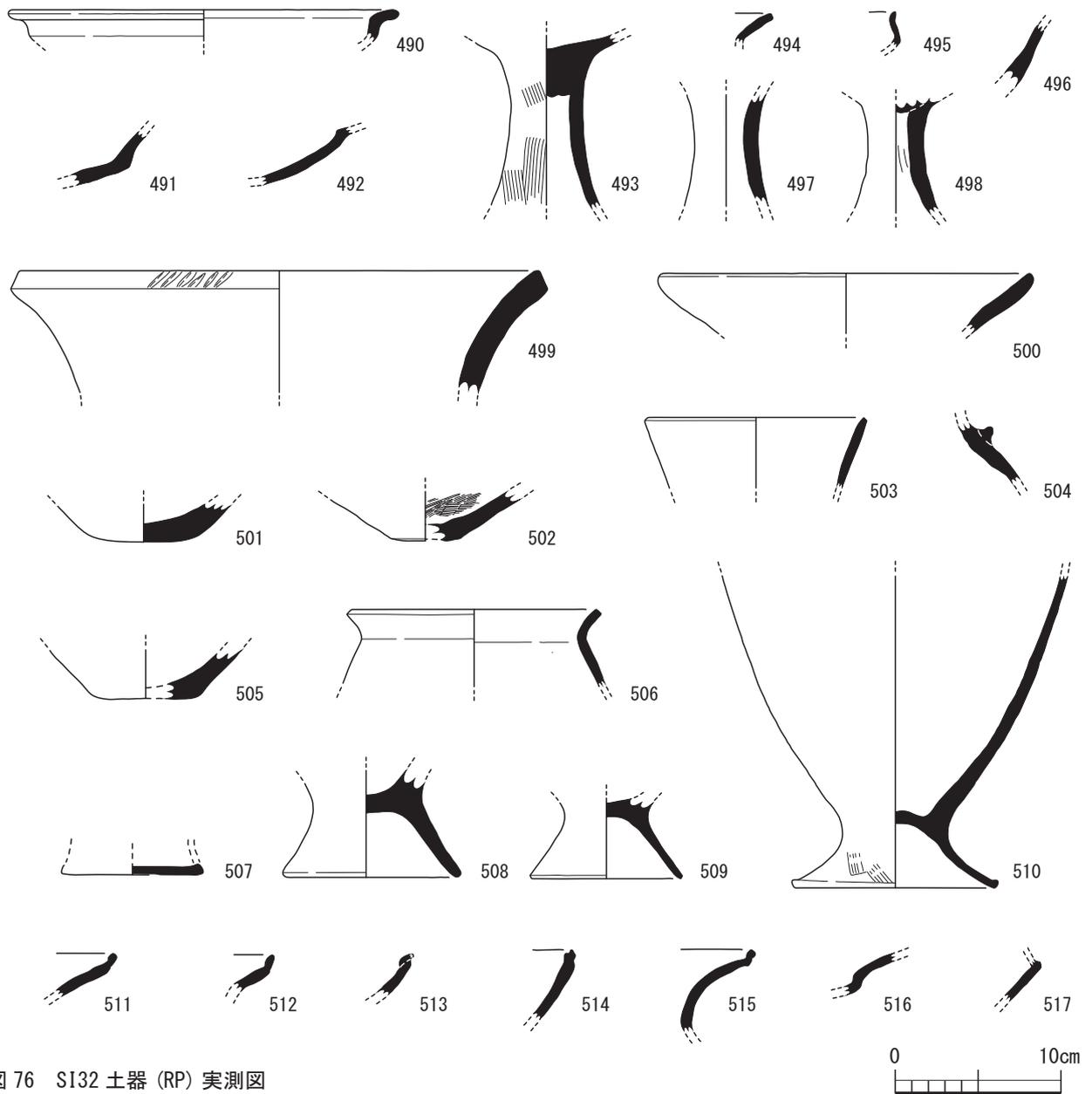


図 76 SI32 土器 (RP) 実測図

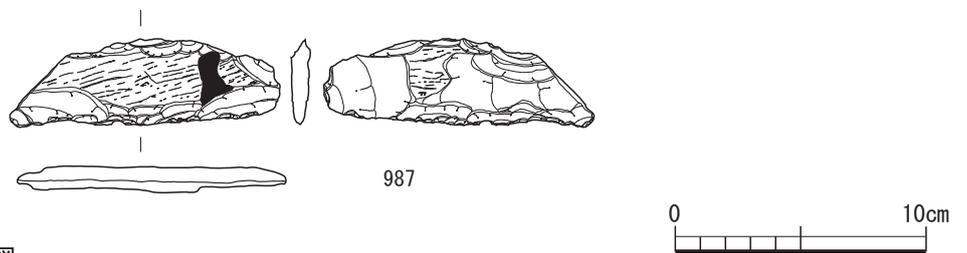


図 77 SI32 石器 (RQ) 実測図

石器は、石鎌未成品が出土している。
 以下に土層註記を記す。
 1：10YR2/2 黒褐色シルト。粘性は少し強く、しまりもある。0.2～0.6 cm大の焼土粒が1%程全体に散らばる。0.4 cm大の炭化物を1%程含む。土器も出土している。

2：10YR3/4 暗褐色シルト。粘性、しまり共にある。0.2 cm大の焼土粒を1%程含む。
 3：2の土より少し柔らかく、きめが細かい土。
 4：10YR3/3 暗褐色粘質土。粘性が少しあり、しまりもある。0.2 cm大の焼土粒を1%程含む。

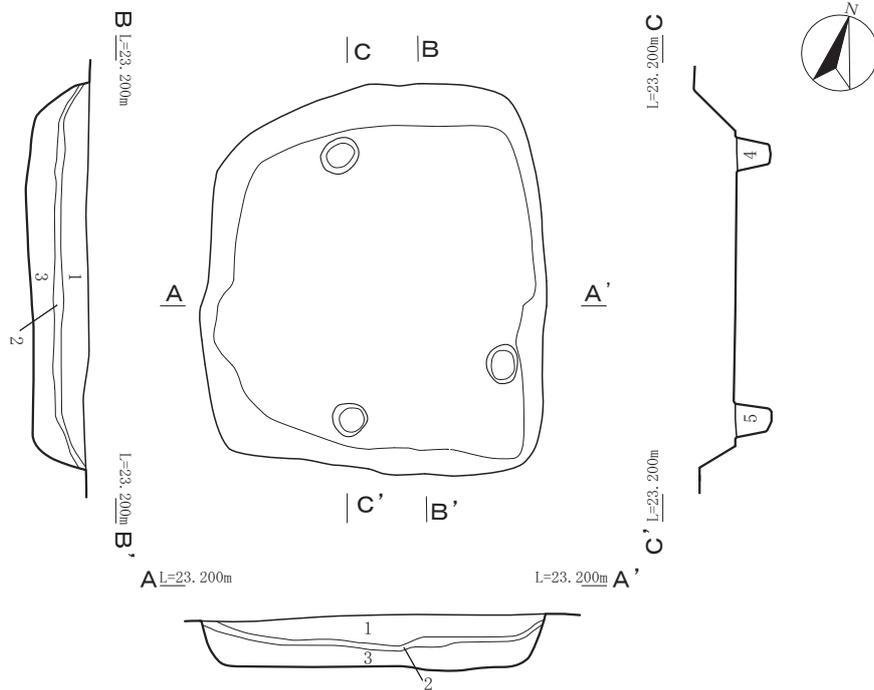


図 78 SI33 実測図 (1/60)

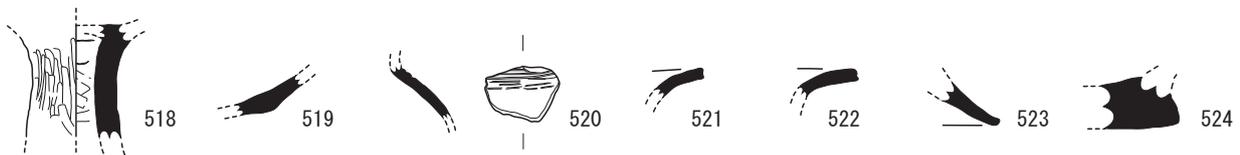


図 79 SI33 土器 (RP) 実測図



SI33

SI33 は、正方形を呈する 2 本柱建て堅穴住居跡である。SI33 の北側壁西半部は SK22 に切られる。V28 グリッドに位置する。

SI33 の法量は、南北 3.1m、東西 2.7m、遺構確認面からの深さ 45cm を測る。

主柱穴は、2 基、検出した。両主柱穴の平面プランは直径 25 cm の円形を呈し、床面からの深さ 15 cm を測る。両主柱穴は南、北側壁際に穿たれ、両主柱穴を結ぶ軸線は東、西側壁と平行に位置している。

炉、K ピット、ベッド状遺構等、その他の設備は検出していない。

床に硬化面が形成されていたか否かは不明である。

土器は、壺、甕、高坏破片が出土している。

以下に土層註記を記す。

1: 10YR3/4 暗褐色粘質土。しまりがあり、きめ細かい。

炭粒小 1%、焼土粒極小 1% 含む。

2: 10YR3/3 暗褐色粘質土。しまりは 1 より弱く、1 よりきめが粗い。炭粒小 2%、焼土粒極小 2% 含む。

3: 7.5YR4/3 暗褐色粘質土。しまりは 2 と同じ、1 よりきめが粗い。炭粒、焼土粒 1% 含む。

4: 7.5YR4/4 褐色粘質土。しまりが弱く、きめは粗い。

5: 7.5YR4/4 褐色粘質土。しまりが弱く、きめは粗い。土器片含む。

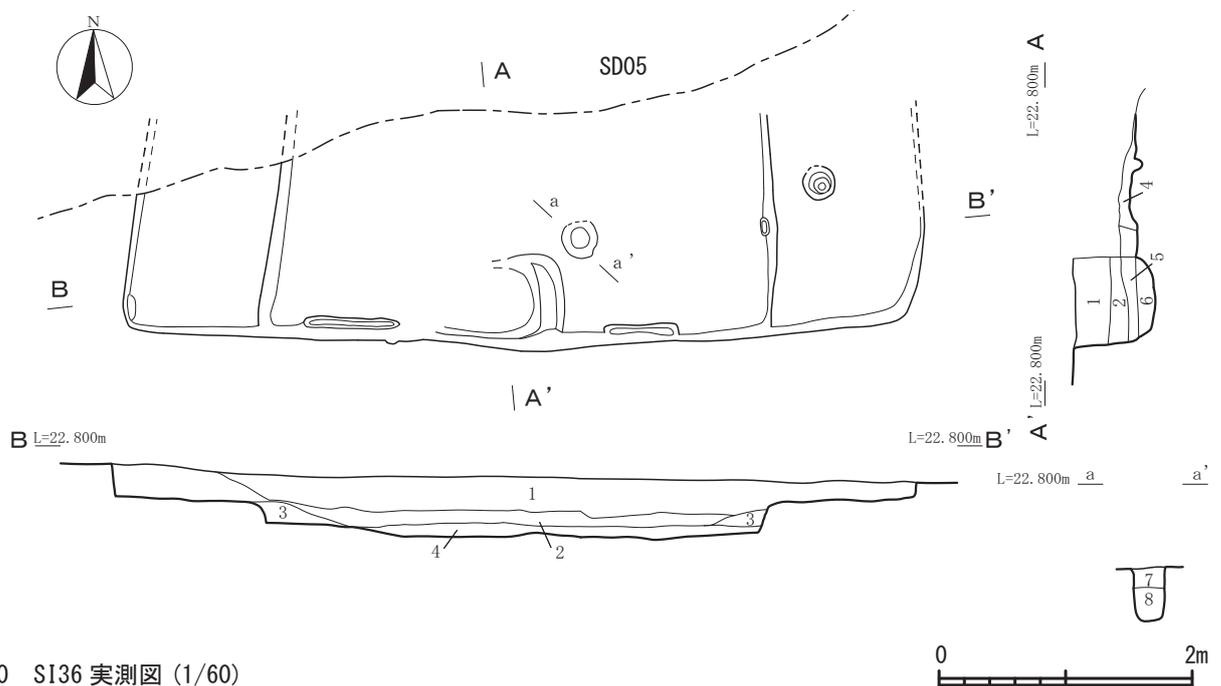


図 80 SI36 実測図 (1/60)



図 81 SI36 土器 (RP) 実測図



SI36

SI36 は、長方形を呈する 2 本柱建て堅穴住居跡である。K ピット、ベッド状遺構を確認している。SI36 の北半部は SD05 に切られる。Z36 グリッドに位置する。

SI36 の法量は、南北不明、東西 6.2m、遺構確認面からの深さ 50cm を測る。

主柱穴は、検出していないが、東、西に主柱穴 2 基を配する堅穴住居に復元することができる。

ベッド状遺構は東側壁、西側壁に沿って設置されている。その上面は東側壁に沿う部分で幅 110 cm、西側壁に沿う部分で幅 100 cm を測る。西側壁に沿うベッド状遺構上面には、西側壁に沿う側壁溝が確認されている。

K ピットは概ね長方形を呈し、南側壁に接して、その中央に位置する。深さ 15 cm ほどであり、深さ 10 cm の高さにテラスをもつ 2 段掘りとなっている。K ピット北東隅の外側には直径 30 cm のピットが確認されているが、これは K ピット柱穴の 1 基である。

床に硬化面が形成されていたか否かは不明である。

土器は、鉢が出土している。

以下に土層註記を記す。

1 : 7.5YR3/2 黒褐色粘質土。しまりがあり、1 cm 弱の土器片を 2 つ含む。極小～5 mm 大の粒状の焼土、炭化物を少量含む。

2 : 7.5YR3/2 黒褐色粘質土。1 より少ししまりが弱い。1 と同じ混入物が入る。

3 : 7.5YR3/3 暗褐色粘質土。1 cm 大の土器片を 1 つ含む。極小～5 mm 大の粒状の焼土、炭化物を少量含む。

4 : 10YR4/3 にぶい黄褐色土。きめは少し粗く、粘性がわずかにあり、ややしまっている。極小大の砂及び黄褐色土がごく少量入る。貼り床層にあたる。

5 : 7.5YR3/3 暗褐色粘質土。5 mm 大の焼土粒を 1% 程含む、硬くしまっている。

6 : 7.5YR4/4 褐色粘質土。1 cm 大の土器片を 2 つ含む。5 よりやや粘質が強い。

7 : 10YR4/4 褐色粘質土。きめはやや細かく、硬くし

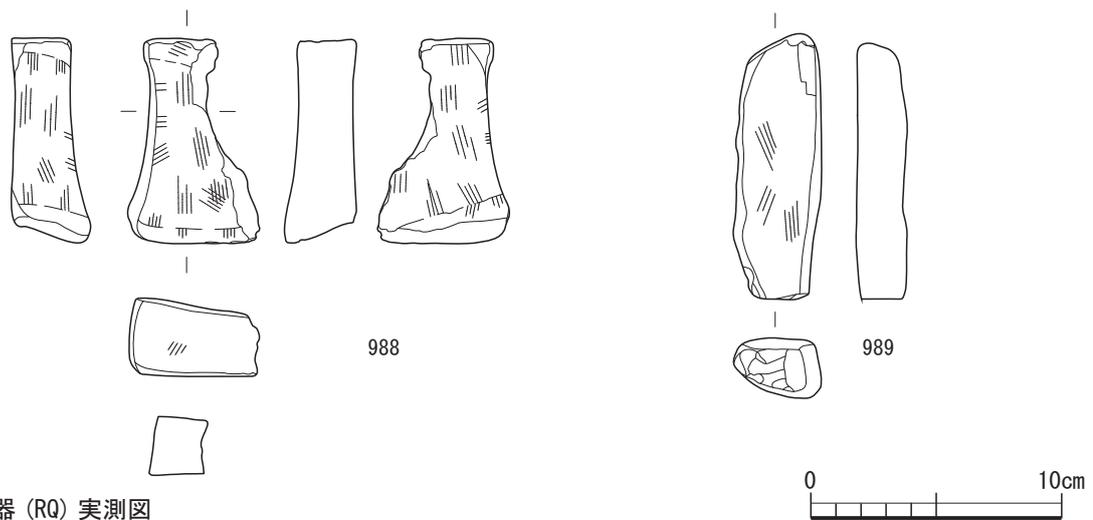


図 82 SI36 石器 (RQ) 実測図

まっている。明黄褐色の極小大～1 cm大のブロック状の粒を5%程度含む。

8:10YR4/4 褐色粘質土。7と同じだが、やや粘質が強く、混入した明黄褐色土が極小大～10 cm大と粒も大きく、より多く入っている。

SI38

SI38は、長方形を呈する4本柱建て堅穴住居跡である。炉、ベッド状遺構を確認している。SI38の南西隅はSI17に切られる。X31グリッドに位置する。

SI38の法量は、南北不明、東西6.4m、遺構確認面からの深さ45cmを測る。

主柱穴は、2基を検出したが、2×2の計4基に復元することができる。北東主柱穴の平面プランは長径45cmの楕円形を呈し、床面からの深さ88cmを測り、北側壁に沿ったベッド状遺構の南端部に位置する。南東主柱穴の平面プランは長径50cmの楕円形を呈し、床面からの深さ63cmを測り、床面南西隅に位置する。両主柱穴を結ぶ軸線は東側壁と平行に位置している。

炉は、直径80cmの円形を呈し、15cmの深さである。炉底には焼土が存在した。

ベッド状遺構は東側壁、南側壁に沿い、南東隅で接続して設置されている。その上面は東側壁に沿う部分で幅100cm、南側壁に沿う部分で幅50cmを測る。東側壁に沿うベッド状遺構は、南東主柱穴の北側付近を境として、北側部分が10cm程低くなる。

Kピット等、その他の設備は確認していない。

床には、硬化面がある。

土器は、壺、甕、高坏、鉢の他、ジョッキ形土器が出土している。

以下に土層註記を記す。

1:10YR4/3 にぶい黄褐色土。きめはやや細かく、粘性がごく少量あり、硬くしまっている。極小大の白色の砂粒が多量、極小大の粒状の橙色の土がごく少量入っている。

2:10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性が少しあり、しまりもある。極小大～1 cm大の炭化物が5%程度、極小大の橙色の粒状の焼土と極小大の白色の砂粒がごく少量入る。土器片も多量に入る。

3:10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性があり、しまりはやや弱い。

4:10YR3/1 黒褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性が少しあり、しまりはあるが、2より弱い。極小大～5 cm大の炭化物片が多量に入り、極小～1 cm大の焼土が多量に入る。さらに、大きめの土器片及び鉄鏝1点検出。

5:10YR4/4 褐色土。きめは細かく、非常に硬くしまっている。10YR6/6 明黄褐色の土が1～10 cm大のブロック状に非常に硬いブロックで多量に入っている。硬化面層にあたる。

6:10YR3/3 暗褐色粘質土。きめは細かく、粘性があり、ややしまっている。5 mm大の炭化物片が少量入っている。

7:10YR3/3 暗褐色粘質土。きめは細かく、粘性があり、ややしまっている。土器片が1つ入っている。

8:10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性があり、ややしまっている。

9:10YR3/4 暗褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性があり、ややしまっている。

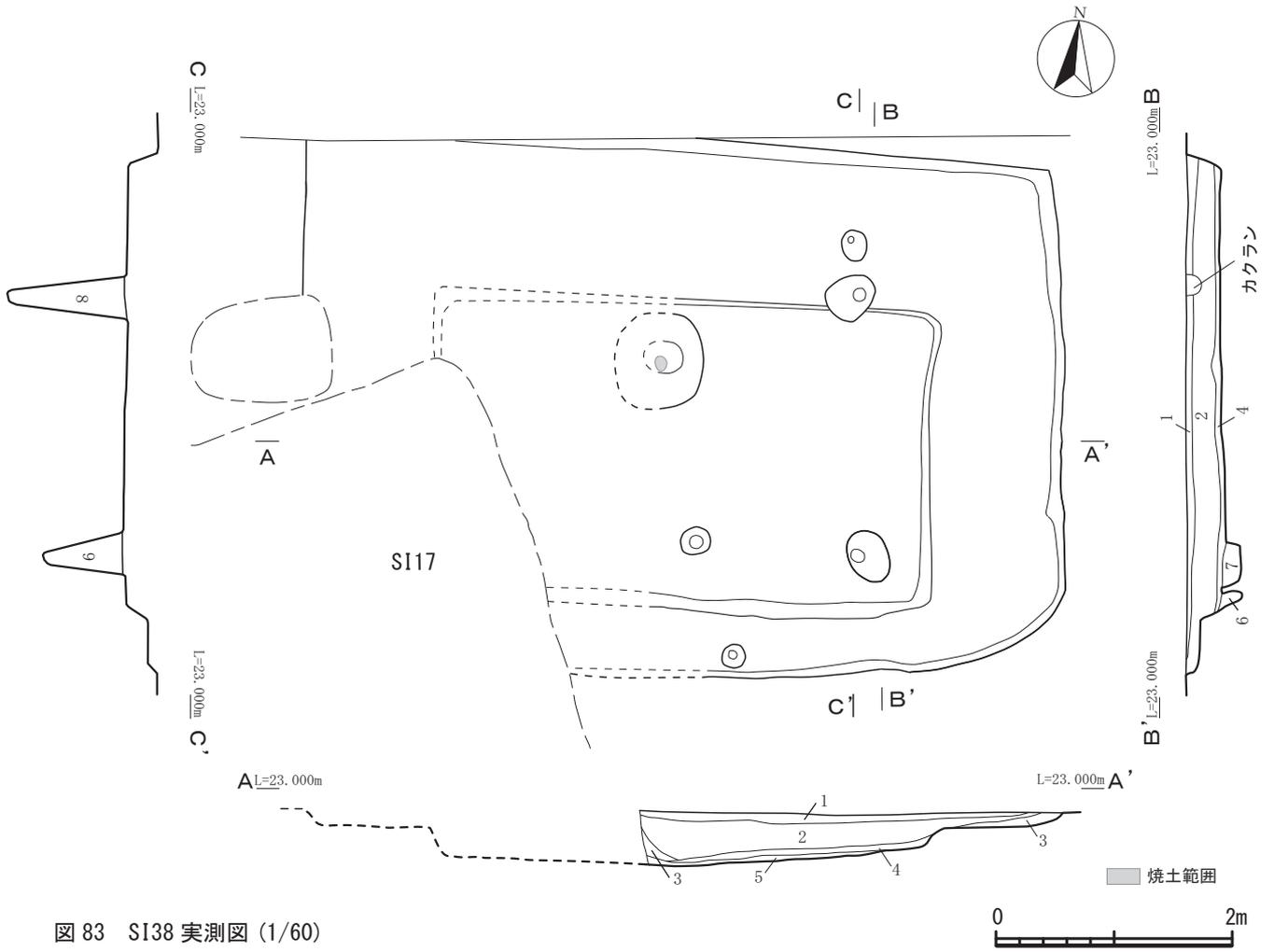


図 83 SI18 実測図 (1/60)

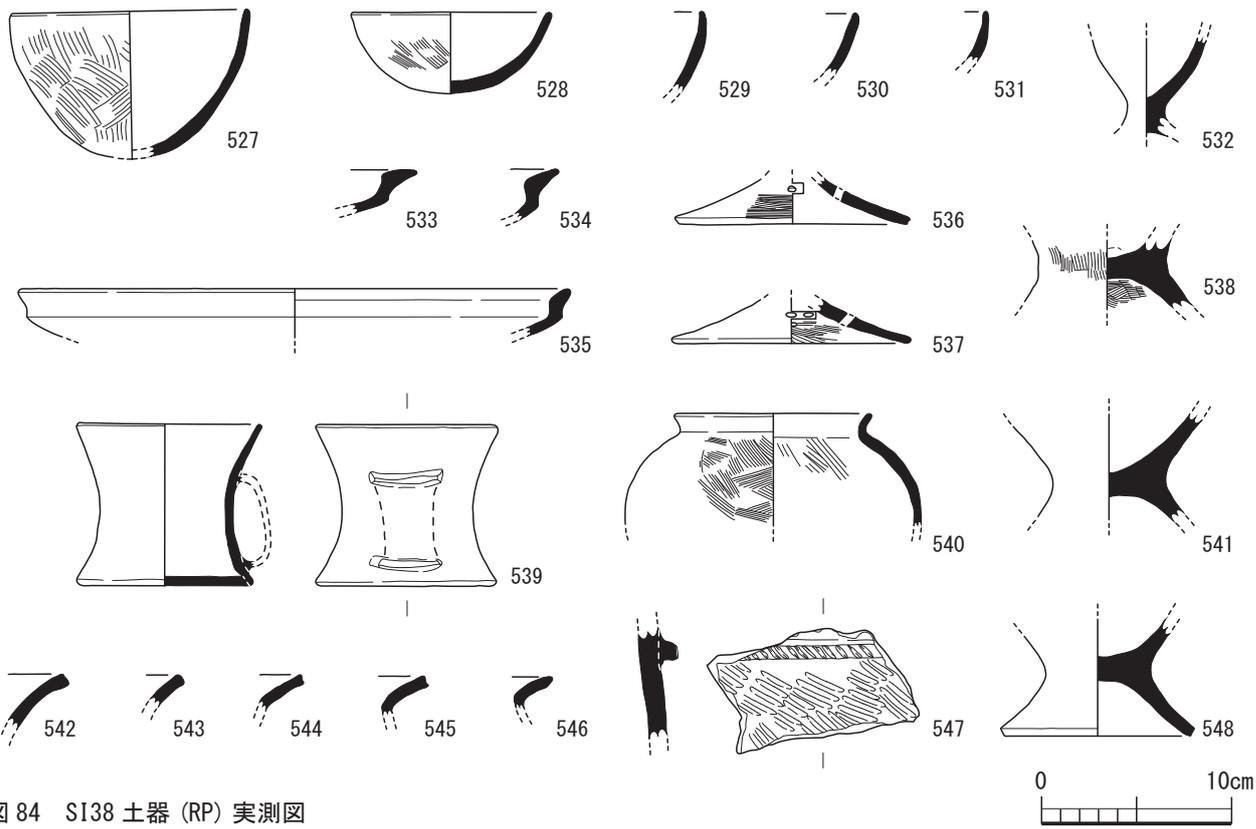


図 84 SI18 土器 (RP) 実測図

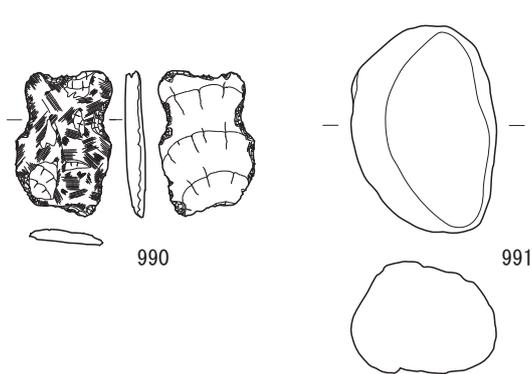


図 85 SI38 石器 (RQ) 実測図

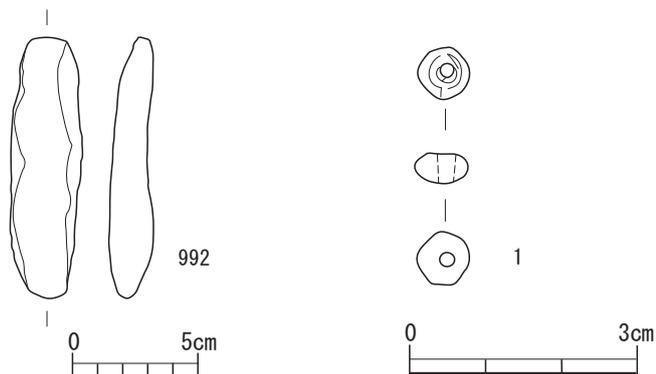


図 86 SI38 ガラス玉実測図

2-3 溝 (SD)

溝は、SD01、03、04、05、06、07、10、11、12 の 9 条である。なお、SD02、08、09 は、欠番である

弥生時代に所属する遺構は、SD01、03、小計 2 条である。所属時期が不明な遺構は、SD04、05、小計 2 条である。その他の溝は、「道路 (SF)」の付帯設備として現地調査された。

SD01

SD01 は、東西に走る条溝である。側溝 SD03 が付設されている。条溝の西端部を検出したが、東端は後代の道路等に破壊され確認することができない。SD01 は SF01、03、04、05 に切られている。L8 グリッドに位置する。

SD01 の法量は、現況長が約 74m、最大幅 8.1m、最小幅 3.2m、底最大幅約 4m、確認面からの深さ 1.4m を測る。

SD01 の断面形は、南側壁が切り立ち、北側壁が南側壁よりは緩やかに傾斜した台形を呈している。斜面、底面ともに概ね平面化されている。検出範囲中央部の底面 (断面 B-B' から C-C' まで) には、さらに幅 2.2m 程の溝が掘り込まれている。溝上端部に幅 60cm 程度のテラスが付設される箇所 (断面 A-A'、C-C' 等) が複数認められるが、いずれも北側に設けられている。

SD01 は、全体としては北側に中心を有する円の弧線を描いているが、条溝自体は直線として掘削されている。SD01 を観察すると、条溝の底面幅の変換点、条溝の走向の変換点を区切りとして、長さ 12m 程度の直行溝が接続して条溝を形作っていることが判明する。この長さ 12m 程度の直行溝は条溝の掘削単位であり、その連続体である条溝は、掘削単位の配列、掘削

の順序、掘削後の整形等、明確な企図に基づき掘削されたと評価する。先述した検出範囲中央部の底面付設溝は、最初の掘削時の掘方痕跡であろう。

SD01 の南側には、側溝 SD03 が付設されている。

SD01 の西端は、方形に切り込まれ、その底面は東側底面より一段高くなり、テラス状となっている。西端部の直前地点 (断面 D-D') における確認面からの深さは 85cm であり、条溝の西端部と判断する。ここは、条溝が途切れる地点であり、集落の入口と評価する。この入口は調査区の西端に位置するため、入口を挟んで位置する条溝、門跡、柵列等は検出されていない。なお、側溝 SD03 の東半部は SD01 に並走しているが、入口の約 25m 手前で南に屈折している。これは、条溝、側溝等で構成される区画帯が、集落の入口付近で様相を変化させているのであり、広場等が設置されていたことを示唆している。

SD01 の北側、南側、両側に堅穴住居は存在しているが、検出された SD01 の弧線の中心が北にあること、築地館跡が位置する丘陵頂部は北側にあることから、弥生時代の集落の中心は北側にあったものと考えられる。

SD01 の検出状況は上記のとおりであるが、SD01 は後代の道路等に破壊された部分より東に、さらに伸びるものと考えられる。現地調査段階では、SF03、05 は、SD01 が埋没したくぼみ状の低地を利用して作られた道路である、と考えていた。ただし、SF03、05 の調査完了後に両遺構を除去し、SD01 が遺存しているか否かを判断するための調査は行っていない。整理段階においては、航空写真、周辺地図から、SD01 の東延長部分は、SF03、05 の東西走向部分が該当し、さらに築地館跡が位置する丘陵を囲む形で復元できるものと考えている。

土器は、多くの弥生土器が出土している。

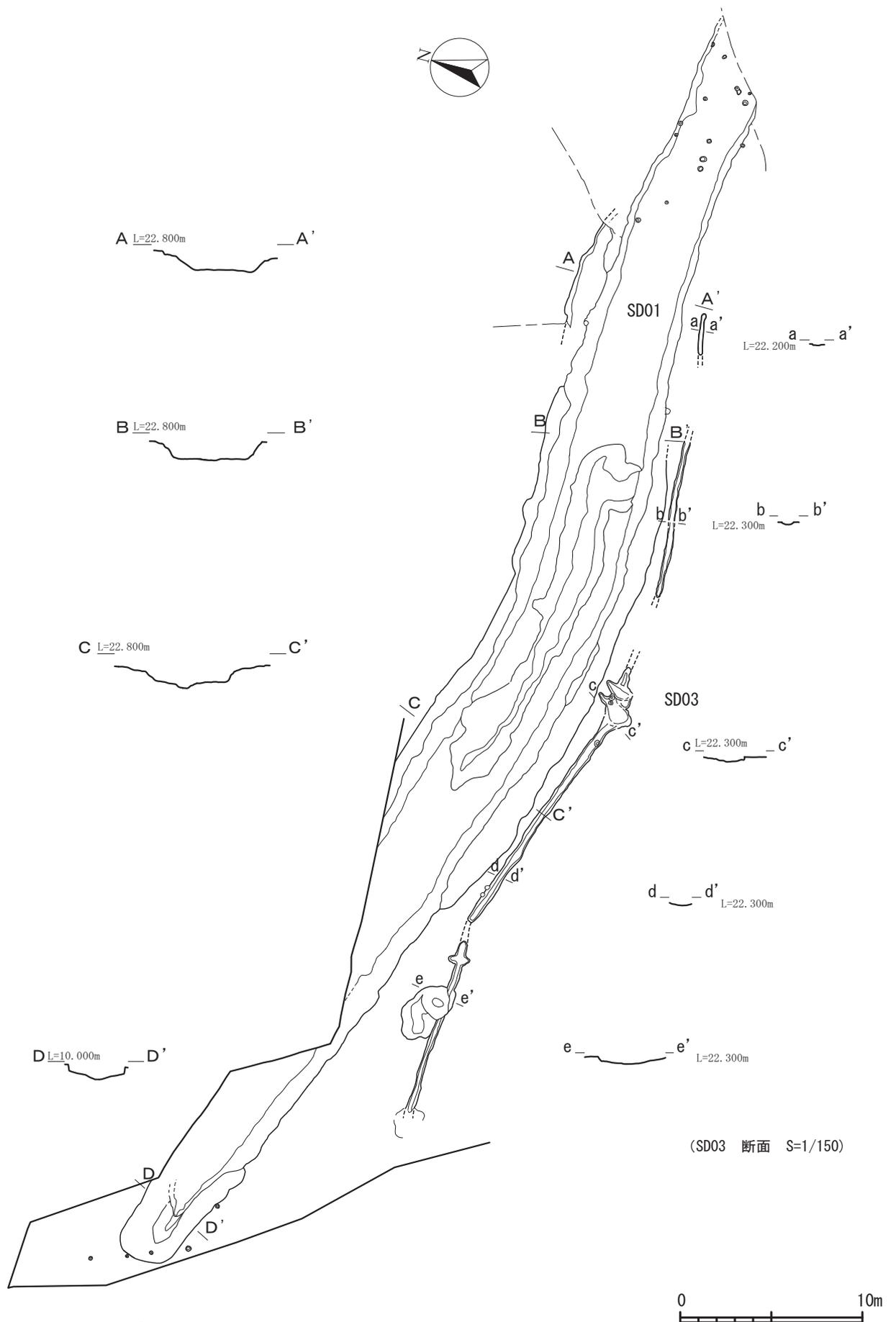


图 87 SD01、SD03 実測図 (平面図 · 1/300)

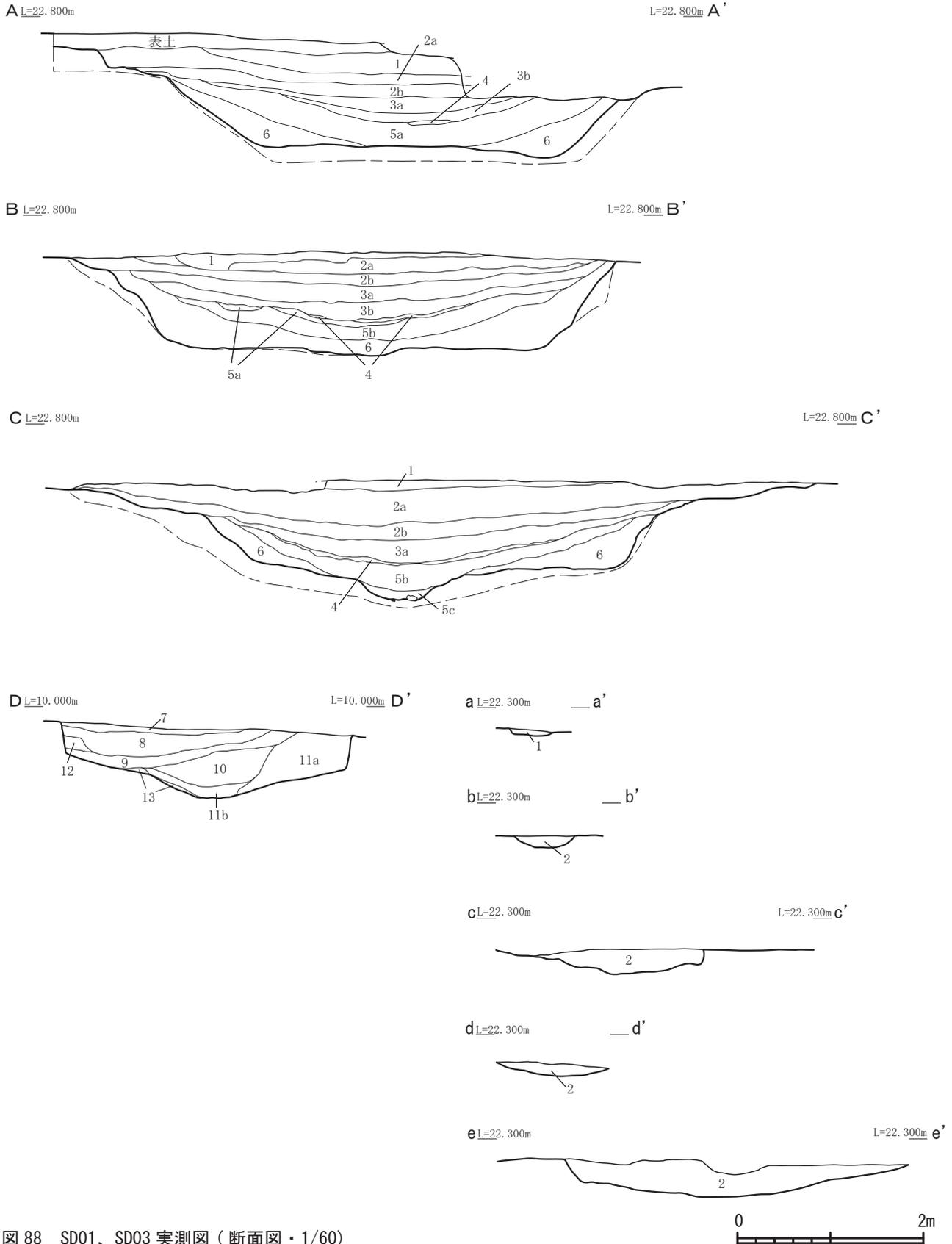


図 88 SD01、SD03 実測図 (断面図・1/60)

以下に、土層註記を記す。

1 : 10YR2/2 黒褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性がわずかにあり、非常に硬くしまっている。極小大の

10YR5/8 黄褐色の粒や砂粒を多量に含んでいる。又、所々に 1 cm 前後大の黒い粒が存在する。

2a: 10YR4/4 褐色粘質土。きめは粗く、粘性がややあり、

硬くしまっている。10YR5/8 黄褐色や黒色の極小大の粒、さらに白い砂粒を多量に含んでいる。細かい土器片も全体的に入っている。又、上部に1 cm前後の黒い粒が10 cm位の幅の層で入っている。

2b : 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土。土質、混入物は基本的に2aと同じだが、2aに比べ、やや色調が暗く、粘性もやや強い。2a 上部に存在した1 cm大の黒い粒は存在しない。

3a : 10YR3/3 暗褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性、しまりに共にややある。全体的に極小大の黄褐色、明黄褐色の粒を多量に含み、部分的に10YR6/8 明黄褐色の3～10 cm大のブロック状の土を含んでいる。土器片も全体的に含んでいる。

3b : 10YR3/2 黒褐色粘質土。3a に比べ、やや暗い色調であり、よりややしまる。それ以外は3a と土質、混入物と共に同じである。

4 : 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土。きめは細かく、しまった粘土層。極小大(1mm程度)の黒色粒、赤褐色粒を全体的に多量に含んでいる。

5a : 10YR2/2 黒褐色粘質土。下層の5b に比べ、きめはやや粗く、やや粘性が弱い。5b の粘土質に比べて、少し砂まじりの土と言える。

5b : 10YR2/2 黒褐色粘質土。きめは細かく、硬くしまっており、粘土に近い。全体的に1mm大の赤褐色を多量に、又、1～3mmの極小大の黄褐色粒をまばらに含んでいる。大きめの土器片や小型でも密集した土器片が多量に出土。又、拳大～20 cm大の石も所々で検出した。

5c : 10YR3/2 黒褐色粘質土。5b に比べ、やや黒味が強く、茶色味が少ない砂混じりの層。きめは細かく、しまりは5b に比べ弱い。極小大の黒色粒、黄褐色粒、赤褐色粒をまばらに含む。底部で密集した細かい土器片が多量に出土した。

6 : 10YR5/6 黄褐色粘質土。きめは粗く、粘性、しまりに共にややある。極小大の黒色粒、黄褐色粒を全体的に多く含んでいる。下層にいくにつれ砂混じりの土に変化する。

7 : 7.5YR3/4 暗褐色粘質土。粘性は弱く、しまりがかなり強い。炭化物や砂が多く混じる。又、下部に10の土が混じる。

8 : 7.5YR3/4 暗褐色粘質土。粘性は弱く、しまりがかなり強い。砂の層が部分的に混じる。又、こげ茶色の斑点が多く入る。

9 : 10YR3/3 暗褐色粘質土。粘性は弱く、しまりがかなり強い。下部はきめが粗く、土器片が部分的に入る。

10 : 10YR5/6 黄褐色粘質土。粘性はややあり、しまりがかなり強い。2～3mm大の礫が多く混じる。両側は砂が少し混じる。土器片が所々見られ、下部にこげ茶色の斑点が見られる。

11a : 7.5YR5/6 明褐色粘質土。粘性はややあり、しまりがかなり強い。10 よりきめが細かく、所々にこげ茶色の斑点状の混じりが見られる。両側は砂が少し混じり、部分的にやや暗くなっている。

11b : 11a より、やや暗い。

12 : 7.5YR2/3 黒褐色粘質土。粘性はややあり、しまりがかなり強い。土器が部分的に出土する。又、礫、こげ茶色の土が所々に混じる。

13 : 10YR5/8 黄褐色粘質土。粘性はややあり、しまりがかなり強い。こげ茶に近い黒色の土が斑点状に入る。

SD02

SD02 は、欠番である。SD02 は、竪穴住居として調査されていた遺構が、現地調査段階で溝との判断のもとSD02 に名称変更され、さらに整理段階で竪穴住居SI01 であると結論された遺構である。

詳細は、SI01 に記述したSI01 調査の経緯を参照されたい。

SD03

SD03 は、東西に走る条溝である。SD01 に並走する。K6 グリッドに位置する。

SD03 の法量は、現況長が約48m、幅約30 cm、確認面からの深さ約10 cmを測る。

SD03 の断面形は、ボウル形を呈している。複数箇所(c-c'、e-e'、西端部)において土壌と複合しているが、詳細は記録されていない。SD03 は、集落入口の約25m手前で南に屈折している。屈折するまではSD01 に約37m並走し、屈折してから約11m直進し、土壌と複合して終端となる。なお、SD01 には小ピットが3基、検出されている。

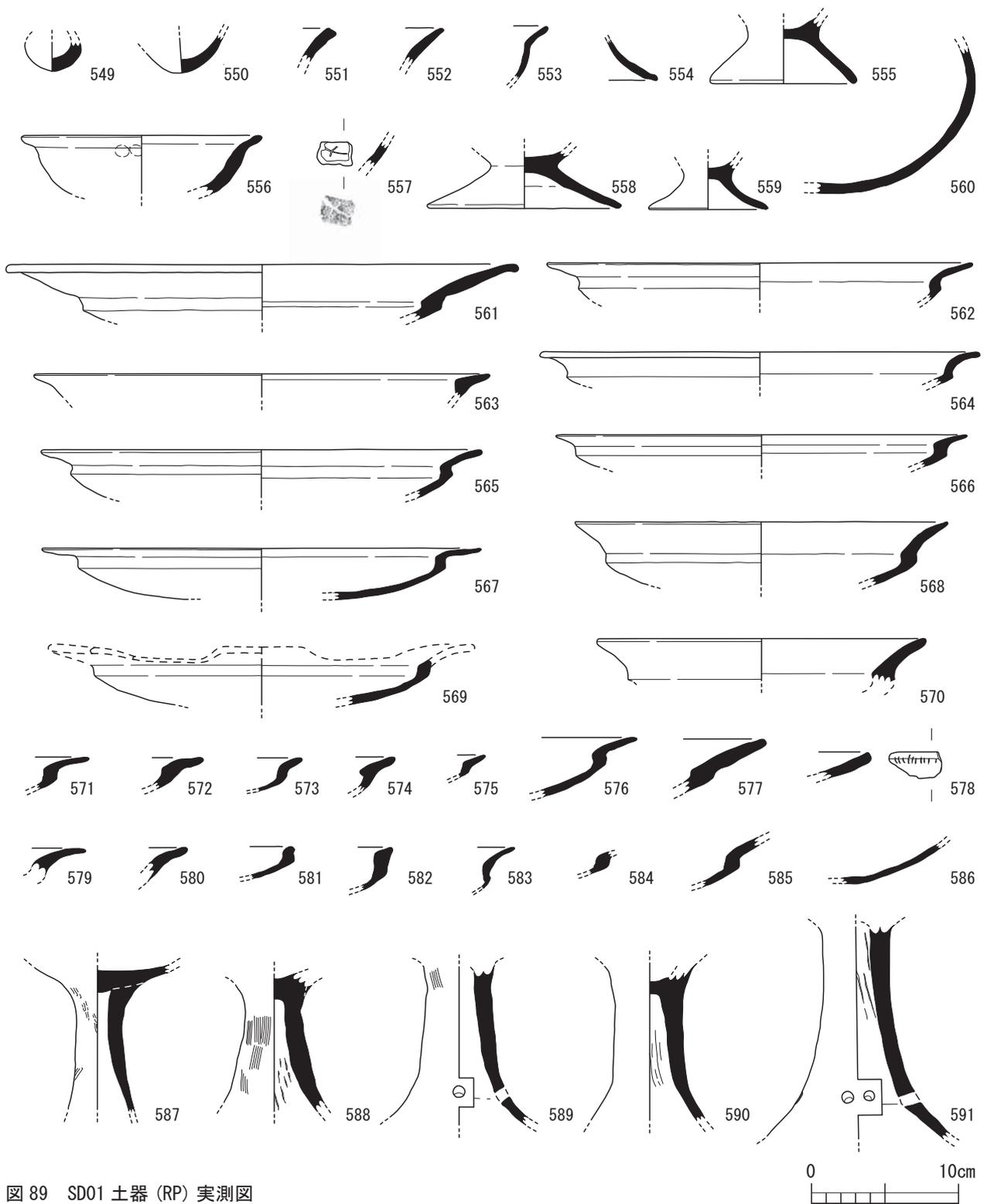


図 89 SD01 土器 (RP) 実測図

SD03 は、その平面、断面の形態、法量等からは柵列の基礎構造として捉えることはできない。

土器は、弥生土器が出土している。

以下に、土層註記を記す。

1 : 7.5YR4/4 褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性がわずかにあり、硬くしまっている。極小大~1cm弱大

の黒色の粒状の土を 10%程度含んでいる。

2 : 10YR4/4 にぶい黄褐色土。きめはやや細かく、粘性がわずかにあり、硬くしまっている。中に、極小大の粒状の黒色、暗褐色、橙色の土が少量入る。

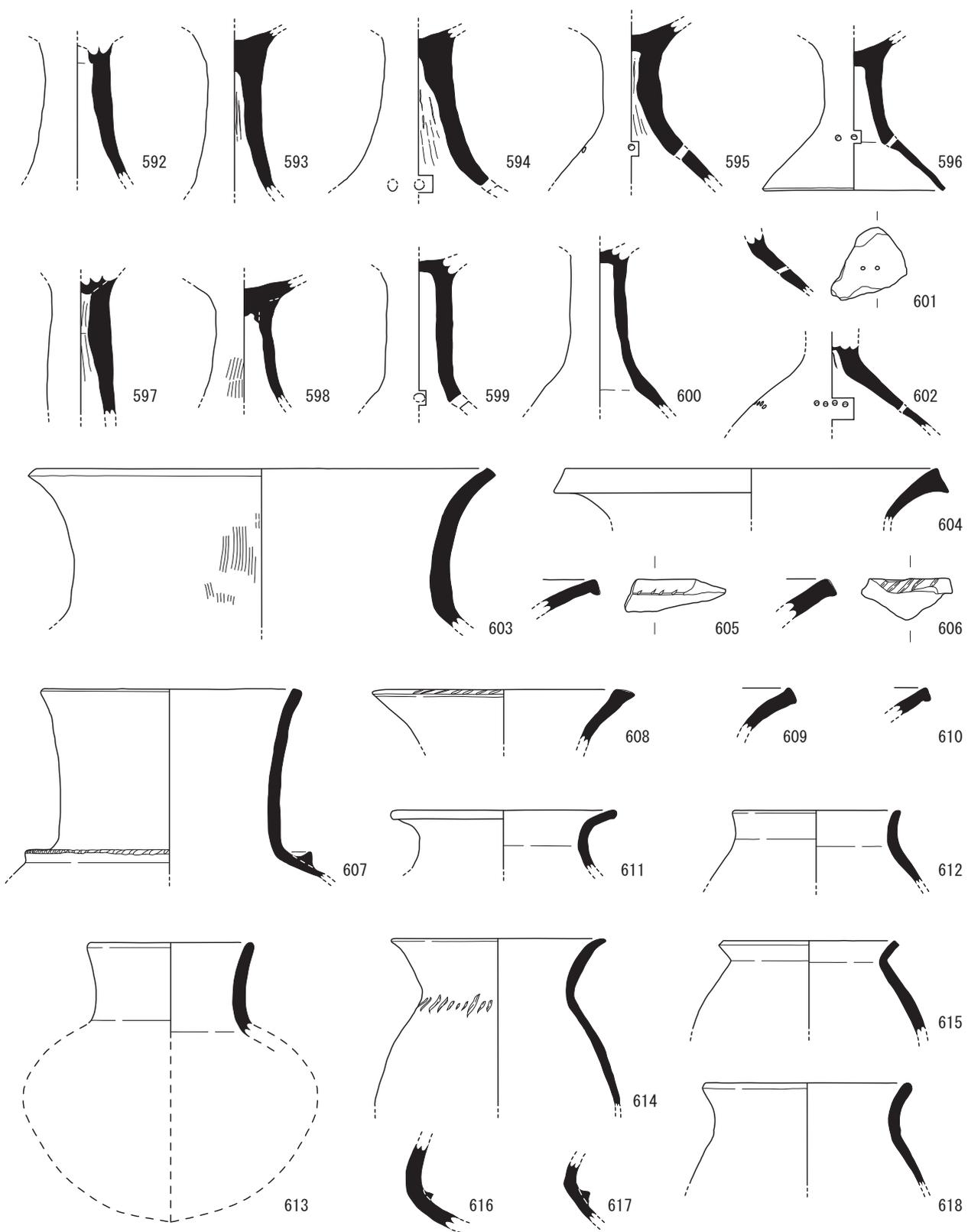


图 90 SD01 土器 (RP) 实测图

0 10cm

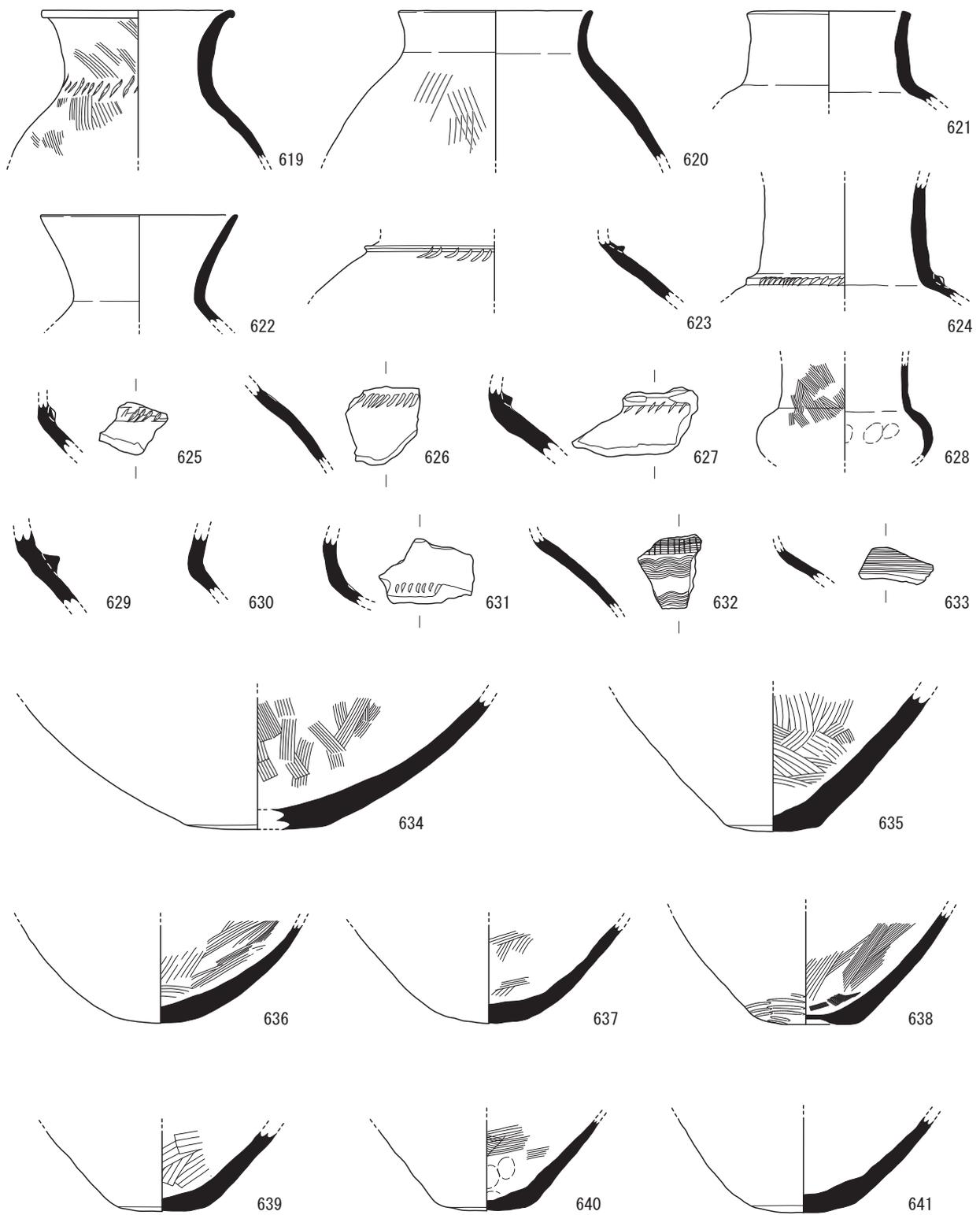


图 91 SD01 土器 (RP) 实测图

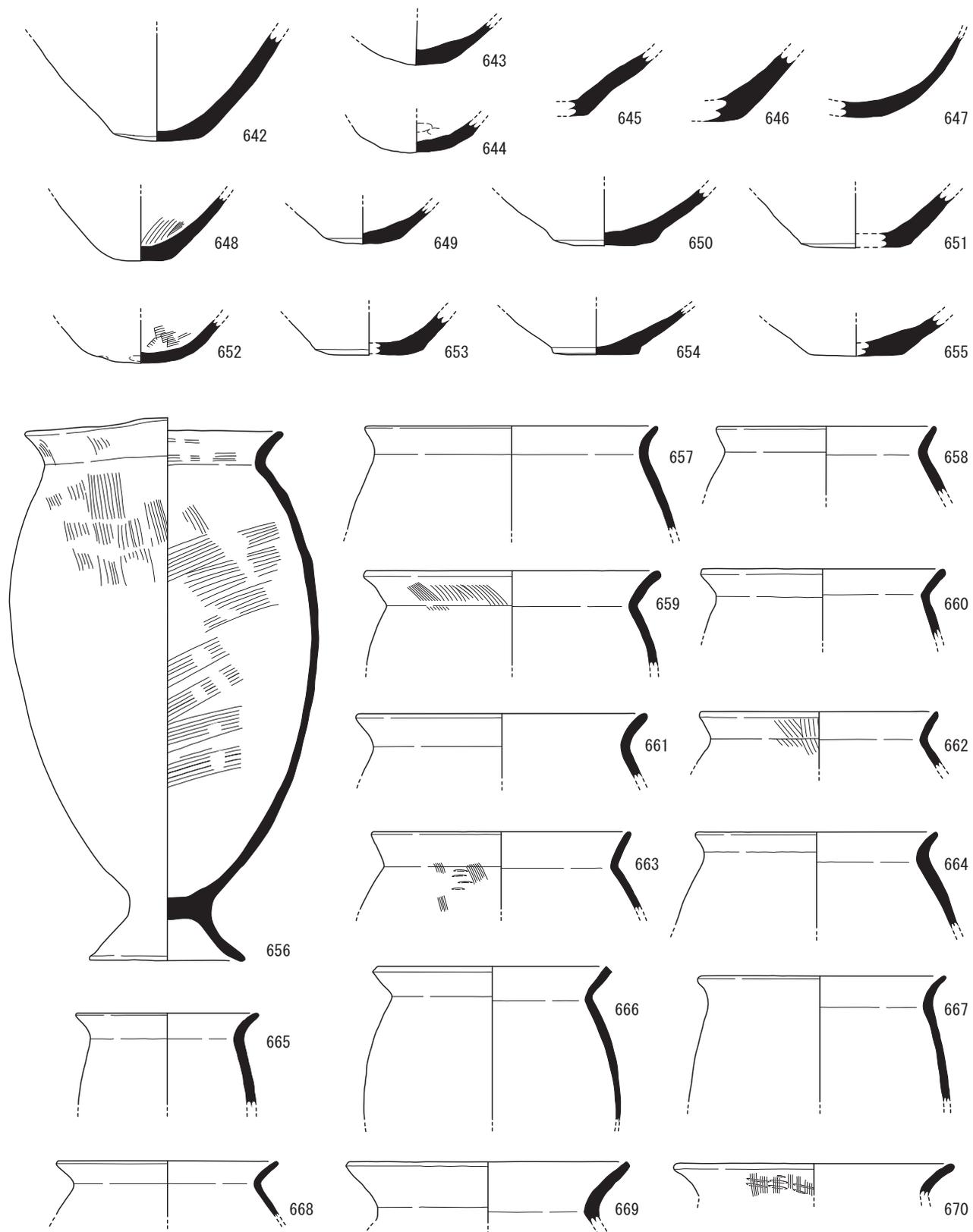


图 92 SD01 土器 (RP) 实测图

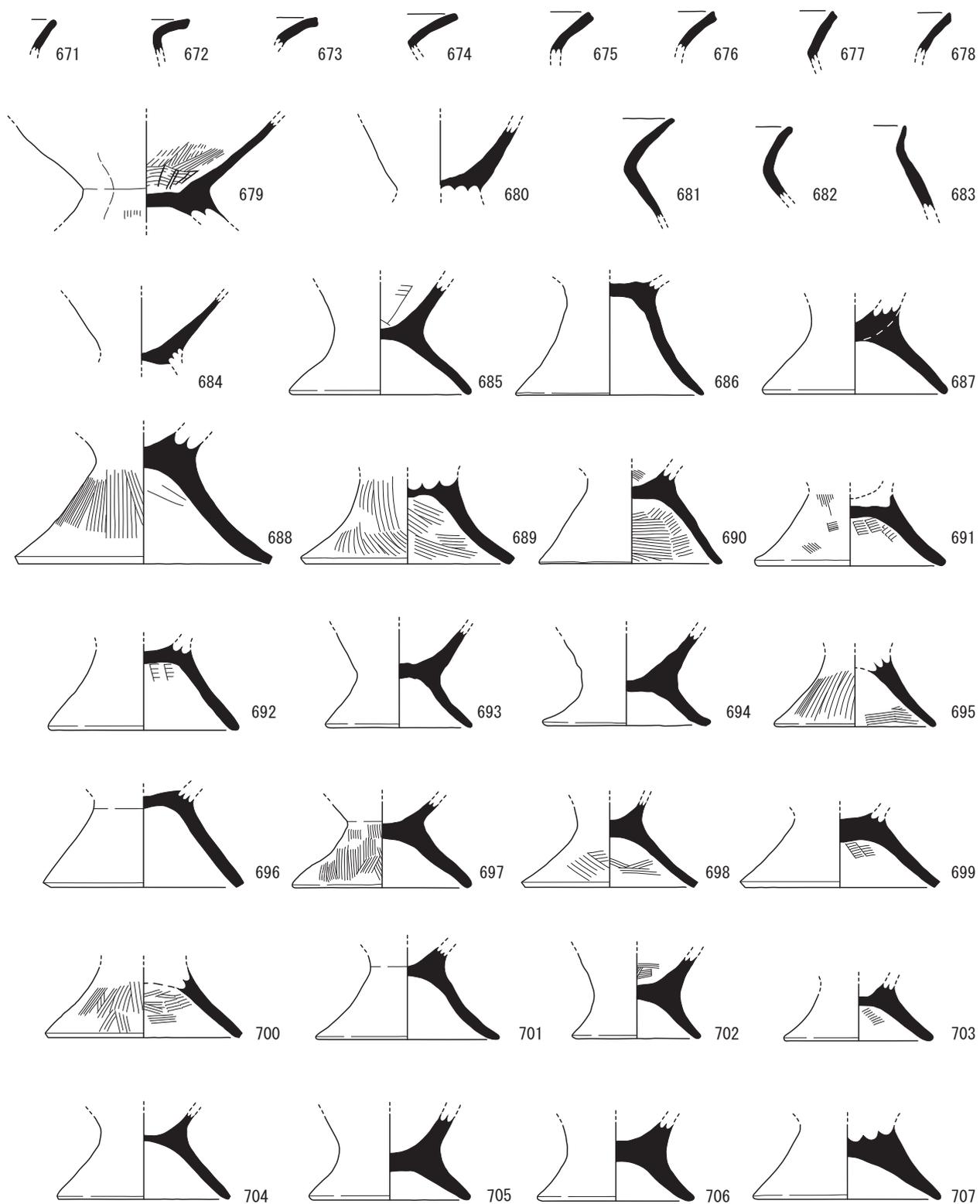


图 93 SD01 土器 (RP) 实测图

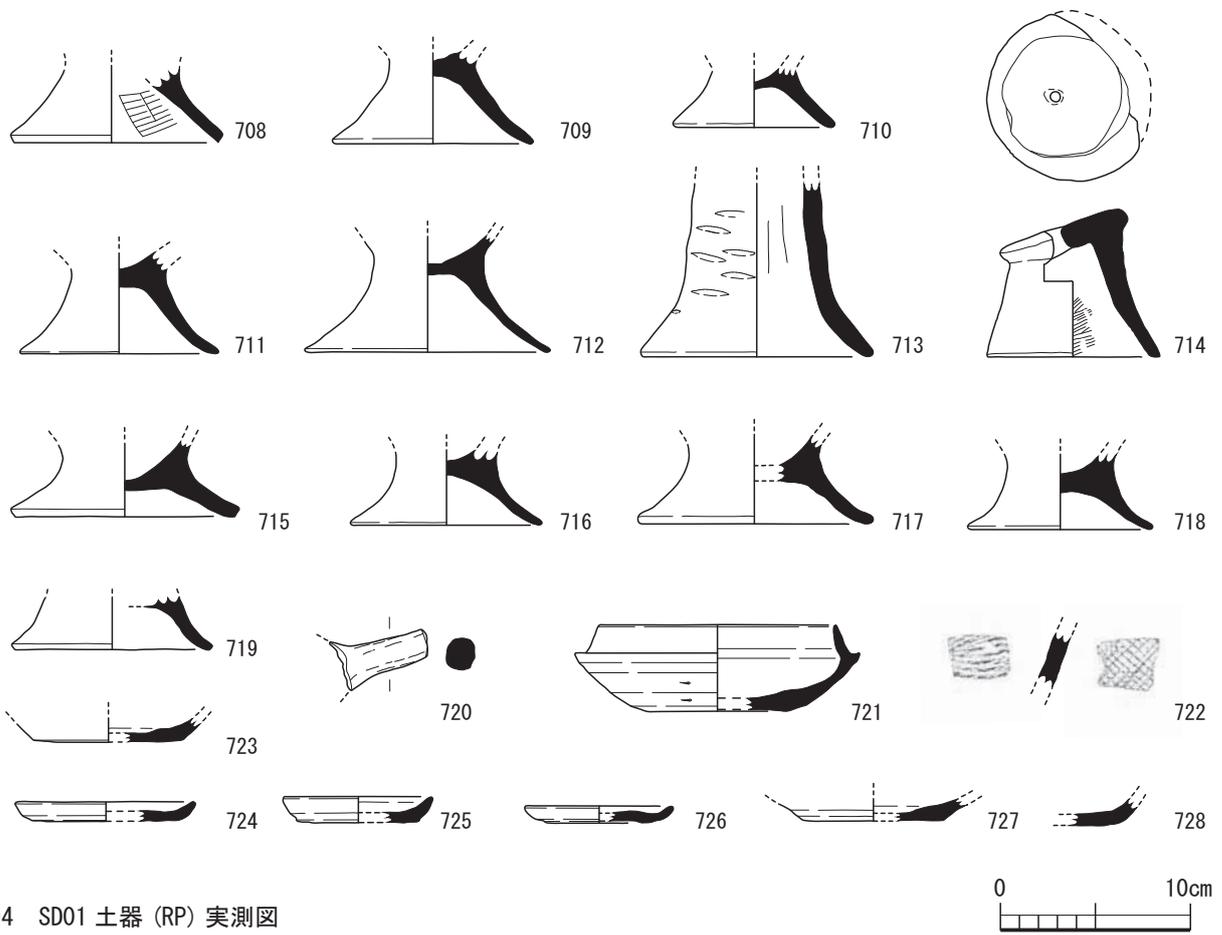


图 94 SD01 土器 (RP) 实测图

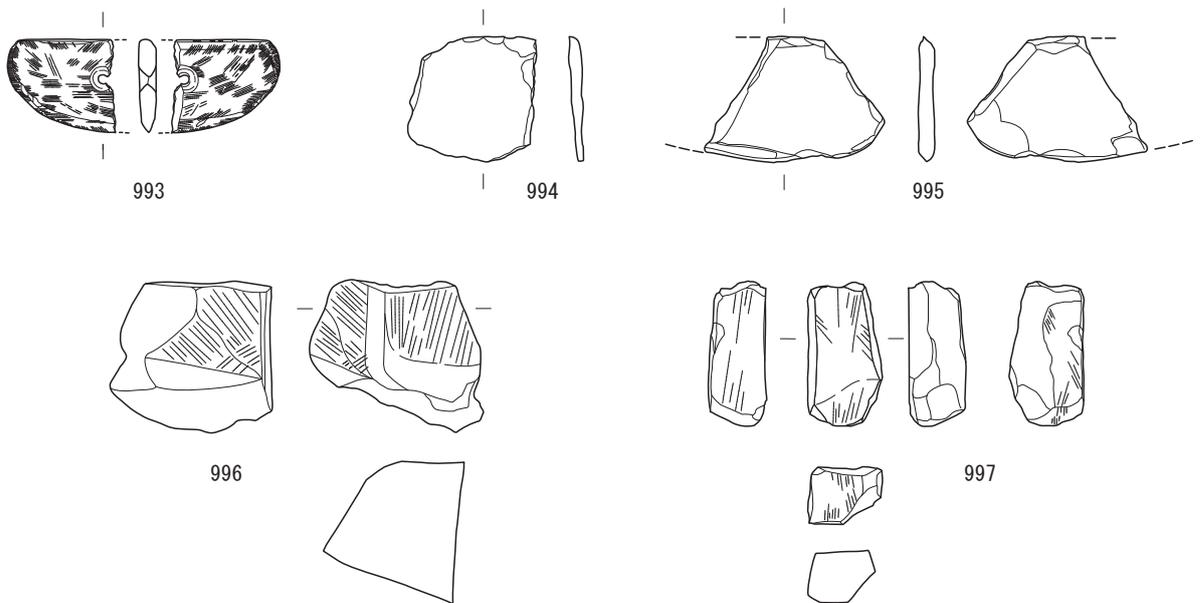
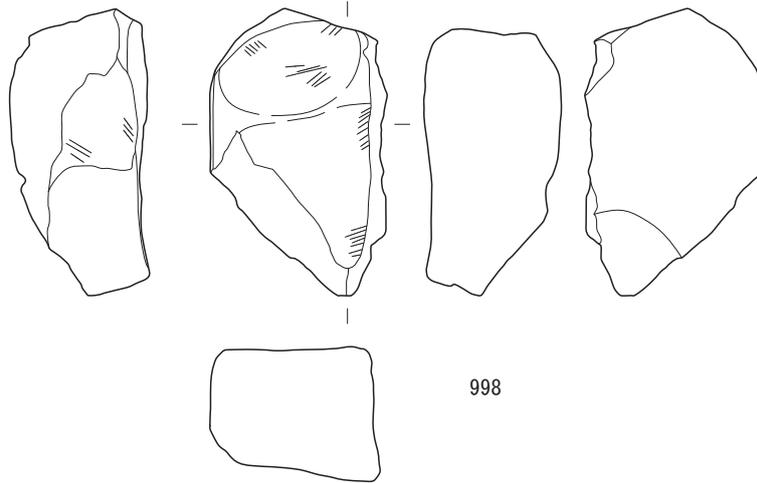
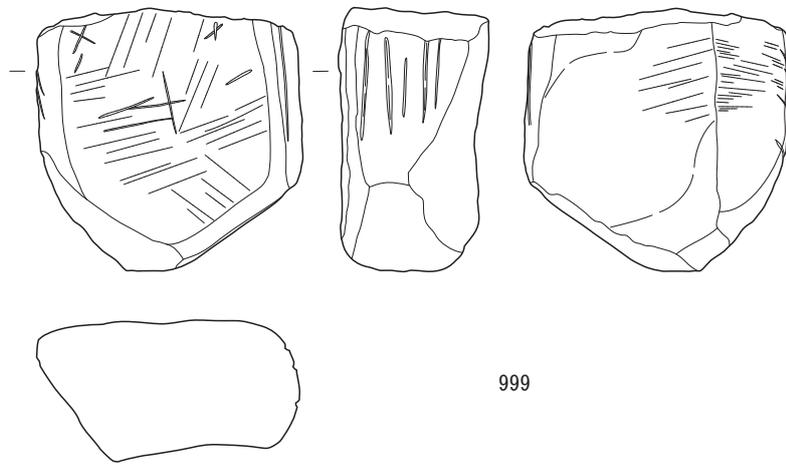


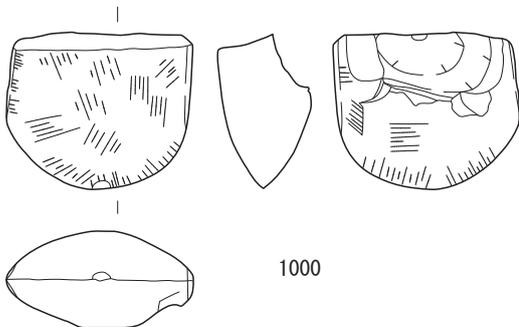
图 95 SD01 石器 (RQ) 实测图



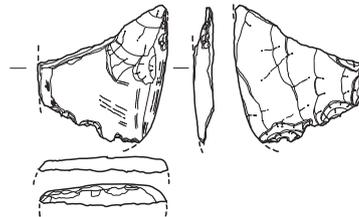
998



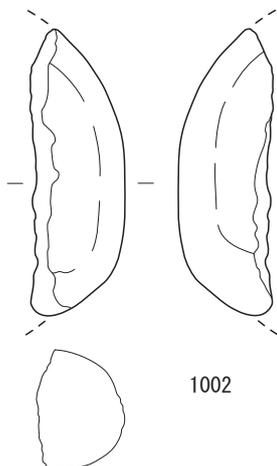
999



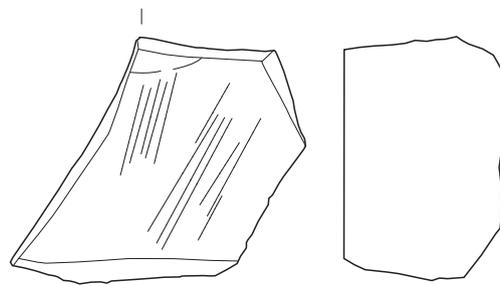
1000



1001



1002



1003



图 96 SD01 石器 (RQ) 实测图

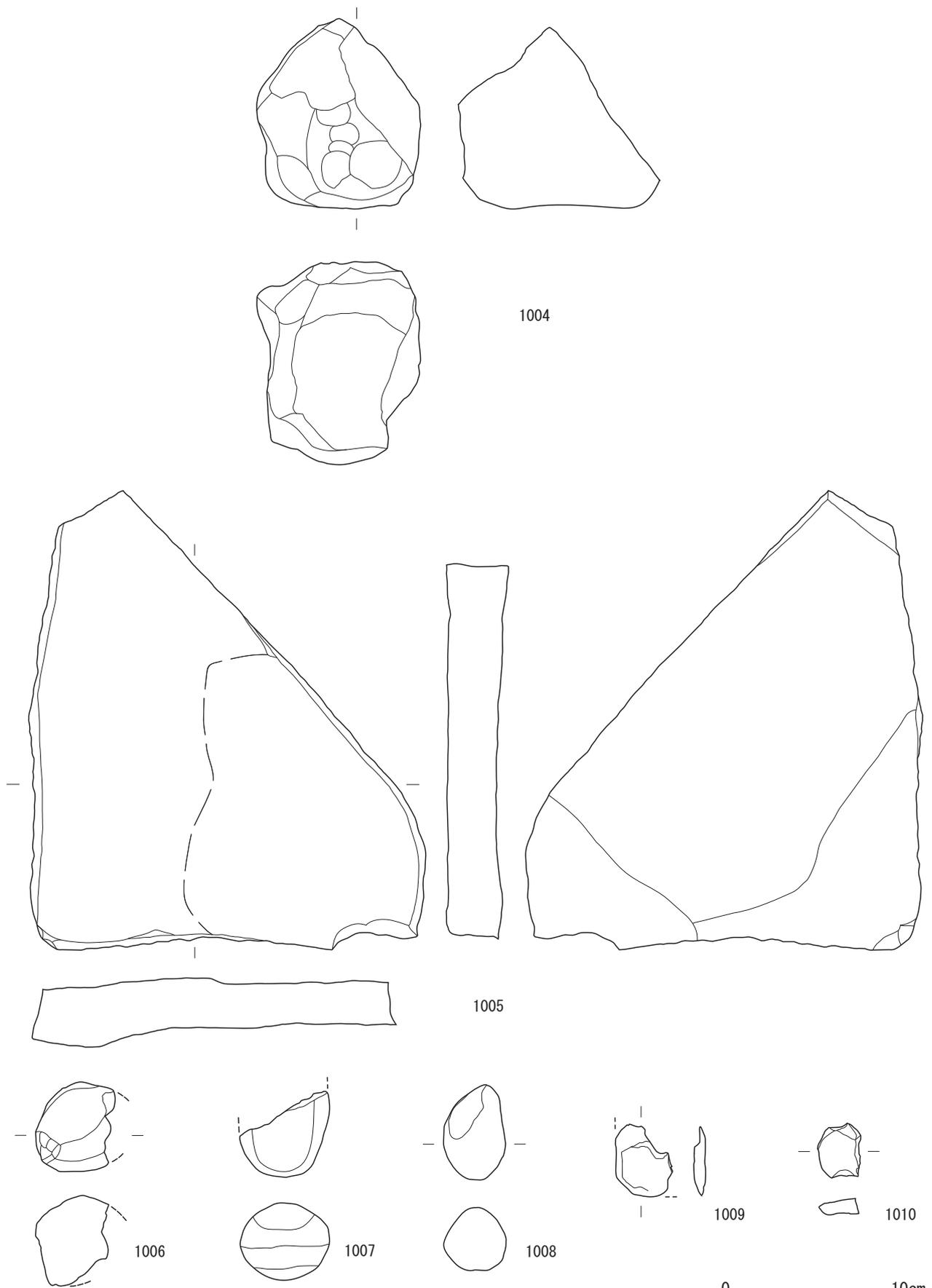


图 97 SD01 石器 (RQ) 实测图

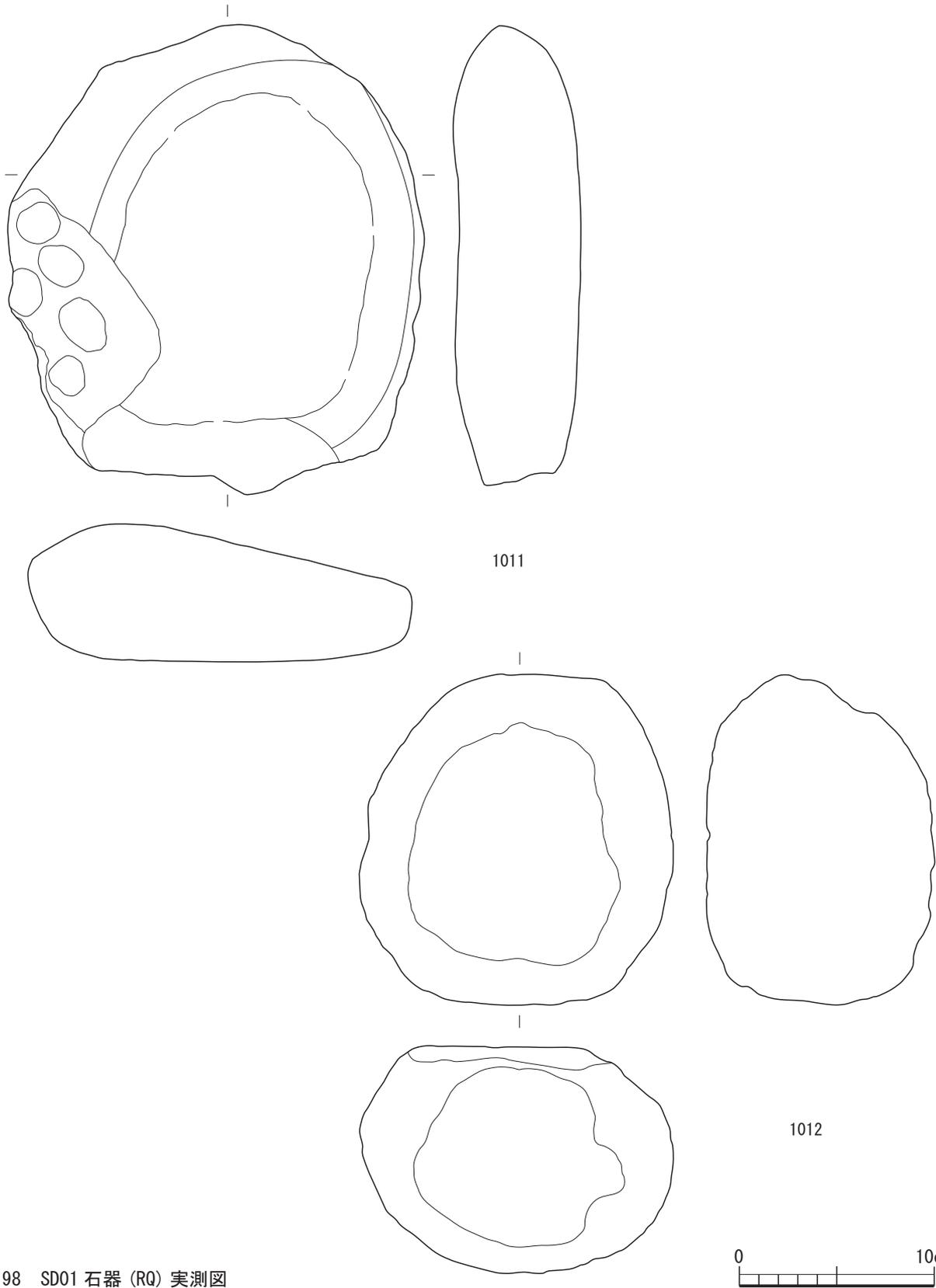


图 98 SD01 石器 (RQ) 实测图

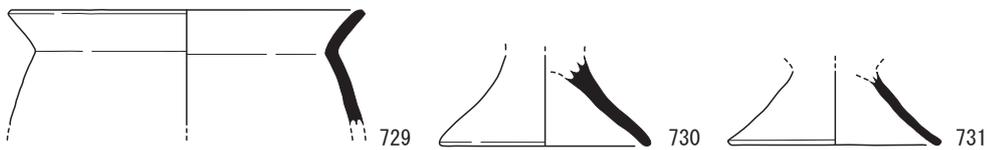


图 99 SD03 土器 (RP) 实测图

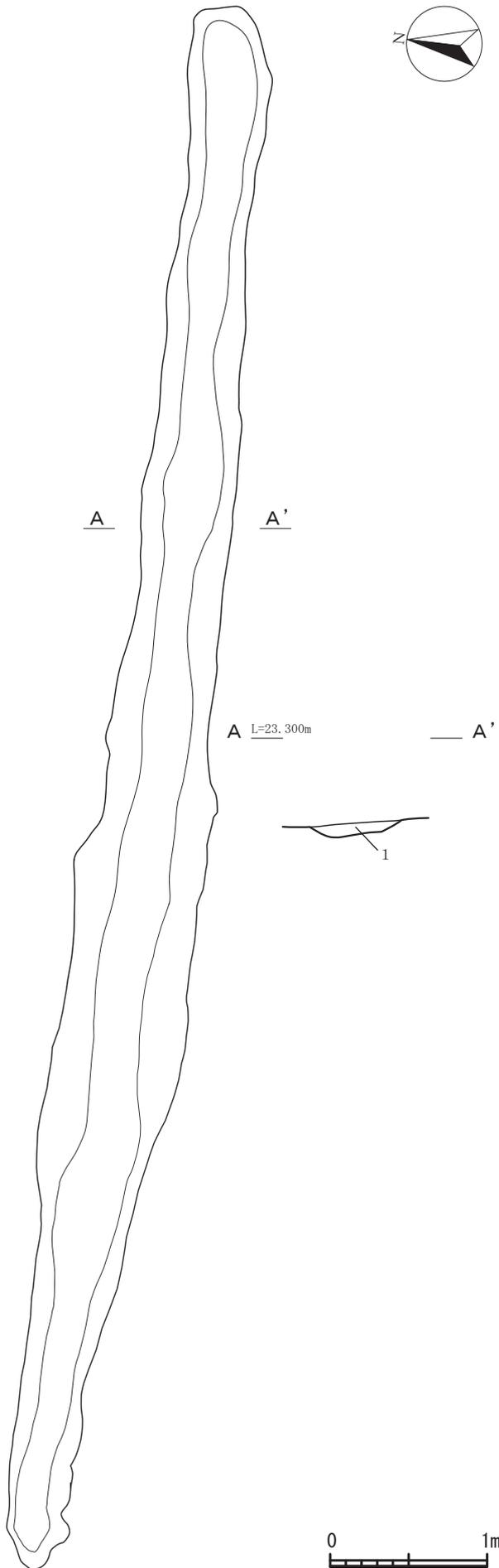


図 100 SD04 実測図 (1/40)

SD04

SD04 は、東西に走る条溝である。V23 グリッドに位置する。

SD04 の法量は、現況長が約 10m、幅約 60 cm、確認面からの深さ約 10 cm を測る。

SD04 の断面形は、皿形を呈している。

以下に、土層註記を記す。

1 : 10YR3/2 黒褐色シルト。粘性、しまり共にある。下層にかけて褐色土が少し混在。土器片も少し出土した。

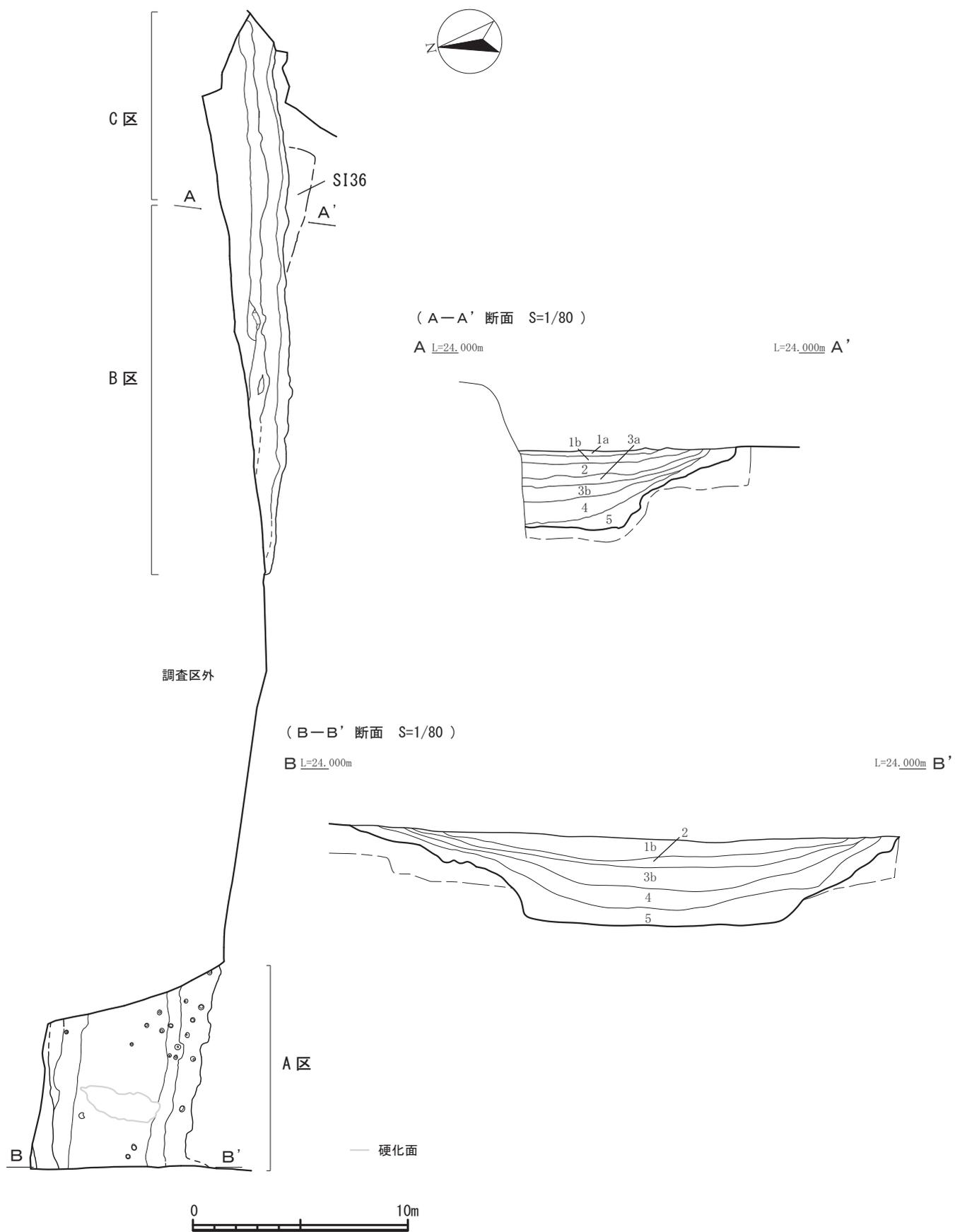


图 101 SD05 实测图 (1/250)

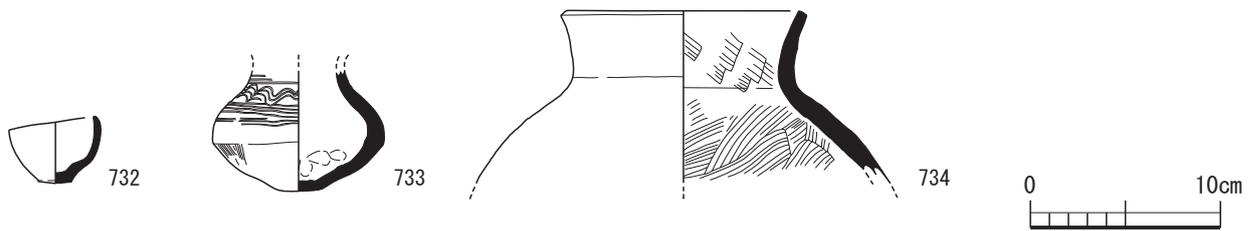


図 102 SD05 土器 (RP) 実測図

SD05

SD05 は、東西に走る条溝である。条溝の西端、東端は調査範囲外のため確認することができない。U29、Y35 グリッドに位置する。

SD05 の法量は、現況長 52m、幅 8.1m、底幅 4m、確認面からの深さ 1.3m を測る。

SD05 の断面形は、底部から 30 cm 程の高さまで側壁が切り立ち、後、側壁が緩やかに傾斜した皿形を呈している。斜面、底面ともに概ね平面化されている。

東端、西端及び中央部が調査範囲外に位置しているため全容は不明であるが、遺構の形態と法量は SD01 に近似している。

土器は、弥生土器が出土している。

SD05 底部付近（地山直上）の炭化材を試料として放射性炭素年代測定を実施したところ、 $540 \pm 20\text{yrBP}$ の結果を得た。この結果から、SD05 は中世以降の遺構とすることが適切である。

以下に、土層註記を記す。

1a : 10YR5/3 にぶい黄褐色土。きめはやや細かく、粘性はわずかにあり、硬くしまっている。極小大の粒状の黄褐色、明褐色、黒色の土がまばらに少量含まれている。

1b : 10YR4/3 にぶい黄褐色土。きめの細かさは 1a と同じだが、1a よりやや粘性が強く、しまりもややある。色は黒味を帯びているので、2 の影響を受けた層と考えられる。不純物は、1a に加え、1mm 前後大の白色礫及び極小大の炭化物を所々にごく少量含んでいる。

2 : 10YR2/3 黒褐色粘質土。きめは細かく、粘性があり、非常に硬くしまっている。極小大 3 ~ 4 cm 大の粒状又はブロック状の明褐色、褐色、明黄褐色土を少量まばらに含んでいる。さらに、1mm 弱の細かい礫（砂か？）をごく少量全体的に含んでいる。

3a : 7.5YR5/4 にぶい褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性が強く、ややしまっている。所々少量の極小大 2

~ 3 cm のブロック状の黒褐色、明黄褐色の土を含む。さらに、所々にごく少量だが、極小大の炭化物を含んでいる。

3b : 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性は 3a より強いが、しまりは 3a より弱い。極小大の明褐色、明黄褐色、黒色の土を粒状にごく少量含み、又 1 cm 前後大のブロック状のにぶい褐色、黒色の粘質土を所々に少量含んでいる。

4 : 10YR3/2 黒褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性が強く、ややしまっている。赤褐色、黄褐色、褐色の極小大~粒状の土を所々にごく少量含み、さらに、1 cm 前後大の褐色、黒色のブロック状の土を全体的に少量含んでいる。又、所々ごく少量で炭化物も混入している。土色は溝の深い部分が黒褐色だが、4 の立ち上がり部分は黒味が少なく、にぶい黄褐色に近づく。

5 : 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性があり、ややしまっている。極小大~粒状の黄褐色の土がごく少量、5mm ~ 2 cm 大のブロック状の黒色、褐色、橙色の土が全体的に少量入っている。

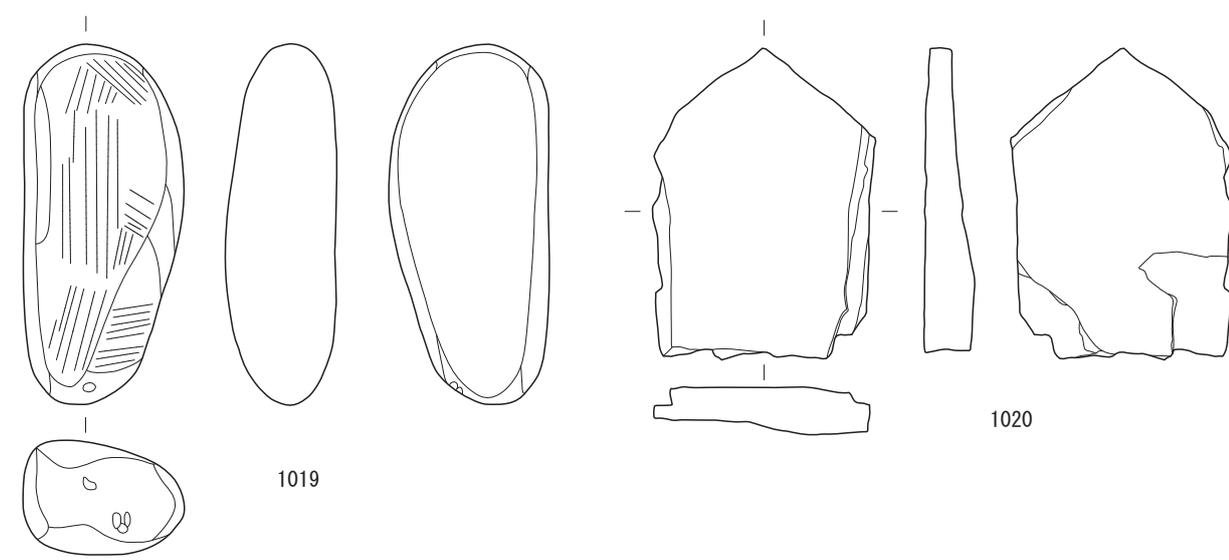
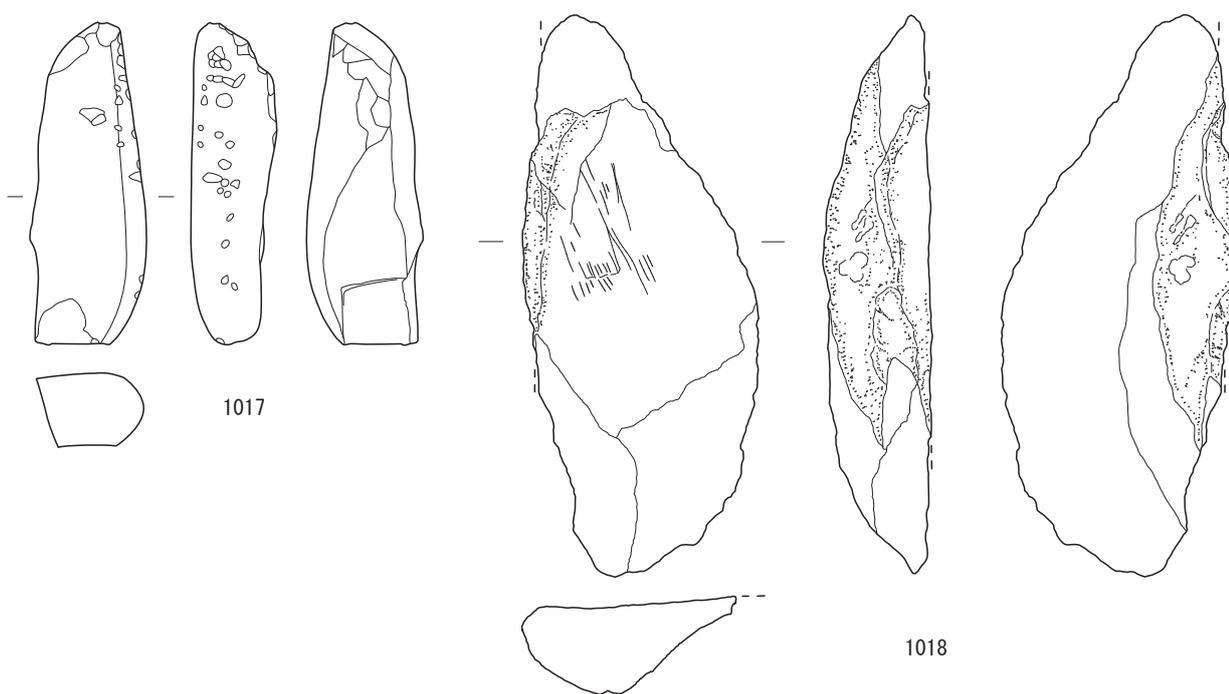
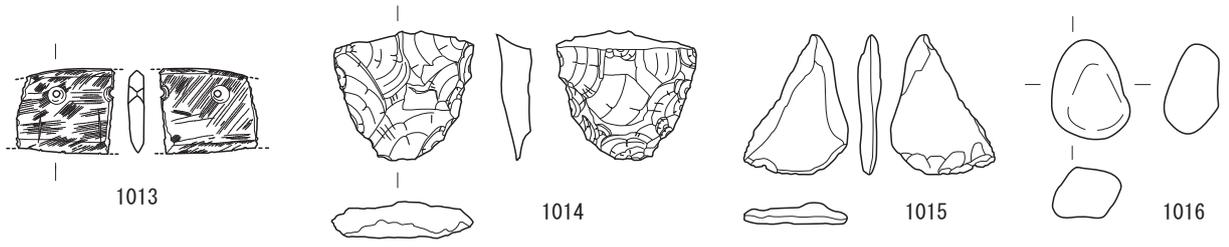


图 103 SD05 石器 (RQ) 实测图

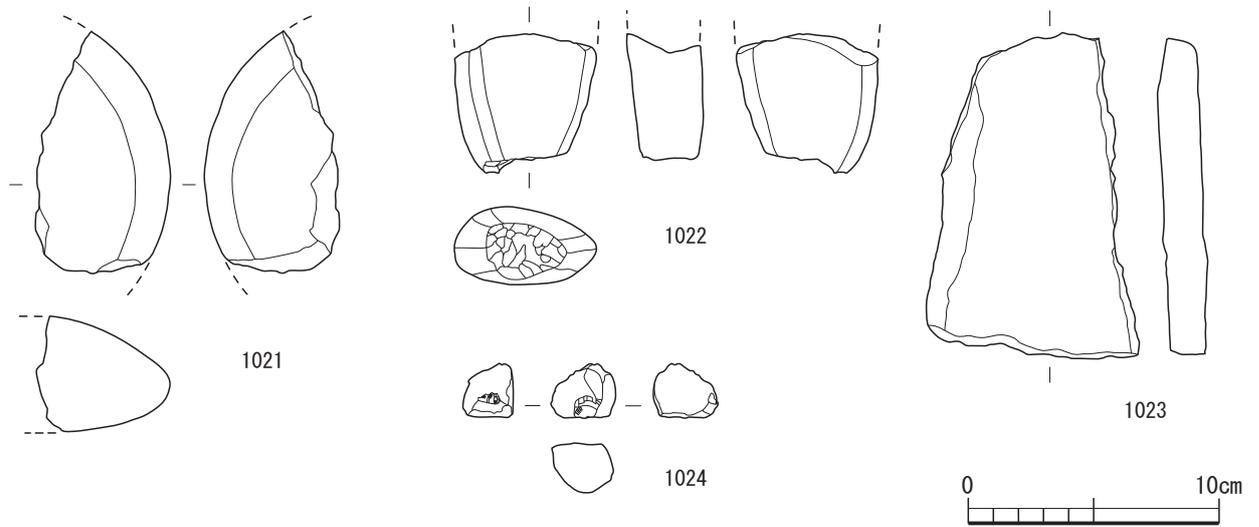


図 104 SD05 石器 (RQ) 実測図

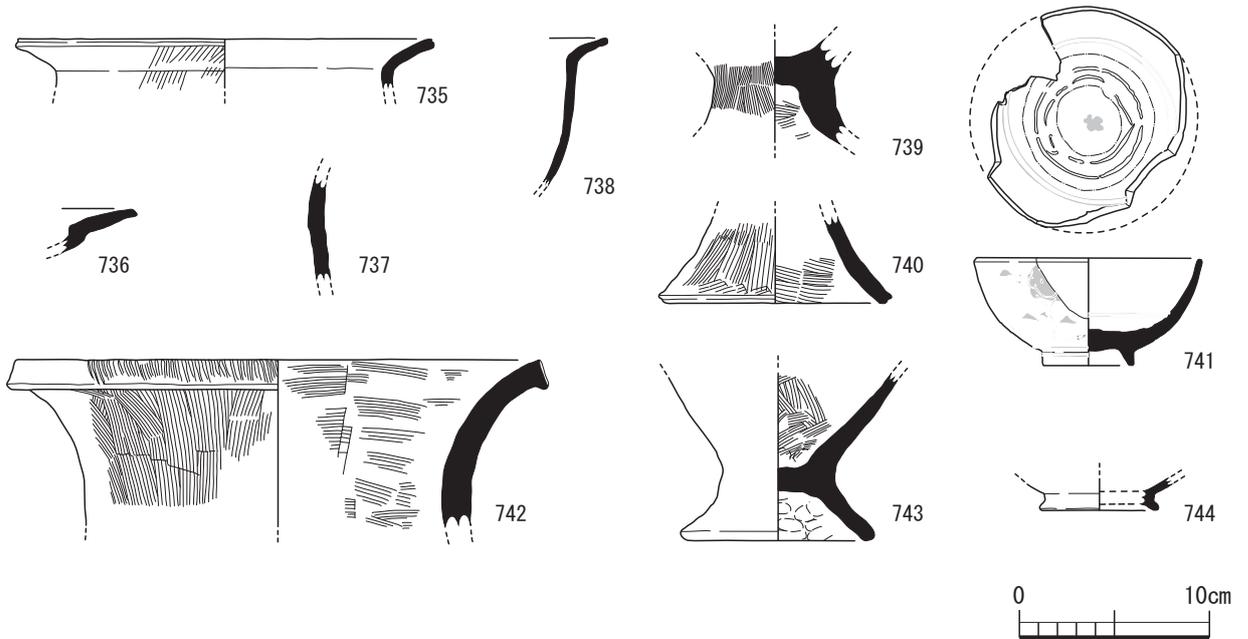


図 105 SD06 土器 (RP) 実測図

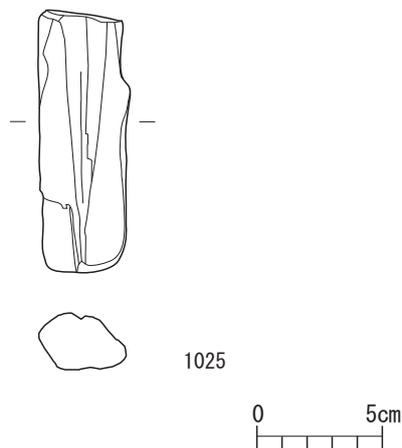


図 106 SD06 石器 (RQ) 実測図

SD06

SD06 は、東西に走り、西側で屈折して北西に走向する SF03 の一部（北側溝）として調査されている。Y21 グリッドから P10 グリッドまでに位置する。

以下に土層註記を記す。

2 : 10YR4/3 にぶい黄褐色土。1 と同じだが、より砂を多く含む。

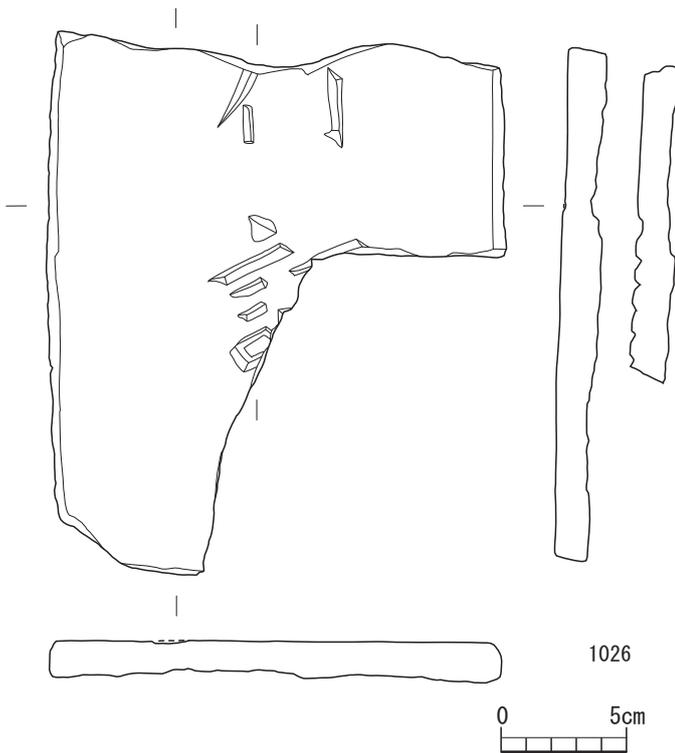


図 107 SD06 石器 (RQ) 実測図

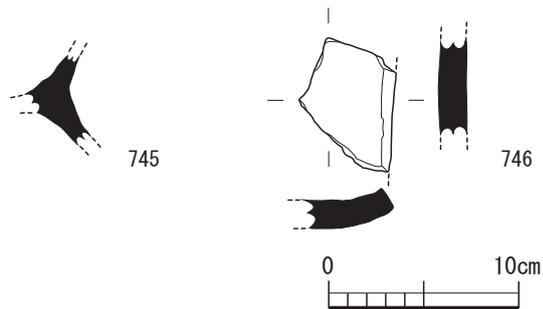


図 108 SD07 土器 (RP) 実測図

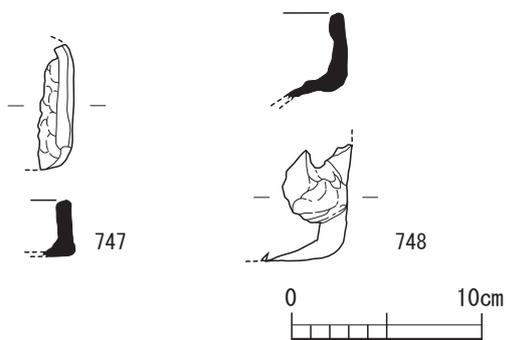


図 109 SD10 土器 (RP) 実測図



図 110 SD12 土器 (RP) 実測図

SD07

SD07 は、東西に走り、西側で屈折して北西に走向する SF03 の一部（南側溝）として調査されている。Y21 グリッドから U16 グリッドまでに位置する。

SD10

SD10 は、北区外周に沿って東西方向に走り、のち北に走向する SF05 と複合する溝として調査されている。Q14 グリッドに位置する。

SD11

SD11 は、SF01 の一部（側溝）として調査されている。L8 グリッドに位置する。

以下に土層註記を記す。

3:7.5YR4/2 灰褐色粘質土。きめは粗く、粘性は弱く、硬くしまっている。まばらに極小の砂粒を少量含む。

SD12

SD12 は、SF02 の一部（側溝）として調査されている。P8 グリッドに位置する。

以下に土層註記を記す。

8:10YR4/4 褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性が強く、しまりは弱い。1～4 cm 大の 2.5YR5/8 明赤褐色土ブロックを少量、1 cm 前後粒状の黒い土を少量、さらに 1 cm 前後の 10YR6/4 にぶい黄橙色土ブロックを底部に集中して 1% 程度含んでいる。

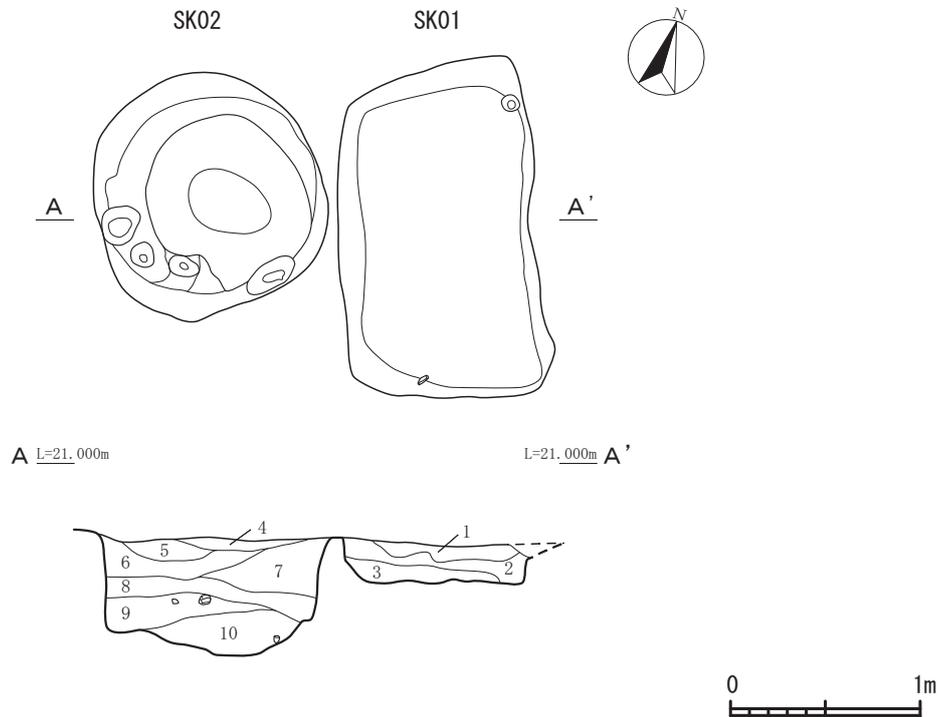


図 111 SK01、SK02 実測図 (1/40)

2-4 土壌 (SK)

土壌は、SK01～10、12、14～15、17～22の19基である。SK11、13、16は欠番である。

これら19基の遺構の所属時期は、不明である。

SK01

SK01は、長方形を呈する土壌である。「道路(SF02、03)」の調査に際して検出された遺構であるが、「道路」との前後関係は不明である。SK01はSK02を切っている。P11グリッドに位置する。

SK01の法量は、南北1.8m、東西1.0m、遺構確認面からの深さ20cmを測る。

土壌底部には平坦面が造り出され、側壁は切り立っている。北東隅に小ピットが備わる。

土器は、須恵器片が出土している。

以下に土層注記を記す。

1：次に記すア～エが、ア：イ：ウ：エ＝5：1：2：2程度の割合で混ざった土。

ア：10YR7/3にぶく黄橙色粘質土。きめは細かく、粘性はややあり、しめっている。中に、極小大の黒い粒を多量に含んでいる。1～10cm大のブロック状。

イ：10YR8/2灰白色土。きめは非常に細かく、粘性のほとんどない、さらさらした1cm大の塊。

ウ：10YR3/4暗褐色粘質土。きめは細かく、粘性はややあり、ややしまっている。1～5cm大のブロック状。
エ：5YR5/6明褐色粘質土。きめは細かく、粘性があり、ややしまっている。1～6cm大のブロック状。

2：次に記すア～オがア：イ：ウ：エ：オ＝1：2：5：1：1程度の割合で混ざった土。

ア：10YR4/6褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性があり、しまりはやや弱い。1～5cm大のブロック状。

イ：10YR3/4暗褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性のある、ややしまりのある土。向かって右下方に集中してある。1～15cm大のブロック状。

ウ：10YR3/3暗褐色粘質土。きめはやや細かく、しまっている。1～5cmのブロック状。

エ：5YR5/6明褐色粘質土。きめは細かく、粘性があり、ややしまっている。1～6cm大のブロック状。1のエと同じ。

オ：10YR8/2灰白色土。きめは非常に細かく、粘性のほとんどない、さらさらした1cm大の塊。1のイと同じ。

3：10YR4/6褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性もややあり、しまっている。1～2cm大の10YR2/2黒褐色粘質土を数箇所含む。また、10YR7/3にぶく黄橙色粘質土を1～2cm大のブロック状で1%程度含んでいる。

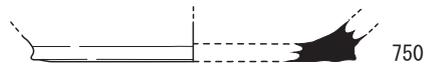


図 112 SK01 土器 (RP) 実測図



図 113 SK02 土器 (RP) 実測図



SK02

SK02 は、円形を呈する土壇である。「道路 (SF02、03)」の調査に際して検出された遺構であるが、「道路」との前後関係は不明である。SK02 は SK01 に切られている。P11 グリッドに位置する。

SK02 の法量は、直径 1.1 m、遺構確認面からの深さ 50cm を測る。

SK02 の底部には平坦面が造り出され、側壁は切り立っている。底部は南側壁に内設した直径 80 cm、深さ 15 cm の土壇が穿たれている。

SK02 から礫 82 点 (合計重量 17.7 kg) が出土した。この礫群は土壇内に散在し、出土位置、出土層が集中することはない。

土器は、弥生土器片が出土している。

以下に土層註記を記す。

4 : 10YR4/4 褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性はわずかにあり、しまっている。10YR8/2 灰白色の 1 cm 大の土をまばらに 1% 弱、極小大の 5YR5/6 明褐色の土をまばらに 1% 弱、さらに 10YR2/2 黒褐色の 1 cm 大の土をまばらに 1% 弱含んでいる。

5 : 10YR4/4 褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性はわずかにあり、しまっている。混入土は、4 と同じであるが、4 よりブロックの大きさが 1 ~ 3 cm 大と大きい。

6 : 10YR4/6 褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性、しまり共にややある。10YR8/2 灰白色土、1 ~ 7 cm 大の 10YR7/3 にぶい黄橙色粘質土ブロック、1 ~ 5 cm 大の 5YR5/6 明褐色粘質土ブロックを含んでいる。

7 : 10YR3/4 暗褐色粘質土。きめはやや細かく、粘

性もややあり、しまっている。まばらに極小大の 5YR5/6 明褐色の土を 1% 程度含み、さらに SK01 との接した部分に集中して、10YR6/4 にぶい黄橙色の土を極小大 ~ 5 cm 大のブロック状に含んでいる。

8 : 5YR5/6 明褐色粘質土。きめは細かく、粘性があり、しまっている。10YR7/3 にぶい黄橙色の極小大の土を数箇所、7 の暗褐色土を 1 cm 前後大のブロック状に全体的に 5% 程度含んでいる。

9 : 10YR7/3 にぶい黄橙色粘質土。きめは細かく、粘性があり、しまりは弱い。粘土に近い。極小大のオレンジ、黒の粒を全体的に含んでいる。

10 : 10YR4/4 褐色粘質土。きめは細かく、粘性があり、ややしまっている。

SK03

SK03 は、方形に近い不整形を呈する土壇である。G3 グリッドに位置する。

SK03 の法量は、南北 2.3m、東西 2.6m、遺構確認面からの深さ 30 cm を測る。

SK03 はボウル状に掘りくぼめられ、東、西側壁には半月形テラスが付設されている。土器片が土壇内に散在しているが、出土位置、出土層が集中することはない。

土器は、須恵器、磁器等、土器片が出土している。なお、現地調査段階では、SK03 と SK04 の埋土は上位 3 層が同一層序であるため、SK03 と SK04 は同時期の遺構である、と判断した。

以下に土層註記を記す。

1 : 10YR4/3 にぶい黄褐色土。きめはやや粗く、わず

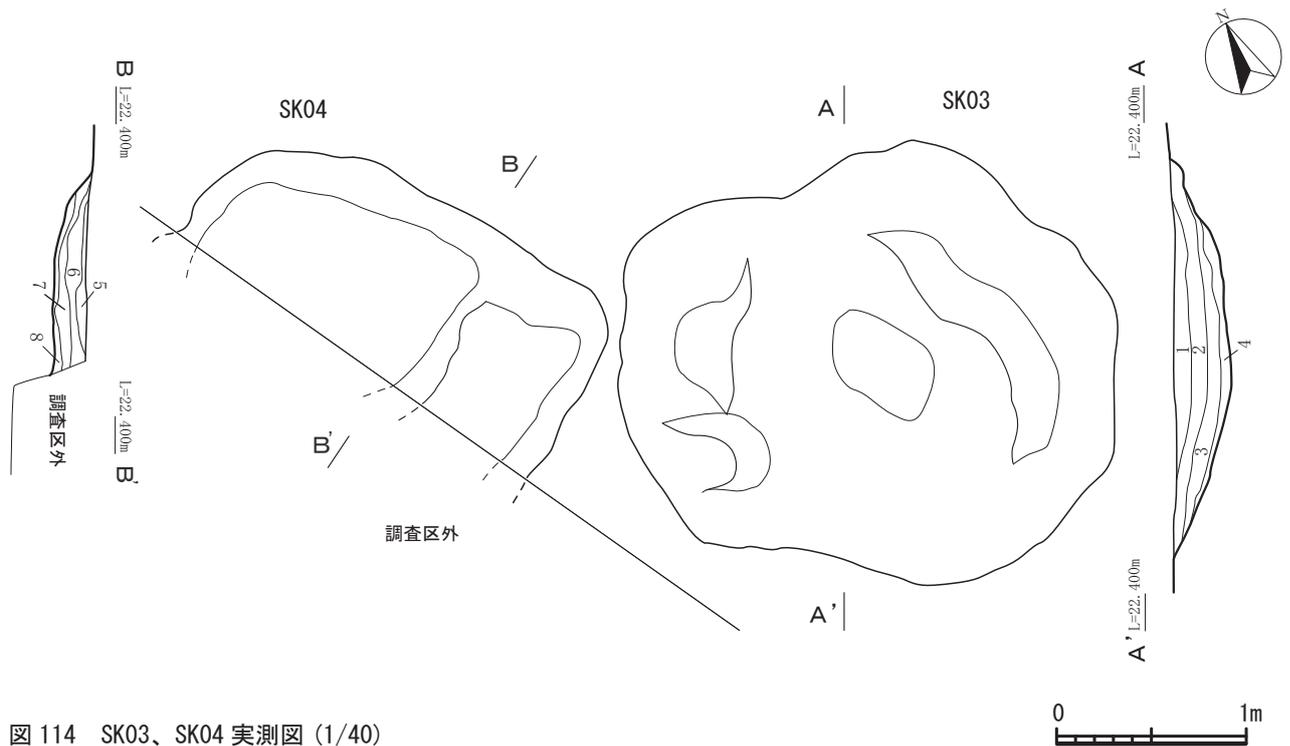


図 114 SK03、SK04 実測図 (1/40)

かに粘性があり、硬くしまっている。全体的に砂粒や極小大の粒状の黒色土、明黄褐色土が含まれる。さらに、小さな礫も少量含まれる。土器片も所々に入る。
 2 : 10YR5/6 黄褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性もややあり、しまっている。全体的に極小大の粒状の明黄褐色土、黒色土、砂粒が割合的には1より少なく含まれ、さらに所々に1~7cm大のブロック状の10YR2/2 黒褐色土、10YR2/3 黒褐色土が少量含まれ、土器片も所々に入る。

3 : 10YR2/3 黒褐色粘質土。きめは細かく、やや粘性があり、非常に硬くしまっている。極小大の7.5YR5/6 明褐色の土及び黒色土を少量含んでいる。また、4との境に小さな土器片を含む。

4 : 10YR3/3 暗褐色粘質土。きめはやや粗く、少し粘性もあり、しまっている。極小大の粒状の明黄褐色の土及び黒色の土を少し含み、土器片も入っている。

SK04

SK04 は、方形を呈する土壌である。北半部は調査範囲外である。G3 グリッドに位置する。

SK04 の法量は、南北不明、東西 2.2 m、遺構確認面からの深さ 20cm を測る。

SK04 の底部には平坦面が造り出され、側壁は斜面を呈している。底面は平面に整えられ、東側には長方形テラスが付設されている。弥生土器片が土壌内に散在しているが、出土位置、出土層が集中することはない。

い。

土器は、弥生土器片が出土している。なお、現地調査段階では、SK04 と SK03 の埋土は上位 3 層が同一層序であるため、SK04 と SK03 は同時期の遺構であると判断した。

以下に土層註記を記す。

5 : 10YR4/3 にぶい黄褐色土。きめはやや粗く、わずかに粘性があり、硬くしまっている。全体的に極小大の粒状の黒色土、明黄褐色土、砂粒が含まれ、所々に小さい礫が入っている。

6 : 10YR5/6 黄褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性は少しあり、しまっている。全体的に極小大の粒状の黒色土、明黄褐色土、砂粒が入り、また所々に 1cm 弱の炭化物も入る。さらに、部分的に 10YR4/3 にぶい黄褐色土が 1~3cm 大のブロック状に入る。土器片も含まれる。

7 : 10YR2/3 黒褐色粘質土。きめは細かく、少し粘性があり、非常に硬くしまっている。極小大の粒状の明褐色土、黒色土を含んでいる。

8 : 7.5YR5/6 明褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性があり、ややしまっている。全体的に極小大の黒色土を含んでいる。

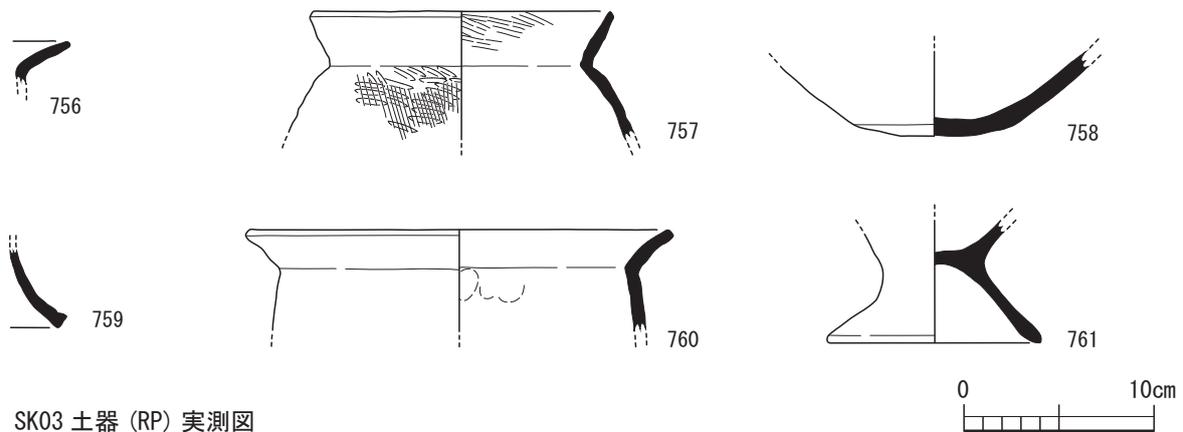


図 115 SK03 土器 (RP) 実測図

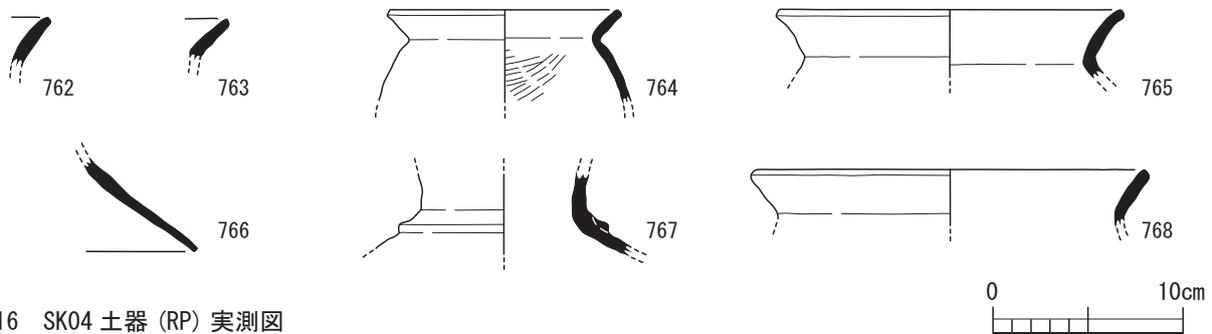


図 116 SK04 土器 (RP) 実測図

SK05

SK05 は、方形に近い不整形を呈する土壇である。M7 グリッドに位置する。

SK05 の法量は、南北 0.9m、東西 1.2 m、遺構確認面からの深さ 30cm を測る。

SK05 の底部には平坦面が造り出され、側壁は切り立っている。平らに整えられ底面には、深さ 20 cm 程度の小ピットが 2 基、それぞれ東、西側壁に接して穿たれている。この小ピットの上端が接しているため、土壇底面はテラスのように表現で実測されている。

以下に土層註記を記す。

1 : 10YR5/6 黄褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性はやや強く、ややしまる。極小大の砂粒を少し、1 cm 大の黒色のブロック状の土を所々に少し含んでいる。

SK06

SK06 は、方形に近い不整形を呈する土壇である。L3 グリッドに位置する。

SK06 の法量は、南北 2.1m、東西不明、遺構確認面からの深さ 5cm を測る。

SK06 の底部は平面に整えられ、側壁は斜面を呈している。確認面からの深さが 5 cm と浅いため、その東

辺は検出し難いが、現地調査段階では東西 2.5m 程度の規模になるものと推定している。

土層註記は記録されていない。

SK07

SK07 は、長方形を呈する土壇である。SK07 は SF02 に切られている。P9 グリッドに位置する。

SK07 の法量は、南北 6.2m、東西 1.2 m、遺構確認面からの深さ 20cm を測る。

SK07 は端部が丸く収まる直線溝に近い形状であり、皿形に掘りくぼめられている。底部には平坦面が造り出され、側壁は斜面を呈している。SK07 の南北軸中央には北側が高く、南側が低くなった、約 10 cm の段が形成されている。SK07 の北端、南端、段部の高位箇所の高さは等しいため、南半部の底部が土壇中央に向かい傾斜した形となっている。

土器は、弥生土器、須恵器、磁器等の土器片が出土した。

SK07 から礫 57 点 (合計重量 13.8 kg) が出土した。

以下に土層註記を記す。

2 : 10YR5/3 にぶい黄褐色。きめはやや細かく、粘性があり、ややしまっている。全体的に 1 cm 弱大～粒状

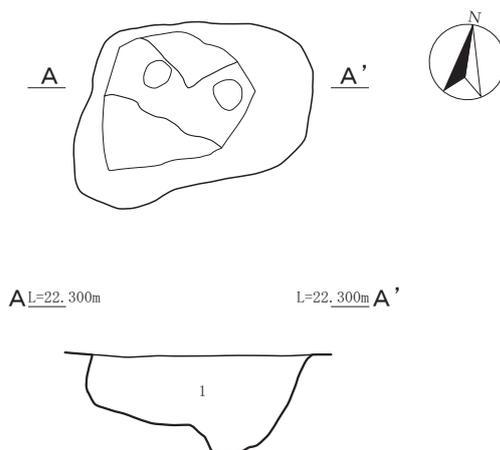


図 117 SK05 実測図 (1/40)

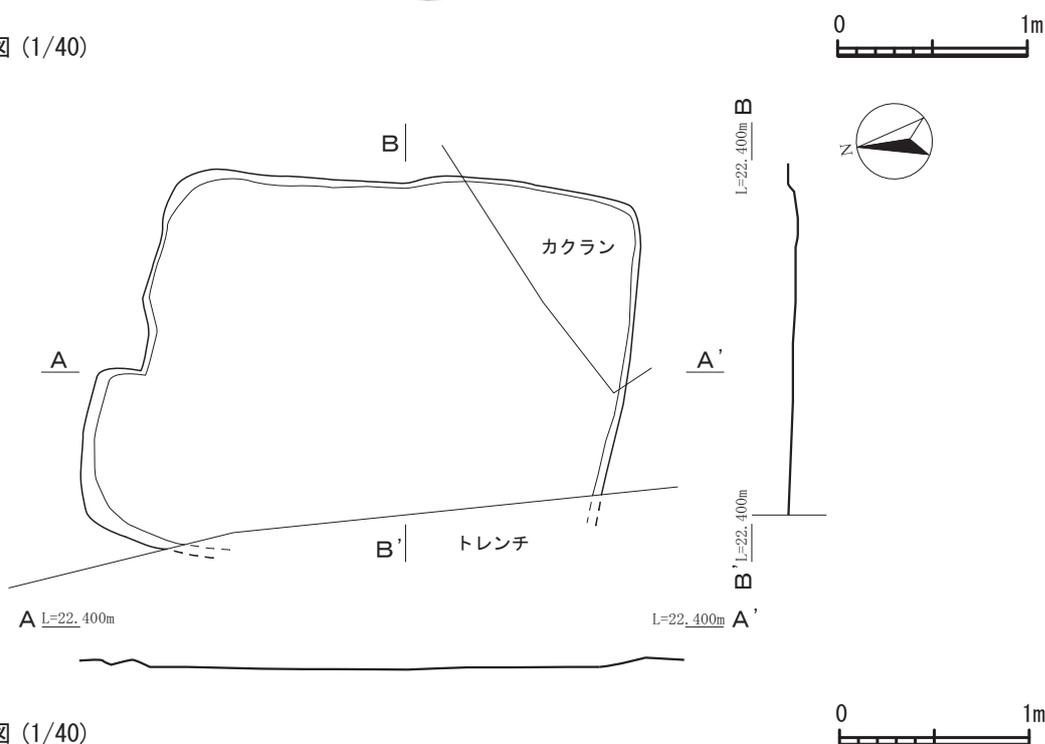


図 118 SK06 実測図 (1/40)

の黒色の土が少量入り、さらに所々に1～5 cm大のブロック状のにぶい黄橙色の粘質土及び1～2 cm大の橙色のブロック状の土がそれぞれ少量入っている。また、ごく微量、5mm大の赤褐色の粒状の土が入っている。
 3：5YR6/6 橙色粘質土。きめは細かく、粘性は強く、しまりはややある。1～10 cm大の10YR6/3 にぶい黄褐色の粘質土ブロックが少量入り、1～8 cm大の暗褐色の粘質土もごく少量入っている。さらに、1 cm大の10YR7/3 にぶい黄橙色粘質土ブロックが入っている。
 4：10YR7/3 にぶい黄橙色粘質土。きめは細かく、粘性があり、しまっている。中に、極小大～1 cm弱大の粒状の黒色の土がまばらに入り、さらに所々に1 cm大の橙色土が入っている。

SK08

SK08 は、楕円形を呈する土壌である。SK08 はSD12 を切っている。P10 グリッドに位置する。

SK08 の法量は、南北 2.1m、東西 0.6 m、遺構確認面からの深さ 50cm を測る。

SK08 は端部が丸く収まる直線溝に近い形状であり、皿形に掘りくぼめられている。底部には平坦面が造り出され、側壁は斜面を呈している。SK08 の北端には半月形のテラスが形成されている。現地調査段階では、SK08 の南端はSD12 を切っている、と判断した。

以下に土層註記を記す。

5：10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性が少しあり、硬くしまっている。きめが細かく、

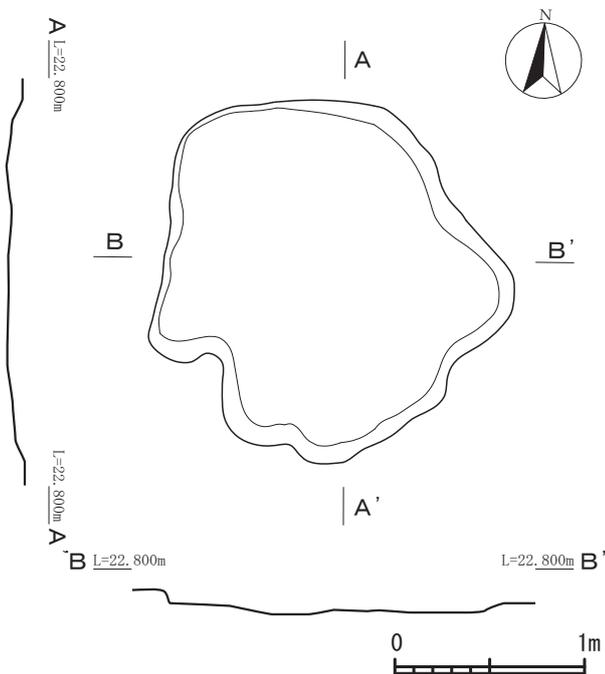


図 119 SK09 実測図 (1/40)

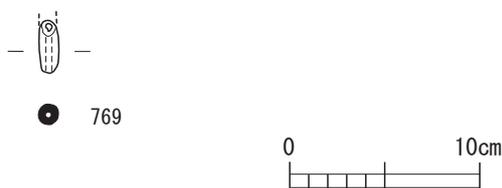


図 120 SK09 土製品 (RP) 実測図

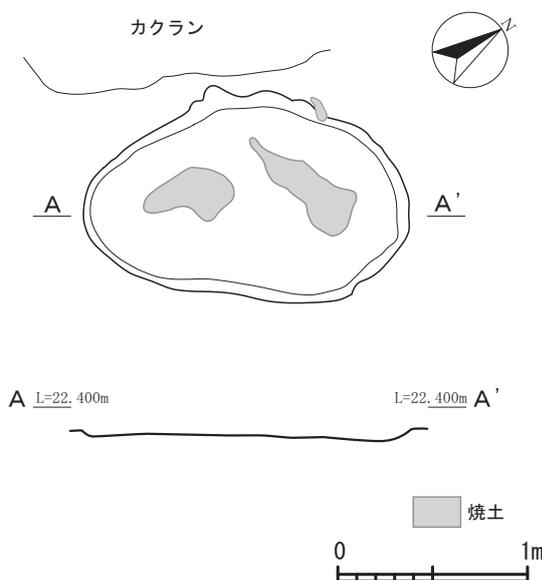


図 121 SK10 実測図 (1/40)

粘性のある 5YR6/6 橙色粘質土が、1～20 cm 大のブロックとして 40% 程度含まれ、きめが細かく、1 cm 大の粘性のあるにぶい黄橙色土ブロックを少量含む。

6 : 5 と同じ土がベースだが、10YR7/3 にぶい黄橙色粘質土ブロックが多く混じり、橙色粘質土と同程度含まれる。

7 : 5YR6/6 橙色粘質土が主となり、1～10 cm 大の 10YR7/3 にぶい黄橙色粘質土ブロックが 10% 程度含まれる。1 cm 大の 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土ブロックも少量含まれる。全体的にしまった層である。

SK09

SK09 は、方形に近い不整形を呈する土壌である。Z35 グリッドに位置する。

SK09 の法量は、南北 1.8m、東西 1.6m、遺構確認面からの深さ 5cm を測る。

SK09 の底部には凹凸が存在し、側壁は箇所によって斜面、直立を呈し、一様ではない。

土層註記は記録されていない。

SK10

SK10 は、楕円形を呈する土壌である。S19 グリッドに位置する。

SK10 の法量は、南北 1.7m、東西 1.1m、遺構確認面からの深さ 3cm を測る。

SK10 は皿形に掘りくぼめられ、底部は平坦に整えられ、側壁は斜面を呈している。

SK10 では、プラン検出の段階で、焼土が拡散して分布することを確認した。この焼土には硬く焼締った部分があり、炉の可能性を考慮して掘削した。周囲を精査しピット等、他の設備の検出を試みたが、検出できていない。焼土が SK10 の埋土上位に分布することから、耕作等の攪乱作用によって拡散した、と現地調査段階で推察している。

土層註記は記録されていない。

SK11

SK11 は、SI17 として取り扱われることとなり、欠番とした。

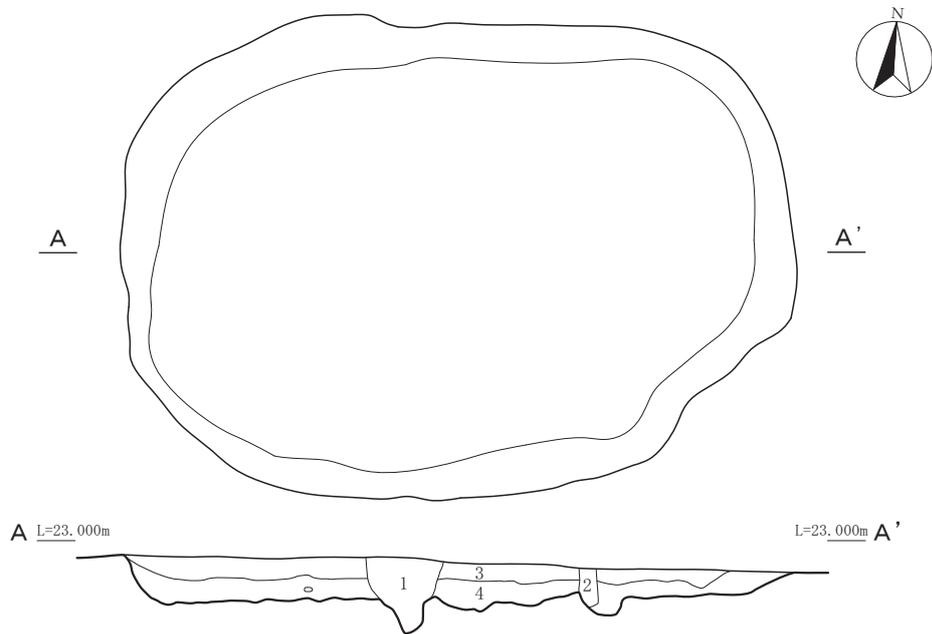


図 122 SK12 実測図 (1/40)

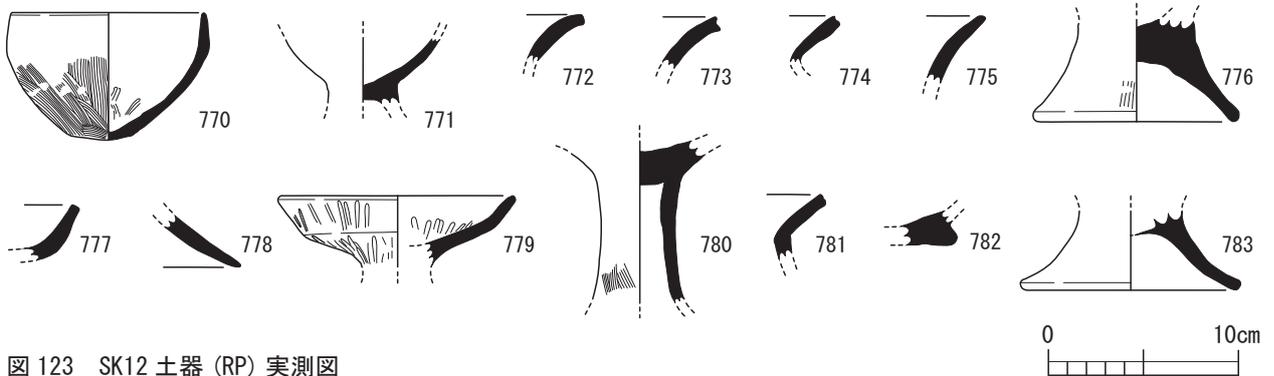


図 123 SK12 土器 (RP) 実測図

SK12

SK12 は、方形に近似した不整形を呈する土壇である。X28 グリッドに位置する。

SK12 の法量は、南北 2.5m、東西 3.6m、遺構確認面からの深さ 25cm を測る。

SK12 は皿形に掘りくぼめられ、底部は概ね平坦に整えられ、側壁は斜面を呈している。

SK12 から礫 3 点 (合計重量 0.7 kg) が出土した。

以下に土層註記を記す。

- 1 : 10YR4/3 にぶい黄褐色土。不純物が多い。攪乱。
- 2 : 10YR4/3 にぶい黄褐色土。不純物が多い。攪乱。
- 3 : 10YR4/3 にぶい黄褐色土。きめはやや細かく、粘性がわずかにあり、しまっている。極小大の黒色粒、明黄褐色粒が少量入る。1.0 ~ 3.0cm 大の黒色土プロ

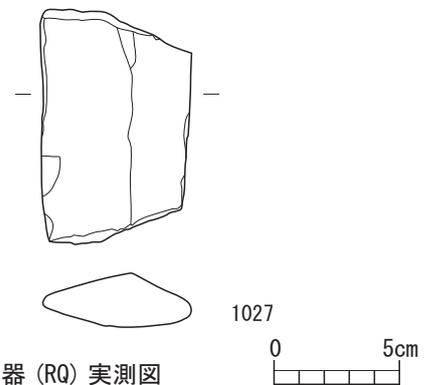


図 124 SK12 石器 (RQ) 実測図

ックが多量に入る。

4 : 10YR5/4 にぶい黄褐色土。きめはやや細かく、粘性がわずかにあり、ややしまりが弱く、不純物も少ない。土器片あり。

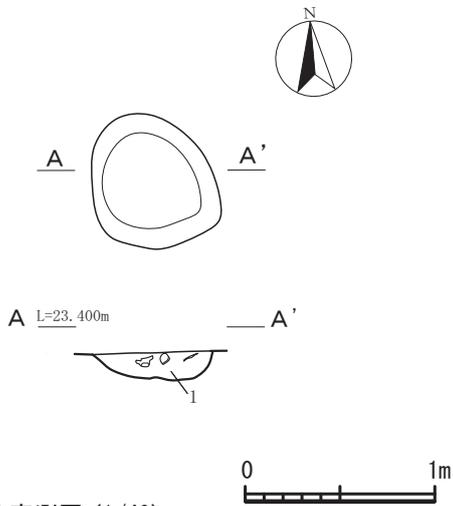


図 125 SK14 実測図 (1/40)

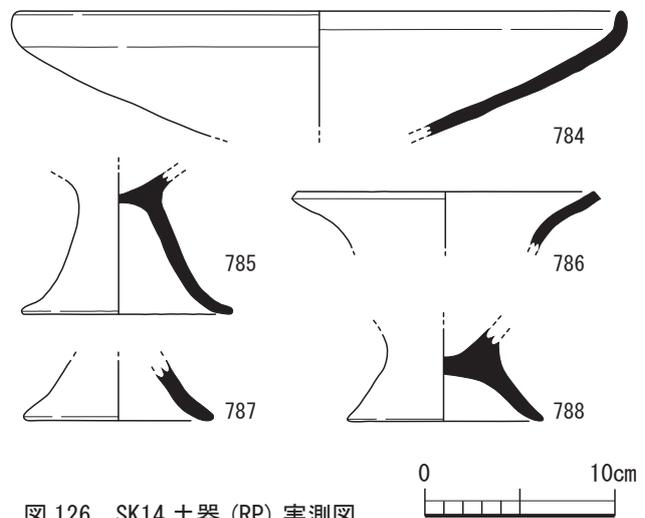


図 126 SK14 土器 (RP) 実測図

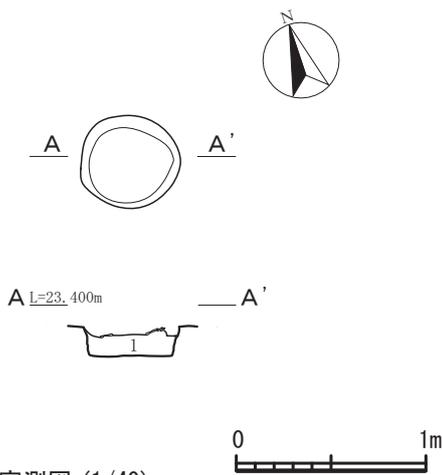


図 127 SK15 実測図 (1/40)

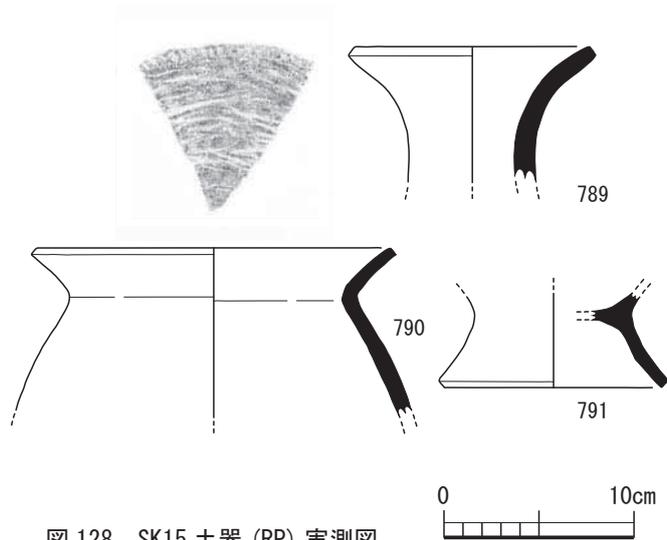


図 128 SK15 土器 (RP) 実測図

SK14

SK14 は、円形に近似した不整形を呈する土壇である。T21 グリッドに位置する。

SK14 の法量は、南北 0.7m、東西 0.7m、遺構確認面からの深さ 15cm を測る。

SK14 は皿形に掘りくぼめられ、底部は概ね平坦に整えられ、側壁は斜面を呈している。

SK14 からは土器片が出土している。土器片の多くは SK14 埋土の上部に包含され、一部は上層（客土）に含まれる。これは、耕作等により攪乱されたためである、と現地調査段階では捉えている。

以下に土層註記を記す。

1 : 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト。粘性、しまり共にある。10YR4/6 褐色シルトが 20%程度混じっている。

SK15

SK15 は、円形を呈する土壇である。S20 グリッドに位置する。

SK15 の法量は、南北 0.5m、東西 0.5m、遺構確認面からの深さ 15cm を測る。

SK15 は皿形に掘りくぼめられ、底部は概ね平坦に整えられ、側壁は斜面を呈している。

SK15 からは土器片が出土している。土器片の多くは SK15 埋土の上部に包含され、一部は上層（客土）に含まれる。これは、耕作等により攪乱されたためである、と現地調査段階では捉えている。

以下に土層註記を記す。

1 : 10YR2/2 黒褐色シルト。しまり、粘性共にある。褐色土が斑点状に全体に広がっている。

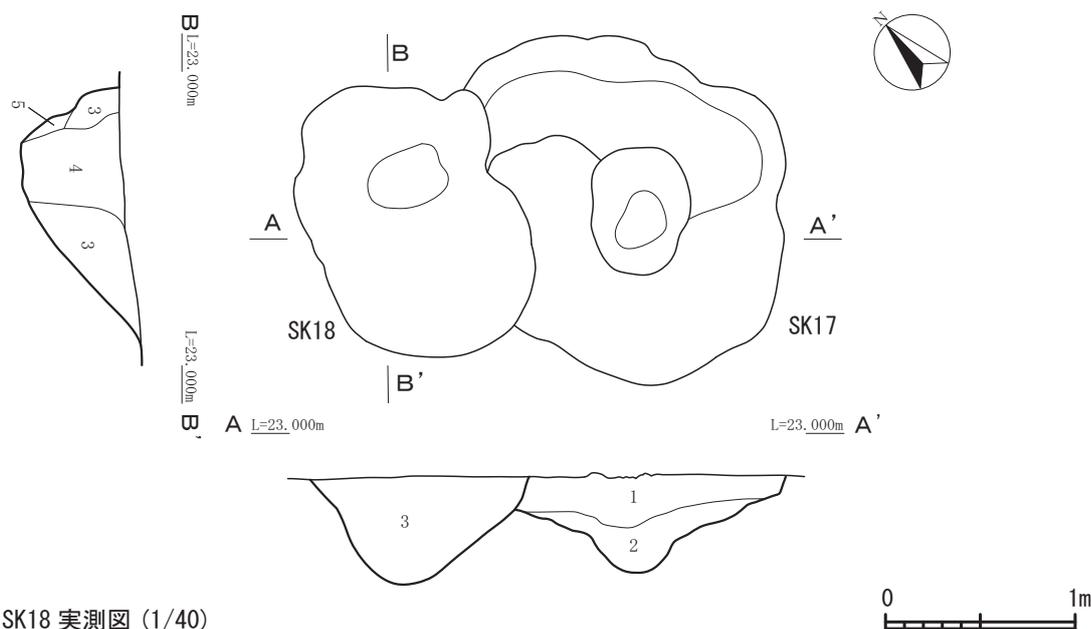


図 129 SK17、SK18 実測図 (1/40)

SK17

SK17 は、不整形を呈する土壌である。SK17 は SK18 に切られている。a29 グリッドに位置する。

SK17 の法量は、南北 1.8m、東西 1.8m、遺構確認面からの深さ 25cm を測る。

SK17 は皿形に掘りくぼめられ、側壁は斜面を呈し、北側側壁にはテラスが付設されている。土壌中央は、さらに深さ 25 cm のボウル形に掘りくぼめられている。

SK17 からはその他の土製品が出土している。SK17 の埋土 1 層と埋土 2 層との層境を底として、カマドの壁面のような土製品が出土した。土製品は 2 つの大きな塊、その東側に散在する小さな破片から成る。SK17 には焼成痕跡は検出することができず、SK17 を火床としたとは認められない。当初はカマド跡の可能性を考慮し、堅穴住居プラン等、関連遺構の検出を試みたが、検出することはできなかった。

この土製品は、整理段階においても、カマド、炉、製鉄炉等の可能性を考慮し、類例を検索したが、結論を得ることができていない。したがって、ここではその他の土製品として、名称等不明のまま報告した。

SK17 から礫 4 点 (合計重量 0.2 kg) が出土した。

以下に土層註記を記す。

1 : 10YR3/3 暗褐色シルト。粘性は少し強く、しまりがある。廃棄された炉壁のような焼土塊が非常に多い。また、土壌の中心より集中して 0.5 ~ 6.0 cm 大の焼土ブロックを 5% 程含む。同じく 0.2 ~ 0.4 cm 大の炭化物粒も 1% 程含む。

2 : 10YR3/3 暗褐色シルト。粘性は少し強く、しまりがある。粘性が少しあり、さらさらした褐色土が混在している。3% 程の 0.2 ~ 4.0 cm 大の焼土粒が土壌中心部に集中する。また、0.4 ~ 1.0 cm 大の炭化物粒を 1% 程含む。

SK18

SK18 は、方形に近似した不整形を呈する土壌である。SK18 は SK17 を切っている。a29 グリッドに位置する。

SK18 の法量は、南北 1.5m、東西 1.1m、遺構確認面からの深さ 60cm を測る。

SK18 はボウル形に掘りくぼめられている。

SK18 には、SK17 に分布した焼土粒等は多くは含まれていない。SK18 の焼土粒は、SK17 からの流入であると、現地調査段階では判断している。

以下に土層註記を記す。

3 : 10YR3/3 暗褐色シルト。粘性、しまり共にある。0.2 cm 大の焼土粒と 0.2 ~ 0.4 cm 大の炭化物粒を 1% 程含む。

4 : 10YR3/2 黒褐色シルト。粘性は少し強く、しまりがある。0.2 ~ 8.0 cm 大の焼土粒を 5% 程含む。0.2 ~ 1.0 cm 大の炭化物粒を多く含む。

5 : 10YR3/3 暗褐色粘質土。粘性は強く、しまりがある。0.2 ~ 3.0 cm 大の焼土粒を 3% 程含む。また、0.4 ~ 1.0 cm 大の炭化物を 1% 程含む。

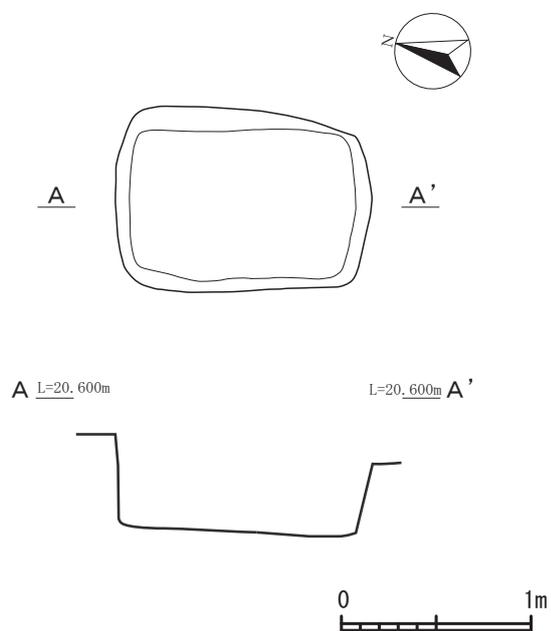


図 130 SK19 実測図 (1/40)

SK19

SK19 は、長方形を呈する土坑である。P13 グリッドに位置する。

SK19 の法量は、南北 1.4m、東西 1.0m、遺構確認面からの深さ 50cm を測る。

SK19 の底面は水平に整えられ、側壁は直立している。

土層註記は記録されていない。

SK20

SK20 は、円形を呈する土坑である。V28 グリッドに位置する。

SK20 の法量は、直径 0.6m、遺構確認面からの深さ 15cm を測る。

SK20 はボウル形に掘りくぼめられている。

SK20 の埋土 1 層には、硬く焼きしまったおびただしい量の焼土が分布する。

以下に土層註記を記す。

1 : 5YR5/8 明褐色土。粘性はなく、硬く焼きしまっている。おびただしい焼土あり、ここで火を使っていた可能性がある。

2 : 7.5YR4/4 褐色土。粘性はなく、硬く焼きしまっている。粒状の炭が 2 つ出土。

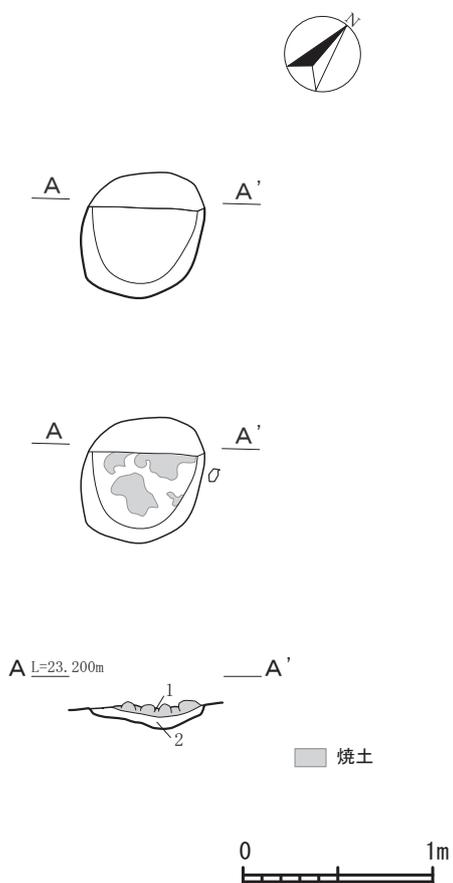


図 131 SK20 実測図 (1/40)



図 132 SK21 実測図 (1/40)

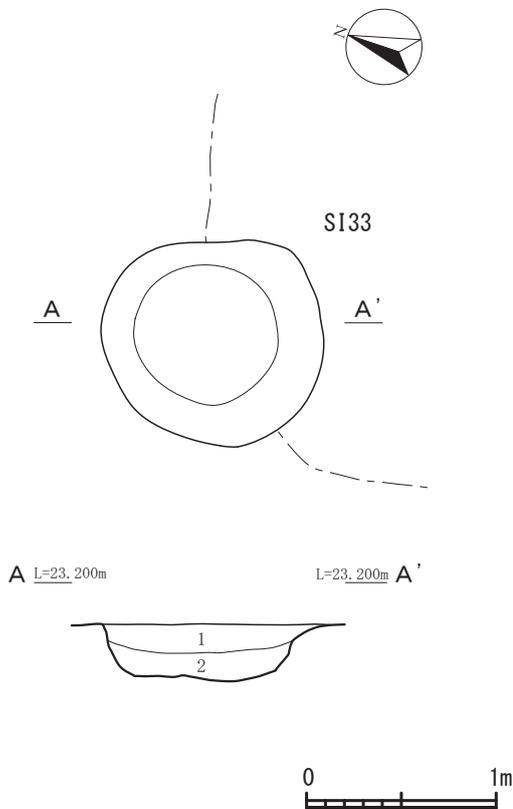


図 133 SK22 実測図 (1/40)

SK21

SK21 は、円形を呈する土壙である。b33 グリッドに位置する。

SK21 の法量は、直径 0.8m、遺構確認面からの深さ 1cm を測る。実測図には SK21 の外形は破線で表現されており、むしろ焼土の分布範囲と表現した方が適切かもしれない。

現地調査段階では、SK21 は焼土が含まれた層序をもちボウル形に掘りくぼめられた土壙が、その底部付近で検出されたもの、と捉えて調査している。

SK21 には、硬く焼きしまったおびただしい量の焼土が分布する。

土層註記は記録されていない。

SK22

SK22 は、円形を呈する土壙である。SK22 は SI33 を切っている。V28 グリッドに位置する。

SK22 の法量は、直径 1.1m、遺構確認面からの深さ 45cm を測る。

SK22 の底面は水平に整えられ、側壁は直立している。

以下に土層註記を記す。

1 : 7.5YR3/4 暗褐色粘質土。きめは細かく、しまりがある。極小大の粒状焼土が極少量含まれる。

2 : 7.5YR3/4 暗褐色粘質土。きめはやや粗く、しまりは 1 より弱い。1mm 大の土器片を 1 つ含む。

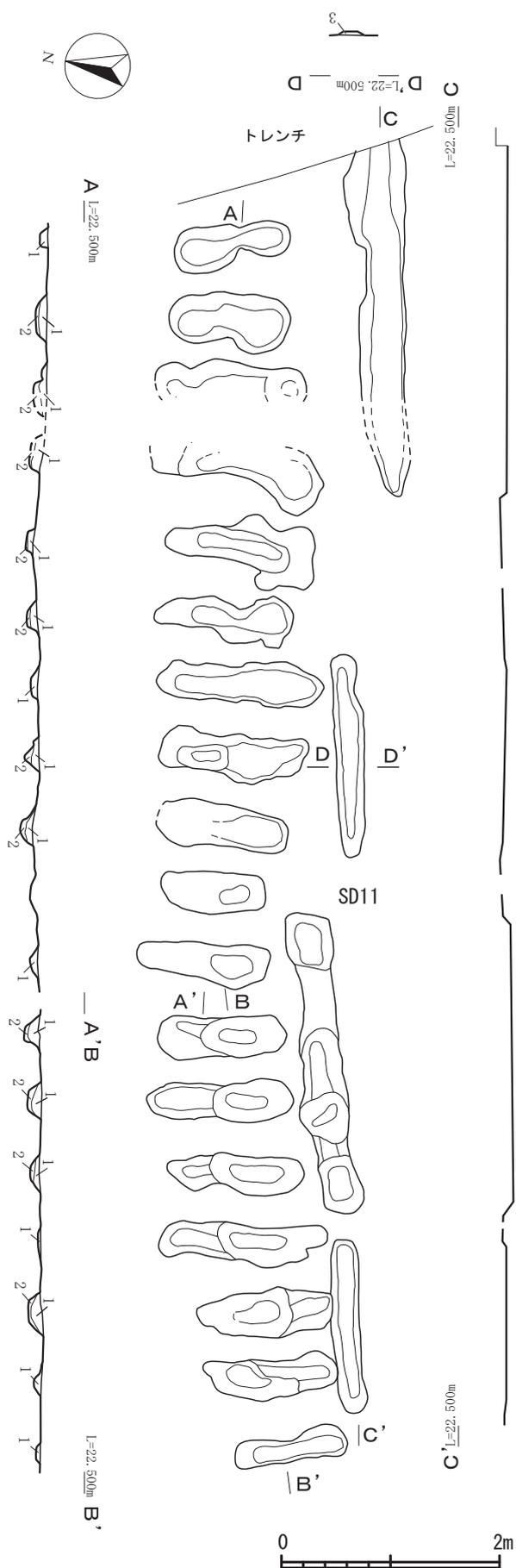


図 134 SF01、SD11 実測図 (1/60)

2-5 道路 (SF)

道路は、現地調査の段階でSF01、02、03、04、05の5条を検出した。しかし、道路と積極的に認めることができる遺構は、SF03、05の2条であり、この道路2条は調査直前まで供用されていたものである。

SF01

SF01は、現地調査の段階では東西方向に走る道路跡と判断していた。側溝、波板状圧痕を検出している。SF01はSD01、SB01を切っている。L8グリッドに位置する。

側溝は、南側溝1条、4単位を検出している。各単位は20cm以上の間隔をもち、走向は3筋に分かれる。

波板状圧痕は、長軸が側溝に直行する長さ1.3m程度、幅40cm程度、深さ10cm程度の両端部を丸く収めた溝が、概ね25cm間隔で18条検出されている。

SF01は、表土除去の段階で検出され、最大幅2.5m、総長11mを調査している。路体、または路面となる硬化面は、精査したもの、検出されていない。

調査段階では古代道路と判断しているが、その時代性を示す根拠はない。また、硬化面は確認されず、路体相当層も不明であり、「側溝」は谷側に位置する南側溝しか検出されていない。このことからSF01は、現段階において、積極的に道路と判断するに足る遺構構造を有するとは認められない。なお、調査日誌には「一部攪乱され」との記述もあり、表土除去段階でSD01の範囲内にもみ検出されたことに注目すれば、現代の牛馬の歩行跡と理解することが適切である。

以下に土層註記を記す。

- 1: 10YR3/3 暗褐色粘質土。きめは粗く、粘性は強く、硬くしまっている。1%弱の割合で砂粒を含む。
- 2: 10YR3/4 暗褐色粘質土。きめは粗く、1の土よりさらに粘性が強く、しまりは1より弱い。中に、極小大の7.5YR4/6 褐色土をまばらに含む。
- 3: 7.5YR4/2 灰褐色粘質土。きめは粗く、粘性は弱く、硬くしまっている。まばらに極小大の砂粒を少量含む。



图 135 SF02 上層段階、SD12 実測図 (1/60)

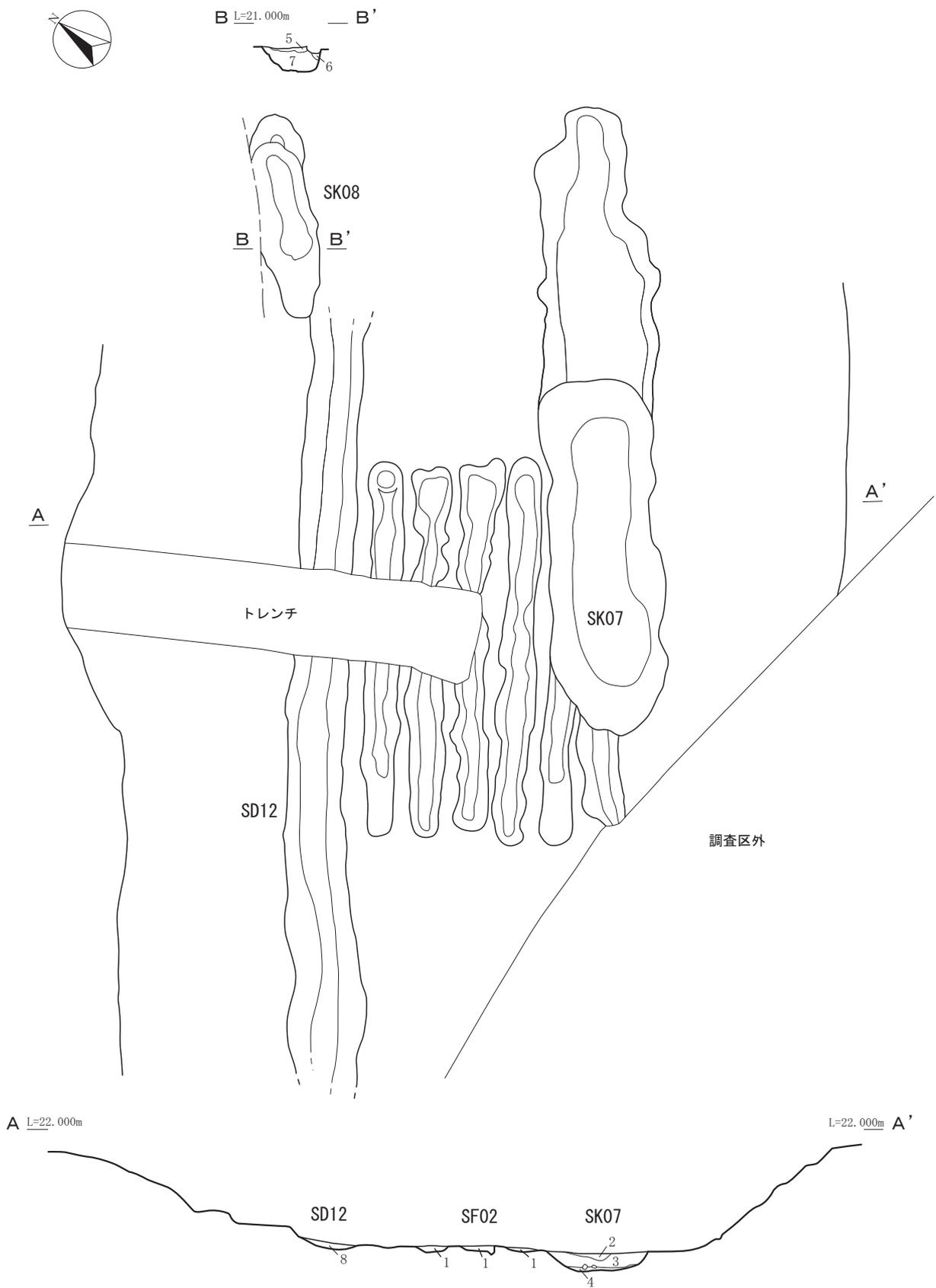


図 136 SF02 下層段階、SD12、SK07、SK08 実測図 (1/60)

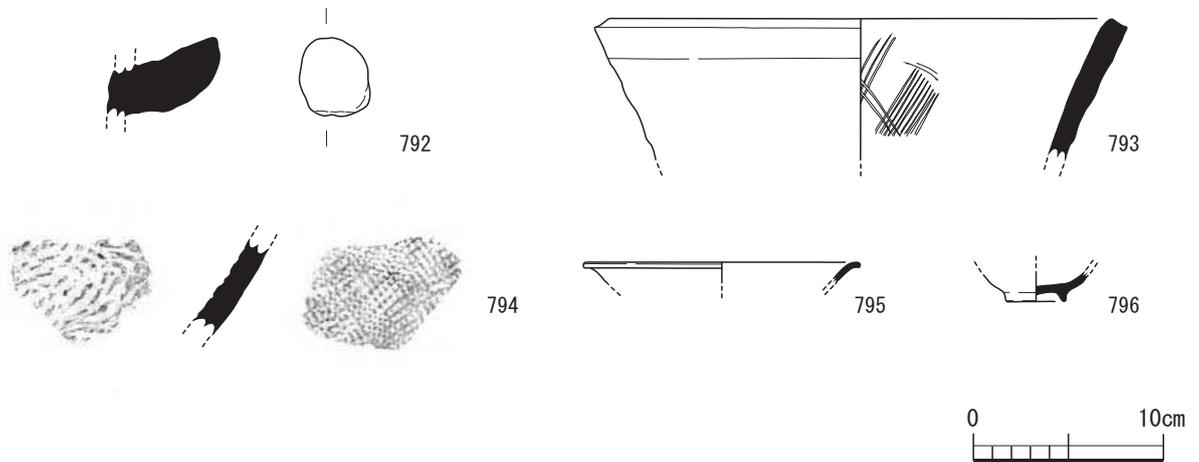


図 137 SK07 土器 (RP) 実測図

SF02

SF02 は、南西から北東方向に走る切通し構造を有する古代道路として調査された。側溝、波板状圧痕を検出し、上下2段階の供用が認められると現地調査では認識されている。SF02 はSK07 を切っている。P9 グリッドに位置する。

SF02 は、地山確認面で上端幅 7.8m、深さ 0.8m 程掘り下げられた斜面に挟まれる構造をもつが、切通しが抜けているのは南西方向のみであり、北東方向は 0.8m 以上の崖面で平坦面が閉ざされ、その先は現代の道 (SF03、SF05) に切られているため様相が不明である。さらに、10m 程先には北区の端部崖面が位置している。したがって、直線的に走向する道路とすることはできない。道路とした場合、平坦面際の崖面または北区にぶつかり終端となる例、SF05 と同走路で北に抜けるまたは東折する例、以上 4 例が想定可能である。なお、終端となる 2 例は、主要な遺構が弥生時代後期に限られる現状では採用し難い道路例である。

SF02 では、長軸が直行する波板状圧痕が上下層、2 段階に分かれて累重している。いずれの段階においても、切通し崖に沿って側溝 SD12 が位置している。

上層段階の波板状圧痕は、その長軸は側溝に直行し、長さ 3.5m 程度または 1.5m 程度、幅 40 cm 程度、深さ 10 cm 程度で両端部が角張る溝が、10 cm 以下の間隔で 21 条検出された。土層断面図 B-B' を参照すれば、上層段階の波板状圧痕は東から西に向かい約 30 度の斜面を順次伸長させるように褐色粘質土と黄褐色粘質

土が交互に斜位堆積している。その上面は、ほぼ水平を呈するように面が形成され、さらに互層構造部分を被覆するように褐色粘質土が 6 cm 程の厚さで被覆している。この層序から、SF02 は水平な平坦面を斜位堆積の互層構造により築造した構造物である、とすることができる。しかし、この土層断面図 B-B' の層序からは、土層断面図 A-A' 及び上層段階平面図を導くことはできない。なお、複数層の関係が明示されているのは土層断面図 B-B' のみであり、他の 2 図幅は「掘削」状況を「記録」したに過ぎない。

下層段階の波板状圧痕は、その長軸は側溝に平行で、長さ 4.0m 程度、幅 40 cm 程度、深さ 7 cm 程度で東端部が角張り、西端部が丸く収まる溝が、10 cm 以下の間隔で 5 条検出されている。なお、下層段階の波板状圧痕の南側には SK07 が長軸方向を同じくして位置している。下層段階の波板状圧痕は、磁器を包含する SK07 に切られている。

さて、平面図を参照すれば、上層段階における側溝 SD12 の上端幅は約 30 cm、底面幅は約 10 cm である。同様に平面図を参照すれば、下層段階における側溝 SD12 の上端幅は約 60 cm、底面幅は約 20 cm であり上層段階の SD12 東辺が下層段階の SD12 西辺と概ね合致する。このことから、SD12 は東方向に傾斜しながら堆積し、途中、くびれ部をもつ断面形を呈する溝となり、下層段階の波板状圧痕は側溝 SD12 に切れ、上層段階の波板状圧痕は側溝 SD12 を切っている、と判断できる。すなわち、上下層いずれの段階であっても

SF02 と SD12 は共伴しないこととなる。

以上から、現地調査段階における SF02 の理解は、次のとおり訂正することが必要となる。第一は「波板状圧痕」を確認することができないこと、第二に「側溝」を確認することができないこと、第三に上層段階の SF02 は近代以降に所属すること。

調査段階では古代道路と判断しているが、その時代性を示す根拠はない。また、道路の根拠である波板状圧痕は誤認であり、「側溝」と互層構造とは同時性を有しない。このことから SF02 は、現段階において、積極的に道路と判断するに足る遺構構造を有するとは認められない。

SF02 は、上端幅 7.8m、深さ 0.8m の南西から切込まれた底面に、幅 4.0m、長さ 12m 以上の平坦面が形成された時期不明の遺構である。

おって、SF02 は現代の地籍図にも平面形が残存しており南西方向に連続する筆群を認めることができる。

以下に土層註記を記す。

上層段階

1 : 10YR7/4 にぶい黄橙色粘質土。きめは細かく、粘性が強く、粘土に近い土で、ややしまっている。5YR6/6 橙色の粘質土（粘性が強く、きめの細かい、ややしまった土）が 1～10 cm 大のブロック状に多量に入り、また、所々に 10YR4/6 褐色土が少量入る。さらに、全体的に 1% 弱の割合で極小大の粒状の黒色土を含んでいる。割合は、にぶい黄橙色土 : 橙色土 : 黒色土 = 5 : 4 : 1 程度である。

2 : 7.5YR4/4 褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性、しまりにある。所々に、5YR4/8 赤褐色土や 10YR7/6 明黄褐色土を 1 cm 前後の大きさで少量含む。また、この層の上端は SF02 の硬化面にあたり、上部 4～5 cm の範囲に 1 cm 前後の黒い粒子を集中して含む。

3 : 10YR6/4 にぶい黄橙色粘質土。きめは細かく、粘性は強く、粘土に近い。5YR4/8 赤褐色粘質土（きめが細かく粘土に近い土）を中～大程度の大きさで多量に含み、10YR7/6 明黄褐色粘質土を部分的に極少量含み、また、全体的に極小の黒色粒をまばらに含む。それぞれの比率は、にぶい黄褐色 : 赤褐色 : 明黄褐色 : 褐色 = 50 : 40 : 1 : 9 である。この層は SF02 の波板状

遺構の埋土にあたる。

4 : 10YR4/4 褐色粘質土。きめは粗く、粘性は強く、しまりは弱い。0.5～1 cm 大の黒い粒を含む。

5 : 7.5YR4/4 褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性、しまりに共にややある。2 の土と似ている。まばらに 1～2 cm 大の 10YR6/4 にぶい黄褐色土や 5YR4/8 赤褐色土をそれぞれ 1% 程度の割合で含む。全体的に黒い粒を 15% 程度含む。

6 : 10YR6/4 にぶい黄橙色粘質土。きめは細かく、粘性は強く、粘土に近い。1% 程度の割合で、極小の黒い粒を含む。地山にあたる。

7 : 10YR4/4 褐色粘質土。きめは粗く、粘性、しまりに共に弱い。上部は乾燥していて、樹根や草の根が多く入る。表土。

8a : 10YR3/4 暗褐色粘質土。きめは粗く、粘性、しまりに共に弱い。樹根や草の根を多く含む。

8b : 10YR3/4 暗褐色粘質土。きめは粗く、粘性、しまりに共に弱い。土質は 8a と同じだが、1～4 cm 大の 5YR4/8 赤褐色土ブロックを 10% の割合で含む。また、極小大の黒色粒をまばらに含む。樹根や草の根が多く入る。

9 : 7.5YR4/3 褐色粘質土。きめは粗く、粘性がややあり、少ししまっている。砂や極小の黒色粒をまばらに少量含む。

10 : 10YR4/6 褐色粘質土。きめは粗く、粘性、しまりに共にややある。1 cm 前後の黒色粒をまばらに少量含む。

下層段階

1 : 7.5YR5/4 にぶい褐色土。きめはやや細かく、粘性があり、しまっている。多量に極小大～1 cm 大の粒状の黒色土が入り、さらに極小大～2 cm 大の橙色土ブロックが少量入る。また、極小～2 cm 大のにぶい黄褐色土が同量入っている。波板状圧痕の埋土。

SF03

SF03は、Y21グリッドからP10グリッドまで東西に走り、西側で屈折してO10グリッドまで北西に走向する道路跡として現地調査された。側溝としてSD06、SD07を検出している。SF03はSD01を切り、SF05に切られている。P12グリッドに位置する。

SF03は、現代も使用されていた道路である。

調査段階では近世道路と判断しているが、今次調査開始前の調査区用地への出入りにも供用されており、現代道路と理解することが適切である。

以下に土層註記を記す。

A-A'

1：表土。

2a：10YR3/4 暗褐色粘質土。きめは粗く、粘性は弱く、硬くしまっている。1～3 cm大の10YR2/3 黒褐色土及び7.5YR5/8 明褐色土を多量に含む。

2b：10YR3/4 暗褐色粘質土。土色、土質は2aとほぼ同じだが、やや2aよりしまりが弱い。含まれる混入物も2aと同じだが、大きさが1 cm以内と小さく、割合も1%弱と少ない。また、2種に加え、10YR5/8 黄褐色の極小大の粒を所々に含む。

2c：10YR2/3 黒褐色粘質土、7.5YR5/8 明褐色粘質土が同割合で混ざった土。所々に黒い粒を含んでいる。

2d：10YR3/4 暗褐色粘質土。きめは粗く、粘性は弱く、硬くしまっている。極小大の10YR7/8 黄橙色の粒及び10YR5/8 黄褐色の粒を微量含む。さらに、全体に砂粒を1%弱含んでいる。

2e：10YR4/4 褐色粘質土。きめは粗く、粘性は弱く、2dに比べ、しまりも弱い。1 cm大の10YR5/8 黄褐色の土を全体的に5%程度含んでいる。

3a：10YR5/8 黄褐色粘質土。きめは粗く、粘性も弱く、硬くしまった土。多量に砂粒及び2～4 cm大の白色の石を含み、さらに1 cm大の黒い粒を所々に含む。

3b：10YR5/8 黄褐色土。きめはやや細かく、粘性もほとんどなく、非常に硬くしまっている。3aに比べ、砂粒はほとんど含んでおらず、黒い粒を所々に含む。

3c：10YR5/8 黄褐色粘質土。きめはやや細かく、3bに比べ、やや粘性があり、硬くしまるが、3bより弱い。全体的に砂粒を含み、さらに5%程度の割合で黒い粒を含む。また、一部に10YR6/8 明黄褐色の粘土質の土

を5 cm大で含んでいる。

3d：10YR5/6 黄褐色粘質土。きめはやや細かく、やや粘性があり、3cに比べ、ややしまりがある。少量の砂粒、黒い粒もあるが、3cに比べ割合が少ない。

4a：10YR5/4 にぶい黄褐色土。きめはやや細かく、粘性もほとんどなく、しまっている。10YR5/6 黄褐色の粘質土をまばらに1～5 cm大のブロック状に含み、さらに10YR7/3 にぶい黄橙色の粘質土を1 cm弱の粒状で所々含んでいる。

4b：10YR3/4 暗褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性もややあり、しまっている。極小大の10YR5/8 黄褐色の粒を微量に含んでいる。

4c：10YR4/6 褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性のややある、しまった土。極小大の10YR5/8 黄褐色の土を含んでいる。

4d：10YR4/4 褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性もややあり、非常に硬くしまった土。全体的に砂粒、黒い粒を5%弱含んでいる。硬化面。

4e：7.5YR5/6 明褐色粘質土（きめはやや細かく、粘性もあり、しまりもややある）、5YR5/6 明赤褐色粘質土（きめはやや細かく、粘性もややある）、10YR4/4 褐色粘質土（きめはやや細かく、粘性はわずかにある）が、4：4：2程度で混じった土。全体的に砂粒、黒い粒を1%弱含み、所々に1 cm大の10YR7/4 にぶい橙色の土を含んでいる。また、全体的に硬くしまっている。

4f：10YR3/3 暗褐色粘質土、5YR5/6 明赤褐色粘質土、7.5YR5/6 明褐色粘質土が同じ割合で混ざった土。所々に黒い粒及び極小大の白い粘土質の土を含んでいる。

4g：10YR4/4 褐色土（きめは細かく、粘性がほとんどない）、10YR6/4 にぶい黄橙色土（きめは細かく、粘性もある）、5YR5/6 明赤褐色粘質土（きめが細かい）が、6：2：2程度で混ざった土。全体的に少量の砂粒及び黒い粒を含んでいる。4dの硬化面の下地（硬化面の基本的な層）である。

5a：10YR4/4 褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性もややあり、硬くしまっている。混入物は比較的少ないが、所々に10YR4/6 にぶい黄褐色の極小大～6 cm大のブロック状の土及び5YR 明赤褐色の極小大の土を1%弱、さらに黒い粒を全体的に1%弱含んでいる。

5b：5YR 明赤褐色粘質土（きめは細かく、粘性がある）、

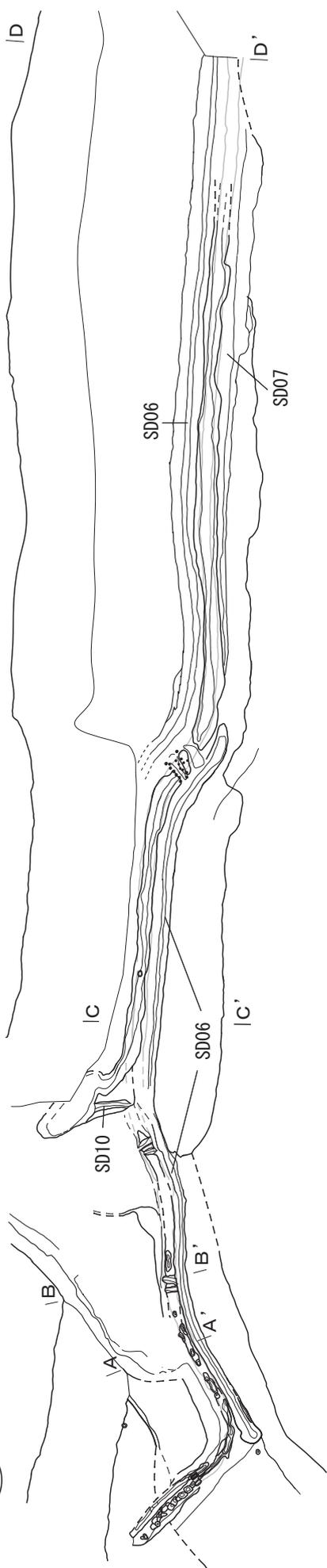


图 138 SF03、SD06、SD07、SD10 実測図 (1/300)

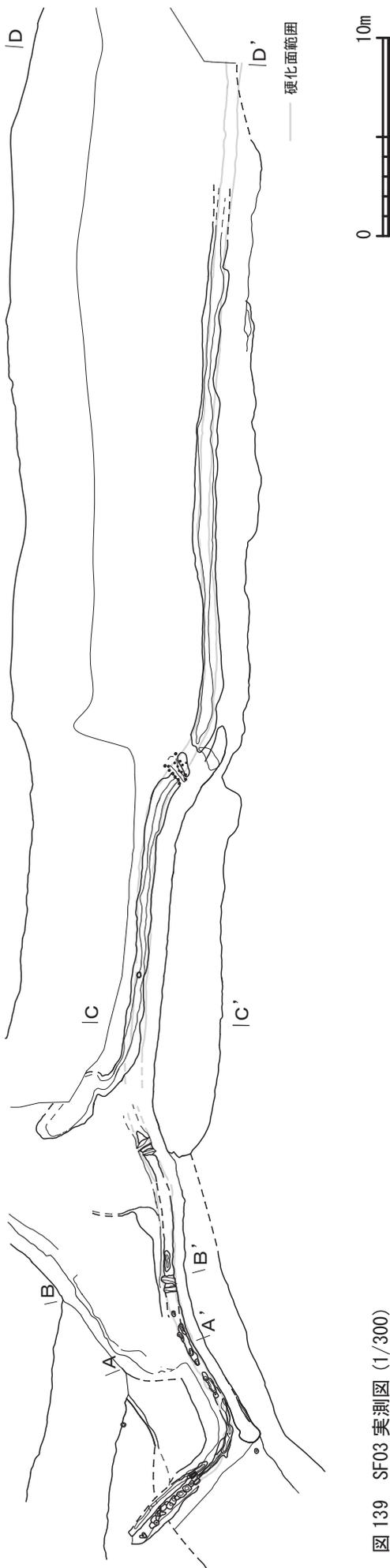


图 139 SF03 実測図 (1/300)

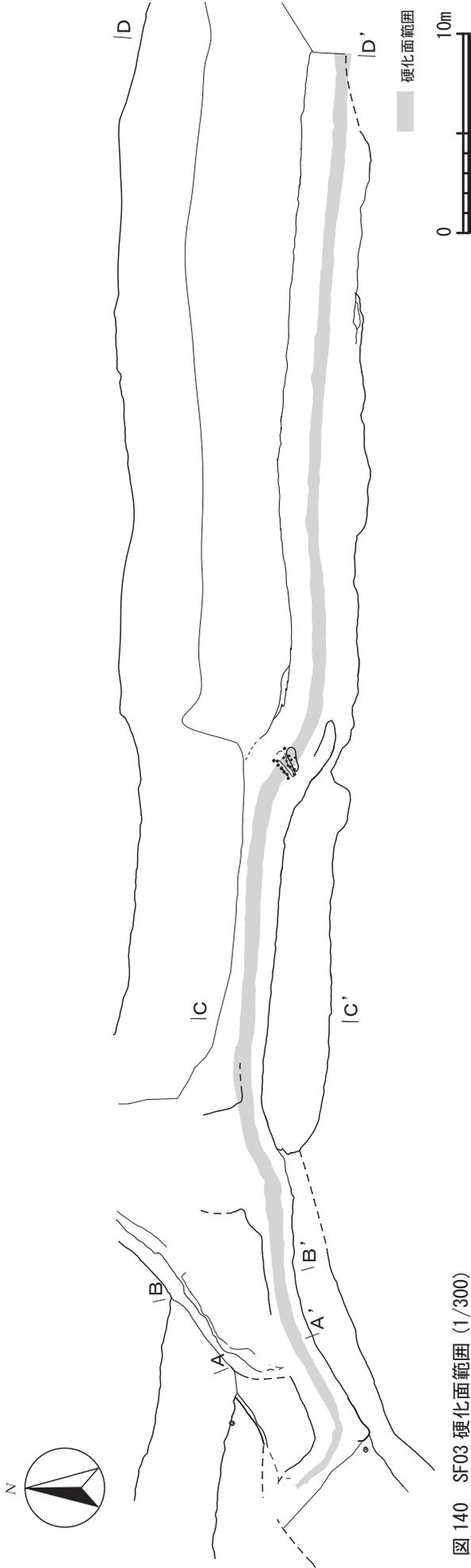


图 140 SF03 硬化面範圍 (1/300)

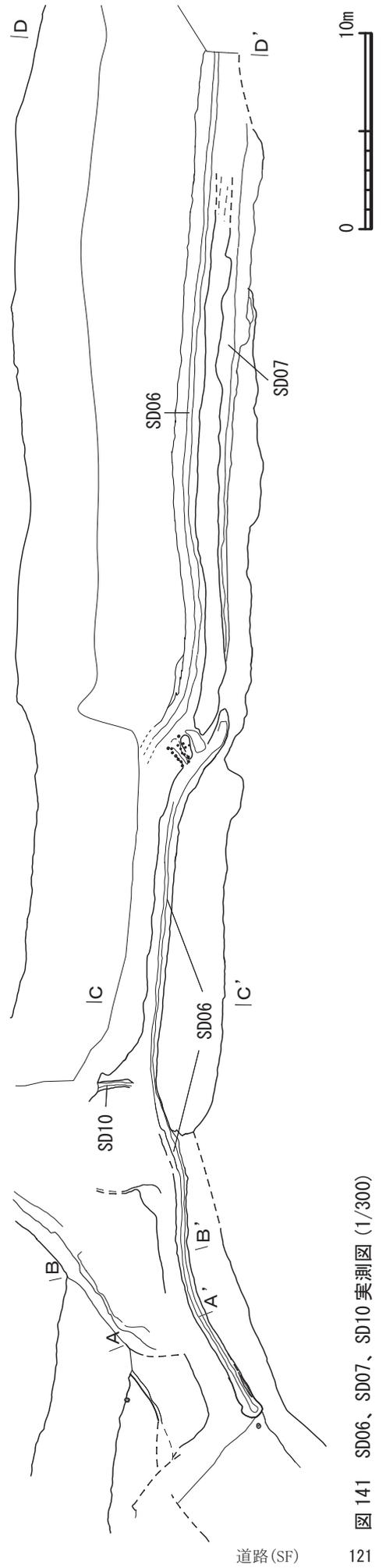
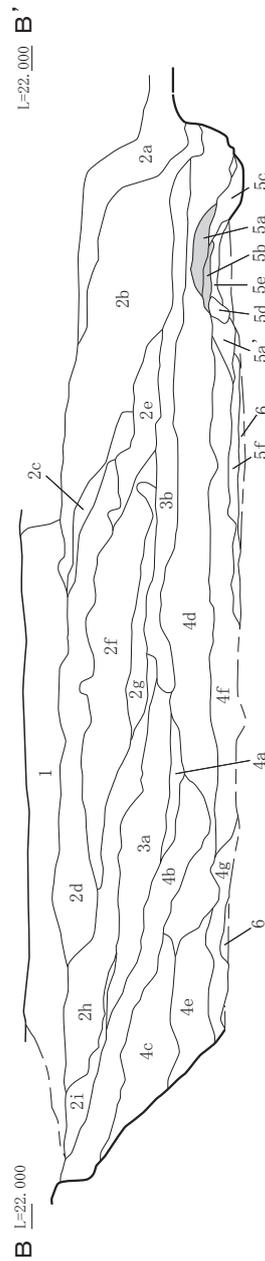
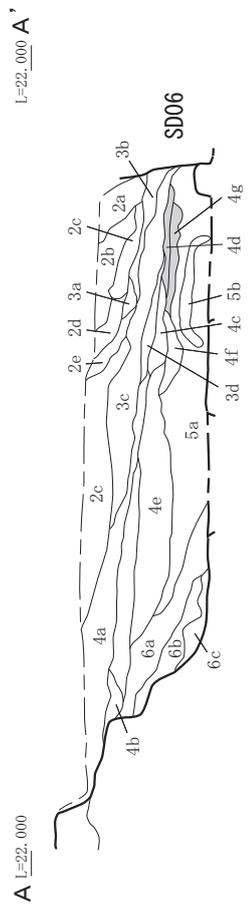


图 141 SD06、SD07、SD10 実測図 (1/300)

道路(SF)



SF03 礫化面



图 142 SF03、SD06 断面图 (1/60)

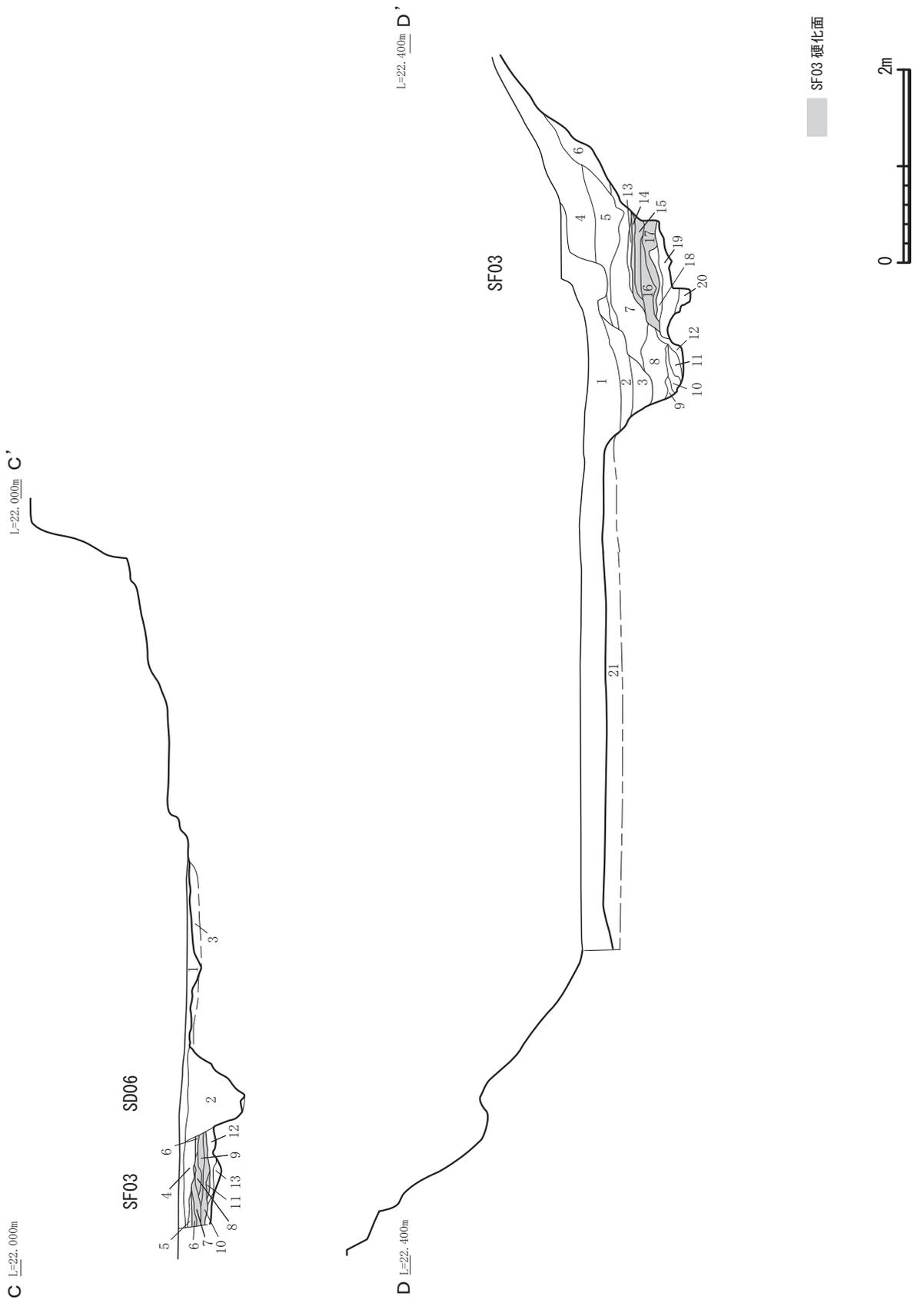


图 143 SF03、SD06 断面图 (1/60)

10YR4/4 褐色粘質土（きめはやや細かく、粘性は弱い）が、6：4程度の割合で混ざった土。所々に、10YR4/6 鈍い黄褐色の1 cm大の粘質土を含み、さらに全体的に1%弱の割合で黒い粒を含んでいる。

6a：7.5YR5/8 明褐色粘質土（きめは細かく、粘性がややあり、しまりもある）、10YR4/4 褐色土（きめはやや細かく、粘性のないフカフカの土で、しまりは弱い）、10YR3/4 暗褐色粘質土が、4：4：2程度で混じった土。所々に、白い粘質土（1 cm弱大）を含み、黒い粒も所々でみられる。全体的に硬くしまっている。

6b：10YR6/4 にぶい黄橙色粘質土（きめは細かく、粘性がある）、10YR3/4 暗褐色粘質土（きめは細かい）、7.5YR5/8 明褐色粘質土が、4：3：3程度で混ざった土。所々に、黒い粒を含む。全体として、6aよりしまりが弱い。

6c：10YR3/3 暗褐色粘質土。きめは細かく、粘性があり、ややしまっている。所々に、黒い粒を含み、さらに、下部に数箇所10YR6/4 にぶい黄橙色の2 cm大のブロック状の粘質土を含んでいる。

B-B'

1：10YR4/4 にぶい黄橙色土。きめはやや細かく、粘性はほとんどなく、非常に硬くしまっている。砂粒が多量に含まれる。

2a：10YR4/4 褐色土。きめはやや細かく、粘性のほとんどない、硬くしまった土。砂粒を多量に全体的に含んでいる。

2b：7.5YR4/6 褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性があり、ややしまっている。全体的に10YR3/3 暗褐色粘質土を1～5 cm大のブロック状に10%程含み、さらに部分的に7.5YR7/4 にぶい橙色粘質土を5～10 cmのブロック状に含んでいる。

2c：10YR2/3 黒褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性があり、非常にしまっている。まばらに1～5 cm大で7.5YR4/6 褐色粘質土を含んでいる。

2d：7.5YR5/8 明褐色粘質土。きめは粗く、粘性があり、ややしまりは弱い。ブロック状に1～5 cm大の10YR2/3 黒褐色粘質土が全体的に5%程度入っている。

2e：7.5YR5/8 明褐色粘質土、10YR2/3 黒褐色粘質土が同じ割合で混ざった土。基本は明褐色粘質土で、1～10 cm大のブロック状の黒褐色土が入っている。この2

種の土は、2dと同じ質であるが、2eの方が黒褐色のブロックが大きく、割合も高い。

2f：10YR2/3 黒褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性もややあり、ほどよくしまりがある。所々1～3 cm大の7.5YR5/8 明褐色土がブロック状に入っている。

2g：7.5YR4/6 褐色粘質土。きめは細かく、粘性は強く、ややしまっている。10YR2/3 黒褐色粘質土が、1～5 cm大のブロック状に10%程度含まれている。

2h：7.5YR4/6 褐色粘質土。土質、混入物共に2gと同じだが、それに加えて10YR6/6 明黄褐色土が1～5 cm大のブロック状で所々に入る。この明黄褐色土は、きめが細かく、やや砂質で、他の2種に比べてしまりが弱い。

2i：7.5YR4/6 褐色粘質土。

3a：10YR6/6 明黄褐色砂質土。きめは細かく、わずかに粘性があり、ややしまっている。やや明るい10YR7/6 明黄褐色の1～3 cm大のブロック状の土が少量、また、極小大の黒い粒が全体的にまばらに入っている。

3b：10YR4/4 褐色砂質土。きめは細かく、わずかに粘性があり、ややしまっている。極小大の黒色粒及び明黄褐色粒や砂粒を全体的にまばらに含む。

4a：7.5YR4/4 褐色土。きめは細かく、わずかに粘性があり、非常にしまっている。極小大の砂粒、黒色粒、明黄褐色粒を全体的にまばらに含む。

4b：7.5YR4/4 褐色土。土質は4aと同じだが、1～5 cm大の7.5YR7/4 にぶい橙色粘質土や7.5YR5/6 明褐色粘質土を同割合ずつ10%程度含んでいる。また、全体的に極小大の砂粒や黒色粒をまばらに含んでいる。

4c：7.5YR4/4 褐色粘質土。4bと似ているが、4bより粘性が強く、しまりはやや弱い。4bの混入土に加え、1～6 cm大の10YR7/3 にぶい黄橙色粘質土を全体的に5%程度含んでいる。

4d：7.5YR4/4 褐色土。4aと同じ7.5YR4/4 褐色土だが、やや粘性は4aより強い粘質土である。混入土も4aと同じだが、割合は少なく、まばらにしか入っていない（1%弱）。

4e：7.5YR4/4 褐色粘質土。土質、混入物とも4cと同じだが、ブロックの大きさが5～20 cm大と大きく、割合もベースの褐色の粘質土より3種の混入物の方が

多くなっている。

4f:10YR4/4 褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性は強く、しまりが弱い。全体的に 10%程度黒色粒を含み、所々に 1～2 cm大の明褐色の土も含む。

4g:10YR4/4 褐色粘質土。4f とほぼ同じだが、5f に比べ、やや粘性が強く、5a の混入物に加え、6 の地山の土（にぶい黄橙色）を 1～5 cm大で所々に含んでいる。

5a: 10YR4/4 褐色土。きめはやや細かく、わずかに粘性があり、非常にしまっている。1 cm大の 7.5YR5/6 明褐色土を少々、また全体的に 1 cm弱の黒色粒を含んでいる。

5a': 10YR4/4 褐色土。5a よりわずかに粘性が強い。他は同じである。

5b: 7.5YR5/6 明褐色土。きめは細かく、わずかに粘性があり、非常にしまっている。全体的に黒色粒を含む。

5c: 10YR4/4 褐色土。5a と似ているが、より粘性が強く、わずかにしまりが弱い。また、含まれる黒色粒はやや少ない。

5d: 10YR4/3 にぶい黄褐色土。5e とほぼ同じだが、やや粘性が強く、わずかにしまりが弱い。

5e: 10YR4/3 にぶい黄褐色土。きめはやや細かく、わずかに粘性があり、非常にしまっている。全体的に黒色粒を含む。

5f: 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性は強く、しまりは弱い。全体的に黒色粒を、また、所々に明褐色の 1 cm大の土を少量含む。

6: 10YR7/3 にぶい黄橙色粘質土。きめは細かく、粘性は強く、粘土に近い。黒色粒を多く含む。地山にあたる。

C-C'

1:10YR4/3 にぶい黄褐色土。きめは粗く、砂混じりで、硬くしまる。礫を多く含む。

2: 10YR4/3 にぶい黄褐色土。1 と同じだが、より砂を多く含む。

3: 10YR7/2 にぶい黄橙色粘質土、10YR4/4 褐色粘質土この 2 つを同割合で混ぜた層で、ややしまる。

4: 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土。1～5 cm大で黒色の粘質土のブロックを含む。

5: 10YR4/2 灰黄褐色砂質土。しまりがある。

6:7. 5YR7/6 橙色粘質土、10YR7/2 にぶい黄橙色粘質土。この 2 つが同割合で混ぜた層。

7:7. 5YR6/8 橙色粘質土、10YR7/2 にぶい黄橙色粘質土、10YR3/2 黒褐色粘質土が同程度で混ぜた層で、硬くしまっている。全体として、少し砂が混じる。

8: 10YR4/2 灰黄褐色砂質土。しまりがある。

9:7. 5YR6/8 橙色粘質土、10YR7/2 にぶい黄橙色粘質土、10YR3/2 黒褐色粘質土が混ぜた層だが、黒褐色の粘質土が 7 より少ない。

10: 7.5YR6/8 橙色の粘質土、10YR7/2 にぶい黄橙色粘質土、10YR3/2 黒褐色粘質土が同程度混ぜた層で、硬くしまっている。それぞれのブロックの大きさが大きい。

11: 10YR4/2 灰黄褐色砂質土。しまりがある。

12: 7.5YR6/6 橙色粘質土。しまりがある。

13: 10YR6/1 灰褐色砂質土。しまりがあり、凝灰岩のくずを少し含む。

D-D'

1: 10YR5/3 にぶい黄褐色土。きめはやや粗く、粘性が少しあり、硬くしまっている。砂、礫、炭化物等の混入物が大量に入っている。

2: 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土。1 と同じく、きめはやや粗く、砂、礫、炭化物等の混入物が多量に入り、砂まじりでしまりは弱い。

3: 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土。2 よりさらに砂を多く含んでいる。

4: 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土。きめは粗いが、粘性はなく、しまりが弱い。砂、礫、石などの混入物が多い。また、直下の地山の土（7.5YR6/8 橙色の土）を極小大で全体的に多く含んでいる。

5: 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土。きめは粗く、全体的に硬くしまっている。多くの砂、礫、石を含んでいる。また、黄褐色、黒褐色の土を 1～10 cm大のブロック状に所々含んでいる。炭化物も少し入る。

6: 10YR5/4 にぶい黄褐色土。きめは粗く、粘性がわずかにあり、しまりはなくホカホカしている。

7: 10YR5/1 褐灰色砂質土。きめは極めて粗く、全体としてややしまる。粒状の砂、1～10 cm大の礫石が多量に入っている。また、周りに鉄分を帯びた凝灰岩のブロック（柔らかく、石のように硬くない）が 1～

8 cm程度で所々に入っている。

8 : 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土。きめはやや粗く、粘性があり、ややしまっている。5 mm大～粒状のマンガンを多量に含む。粘質土だが、やや砂混じりである。

9 : 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土。8 と同じだが、砂がより多く混じり、しまりは弱い。また、マンガンは8 より少ない。

10 : 10YR5/2 灰黄褐色粘質土。きめは粗く、粘性があり、砂混じりで、しまりは弱い。マンガンの黒色の粒を少し含む。

11 : 11YR5/2 灰黄褐色砂質土。しまりは弱い。

12 : 10YR5/2 灰黄褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性が強く、ややしまる。極小～1 cm大のマンガンを少し含む。

13 : 10YR5/6 黄褐色の粘質土。きめはやや粗く、砂が混じり、硬くしまっている。7 の影響を多く受けている。

14 : 10YR5/6 黄褐色粘質土。きめはやや細かく、粘性がやや強く、しまっている。

15 : 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土。きめは細かく、硬くしまっている。

16 : 10YR5/2 灰黄褐色砂質土。きめは粗く、硬くしまった砂質土で、マンガンを所々に含む。

17 : 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土。粘性は少しあり、砂混じりで、ややしまっている。5～10 cmの帯状に灰白色の粘質土を少量含んでいる。

18 : 10YR7/2 にぶい黄橙色粘質土、5YR6/4 にぶい橙色粘質土、にぶい黄橙色粘質土を同程度混ぜた層で、ややしまっている。

19 : 10YR5/2 灰黄褐色砂質土。きめは粗く、粘性が少しあり、しまりはやや弱い、砂混じりの層。極小大のマンガンを多量に含む。

20 : 10YR3/3 暗褐色砂質土。しまりはやや弱い。極小大～1 cmの礫を多く含む。

21 : 10YR4/3 にぶい黄褐色土。きめはやや粗く、粘性がわずかにあり、非常に硬くしまっている。極小大の砂粒を少し含む。

SF04

SF04 は、南西から北東方向に走る切通し構造を有

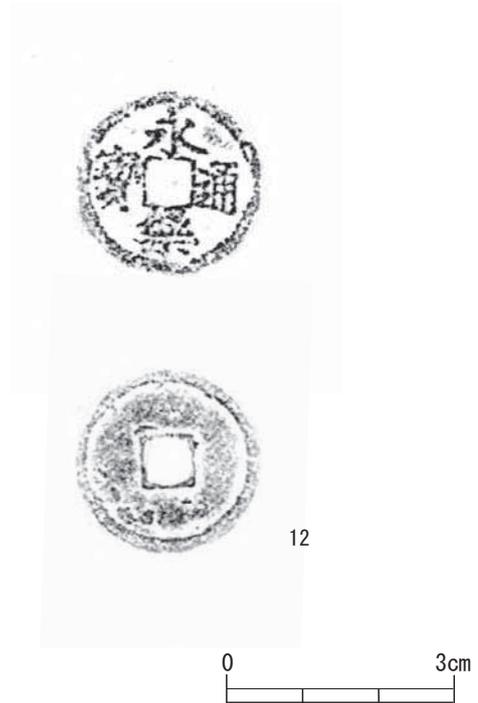


図 144 SF03 出土銭貨 (RM) 拓影

する道路跡として調査された。側溝、波板状圧痕を検出したと現地では認識されている。SF04 は SD01 を切っている。P12 グリッドに位置する。

SF04 は、SF02 の延伸部分に位置し、5m 程先には北区の端部崖面が位置している。このことから、SF04 は SF02 に連続する遺構である可能性がある。

平面図を参照すれば、側溝は、北側溝 1 条が検出されている。側溝は、長さ不明、幅 60 cm、深さ 5 cm を測る。

波板状圧痕は、長軸が側溝に直行する長さ 2.1m 程度、幅 40 cm 程度、深さ 3 cm 程度の両端部を丸く収めた溝が、概ね 15 cm 間隔で 5 条検出されている。

土層註記は記録されていない。

SF04 は、調査段階では、一旦、古代道路と判断され SF02 との接続も考えられたが、欠番扱いとなり、断面実測図も作成されていない。しかし、平面図は作成されており、欠番の理由も明示されていないこと、SF02 と連続する遺構となる可能性があるため、ここに報告した。なお、波板状圧痕は、SF02 と同様、誤認されている可能性がある。

SF04 は、幅 2m 以上、長さ 4m 以上の平坦面が形成された時期不明の遺構である。

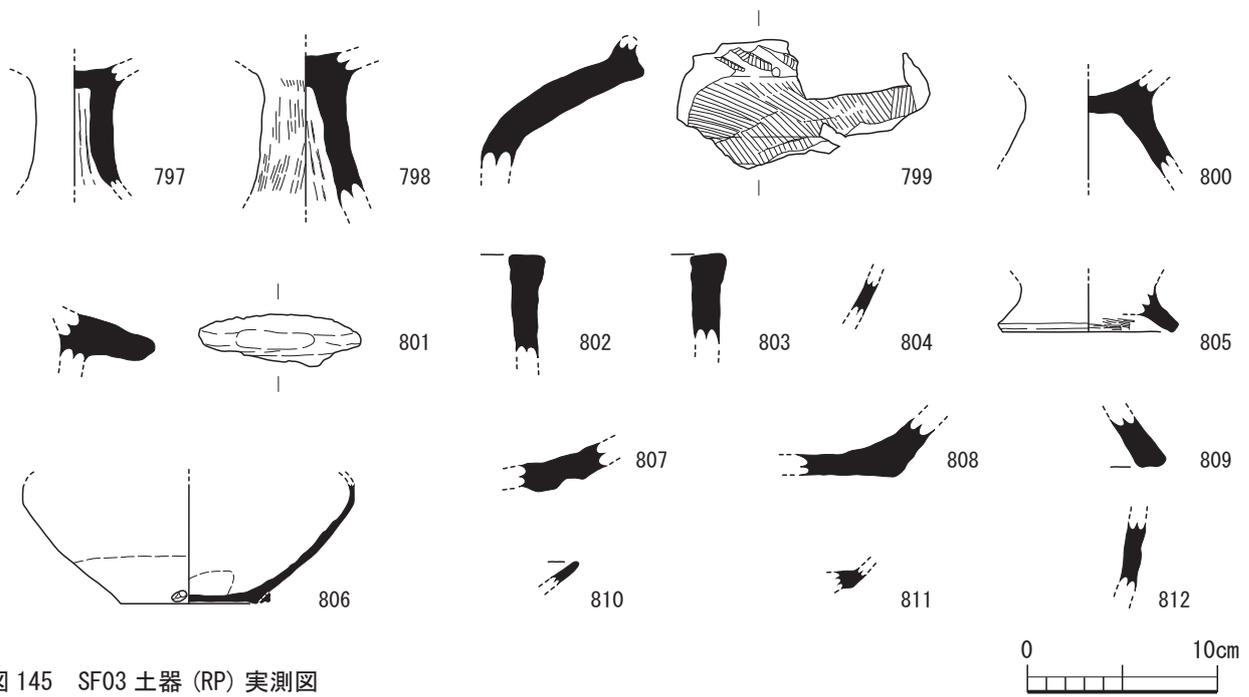


图 145 SF03 土器 (RP) 实测图

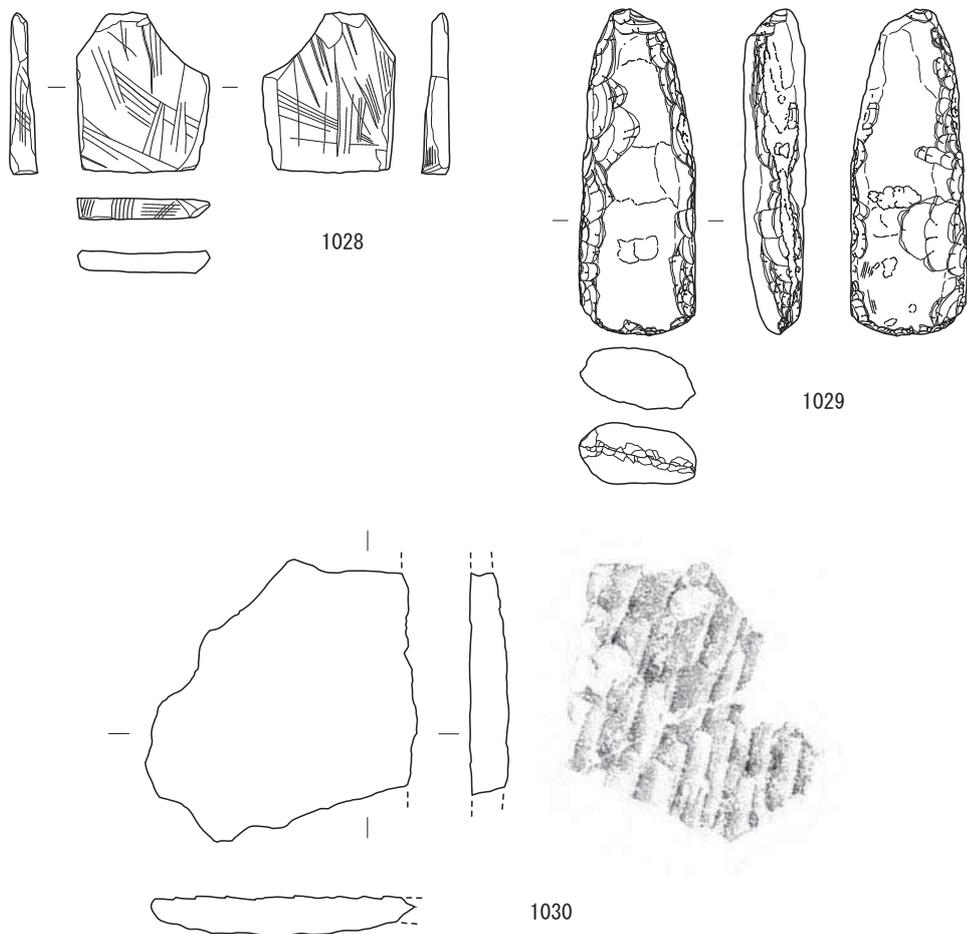


图 146 SF03 石器 (RQ) 实测图



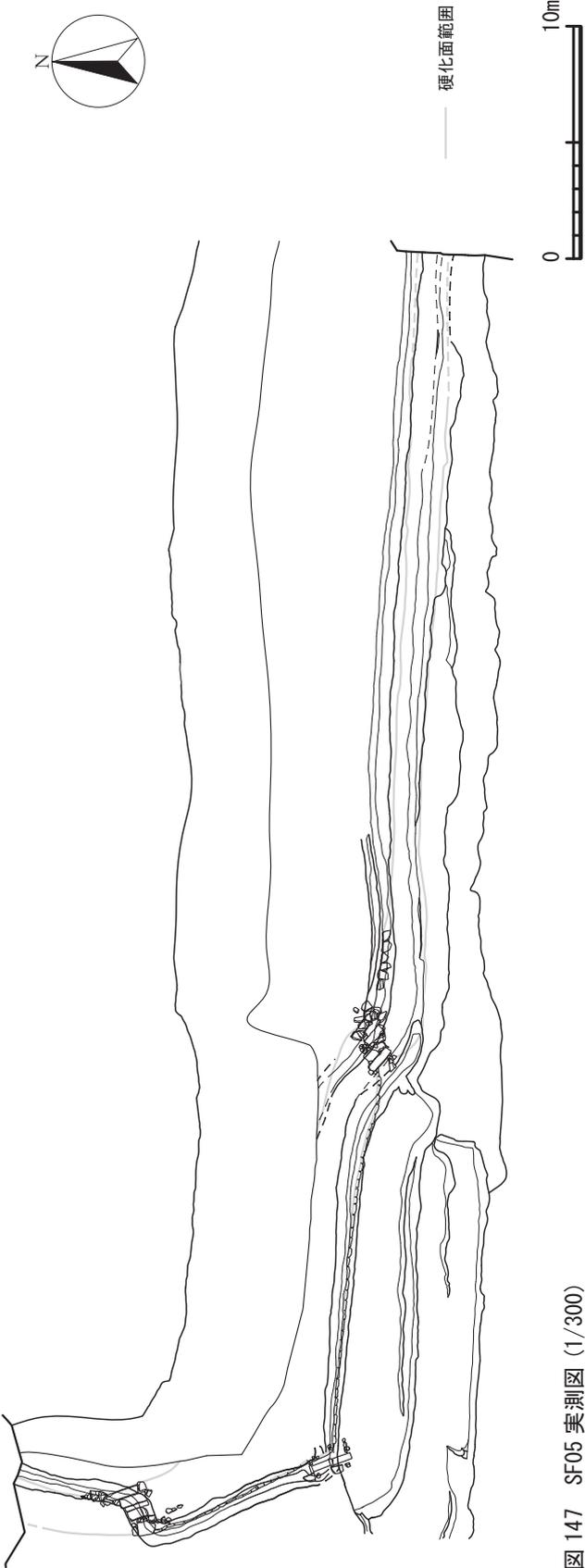
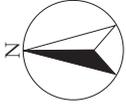


图 147 SF05 実測図 (1/300)

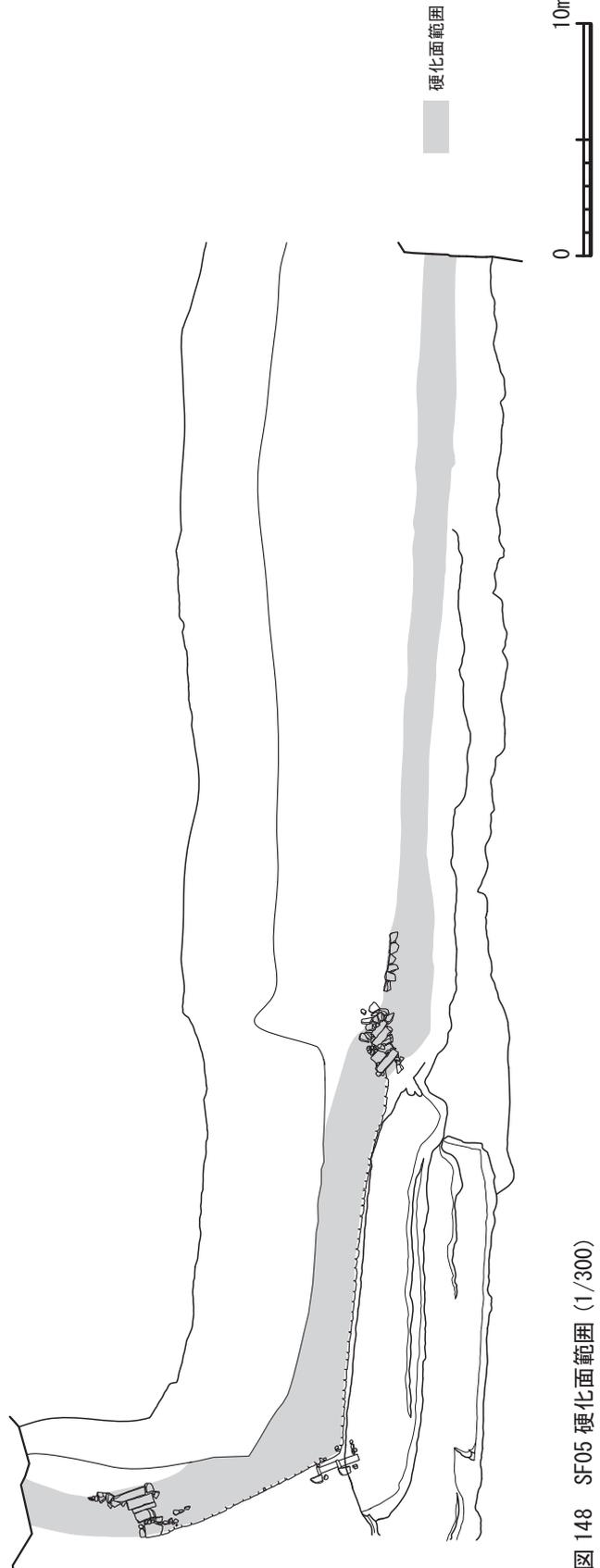


图 148 SF05 硬化面範圍 (1/300)

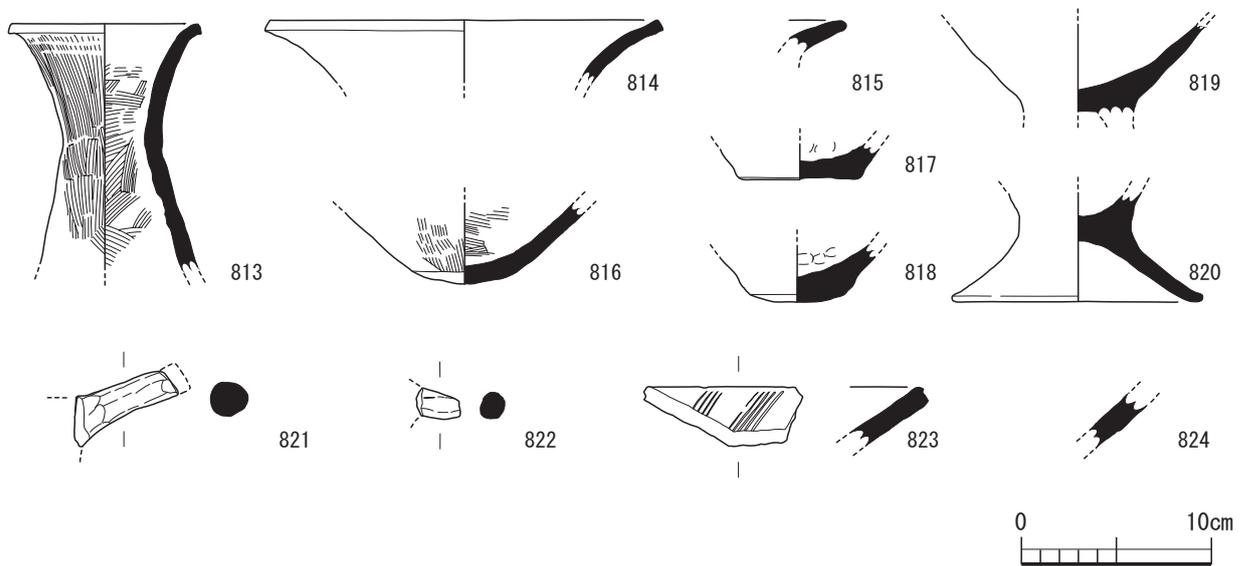


図 149 西区出土土器 (RP) 実測図

SF05

SF05 は、Y21 グリッドから Q13 グリッドまで北区外周に沿って東西方向に走り、のち 015 グリッドまで北走する道路跡として現地調査された。路面である硬化面、硬化面に沿い割石で擁壁された側溝の複合体であり、側溝が道路を横切る点には 4 列の蓋石が検出されている。SF05 は SD01 を切っている。なお、SF05 は SF03 を切っている、と現地調査段階で判断しているが、切合関係を認める根拠に欠ける。

側溝は、015 グリッドから Q13 グリッドまでは溝 1 条がクランク状に屈曲しながら路面に沿って検出されている。Y21 グリッドから Q13 グリッドまでの間は、南側、北側の両側に側溝がある、と現地調査段階では判断しているが、当該側溝として SD06 及び SD07 が図示されている。この状況を整理すれば、SF03 及び SF05 は同一道路であると理解することが適切と考える。

土層註記は記録されていない。

SF05 は、現代も使用されていた道路である。

調査段階では近代道路と判断しているが、調査区への出入りにも供用されており、現代道路と理解することが適切である。

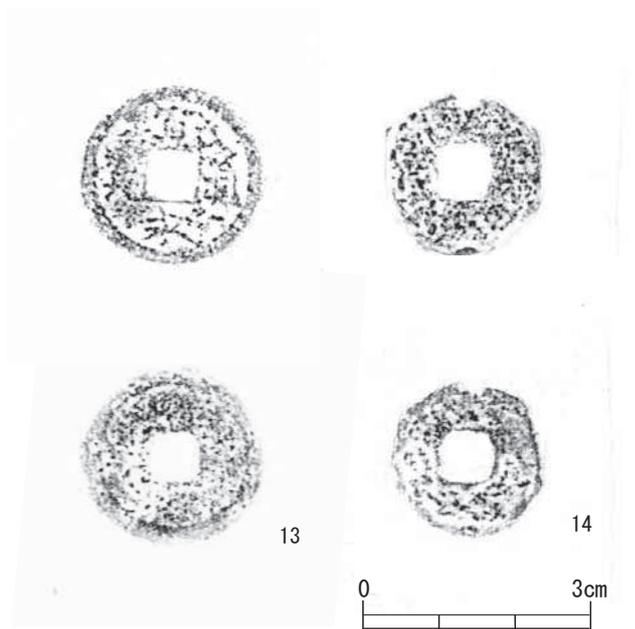


図 150 西区出土銭貨 (RM) 拓影

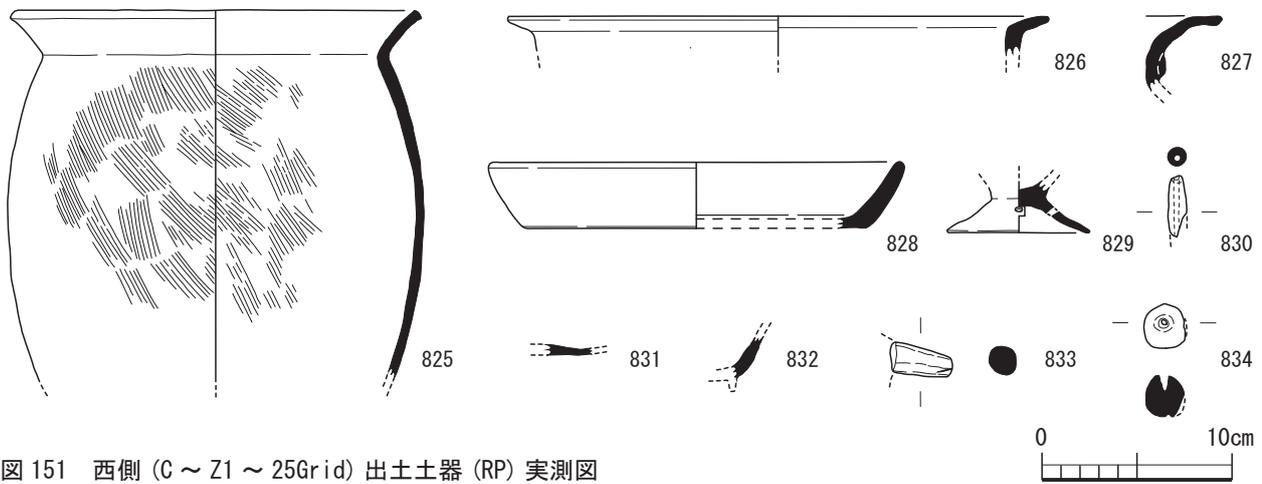


图 151 西側 (C ~ Z1 ~ 25Grid) 出土土器 (RP) 実測図



图 152 西側 (C ~ Z1 ~ 25Grid) 出土石器 (RQ) 実測図

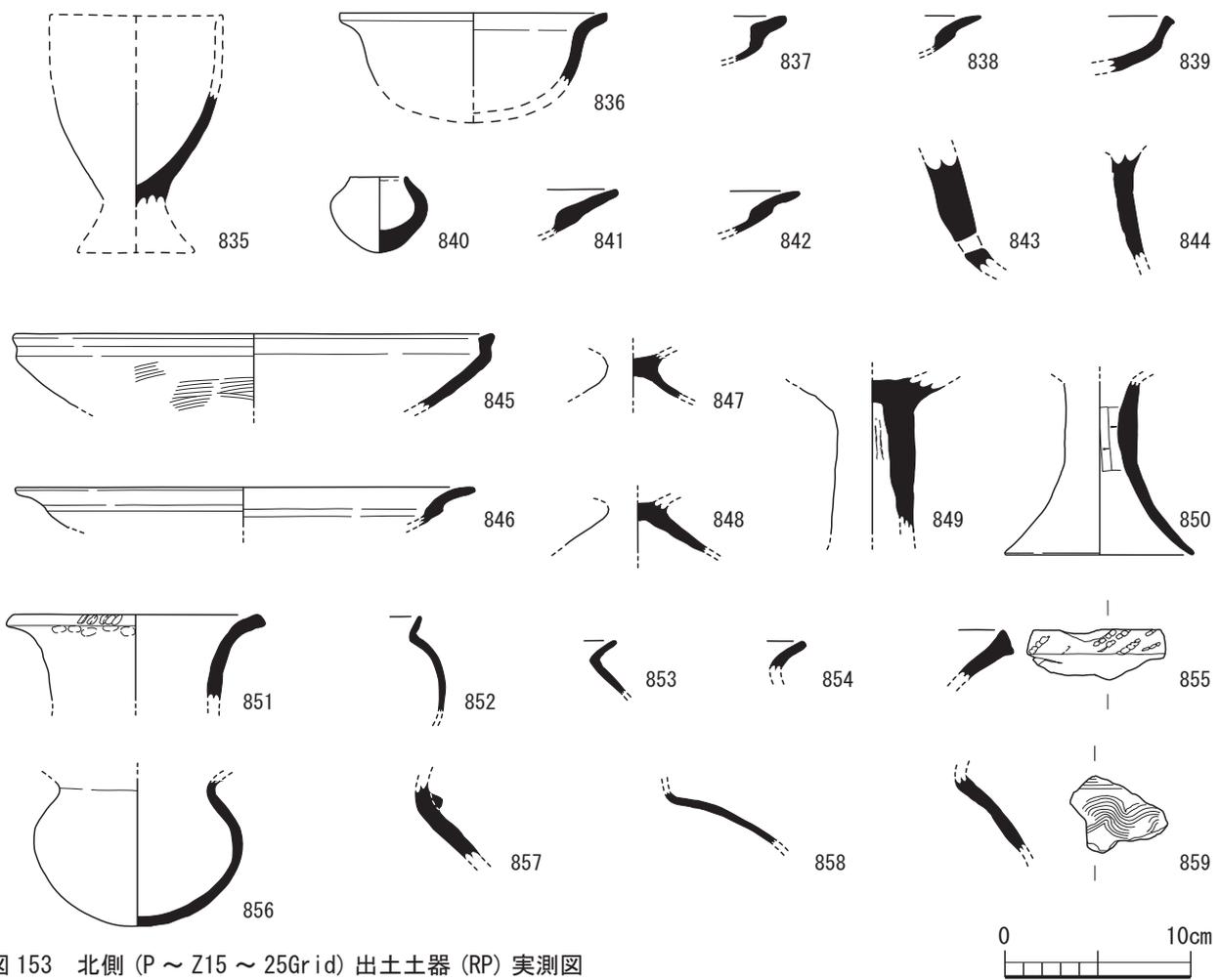


图 153 北側 (P ~ Z15 ~ 25Grid) 出土土器 (RP) 実測図

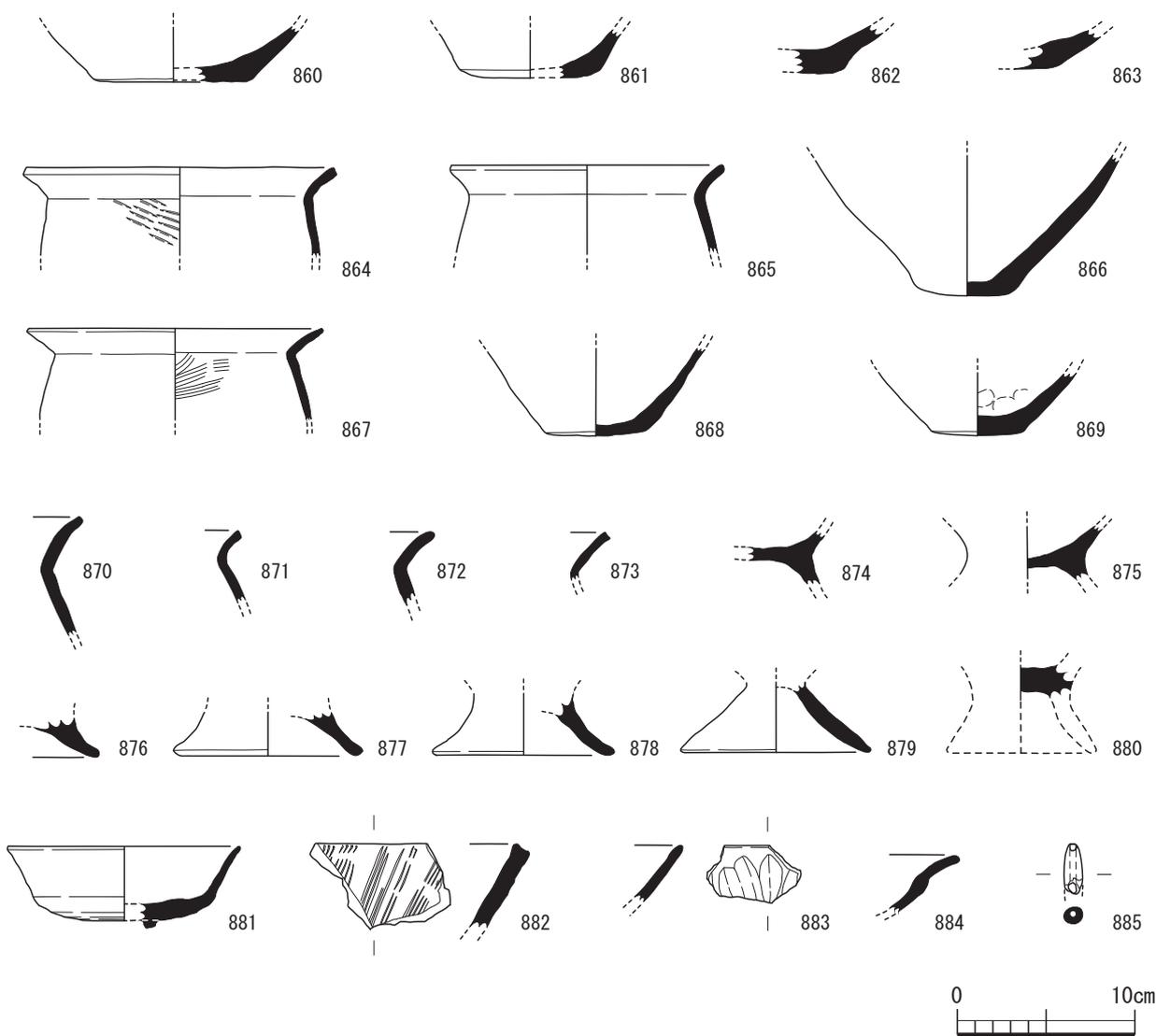


图 154 北側 (P ~ Z15 ~ 25Grid) 出土土器 (RP) 実測図

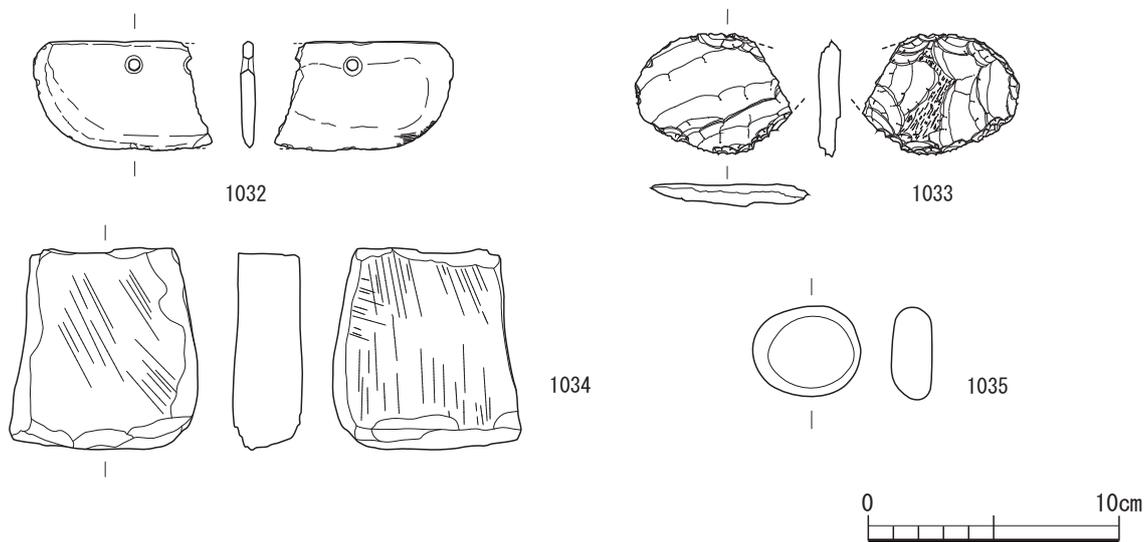


图 155 北側 (P ~ Z15 ~ 25Grid) 出土石器 (RQ) 実測図

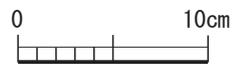
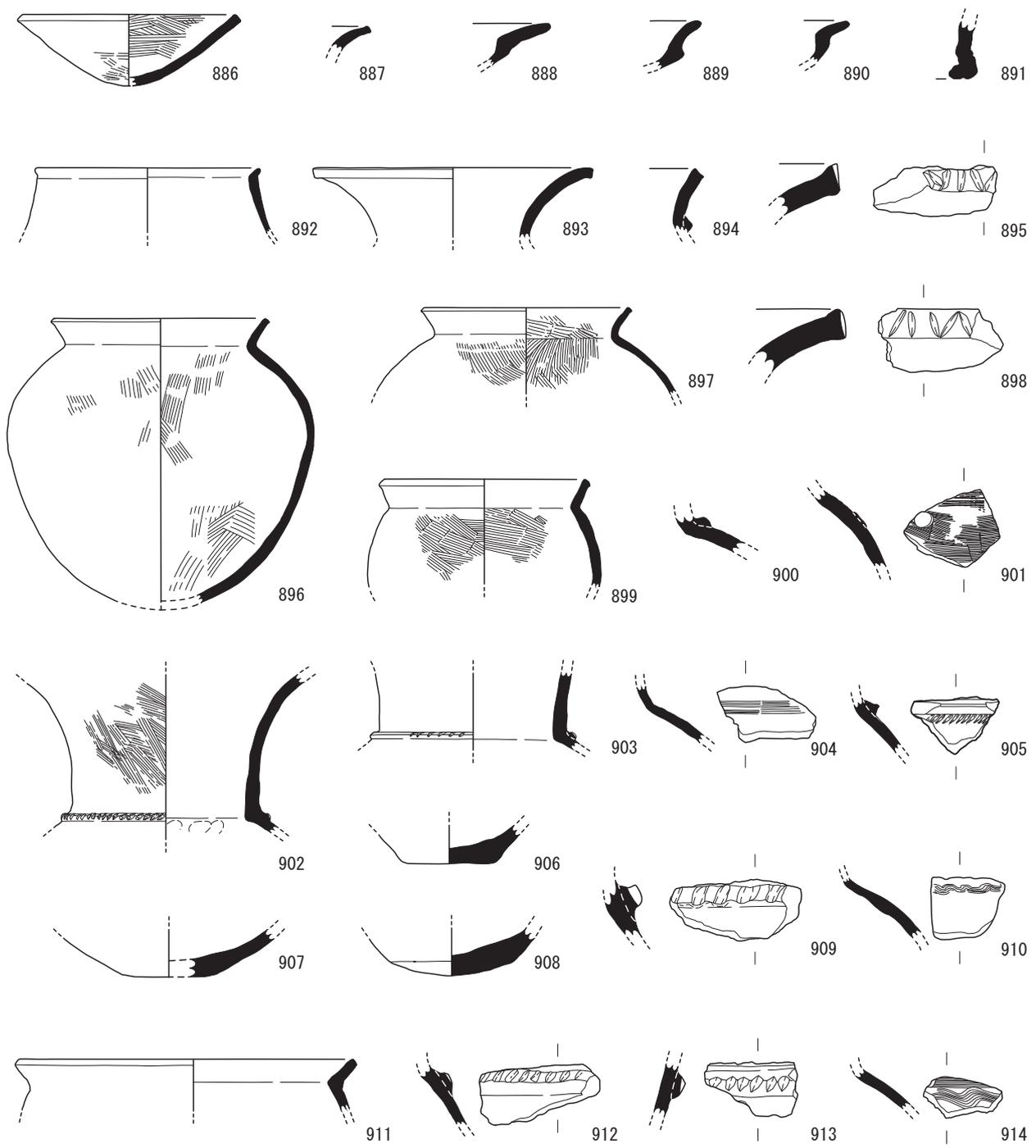


图 156 東側 (T ~ d26 ~ 37Grid) 出土土器 (RP) 実測図

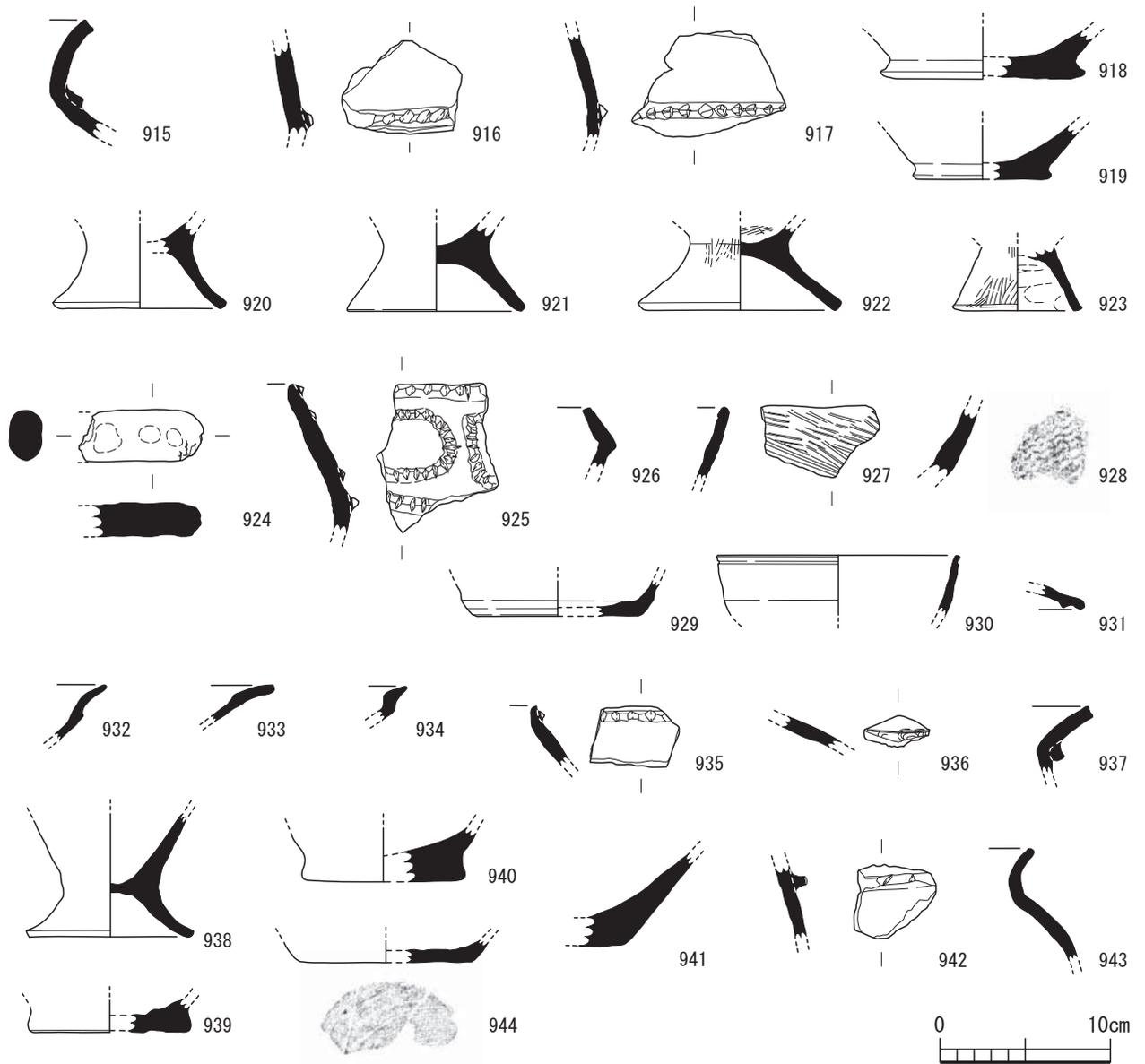


图 157 東側 (T ~ d26 ~ 37Grid) 出土土器 (RP) 実測図

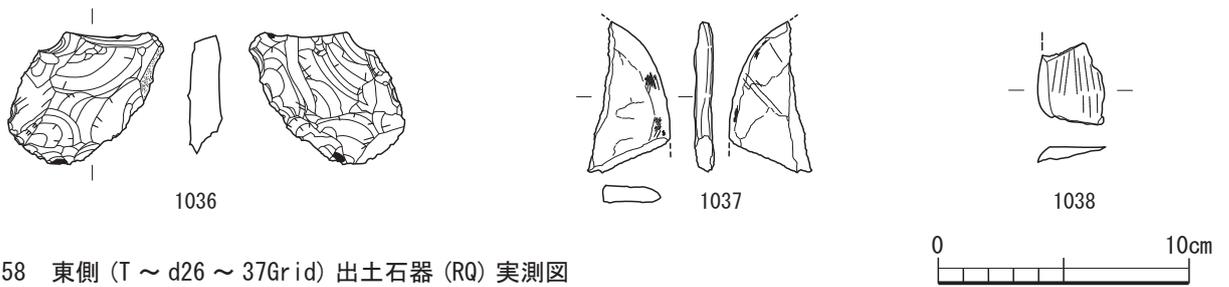


图 158 東側 (T ~ d26 ~ 37Grid) 出土土器 (RQ) 実測図

遺構番号	層	グリッド	南北 m	東西 m	柱穴	炉	硬化面	側壁溝	ベッド	備考
SB01	1・2	L8			10基					SF01に切られている
SI01	1～9	JK2・3	4.7	7.1	2基	○			?	
SI02	1	N6・7	2.9	5.9	2基	○	○	○	○	
SI04	1～3	MN5・6	5.5	5.9	2基	○	?	○	○	ジョッキ型土器・鉄器
SI05	1～7	LM4	2.7	2.7	住居外?	○		○		
SI06	1～3	L9・10	不明	5.7					○	
SI07	1	V24	不明	4	3基確認					4本柱
SI08	1～8	UV23	不明	4	2基確認			○	○	貯蔵穴あり 4本柱
SI09	1～3	VW22・23	不明	5.3	2基確認				○	4本柱
SI10	1～3	STU19・20・21	4.4	6	4基				○	
SI12	1～3	RS17・18	2.6	2.7	2基	○			○	
SI13	1～5	R16・17	不明	3.9	2基確認				○	SI14を切っている 4本柱
SI14	1～5	RQ17・16	不明	4.5	4基				○	SI13に切られ SI19を切っている
SI15	1	O8	不明	不明	2基	○	○	○		残り少ない
SI17	1～10	WX29・30	5.3	7.2	2基	○			○	SI38を切っている
SI19	1・2	Q16	不明	不明	4基					SI14に切られている
SI20	1～3	YZ28・29	5.6	6.5	4基				○	SI21、SI23を切っている
SI21	1～4	XY28・29	4.6	5.6	2基					SI20に切られ SI32を切っている
SI22	1・2	YZ27・28	3.8	2.8	2基					SI23に切られ SI32を切っている
SI23	1・2	Z27・28	4.4	4.7	4基					SI20に切られ SI22を切っている
SI29	1～8	YZ31・32	6.4	4.7	2基	○	○	○	○	
SI32	1～3	XY27・28	5.8	5.4	4基				○	SI21、SI22に切られている
SI33	1～3	VW28	3.1	2.7	2基					SK22に切られている 4本柱
SI36	1～4	Z35・36	不明	6.2	1基確認			○	○	SD05に切られている 2本柱
SI38	1～7	WX30・31	不明	6.4	2基確認	○	○		○	SI17に切られている 4本柱
SD01	1～6	L8～								SB01、SF01に切られている
SD03	1	K6								SD01に伴う溝
SD04	1	UV22・23								SI08の横
SD05	1～5	U29～Y35								中世以降の溝
SD06	1	Y21～P10								SF03に伴う溝
SD07		Y21～U16								SF03に伴う溝
SD10		Q14								SF05に複合する溝
SD11		L8								SF01に伴う溝(側溝)
SD12		P8								SF02に伴う溝?(側溝)
SK01	1～3	P11・12	1.8	1						SK02を切っている
SK02	1～7	P11								SK01に切られている 直径1.1m
SK03	1～4	G3	2.3	2.6						SK04の横
SK04	1～4	FG3	不明	2.2						SK03の横
SK05	1	M6・7	0.9	1.2						
SK06		L3	2.1	不明						残り少なくエレベのみ
SK07	1～3	P9								SF02を切っている
SK08	1～3	P9・10								
SK09		Za35	1.8	1.6						エレベのみ
SK10		S19・20	1.7	1.1						エレベのみ、焼土検出
SK12	1～4	WX28	2.5	3.6						焼土検出
SK14	1	T21	0.7	0.7						
SK15	1	T20	0.5	0.5						
SK17	1・2	a29	1.8	1.8						SK18に切られている
SK18	1～3	a29	1.5	1.1						SK17を切っている
SK19		P13	1.4	1						エレベのみ
SK20	1・2	V28								直径0.6m
SK21		b33								直径0.8m
SK22	1・2	V28								SI33を切っている 直径1.1m
SF01	1・2	LM7・8・9								波板状遺構 古代? SB01、SD01を切っている
SF02	1	P9								波板状遺構 古代
SF03	1～6	Y21～P10								SF05に切られ SD01を切っている
SF04		P12								欠番
SF05		Y21～Q13								SD01、SF03を切っている 近代?

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
1	S101	埋土一括	高坏			(2.3)	10YR8/3	良	端部は尖っている
2	S101	埋3層	壺			(2.5)	5YR7/6	良	端部は平坦に収めている
3	S101	埋6層	高坏			(9.5)	10YR7/4	良	胎土が粗い 内面に指ナデ?あり 内面はケズリを施したあとヨコナデをした感じがある
4	S101	埋6層	壺	19.6		(8.7)	7.5YR7/6	良	外面頸部に突帯の刻目あり 内面に指頭圧痕あり
5	S101	埋6層	壺			(6.9)	7.5YR7/3	良	外面に刻目があるが摩耗のためはっきりしない 反転復元
6	S101	埋3層	壺			(2.9)	10YR8/4	良好	器壁が厚い 全体的に丁寧なナデが施されている
7	S101	埋6層	甕			(3.1)	7.5YR5/6	良	胎土が粗い 器壁が薄い 摩耗が著しい 外面全体的に黒く変色している
8	S101	埋3層	甕		(8.8)	(7.0)	7.5YR7/6	良	内底は摩耗が著しい 反転復元
9	S101	埋6層	甕			(4.0)	7.5YR7/3	良	外内底ともに指おさえ 反転復元
10	S101	埋5層	甕			(4.2)	5YR6/4	良	外内底ともに指おさえ? 外面ハケメの可能性あり 反転復元
11	S101	埋土一括	塊		10.6	(3.2)	7.5YR6/2	良	高台は台形状を呈する 須恵器
12	S102	埋土一括	鉢	(25.4)		(8.5)	7.5YR7/6	良	器面は摩耗している
13	S102	埋1層	壺			(4.3)	7.5YR7/6	良	ハケメの目が粗い
14	S102	埋土一括	壺			(2.7)	10YR7/4	良	外底は黒色
15	S102	埋1層	甕			(4.5)	10YR7/4	良	内底ハケメの可能性あり 内底に黒斑あり 反転復元
16	S102	埋土一括	皿		(7.8)	(1.1)	7.5YR7/4	良	やや摩耗している 底面糸切りしてある 土師器 反転復元
17	S102	埋1層	甕			(1.4)	N3/	良	細片のため詳細不明 須恵器
18	S102	埋土一括	坏		(8.5)	(2.3)	2.5Y8/1	良	へら切りは静止と思われる 内底のナデは不定 須恵器 反転復元
19	S102	埋1層	碗			(2.6)	10R5/3	良	釉(灰白 2.5Y8/2) 磁器
20	S104	Pit 内一括	ジョッキ形土器	9.0	10.0	10.1	7.5YR7/6	良好	本来把手がつけられていたが、何らかの理由で欠損し再加工して使用していた可能性が大である
21	S104	埋土一括	高坏	(17.0)		(7.0)	7.5YR8/6	不良	器面は摩耗している 反転復元
22	S104	埋土一括	鉢	13.5	(3.5)	8.0	7.5YR8/6	良	口縁端部は平坦面を成す 器面は摩耗している
23	S104	埋土一括	壺			(3.4)	10YR7/4	良	口縁端部に刻目あり
24	S104	埋土一括	壺	(25.0)		(6.2)	10YR8/3	良	外面に刻目があるが摩耗のためはっきりしない 端部は平坦に収めている 外面赤彩の可能性あり 内面剥落著しい 反転復元
25	S104	埋土一括	壺		(6.6)	(6.6)	7.5YR7/6	良	内底のナデは強い 工具ナデの可能性あり 反転復元
26	S104	埋土一括	壺			(3.3)	10YR8/4	良	端部は平坦に収めている
27	S104	埋土一括	甕			(2.0)	10YR7/3	良	底端部は突出している
28	S104	埋土一括	壺		(4.0)	(3.0)	10YR7/3	良	内面にススあり? 外底丁寧なナデ 反転復元
29	S104	埋土一括	壺			(3.8)	10YR5/2	良	突帯は小さめである
30	S104	埋土一括	甕			(2.0)	7.5YR6/3	良	口径 18 センチ程度の小型品 端部は平坦に収めている
31	S104	埋土一括	甕		(12.6)	(4.1)	7.5YR8/4	良	端部は平坦に収めている 反転復元
32	S104	埋土一括	甕			(4.5)	10YR7/3	良	端部は尖っている
33	S105	埋5層	台付鉢	(11.6)		(6.0)	7.5YR7/6	良	端部は丸い 反転復元
34	S105	埋5層	鉢		(12.6)	(3.2)	7.5YR7/4	良	端部は尖り気味である 内面下部はナデの可能性あり 反転復元
35	S105	埋3層	高坏			(3.6)	10YR8/3	良	口縁部黒色 外面黒斑あり 口縁部わずかに欠損か? 反転復元
36	S105	埋4層	甕		12.0	(4.0)	7.5YR7/4	良	摩耗が著しい
37	S105	埋4層	台付鉢		(14.8)	(4.8)	7.5YR6/4	良	端部は平坦に収めている 外底は指おさえあり 反転復元
38	S105	埋1層	高坏			(3.2)	10YR7/4	良	口径 31 センチ程度の大型品 端部下はつままれて凹んでいる
39	S105	埋5層	高坏			(1.9)	10YR7/4	良	端部は平坦に収めている
40	S105	埋3層	高坏			(1.7)	10YR8/3	良	端部は尖っている 口径 23 センチ程度の中型品
41	S105	埋5層	高坏		(15.2)	(14.2)	10YR7/6	良	穿孔は3箇所 器面はやや摩耗 外面に指頭痕あり 内面に絞り痕あり 反転復元
42	S105	埋5層	鉢	(16.0)		(3.2)	7.5YR7/3	良	端部は尖っている 反転復元
43	S105	埋4層	鉢			(2.0)	7.5YR7/6	良	口縁端部は摩耗が著しい
44	S105	埋5層	壺		4.0	(11.1)	5YR5/6	良	摩耗 二次焼成 反転復元
45	S105	埋4層	壺		5.3	(18.5)	7.5YR7/4	良	底部は還元焰焼成による黒化が見られる 反転復元
46	S105	埋5層	壺			(5.8)	5YR7/6	良	突帯は鋭角に尖っている 頸径 30 センチ程度の大型品 内面ハケメの可能性あり

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
47	S105	埋 4 層	高坏			(4. 6)	10YR8/2	良	全体的に摩耗している 反転復元
48	S105	埋 2 層	壺		(3. 7)	(3. 7)	10YR7/4	良	内底は軽い指おさえ 外面に黒斑あり 反転復元
49	S105	埋 4 層	甕	(20. 2)		(3. 7)	7. 5YR7/4	良	端部は平坦に収めている 外面は剥落している 反転復元
50	S105	埋土一括	甕	(21. 7)		(10. 7)	7. 5YR6/8	良	摩耗が著しい 口縁端部は平坦に収められている
51	S105	埋 5 層	甕	(16. 0)		(9. 1)	10YR7/6	良	端部は垂直に立ち上がっている 焼きがあまり 胎土が粗い 口縁部は平坦に収めている 反転復元
52	S105	埋 4 層	甕	(19. 6)		(4. 2)	7. 5YR7/6	良	内面底部ハケメありか 反転復元
53	S105	埋 4 層	甕	(16. 0)		(5. 6)	7. 5YR7/6	良	摩耗が著しい 端部は尖っている 反転復元
54	S105	埋 5 層	甕	(20. 4)		(12. 3)	7. 5YR6/6	良	器壁が薄い 外器面にスス付着 反転復元
55	S105	埋土一括	甕	20. 2		(10. 4)	7. 5YR5/6	良	口縁端部は丸い 胴部上半は内湾し頸部より大きく外反する
56	S105	埋土一括	甕			(2. 2)	5Y7/2	良	細片のため詳細不明 須恵器
57	S105	埋 5 層	甕	(18. 8)		(20. 1)	7. 5YR6/4	良	器面は摩耗している 反転復元
58	S105	埋 4・5 層	甕	18. 0		(17. 6)	5YR6/8	良	端部は平坦面を持つ 黒斑あり 内面に指頭痕あり 反転復元
59	S105	埋 1 層	甕	(21. 4)		(7. 0)	5YR7/8	良	器面は摩耗している 端部は平坦面を持つ 反転復元
60	S105	埋 5 層	甕			(2. 9)	7. 5YR7/4	良	端部は平坦に収めている 外面かなり剥離している 径 18 センチ程度の小型品
61	S105	埋 1 層	甕		(10. 0)	(2. 0)	10YR8/3	良	内面の摩耗は著しい 底部は厚い 外面は指ナデ?あり 反転復元
62	S105	埋 4 層	甕	(20. 6)		(5. 1)	10YR7/4	良	スリップを施している 端部は平坦に収めている 反転復元
63	S105	埋 4 層	甕			(5. 5)	7. 5YR6/6	良	外面の摩耗が著しい 器壁が薄い 反転復元
64	S105	埋土一括	甕			(3. 8)	7. 5YR6/4	良	底径 16 センチ程度 端部は尖っている
65	S105	埋 4 層	甕		(11. 6)	(11. 1)	7. 5YR7/6	良	器面は摩耗している 端部は丸い 反転復元
66	S105	埋 5 層	甕			(4. 7)	5YR7/6	良	摩耗が著しい
67	S105	埋 4 層	甕		(17. 6)	(5. 2)	7. 5YR7/4	良	端部は尖っている 内面台部の付け根に指頭痕あり 反転復元
68	S106	埋土一括	鉢	(15. 4)		(3. 0)	10YR7/3	良	端部は丸い 内面はスス? 反転復元
69	S106	埋土一括	台付鉢			(4. 4)	10YR7/4	良	ほとんど剥落している 反転復元
70	S106	埋土一括	高坏			(8. 9)	10YR7/3	良	外面はハケメの可能性あり 反転復元
71	S106	埋 1 層	甕	(21. 2)		(18. 4)	7. 5YR7/6	良	やや摩耗 反転復元
72	S106	埋 1 層	甕	(17. 8)		(14. 3)	5YR3/1	良	口縁端部は丸い 器壁は薄い 反転復元
73	S106	埋 2 層	甕		(10. 4)	(5. 3)	10YR7/6	良	端部は丸い 内外器面ともに黒く変色している箇所あり
74	S106	埋土一括	甕		10. 5	(4. 5)	5YR6/8	良好	クモの巣状のハケメあり 外面は黒くすすんでいる
75	S106	埋 2 層	甕		(11. 8)	(5. 7)	10YR7/6	良	胎土が粗い クモの巣状のハケメあり 反転復元
76	S106	埋 1 層	甕		(10. 0)	(5. 7)	5YR6/3	良	外底指おさえ 反転復元
77	S106	埋 1 層	甕		(11. 5)	(5. 1)	10YR6/6	良	端部は丸い 反転復元
78	S107	埋 1 層	壺			(5. 9)	10YR4/2	良	口縁部は横方向のナデ 径不明
79	S107	埋 1 層	壺			(4. 9)	10YR5/3	良	櫛描波状文あり 内面は細かいハケメと指頭痕あり
80	S107	埋 1 層	壺			(2. 0)	10YR7/3	良	外面スス付着 小石粒が含まれる 内面に指頭痕あり
81	S108	埋土一括	高坏	(31. 2)		(3. 5)	7. 5YR6/8	良	端部は平坦に収めている 内器面黒く変色している部分あり 反転復元
82	S108	埋土一括	高坏			(2. 9)	7. 5YR6/6	良	口縁端部は平坦である 口径 20 センチ程度の中型品
83	S108	埋 2 層	高坏			(5. 9)	10YR7/4	良	摩耗が著しい 端部は平坦に収めている
84	S108	埋土一括	台付鉢	8. 0		(6. 2)	5YR6/4	良	台部貼付後にナデ 摩耗が著しい 反転復元
85	S108	埋 2 層	壺			(3. 0)	10YR7/4	良	内面体部のナデは丁寧である
86	S108	埋 4 層	壺		(6. 4)	(1. 9)	10YR1. 7/1	良	内底はわずかに指頭痕あり 反転復元
87	S108	埋 8 層	甕			(4. 3)	7. 5YR6/6	良	内底は指頭痕が残る 反転復元
88	S108	Pit 内一括	甕			(3. 8)	7. 5YR6/8	良	クモノス状のハケメあり 胎土が粗い 焼きむらあり 内器面黒く変色している所あり
89	S108	埋土一括	甕			(1. 4)	5YR6/6	良	外面は被熱により赤化している
90	S108	埋 1 層	甕			(4. 1)	5Y4/1	良	須恵器
91	S109	埋 2 層	高坏			(2. 7)	10YR7/6	良	口縁端部は尖っている 器壁はごく薄い 口径 28 センチ程度の大型品
92	S109	埋 1 層	甕			(3. 4)	10YR7/4	良	丁寧なナデ 口縁端部は条がある
93	S109	埋 1・2 層	甕			(3. 8)	10YR7/4	良	摩耗している 頸径 15 センチ程度の中型品
94	S109	埋 1 層	甕			(2. 3)	10YR8/4	良	外面ハケメは短い単位で摩耗している

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
95	SI10	埋1層	高坏	(26.4)		(3.8)	7.5YR7/6	良	黒斑あり? 反転復元
96	SI10	埋土一括	高坏	(29.0)		(5.5)	10YR7/4	良	外面に黒斑?あり 反転復元
97	SI10	埋1層	高坏			(20.0)	10YR8/6	良	器面はやや摩耗している 口縁端部は外で接地する
98	SI10	埋1層	高坏			(3.4)	10YR8/3	良	反転復元
99	SI10	埋1層	高坏			(4.2)	2.5Y7/3	良	端部はわずかに丸まる 底径13センチ程度の小型品
100	SI10	埋1層	ミニチュア土器	2.8	1.8	1.5	7.5YR7/6	良	外面は手握ね後ナデ 内面は絞り後ナデている
101	SI10	埋2層	鉢			(1.8)	7.5YR8/6	良	器壁は薄く口縁下は屈曲すると思われる 小型品?
102	SI10	埋1層	鉢			(4.6)	10YR6/3	良	体部は丸く膨らんでいる 薄い 頸径10センチ程度の小型品
103	SI10	Pit内一括	鉢			(3.7)	10YR7/4	良	器壁は薄い 口径10センチ程度の小型品
104	SI10	埋1層	高坏		(9.5)	(12.4)	10YR6/6	良	器面全体の摩耗が著しい 内面は指頭痕あり 外面は被熱による赤化剥落あり 反転復元
105	SI10	埋土一括	高坏			(9.2)	2.5YR6/6	良	内底は摩耗しているが指頭痕があり付着物あり 反転復元
106	SI10	埋2層	高坏			(10.4)	10YR7/3	良	外面はやや摩耗 外面黒斑あり
107	SI10	Pit内一括	鉢	(13.6)		7.1	7.5YR7/4	良好	一部黒斑あり 反転復元
108	SI10	埋1層	鉢	(12.8)		(5.1)	10YR6/3	良	口縁端部は波うって平坦ではない 反転復元
109	SI10	埋1層	壺	(16.8)		(6.5)	10YR7/4	良	摩耗のため調整不明瞭 口縁端部は平坦に収めている 一部反転復元
110	SI10	埋1層	壺			(3.7)	10YR7/4	良	端部は丸くやや尖る 口径15センチ程度の小型品
111	SI10	埋1層	壺			(2.5)	7.5YR6/8	良	器形は小壺かと思われる 口径18センチ程度の小型品
112	SI10	埋土一括	壺			(2.8)	7.5YR7/6	良	口縁部は短く端部はつまんで尖っている 口径18センチ程度の小型品
113	SI10	埋土一括	壺			(4.7)	7.5YR7/6	良	突帯下半は薄く剥離しており詳細不明
114	SI10	埋1層	壺	(4.8)	(4.1)	(4.1)	7.5YR7/4	良	内面のハケメは摩耗 外底にも指頭圧痕あり 反転復元
115	SI10	埋2層	壺			(1.9)	7.5YR6/6	良	外面の摩耗が著しい 底径8センチ程度
116	SI10	埋1・2層	器台			(4.5)	7.5YR7/6	良	摩耗している
117	SI10	埋1層	甕			(6.6)	7.5YR7/6	良	内外ともに器面は摩耗している
118	SI10	埋1層	甕	(17.8)		(10.0)	7.5YR6/6	良好	反転復元
119	SI10	埋1層	甕			(4.2)	7.5YR6/2	良	内・外底ともに指おさえ痕 反転復元
120	SI10	埋1層	甕			(2.8)	10YR7/3	良	内・外底ともに指おさえ痕あり 摩耗している
121	SI10	埋2層	甕			(2.9)	7.5YR7/6	良	外底は指頭痕あり 外底・外面は黒斑あり? 反転復元
122	SI10	Pit内一括	甕			(3.7)	10YR7/4	良	摩耗しているが外・内底とも強い指おさえ痕がある 外面被熱している 反転復元
123	SI10	埋1層	台付鉢	(12.2)	(3.4)	(3.4)	10YR6/6	良	外反の台部1/3残存 端部は丸い 胎土が粗い
124	SI10	埋1層	甕	(12.0)	(3.8)	(3.8)	10YR7/4	良	底端部は尖っている 反転復元
125	SI12	埋1層	鉢	28.0		(13.0)	5YR4/4	不良	器面の摩耗が著しい 口縁端部は平坦面を呈する 器壁は薄い
126	SI12	埋2層	高坏			(1.8)	10YR7/6	良	口縁端部は丸い 外面に黒斑あり 口径30センチ程度の大型品
127	SI12	埋土一括	高坏			(2.9)	10YR7/4	良	底部は上げ底 底端は張り出す
128	SI12	埋2層	高坏			(5.4)	2.5Y7/3	良	器壁は薄い 内面に指頭痕あり 反転復元
129	SI12	埋2層	高坏	(16.6)	(6.4)	(6.4)	10YR6/8	良	胎土が粗い 端部は平坦に収められている 穿孔あり 全体の1/6残存で反転復元
130	SI12	埋1層	高坏	(9.5)	(10.9)	(10.9)	5YR5/6	良	外器面に煤付着 内面に絞り痕あり 反転復元
131	SI12	埋1層	器台	9.4		(8.6)	7.5YR7/6	良	摩耗が著しい 内面一部絞り痕の様なのが認められる
132	SI12	埋1層	壺	(10.6)		(4.6)	7.5YR7/6	良	器壁は薄く内面黒化している 端部は平坦に収められている 反転復元
133	SI12	埋1層	壺	(10.0)		(5.6)	7.5YR6/4	良	やや摩耗 内面に指頭痕あり 反転復元
134	SI12	埋1層	壺			(2.1)	10YR5/2	良	摩耗している 端部は尖っている
135	SI12	埋土一括	壺			(3.0)	10YR8/6	良	外面の刻目は摩耗して消えている 大型品
136	SI12	埋1層	壺	(6.8)	(2.6)	(2.6)	10YR7/4	良	内面のナデは丁寧で剥離が激しい 反転復元
137	SI12	埋1層	壺			(4.0)	7.5YR6/6	良	反転復元
138	SI12	埋1層	壺	(10.8)		(3.7)	7.5YR7/6	良	口縁端部はやや薄く丸い 反転復元
139	SI12	埋1層	壺			(4.1)	7.5YR7/6	良	突帯の接合部分に刺突がある 内面に指頭痕あり
140	SI12	埋1層	壺	(8.6)	(2.8)	(2.8)	10YR5/2	良	器面はやや摩耗している 反転復元
141	SI12	埋2層	壺	(3.8)	(1.9)	(1.9)	10YR7/3	良	底部は厚く体部急に薄い 内底は強く指おさえあり 反転復元

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
142	S112	埋1層	甕			(1.4)	10YR7/6	良	外面はハケメの可能性あり 口縁端部は尖っている
143	S112	埋1層	甕			(4.3)	10YR6/3	良	摩耗している 頸部の屈曲はゆるやか 口径20センチ程度の小型品
144	S112	埋1層	甕			(3.1)	10YR6/6	良	丁寧に器面がナデである 反転復元
145	S112	埋土一括	甕			(2.5)	7.5YR4/6	良	外面は被熱痕あり 摩耗している 反転復元
146	S112	埋1層	甕			(2.9)	7.5YR5/6	良	被熱により器面荒れている 外内底とも指おさえあり 反転復元
147	S112	埋1層	甕			(3.4)	7.5YR7/6	良	器面は荒れているがハケメがわずかにある 端部は平坦に収めている 反転復元
148	S112	埋1層	甕		(9.3)	(3.2)	7.5YR6/6	良	上部1/2 残存 端部は丸い 胎土が粗い
149	S112	埋1層	甕		(11.3)	(5.4)	7.5YR7/8	良	上部の1/4 残存 端部は平坦に収めている 胎土が粗い 焼きがあまい 反転復元
150	S113	埋1層	鉢	(20.8)		11.2	7.5YR7/6	良	器面はやや摩耗 口縁端部はやや丸い 反転復元
151	S113	埋1・2層	鉢	(15.7)		12.9	10YR6/4	良好	一部黒斑あり 反転復元
152	S113	埋1層	鉢	(10.9)		(3.7)	7.5YR6/6	良	器壁薄く外面摩耗している 反転復元
153	S113	埋1層	台付鉢			(7.1)	7.5YR7/6	良	外器面に黒斑あり 摩耗している
154	S113	埋1層	高坏			(2.8)	10YR7/6	良	外面黒斑あり? 口径30センチ程度の大型品
155	S113	埋1層	高坏			(2.5)	10YR8/4	良	口径20センチ程度の中型品
156	S113	埋土一括	鉢			(2.0)	10YR7/4	良	内面の接合部分のナデは強い 縄紋
157	S113	埋1層	鉢			(2.4)	7.5YR6/6	良	口径10センチ程度の小型品 外面は摩耗している
158	S113	埋土一括	鉢			(2.8)	7.5YR8/6	良	端部に段がある 口径20センチ程度の中型品
159	S113	埋1層	鉢			(4.5)	10YR7/3	良	摩耗している
160	S113	埋土一括	台付鉢	(9.5)		(2.0)	7.5YR6/4	良	摩耗が著しい 反転復元
161	S113	埋1層	高坏			(4.0)	10YR7/6	良	反転復元
162	S113	埋土一括	高坏			(6.3)	7.5YR7/6	良	内面わずかに絞り痕あり 反転復元
163	S113	埋1層	高坏			(4.2)	7.5YR7/6	良	内底はわずかに指おさえ痕あり
164	S113	埋1層	高坏	(16.0)		(9.4)	10YR6/4	良	全体的に摩耗している 端部は丸い 黒斑あり 穿孔あり 内面は絞り痕あり
165	S113	埋1層	高坏			(3.3)	10YR7/6	良	内面はわずかに指おさえ痕が認められる 反転復元
166	S113	埋土一括	台付鉢			(2.3)	5YR7/6	良	底径10センチ程度の小型品
167	S113	埋1層	高坏			(8.8)	7.5YR7/6	良	器面は摩耗 外面かすかにハケメが残る 内面工具ナデ 一部反転復元
168	S113	埋1層	高坏			(10.8)	7.5YR6/6	良	外底に丸い圧痕あり
169	S113	埋2層	高坏			(12.0)	5YR6/8	良	内器面は黒く変色している 絞り痕複数あり 外器面は摩耗 焼きむらあり 胎土が粗い
170	S113	埋1層	高坏		14.2	(4.8)	7.5YR7/8	良	脚部は4箇所穿孔あり やや摩耗している 反転復元
171	S113	埋1・2層	器台	(10.0)		(7.0)	10YR5/3	良	外面赤彩か? 反転復元
172	S113	埋1層	器台	(11.3)		(9.0)	7.5YR7/6	良好	器壁はやや厚みがある 内面に指頭痕あり 反転復元
173	S113	埋1層	器台			(9.0)	10YR8/6	良	ナナメ方向のケズリあり 反転復元
174	S113	埋土一括	器台	(9.0)		(4.8)	7.5YR7/4	良	摩耗している 反転復元
175	S113	埋1層	器台			(3.7)	10YR7/4	良	口径20センチ程度の中型品
176	S113	埋1・2層	器台			(12.4)	10YR7/4	良	黒斑あり 大型品
177	S113	埋1層	器台	(9.0)		(10.5)	10YR7/3	良	外面うっすらとハケメが残る 内面に絞り痕と指ナデあり 反転復元
178	S113	埋土一括	器台	(14.4)		(8.9)	7.5YR6/8	良	端部は平坦に収めている 胎土が粗い 内面指なであり 全体の1/8 残存で反転復元
179	S113	Pit内一括	器台	(10.0)		(7.4)	7.5YR7/6	良	端部は一部内側に突出している 端部は歪である 反転復元
180	S113	埋2層	器台	(13.6)		(7.7)	10YR8/6	良	大型器台で端部は面を作っている 反転復元
181	S113	埋1層	器台			(12.0)	10YR8/4	良	外面は摩耗 外面裾部赤彩か?
182	S113	埋土一括	壺	18.0		(15.9)	7.5YR5/6	良	頸部と肩部の境にはヘラ状工具による刺突文が施される 内面に指頭圧痕あり 反転復元
183	S113	埋1層	壺	(18.8)		(6.1)	10YR7/6	良好	器表の一部が黒く変色している 全体の1/2 残存で反転復元
184	S113	埋1層	壺	(19.0)		(5.2)	7.5YR7/6	良	外面わずかにハケメが残る 反転復元
185	S113	埋1層	鉢	(18.2)		(2.2)	10YR7/6	良	端部は平坦に収めている 反転復元
186	S113	埋土一括	壺	(9.0)		(2.4)	10YR7/6	良	口縁端部は尖っている 反転復元
187	S113	埋1層	壺			(5.5)	10YR7/4	良	端部は平坦に収めている 口径25センチ程度の大型品
188	S113	埋1層	壺			(3.3)	10YR7/6	良	口唇部に押捺文か?

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
189	SI13	埋土一括	壺			(2.0)	7.5YR7/6	良	外面端部に細かい刻目あり 端部は平坦に収めている
190	SI13	埋土一括	壺			(3.7)	7.5YR7/6	良	端部は平坦に収めている 摩耗している 口径10センチ程度の小型品
191	SI13	埋1層	壺			(2.6)	7.5YR7/4	良	内面は摩耗している 口径20センチ程度の中型品
192	SI13	埋1層	壺			(2.0)	10YR7/4	良	端部は平坦に収めている 摩耗している
193	SI13	埋土一括	壺			(2.4)	5YR6/6	良	端部は平坦に収めている 摩耗している 口径12センチ程度の小型品
194	SI13	埋1層	壺			(2.3)	10YR6/6	良	口縁端部は丸い 口径22センチ程度の中型品
195	SI13	埋土一括	壺			(2.6)	10YR7/4	良	端部は平坦に収めている 口径12センチ程度の小型品
196	SI13	埋2層	壺			(5.2)	10YR6/4	良	摩耗している 反転復元
197	SI13	埋1層	壺			(2.5)	10YR6/6	良	刺突文あり 内面に指頭痕あり
198	SI13	埋1層	壺			(3.0)	7.5YR7/6	良	突帯下赤彩か?
199	SI13	埋土一括	壺			(2.9)	7.5YR7/6	良	摩耗している 外面に刻み目あり
200	SI13	埋1層	壺		6.7	(21.0)	7.5YR8/6	良	外面に黒斑あり
201	SI13	埋1層	壺			(4.7)	7.5YR6/8	良	胎土が粗い 貼付突帯あり 反転復元
202	SI13	埋1層	壺			(3.8)	5YR6/6	良	穿孔あり 丸底壺か? 内面に指頭痕あり
203	SI13	埋1層	壺			(5.5)	10YR6/4	良	外面黒斑あり
204	SI13	埋2層	壺			(2.8)	10YR5/2	良	底径6センチ程度
205	SI13	埋土一括	壺			(7.1)	7.5YR7/8	良	内器面全体が黒く変色している 胎土が粗い 厚みのある底部 金雲母あり 反転復元
206	SI13	埋1・2層	壺		(10.0)	(3.4)	10YR6/3	良	外面は工具ナデの可能性あり 反転復元
207	SI13	埋1層	甕	(25.0)		(12.0)	7.5YR6/6	良好	貼付突帯あり 外面に炭化物あり 一部反転復元
208	SI13	埋1層	甕	(19.4)		(6.8)	7.5YR5/6	良好	内面はケズりに近いハケメがタテ方向に施されている 全体の1/4 残存で反転復元
209	SI13	埋1層	甕	(25.0)		(2.6)	7.5YR7/6	良	外面赤彩 (2.5YR5/6・明赤褐) 端部は平坦に収めている 反転復元
210	SI13	埋1層	甕			(4.3)	10YR7/4	良	端部は平坦に収めている 口径16センチの小型品
211	SI13	埋1層	甕			(7.3)	7.5YR5/4	良	ナデ消されたハケメがわずかに残る 口縁端部は丸い 口径25センチ程度の中型品
212	SI13	埋1層	甕			(2.8)	7.5YR7/6	良	摩耗している
213	SI13	埋1層	甕	(17.4)		(7.4)	7.5YR7/8	不良	口縁端部は丸い 摩耗が著しい 反転復元
214	SI13	埋1層	甕	(19.5)		(5.5)	10YR6/3	良	口縁もハケメの可能性あり 反転復元
215	SI13	埋1層	甕		(5.0)	(19.5)	7.5YR5/4	良	外面は摩耗が著しい 縦縞状の痕跡あり 反転復元
216	SI13	埋1層	甕			(9.8)	7.5YR5/3	良	台部別剥落 内面に指頭痕あり 反転復元
217	SI13	埋土一括	甕			(2.7)	10YR6/4	良	端部は平坦に収めている 摩耗している 口径11センチ程度の小型品
218	SI13	埋1層	甕			(3.5)	7.5YR7/4	良	外面にスス付着か? 一部反転復元
219	SI13	埋3層	甕			(5.4)	10YR4/4	良	胎土が粗い 黒変している 反転復元
220	SI13	埋2・3層	甕			(3.6)	7.5YR6/6	良	外面は荒れているがハケメの可能性あり
221	SI13	埋1層	甕		(11.0)	(8.2)	7.5YR7/6	良	台部の端部は平坦面を持つ 反転復元
222	SI13	埋1層	甕			(3.1)	10YR7/4	良	外底は被熱痕と指頭痕あり 内底指おさえ
223	SI13	埋1層	甕			(3.5)	2.5YR6/6	良	外面被熱痕あり 反転復元
224	SI13	埋1・2層	甕			(4.5)	7.5YR7/4	良	工具痕あり 反転復元
225	SI13	埋土一括	甕		(11.4)	(4.3)	5YR5/8	良	胎土が粗い 焼きがあまり 反転復元
226	SI13	埋1層	甕			(6.5)	10YR7/3	良	摩耗している 反転復元
227	SI13	埋土一括	甕		(8.2)	(4.5)	7.5YR5/8	良	胎土が粗い 端部は外反し丸く収められている 全体の1/2 残存で反転復元
228	SI13	埋1層	甕		(10.0)	(3.6)	10YR7/6	良	反転復元
229	SI13	埋2層	甕		10.4	(4.1)	7.5YR7/6	良	外部は火を使った形跡あり 胎土が粗い 反転復元
230	SI14	埋1層	高坏	(31.4)	(15.2)	23.5	7.5YR7/6	良好	穿孔は3箇所にある 口縁部は短く外反する 内外面に指頭圧痕 絞り痕あり 反転復元
231	SI14	埋1層	高坏	(32.2)		(4.1)	10YR8/4	良	端部は丸い 外面黒斑あり 反転復元
232	SI14	埋2層	高坏			(2.2)	2.5YR6/6	良	被熱痕あり 坏体部器壁かなり薄い 反転復元
233	SI14	埋2層	高坏	(30.0)		(3.8)	7.5YR7/6	良	器面の摩耗が著しい 上半赤色化している 被熱? 反転復元
234	SI14	埋1層	高坏	(27.2)	16.0	22.6	7.5YR8/6	良	穿孔は3箇所にある 器面は摩耗している 内面に絞り痕あり 一部反転復元
235	SI14	埋2層	高坏			(3.1)	7.5YR7/6	良	器面は摩耗している 器壁は薄い 外面に黒斑あり
236	SI14	埋2層	高坏			(5.0)	10YR7/4	良	口径28センチ程度の大型品

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考	
237	S114	埋1層	高坏			(4.0)	10YR8/4	良	端部は丸い 黒斑あり	
238	S114	埋2層	高坏			(2.1)	10YR8/4	良	摩耗している	
239	S114	埋土一括	高坏			(2.5)	7.5YR7/6	良	摩耗が著しい 口縁端部は歪である	
240	S114	埋2層	高坏			(2.1)	7.5YR6/6	良	端部は平坦に収めている 口径18センチ程度の小型品	
241	S114	埋2層	高坏			(1.7)	7.5YR7/6	良	端部わずかに外反している 器面はやや摩耗している	
242	S114	埋1層	高坏			(2.2)	10YR7/4	良	口縁端部欠損	
243	S114	埋1層	高坏			(4.2)	10YR6/4	良好		
244	S114	埋2層	高坏			(4.4)	10YR8/4	良	外底部分は丸く凹んでいる 反転復元	
245	S114	埋土一括	高坏			(8.0)	7.5YR6/6	良	摩耗している 脚欠損部付近被熱により赤化 内面に指頭痕と絞り痕あり 反転復元	
246	S114	埋2層	高坏			(9.0)	7.5YR8/6	良	内底は粘土を追加している 外面は被熱?	
247	S114	埋土一括	高坏			(10.3)	5YR7/6	良	摩耗している 内面に指頭痕あり 反転復元	
248	S114	埋1層	高坏			(11.2)	7.5YR6/6	良好	内面に絞り痕あり 外面は摩耗している	
249	S114	埋1層	高坏	(11.1)	(15.0)	(7.5)	5YR5/6	良	全体的に摩耗が著しい 工具痕あり 一部反転復元	
250	S114	埋1層	高坏			(9.6)	10YR7/3	良	器面は摩耗している 内面に絞り痕あり 反転復元	
251	S114	埋1層	高坏			(6.5)	10YR8/4	良	下は急に薄くなる 摩耗している 反転復元	
252	S114	埋2層	高坏			(8.1)	10YR7/4	良	穿孔あり 穿孔は外から内にあいている 内面に指頭痕あり	
253	S114	埋2層	高坏			(4.5)	7.5YR7/4	良	底径14センチ程度の小型品	
254	S114	埋1層	高坏			(5.3)	7.5YR7/6	良	丁寧なナデ 底径15センチ程度の小型品	
255	S114	埋土一括	高坏		16.6	(4.3)	7.5YR6/6	良	端部は丸く内湾している 外器面摩耗している 全体の1/3残存で反転復元	
256	S114	埋1層	高坏		17.0	(4.9)	7.5YR6/4	良好	一部反転復元	
257	S114	埋1層	高坏	(14.4)	(4.7)	(7.5)	5YR6/6	良	上部急に薄くなる 反転復元	
258	S114	埋1層	高坏		(3.0)	(7.5)	5YR6/6	良	端部は平坦に収めている 口径16センチ程度の小型品	
259	S114	埋1層	器台	12.0	11.8	18.6	7.5YR7/4	良好	内面に絞り痕あり 一部反転復元	
260	S114	埋1層	高坏		(11.6)	(4.0)	10YR7/6	良	器面は摩耗している 胎土が粗い 端部は平坦に収めている 反転復元	
261	S114	埋2層	高坏		(16.4)	(6.5)	10YR8/4	良	穿孔が2箇所認められる 端部は丸い 端部の下は凹んでいる 反転復元	
262	S114	埋1層	高坏		(15.4)	(5.4)	7.5YR8/6	良	脚部1/2残存 端部は丸い 胎土が粗い 反転復元	
263	S114	埋1層	器台	7.7	8.0	9.0	7.5YR6/4	良好	一部黒斑あり 内面に指頭圧痕あり 反転復元	
264	S114	埋1層	器台		(9.5)	(8.4)	10YR7/6	良	器面は摩耗している 端部は平坦に収められている 内面に指頭痕あり 反転復元	
265	S114	埋1・2層	器台		(5.3)	(10YR6/4)	10YR6/4	良	端部は被熱のため赤化している やや歪である 底径10センチ程度の小型品	
266	S114	埋1層	鉢		(3.4)	(10YR7/4)	10YR7/4	良	端部は丸い	
267	S114	埋2層	鉢		(2.4)	(10YR6/4)	10YR6/4	良	端部は平坦に収めている 端部下はやや凹んでいる 頸部器壁はごく薄い 外面はやや摩耗している	
268	S114	埋1層	鉢		(2.2)	(7.5YR8/4)	7.5YR8/4	良	端部は平坦に収めている 口径15センチ程度の小型品	
269	S114	埋2層	鉢		(2.6)	(7.5YR6/6)	7.5YR6/6	良	端部は平坦に収めている 端部下はやや凹んでいる 口径18センチ程度の中型品	
270	S114	埋1層	鉢		(2.5)	(10YR6/2)	10YR6/2	良	口径20センチ程度の中型品	
271	S114	埋2層	鉢		(2.1)	(10YR7/4)	10YR7/4	良	摩耗している 外面に黒斑?あり 口径18センチ程度の小型品	
272	S114	埋2層	器台		(12.6)	(11.0)	(7.5YR7/6)	7.5YR7/6	良	端部は平坦に収めている 反転復元
273	S114	埋1層	壺	(17.0)	(2.6)	(10YR7/3)	10YR7/3	良	端部は丸い 反転復元	
274	S114	埋土一括	壺		(1.9)	(7.5YR7/6)	7.5YR7/6	良	器面はやや摩耗している 口径18センチ程度	
275	S114	埋2層	鉢		(1.8)	(10YR7/4)	10YR7/4	良	端部は平坦に収めている 端部下はやや凹んでいる 口径18センチ程度の中型品	
276	S114	埋1層	鉢		(2.8)	(10YR7/4)	10YR7/4	良	器壁は薄い 端部は丸い 口径20センチ程度の大型品	
277	S114	埋1層	鉢		(3.5)	(7.5YR6/6)	7.5YR6/6	良	端部は丸い	
278	S114	埋2層	壺	(16.6)	(3.9)	(7.5YR7/4)	7.5YR7/4	良	内面に指頭痕あり 外面ハケメの可能性あり 反転復元	
279	S114	埋1層	壺	(12.8)	(4.2)	(10YR6/6)	10YR6/6	良	端部は丸い 内外器面部分的に黒く変色している 全体の1/3残存で反転復元	
280	S114	埋1層	壺	(10.4)	(4.4)	(7.5YR7/6)	7.5YR7/6	良	端部は丸い 外面ハケメか工具ナデの可能性あり 反転復元	
281	S114	埋2層	壺		(6.0)	(7.5YR6/8)	7.5YR6/8	良	摩耗が著しい 胎土が粗い 反転復元	
282	S114	埋2層	壺		(10.5)	(7.5YR6/4)	7.5YR6/4	良	外面に黒斑あり 胎土が粗い 大型品	
283	S114	埋2層	壺		(6.8)	(5YR7/6)	5YR7/6	良	外面ハケメか? 大型品	
284	S114	埋1・2層	壺		(2.8)	(7.5YR7/6)	7.5YR7/6	良	端部は平坦に収められている 口径20センチ程度の大型品	

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
285	SI14	埋1層	壺			(2.7)	10YR6/3	良	端部は丸い 口径13センチ程度の小型品
286	SI14	埋土一括	壺			(3.5)	7.5YR6/4	良	器面はやや摩耗 端部は平坦に収めている 口径12センチ程度の小型品
287	SI14	埋1層	壺			(2.8)	10YR7/6	良	端部は平坦に収めている 口径20センチ程度の中型品
288	SI14	埋1層	壺			(2.6)	5YR7/6	良	端部は凹んでいる
289	SI14	埋2層	壺			(4.4)	10YR7/4	良	外面は摩耗している
290	SI14	埋1層	壺		(6.0)	(4.0)	10YR6/3	良	外面黒斑? 反転復元
291	SI14	埋1層	壺			(1.9)	5Y3/1	良	免田式土器 櫛描横線文
292	SI14	埋2層	壺			(3.1)	5YR7/6	良	頸部は厚く、肩部で急に薄くなる 内面は指で強くナデられている 内面に指頭痕?あり 摩耗している
293	SI14	埋1層	壺			(2.9)	10YR6/4	良	黒斑あり 突帯の断面は四角形
294	SI14	埋2層	壺			(3.7)	5YR7/6	良	頸部内面は摩耗しているが指頭痕らしきものが観察される
295	SI14	埋1層	壺			(3.5)	7.5YR6/6	良	頸部に低い突帯あり
296	SI14	埋1層	壺		(3.6)	(1.8)	7.5YR6/4	良	外面被熱痕あり? 反転復元
297	SI14	埋2層	壺		(8.0)	(2.1)	10YR4/1	良	底部は丸い 内底はハケ調整 反転復元
298	SI14	埋1層	壺		(8.0)	(2.9)	7.5YR6/4	良	ナデは丁寧である 反転復元
299	SI14	埋2層	壺		(6.8)	(2.6)	10YR7/2	良	内底はやや凹む 反転復元
300	SI14	埋2層	壺		(5.6)	(4.2)	10YR8/4	良	底部は厚みがある 内底は指おさえあり 反転復元
301	SI14	埋2層	壺		(5.6)	(5.6)	7.5YR7/6	良	内底指おさえ? 反転復元
302	SI14	埋1層	壺		(6.8)	(12.2)	10YR6/4	良好	表面は摩耗しているが残存の良好な器面を見る 底部は凸レンズ状の平底を呈する
303	SI14	埋3層	甕	(21.9)		(8.2)	7.5YR5/4	良	口縁は肥厚している 胎土が粗い
304	SI14	埋2層	甕	(14.4)		(5.2)	10YR7/3	良	端部は丸い 内面のハケメは摩耗している 外面に黒斑あり 反転復元
305	SI14	埋2層	甕			(3.5)	2.5Y3/1	良	内面剥落が著しい 口縁端部は凹んでいる 外面に指頭痕あり
306	SI14	埋土一括	甕			(2.2)	7.5YR5/4	良	口径10センチ程度の小型品
307	SI14	埋2層	甕			(4.0)	10YR6/6	良	外器面にススが付着している 胎土が細かい? ザラザラしてない
308	SI14	埋土一括	甕			(4.5)	10YR6/6	良	摩耗が著しい 外面は被熱により赤化 内底は指ナデ様あり 反転復元
309	SI14	埋1層	甕			(3.8)	10YR7/4	良	内底は指おさえか? 底部は薄い 反転復元
310	SI14	埋1層	甕			(8.5)	7.5YR5/4	良	外面は摩耗が著しい 反転復元
311	SI14	埋1層	甕			(4.4)	10YR6/3	良	内底・外底とも指おさえあり 反転復元
312	SI14	埋1層	甕			(3.5)	5YR7/6	良	摩耗が著しい 反転復元
313	SI14	埋1層	甕			(2.6)	5YR5/4	良	外底砂粒付着 被熱痕あり 反転復元
314	SI14	埋3層	甕		9.4	(3.8)	10YR6/6	良	端部は丸い 内外器面ともに黒く変色している箇所あり
315	SI14	埋1層	甕		(9.0)	(5.1)	10YR7/6	良	内底・外底とも指おさえ 端部はつまんでいる? 反転復元
316	SI14	埋2層	甕		(8.8)	(5.1)	10YR7/4	良	端部は丸い 内外面に黒斑あり 反転復元
317	SI14	埋2層	甕		11.4	(5.0)	10YR6/6	良好	胎土が粗い
318	SI14	埋1層	甕		(13.9)	(4.8)	7.5YR6/6	良	胎土が粗い 端部は丸い 全体的に黒く変色している 摩耗している 全体の1/4 残存で反転復元
319	SI14	埋1層	甕		(13.0)	(5.3)	7.5YR7/6	良	摩耗が著しい 反転復元
320	SI14	埋1層	甕		(10.0)	(2.7)	7.5YR7/6	良	端部は丸い 反転復元
321	SI14	埋2層	甕		(10.6)	(4.6)	7.5YR7/4	良	端部は尖っているがほとんど欠損している 摩耗が著しい
322	SI14	埋2層	甕		(12.4)	(4.2)	7.5YR7/6	良	摩耗のため調整不明瞭 接合痕が観察される 反転復元
323	SI14	埋1層	甕		11.6	(6.2)	5YR6/4	良好	被熱
324	SI17	埋3層	台付鉢	10.9	11.0	9.0	7.5YR6/4	良好	外面に指頭圧痕あり
325	SI17	埋1層	鉢	(15.2)		(5.7)	7.5YR5/6	良	外器面に工具痕あり 端部は丸い 全体の約1/2 残存で反転復元
326	SI17	埋土一括	手捏土器	(8.8)		5.2	7.5YR7/4	良	器壁は薄く端部は尖っている 反転復元
327	SI17	埋土一括	鉢	19.0		(1.5)	10YR6/2	良	端部は丸い 反転復元
328	SI17	埋3層	高坏	(20.4)		(3.0)	10YR7/4	良	赤彩は退化している 内面はハケメの可能性あり 反転復元
329	SI17	埋土一括	高坏	(34.0)		(2.8)	7.5YR7/4	良	内面はスス付着か? 反転復元
330	SI17	埋土一括	高坏	(33.2)		(2.0)	10YR7/6	良	焼きがあまりい 口縁端部は丸い 反転復元
331	SI17	埋2層	高坏			(3.1)	10YR6/4	良	端部は平坦に収めている
332	SI17	埋2層	高坏			(2.3)	10YR7/4	良	内底は指おさえあり 反転復元

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
333	S117	埋土一括	高坏			(10.7)	7.5YR7/6	良	内面に絞り痕あり 摩耗が著しい 工具痕あり 一部反転復元
334	S117	埋1層	高坏			(2.5)	7.5YR6/4	良	内底は指おさえ 反転復元
335	S117	埋土一括	高坏			(4.2)	7.5YR7/3	良	外面に2箇所穿孔あり 反転復元
336	S117	埋1層	高坏			(8.4)	7.5YR6/6	良	外器面は摩耗 全体的に黒く変色している 胎土が粗い 内面に指ナデと絞り痕あり 反転復元
337	S117	埋3層	高坏			(9.1)	10YR8/6	良	外器面は全体的にタテ方向のハケメ 胎土が粗い 反転復元
338	S117	埋2層	高坏			(8.9)	10YR7/6	良	内外器面ともに黒く変色している部分あり 内面に絞り痕あり 反転復元
339	S117	埋2層	高坏			(9.1)	7.5YR6/6	良	穿孔は外側より施された 穿孔は4方向にあると推測 一部反転復元
340	S117	埋3・2層	甕	(19.6)	(13.0)	36.6	10YR6/4	良好	外器面スス付着 被熱 反転復元
341	S117	埋3層	甕	(19.2)		(20.6)	10YR7/3	良好	外器面スス付着 反転復元
342	S117	埋3層	甕	(17.4)		(6.6)	7.5YR6/6	良	口縁部は平坦に収めている 全体の1/4 残存で反転復元
343	S117	埋2層	甕			(10.9)	7.5YR6/4	良	胎土は雲母が多い 内面に指頭圧痕あり 反転復元
344	S117	埋1層	甕	(20.5)		(3.5)	7.5YR6/6	良	口縁部は平坦に収めている 反転復元
345	S117	埋土一括	甕	(15.6)		(2.9)	10YR7/3	良	端部は凹んでいる 反転復元
346	S117	埋1層	甕			(1.7)	10YR8/4	良	端部は凹んでいる 口径20センチ程度の中型品
347	S117	埋2層	甕		(9.3)	(7.3)	7.5YR5/6	良	反転復元
348	S117	埋3層	甕		(12.6)	(6.1)	7.5YR7/8	良	口縁部は平坦に収めている 胎土が粗い 台部のみ1/4 残存で反転復元
349	S117	埋3層	壺	(13.6)	(6.2)	39.4	7.5YR6/6	良好	一部黒斑あり 反転復元
350	S117	埋3・2層	甕	(12.2)	(4.2)	16.4	10YR7/4	良好	一部黒斑あり 反転復元
351	S117	埋3層	甕	(12.6)		(13.7)	7.5YR6/6	良好	内器面工具痕あり 反転復元
352	S117	埋3層	壺	(11.4)		(5.3)	10YR6/6	良好	内面工具痕あり 口縁端部は丸い 反転復元
353	S117	埋土一括	壺			(4.5)	7.5YR7/4	良	大型品 外面ハケメの可能性あり 外面に刻目あり
354	S117	埋2層	壺	(34.8)		(5.1)	10YR7/4	良	ハケメは細かい 外面口縁部下は指おさえ痕あり 反転復元
355	S117	埋3層	壺			(12.5)	7.5YR6/6	良	頸部に突帯を貼り付ける壺 内面に指頭圧痕あり
356	S117	埋土一括	壺	(5.6)		(2.6)	7.5YR7/4	良	外面一部工具ナデか 反転復元
357	S117	埋3層	壺			(2.2)	7.5YR6/2	良	外面一部タタキかハケメ痕あり 端部は平坦に収めている
358	S117	埋土一括	壺		(9.0)	(2.1)	10YR7/2	良	内底のナデは強い 反転復元
359	S117	埋2層	甕棺			(11.6)	7.5YR6/4	良	外面に黒斑あり 外面に刻目あり
360	S117	埋土一括	壺		(7.0)	(2.6)	10YR8/6	良	外面調整は粗い 反転復元
361	S117	埋1層	壺			(4.5)	7.5YR7/4	良	大型品
362	S117	埋土一括	壺			(3.1)	7.5YR5/8	良	内器面全体的に指頭圧痕あり
363	S117	埋土一括	壺			(2.6)	2.5Y7/3	良	外面は摩耗している
364	S117	埋3層	鉢			(3.4)	10YR7/4	良	端部が波うっているため傾き不明 内面に刻目と条痕あり 縄紋
365	S117	埋土一括	鉢			(3.2)	5YR7/4	良	外面上部黒色 縄紋 反転復元
366	S117	埋1層	甕			(3.6)	2.5Y7/1	良	須恵器
367	S117	埋1層	壺			(1.3)	N6/	良	口径10センチ程度の小型品 須恵器
368	S119	埋1層	高坏			(2.0)	7.5YR6/6	良	外面一部黒化 口径20センチ程度の中型品
369	S119	埋1層	高坏			(3.1)	10YR8/4	良	外底は強い横方向のナデか工具ナデ 内外とも底部やや黒ずんでいる 口径28センチ程度の大型品
370	S119	埋2層	器台			(3.6)	10YR6/2	良	端部はつまんだ痕がある 口径9センチ程度の中型品
371	S119	埋1層	壺	(16.4)		(6.4)	7.5YR5/6	良	端部は平坦に収めている 全体の1/4 残存で反転復元
372	S119	埋1層	壺			(2.9)	2.5Y8/3	良	頸径15センチ程度の大型品
373	S119	埋1層	高坏			(17.2)	7.5YR7/6	良	穿孔は2/3 残存で1箇所 内面に絞り痕あり 一部反転復元
374	S119	埋1層	器台	11.8	13.9	16.1	7.5YR7/6	良	器面の一部が摩耗 外面に指頭痕あり
375	S119	埋1層	壺		(10.5)	(7.1)	7.5YR7/6	良	凸レンズ状を呈する底部
376	S119	埋1層	壺			(3.9)	10YR6/2	良	大粒の小石粒が多い
377	S119	埋1層	甕			(2.8)	10YR7/4	良	端部は平坦に収めている
378	S119	埋1層	甕			(3.1)	7.5YR6/6	良	端部は平坦に収めている 外面端部下黒色 内面ハケメの可能性
379	S119	埋2層	甕		(11.2)	(2.8)	10YR6/6	良	端部は平坦に収めている やや歪である 反転復元

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
380	S119	埋1層	甕		11.6	(6.5)	7.5YR8/6	不良	器壁が薄い 反転復元
381	S119	埋1層	甕		9.8	(5.0)	7.5YR7/4	不良	器面は摩耗している 胎土が粗い 反転復元
382	S119	埋1層	甕	11.0		(5.0)	7.5YR8/6	良	低めの台が付く甕
383	S119	埋1層	甕		(9.6)	(4.6)	7.5YR5/4	良	端部は平坦に収めている 全体に被熱痕あり 反転復元
384	S120	埋1層	高坏			(11.6)	10YR6/3	良	内面横に工具を動かしているあるいはハケメの可能性もあり
385	S120	埋1層	鉢			(1.9)	7.5YR8/4	良	口径15センチ程度の小型品 端部は平坦に収めている
386	S120	埋1層	鉢			(2.4)	7.5YR6/4	良	端部は凹んでいる
387	S120	埋1層	鉢			(1.3)	7.5YR7/4	良	口径16センチ程度の小型品 端部は平坦に収めている
388	S120	埋1層	高坏			(1.7)	N2/	良	外面は黒斑か? 口径20センチ程度の中型品 端部は丸い
389	S120	埋1層	高坏			(1.7)	2.5Y5/1	良	部分的に器壁はかなり薄い 反転復元
390	S120	埋1層	高坏			(4.1)	7.5YR6/4	良	薄くて丁寧な作りである
391	S120	埋土一括	高坏			(5.9)	5YR7/6	良	摩耗が著しい 底部は粘土を補っている 反転復元
392	S120	埋土一括	高坏			(3.0)	10YR8/3	良	摩耗のため詳細不明 小型品
393	S120	埋1層	壺			(3.4)	10YR8/4	良	端部は大きく凹んでいる 大型品
394	S120	埋1層	壺			(2.1)	10YR7/4	良	口径20センチ程度の中型品
395	S120	埋土一括	壺			(1.7)	7.5YR7/4	良	端部は平坦に収めている 小型品
396	S120	埋1層	器台	(6.9)	(10.6)	(14.2)	7.5YR6/6	良	一部に酸化焰焼成とみられる黒色化を確認できる 内面に絞り痕と指頭圧痕あり 反転復元
397	S120	埋1層	鉢			(8.1)	7.5YR6/6	良	器面は摩耗している 反転復元
398	S120	埋1層	壺		(6.2)	(1.7)	10YR7/4	良	内底は工具ナデもある 反転復元
399	S120	埋1層	甕			(3.1)	10YR7/4	良	外面被熱痕 内底・外底ともに指おさえ 反転復元
400	S120	埋土一括	甕	(14.2)		(1.2)	7.5YR7/4	良	端部は平坦に収めている 反転復元
401	S120	埋1層	壺		(6.0)	(3.2)	7.5YR6/4	良	摩耗している 反転復元
402	S120	埋1・2層	甕		(10.6)	(3.9)	10YR6/4	良	端部は丸みを持つ 反転復元
403	S120	埋1・2層	坏			(2.3)	7.5Y7/1	良	口径12センチ程度の小型品 須恵器
404	S120	埋土一括	鉢			(2.2)	N2/	良	文様部分はヘラ状工具を使用 縄紋
405	S120	埋1層	鉢			(6.3)	10YR7/3	良	外面に刻目あり 内面に条痕あり 縄紋
406	S120	埋1層	鉢			(5.3)	10YR6/3	良	端部は内面側に丸まってやや突出している 外面に刻目と条痕あり 縄紋
407	S120	埋2層	深鉢		9.6	(2.8)	7.5YR6/6	良	工具痕あり 底部は粘土円盤貼付 縄紋 反転復元
408	S121	埋1層	鉢			(3.7)	7.5YR8/4	良	端部は尖っている
409	S121	埋3層	器台			(3.8)	7.5YR7/4	良	内面指頭痕あり
410	S121	埋1層	壺			(2.3)	7.5YR7/4	良	端部は平坦に収めている 外面端部直下は凹んでいる
411	S121	埋土一括	壺			(3.0)	10YR7/3	良	径14センチ程度の小型品
412	S121	埋1層	壺			(2.8)	7.5YR8/6	良	外面の刻目は大きい
413	S121	埋1層	壺			(4.6)	10YR7/4	良	内面に黒斑あり 大型品 外面に刻目あり
414	S121	埋1層	壺			(4.0)	5YR7/6	良	内面一部ハケメあり 大型品 外面に刻目あり
415	S121	埋1層	壺		(4.6)	(4.8)	10YR6/3	良	内底軽い指おさえ 外底丁寧なナデ 反転復元
416	S121	埋土一括	鉢			(1.4)	7.5YR6/4	良	小片のため傾き、器形不明 縄紋
417	S121	埋土一括	浅鉢			(2.4)	10YR6/4	良	端部下に一条沈線あり 縄紋
418	S121	埋2層	浅鉢			(2.6)	10YR7/3	良	口縁部に黒斑あり 内面のミガキは弱い 縄紋
419	S121	埋2層	浅鉢			(2.0)	7.5YR6/4	良	内面のナデは丁寧である 縄紋
420	S121	埋3層	深鉢			(1.8)	10YR4/1	良	端部下に一条沈線あり 縄紋
421	S121	埋2層	鉢			(1.5)	10YR5/3	良	端部は摩耗している 口縁部黒斑あり 縄紋
422	S121	埋2層	深鉢			(2.7)	10YR6/3	良	外面のヨコナデは強い 縄紋
423	S121	埋3層	鉢			(2.4)	10YR6/3	良	内面は摩耗している 縄紋
424	S121	埋2層	深鉢			(2.1)	10YR7/3	良	ヘラナデは丁寧である 縄紋
425	S121	埋3層	深鉢			(4.0)	10YR6/3	良	外面のナデが粗い 縄紋
426	S121	埋1層	深鉢			(2.6)	7.5YR6/4	良	端部は薄く尖る 縄紋
427	S121	埋1層	深鉢			(3.0)	2.5Y7/3	良	端部下に一条沈線あり 縄紋
428	S121	埋3層	鉢			(5.9)	5YR7/4	良	半円形の刻目突帯か? 外面赤彩か? 外面は条痕の後刻目突帯 縄紋
429	S121	埋1・2層	深鉢			(4.1)	7.5YR6/6	良	外面端部下はナデられている 外面に条痕あり 縄紋

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
430	S121	埋 2 層	鉢		(9. 2)	(2. 3)	10YR7/4	良	外面工具痕あり 縄紋 反転復元
431	S121	埋 1 層	甕			(3. 4)	10YR4/2	良	須恵器
432	S122	埋 2 層	壺			(2. 4)	7. 5YR6/4	良	端部は平坦に収めている
433	S122	埋土一括	甕			(2. 4)	7. 5YR7/6	良	摩耗が著しい
434	S122	埋 1 層	甕			(2. 6)	10YR6/3	良	端部は平坦に収めている 摩耗が著しい
435	S122	埋土一括	甕			(4. 7)	7. 5YR7/6	良	外面に黒斑あり 反転復元
436	S123	埋土一括	台付鉢		(12. 0)	(2. 1)	10YR8/4	良	外面の穿孔は外から内に 1 箇所確認 反転復元
437	S123	埋 1・2 層	鉢			(1. 3)	7. 5YR7/4	良	端部は丸い
438	S123	埋 1 層	高坏			(2. 1)	10YR7/4	良	端部は尖っている
439	S123	埋 1 層	高坏			(2. 4)	7. 5YR7/4	良	端部は欠損している
440	S123	埋 1 層	壺			(3. 0)	10YR8/4	良	径 20 センチ程度の中型品 外面に黒斑あり
441	S123	埋土一括	甕			(1. 2)	10YR5/3	良	端部は平坦に収めている
442	S123	埋 1 層	甕			(2. 8)	7. 5YR7/4	良	端部は平坦に収めている
443	S123	埋土一括	甕			(3. 6)	10YR7/4	良	摩耗著しく詳細不明 反転復元
444	S123	埋 1 層	甕			(3. 1)	7. 5YR8/4	良	内面ハケメの可能性あり
445	S123	埋 1 層	甕		(9. 8)	(4. 2)	7. 5YR6/3	良	外底一部黒色化 端部は平坦に収めている 反転復元
446	S123	埋 2 層	浅鉢			(4. 0)	10YR6/2	良	端部工具ナデか? 縄紋
447	S123	埋 1 層	深鉢		(9. 8)	(3. 1)	7. 5YR7/6	良	外底は平坦 外面やや黒色化 縄紋
448	S129	埋 3 層	鉢	(19. 5)		(6. 6)	2. 5Y6/2	良	口縁端部は面を持つ 外面もハケメの可能性あり 反転復元
449	S129	埋 3 層	鉢	(11. 0)		(5. 3)	10YR7/4	良	内面の指調整痕著しい 口縁端部やや歪んでいる
450	S129	埋土一括	鉢			(1. 5)	7. 5YR6/4	良	口径 14 センチ程度の小型品 端部は平坦に収めている
451	S129	埋 2 層	鉢			(1. 1)	2. 5Y4/1	良	摩耗 端部に刻目の可能性
452	S129	埋 2 層	鉢			(1. 0)	7. 5YR7/4	良	口径 12 センチ程度の小型品 端部は沈線?
453	S129	埋 1・2 層	鉢			(3. 9)	10YR7/4	良	内・外ともにナデによる凹みがある
454	S129	埋土一括	壺			(1. 8)	7. 5YR6/6	良	ごく薄く歪である・小型品
455	S129	埋 3 層	壺			(2. 2)	10YR6/4	良	口径 25 センチ程度の大型品 端部は平坦に収めている
456	S129	埋 3 層	壺			(5. 2)	10YR8/4	良	外面のナデは丁寧 全体に丁寧な作り
457	S129	埋土一括	高坏			(2. 0)	7. 5YR7/6	良	端部は急に厚い
458	S129	埋土一括	高坏			(3. 7)	10YR7/5	良	口径 20 センチ程度の大型品 端部は尖っている
459	S129	埋 3 層	高坏			(4. 0)	5YR6/8	良	口径 28 センチ程度の大型品
460	S129	埋土一括	壺			(5. 0)	2. 5YR6/8	良	反転復元
461	S129	埋 1 層	壺		(5. 6)	(2. 6)	10YR7/3	良	反転復元
462	S129	埋土一括	甕	(22. 4)		(4. 4)	7. 5YR7/4	良	端部は平坦に収めている 口縁端部はやや歪んでいる
463	S129	埋 1・2 層	甕			(4. 1)	10YR8/4	良	口径 15 センチ程度の中型品 端部は平坦に収めている
464	S129	埋 2 層	甕			(3. 0)	10YR8/4	良	内外面ともにハケメの可能性あり
465	S129	埋土一括	甕			(2. 2)	10YR6/2	良	口径 18 センチ程度の小型品 器面の摩耗が著しい
466	S129	埋土一括	甕			(3. 2)	10YR7/6	良	摩耗している
467	S129	埋 2 層	甕			(2. 9)	10YR7/4	良	口径 20 センチ程度の小型品 端部は面を作る
468	S129	埋 3 層	甕			(2. 3)	10YR8/4	良	口径 30 センチ程度の中型品 端部は平坦に収めている
469	S129	埋土一括	甕			(2. 0)	7. 5YR7/4	良	口径 25 センチ程度の大型品 端部は平坦に収めている
470	S129	埋 2 層	甕			(1. 8)	7. 5YR7/4	良	口径 20 センチ程度の小型品 端部は平坦に収めている
471	S129	埋 3 層	甕			(2. 6)	7. 5YR6/4	良	口径 20 センチ程度の中型品 端部は平坦に収めている
472	S129	埋 3 層	器台	(13. 0)		(4. 0)	10YR8/4	良	大型器台か?
473	S129	埋 3 層	器台			(7. 3)	10YR6/3	良	端部下は両面から指おさえか? 底径 12 センチ程度の小型品
474	S129	埋 2 層	甕			(1. 4)	10YR7/3	良	口径 20 センチ程度の中型品 端部は平坦に収めている
475	S129	埋 3 層	甕			(1. 6)	10YR5/2	良	口径 12 センチ程度の小型品 端部は平坦に収めている
476	S129	埋 2 層	甕			(1. 9)	7. 5YR7/6	良	口径 18 センチ程度の中型品 端部は平坦に収めている
477	S129	埋 2 層	甕			(2. 2)	10YR7/4	良	口径 20 センチ程度の小型品 摩耗が著しい
478	S129	埋 2 層	甕			(4. 7)	7. 5YR6/4	良	口径 20 センチ程度の小型品 端部は丸い
479	S129	埋 2 層	甕			(3. 4)	7. 5YR7/6	良	端部の形不明
480	S129	埋 1・2 層	甕			(2. 5)	7. 5YR7/6	良	外面は摩耗している

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
481	S129	埋 2 層	甕		10.1	(5.2)	7.5YR6/6	良好	反転復元
482	S129	埋 1・2 層	甕		(9.4)	(4.0)	7.5YR6/4	良	底径 8 センチ程度の小型品 反転復元
483	S129	埋 2 層	壺		(8.0)	(3.9)	7.5YR6/5	良	底部は膨らんでいる 反転復元
484	S129	埋 3 層	甕			(3.7)	7.5YR6/4	良	傾き不確定
485	S129	埋土一括	甕			(4.6)	10YR8/6	良	傾き不確定
486	S129	埋 3 層	甕			(9.5)	10YR7/6	良	外面被熱か? 外面も指頭痕が認められる 頸径 12 センチ程度の小型品
487	S129	埋 1 層	甕			(4.9)	10YR7/6	良	口縁端部の形不明
488	S129	埋 2 層	甕			(6.5)	10YR7/4	良	外面は摩耗が著しいが一部ハケメらしい調整あり 頸径 12 センチ程度の中型品
489	S129	埋 2 層	甕			(2.3)	10YR8/3	良	全体にやや摩耗 外面に深い刻目あり
490	S132	Pit 内一括	高坏	(23.6)		(1.9)	10YR6/4	良	胎土が粗い 外面黒変している 反転復元
491	S132	埋 1 層	高坏			(4.0)	10YR8/4	良	摩耗している 内面やや剥落している
492	S132	埋土一括	高坏			(5.6)	7.5YR7/4	良	摩耗が著しい
493	S132	埋 2 層	高坏			(10.5)	10YR7/6	良	内面に工具痕あり 摩耗が著しい 反転復元
494	S132	埋土一括	鉢			(1.8)	7.5YR6/4	良	端部やや凹んでいる
495	S132	埋土一括	鉢			(2.1)	10YR7/3	良	口径 20 センチ程度の小型品 端部は尖っている
496	S132	埋 1 層	鉢			(3.7)	7.5YR7/4	良	天地不明
497	S132	埋 1 層	高坏			(6.8)	10YR8/4	良	内面に工具痕あり 反転復元
498	S132	埋 1 層	高坏			(6.8)	5YR6/8	良好	胎土が細かい? 内面に絞り痕あり
499	S132	埋 1 層	壺	(32.4)		(7.4)	7.5YR7/6	良	摩耗が著しい 胎土が粗い 端部は平坦に収めている 外面に刻目あり
500	S132	埋土一括	壺	(22.6)		(4.6)	7.5YR6/6	良	端部は丸い 胎土は粗い 摩耗が著しい 反転復元
501	S132	埋 1 層	壺			(2.3)	10YR6/6	良	胎土が粗い 反転復元
502	S132	埋 2 層	壺		(4.2)	(3.0)	5YR7/6	良	外面のナデは丁寧 内底のハケメはクモの巣状? 反転復元
503	S132	埋土一括	壺	(13.4)		(4.3)	10YR6/4	良	端部は平坦に収めている 反転復元
504	S132	埋 1 層	壺			(3.5)	7.5YR6/4	良	外面ハケメか?
505	S132	埋 2 層	壺			(3.0)	7.5YR6/6	良	胎土が粗い 外面黒く変色している 反転復元
506	S132	埋 1 層	甕	(14.8)		(4.7)	10YR6/6	良好	端部は平坦に収めている 反転復元
507	S132	埋 1 層	ジョッキ形土器		8.6	(0.6)	10YR8/3	良好	底部を二次加工して円盤状を呈する土製品
508	S132	埋 1 層	甕		(10.8)	(6.5)	5YR7/8	良	端部は丸い 摩耗が著しい
509	S132	埋 1 層	甕		(9.2)	(4.9)	5YR6/8	良	端部は平坦に収めている 反転復元
510	S132	埋土一括	甕		12.5	(19.0)	7.5YR5/3	良好	器面は摩耗している 還元焰焼成あり 内面に指頭圧痕あり
511	S132	Pit 内一括	深鉢			(2.6)	10YR6/3	良	内・外ともに焼きムラで黒色部分あり 縄紋
512	S132	埋土一括	浅鉢			(2.6)	10YR6/2	良	口縁に一条の沈線あり 縄紋
513	S132	埋 2 層	浅鉢			(2.5)	7.5YR6/3	良	外面摩耗している 縄紋
514	S132	埋 2 層	浅鉢			(4.2)	10YR5/2	良	口径 20 センチ程度の小型品 端部は歪んでいる 縄紋
515	S132	埋 2 層	深鉢			(4.9)	10YR6/3	良	外面口縁直下は黒色 内面は全体が黒色 縄紋
516	S132	埋土一括	浅鉢			(2.8)	10YR8/3	良	外面は粗いヘラミガキ 内面のナデは丁寧である 縄紋
517	S132	埋 2 層	鉢			(1.7)	10YR4/2	良	外面ミガキの可能性あり 縄紋
518	S133	埋 3 層	高坏			(6.0)	7.5YR6/3	良	外面は粗いミガキ 大型品
519	S133	埋 1 層	高坏			(2.6)	10YR7/3	良	径不明
520	S133	埋 1 層	壺			(2.7)	7.5YR7/4	良	摩耗している 外面に沈線あり
521	S133	埋 1 層	甕			(1.5)	7.5YR7/4	良	口径 10 センチ程度の小型品 端部は凹んでいる
522	S133	埋 1 層	甕			(1.7)	7.5YR6/4	良	端部は沈線あり 面をなす
523	S133	埋 3 層	甕			(2.3)	10YR6/3	良	径 12 センチの中型品 端部は平坦に収めている
524	S133	埋 1 層	深鉢			(2.7)	10YR6/4	良	底部はやや膨らむ 縄紋
525	S136	埋 2 層	鉢	(15.8)		(6.4)	7.5YR7/3	良	口縁端部は沈線状 反転復元
526	S136	埋土一括	鉢			(6.0)	7.5YR7/4	良	端部は丸い 内底は指痕あり
527	S138	埋 5 層	鉢	(12.6)		(7.7)	10YR5/4	良好	一部黒斑あり 反転復元
528	S138	埋 3 層	小鉢	10.9		4.3	7.5YR7/3	良好	黒斑あり
529	S138	埋 2 層	鉢			(4.2)	7.5YR7/4	良	端部やや内湾し尖っている
530	S138	埋 2 層	鉢			(3.2)	7.5YR6/4	良	端部は尖っている

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
531	S138	埋 2 層	鉢			(2.6)	7.5YR7/4	良	口径 20 センチ程度の中型品 端部は尖っている
532	S138	埋土一括	ミニチュア土器			(5.2)	5YR6/8	良	胎土が粗い 内面に工具痕らしきものあり 反転復元
533	S138	埋 2 層	高坏			(2.3)	10YR8/4	良	口径 20 センチ程度の中型品 端部は尖っている
534	S138	埋土一括	高坏			(2.7)	7.5Y3/1	良	端部は丸い
535	S138	埋 1 層	高坏	(29.1)		(2.6)	7.5YR7/8	良	胎土が粗い 反転復元
536	S138	埋 3 層	台付鉢	(10.5)		(2.2)	10YR7/4	良	外面から内面に穿孔 反転復元
537	S138	埋 3 層	台付鉢	(12.6)		(2.3)	10YR8/4	良	端部はやや丸まっている 外面赤彩 外面に穿孔あり 反転復元
538	S138	埋 2 層	甕			(3.7)	5YR7/6	良	内底は指おさえ 外底はクモの巣状のハケメ
539	S138	埋 3 層	ジョッキ形土器	9.7	9.3	8.6	10YR8/3	良	把手は付け根を残して欠損する
540	S138	埋 2 層	壺	(10.4)		(6.0)	5YR7/6	良	端部は丸い 反転復元
541	S138	埋 4 層	甕			(5.6)	2.5YR5/8	良	全体的に摩耗が著しい 胎土が粗い
542	S138	埋 1・2 層	甕			(3.0)	10YR8/4	良	口径 14 センチ程度 端部は平坦に収めている
543	S138	埋土一括	甕			(1.7)	7.5YR7/6	良	口径 16 センチ程度の中型品 端部は平坦に収めている
544	S138	埋土一括	甕			(2.0)	7.5YR7/6	良	口径 18 センチ程度の中型品 端部は凹んでいる
545	S138	埋 2 層	甕			(2.0)	7.5YR5/3	良	口径 20 センチ程度の中型品 端部は凹んでいる
546	S138	埋 1・2 層	甕			(1.9)	7.5YR7/6	良	口径 18 センチ程度の中型品 端部は平坦に収めている
547	S138	埋 3 層	甕			(6.6)	10YR4/1	良	突帯の作りはしっかりしている 大型品 外面に刻目あり
548	S138	埋 2 層	甕	(10.2)		(6.2)	5YR6/8	良	内面は黒変している 焼きがあまい 反転復元
549	SD01	埋 5 層	ミニチュア土器			(2.0)	7.5YR7/6	良	手捏ねによるミニチュア土器
550	SD01	埋 6 層	ミニチュア土器			(2.4)	7.5YR6/6	良	胎土が粗い 外面一部黒変している
551	SD01	埋 6 層	鉢			(2.3)	7.5YR7/6	良	全体的に表面剥落 端部は平坦に収めている 口径 18 センチ程度の中型品
552	SD01	埋 5 層	鉢			(2.4)	7.5YR6/6	良	端部は尖っている
553	SD01	埋 5 層	鉢			(3.6)	7.5YR7/4	良	摩耗著しく詳細不明 外面黒斑か? 小型品
554	SD01	埋 1 層	台付鉢			(2.8)	10YR7/4	良	底径 12 センチ程度の小型品 端部は丸い
555	SD01	埋 6 層	台付鉢	(10.0)		(4.5)	5YR6/8	良	焼きが甘い 端部は丸い 全体の 1/2 残存で反転復元
556	SD01	埋 6 層	高坏	(16.4)		(4.0)	7.5YR6/6	良	外面口縁下は指おさえ 反転復元
557	SD01	埋土一括	高坏			(1.6)	10YR7/4	良	外面に刻書あり 反転復元
558	SD01	埋 1 層	台付鉢	(13.2)		(3.9)	5YR6/8	良	器面は摩耗している 反転復元
559	SD01	埋 6 層	台付鉢	(8.2)		(3.2)	7.5YR6/6	良	胎土が粗い 反転復元
560	SD01	埋 5 層	鉢			(10.0)	7.5YR6/4	良	外面黒斑あり 内面のハケメ細かい 外面摩耗している
561	SD01	埋 6 層	高坏	(35.0)		(3.8)	10YR7/2	良	端部は丸みを持つ 内外面はハケメの可能性あり 反転復元
562	SD01	埋 6 層	高坏	(29.0)		(2.5)	10YR7/4	良	端部は尖っている 反転復元
563	SD01	埋 6 層	高坏	(31.0)		(1.6)	10YR8/4	良	端部は丸い 焼きがあまい スリップ 反転復元
564	SD01	埋土一括	高坏	(30.0)		(2.2)	10YR8/4	良	摩耗のため調整不明・端部は丸みを持つ 反転復元
565	SD01	埋 6 層	高坏	(30.0)		(3.3)	10YR7/4	良	端部は尖っている 口縁部黒色 摩耗している 反転復元
566	SD01	埋 5 層	高坏	(28.0)		(2.2)	7.5YR7/6	良	胎土が粗い 端部は丸い 全体の 1/2 残存で反転復元
567	SD01	埋 6 層	高坏	(29.9)		(3.5)	7.5YR7/6	良	端部は尖っていて、口縁部は大きく外へ開く 全体的に薄い 反転復元
568	SD01	埋 6 層	高坏	(25.4)		(4.3)	7.5YR5/4	良	摩耗が著しい 端部は尖っている 反転復元
569	SD01	埋 6 層	高坏			(3.2)	7.5YR6/6	良	胎土が粗い 端部は丸い 外面一部黒く変色している 全体の 1/6 残存で反転復元
570	SD01	埋 5 層	高坏	(22.4)		(2.9)	7.5YR6/8	良	胎土が粗い 端部は丸い 全体の 1/4 残存で反転復元
571	SD01	埋 6 層	高坏			(2.2)	10YR7/4	良	端部は尖っている 外面黒斑あり
572	SD01	埋 5 層	高坏			(2.8)	7.5YR6/4	良	内面のナデは強い 外面の黒色部分は黒斑かススか不明
573	SD01	埋土一括	高坏			(2.3)	10YR6/3	良	端部は尖っている 口径 20 センチ程度の中型品
574	SD01	埋 6 層	高坏			(2.3)	10YR5/2	良	端部は尖っている
575	SD01	埋 6 層	高坏			(2.0)	10YR6/4	良	端部は尖っている 口径 18 センチ程度の中型品
576	SD01	埋 5 層	高坏			(4.8)	10YR7/4	良	端部は尖っている 口径 30 センチ程度の大型品 反転復元
577	SD01	埋 5 層	高坏			(3.7)	5YR7/6	良	摩耗が著しい 口径 27 センチ程度の大型品

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
578	SD01	埋 1 層	鉢			(1. 8)	10YR7/4	良	外面に細かい刻目あり
579	SD01	埋 6 層	高坏			(2. 3)	7. 5YR7/6	良	端部は平坦に収めている
580	SD01	埋 6 層	高坏			(2. 3)	7. 5YR5/3	良	端部は丸い
581	SD01	埋 6 層	高坏			(2. 2)	10YR7/6	良	端部が極端に厚い 口径 22 センチ程度の中型品
582	SD01	埋 3・4 層	高坏			(3. 0)	7. 5YR8/4	良	口径 22 センチ程度の中型品 口縁部は特に厚い
583	SD01	埋 2 層	高坏			(2. 8)	10YR8/4	良	口径 20 センチ程度の中型品 端部は尖っている
584	SD01	埋 6 層	高坏			(1. 5)	10YR7/4	良	端部欠損 口径 23 センチ程度の中型品
585	SD01	埋 5 層	高坏			(4. 1)	10YR7/4	良	摩耗のため調整不明 外面黒斑か？
586	SD01	埋 6 層	鉢			(2. 7)	7. 5YR7/4	良	摩耗している
587	SD01	埋 5 層	高坏			(10. 0)	7. 5YR6/8	良	外面スス付着 器面は摩耗している 一部反転復元
588	SD01	埋 5 層	高坏			(9. 5)	10YR7/4	良	内面に絞り痕あり 外面のハケメは摩耗していて詳細不明 反転復元
589	SD01	埋 5 層	高坏			(10. 9)	7. 5YR7/6	良	穿孔あり 外面全面がハケメの可能性あり 反転復元
590	SD01	埋 6 層	高坏			(10. 8)	7. 5YR6/4	良	内面に絞り痕あり 内底は凹んでいる 被熱痕あり 赤化している 反転復元
591	SD01	埋 1 層	高坏			(14. 3)	7. 5YR8/6	良	器面は摩耗している 内面に絞り痕と穿孔あり
592	SD01	埋 5 層	高坏			(9. 4)	7. 5YR7/6	良	外底は補強粘土ありか？ 反転復元
593	SD01	埋 5 層	高坏			(11. 2)	7. 5YR7/6	良	摩耗著しく詳細不明 内面に絞り痕あり 反転復元
594	SD01	埋 6 層	高坏			(11. 3)	7. 5YR6/6	良	内面絞り痕あり 外面に穿孔あり 穿孔は 2 個 1 組 摩耗が著しく詳細不明 反転復元
595	SD01	埋 6 層	高坏			(11. 1)	7. 5YR7/4	良	内面に絞り痕あり 外面に穿孔あり 穿孔は 2 箇所確認 2 個 1 組か 3 個 1 組の可能性あり 反転復元
596	SD01	埋 6 層	高坏	(12. 6)		(10. 6)	7. 5YR6/3	良	器面の剥落が著しい 外面に穿孔あり 穿孔は 2 個 1 組で 2 箇所確認でき外から内と思われる 反転復元
597	SD01	埋 5 層	高坏			(9. 4)	7. 5YR6/8	良	胎土が粗い 内面奥はポコポコしている 内面に絞り痕あり
598	SD01	埋 5 層	高坏			(8. 4)	7. 5YR7/4	良	外底補強の粘土あり 反転復元
599	SD01	埋 5 層	高坏			(10. 6)	7. 5YR7/6	良	外面に穿孔あり 穿孔は上半のみ残存 外から内に空けている
600	SD01	埋 5 層	高坏			(10. 7)	10YR7/4	良	内面に絞り痕あり 内底は指おさえか 反転復元
601	SD01	埋 6 層	台付鉢			(4. 0)	7. 5YR6/6	良	外面に穿孔あり 穿孔は 2 個 1 組 外から内へあいている
602	SD01	埋 5 層	高坏			(6. 6)	7. 5YR8/4	良	やや摩耗 4 つの連続する穿孔が三方向に認められる 内面に絞り痕あり
603	SD01	埋 6 層	壺	(32. 0)		(11. 0)	5YR6/6	良	剥落が著しく調整不明 端部は平坦に収めている 反転復元
604	SD01	埋 5 層	壺	(27. 2)		(3. 5)	5YR6/8	良	端部は平坦に収めている 胎土が粗い 反転復元
605	SD01	埋 1 層	壺			(2. 2)	7. 5YR7/6	良	外面に刻目あり 端部は外に突出している 口径 20 センチ程度の中型品
606	SD01	埋土一括	壺			(2. 8)	10YR7/4	良	口縁端部に刻目あり 大型品
607	SD01	埋 5 層	壺	(18. 2)		(12. 9)	7. 5YR8/6	良	雲母が目立つ 外面刻目あり 反転復元
608	SD01	埋 2 層	壺			(3. 8)	10YR7/4	良	外面に刻目あり 刻目は櫛状工具を使用したものか？ 摩耗している 反転復元
609	SD01	埋土一括	壺			(3. 0)	7. 5YR7/6	良	口径 24 センチ程度の大型品
610	SD01	埋土一括	壺			(1. 9)	7. 5YR6/6	良	端部は折り曲げている
611	SD01	埋 6 層	壺	(15. 6)		(4. 1)	5YR7/6	良	端部は丸い 内面赤彩 反転復元
612	SD01	埋 6 層	甕	(11. 6)		(5. 0)	10YR7/6	良	胎土が粗い 外面に黒く変色している部分あり 全体の 1/3 残存で反転復元
613	SD01	埋 5 層	壺	(11. 5)		(6. 4)	5YR6/8	良	胎土が粗い 端部は丸い 外面は黒く変色している 全体の 1/4 残存で反転復元
614	SD01	埋 5 層	壺	(14. 8)		(11. 6)	7. 5YR8/4	良	反転復元
615	SD01	埋 5 層	壺	(12. 4)		(6. 1)	10YR7/6	良	口縁端部は平坦に収めている 胎土が粗い 反転復元
616	SD01	埋 5 層	壺			(5. 8)	7. 5YR7/4	良	突帯は三角形で小さく尖っている 突帯径 18 センチ程度の大型品 外面ハケメの可能性あり
617	SD01	埋 5 層	壺			(4. 1)	10YR8/4	良	内面屈曲部欠損のため詳細不明
618	SD01	埋 6 層	壺	(14. 4)		(7. 1)	7. 5YR8/6	良	摩耗のため調整不明 外面黒色部黒斑か？ 反転復元
619	SD01	埋 5・6 層	壺	13. 0		(9. 8)	7. 5YR8/4	良	外面頸部に刻目あり
620	SD01	埋 6 層	壺	(13. 0)		(10. 1)	10YR8/4	良	胎土が粗い 端部は丸い 外面は黒く変色している 全体の 1/3 残存で反転復元
621	SD01	埋 5 層	壺	(10. 6)		(6. 1)	7. 5YR6/6	良	端部は平坦に収めている 反転復元
622	SD01	埋 6 層	壺	(13. 2)		(7. 2)	10YR8/4	良	スリップか？ 全体の 1/4 残存で反転復元
623	SD01	埋 5 層	壺			(4. 0)	10YR8/4	良	摩耗が著しい 突帯下から頸部にかけて施文されているが詳細不明 反転復元

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
624	SD01	埋 6 層	壺			(7. 7)	7. 5YR7/4	良	細かい刻み目あり 摩耗のため詳細不明 反転復元
625	SD01	埋 5 層	壺			(3. 5)	7. 5YR7/4	良	外面刻目あり 摩耗のため詳細不明
626	SD01	埋 6 層	壺			(5. 4)	7. 5YR7/4	良	外面頸部に刻目あり 摩耗のため詳細不明
627	SD01	埋 1 層	壺			(4. 5)	7. 5YR7/4	良	外面に細かい刻目あり 摩耗のため詳細不明
628	SD01	埋 6 層	壺			(6. 3)	7. 5YR4/1	良	外面黒斑あり 内面指頭圧痕あり 反転復元
629	SD01	埋 6 層	壺			(4. 9)	7. 5YR7/6	良	突帯は三角形で大きい
630	SD01	埋 6 層	壺			(3. 7)	10YR7/4	良	摩耗のため文様不明瞭 工具痕後あり
631	SD01	埋 1 層	壺			(4. 4)	5YR7/6	良	頸部に刻目あり
632	SD01	埋 5 層	壺			(4. 7)	7. 5YR6/6	良	外面に櫛描文の文様あり
633	SD01	埋 2 層	壺			(2. 5)	7. 5YR6/6	良	外面に櫛描文の文様あり
634	SD01	埋 5 層	壺		(9. 6)	(8. 9)	7. 5YR8/6	良	摩耗している 反転復元
635	SD01	埋 2 層	壺		(6. 4)	(9. 3)	7. 5YR8/4	良	内面赤彩か？ 反転復元
636	SD01	埋 5 層	壺			(6. 5)	7. 5YR7/6	良	底部内面は平坦ではなく丸みを帯びる
637	SD01	埋 6 層	壺			(6. 7)	7. 5YR6/4	良	丸底 内底はクモの巣状のハケメあり 反転復元
638	SD01	埋 5 層	壺		7. 0	(7. 3)	5YR6/6	良	胎土が粗い 底部に凹みあり 反転復元
639	SD01	埋 5 層	壺		(6. 0)	(5. 4)	7. 5YR7/4	良	内面のハケメは目が粗い 反転復元
640	SD01	埋 6 層	壺		(5. 3)	(6. 1)	10YR6/3	良	内面に指頭痕あり 外面に黒斑あり 反転復元
641	SD01	埋 5 層	壺		(7. 0)	(6. 4)	10YR7/2	良	外面黒斑か？ 反転復元
642	SD01	埋土一括	壺		6. 5	(7. 5)	7. 5YR6/8	良	外面に二次焼成と思われる赤化あり 反転復元
643	SD01	埋 5 層	壺			(3. 1)	10YR8/4	良	胎土が粗い 内外面工具痕あり 外面黒く変色している部分あり
644	SD01	埋 2 層	壺		(5. 2)	(2. 3)	7. 5YR7/6	良	内底指おさえ 反転復元
645	SD01	埋 5 層	壺			(4. 4)	10YR6/2	良	内底は工具ナデか？
646	SD01	埋 2 層	壺			(4. 8)	10YR8/4	良	内面は剥離 底径 7 センチ程度の大型品
647	SD01	埋 5 層	壺			(5. 7)	10YR8/4	良	丸底で底部が急に厚くなる 摩耗している
648	SD01	埋 6 層	壺		4. 0	(4. 5)	7. 5YR6/6	良	外面一部黒変している 反転復元
649	SD01	埋 2 層	壺		(5. 2)	(2. 6)	10YR7/4	良	内底指おさえ 反転復元
650	SD01	埋 6 層	壺		(7. 0)	(3. 9)	10YR8/4	良	底部はハケメか圧痕がある 反転復元
651	SD01	埋土一括	壺		(7. 6)	(3. 8)	7. 5YR7/4	良	摩耗により詳細不明 反転復元
652	SD01	埋 5 層	壺		(6. 0)	(3. 0)	7. 5YR7/6	良	外底指頭痕あり ほぼ丸底 反転復元
653	SD01	埋土一括	壺		(7. 5)	(3. 0)	7. 5YR7/6	良	底部はわずかに外に膨らんでいる 反転復元
654	SD01	埋 6 層	壺		(6. 0)	(3. 2)	10YR7/4	良	外面は丁寧なナデか？ 反転復元
655	SD01	埋 1 層	壺		(6. 4)	(2. 9)	7. 5YR8/6	良	内底軽い指おさえあり 外面黒斑か？ 反転復元
656	SD01	埋 6 層	甕	18. 0	(10. 8)	38. 0	10YR8/6	良	胴部には還元焰焼成が 2 箇所あり 口縁部はゆがみあり 一部反転復元
657	SD01	埋 6 層	甕	(20. 3)		(7. 3)	10YR7/6	良	胎土が粗い 端部は丸い 金雲母あり 全体の 1/2 残存で反転復元
658	SD01	埋 6 層	甕	15. 2		(4. 8)	7. 5YR6/6	良	胎土が粗い 全体の 1/4 残存で反転復元
659	SD01	埋 5 層	甕	(20. 6)		(6. 6)	7. 5YR7/8	良	口縁部は平坦面を作ったのちヨコナデにより丸く収めている 胎土が粗い 反転復元
660	SD01	埋 6 層	甕	(17. 0)		(5. 0)	7. 5YR7/6	良	摩耗が著しい 端部は丸い 反転復元
661	SD01	埋 5 層	甕	(20. 2)		(4. 5)	7. 5YR6/6	良	胎土が粗い 口縁端部に黒曜石のチップあり 内外面全体的に黒くすすんでいる 反転復元
662	SD01	埋 6 層	甕	(16. 6)		(4. 0)	7. 5YR7/6	良	端部は尖っている 反転復元
663	SD01	埋 6 層	甕	(18. 0)		(5. 4)	7. 5YR6/6	良	口縁端部は丸い 胎土が粗い 反転復元
664	SD01	埋 6 層	甕	(16. 8)		(6. 7)	10YR7/6	良	胎土が粗い 全体の 1/8 残存で反転復元
665	SD01	埋 6 層	甕	(12. 7)		(6. 4)	7. 5YR7/8	良	端部は丸い 胎土が粗い 反転復元
666	SD01	埋 6 層	甕	(16. 6)		(10. 7)	5YR6/8	良	端部は平坦に収めている 胎土が粗い 反転復元
667	SD01	埋 6 層	甕	(17. 4)		(8. 8)	10YR6/6	良	摩耗していて調整不明 外面黒斑あり 外面ハケメの可能性あり 反転復元
668	SD01	埋 6 層	甕	(15. 2)		(3. 8)	10YR7/8	良	全体の 1/6 残存で反転復元
669	SD01	埋 6 層	甕	(19. 8)		(4. 3)	5YR6/6	良	口縁内縁被熱？ 端部は平坦に収めている 反転復元
670	SD01	埋 6 層	甕			(2. 2)	7. 5YR7/6	良	端部は丸い 反転復元
671	SD01	埋 6 層	甕			(2. 2)	7. 5YR7/6	良	端部は丸みを持つ 口径 18 センチ程度の中型品
672	SD01	埋 5 層	甕			(2. 1)	2. 5YR6/6	良	摩耗している 端部は平坦に収めている？
673	SD01	埋 6 層	甕			(2. 0)	10YR6/3	良	端部は凹んでいる 外面スス？付着

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
674	SD01	埋 6 層	甕			(2.4)	7.5YR6/6	良	摩耗のため詳細不明 内面黒色化 口径 20 センチ程度の中型品
675	SD01	埋 6 層	甕			(2.8)	7.5YR7/6	良	端部は凹んでいる 口径 18 センチ程度の中型品
676	SD01	埋 5 層	甕			(2.7)	7.5YR6/6	良	端部は平坦に収めている 外面ハケメの可能性あり
677	SD01	埋 4 層	甕			(3.5)	7.5YR7/4	良	端部は平坦に収めている
678	SD01	埋 2 層	甕			(2.8)	10YR6/4	良	口径 15 センチ程度の小型品
679	SD01	埋 2 層	甕			(7.0)	7.5YR8/6	良	外面が摩耗 内面に指頭圧痕あり 一部反転復元
680	SD01	埋 5 層	甕			(4.3)	7.5YR8/4	良	摩耗のため詳細不明 内底は指おさえ 反転復元
681	SD01	埋 5 層	甕			(6.8)	7.5YR7/6	良	内外面ともにハケメの可能性あり
682	SD01	埋 6 層	甕			(4.8)	7.5YR7/4	良	外面ハケメの可能性あり 外面赤彩の可能性あり
683	SD01	埋 6 層	甕			(6.0)	7.5YR6/4	良	端部は尖っている 内面剥離していて器形不明
684	SD01	埋 6 層	甕			(4.5)	10YR7/4	良	摩耗している 反転復元
685	SD01	埋 6 層	甕		(12.4)	(7.7)	5YR5/8	良	端部は丸い 焼きがあまい 胎土が粗い 台部 1/2 残存で反転復元
686	SD01	埋 6 層	甕		(12.8)	(7.7)	10YR7/4	良	内外底は指おさえ 外底にハケメあり? 反転復元
687	SD01	埋 6 層	甕		12.6	(6.1)	5YR6/8	良	端部は丸い 胎土は粗い 反転復元
688	SD01	埋 6 層	甕		17.5	(9.0)	5YR6/8	良	胎土が粗い 焼きムラあり 端部は平坦に収めている
689	SD01	埋 6 層	甕		(14.6)	(5.9)	5YR6/6	良	胎土が粗い 焼きがあまい 端部は平坦に収めている 内底摩耗しているが指おさえ 外面ほとんど剥落している
690	SD01	埋 6 層	甕		12.4	(6.4)	5YR5/4	良	端部は丸い 胎土が粗い
691	SD01	埋 6 層	甕		13.0	(4.9)	7.5YR7/8	良	端部は丸い 焼きがあまい 反転復元
692	SD01	埋 6 層	甕		(13.0)	(5.9)	7.5YR7/8	良	内底指おさえあり 外底は工具ナデ 反転復元
693	SD01	埋 6 層	甕		(10.0)	(6.7)	7.5YR7/6	良	外面被熱 内面は工具ナデか? 反転復元
694	SD01	埋 5 層	甕		(11.4)	(6.3)	5YR7/6	良	端部は丸い 焼きがあまい 胎土が粗い 反転復元
695	SD01	埋 5 層	甕		(11.0)	(4.9)	7.5YR6/6	良	胎土が粗い 端部は平坦に収めている 全体の 1/2 残存で反転復元
696	SD01	埋 6 層	甕		(13.6)	(6.6)	10YR6/6	良	内底ハケメか工具ナデの可能性あり 反転復元
697	SD01	埋 5 層	甕		(12.2)	(5.9)	10YR6/4	良	甕台部 1/2 残存 端部は平坦に収めている 胎土が粗い
698	SD01	埋 6 層	甕		(13.6)	(5.1)	7.5YR5/6	良	端部は平坦に収めている 胎土が粗い 反転復元
700	SD01	埋 5 層	甕		(13.4)	(4.8)	7.5YR6/6	良	端部は丸い 焼きムラがある 内面全体的に黒変している 全体の 1/6 残存で反転復元
701	SD01	埋 5 層	甕		(12.5)	(6.3)	10YR7/6	良	内外底ともに薄く剥落している 反転復元
702	SD01	埋 5 層	甕		(8.8)	(5.6)	7.5YR7/6	良	端部は丸い 内面は黒く変色している
703	SD01	埋 6 層	甕		10.2	(3.9)	7.5YR6/6	良好	胎土が粗い 焼きがあまい 端部は平坦に収めている 甕台部下内側は砂粒が集中している
704	SD01	埋 6 層	甕		(11.8)	(5.9)	7.5YR7/8	良	端部は丸い 胎土が粗い 反転復元
705	SD01	埋 5 層	甕		(11.0)	(5.9)	7.5YR6/6	良	端部は丸い 焼きムラあり 胎土が粗い
706	SD01	埋 3 層	甕		10.7	(5.4)	5YR7/8	良	外底は指おさえの可能性あり 反転復元
707	SD01	埋 5 層	甕		(12.8)	(5.1)	10YR7/4	良	胎土が粗い 端部は平坦に収めている 内面にクモの巣状のハケメあり
708	SD01	埋 6 層	甕		11.4	(4.1)	7.5YR6/6	良	外面ハケメの可能性あり
709	SD01	埋 5 層	甕		(10.6)	(4.8)	10YR7/4	良	胎土が粗い 内外面ともに黒く変色している所あり 反転復元
710	SD01	埋 5 層	甕		(8.6)	(3.1)	10YR7/6	良	内面は全体的に黒く変色している 端部は丸い 胎土が粗い 外面焼きムラあり 反転復元
711	SD01	埋 6 層	甕		(10.4)	(5.4)	10YR6/6	良	内外底ともに軽い指おさえ 外底やや黒色化 反転復元
712	SD01	埋 6 層	甕		(13.0)	(6.2)	10YR7/4	良	胎土が粗い 端部は丸い 器表が少しボコボコしている 反転復元
713	SD01	埋 6 層	器台		(12.2)	(9.2)	7.5YR6/6	良	内・外面ともに二次焼成を受けている 穿孔あり
714	SD01	埋 5 層	支脚	7.0	9.1	7.9	5YR5/6	良	摩耗が著しい 内底ハケメの可能性あり 反転復元
715	SD01	埋 6 層	甕		(12.0)	(4.0)	7.5YR7/4	良	端部は丸い 胎土が粗い 反転復元
716	SD01	埋 6 層	甕		(10.1)	(4.0)	7.5YR7/8	良	端部は丸い 反転復元
717	SD01	埋 6 層	甕		(12.6)	(4.8)	7.5YR7/6	良	端部は丸い 胎土が粗い 甕台部のみ 1/2 残存を反転復元
718	SD01	埋 5 層	甕		(9.8)	(4.0)	7.5YR7/6	良	摩耗が著しい 端部は平坦に収めている 被熱痕あり 反転復元
719	SD01	埋 6 層	甕		(10.6)	(2.8)	7.5YR7/6	良	須恵器 反転復元
721	SD01	埋 5 層	坏	(12.9)	(7.5)	(4.6)	5Y5/1	良	小片のため詳細不明 須恵器
722	SD01	埋 6 層	甕			(2.9)	7.5Y6/1	良	外底は回転ヘラ切りか? 土師器 反転復元
723	SD01	埋 3・4 層	坏		(8.0)	(1.2)	7.5YR7/4	良	

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
724	SD01	埋 3・4 層	皿	(9.5)	(7.8)	1.0	7.5YR8/4	良	摩耗のため詳細不明 土師器 反転復元
725	SD01	埋 3・4 層	坏	(8.0)	(6.4)	1.4	7.5YR7/4	良	赤彩? 回転ヘラ切りと思われる 土師器 反転復元
726	SD01	埋 1 層	皿	(7.8)	(5.8)	0.9	10YR7/4	良	板状圧痕あり 反転復元 土師器
727	SD01	埋 3・4 層	坏		(7.5)	(1.2)	2.5Y4/1	良	糸切り難しの可能性もあるが摩耗のため詳細不明 土師器 反転復元
728	SD01	埋 3・4 層	坏			(1.4)	10YR7/4	良	底形は歪である 小型品 外底ヘラ先痕?あり 土師器
729	SD03	埋土一括	甕	(18.8)		(6.1)	7.5YR7/8	良	端部は平坦に収めている 胎土が粗い 口縁部に工具痕あり 反転復元
730	SD03	埋土一括	甕		(11.2)	(4.8)	5YR6/6	良	端部は丸い・胎土は細かく丁寧なナデが施されている 反転復元
731	SD03	埋 1 層	脚台		(11.2)	(3.9)	7.5YR6/4	良	器壁は薄い 外面ハケメの可能性あり 脚付の鉢か? 反転復元
732	SD05	埋 5 層	ミニチュア 土器	4.8	1.7	3.0	10YR6/6	良	底部の外周に粘土のバリが残る 内面に指頭圧あり
733	SD05	埋 5a 層	壺		2.3	(6.4)	7.5YR7/6	良好	外面に櫛描直線文あり 黒斑 - 黒色 10YR2/1 内面に指頭圧痕あり
734	SD05	埋 5 層	壺	(13.0)		(9.1)	7.5YR7/6	良好	口縁端部は平坦に収められている 反転復元
735	SD06	埋土一括	鉢	(22.0)		(2.6)	10YR6/3	良	端部は沈線が入る 外面のハケメはナデ消されている 反転復元
736	SD06	埋土一括	高坏			(2.3)	7.5YR8/4	良	口径 30 センチ程度の大型品 端部は平坦に収めている
737	SD06	埋土一括	器台			(5.5)	10YR7/2	良	外面はタテ方向のハケメあり
738	SD06	埋土一括	鉢			(7.8)	10YR6/2	良	外面ハケメの可能性あり
739	SD06	埋土一括	甕			(5.5)	7.5YR8/3	良	内外底ともに指おさえ 大型品 反転復元
740	SD06	埋 1 層	器台		(12.2)	(4.6)	10YR7/3	良	端部は凹んで沈線の様になっている 反転復元
741	SD06	埋土一括	丸形染付碗	12.0	4.8	5.7	2.5GY8/1	良好	呉須が鈍く濁った色 内外面に施釉あり 文様は内面に五弁花文の不明瞭な文様及び二重圏線がみられる 肥前系陶磁器
742	SD06	埋土一括	壺	(28.6)		(8.8)	10YR7/2	良	外面に刻目あり 内面タテ方向にナデあり 反転復元
743	SD06	埋土一括	甕		(10.2)	(8.9)	7.5YR7/3	良	内面に指ナデあり 端部は指でつまんで調整した可能性あり 反転復元
744	SD06	埋土一括	碗			(1.7)	N2/	良	端部は尖っている 須恵器 反転復元
745	SD07	埋土一括	甕			(4.8)	7.5YR8/3	良	最小径 4 センチ程度 小型品
749	SD12	埋土一括	皿		(7.4)	(1.1)	7.5YR6/4	良	底部は歪である 土師器 反転復元
750	SK01	埋土一括	鉢		(17.1)	(2.1)	7.5Y7/1	良	内底の櫛目は図示できない 播鉢 須恵器
751	SK02	埋土一括	鉢			(4.8)	5Y6/1	良	端部は平坦に収めている 播鉢か火鉢 須恵器
752	SK02	埋土一括	甕			(5.0)	5Y7/1	良	自然釉 須恵器
753	SK02	埋土一括	壺			(2.9)	7.5YR5/3	良	摩耗著しく詳細不明 須恵器
754	SK02	埋土一括	鉢			(1.5)	10R5/4	良	釉がやや縮んだ感じになっている 口縁下に切り込みあり 釉 (暗赤灰 10R3/1) 鉄釉 陶器
755	SK02	埋土一括	壺			(7.2)	2.5Y6/2	良	外面細かい貫入あり 釉 (淡黄 2.5Y8/4) 磁器 反転復元
756	SK03	埋土一括	鉢			(2.3)	10YR7/4	良	口縁部つまんでいる 端部は尖っている
757	SK03	埋土一括	甕	(16.0)		(6.8)	7.5YR7/4	良	端部は平坦に収めている 口縁外面もタタキの可能性あり 反転復元
758	SK03	埋土一括	壺		(8.4)	(4.5)	10YR7/3	良	内底は指おさえ 内面はハケメあり? 反転復元
759	SK03	埋 4 層	器台			(4.1)	7.5YR7/4	良	端部は平坦に収めている 底径 12 センチ程度の中型品
760	SK03	埋土一括	甕	(22.5)		(5.3)	10YR7/3	良	内面に指頭痕あり 外面ハケメか? 端部は平坦に収めている 反転復元
761	SK03	埋土一括	甕		(11.3)	(6.6)	7.5YR8/6	良	器面は摩耗している 反転復元
762	SK04	埋土一括	鉢			(2.6)	7.5YR7/4	良	頸部でわずかに屈曲すると思われる
763	SK04	埋土一括	鉢			(2.2)	7.5YR7/4	良	口径 18 センチ程度の小型品
764	SK04	埋土一括	壺	(12.4)		(4.9)	10YR8/3	良	端部は平坦に収められている 内面はハケメかと思われる 反転復元
765	SK04	埋 1 層	壺	(18.4)		(3.6)	10YR7/4	良	端部は平坦に収めている 摩耗のため不明であるがハケメの可能性あり 反転復元
766	SK04	埋土一括	高坏			(4.9)	10YR7/3	良	外面黒斑あり 端部は平坦に収めている 底径 15 センチ程度の小型品
767	SK04	埋土一括	壺			(4.2)	7.5YR7/6	良	摩耗が著しく調整不明瞭 内面工具痕らしきものあり 反転復元
768	SK04	埋土一括	甕	(21.0)		(3.0)	10YR6/3	良	端部は平坦に収めている 端部は厚く頸部は急に薄い 外面スス?付着 反転復元
770	SK12	埋 1 層	鉢	10.2	3.3	6.7	7.5YR7/6	良好	口縁が直立している
771	SK12	埋 1 層	台付鉢			(3.4)	10YR5/2	良好	内底は指おさえ ナデは丁寧である 反転復元

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
772	SK12	埋1層	鉢			(2.4)	10YR7/3	良	口径18センチ程度の中型品
773	SK12	埋1層	壺			(2.7)	5YR7/6	良	端部は凹んでいる 摩耗している
774	SK12	埋土一括	壺			(2.5)	7.5YR7/6	良	端部は平坦に収めている 径20センチ程度の中型品
775	SK12	埋1層	壺			(3.6)	10YR5/6	良	端部は尖っている 外面赤彩
776	SK12	埋1層	甕		10.8	(5.5)	7.5YR7/6	良好	丁寧なナデ 内面に指頭圧痕あり
777	SK12	埋土一括	高坏			(2.9)	10YR8/3	良	端部は平坦に収めている
778	SK12	埋1層	甕			(2.7)	7.5YR7/4	良	端部は尖っている
779	SK12	埋1層	高坏	12.5		(3.8)	7.5YR6/6	良	脚部欠損 反転復元
780	SK12	埋1層	高坏			(8.6)	7.5YR7/4	良	脚内のナデは強い 反転復元
781	SK12	埋土一括	甕			(3.5)	7.5YR7/6	良	端部は凹んで沈線の様になっている
782	SK12	埋土一括	壺			(1.8)	7.5YR7/5	良	底径10センチ程度の中型品
783	SK12	埋1層	甕		(11.6)	(4.2)	7.5YR7/8	良	端部は丸い 胎土が粗い 反転復元
784	SK14	埋1層	高坏	(32.2)		(6.6)	7.5YR6/8	良	胎土が粗い 摩耗が著しい 内外器面ともに黒く変色している部分あり 反転復元
785	SK14	埋1層	高坏	(11.1)		(7.5)	7.5YR7/8	良	全体的に摩耗が著しい 反転復元
786	SK14	埋1層	壺	(16.2)		(3.0)	7.5YR6/8	良	胎土が粗い 端部は平坦に収めている 反転復元
787	SK14	埋1層	甕	(10.0)		(3.2)	5YR5/8	良	端部は丸い 胎土が粗い 全体的に摩耗が著しい 全体の1/3残存で反転復元
788	SK14	埋1層	甕		10.3	(4.7)	7.5YR6/8	良	端部は丸い 胎土が粗い 全体的に摩耗が著しく黒く変色している
789	SK15	埋1層	器台	(13.0)		(7.2)	7.5YR6/6	良	外器面全体にタタキあり 端部は平坦に収めている 内器面は摩耗が著しい 反転復元
790	SK15	埋1層	甕	(19.2)		(9.0)	7.5YR7/8	良	端部は平坦に収めている 胎土が粗い 内器面は摩耗が著しい 反転復元
791	SK15	埋1層	甕	(12.0)		(5.0)	5YR6/8	良	全体的に摩耗が著しい 端部は平坦に収めている 胎土が粗い 反転復元
792	SK07	埋2層	甗			(4.1)	10YR7/3	良	把手は貼付ではなく差し込みではないか? 下半は被熱か? 黒化している 土師器
793	SK07	埋2層	鉢	(28.0)		(7.5)	10Y4/1	良	外面の調整は粗い 播鉢 須恵器
794	SK07	埋2層	甕			(5.0)	10Y6/1	良	破片のため詳細不明 須恵器
795	SK07	埋2層	碗	(14.6)		(1.1)	7.5Y7/1	良	青磁・推定金光寺出土一群(14C中頃)類似 釉(灰白5Y7/1) 磁器
796	SK07	埋2層	小坏		(3.2)	(1.6)	N8/	良	畳付は釉のふき取り 内面側にわずかに砂粒付着 釉は薄い 釉(灰白5GY8/1) 磁器
797	SF03	5e層	高坏			(6.4)	7.5YR6/4	良	内面に絞り痕あり 内底指おさえあり 裾部急に開く 反転復元
798	SF03	5e層	高坏			(8.2)	5YR7/6	良	内面に強い絞り痕あり 内底は丁寧なナデ
799	SF03	5e層	壺			(6.6)	7.5YR8/3	良	口縁部に刻目あり 大型品
800	SF03	埋土一括	甕			(5.3)	7.5YR6/2	良	内外ともに底部指おさえ 丁寧なナデ 反転復元
801	SF03	5e層	鍋(把手)			(2.5)	7.5YR7/3	良	把手上面は丁寧なナデ 下面は指あとあり 瓦器
802	SF03	5e層	鉢			(5.5)	7.5YR6/4	良	鉢の口縁部 内面にスス付着あり 瓦器
803	SF03	5e層	鉢			(4.8)	7.5YR5/2	良	鉢の口縁部 瓦器
804	SF03	基礎面上	鉢			(1.4)	7.5Y4/1	良	瓦器
805	SF03	5e層	甕		(9.5)	(2.6)	10YR7/3	良	低い台部 端部のナデが強く凹んでいる 反転復元
806	SF03	6層	土瓶		(7.2)	(6.3)	5YR8/1	良	内・外面に施釉あり 足あり 陶器
807	SF03	硬化面上	鉢			(2.6)	5Y5/1	良	内面は欠損か? 瓦器
808	SF03	5e層	鉢			(3.1)	2.5YR7/6	良	内面にスス?付着 外面被熱? 瓦器
809	SF03	埋土一括	器台			(2.7)	7.5YR5/1	良	内面は工具ナデか? 大型品 瓦器
810	SF03	埋土一括	皿			(1.2)	7.5YR6/1	良	小型品 須恵器
811	SF03	基礎面上	碗			(1.2)	10YR8/4	良	内面黒色釉貫入あり 高台付と思われる。 磁器
812	SF03	5e層	鉢			(3.7)	10R6/6	良	白泥ハケメあり 三島手鉢 釉は劣化している 内面は化粧土+釉 陶器
813	西区	9層	器台	(10.2)		(13.0)	7.5YR6/3	良	端部は平坦に収めている 内面のハケメは粗い 反転復元
814	西区	9層	壺	(21.0)		(3.3)	7.5YR7/6	良	端部は下に凹んでいて平坦に収めている 反転復元
815	西区	客4層	甕			(1.7)	2.5Y5/1	良	端部は丸い 外面黒斑か?
816	西区	2層	壺		(5.8)	(4.3)	7.5YR7/4	良	外面黒斑あり 内底ナデの後底部までハケメあり 外底ハケメの後ナデか? 反転復元
817	西区	13層	壺		(6.4)	(1.9)	10YR8/3	良	外底は丁寧なナデ 内面に指頭痕あり 反転復元

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
818	西区	客4層	壺		(5.0)	(3.0)	10YR7/3	良	内底は指おさえ 反転復元
819	西区		甕			(4.8)	5YR5/4	良	摩耗が著しい 表面ほぼ剥落している 反転復元
820	西区	9層	甕	(13.2)	(5.8)	7.5YR7/4		良	内底は指おさえ 外は丁寧なナデ 端部は丸い
821	西区	2層	焙烙			(4.0)	10YR6/3	良	先端部分欠損か? 内面横方向のナデ 土師器
823	西区	客土一括	鉢			(3.1)	N6/	良	大型品 搦鉢 内面櫛目あり 須恵器
824	西区	客4層	鉢			(2.8)	N6/	良	破片のため詳細不明 須恵器
825	I3	4層	甕	(21.6)		(19.8)	7.5YR7/3	良	器壁は薄い 端部は平坦に収めている 外面黒斑あり 摩耗している 反転復元
826	トレンチ		甕	(28.4)		(2.1)	10YR8/4	良好	スリップか? 全体の1/8 残存で反転復元
827	H3	2層	壺			(4.0)	10YR8/4	良	摩耗が著しい 内面は指頭痕ありか?
828	試掘トレンチ		焙烙	(21.9)		3.5	10YR5/4	良	内面は黒く変色している 胎土が赤っぽい色をしている 全体の1/8 残存で反転復元
829	トレンチ		台付鉢		(7.6)	(2.7)	7.5YR7/6	良	端部は尖っている 穿孔は外から内に現在は1個確認される 反転復元
831	試掘トレンチ		皿			(0.5)	N5/	良	外面自然釉? 須恵器
832		攪乱	塊			(2.3)	10Y5/1	良	小片のため詳細不明 須恵器
835	T20	客1層	台付鉢			(6.2)	7.5YR6/6	良	タンブラー形 台部~胴部まで1/6 残存 反転復元
836	T19	客2層	鉢	(14.4)		(3.8)	7.5YR6/8	良好	胎土が粗い 全体の1/8 残存で反転復元
837	Q16	客2層	高坏			(2.4)	5Y4/1	良	坏部は調整痕があるが摩耗のため詳細不明
838	Q17	攪乱	高坏			(2.0)	7.5YR6/4	良	摩耗している
839	Q17	攪乱	高坏			(3.0)	10YR7/6	良	摩耗している
840	V22	3層	ミニチュア土器	(3.1)		4.1	7.5YR7/6	良好	角閃石が目立つ 反転復元
841	T19	客1層	高坏			(2.3)	10YR6/3	良	摩耗している 口径28センチ程度の大型品
842	Q17	攪乱	高坏			(2.3)	7.5YR6/4	良	端部の厚みは均一ではない
843	W23	3層	高坏			(6.3)	2.5YR8/4	良	内面に絞り痕あり 外面の摩耗著しい 穿孔は外から内へあいている
844	P16	攪乱	高坏			(5.7)	5YR7/4	良	内面工具痕らしきものあり
845	Q17	攪乱	高坏	(26.0)		(4.0)	7.5YR7/4	良	端部内面側は欠損している 摩耗のため調整不明瞭 反転復元
846	Q17	客2層	高坏	(25.0)		(2.1)	2.5YR6/6	良	端部の厚みは均一ではない 坏部の接合面ははっきりしない 口径25センチ程度の中型品 反転復元
847	P16	客2層	台付鉢			(2.3)	10YR8/4	良	小型品 外底黒色凹む 内底は丁寧なナデ
848	P16	攪乱	台付鉢			(2.8)	7.5YR8/6	良	外底は指おさえか? 反転復元
849	W22	包3層	高坏			(8.3)	10YR6/4	良	内面は絞り痕あり 内底強い指おさえ痕あり
850	Q16	客2層	高坏		(10.2)	(9.4)	7.5YR7/8	良	外反の脚部1/3 残存 端部は丸い 胎土が粗い
851	R18	客2層	壺	(14.0)		(4.6)	7.5YR7/4	良	外面に刻目と指頭痕あり 端部の刻目は欠損している 端部はつまんでいる?
852	R16	客2層	壺			(5.2)	10YR7/4	良	頸径10cm程度の小型品
853	Q17	攪乱	壺			(2.9)	10YR8/4	良	端部は尖っている 頸部のナデは強い 端部はやや黒い 口径16センチ程度の小型品
854	R16	客1層	壺			(1.5)	7.5YR6/6	良	外面調整痕あり 口径12センチ程度の小型品
855	T20	客1層	壺			(2.7)	7.5YR7/6	良	外面に刺突文あり 櫛状工具で刺突をしていると思われる 摩耗している
856	T19	2層	壺			(7.9)	7.5YR8/6	良	底部において還元焼成が認められる 反転復元
857	Q16	客2層	壺			(4.2)	7.5YR6/3	良	突帯上のナデは強い
858	Q16	客1層	壺			(2.8)	7.5YR7/6	良	器壁は薄い
859	R17	客1層	壺			(4.1)	5YR7/8	良	外面に櫛描文の文様あり 内面は指頭痕あり
860	Q16	客2層	壺		(9.1)	(3.1)	10YR7/6	良	底部近くは部分的に厚さが異なる 反転復元
861	P16	客2層	壺		(8.2)	(2.7)	7.5YR7/4	良	摩耗が著しい 底部は丸い 反転復元
862	Q17	攪乱	壺			(2.8)	10YR6/4	良	外面黒斑か? 内面工具かハケの調整
863	P15	客2層	壺			(2.2)	10YR7/6	良	摩耗している
864	R18	客2層	甕	(18.0)		(5.0)	7.5YR7/6	良	端部は平坦に収めている 反転復元
865	T21	客2層	甕	(15.8)		(4.8)	10YR7/6	良好	全体の1/8 残存で反転復元
866	R16	3層	壺		(5.0)	(8.0)	10YR7/4	良	内底は指おさえか? 外面は丁寧なナデ 反転復元
867	P16	攪乱	甕	(17.0)		(5.2)	7.5YR7/6	良	端部は平坦に収めている 内面口縁部もハケの可能性あり 反転復元
868	Q16	客2層	壺		(5.8)	(5.0)	2.5YR6/6	良	外面かなり被熱している 内面わずかに指おさえあり 反転復元

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
869	Q17	客2層	壺		(5.3)	(3.6)	5YR6/4	良	内底にわずかな指おさえ痕あり 外底半分黒色 被熱か？ 反転復元
870	Q17	客2層	甕			(6.8)	10YR7/3	良	内面頸部に指おさえ様の痕跡か？ 頸径16センチ程度の中型品
871	Q17	客1層	甕			(4.6)	10YR7/6	良	端部は平坦に収めている 外面ナデか？
872	P16	攪乱	甕			(4.2)	10YR7/6	良	端部は丸い 口径16センチ程度の小型品
873	R16	客2層	甕			(2.7)	10YR6/4	良	端部は平坦に収めている 口径20センチ程度の中型品？
874	P16	攪乱	甕			(3.0)	10YR7/6	良	内底は指おさえ
875	P16	攪乱	甕			(3.0)	7.5YR7/6	良	歪である 一部反転復元
876	Q16	客2層	甕			(2.2)	10YR7/4	良	端部は平坦に収めている 外底のナデは丁寧である 底径10センチ程度
877	Q16	客2層	甕	(11.0)	(2.5)	2.5YR6/6		良	外面の被熱が著しい 端部は平坦に収めている 摩耗が著しい 反転復元
878	P16	攪乱	甕	(10.5)	(3.5)	7.5YR7/4		良	外面被熱痕あり 反転復元
879	T20	客2層	甕	(11.0)	(4.0)	10YR7/6		良	端部はやや歪である 反転復元
880	P16	攪乱	甕			(1.9)	7.5YR8/6	良	摩耗している
881	W23	客1層	坏	(13.4)		4.2	7.5Y7/1	良	底部付着物あり 端部内面は重ね焼き痕あり 須恵器 反転復元
882	V23	客2層	鉢			(4.7)	5Y5/1	良	内面に楯目あり 播鉢 須恵器
883	V23	客1層	碗			(3.2)	5Y8/1	良	貫入あり 釉はすでに失透している 施釉(5GY6/1)オリブ灰 磁器
884		客2層	高坏			(3.2)	7.5YR7/6	良	摩耗が著しい 口径28センチ程度の大型品
886	Y30	表土	鉢	(14.4)		4.6	10YR7/4	良	口縁やや歪んでいる 反転復元
887	V28	4層	鉢			(1.6)	2.5Y3/1	良	端部は平坦に収めている
888	V30	4層	高坏			(2.6)	10YR7/4	良	外面に黒斑あり 摩耗が著しい
889	V28	4層	高坏			(3.2)	7.5YR7/6	良	端部は尖っている 口径19センチ程度の中型品
890	W27	3層	高坏			(2.7)	10YR8/4	良	端部は尖っている 口径30センチ程度の大型品 外面黒斑あり
891	X28	3層	器台			(3.7)	N3/	良	底径6センチ程度の小型品
892	Y30	表土	壺	(14.4)		(4.2)	10YR7/2	良	器壁はごく薄い 内面はハケメの可能性あり 反転復元
893	W27	客土一括	壺	(18.0)		(4.5)	10YR7/4	良	端部は平坦に収めている 反転復元
894	V28	3層	壺			(4.1)	10YR7/3	良	端部は平坦に収めている
895	W27	3層	壺			(3.2)	7.5YR8/4	良	口縁端部に刻目あり 大型品
896	U29	4層	甕	(14.0)		(18.4)	7.5YR8/3	良	口縁端部は平坦に収められている 反転復元
897	V29	4層	壺	(13.6)		(5.6)	10YR7/4	良	端部は平坦に収めている 外面赤彩か？ 反転復元
898	V28	3層	壺			(4.2)	10YR7/3	良	口縁端部に刻目あり 刻目はしっかりしている 外面赤彩か？
899	W30	4層	壺	(13.6)		(7.0)	10YR6/3	良	端部は外側にやや突出している 外面に黒斑？スス？付着あり 反転復元
900	V29	3層	壺			(2.3)	7.5YR7/6	良	突帯の形にしまりが無い
901	V27	3層	壺			(5.0)	10YR7/3	良	肩部に扁平なボタン状の装飾貼付 その上部に押引状の楯描沈線文 外のハケメは細かく丁寧 内のハケメは粗い
902	W29	4層	壺			(10.3)	10YR7/4	良	内頸はハケメの可能性あり 外面に刻目あり 外面に黒斑あり 反転復元
903	W29	4層	壺			(4.9)	10YR7/4	良	外面に刻目あるが摩耗していて明確ではない 反転復元
904	V27	4層	壺			(3.8)	7.5YR7/4	良	内面指おさえあり 頸径12センチ程度の大型品 外面に楯形文あり
905	W28	4層	壺			(3.7)	2.5Y7/3	良	外面に刻目文あり
906	V27	3層	壺	(6.0)	(2.5)	7.5YR8/4		良	外底ナデか？ 中央部分丸く黒色化している 反転復元
907	b32	3層	壺	(6.0)	(3.1)	7.5YR7/6		良	外面特に摩耗している 内面ハケメの可能性あり 反転復元
908	b31	2層	壺	(8.0)	(3.1)	10YR7/4		良	内底軽い指おさえか？ 砂粒やや多めである 反転復元
909	b31	3層	壺			(3.8)	10YR5/2	良	外面刻目あり 内面はほとんど剥落している
910	X27	3層	壺			(4.1)	10YR7/4	良	外面楯描文あり 内面に指頭痕あり 外面赤彩あり
911	Z30	3層	甕	(22.0)	(3.4)	10YR6/3		良	摩耗著しい 内面肩部は指おさえか？ 反転復元
912	V30	4層	甕			(3.9)	10YR7/6	良	外面に刻目あり 突帯は台形に近い断面である 摩耗している
913	X30	4層	甕			(3.5)	10YR8/4	良	外面刻目あり
914	V30	4層	壺			(2.5)	10YR7/3	良	外面に楯描文を施している 外面の赤は退色している
915		4層	壺			(7.0)	5YR7/6	良	内面は剥離している 口径17センチ程度の大型品 端部は凹んでいる

RP 番号	遺構	層	形式	口径	底径	器高	色調 (外)	焼成	備考
916	W27	3層	甕			(5.5)	7.5YR7/6	良	外面に押捺あり
917	W28	4層	甕			(6.1)	10YR6/2	良	外面に刻目と条痕あり 内面も条痕あり
918	W30	4層	甕		(12.0)	(2.8)	10YR8/3	良	外底の圧痕の詳細は不明 反転復元
919	W30	4層	甕		(8.2)	(3.2)	7.5YR6/4	良	内外底ともに丁寧なナデ 反転復元
920	Y30	表土	甕		(10.2)	(5.0)	10YR7/4	良	内底は指おさえ 外面はハケメの可能性あり 反転復元
921	X32	4層	甕		10.5	(5.2)	7.5YR6/8	良好	胎土が粗い 一部反転復元
922	Y30	表土	甕		(12.0)	(5.0)	10YR6/2	良	端部は平坦に収めている 内底のハケメはクモの巣状 反転復元
923	V29	4層	台付鉢		(7.6)	(3.8)	10YR6/4	良	内面のナデは強い 端部は平坦で外に突出する 反転復元
925	V29	4層	鉢			(8.8)	10YR7/3	良	外面に刻目あり 突帯貼付後に刻目を施す 内面条痕の後口縁下のみナデ 縄紋
926	V28	4層	鉢			(3.6)	5YR5/2	良	外面口縁端部直下は沈線か？ 赤彩？ 縄紋
927	W28	4層	鉢			(4.1)	10YR6/6	良	端部はゆがんでいる 外面に条痕あり 縄紋
928	Y33	3層	鉢			(3.9)	2.5YR6/6	良	外面に山形押型文あり 内面に指頭痕あり 縄紋早期
929	Z29	3層	坏		(9.4)	(2.1)	5Y7/1	良	外底はヘラ切り離しの痕跡がわずかに見える 内底は不定方向のナデ 須恵器 反転復元
930	V29	3層	坏	(14.2)		(3.5)	7.5Y7/1	良	口縁端部周辺自然釉わずかにあり 須恵器 反転復元
931	W27	3層	蓋			(1.4)	5Y6/1	良	外面に自然釉あり 口径16センチ程度 須恵器
932		表土	高坏			(3.2)	10YR7/4	良	端部は尖っている 外面に黒斑あり 口径24センチ程度の大型品
933		表土	高坏			(2.2)	10YR7/4	良	内面に一部赤彩痕あり 外面に黒斑あり 口径25センチ程度の大型品
934		表土	高坏			(2.0)	N3/	良	端部は尖っている 黒斑あり
935		表土	壺			(3.5)	10YR7/4	良	突帯の断面は三角形である
936		表土	壺			(1.8)	7.5YR7/6	良	外面に櫛描文あり 文様不鮮明
937		表土	壺			(3.9)	10YR7/4	良	端部は凹んでいる 口径25センチ程度の大型品
938		客土一括	甕		(9.9)	(7.3)	5YR7/6	良	端部は平坦に収めている 反転復元
939		表土	壺		(9.4)	(1.9)	10YR7/6	良	摩耗が著しく調整不明 外底剥落部分もあるが平坦である
940		表土	甕		(9.6)	(3.2)	10YR6/6	良	胎土が粗い 反転復元
941		表土	壺			(5.6)	2.5YR7/6	良	外面被熱 底径8センチ程度の大型品
942		表土	甕			(4.2)	10YR7/4	良	外面黒斑あり 突帯の断面は四角
943		表土	壺			(6.6)	5YR6/6	良	外面黒斑あり？ 内面指頭痕あり？ 端部は丸い 頸径10センチ程度の小型品
944		表土	坏		(10.0)	(1.3)	7.5YR7/6	良	外底糸切り痕あり 静止糸切りか？ 土師器 反転復元

RP 番号	遺構	層	器種	残存長	残存幅	厚み	器高	重さ	色調 (外)	焼成	備考
720	SD01	埋5層	土匙				5.2		にぶい黄橙	良	面取り風のナデ
747	SD10	埋土	土製品				3.0		浅黄橙	良	人形
748	SD10	埋土	土製品				4.8		浅黄橙	良	人形
769	SK09	埋土	土錘	2.8				3.4	にぶい黄褐	良	欠損品で砂粒が目立つ・粗い作りである
822	西区	客4層	土製品	1.8	2.4				にぶい赤褐	良	先端は平坦面あり・面取り風のナデ
830	試掘トレンチ	攪乱	土錘	3.2	1.0	1.0		2.4	橙	良	赤彩
833		攪乱	土製品	1.8	3.3				浅黄橙	良	端部は平坦に近い・面取り風のナデ
834		攪乱	土玉	2.3	2.1	2.2		12	浅黄橙	良	外面摩耗が著しい・下面も小孔あり
885		包1層	土錘	2.8	1.1			2.4	橙	良	欠損品・丁寧にナデられている・赤化？している
924	V29	4層	匙	7.3	3.0	2.0			にぶい黄橙	良	ナデ調整で指跡残る・片側面黒斑あり・粘土版を丸めてある

番号	遺構	層	器種	残存長	残存幅	厚み	重さ	時期	備考
746	SD07	埋土一括	平瓦	7.1	5.1	1.5	52.7	古代	表に縄目あり

番号	遺構	層	色調	最大径 mm	最大厚 mm	孔径 mm	重さ	備考
1	SI38	埋1層	紺	7	4	2.5	0.2	ガラス玉

RQ 番号	遺構	層	器種	石材	長さ	幅	厚み	重さ	備考
958	SI01	埋 6 層	砥石	輝石安山岩	7.7	7.0	4.5	365.9	荒とぎとして使っている・2面使用する・他は欠損している・ザラザラする
959	SI01	埋 6 層	その他	花崗岩	6.5	4.2	2.8	82.2	硬い
960	SI01	埋 6 層	その他	安山岩	4.6	5.8	2.9	127.1	破損が著しい
961	SI01	埋 6 層	その他	輝石安山岩	7.4	5.1	3.5	184.9	全体的にツルツルしている・丸みのある石
962	SI01	埋 6 層	その他	安山岩	9.8	9.5	5.8	755.2	右側面は使用したため丸い跡あり・左側面は使用したため平らになっている
963	SI01	埋 6 層	その他	結晶質石灰岩	6.6	3.2	4.2	114.9	使用面は見つけられない
964	SI04	埋 1 層	石ノミ	緑色片岩	9.05	2.2	1.55	25.8	湾曲した剥片を素材として刃部は丁寧に仕上げられる
965	SI04		石庖丁	頁岩	4	9.1	0.6	46.3	磨製石庖丁
966	SI05	埋 5 層	台石	輝石安山岩	9.9	10.5	5.8	837.4	使用面は確認できない
967	SI05	埋 5 層	石皿片	安山岩	4.9	6.2	4.5	252.4	表・裏面はツルツルしていて擦痕あり・側面はザラザラポコポコしている
968	SI09	埋土一括	その他	安山岩	7.5	5.8	4.0	240.4	全面がツルツルしている
969	SI12	埋 2 層	その他	緑泥片岩	11.6	5.4	3.3	260.0	打った痕も擦った痕も見られない・何に使用したかわからない
970	SI13	埋 1・2 層	砥石	輝石安山岩	14.2	11.4	7.8	1409.1	すわりが悪く何に使ったのかわからない・表裏面ともにノミなどの工具で削った痕が残っている
971	SI17	埋土一括	砥石	砂岩	5.0	2.9	1.6	50.8	表・裏・側面の4面で研いだ形跡あり
972	SI17	埋 3 層	磨石	砂岩	12.3	5.1	1.9	209.6	表面・裏面ともにつるつるしている・磨石として使った
973	SI17	埋 2 層	敲石	花崗岩	8.7	4.1	2.8	135.6	敲石として使用・1面だけに敲打痕あり
974	SI19	埋 2 層	その他	安山岩	8.9	6.9	3.6	279.4	擦目のような痕も見られるが、川の流に付いたものと思われる
975	SI20	埋 1・2 層	石庖丁	緑色片岩	4.9	9.7	0.85	40.2	全体の1/3強を欠損する・同縁部に研磨痕と見られる平坦面があるが、磨製庖丁の未成品と考えられる
976	SI20	埋 1 層	磨石	安山岩	9.9	6.4	4.3	317.6	全体の約1/3残存・上下面に擦痕あり
977	SI21	埋 2 層	その他	結晶岩	7.9	3.3	3.4	117.7	全体に角がなく丸みを帯びて、つるつるしている
978	SI21	埋 3 層	その他	片岩	6.8	2.5	0.7	29.0	下面に一部欠損あり・割れ面はタテ方向にスジが入ったようになっている
979	SI23	埋土一括	その他	砂岩	7.7	2.6	2.7	62.5	ザラザラした石・欠けが多く残りがよくわからない
980	SI29	埋 2 層	スクレイパー	安山岩	4.9	5.2	1.5	28.9	スクレイパーの未成品・途中まで打ちかいて加工した痕がある
981	SI29	埋 3 層	磨石	砂岩	13.8	9.7	6.1	936.2	全体的につるつるしている
982	SI29	埋 3 層	磨石	輝石安山岩	11.9	9.2	5.3	675.5	磨り面全体が赤みを帯びている・砥石か？
983	SI29	埋 3 層	磨石	安山岩	10.2	10.0	4.2	662.0	側面に剥離痕あり・上下面に擦ってる跡あり細かいので図示出来ない
984	SI29	埋 3 層	その他	花崗岩	12.6	8.2	4.0	537.2	
985	SI29		その他	蛇紋岩	8.0	4.9	3.4	177.2	
986	SI29	埋 3 層	その他	安山岩	6.8	7.8	5.6	477.6	全体的にザラザラしていてキメの粗い石・触ると手に粉のようなものが付着する
987	SI32	埋 2 層	石鎌	緑色片岩	3.6	10.7	0.75	34.1	表裏両面ともに節理面を残し先端部は折れ面を残す
988	SI36	埋 1 層	砥石	天草陶石	8.2	5.2	3.0	128.7	表・裏・左側面・手前の4面で研いだ形跡あり
989	SI36	埋土一括	その他	泥岩	10.7	3.5	2.0	139.5	表と側面は擦ってある・裏面は欠けが多い
990	SI38	埋 3 層	スクレイパー	泥岩	5.85	3.8	0.8	14.2	磨製石斧の転用品？エンドスクレイパー
991	SI38	埋 3 層	軽石	軽石	8.3	5.8	4.5	69.9	使われた痕は見られない
992	SI38	埋 1・2 層	その他	緑色片岩	10.4	2.9	1.7	79.5	表裏面ともに手触り良い・ツルツル・側面はすべて欠けている
993	SD01	埋 2 層	石庖丁	泥岩	3.7	4.3	0.7	18.2	磨製石庖丁
994	SD01	埋 5 層	石庖丁	泥質片岩	5.0	4.9	0.5	28.1	裏は剥離面のため図示できない・使っている途中に割れたのか？ 打製石庖丁
995	SD01	埋 2 層	石庖丁	片岩	5.1	7.2	0.6	34.6	石庖丁の未成品・刃部も見られるが砥いる時に割れたようである 打製石庖丁
996	SD01	埋 5 層	砥石	花崗岩	6.1	6.5	5.7	297.0	砥石の破片である・2面の使用痕ありで擦痕も見られる・自然面のゴツゴツした面あり
997	SD01	埋 3・4 層	砥石	天草陶石	6.8	3.0	2.1	50.9	5面使用している・裏面は半分ほど欠損している
998	SD01	埋 5 層	砥石	砂岩	10.8	7.1	5.6	557.5	4面砥面が確認できる・擦痕はあまり見られない
999	SD01	埋 5 層	鉄板石	輝石安山岩	10.6	10.7	5.7	930.9	3面使用したと思われる・側面は特に刃物を擦ったように削れている・刃の部分をつぶした時の削り痕・全体に赤色に色が付いていて鉄分が付着した可能性があるのか

RQ 番号	遺構	層	器種	石材	長さ	幅	厚み	重さ	備考
1000	SD01	埋 5 層	太型蛤刃石斧	無斑晶安山岩	6.3	7.4	3.9	232.9	表・裏ともに擦痕あり・全体的に摩滅している
1001	SD01	埋 2 層	石斧	砂岩	5.5	5.2	0.8	19.7	刃部に破損後に形成された剥離面が見られる・正面は丁寧な研磨が施され敲打痕はほとんど見られない
1002	SD01	埋 5 層	磨石	安山岩	11.5	3.8	4.8	291.7	両面磨り面あり・大部分欠損
1003	SD01	埋 5 層	石皿	安山岩	9.8	11.7	6.5	965.1	石皿の破片・全体の形はわからないが、表面は平らで擦痕が見られる・ツルツルはしていない
1004	SD01	埋 5 層	台石	安山岩	10.4	8.9	10.4	1185.6	長方形の形をした台石が使われている時に割れたようだ・擦痕もみられる
1005	SD01	埋 5 層	石棺材	輝石安山岩	24.9	21.3	3.2	2300.0	石棺の一部・表面の一部は敲打により平たくし使用している・裏面は大きく割って加工しており、工具で細かく成形してはいない
1006	SD01	埋 5 層	粒て石	輝石安山岩	4.9	4.4	5.0	109.6	敲击痕あり・鉱物を含むハンマー石か粒て石か？
1007	SD01	埋 5 層	その他	安山岩	4.7	4.9	4.4	92.2	使用面は見つけれられない・手触りはよく丸みを帯びた石
1008	SD01	埋 5 層	粒て石	花崗岩	5.2	3.4	3.4	79.2	小代山山頂
1009	SD01	埋 6 層	その他	緑色片岩	4.0	3.1	9.6	9.6	カケの多い石
1010	SD01	埋 5 層	その他	花崗岩	2.9	2.3	0.8	7.8	
1011	SD01	埋 5 層	石皿	安山岩	24.0	21.1	7.0	5300.0	敲击痕が見られる
1012	SD01	埋 5 層	台石	輝石安山岩	17.0	16.0	11.6	4800.0	台石として使用したのか・表面と下側面の 2 面が平らである
1013	SD05	埋 5 層	石庖丁	片岩	3.4	3.9	0.6	14.4	上面貼りつき 磨製石庖丁
1014	SD05	埋 5 層	石斧	安山岩	5.2	5.6	1.4	41.8	内外面ともに剥離面が見られる・使用したかはわからない・1/3 位残存・横にきれいに割れている
1015	SD05	埋 5 層	石斧	片岩	5.6	4.1	0.9	19.5	打製石斧の破片か？裏面は欠けている部分がある
1016	SD05	埋土一括	磨き石	凝灰岩	4.0	3.1	2.1	33.1	玉名あたりの地山からは出土しない石材・土器を磨いたと考えられる・ツルツルしている・4000 万年前とても古い
1017	SD05	埋 3 層	敲石	安山岩	13.0	4.6	3.4	223.7	敲打痕が見られる・使っているときに割れたものか？はっきりしない
1018	SD05	埋 4 層	台石	輝石安山岩	14.5	6.2	2.9	198.1	台石の破片・欠損が著しく本来の大きさは不明である・側面は自然面を大きく残す
1019	SD05	埋土一括	敲石	安山岩	14.5	6.4	4.5	583.0	敲石として使っているが、擦痕も見られるので磨石としても使っていた
1020	SD05	埋 4 層	石棺材	安山岩	12.1	8.6	2.0	287.5	石棺の一部か？
1021	SD05	埋 3 層	敲石	安山岩	9.8	5.3	4.8	289.0	使用面は確認出来ない・敲石か？表裏面ともに手触りが良い
1022	SD05	埋 4 層	敲石	輝石安山岩	5.2	5.7	2.9	122.7	敲打痕と思われる面が一面残っている・反対面の割れ面が意図的に欠いた様な割れ方をしている
1023	SD05	埋土一括	その他	安山岩	13.0	8.2	1.6	310.1	石棺の一部か？
1024	SD05	埋 3 層	その他	鉢巻石	2.2	2.6	2.0	12.5	剥離面 2 ヲ所あり・1 ヲ所は打点が顕著・原石
1025	SD06	埋土一括	棒状の石	花崗岩	10.4	3.5	2.3	130.9	何にしようとしていたか不明である
1026	SD06	埋土一括	墓石	砂岩	16.7	18.1	1.7	856.0	刻字は葉研彫り・墓石の表面が剥離したもの・18 世紀末～近代・(行証) 文字
1027	SK12	埋 1 層	その他	安山岩	9.4	6.0	2.2	168.3	全体的にザラザラしていて、キメの粗い石
1028	SF03	5e 層	砥石	赤色頁岩	5.3	5.2	1.0	52.0	鋭く研いだ痕がある
1029	SF03	5e 層	石斧	輝緑凝灰岩	13.1	4.6	2.8	197.4	両側縁に剥離面及び敲打痕が残る・刃部は使用による剥離面が形成される 磨製石斧
1030	SF03	基礎面上	墓石	凝灰岩	10.8	11.2	1.6	147.0	裏面はノミの加工痕あり・表面は自然風化面・用途不明・江戸中期以降～
1031		攪乱	石斧	砂岩	3.9	4.2	0.6	10.8	打痕と擦痕があるので使用したと思われるが残りが少ない(破片) 磨製石斧
1032	T20	客 2 層	石庖丁	泥岩	4.4	7.2	0.6	29.7	打製石庖丁
1033	U2	客 2 層	石庖丁	緑色片岩	4.8	6.4	0.9	35.3	剥片を素材とし腹面は主要剥離面が残り、背面には節理面が残る・刃部は稜線がやや丸みを帯びる
1034	W25	包 3 層	砥石	砂岩	8.1	7.7	2.8	304.0	使用していて割れた後も使っていたと思われる・表・裏ともに欠損部分が多くみられる(荒砥)
1035	Q16	客 1 層	墓石	ホルンフェルス	1.8	2.2	0.8	4.8	ツルツルして艶がある(おはじき)
1036	a29		スクレイパー	サヌカイト	5.3	6.2	1.4	46.6	未使用かと思われる・打ちかいている途中か？
1037	Z28	4 層	石剣？	層灰岩	6.05	3.3	0.8	16.9	表面は刃部のみの研磨である・裏面は平面にも若干研磨が及ぶが表面と同様に節理が大きく残る
1038	Y32	3 層	砥石	安山岩	3.3	2.7	0.6	6.5	砥石の破片である・擦痕も見られる・ツルツルしている



3 分析と考察

ここでは築地館跡の発掘調査過程で実施された理化学分析、打製石器に係る形式分類及び使用石材の同定、弥生土器の時期比定についての分析結果を記述する。

なお、弥生集落の変遷と中世館跡について取りまとめ、今次調査の総括とした。

3-1 出土弥生土器の時期的変遷

住居跡出土土器群を既存の編年観に基づき検討した結果、連続した4つの段階を析出し、木崎編年の野部田Ⅰ式から野部田Ⅱb式に時期比定した。

3-2 打製石器の分類と同定

合計947点の打製石器を肉眼観察し、黒曜石（5種類）、安山岩（2種類）、チャート、頁岩、泥岩、緑色片岩、結晶片岩の計12種類に石材同定した。

3-3 花粉分析

2条の溝（SD）の土壌試料20点を対象として、花粉分析を実施した。花粉化石はほとんど検出されなかった。

3-4 放射性炭素年代測定

試料7点について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。その結果、弥生時代中期～後期、鎌倉時代末期～室町時代、近世以降の3群の年代を得た。

3-5 弥生集落の変遷と中世館跡

弥生時代後期の集落は、条溝、竪穴住居等の各要素から4段階の集落変遷を捉えることができる。

中世館跡は、壕の最下層検出試料の放射性炭素年代測定結果から、中世の遺構であると確認できた。

3-1 出土弥生土器の時期的変遷

熊本県北部、菊池川流域には弥生時代後期の集落遺跡が多数存在し、そのいくつかは発掘調査されている。狭小な調査面積、行政の調査体制が不足した時期を経て、山鹿市津袋遺跡では弥生時代後期土器の時期区分がなされ（高木 1979）、方保田東原遺跡では層位学的検討が加えられ（中村 1982）、菊池川流域の弥生時代後期土器編年を中九州、佐賀地域の範囲に位置づけた研究（木崎 1996）も編まれている。

築地館跡では 24 棟の竪穴住居跡が発掘され、多量の土器が出土した。土器は、壺、台付甕、高坏、鉢等の組成をとり、形式学的に複数の土器群に分けることが可能である。これらの住居跡出土土器群を既存の編年観に基づき検討した結果、連続した 4 つの段階を析出し、木崎編年（木崎 1996）の野部田 I 式から野部田 II b 式の時期に比定した。

3-1-1 形式学的検討

まず、築地館跡から出土した弥生土器を、形式学的特長から複数の土器群に分類する。分類に際しては、遺構、すなわち住居跡を単位とした。住居跡出土遺物の一括性、並びに住居跡と出土遺物との同時性については議論があるように、必ずしも出土遺物の同時性が担保されているわけではない。しかし、ここでは各型式の相伴関係とその変遷を追うことを第一義とし、かつ、出土遺物の多寡による較差を抑制するためにも、住居跡を単位とした分析方法を採ることとした。

築地館跡から出土した弥生土器は、以下のとおり 4 つの土器群に分類された。

土器群 1

SI38 出土資料に代表され、SI04、SI32 出土資料を含む土器群である。

甕には、台付甕脚台部の断面形態が底部付近で厚く裾部に向けて漸移的に薄くなるものが組成する。壺には、口縁部がラッパ状に開き、平坦面を備える口唇部に刻目を施す壺が組成する。高坏には、皿状の坏部から口縁がほぼ鉛直にたちあがり口唇部が外折するもの、及び坏部が浅い碗形を呈するものが組成する。また、裾部に刺突孔を施す高坏がある。鉢には、胴部から口縁部にかけて広がる鉄鉢形を呈するもの、及び口縁径が胴部径より小さいものが組成する。この他、ジョッキ形土器が組成する。

土器群 2

SI01、SI10 出土資料に代表され、SI02、SI07、SI21、SI36 出土資料を含む土器群である。

甕には、台付甕脚台部の断面形態が底部付近では厚いが裾部にかけては均一化するものが加わる。壺には、口縁部がラッパ状に開き頸部に突帯または刻目突帯を

巡らせるもの、肩部に櫛描波状紋を施すものが組成する。鉢には、胴部から口縁部にかけて広がる鉄鉢形を呈するものに加え、胴部が鉄鉢形を呈し口縁部が鏝形に折れるものが組成する。この他、小型手捏ね土器が組成する。

土器群 3

SI13、SI17 出土資料に代表され、SI05、SI06、SI08、SI09、SI12、SI14、SI23、SI19、SI22、SI29 出土資料を含む土器群である。

甕には、口縁端部に平坦面を備えるもの、頸部に突帯を巡らせるもの、脚台部断面形態の器壁の厚みが均一化したものが組成する。甕及び器台には、タタキを最終調整とするものが加わる。器台は、胴部中位より上にくびれ部をもつものとなり、口縁部直下にくびれ部をもつものが加わる。壺には、頸部と肩部の間に連続刺突紋を施すものが加わり、頸部の突帯は素紋化する。高坏には、裾部に孔を有するものが組成する。この他、脚付鉢、ミニチュア土器が組成する。

土器群 4

SI20 出土資料に代表され、SI33 出土資料を含む土器群である。

甕及び器台は、タタキを最終調整とするものとなる。壺及び甕は、口縁端部に鉛直方向の平坦面をもつものとなる。高坏には、脚部にミガキが施すものが加わる。器台は、口縁部直下にくびれ部をもつものとなる。さらに、全形式の器壁が薄くなる傾向をとる。

3-1-2 層位学的検討

次に、上記の土器群が出土した住居跡の切合関係から、各土器群の新旧関係を把握したい。関係住居跡の切合関係は以下のとおりであり、（古）土器群 1 → 土器群 2 及び土器群 3 → 土器群 4（新）の関係を導くこ

とができる。

土器群 1 と土器群 2

SI32 (土器群 1) を SI21 (土器群 2) が切る。

土器群 1 と土器群 3

SI38 (土器群 1) を SI17 (土器群 3) が切る。

SI32 (土器群 1) を SI22 (土器群 3) が切る。

土器群 2 と土器群 4

SI21 (土器群 2) を SI20 (土器群 4) が切る。

土器群 3 と土器群 4

SI23 (土器群 3) を SI20 (土器群 4) が切る。

なお、切合関係が確認できない土器群 2 及び土器群 3 の差異は、土器群 3 においてタタキを最終調整とする甕及び器台、並びに、裾部に孔を有する高坏が組成することである。既往の土器編年は、甕のタタキ痕の残存、高坏裾部の孔の両者を新しい様相と捉えている。したがって、既往の土器編年観により、(古) 土器群 2 → 土器群 3 (新) の関係を導くことができる。

以上から、土器群は (古) 土器群 1 → 土器群 2 → 土器群 3 → 土器群 4 (新) と変遷することが確認できた。

さて、上述の各土器群は、住居跡を単位としており、その埋没過程、他遺構との切合形成過程に時期が介在していることは言うまでもない。すなわち、土器群 1 ~ 4 の変遷には時期差による差異が伴っている。については、築地館跡における弥生時代後期の土器群 1 ~ 4 の変遷を、以後、1 段階 ~ 4 段階の変遷と記述することとする。

3-1-3 時期の比定

最後に、築地館跡における弥生時代後期の 1 段階 ~ 4 段階を、既往編年 (木崎 1996) と対照し、その时期的検討を行った結果、次表のとおり結論した。なお、比較に用いた形式学的特徴は、各土器群の特徴として、既述している。

さて、木崎編年は菊池川中流域の資料を中心として検討した編年 (案) である。この木崎編年と菊池川下流域の築地館跡出土土器とを比較した結果、その異同を次のとおり認めた。なお、菊池川中流域と下流域に共通する現象については、白川・緑川流域の二子塚遺

表 2 築地館跡における時期変遷

築地館跡	木崎編年 (木崎 1996)
1 段階	野部田 I 式
2 段階	野部田 II a 式
3 段階	野部田 II b 式
4 段階	野部田 II b 式

跡の成果 (島津・村上 1992) と比較し、その異同を記述している。

菊池川中流域と下流域に共通する現象は、第一に、台付甕の脚部が長脚化しないことである。白川流域では時期に従い漸次、長脚化が進行し、最終段階 (二子塚 VII 段階) には著しい長脚化が生じることと対照的である。第二に、高坏は細筒型の脚部にラップ状に開く裾部をとり、新段階 (野部田 II b 式) には裾部に孔を有することである。白川流域では太筒型の脚部が用いられ、古段階 (二子塚 II 段階) には坏部と脚部の接点に突帯が加わるので、両流域の高坏は、形態、変遷が異なることとなる。第三に、器台が組成することである。白川流域では、器台を組成する土器様式は確認されていない。

菊池川中流域と下流域とで異なる現象は、下流域ではジョッキ形土器が古段階 (築地館跡 1 段階) のみの組成であることに対し、中流域では全期間 (野部田 I 式 ~ 野部田 II b 式) 組成することである。このことは資料的制約を受けている可能性が高く、類例の蓄積をまち再検討することが必要である。

(引用文献)

高木正文 1979 「鹿本地方の弥生後期土器」『古文化談叢』6

中村幸史郎 1982 「方保田東原遺跡出土の土器の編年 (案)」『方保田東原遺跡』山鹿市立博物館調査報告書 2、山鹿市教育委員会

木崎康弘 1996 「弥生時代後期土器群の編年学的研究」『蒲生・上の原遺跡』熊本県文化財調査報告 158 熊本県教育委員会

島津義昭・村上恭通 1992 『二子塚』熊本県文化財調査報告 117、熊本県教育委員会

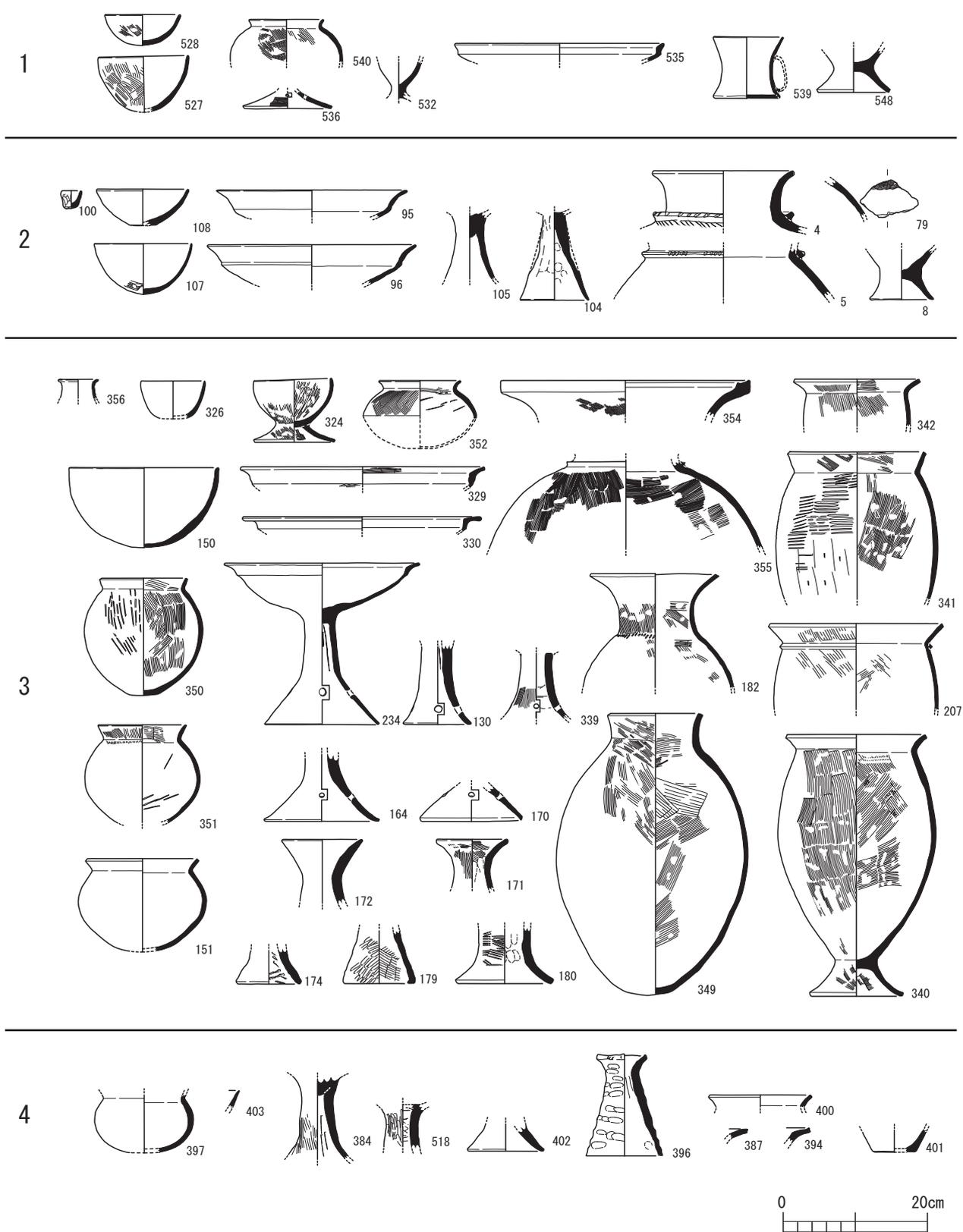


図 159 出土弥生土器の編年

3-2 打製石器の分類と同定

株式会社 有明測量開発社

3-2-1 出土石器

築地館跡の発掘調査において、旧石器時代から弥生時代にかけて合計 947 点の石器が出土した。

これらの打製石器を肉眼で観察し、その石材を黒曜石 (5 種類)、安山岩 (2 種類) チャート、頁岩、泥岩、緑色片岩、結晶片岩の計 12 種類に同定した。

3-2-2 資料と方法

築地館跡から出土した石器の内訳は、以下のとおりである。

- 剥片 : 668 点
- 砕片 : 9 点
- 石核 : 35 点
- 原石 : 53 点
- 破砕礫 : 17 点
- 分割礫 : 9 点
- ナイフ形石器 : 1 点
- 台形石器 : 2 点
- 細石刃 : 1 点
- 使用痕剥片 : 47 点
- 二次加工剥片 : 45 点
- スクレイパー : 16 点
- 打製石鏃 : 31 点
- 石鏃未製品 : 7 点
- 石匙 : 1 点
- 石匙未製品 : 1 点
- 楔形石器 : 1 点
- 石錐 : 2 点
- 石包丁未製品 : 1 点

3-2-3 石器の石材と産地

石材は以下に記す特徴により、12 種類を確認した。

黒曜石 (Obsidian-a) Ob-a

西北九州産黒曜石と考えられる、漆黒色を呈する良質の黒曜石。多くの資料において、長石の粒子が少量混じる。

黒曜石 (Obsidian-b) Ob-b

青灰色を呈する透明度のない黒曜石で、礫面は多孔質である。長崎県針尾島周辺に産出すると考えられる。

黒曜石 (Obsidian-c) Ob-c

灰白色を呈する透明度の高い黒曜石。大分県姫島産と考えられる。

黒曜石 (Obsidian-d) Ob-d

灰白色～褐灰色の縞模様のある漆黒色黒曜石。原石は 5cm に満たない小礫が多く、近隣の凝灰岩中に含まれるものと考えられる。

黒曜石 (Obsidian-e) Ob-e

透明度のない黒色を呈する黒曜石。脆弱な石質で、割れ面は石炭のような質感である。

阿蘇溶結凝灰岩中に含まれるものに似る。

安山岩 (Andesite-a) An-a

表面が黒色～灰色を呈するガラス質安山岩。佐賀県多久周辺に産出すると考えられる。

安山岩 (Andesite-b) An-b

表面が灰白色を呈する安山岩。やや軟質あるいは節理が多く粗い石質である。阿蘇外輪山西部に産出するものに似る。

チャート (Chert-a) Ch-a

灰色を呈するやや透明度を持つチャート。1 点のみの出土である。

頁岩 (Shale) S

表面が黒色を呈する堆積岩。小礫 2 点のみの出土である。

泥岩 (Mudstone) M

粒子の細かい堆積岩で、色調はにぶい赤褐色を呈する。1 点のみの出土である。

緑色片岩 (Green schist) GS

片岩と見られる石材で、色調が緑色を呈するものをこれに分類した。表面は風化により光沢は失われる。

結晶片岩 (Crystalline schist) CS

片岩と見られる石材で、色調が緑色でない3点をこれに分類した。

3-2-4 遺物所見

使用痕剥片

まず、実測図を掲載した使用痕剥片に関する所見を述べる。

938 は基部を欠損する。幅広剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は An-a である。

940 は縦長剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

941 は縦長剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

42 は縦長剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

45 は縦長剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

50 は基部を欠損する。縦長剥片の周縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

81 は縦長剥片の先端付近に剥離が見られる。石材は 0b-a である。

159 は縦長剥片の片側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

311 は縦長剥片の片側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

415 は横長剥片の下部に微細剥離が見られる。石材は An-a である。

469 は幅広剥片の周縁部に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

543 は基部を欠損する。縦長剥片の片側縁と先端に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

591 は幅広剥片の片側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

697 は不定形剥片の周縁部に微細剥離が見られる。石

材は 0b-a である。

次に、紙幅の掣肘により実測図を掲載することが叶わない使用痕剥片について所見を述べる。

65 は縦長剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

75 は先端部を欠損する。幅広剥片の側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

80 は幅広剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

117 は縦長剥片の先端付近に剥離が見られる。石材は 0b-a である。

151 は縦長剥片の先端付近に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

162 は縦長剥片の片側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

229 は幅広剥片の周縁部に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

267 は縦長剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

293 は先端と基部を欠損する。縦長剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

348 は基部を欠損する。縦長剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

353 は基部を欠損する。縦長剥片の片側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

355 は斜軸剥片の先端付近に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

409 は先端を欠損する。縦長剥片の片側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

435 は先端を欠損する。縦長剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

508 は先端を欠損する。縦長剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

546 は基部を欠損する。縦長剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

609 は幅広剥片の片側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

618 は基部を欠損する。幅広剥片の片側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

639 は幅広剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石

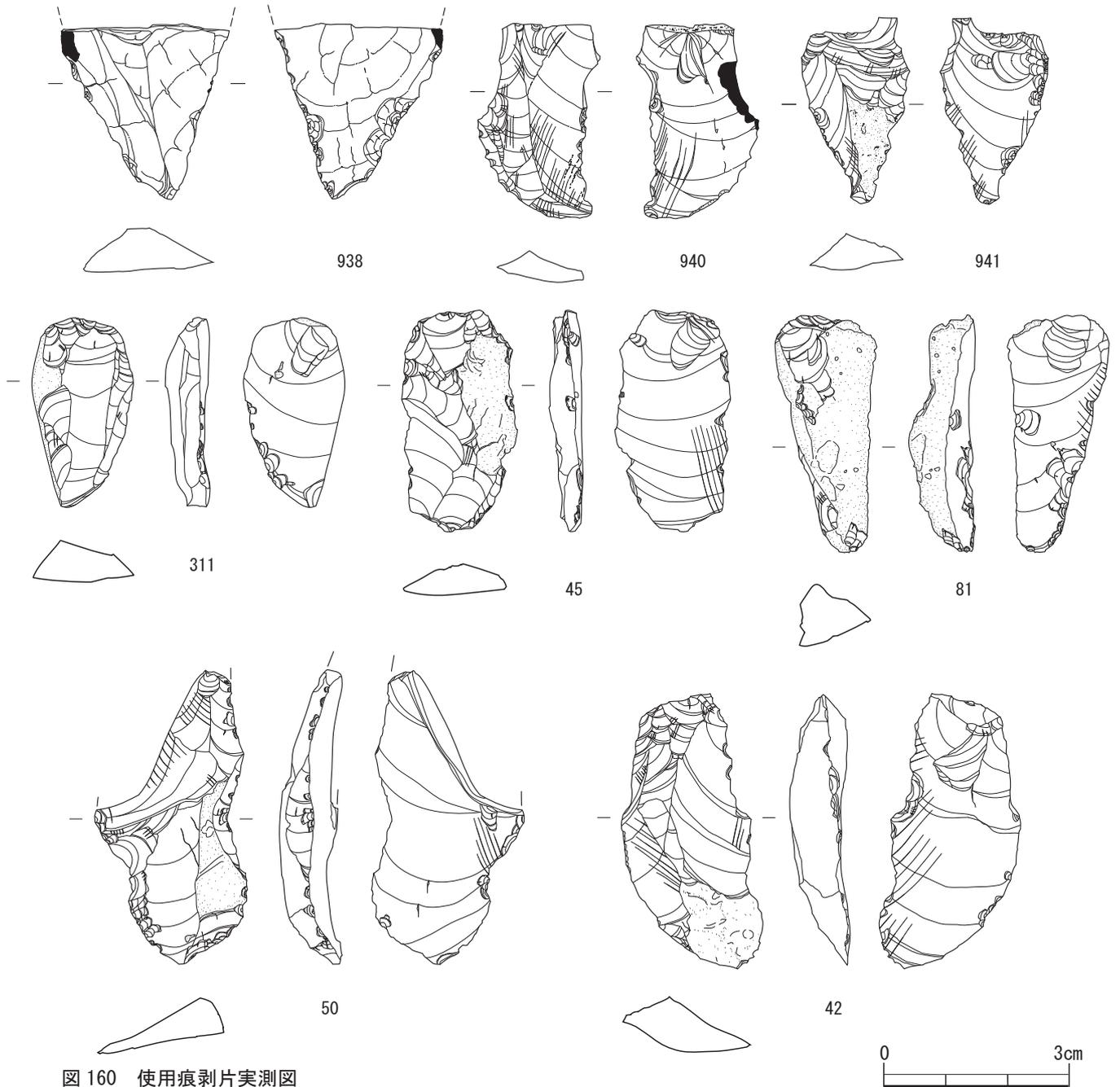


図 160 使用痕剥片実測図

は 0b-a である。

708 は先端を欠損する。幅広剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

733 は先端を欠損する。幅広剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

742 は先端を欠損する。縦長剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

749 は基部を欠損する。縦長剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

764 は基部を欠損する。縦長剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

785 は縦長剥片の片側縁に微細剥離が見られる。石材

は 0b-a である。

792 は一部を欠損する。縦長剥片の周縁部に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

800 は横長剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

801 は幅広剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

802 は先端を欠損する。縦長剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

835 は縦長剥片の先端に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

852 は幅広剥片の周縁部に微細剥離が見られる。石材

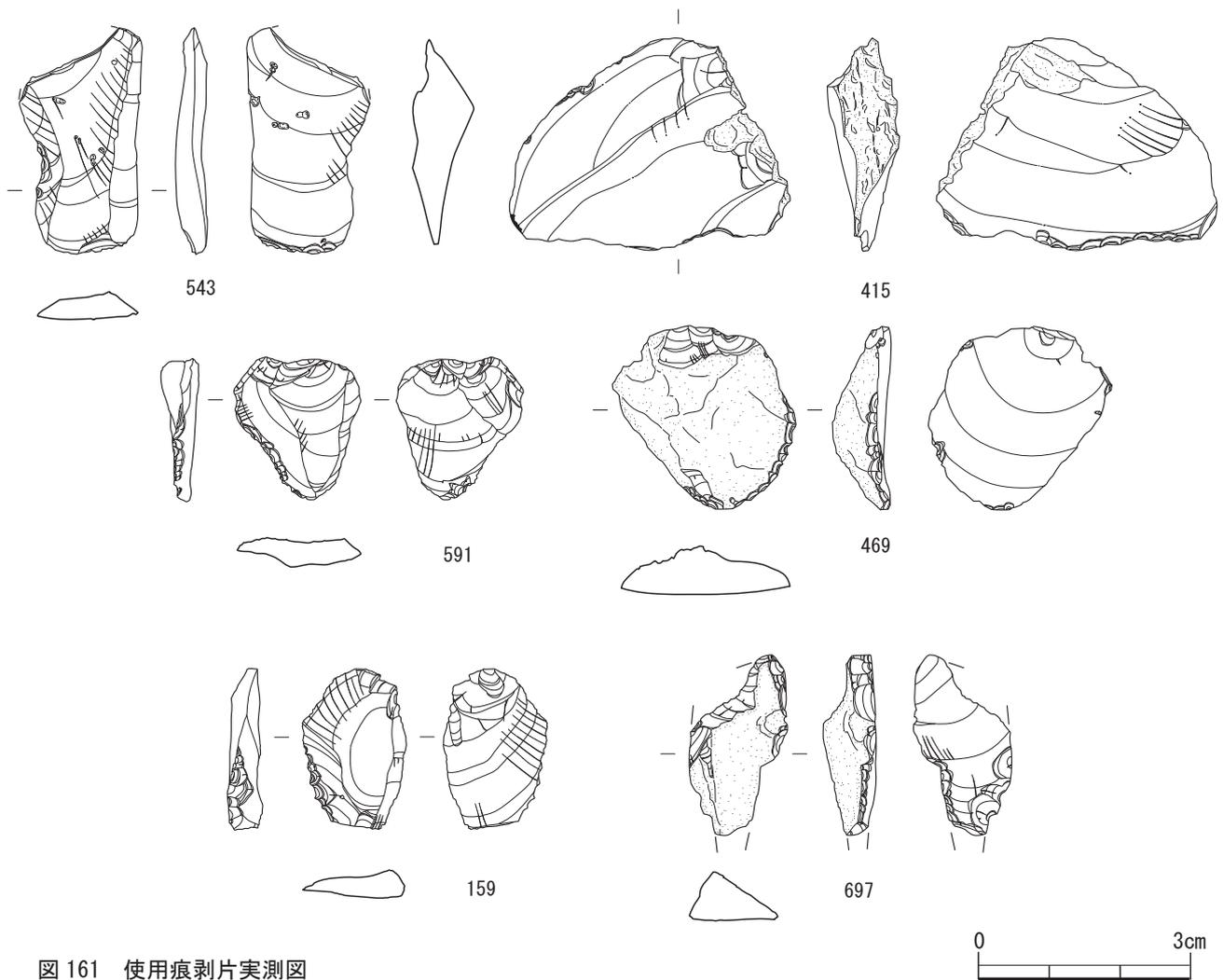


図 161 使用痕剥片実測図

は 0b-a である。

872 は先端と基部を欠損する。縦長剥片の両側縁に微細剥離が見られる。石材は 0b-a である。

900 は横長剥片の下部に微細剥離が見られる。石材は An-a である。

二次加工剥片

まず、実測図を掲載した二次加工剥片に関する所見を述べる。

939 は斜軸剥片の稜上に小剥離が見られる。石材は An-b である。

952 は周縁部に欠損が多く見られる。縦長剥片の片側縁に小剥離が施される。石材は 0b-a である。

953 は基部を欠損する。縦長剥片の片側縁に小剥離が施される。石材は An-a である。

47 は横長剥片の両面に平坦剥離を施す。石材は 0b-a である。

335 は先端部を欠損する。縦長剥片の側縁に抉入状の

剥離が施される。石材は 0b-a である。

358 は剥片の一端から大ぶりの平坦剥離を施す。素材面と加工部分の風化の程度が異なる。石材は An-a である。

458 は小型の剥片に急斜度剥離が施される。素材剥片の小ささから石鏃未製品の可能性が考えられる。礫面の突起により加工が困難なため、製作を中止したと思われる。石材は 0b-a である。

690 は縦長剥片の先端に加工を施し、先尖状を呈する。石材は 0b-a である。

707 は剥片の両側縁に平坦剥離と微細剥離が施される。石材は 0b-a である。

837 は厚手の剥片に平坦剥離が施される。石材は 0b-a である。

次に、紙幅の掣肘により実測図を掲載することが叶わない二次加工剥片について所見を述べる。

46 は厚手の縦長剥片の側縁に平坦剥離が施される。先端部は欠損し、石材は 0b-a である。

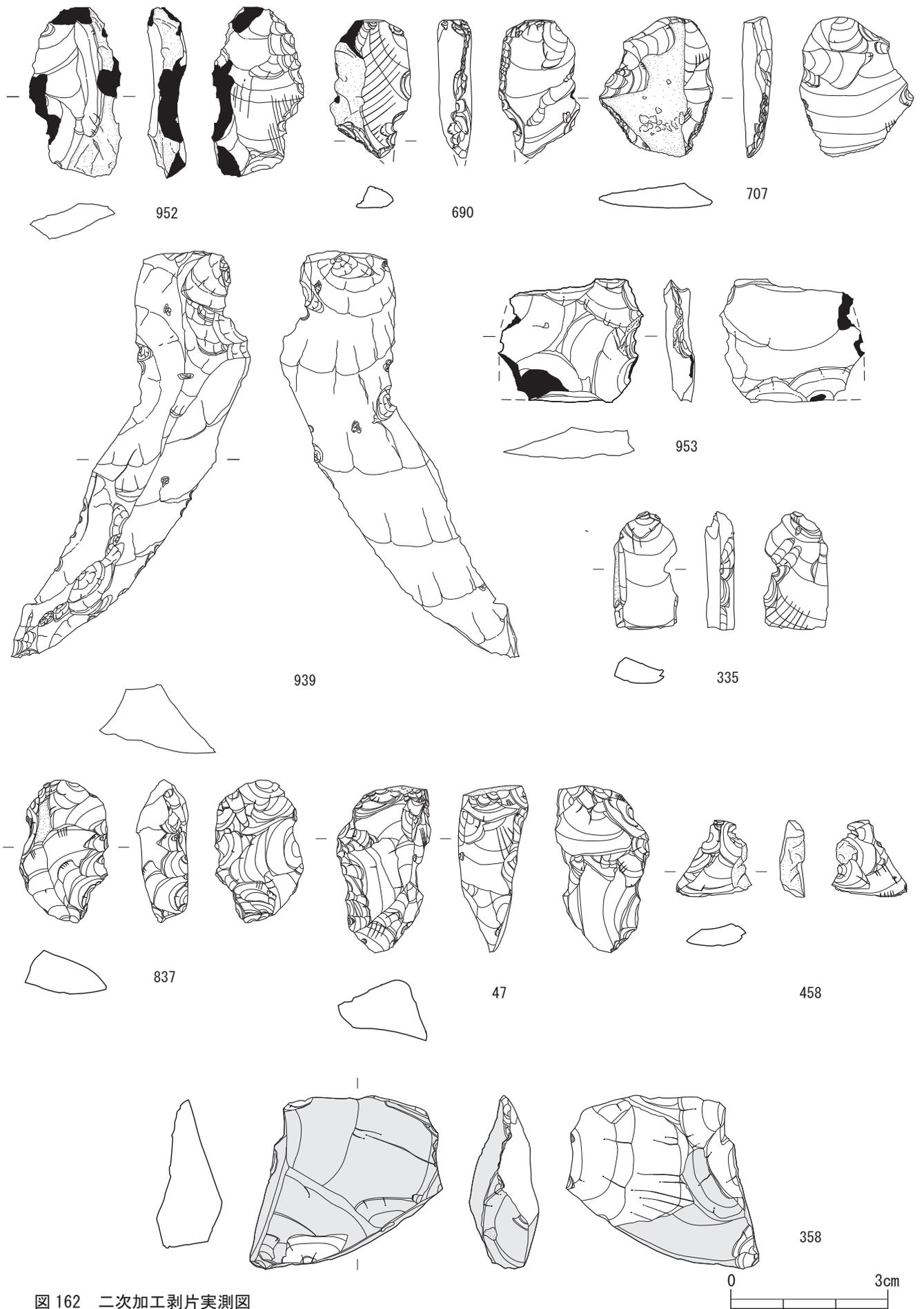


図 162 二次加工剥片実測図

66 は縦長剥片の片側縁に平坦剥離が施される。石材は 0b-a である。

120 は欠損により本来の形状は不明である。幅広もしくは横長剥片の打面側に剥離面が見られる。石材は 0b-a である。

206 は欠損により本来の形状は不明である。薄手の剥片の周縁部に平坦剥離と微細な剥離が施される。石鏝の未製品か。石材は 0b-a である。

208 は先端部を欠損する。剥片の両面に周縁部から平坦剥離と微細な剥離が施される。石鏝の未製品か。石材は 0b-a である。

231 は基部と片側側縁を欠損する。側縁に微細な剥離が施され、先端部に急斜度の剥離が見られる。石材は 0b-a である。

413 は厚手の縦長剥片の縁辺に急斜度剥離が施される。石材は 0b-a である。

433 は基部を欠損する。幅広剥片の側縁に剥離面が若干見られる。石材は 0b-a である。

473 は縦長あるいは幅広剥片の先端と基部に急斜度の剥離を施す。素材面と加工部分の風化の程度が異なる。石材は 0b-a である。

497 は幅広剥片の折れ面に剥離面が見られる。石材は 0b-a である。

515 は縦長剥片の基部に剥離が施され、尖頭状を呈する。石材は 0b-a である。

530 は一部を欠損する。腹面に平坦剥離が施される。石材は 0b-a である。

545 は欠損により本来の形状は不明である。剥片の周縁に剥離面が見られる。石材は 0b-a である。

569 は縦長剥片の側縁に剥離が施される。石材は 0b-a である。

592 は基部を欠損する。縦長剥片の側縁に抉入状の剥離が施される。石材は 0b-a である。

637 は厚手の剥片に平坦剥離を施す。石鏝未製品の可能性も考えられる。石材は 0b-a である。

647 は折れ面のある厚手の剥片に平坦剥離を施す。石材は 0b-a である。

654 は欠損により本来の形状は不明である。剥片の周縁に大ぶりの平坦剥離が施される。石材は 0b-a である。

655 は縦長剥片の側縁に剥離が施される。石材は 0b-a である。

681 は厚手の剥片の打面と下部に剥離を施す。素材面と二次加工部の風化の度合いが異なる。石材は 0b-a である。

692 は縦長剥片の先端と側縁に抉入状の剥離が施される。石材は 0b-a である。

703 は欠損により本来の形状は不明である。側縁に剥離面が見られる。石材は 0b-a である。

705 は縦長剥片の側縁に剥離が施される。石材は 0b-a である。

731 は小型の横長剥片の下部に剥離が施される。石材は 0b-a である。

737 は一部を欠損する。幅広剥片の周縁に剥離が施す。打面付近に浅い抉入状の剥離が見られる。石材は 0b-a である。

758 は幅広剥片の一端に急斜度剥離を施す。素材面と二次加工部の風化の度合いが異なる。石材は 0b-a である。

763 は縦長剥片の側縁に抉入状の剥離が施される。石材は 0b-a である。

781 は縦長剥片の両側縁に剥離が施され、片側は大ぶりの剥離面が見られる。石材は 0b-a である。

798 は幅広剥片の両側縁と刃部に剥離が確認される。石材は 0b-a である。

803 は厚手の剥片の打面と側縁に剥離が施され、打面は平坦剥離が行われる。石材は 0b-a である。

805 は欠損により本来の形状は不明である。周縁に剥離が施される。石材は 0b-a である。

806 は縦長剥片の側縁に抉入状の剥離が施される。石材は 0b-a である。

809 は幅広剥片の周縁に剥離が施される。石材は 0b-a である。

812 は先端部を欠損する。縦長剥片の周縁に剥離が施される。石材は 0b-a である。

879 は欠損により本来の形状は不明である。周縁に剥離が施される。石材は An-a である。

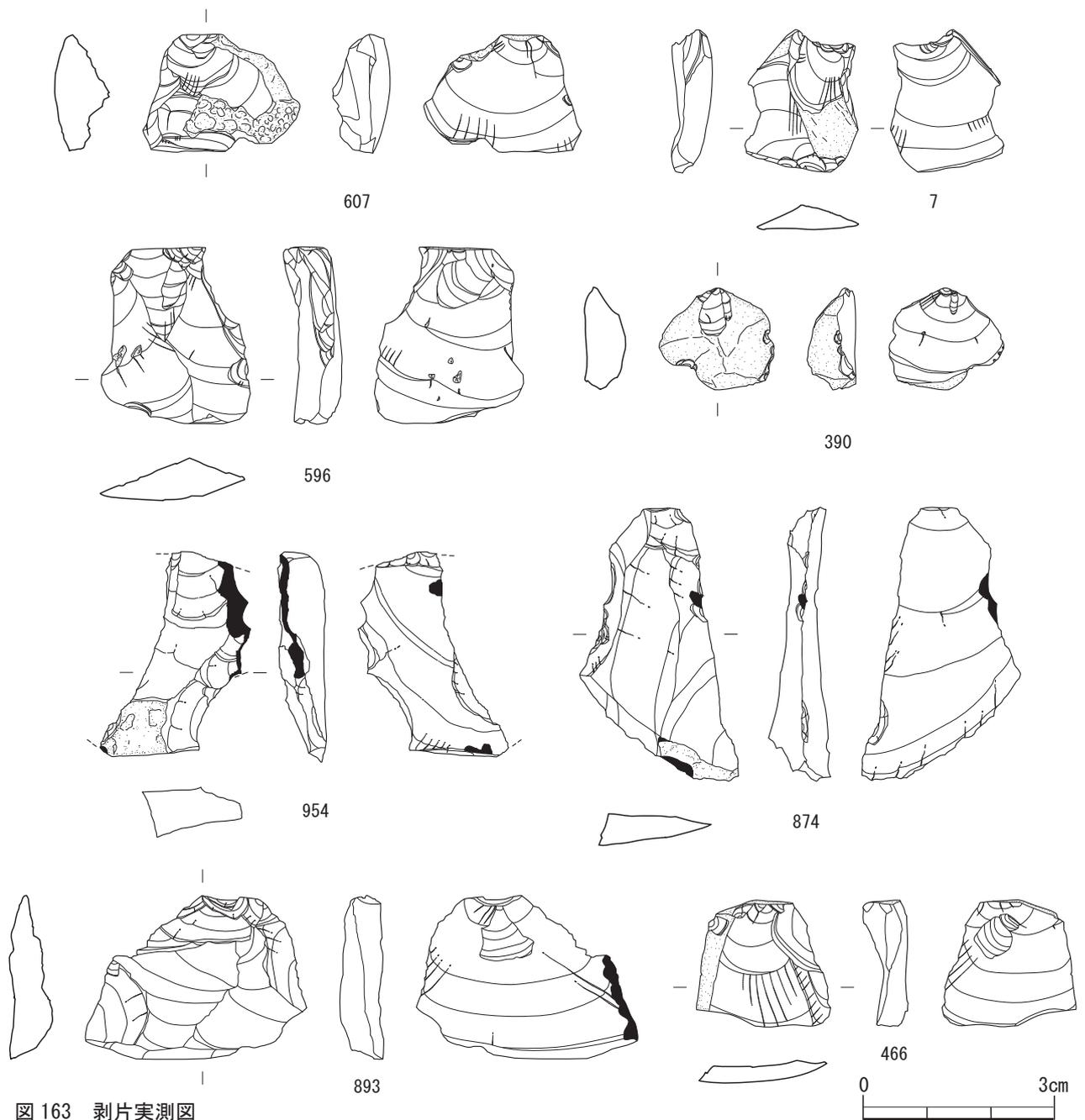


図 163 剥片実測図

剥片

実測図を掲載した剥片について、以下のとおり所見を述べる。

607 は厚手の幅広剥片である。背面に礫面が残る。石材は 0b-a である。

954 は幅広剥片で、肩側縁を欠損する。石材は An-a である。

7 はやや縦長の幅広剥片である。背面に礫面が残る。石材は 0b-a である。

24 は不定形剥片で背面は礫面が大きく残る。石材は 0b-a である。

390 は幅広剥片で、小礫を分割したものである。石材は 0b-d である。

391 は打点があるため斜軸剥片とした。石材は 0b-a である。

466 は縦長剥片で、先端部を欠損する。石材は 0b-a である。

596 はやや幅広の縦長剥片である。側面の小剥離面は腹面に先行する。石材は 0b-a である。

874 は縦長剥片である。先端部がやや幅広になる。石材は An-a である。

893 は横長剥片である。石材は An-a である。

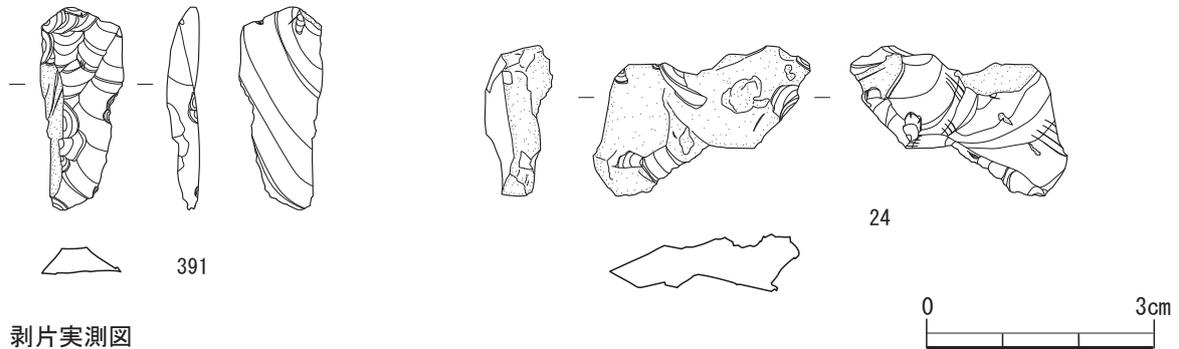


図 164 剥片実測図

分割礫

分割礫は実測図非掲載であるが、以下のとおり所見を述べる。

- 9 は 0b-a の小角礫の分割礫である。
- 247 は 0b-d 垂縁礫の分割礫である。
- 492 は 0b-d 小礫の分割礫である。
- 576 は 0b-b の分割礫で、円礫の自然面が残る。
- 615 は 0b-d 円礫の分割礫である。
- 649 は 0b-a の小礫の分割礫である。
- 723 は 0b-d 小礫の分割礫である。
- 729 は 0b-d 小礫の分割礫である。
- 766 は 0b-d 小礫の分割礫である。

石核

まず、実測図を掲載した石核に関する所見を述べる。

- 956 は小型の亜角礫を素材として、平坦な自然面を打面とする。打面は1面のみで、縦長気味の幅広剥片を連続して剥出する。先行する剥離面の長さは2～3cmで後出する面は1cm前後である。石材は0b-aである。
- 13 は分割礫を素材として、不定方向の打面より小剥片を剥出する。一部縦長剥片の剥離面が見られる。石材は0b-aである。
- 44 は厚手の剥片を素材として、周縁部から剥片を剥出する。石材は0b-aである。
- 222 は賽子状を呈する小型の石核で、打面転移が著しい。打面は少なくとも4面確認される。石材は0b-aである。
- 263 は厚手の剥片を素材とし、上下両面より幅広剥片を剥出する。石材は0b-aである。
- 337 は亜角礫を素材として平坦面を適宜打面に設定し、幅広剥片を剥出する。打面は少なくとも2面確認

される。石材は0b-aである。

- 401 は分割した小礫を素材とし、分割面付近を打面に設定する。打面は3面確認される。石材は0b-dである。
 - 489 は小礫を素材とし、小剥片を剥出したと考えられる。非常に小型で、石器素材となる剥片が得られたか疑問が残る。石材は0b-aである。
 - 523 は亜角礫を素材として平坦面を適宜打面に設定し、小剥片を剥出する。打面は少なくとも2面確認される。石材は0b-aである。
 - 544 は欠損により全体の形状は不明である。厚手の剥片を素材とし、一端より小剥片を剥出したと考えられる。打面は2面確認される。石材は0b-aである。
 - 634 は厚手の剥片を素材として周縁から剥片を剥出する。石材は0b-aである。
 - 648 は小礫を素材として、平坦面より剥片を剥出する。石材は0b-aである。
 - 650 は分割礫を素材として、周縁より小剥片を剥出する。石材は0b-aである。
 - 753 は賽子状を呈する石核で、打面転移が著しい。打面は少なくとも4面確認される。石材は0b-aである。
 - 761 は小礫の周縁より剥片を剥出する。石材は0b-dである。
 - 804 は船底形を呈する石核で、小型の縦長剥片を剥出する。石材は0b-aである。
 - 830 は分割した角礫の平坦面を打面として、剥片を剥出する。打面は2面確認される。石材は0b-aである。
 - 877 は剥片の周縁部より剥片を剥出する。石材はAn-aである。
- 次に、紙幅の掣肘により実測図を掲載することが叶わない石核について所見を述べる。
- 211 は厚手の剥片の一端を打面とする小型の石核であ

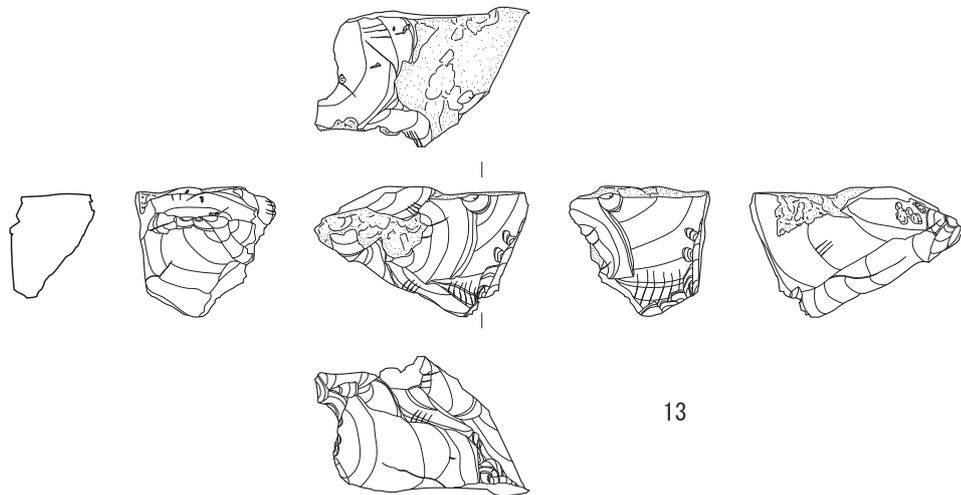


図 165 石核実測図

る。石材は 0b-a である。

226 は分割した円礫から幅広剥片 2 点を剥出する。石材は 0b-a である。

368 は盤状礫の平坦面を打面とし、小剥片を剥出する。打面は 1 面である。石材は 0b-a である。

440 は厚手の剥片を素材とし、小剥片を少量剥出したと考えられる。打面に後事的な剥離面が見られる。石材は 0b-a である。

521 は厚手の剥片を素材とし、平坦面より適宜小剥片を剥出したと考えられる。打面は 4 面確認される。石材は 0b-a である。

578 は角礫を素材として平坦面を適宜打面に設定し、小剥片を剥出する。打面は 3 面確認される。石材は 0b-a である。

610 は厚手の剥片を素材として、周縁部から小剥片を剥出する。石材は 0b-a である。

626 は分割礫を素材として、不定方向の打面より小剥片を剥出する。石材は 0b-a である。

687 は分割礫を素材として、不定方向の打面より小剥片を剥出する。石材は 0b-a である。

710 は小礫を素材として、平坦面より剥片を 1 点のみ剥出する。石材は 0b-d である。

715 は小礫を素材として、平坦面より剥片を剥出する。石材は 0b-a である。

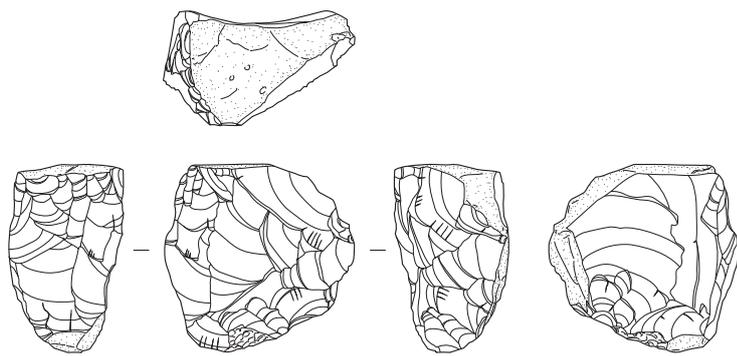
717 は分割した小礫を素材として、周縁より小剥片を剥出する。非常に小型で、石器素材となる剥片が得られたか疑問が残る。石材は 0b-a である。

752 は分割礫を素材として、分割面より剥片を剥出する。また、分割面に小型の剥離面が多数見られる。石材は 0b-a である。

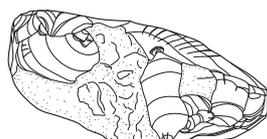
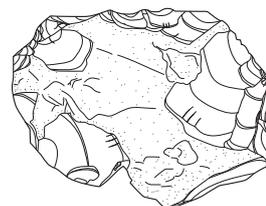
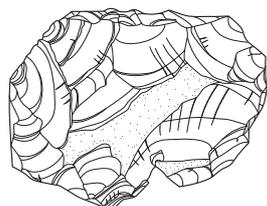
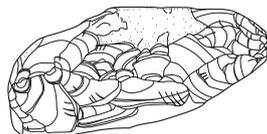
774 は小礫を素材として、不定方向の打面より小剥片を剥出する。石材は 0b-a である。

866 は欠損により全体の形状は不明である。平坦な打面より小剥片を剥出する。石材は 0b-a である。

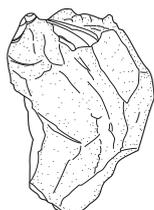
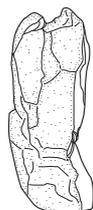




804



634



650



图 166 石核实测图

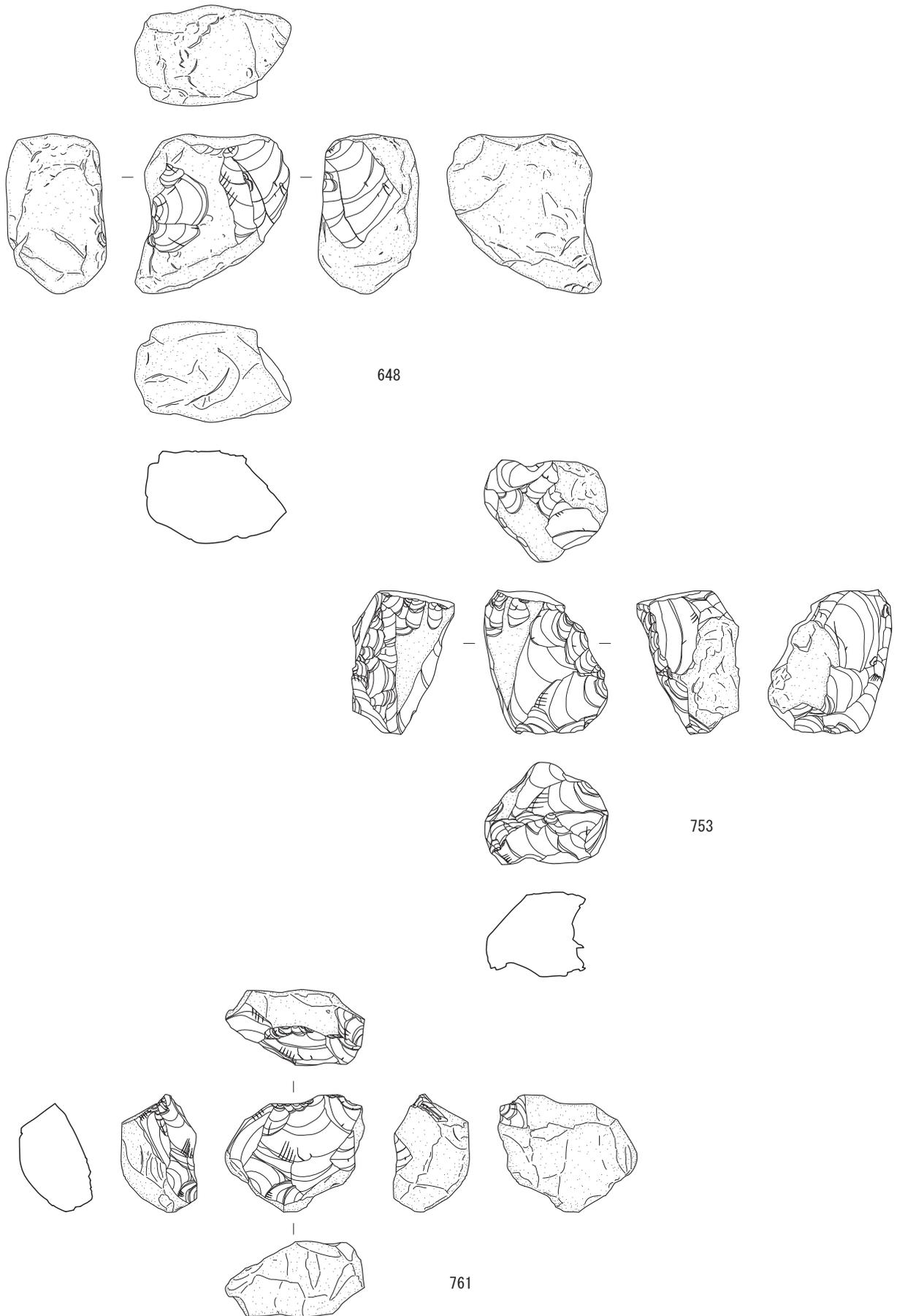


図 167 石核実測図



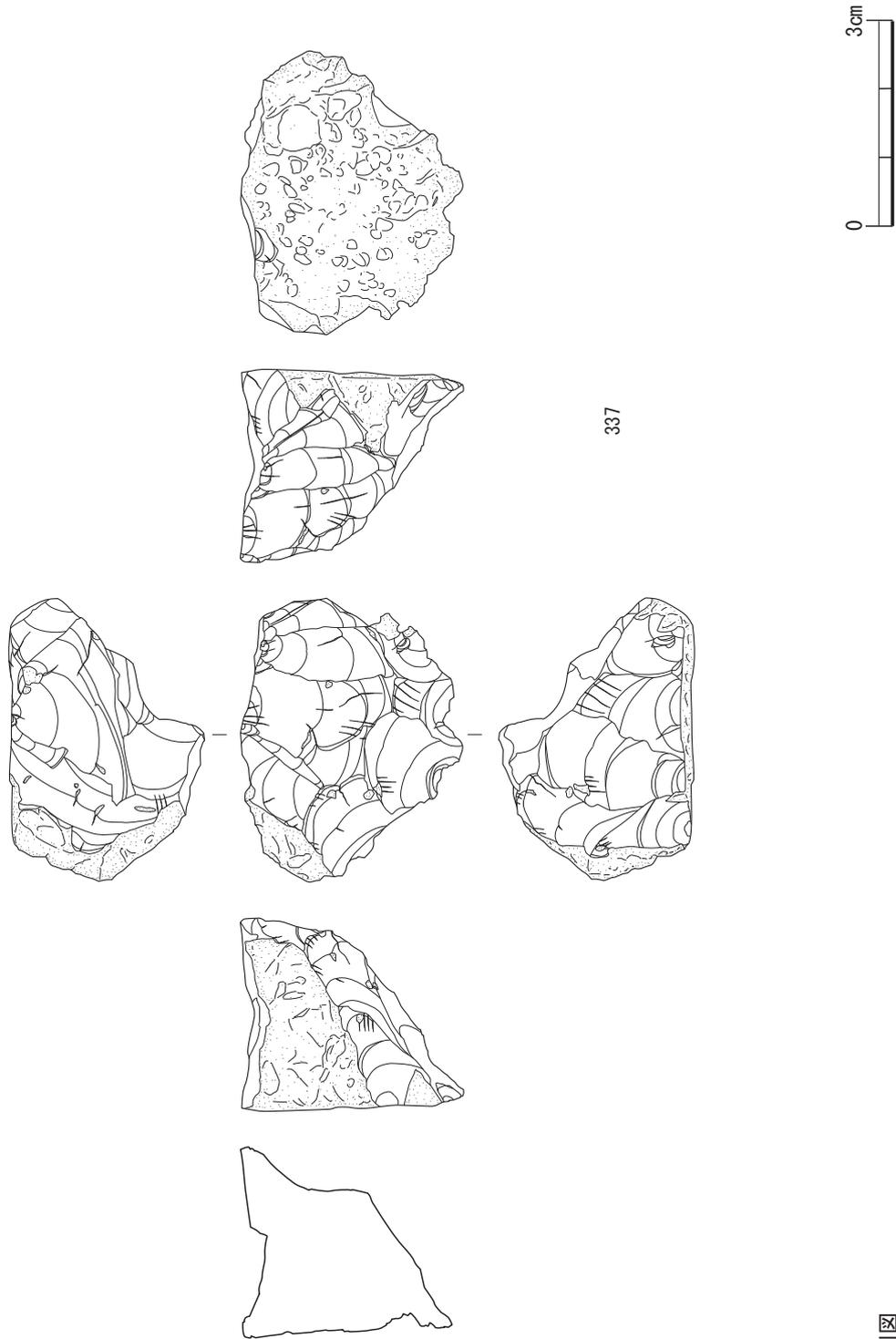


图 168 石核素描图

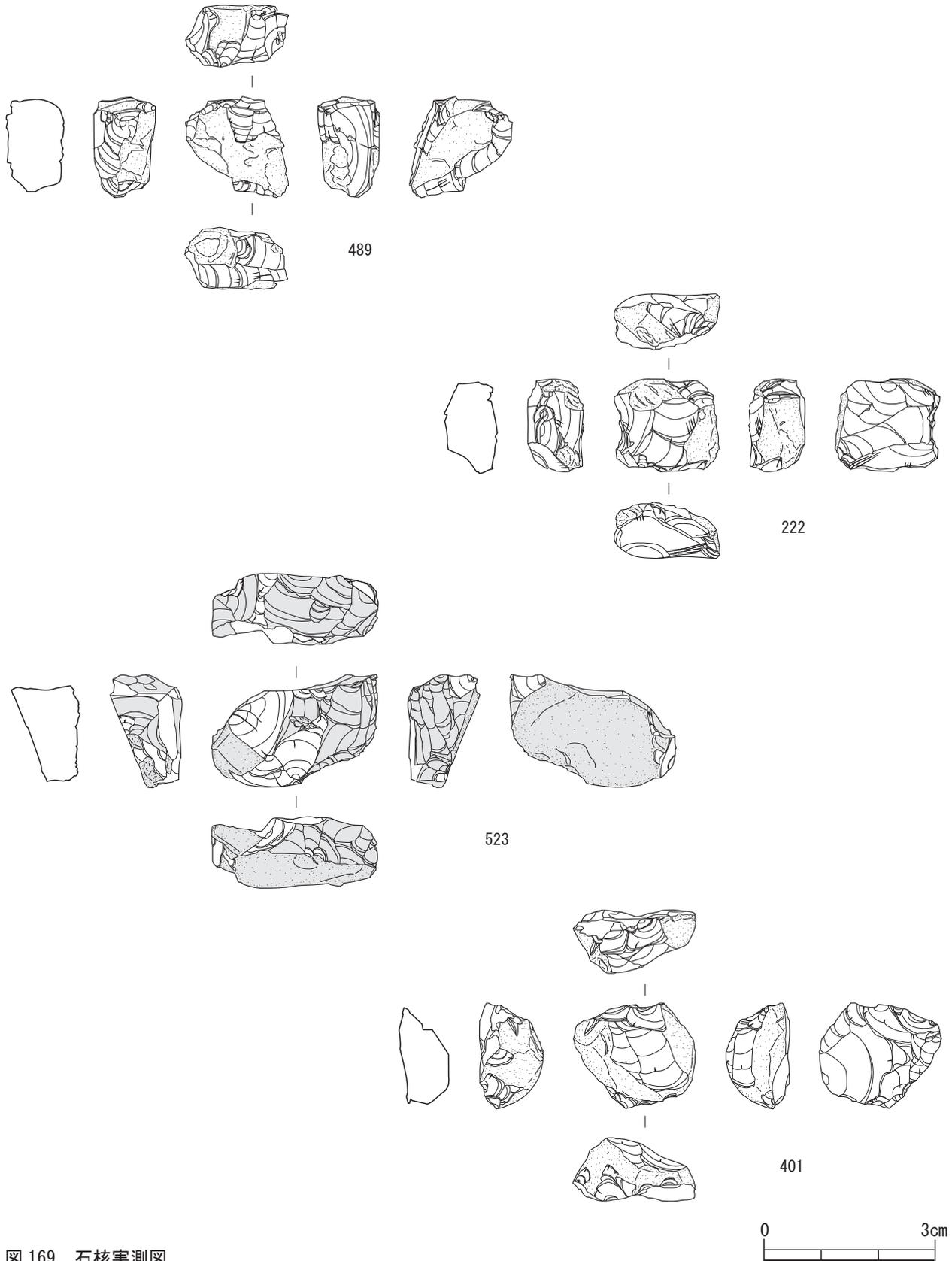


図 169 石核実測図

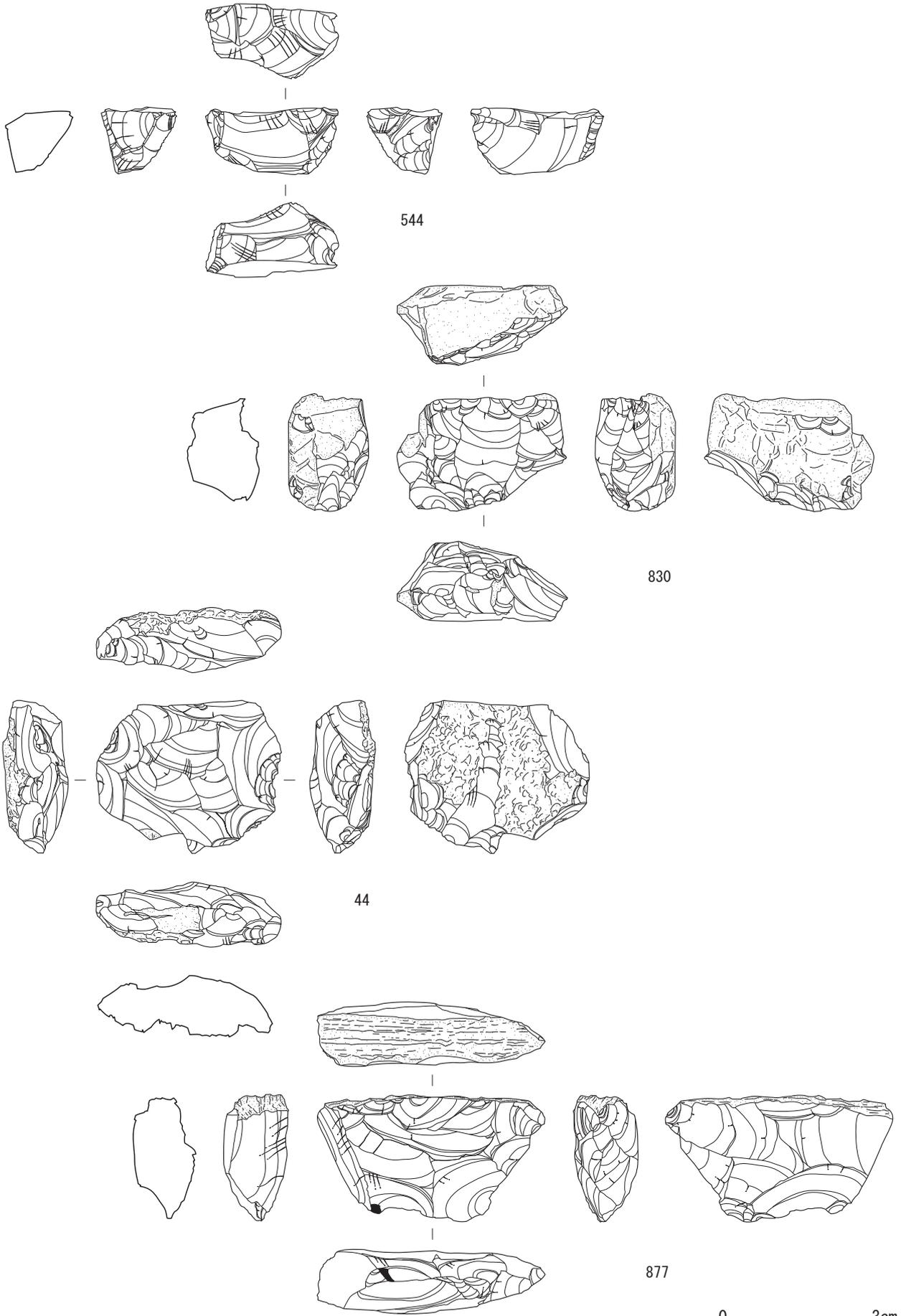


图 170 石核实测图

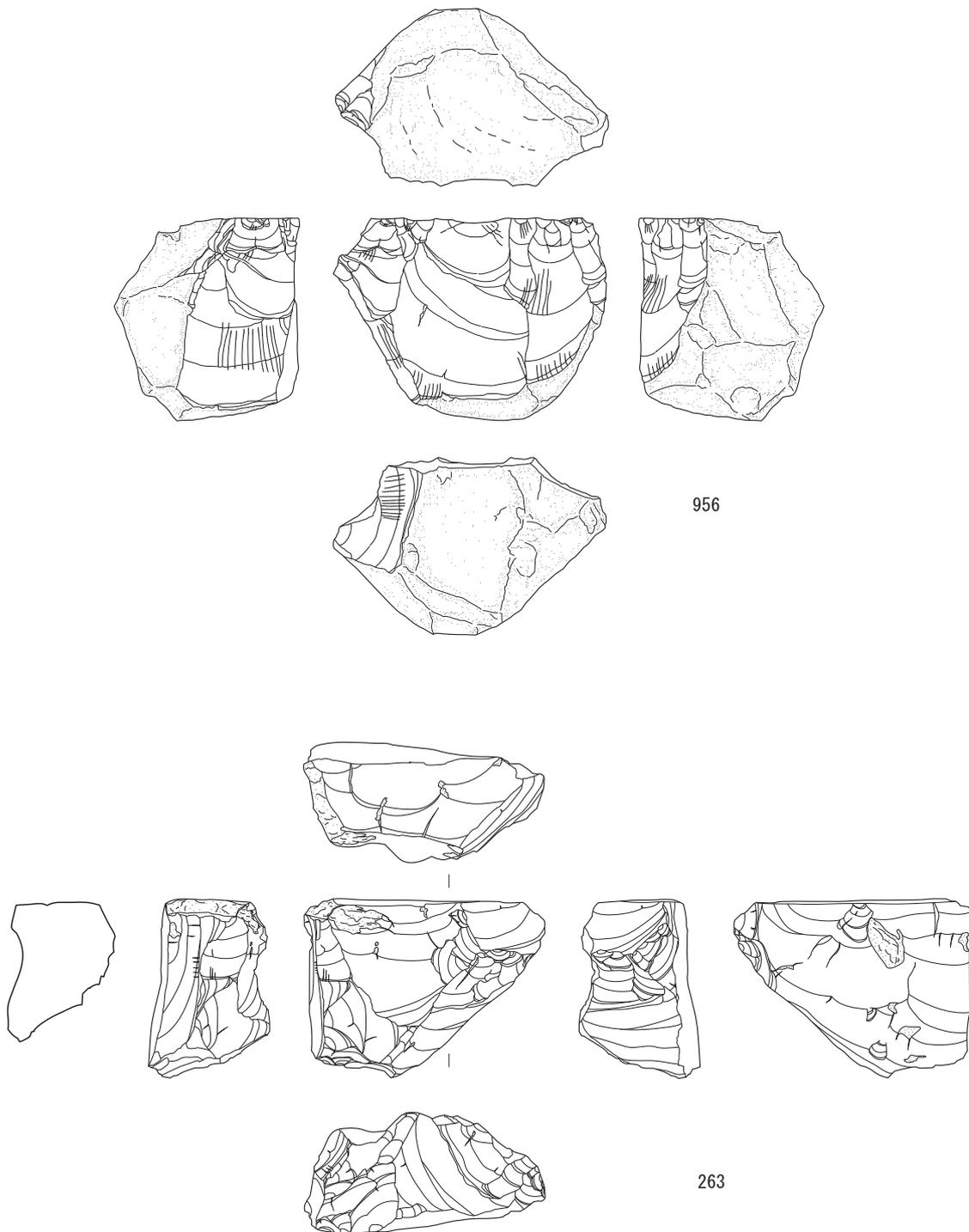


図 171 石核実測図



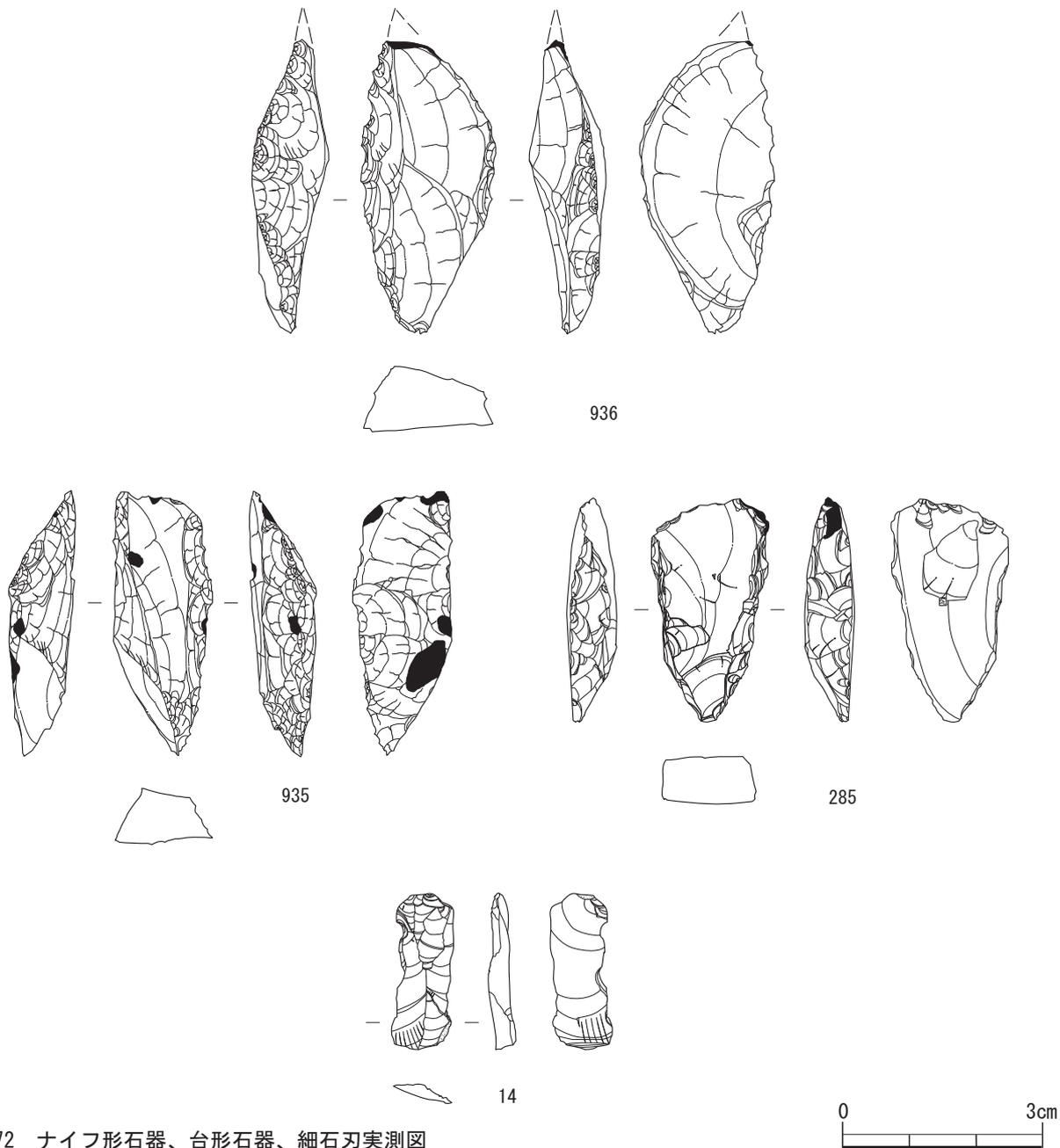


図 172 ナイフ形石器、台形石器、細石刃実測図

ナイフ形石器

実測図を掲載したナイフ形石器について、以下のとおり所見を述べる。

936 は幅広剥片を素材として、両側縁のブランディングにより切り出し形を呈する。先端部を欠損する。石材は An-a である。

台形石器

実測図を掲載した台形石器について、以下のとおり所見を述べる。

935 は幅広剥片を素材とし、両側縁にブランディング

が施される。また、腹面の下半部に平坦剥離が施される。石材は An-a である。

285 は幅広剥片を素材とし、両側縁にブランディングが施される。また、背面の基部近くに平坦剥離と思われる剥離面が見られる。石材は An-a である。

細石刃

実測図を掲載した細石刃について、以下のとおり所見を述べる。

14 はやや大きめの細石刃である。先端部は折れ面が見られる。石材は 0b-a である。

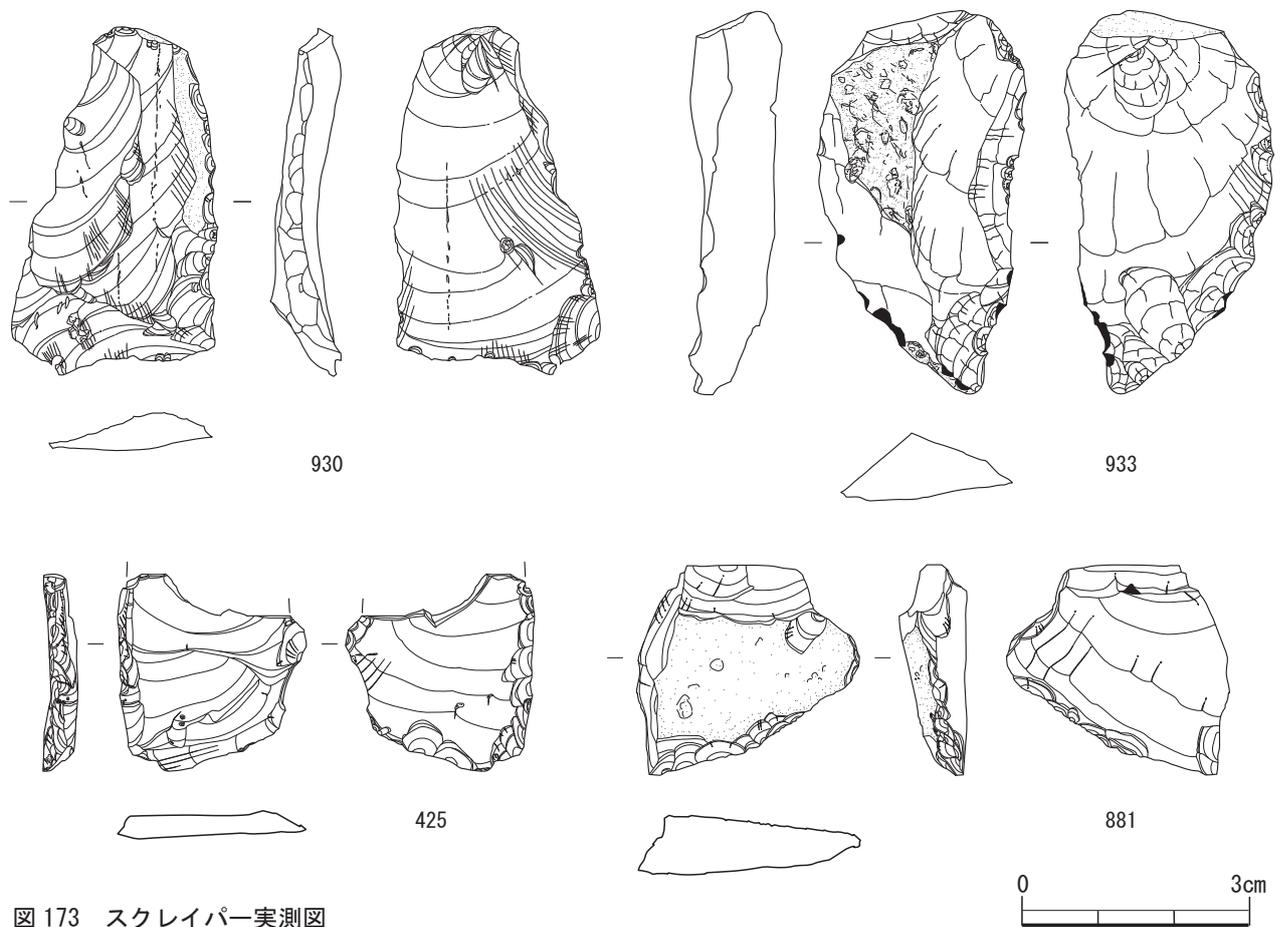


図 173 スクレイパー実測図

スクレイパー

まず、実測図を掲載したスクレイパーに関する所見を述べる。

930 は縦長剥片の片側縁に刃部調整を施す。石材は 0b-a である。

931 は幅広剥片の先端と片側縁に刃部調整を施す。石材は An-a である。

933 は縦長剥片の両側縁に刃部調整を施し、尖頭状を呈する。石材は An-a である。

942 は縦長剥片の片側縁に刃部調整を施す。石材は 0b-a である。

251 は縦長剥片の片側縁に刃部調整を施す。石材は 0b-a である。

425 は基部を欠損する。幅広剥片の周縁部に刃部調整を施す。石材は 0b-a である。

517 は縦長剥片の周縁部に刃部調整を施す。石材は 0b-a である。

553 は先端部を欠損する。両側縁に刃部調整を施す。石材は 0b-a である。

709 は縦長剥片の片側縁に刃部調整を施す。石材は 0b-a である。

738 は縦長剥片の周縁部に刃部調整を施す。石材は 0b-a である。

743 は厚手の幅広剥片の周縁部に刃部調整を施す。石材は 0b-a である。

757 は幅広剥片の周縁部に刃部調整を施す。石材は 0b-a である。

823 は縦長剥片の周縁部に刃部調整を施す。石材は 0b-a である。

881 は側面の約半分を欠損する。下部に刃部調整を施す。石材は An-a である。

次に、紙幅の掣肘により実測図を掲載することが叶わないスクレイパーについて所見を述べる。

279 は側面の約半分を欠損する。先端部に刃部調整を施す。石材は 0b-a である。

864 は欠損により全体の形状は不明である。側縁に刃部調整を施す。石材は 0b-a である。

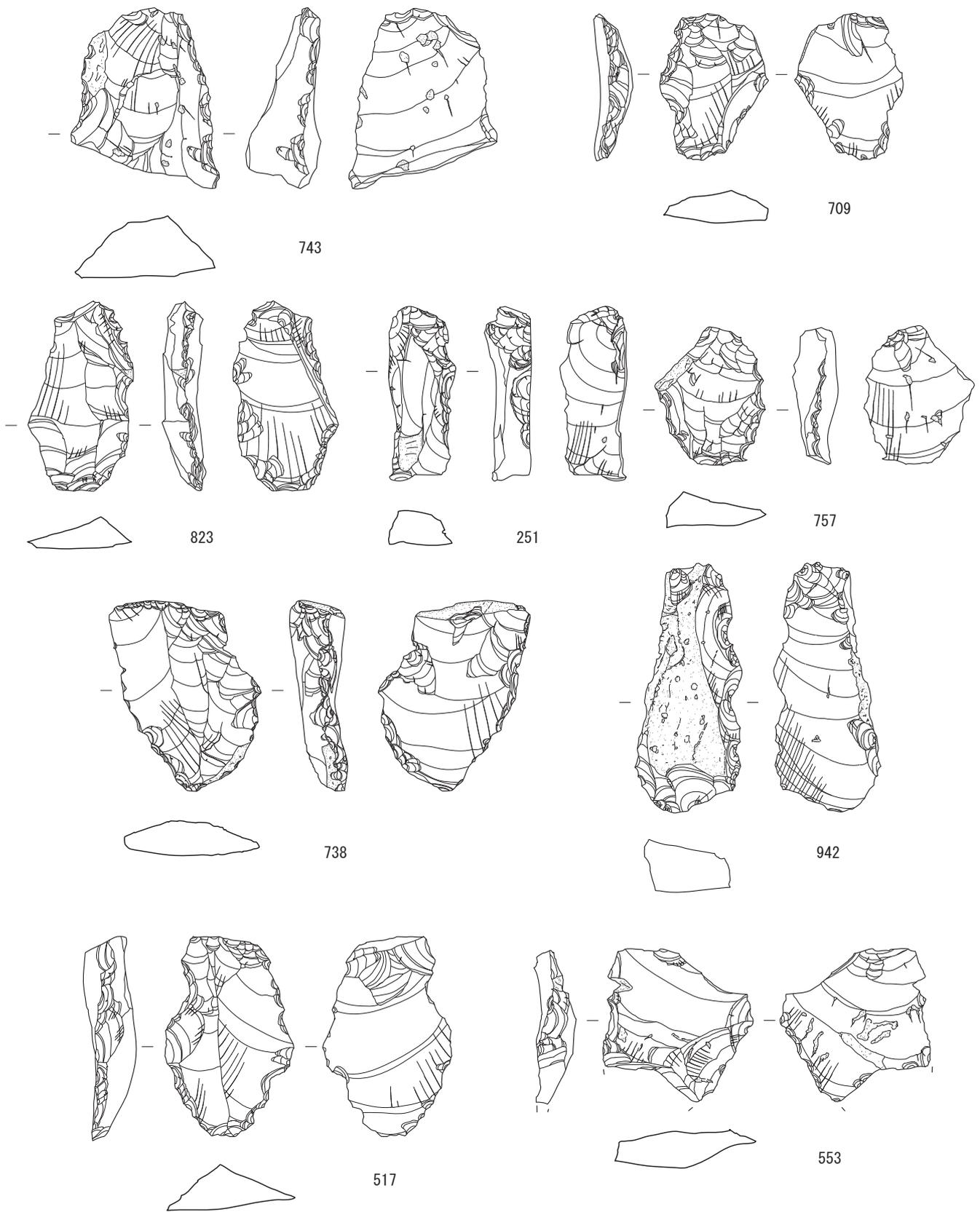


図 174 スクレイパー実測図

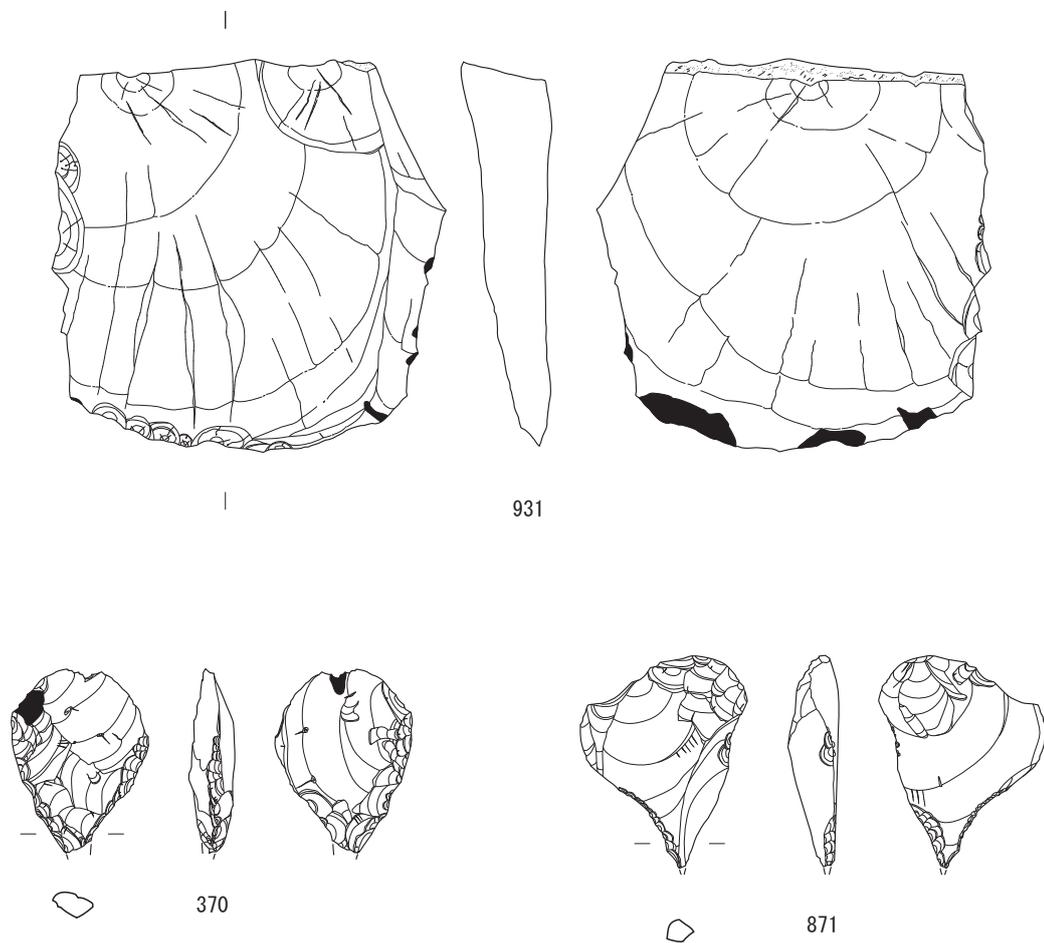


図 175 スクレイパー、石錐実測図

石錐

実測図を掲載した石錐について、以下のとおり所見を述べる。

370 は先端部を欠損する。両側縁に加工を行い、基部付近の厚みのある部分に平坦剥離を施す。石材は

0b-b である。

871 は幅広剥片を素材とし、側縁と下部に微細剥離を施すことにより先端部を調整する。石材は 0b-a である。

打製石鏃

まず、実測図を掲載した打製石鏃に関する所見を述べる。

927 は平面が三角形を呈する凹基無茎鏃である。平坦剥離により丁寧に仕上げられる。先端と片側縁を欠損する。石材は 0b-a である。

928 は平面が三角形を呈する平基無茎鏃である。大ぶりの平坦剥離で端部の仕上げは粗い。石材は 0b-a である。

932 は平面が三角形を呈する平基無茎鏃である。大ぶりの平坦剥離で全体的に厚く、未製品の可能性も考えられる。石材は An-b である。

943 は平面が三角形を呈する凹基無茎鏃である。平坦剥離により丁寧に仕上げられる。先端と片側基部を欠損する。石材は An-a である。

944 は平面が三角形を呈する凹基無茎鏃である。平坦剥離により丁寧に仕上げられ、両面に素材面が残る。片側基部を欠損する。石材は 0b-b である。

945 は平面が三角形を呈する凹基無茎鏃である。ヒンジフラクチャーによりやや肥厚し不整形である。両脚部を若干欠損する。石材は 0b-d である。

946 は平面が三角形を呈する凹基無茎鏃である。丁寧な加工により直線的に仕上げられる。片側基部を欠損する。石材は 0b-a である。

947 は平面が三角形を呈する凹基無茎鏃である。丁寧な加工により側縁は鋸歯状に仕上げられる。石材は 0b-b である。

948 は平面が三角形を呈する凹基無茎鏃である。全体の半分近くを欠損する。平坦剥離により丁寧に仕上げられる。石材は 0b-a である。

949 は平面が三角形を呈する凹基無茎鏃である。平坦剥離により薄く仕上げられる。先端を若干欠損する。石材は An-a である。

950 は平面が三角形を呈する凹基無茎鏃である。全体にステップフラクチャーがやや目立つ。片側基部を欠損する。石材は An-a である。

951 は平面が三角形を呈する平基無茎鏃である。平坦剥離により薄く仕上げられる。基部両側を若干欠損する。石材は An-a である。

955 は平面が三角形を呈する平基無茎鏃である。平坦

剥離により薄く仕上げられる。基部両側を欠損する。石材は 0b-a である。

957 は平面が三角形を呈する凹基無茎鏃である。縦長剥片を素材とし、背面は素材面を大きく残す。先端部と片側基部を欠損する。石材は 0b-a である。

33 は平面が三角形を呈する平基無茎鏃である。平坦剥離により丁寧に仕上げられる。石材は 0b-a である。

434 は平面が三角形を呈する平基無茎鏃である。作りは粗く、夾雑物の影響か周縁部の剥離面は急斜度である。石材は 0b-a である。

464 は平面が五角形を呈する凹基無茎鏃である。素材の影響か階段状剥離がやや多い。先端と基部を若干欠損する。石材は 0b-a である。

727 は先端部と脚の端部を欠損する。平面が三角形を呈する凹基無茎鏃である。微細な押圧剥離により薄く仕上げられる。石材は 0b-a である。

827 は平面が五角形を呈する凹基無茎鏃である。素材の影響か側縁の一部が急斜度である。石材は 0b-a である。

833 は先端と脚の端部を欠損する。平面が三角形を呈する凹基無茎鏃である。裏面の一部に素材面が若干残る。石材は 0b-b である。

次に、紙幅の掣肘により実測図を掲載することが叶わない打製石鏃について所見を述べる。

253 は平面が三角形を呈する平基無茎鏃である。平坦剥離により丁寧に仕上げられる。先端と片側縁を欠損する。石材は 0b-a である。

331 は先端と基部の片側が欠損する。平面が三角形を呈する凹基無茎鏃である。平面形がやや歪で未製品の可能性が考えられる。石材は 0b-a である。

540 は先端部を欠損する。三角形を呈する平基無茎鏃と考えられる。片側縁がヒンジフラクチャーによりやや急斜度になる。石材は 0b-a である。

566 は先端部を欠損する。三角形を呈する平基無茎鏃と考えられる。腹面は素材面を大きく残す。石材は 0b-a である。

572 は先端部を欠損する。平面が三角形を呈する平基無茎鏃である。作りは丁寧に、全面が押圧剥離により薄く仕上げられる。石材は 0b-a である。

643 は先端部と両脚部を欠損する。平面が三角形を呈

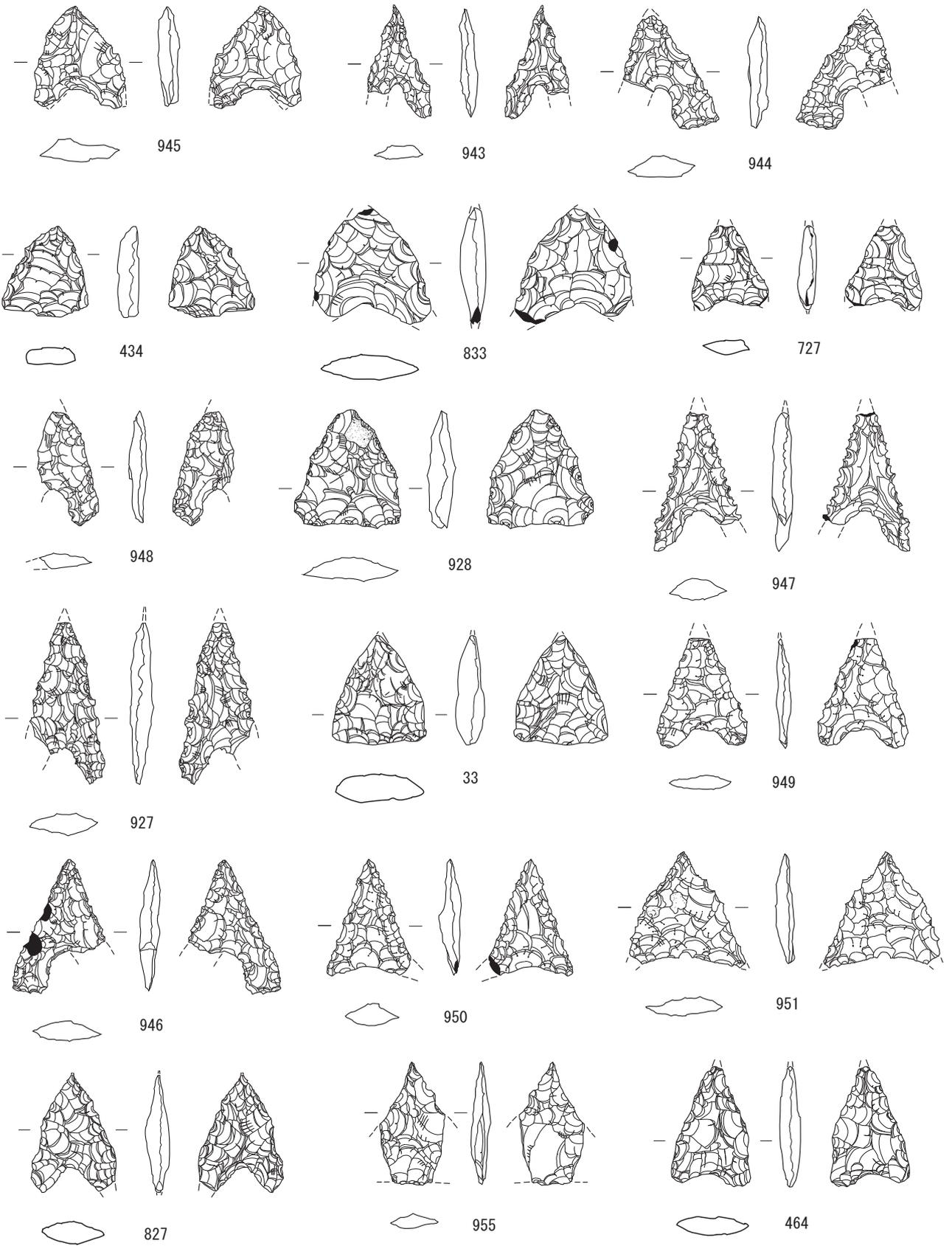


図 176 打製石鏃実測図



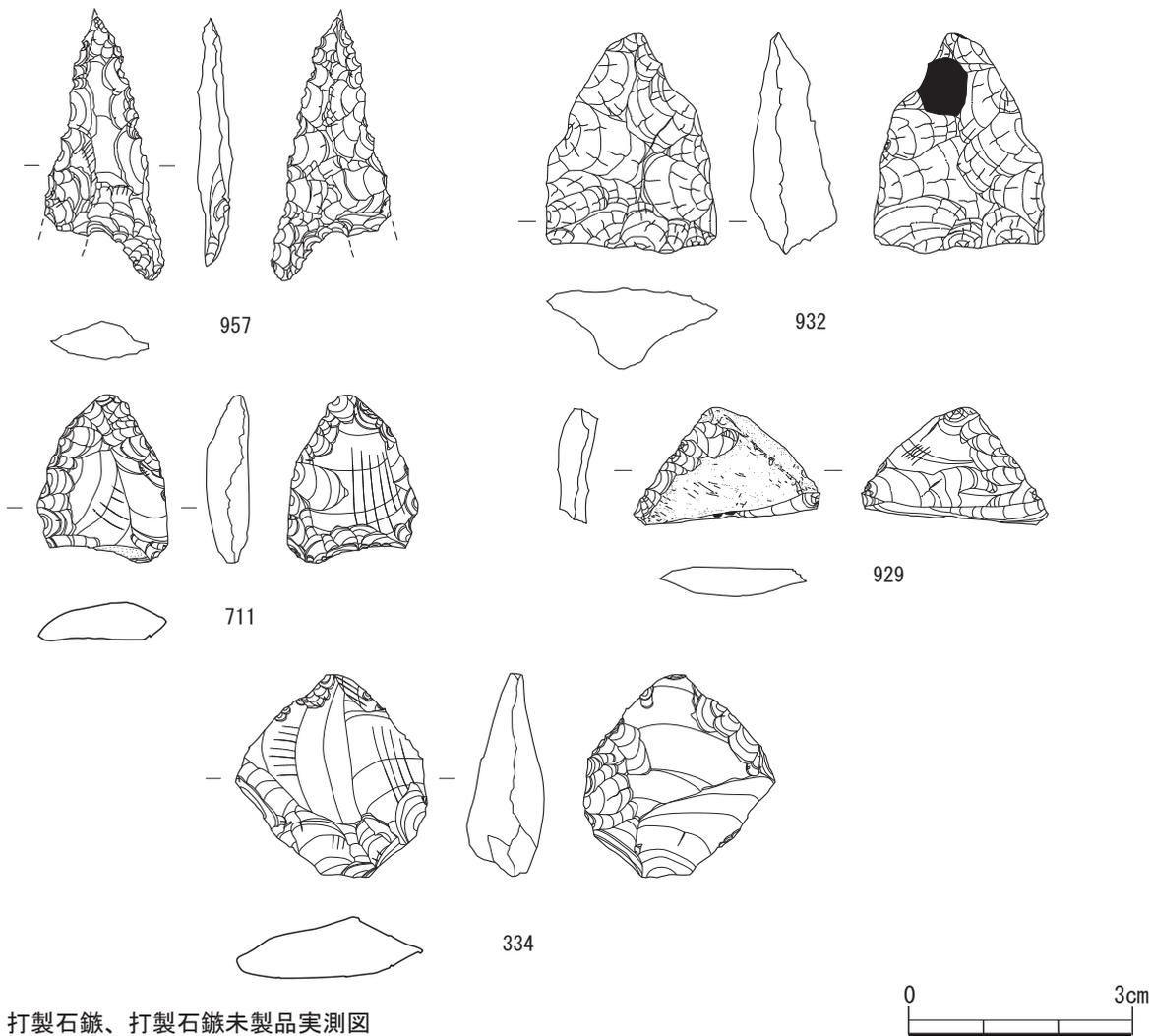


図 177 打製石鏃、打製石鏃未製品実測図

する平基無茎鏃と考えられる。素材の影響か中央部がやや厚手である。石材は 0b-a である。

790 は片側の脚部を欠損する。平面が三角形を呈する凹基無茎鏃である。作りは丁寧で、薄く仕上げられる。石材は An-a である。

842 は先端と基部の片側を欠損する。平面が三角形を呈する平基無茎鏃である。側縁のラインは片側がやや歪である。石材は 0b-a である。

911 は基部の片側を欠損する。平面が三角形を呈するやや大型の平基無茎鏃である。石材は An-a である

918 は平面が三角形を呈する平基無茎鏃である。端部は丸みを帯びる。石材は An-a である。

922 は先端と基部両端を若干欠損する。平面が三角形を呈する平基無茎鏃である。石材は 0b-b である。

打製石鏃未製品

まず、実測図を掲載した打製石鏃未製品に関する所

見を述べる。

929 は礫面を大きく残す剥片を素材として、側縁部より平坦剥離を施す。折損により製作を中止したと考えられる。石材は 0b-a である。

334 は腹面に平坦剥離が施されるが、素材の形状を留めている。厚みを減らすことが困難なため製作を中止したと考えられる。石材は 0b-a である。

711 は剥片の周縁部に剥離が行われ、先端部に押圧剥離が見られる。厚みを減らすことが困難なため製作を中止したと考えられる。石材は 0b-a である。

次に、紙幅の掣肘により実測図を掲載することが叶わない打製石鏃未製品について所見を述べる。

31 は背面に平坦剥離が施されるが、腹面は素材面が大きく残る。基部が夾雑物の影響により折損したため製作を中止したと考えられる。石材は 0b-a である。

32 は両面に粗い平坦剥離が施される。厚みを減らすことが困難なため製作を中止したと考えられる。石材

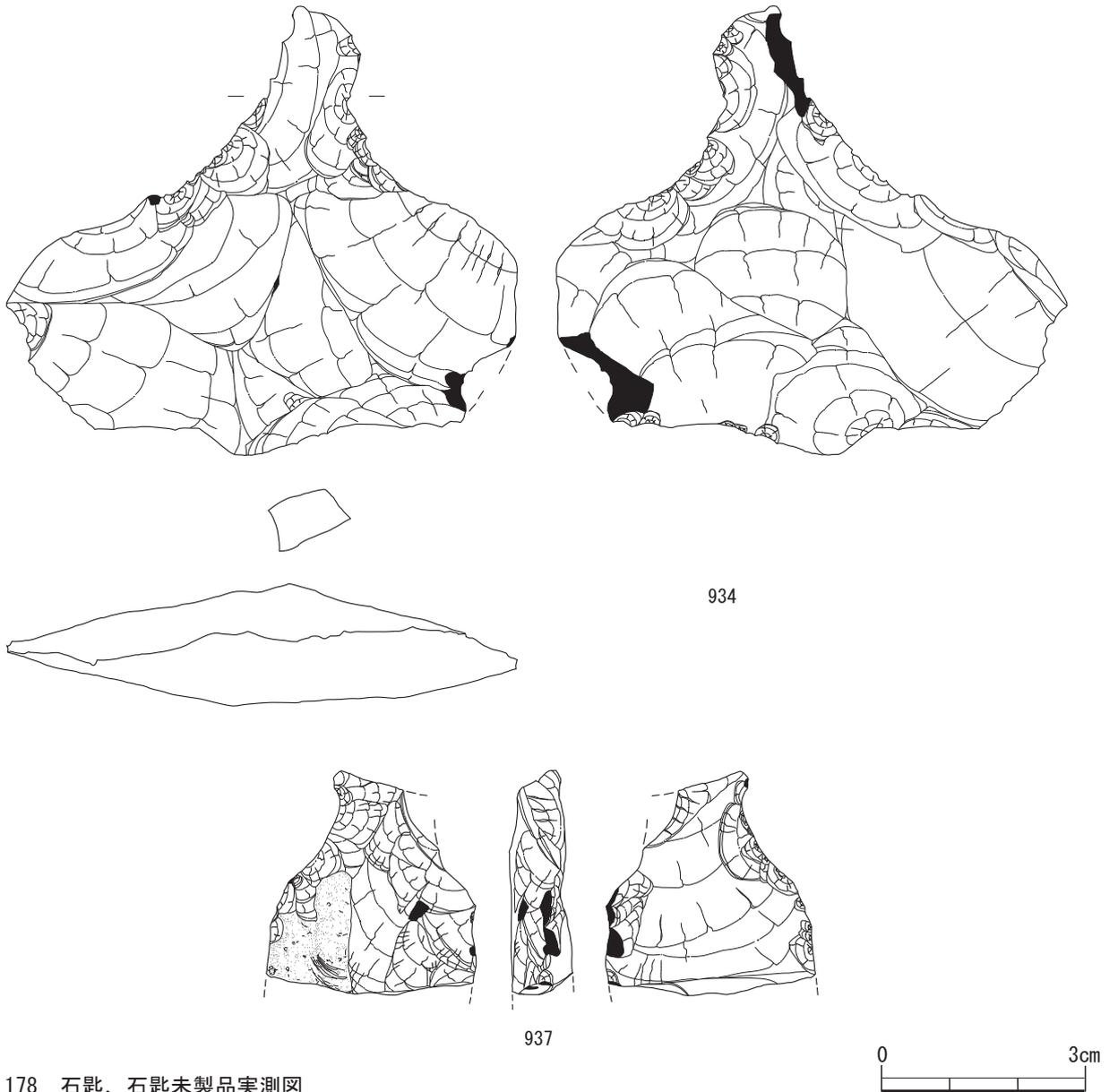


図 178 石匙、石匙未製品実測図

は 0b-a である。

463 は周縁部に剥離が行われ、背面の厚みのある部分に深い押圧剥離が見られる。折損により製作を中止したと考えられる。石材は 0b-a である。

782 は先端と片側縁を欠損する。折損により製作を中止したと考えられる。石材は 0b-a である。

石匙

実測図を掲載した石匙について、以下のとおり所見を述べる。

934 は横型の石匙で全体に大ぶりの平坦剥離が施される。つまみ部分は調整が行われるが、刃部調整は明確

でない。石材は An-a である。

石匙未製品

実測図を掲載した石匙未製品について、以下のとおり所見を述べる。

937 は縦型の石匙未製品である。つまみの作り出しは明確であるが、先端とつまみの一部を欠損し、製作を中止したと考えられる。石材は An-a である。

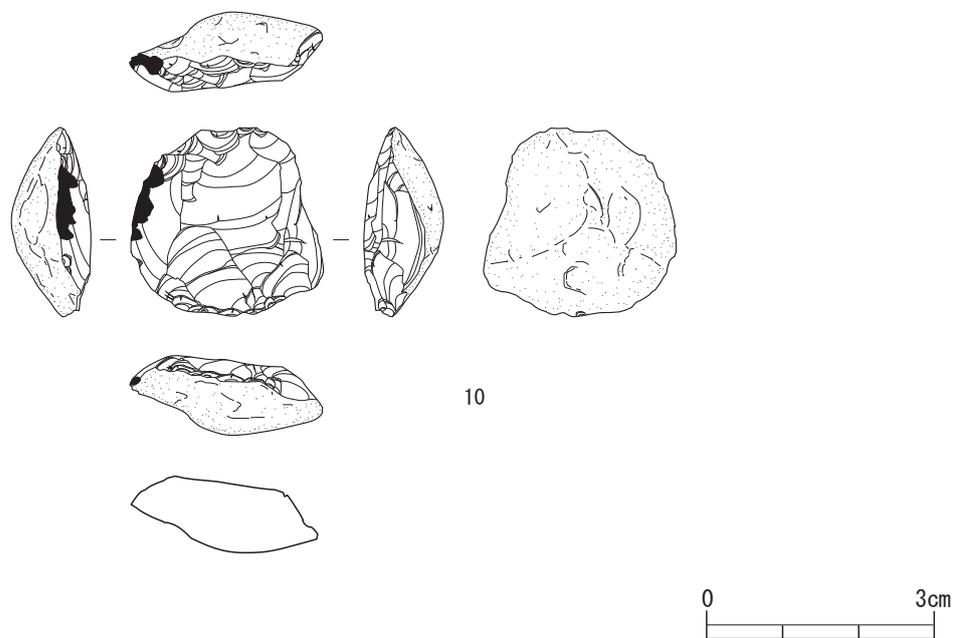


図 179 楔形石器実測図

楔形石器

実測図を掲載した楔形石器について、以下のとおり所見を述べる。

10 は分割礫を素材とし、上下両面に微細剥離が見られる。石材は 0b-d である。

石包丁未製品

実測図非掲載の石包丁未製品について以下のとおり所見を述べる。

886 は両側面を欠損し、剥離により本来の厚みも不明である。3面に研磨が見られる。石材は M である。

3-2-5 使用石材の比率

出土石器 947 点の中で 0b-a が 771 点（全体の 81.42%）出土し、本調査区において突出している。An-a が 76 点（8.03%）、0b-b が 13 点（1.68%）出土し、これらの西北九州産石材が合計 860 点、出土比率 90.81% を占める。

一方、東九州産と考えられる 0b-c は 3 点（0.32%）に過ぎず、極めて低い比率である。

在地、近隣産と考えられる 0b-d が 61 点（6.44%）、それ以外は 5 点以下の出土数であり、在地産の非黒曜石の利用が極めて限定的である。0b-d は石質の制

約からか未加工のものが多く、定型的な石器への利用はわずかしか確認されない。これらの傾向から、使用石材の中で西北九州産石材が寡占することが認められる。有明海沿岸に近い立地上、石材利用が西北九州産石材に集約されたと考えられる。

3-2-6 剥片の型式と比率

築地館跡出土石器の中で、剥片は 668 点（全体の 70.53%）出土している。それに使用痕剥片が 47 点（4.96%）、二次加工剥片が 45 点（4.75%）出土している。出土比率が高く、一定数のまとまりがあるため、剥片の型式分類を行った。

剥片の形式を縦長剥片、横長剥片、幅広、斜軸剥片、不定形剥片とし、破片等本来の形状が判別できないものは不明とした。剥片の形式分類という性格上使用痕剥片、二次加工剥片及びスクレイパーも分類の対象とした。

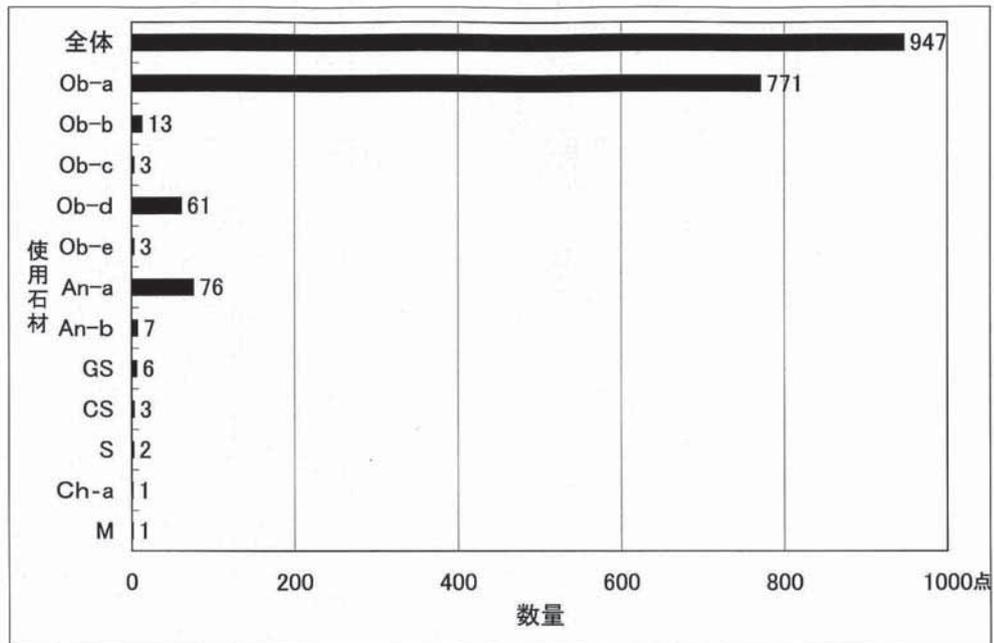


表 3 使用石材数量表

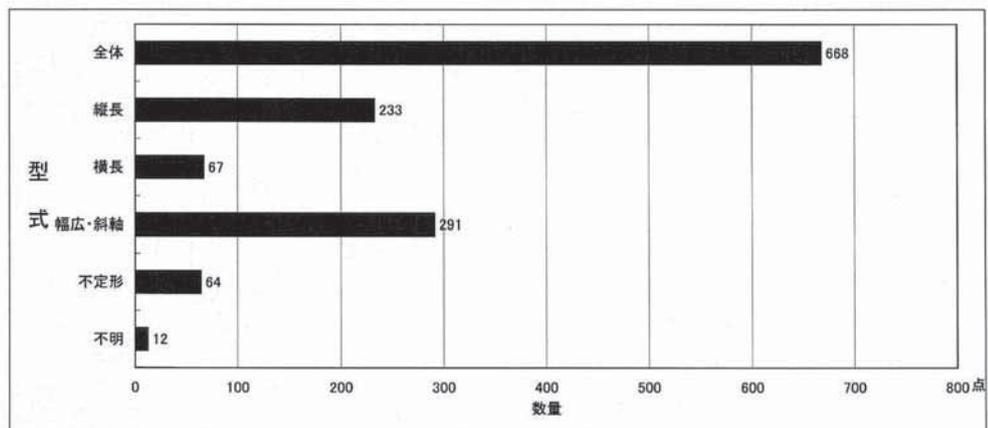


表 4 型式別素量表（剥片）

剥片は 668 点出土し、平面形状から分類した内訳は縦長剥片 233 点 (34.80%)、横長剥片 67 点 (10.02%)、

幅広剥片 291 点 (43.56%)、不定形剥片 64 点 (9.58%)、不明 12 点 (1.79%) である。

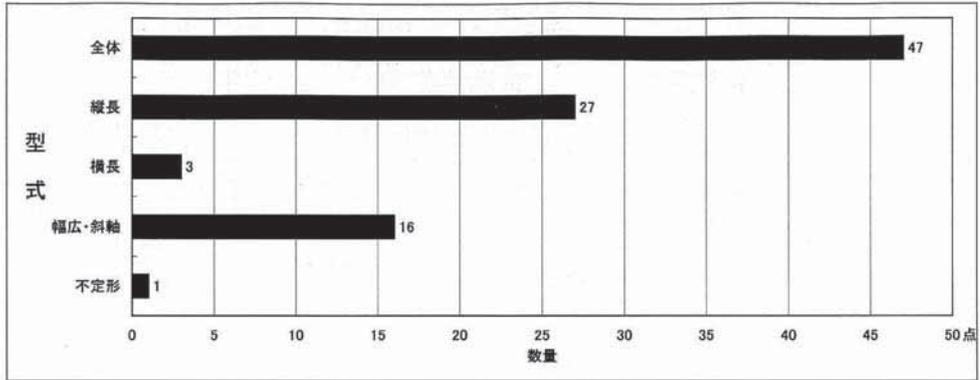


表 5 型式別素量表（使用痕剥片）

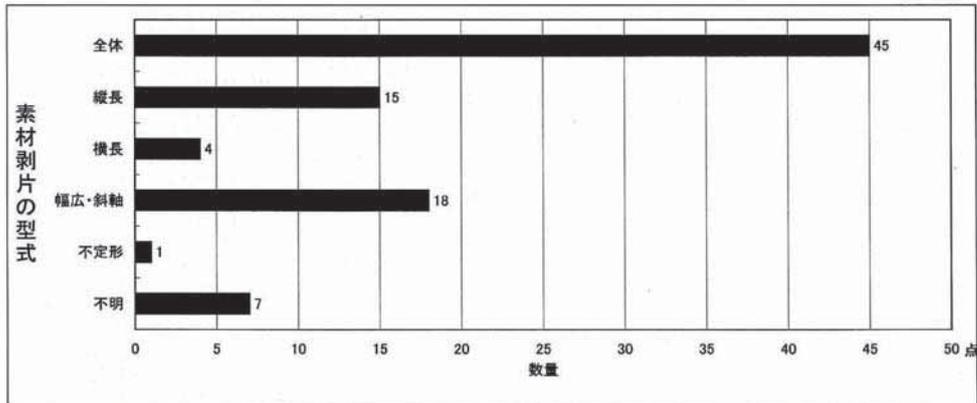


表 6 型式別素量表（二次加工剥片）

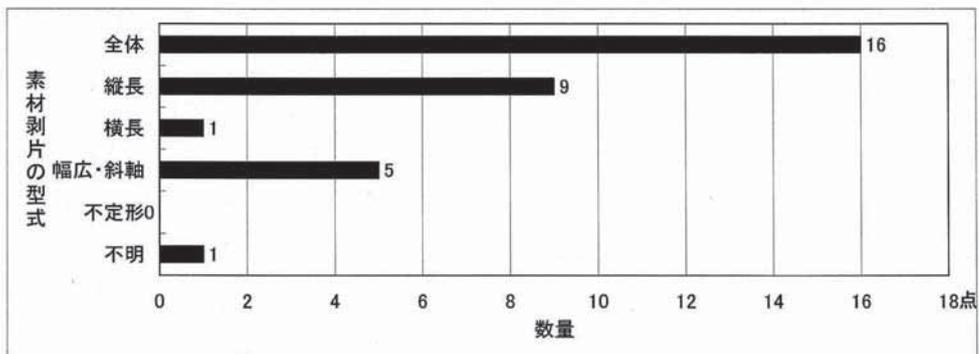


表 7 型式別素量表（スクレイパー）

使用痕剥片は 47 点出土し、その内訳は縦長剥片 27 点 (57.44%)、横長剥片 3 点 (6.38%)、幅広・斜軸剥片 15 点 (31.91%)、不定形剥片 1 点 (2.12%) である。

二次加工剥片は 45 点出土し、その内訳は縦長剥片 13 点 (28.89%)、横長剥片 4 点 (8.89%)、幅広・斜軸剥片 18 点 (40.00%)、不定形剥片 1 点 (2.22%)、不明 7 点 (15.56%) である。

スクレイパーは 16 点出土し、素材剥片の形状から分類した内訳は縦長剥片 9 点 (56.25%)、横長剥片 1 点 (6.25%)、幅広・斜軸剥片 5 点 (31.25%)、不定形剥片 0 点 (0.00%)、不明 1 点 (6.25%) である。

これらの剥片の形式分類により剥片の形式幅広、斜軸剥片が最も多く、縦長剥片がこれに次ぐことが確認出来る。縦長剥片が一定量出土しており、使用痕剥片、スクレイパーは縦長剥片が最も高い比率を占める。

石核や接合資料による検証は行っていないが、縦長剥片の出土数が多く、背面の観察から縦長剥片の連続剥離が確認出来る資料が少なからず見られることから、少なくとも縦長を指向した剥片剥離が行われていたと考えられる。

使用痕剥片及びスクレイパーは縦長剥片の比率が最も高く、器種の性格から縦長剥片を優先的に利用した結果と考えられる。

旧石器、縄紋時代の混入も考えられるが弥生時代としては高い比率であると考えられる。

表8 出土打製石器一覧

RQ 番号	遺構	層	器種	石材	重さ (g)	備考
1	SD05	埋1層	剥片	0b-a	3.4	不定形
2	SD05	埋1層	剥片	0b-a	1.6	幅広 (縦長寄り)
3	SD05	埋1層	剥片	0b-a	1.4	幅広
4	SD05	埋1層	剥片	0b-a	0.4	縦長
5	SD05	埋1層	剥片	0b-a	0.4	横長
6	SD05	埋2層	剥片	0b-a	1.8	幅広
7	SD05	埋2層	剥片	0b-a	1.6	幅広 (縦長寄り)
8	SD05	埋3層	原石	0b-d	6.1	小礫
9	SD05	埋3層	分割礫	0b-a	2.9	小礫
10	SD05	埋3a層	楔形石器	0b-d	4.9	分割礫素材
11	SD05	埋3a層	剥片	0b-a	5	不定形
12	SD05	埋3b層	剥片	0b-a	2.5	幅広
13	SD05	埋4層	石核	0b-a	5.4	残核・不定形
14	SD05	埋4層	細石刃	0b-a	0.5	やや大型
15	SD05	埋4層	破碎礫	0b-d	6.1	
16	SD05	埋5層	剥片	0b-a	0.5	不定形
17	SD05	埋5層	原石	0b-d	8.9	一部、小剥離あり
18	SD05	埋5層	剥片	0b-a	1.2	縦長
19	SD05	埋5層	剥片	0b-a	2.3	幅広
20	SD05	埋5層	剥片	0b-a	3.8	幅広
21	SD05	埋5層	剥片	0b-a	2.6	縦長
22	SD05	埋5層	剥片	0b-a	4.1	幅広
23	SD05	埋1層	剥片	0b-b	2.5	幅広
24	SD05	埋1層	剥片	0b-a	2.4	不定形
25	SD05	埋土一括	剥片	0b-a	1.5	不定形
26	SD05	表土	剥片	0b-a	9.3	幅広
27	SD05	埋2層	剥片	0b-a	1.8	縦長
28	SD05	埋3層	剥片	0b-a	1.6	幅広
29	SD05	埋5層	剥片	0b-a	0.4	幅広
30	SD05	埋5層	剥片	0b-a	0.4	幅広
31	SD05	埋1層	打製石鏃未製品	0b-a	3.1	未製品
32	SD05	埋1層	打製石鏃未製品	0b-a	3	未製品
33	SD05	埋1層	打製石鏃	0b-a	1.3	第1a類
34	SD05	埋5層	剥片	0b-a	1	幅広 (縦長寄り)
35	SD05	埋土一括	破碎礫	0b-d	1.7	小礫
36	SD05	埋3層	剥片	0b-a	0.4	縦長
37	SD05	埋3層	碎片	0b-a	0.3	
38	SD05	埋5層	剥片	0b-a	0.6	幅広
39	SD05	埋2層	剥片	0b-a	1.2	幅広
40	SD05	埋2層	碎片	0b-a	0.2	
41	SD05	埋5層	剥片	0b-a	7.5	不定形
42	SD05	埋5層	使用痕剥片	0b-a	6.3	縦長
43	SD05	埋5層	剥片	0b-a	1.4	幅広
44	SD05	埋5層	石核	0b-a	10.1	求心状剥離
45	SD05	埋5層	使用痕剥片	0b-a	3	縦長
46	SD05	埋5層	二次加工剥片	0b-a	2.9	縦長
47	SD05	埋5層	二次加工剥片	0b-a	5.2	横長
48	SD05	埋5層	剥片	0b-a	1	幅広
49	SD05	埋5層	剥片	0b-a	5.5	縦長
50	SD05	埋土一括	使用痕剥片	0b-a	4.7	縦長
51	SD05	埋5層	剥片	An-a	4.1	不定形
52	SI17	埋1層	剥片	0b-a	3.2	幅広
53	SI17	埋1層	剥片	0b-a	15.1	縦長
54	SI17	埋1層	剥片	0b-a	1.7	幅広
55	SI17	埋1層	剥片	0b-a	0.6	縦長
56	SI17	埋1層	剥片	0b-a	0.1	縦長
57	SI17	埋1層	剥片	0b-a	1	幅広
58	SI17	埋1層	剥片	0b-a	1.2	幅広
59	SI17	埋1層	剥片	0b-a	0.1	幅広
60	SI17	埋2層	碎片	0b-a	0	
61	SI17	埋2層	剥片	An-a	1.1	幅広
62	SI17	埋2層	剥片	0b-a	0.8	幅広
63	SI17	埋3層	剥片	0b-a	2.1	縦長
64	SI17	埋3層	原石	0b-d	4.4	小礫
65	SI17	埋土一括	使用痕剥片	0b-a	1.8	縦長

RQ 番号	遺構	層	器種	石材	重さ (g)	備考
66	S117	埋土一括	二次加工剥片	Ob-a	2.5	縦長
67	S117	埋土一括	剥片	Ob-a	0.5	不定形
68	S117	埋土一括	剥片	Ob-a	2.7	横長
69	S117	埋土一括	剥片	Ob-a	1.5	幅広
70	S120	埋1層	剥片	Ob-a	0.9	縦長
71	S120	埋1層	剥片	Ob-a	0.3	縦長
72	S120	埋1層	剥片	Ob-a	1.1	縦長
73	S120	埋1層	剥片	Ob-a	0.7	幅広
74	S120	埋1層	剥片	Ob-a	2.4	縦長
75	S120	埋1層	使用痕剥片	Ob-a	2	幅広
76	S120	埋1層	剥片	Ob-a	1.1	縦長
77	S120	埋1層	剥片	Ob-a	1	幅広
78	S120	埋1層	剥片	Ob-a	1.3	縦長
79	S120	埋1層	剥片	Ob-a	1.3	幅広
80	S120	埋1層	使用痕剥片	Ob-a	1.9	幅広
81	S120	埋1層	使用痕剥片	Ob-a	3.8	縦長
82	S120	埋1層	剥片	Ob-a	8.7	幅広 (縦長寄り)
83	S120	埋1層	剥片	Ob-a	1.2	幅広
84	S120	埋1層	剥片	Ob-a	0.7	縦長
85	S120	埋1層	剥片	Ob-a	0.7	縦長
86	S120	埋1層	剥片	Ob-a	3	幅広
87	S120	埋1層	剥片	Ob-a	0.1	縦長
88	S120	埋1・2層	剥片	Ob-a	2.8	縦長
89	S120	埋1・2層	剥片	Ob-a	1.4	幅広
90	S120	埋1・2層	剥片	Ob-a	0.4	縦長
91	S120	埋1・2層	剥片	Ob-a	0.6	幅広
92	S120	埋1・2層	剥片	Ob-a	0.8	縦長
93	S120	埋1・2層	剥片	Ob-a	0.8	縦長
94	S120	埋1・2層	剥片	Ob-a	0.9	幅広
95	S120	埋2層	剥片	Ob-a	0.4	幅広
96	S120	埋2層	剥片	Ob-a	2.5	幅広
97	S120	埋1層	剥片	Ob-a	0.9	縦長
98	S120	埋1層	剥片	Ob-a	1.5	縦長
99	S120	埋1層	剥片	Ob-a	0.8	縦長
100	S120	埋2層	剥片	Ob-a	0.9	縦長
101	S120	埋2層	剥片	Ob-a	0.9	縦長
102	S120	埋2層	剥片	Ob-a	0.9	横長
103	S120	埋1層	破碎礫	Ob-a	0.4	小礫
104	S120	埋1層	剥片	Ob-a	5.4	縦長
105	S120	埋1層	剥片	Ob-a	0.2	幅広
106	S120	埋1層	剥片	Ob-a	1.6	幅広
107	S120	埋2層	剥片	Ob-a	1.3	縦長
108	S120	埋2層	剥片	Ob-a	1.8	縦長
109	S120	埋2層	剥片	Ob-a	1.7	幅広
110	S120	埋2層	剥片	Ob-a	3.8	縦長
111	S120	埋2層	剥片	Ob-a	1	幅広
112	S120	埋1層	剥片	Ob-a	0.7	縦長
113	S120	埋1層	剥片	Ob-a	1.5	幅広
114	S120	埋1層	剥片	Ob-a	1.1	縦長
115	S120	埋1層	剥片	Ob-a	1	縦長
116	S120	埋1層	剥片	Ob-a	0.2	不定形
117	S120	埋1層	使用痕剥片	Ob-a	2.2	縦長
118	S120	埋1層	剥片	Ob-a	0.1	横長
119	S120	埋1層	剥片	Ob-a	0.1	不定形
120	S120	埋1層	二次加工剥片	Ob-a	1.6	幅広
121	S120	埋1・2層	剥片	Ob-a	1.4	不定形
122	S120	埋1・2層	剥片	Ob-a	1.6	幅広
123	S120	埋1・2層	剥片	Ob-a	0.8	縦長
124	S120	埋2層	剥片	Ob-a	2.1	幅広
125	S120	埋2層	剥片	Ob-a	2	縦長
126	S120	埋土一括	剥片	Ob-a	0.1	不定形
127	S120	埋土一括	剥片	Ob-a	0.2	幅広
128	S120	埋土一括	剥片	Ob-a	2	縦長
129	S120	埋土一括	原石	Ob-d	1.5	小礫
130	S120	埋土一括	剥片	Ob-a	2	不定形

RQ 番号	遺構	層	器種	石材	重さ (g)	備考
131	S120	埋土一括	剥片	Ob-a	8.7	幅広
132	S120	埋土一括	剥片	Ob-a	1.3	幅広
133	S120	埋土一括	剥片	Ob-a	0.5	縦長
134	S120	埋土一括	剥片	Ob-a	1.5	横長
135	S120	埋土一括	剥片	Ob-a	0.3	幅広
136	S120	埋土一括	剥片	Ob-a	0.2	縦長
137	S120	埋2層	原石	Ob-d	1.4	小礫
138	S120	埋1層	剥片	An-a	1.6	横長
139	S120	埋1層	剥片	An-a	0.4	幅広
140	S120	埋1層	剥片	Ob-a	0.5	縦長
141	S120	埋土一括	剥片	Ob-a	1.1	不定形
142	S121	埋土一括	剥片	Ob-a	0.9	縦長
143	S121	埋土一括	剥片	Ob-a	0.7	縦長
144	S121	埋土一括	剥片	Ob-a	0	
145	S121	埋土一括	剥片	Ob-a	2.3	縦長
146	S121	埋3層	剥片	Ob-a	1.9	縦長
147	S121	埋3層	原石	Ob-d	5.9	小礫
148	S121	埋3層	剥片	Ob-a	4	幅広
149	S121	埋土一括	剥片	Ob-a	0.3	縦長
150	S121	埋土一括	剥片	Ob-a	0.5	幅広
151	S121	埋1層	使用痕剥片	Ob-a	1.4	縦長
152	S121	埋3層	剥片	Ob-a	3.4	幅広
153	S121	埋土一括	剥片	Ob-a	2.1	縦長
154	S121	埋1層	剥片	Ob-a	1.6	不定形
155	S121	埋1層	剥片	Ob-a	1.2	不定形
156	S121	埋1層	剥片	Ob-a	0.3	幅広
157	S121	埋1層	剥片	Ob-a	0.6	縦長
158	S121	埋3層	剥片	Ob-a	2.2	縦長
159	S121	埋3層	使用痕剥片	Ob-a	1.3	縦長
160	S121	埋3層	原石	Ob-d	1.7	小礫
161	S121	埋3層	剥片	Ob-a	0.6	横長
162	S121	埋3層	使用痕剥片	Ob-a	1.1	縦長
163	S121	埋3層	剥片	Ob-a	1	幅広
164	S121	埋3層	剥片	Ob-a	0.7	不定形
165	S121	埋3層	剥片	Ob-a	0.9	幅広 (縦長寄り)
167	S122	埋土一括	剥片	Ob-a	1.4	縦長
168	S122	埋土一括	剥片	Ob-a	0.9	縦長
169	S122	埋1層	剥片	Ob-a	1.5	縦長
170	S122	埋土一括	剥片	Ob-a	2.4	横長
171	S122	埋土一括	剥片	Ob-a	1	幅広
172	S123	埋土一括	剥片	Ob-a	2.6	縦長
173	S123	埋土一括	剥片	Ob-a	2.9	縦長
174	S123	埋土一括	剥片	Ob-a	0.8	不定形
175	S123	埋土一括	剥片	Ob-a	0.6	幅広
176	S123	埋土一括	剥片	Ob-a	6.2	幅広
177	S123	埋土一括	剥片	Ob-a	1.1	幅広
178	S123	埋土一括	剥片	Ob-a	1.6	縦長
179	S123	埋1層	剥片	Ob-a	0.4	不定形
180	S123	埋1層	剥片	Ob-a	8.6	幅広
181	S123	埋1層	剥片	Ob-a	2.6	幅広
182	S123	埋1層	剥片	Ob-a	1.4	縦長
183	S123	埋1層	剥片	An-a	6.5	幅広
184	S123	埋1層	剥片	Ob-a	1.9	幅広
185	S123	埋1層	剥片	Ob-a	1.1	幅広
186	S123	埋1層	剥片	Ob-a	0.2	横長
187	S123	埋1層	剥片	Ob-a	0.9	幅広
188	S123	埋1層	剥片	Ob-a	0.2	縦長
189	S123	埋1層	剥片	Ob-a	2.8	幅広
190	S129	埋2層	剥片	Ob-a	1.2	縦長
191	S129	埋2層	原石	Ob-d	2.5	小礫
192	S129	埋2層	剥片	Ob-a	1	幅広
193	S129	埋2層	剥片	Ob-d	3.7	縦長
194	S129	埋2層	原石	Ob-d	2.4	小礫
195	S129	埋2層	剥片	Ob-a	0.6	不定形
196	S129	埋2層	剥片	Ob-a	0	

RQ 番号	遺構	層	器種	石材	重さ (g)	備考
197	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	0.2	幅広
198	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	0.8	幅広
199	S129	埋土一括	剥片	Ob-a	4.3	幅広
200	S129	埋土一括	剥片	Ob-a	0.1	縦長
201	S129	埋 2 層	原石	Ob-d	0.9	小礫
202	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	0.8	横長
203	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	0.8	縦長
204	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	0.5	幅広
205	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	0.3	幅広
206	S129	埋 2 層	二次加工剥片	Ob-a	0.2	石鏃未製品?
207	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	0.4	横長
208	S129	埋 2 層	二次加工剥片	Ob-a	0.8	石鏃未製品?
209	S129	埋 3 層	剥片	Ob-a	1.2	縦長
210	S129	埋 3 層	剥片	Ob-a	0.4	縦長
211	S129	埋 3 層	石核	Ob-a	8.6	
212	S129	埋 1・2 層	剥片	An-a	2.3	幅広
213	S129	埋 1・2 層	剥片	Ob-a	0.6	縦長
214	S129	埋 1・2 層	碎片	Ob-a	0	
215	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	2	縦長
216	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	2.6	横長
217	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	0.3	不定形
218	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	0.2	縦長
219	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	1.7	縦長
220	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	1.2	縦長
221	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	0.5	縦長
222	S129	埋土一括	石核	Ob-a	3.1	賽子状
223	S129	埋土一括	剥片	Ob-a	2.5	不定形
224	S129	埋土一括	原石	Ob-d	2.7	小礫
225	S129	埋土一括	剥片	Ob-a	0.4	幅広
226	S129	埋土一括	石核	Ob-a	12.9	礫または半割礫素材
227	S129	埋 1 層	剥片	Ob-a	1.1	幅広
228	S129	埋 1 層	剥片	Ob-a	4.8	縦長
229	S129	埋 1・2 層	使用痕剥片	Ob-a	3	幅広
230	S129	埋 1・2 層	剥片	Ob-a	2	幅広
231	S129	埋 1・2 層	二次加工剥片	Ob-a	4.1	幅広
232	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	1.8	幅広
233	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	0.2	縦長
234	S129	埋 2 層	剥片	An-a	5.1	縦長
235	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	0.4	縦長
236	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	2.4	幅広
237	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	2.3	縦長
238	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	4.4	縦長
239	S129	埋 2 層	剥片	Ob-a	1.7	縦長
246	S129	埋 3 層	剥片	An-a	0.5	横長
247	S129	埋 3 層	分割礫	Ob-d	15.3	
248	S129	埋 3 層	剥片	Ob-a	0.2	不定形
249	S129	埋 3 層	剥片	Ob-a	0.4	幅広
250	S129	埋 2 層	原石	Ob-a	3.5	小礫
251	S129	埋 1・2 層	スクレイパー	Ob-a	2.6	縦長剥片素材
252	S129	埋 1・2 層	剥片	Ob-a	2.9	縦長
253	S129	埋 1 層	打製石鏃	Ob-a	0.5	基部破片
254	S129	埋 1 層	剥片	Ob-a	0.9	横長
255	S132	埋土一括	剥片	Ob-a	0.5	縦長
256	S132	埋 1 層	剥片	Ob-a	2.2	幅広
257	S132	埋 1 層	剥片	Ob-a	2	縦長
258	S132	埋 1 層	剥片	Ob-a	1.5	縦長
259	S132	埋 1 層	剥片	Ob-a	0.1	縦長
260	S132	埋 1 層	剥片	Ob-a	1.3	不定形
261	S132	埋 1 層	剥片	Ob-a	0.9	縦長
262	S132	埋土一括	剥片	Ob-a	0.9	縦長
263	S132	埋 1 層	石核	Ob-a	15.1	分割礫素材、不定形
264	S132	埋 1 層	剥片	GS	1.9	不定形
265	S132	埋 1 層	剥片	Ob-a	0.7	幅広
266	S132	埋 1 層	剥片	Ob-a	0.9	縦長
267	S132	埋 1 層	使用痕剥片	Ob-a	9.8	縦長

RQ 番号	遺構	層	器種	石材	重さ (g)	備考
268	S132	埋1層	剥片	Ob-a	1.3	幅広
269	S132	埋2層	剥片	Ob-a	2.4	縦長
270	S132	埋2層	剥片	Ob-a	1	縦長
271	S132	埋2層	剥片	Ob-a	0.7	縦長
272	S132	埋2層	剥片	Ob-a	3	縦長
273	S132	埋2層	剥片	Ob-a	4.7	縦長
274	S132	埋2層	剥片	Ob-a	0.5	縦長
275	S132	埋2層	剥片	Ob-a	1	不定形
276	S132	埋2層	剥片	Ob-a	1.3	不定形
277	S132	埋2層	剥片	Ob-a	1.1	幅広
278	S132	埋2層	剥片	Ob-a	0.7	縦長
279	S132	埋2層	スクレイパー	Ob-a	2.7	幅広剥片素材
280	S132	埋2層	剥片	Ob-a	0.2	幅広
281	S132	埋2層	剥片	Ob-a	0.4	縦長
282	S132	埋2層	剥片	Ob-a	3	幅広
283	S132	埋2層	剥片	Ob-a	5.6	幅広
284	S132	埋土一括	剥片	Ob-d	1.1	幅広
285	S132	埋土一括	台形石器	An-a	4.6	
286	S132	埋土一括	剥片	Ob-a	0.4	縦長
287	S132	埋1層	剥片	Ob-a	5.8	縦長
288	W30	4層	剥片	Ob-a	0.1	不定形
289	S133	埋1層	剥片	Ob-a	1.4	縦長
290	S133	埋1層	剥片	Ob-a	2.1	幅広
291	S136	埋1層	剥片	An-a	9.5	横長
292	S136	埋土一括	剥片	An-a	0.7	幅広
293	S136	埋1層	使用痕剥片	Ob-a	3	縦長
294	S136	埋2層	剥片	Ob-a	0.9	幅広
295	S136	埋土一括	剥片	Ob-a	2.4	縦長
296	S136	埋土一括	剥片	Ob-a	4	幅広
297	S138	埋1・2層	剥片	Ob-a	3.6	幅広
298	SK09	埋土一括	剥片	Ob-b	0.4	幅広
299	SK17	埋1層	剥片	Ob-a	1.7	幅広
300	SK17	埋土一括	剥片	Ob-a	1.2	幅広
301	SK17	埋土一括	剥片	Ob-a	4.9	幅広
302	SK17	埋土一括	剥片	Ob-a	0.8	縦長
303	SK17	埋土一括	剥片	Ob-a	0.6	幅広
304	SK17	埋土一括	剥片	Ob-a	0.2	幅広
305	SK17	埋1層	剥片	Ob-a	0.5	縦長
306	SK17	埋1層	剥片	Ob-a	0.6	幅広
307	SK17	埋土一括	剥片	Ob-a	0.8	不定形
308	SK17	埋土一括	剥片	Ob-a	0.2	縦長
309	SK17	埋土一括	剥片	Ob-a	0.2	幅広
310	SK17	埋土一括	剥片	Ob-a	0.4	幅広
311	SK18	埋土一括	使用痕剥片	Ob-a	2.6	縦長
312	a29	4層	剥片	Ob-a	0.2	不定形
313	a29	攪乱	剥片	Ob-a	6.6	縦長
314	a30	3層	剥片	Ob-a	1.7	縦長
315	a30	3層	剥片	Ob-a	2	幅広
316	a30	4層	剥片	Ob-a	2.6	幅広
317	a31		剥片	Ob-a	3.2	縦長
318	a31		剥片	Ob-a	2	幅広
319	a31	3層	剥片	Ob-a	1	幅広
320	a31	3層	剥片	Ob-a	0.5	幅広
321	a31	3層	剥片	Ob-a	3.3	縦長
322	a31	3層	剥片	Ob-a	1.9	縦長
323	a31	3層	剥片	Ob-a	1.7	幅広
324	a31	3層	剥片	Ob-a	0.3	幅広
325	a31	3層	剥片	Ob-a	0.2	幅広
326	a31	3層	剥片	Ob-a	0.2	幅広
327	a31	3層	剥片	Ob-a	2.6	幅広
328	a32	清掃一括	剥片	Ob-a	0.6	不定形
329	a32	清掃一括	剥片	Ob-a	0.7	幅広
330	a32	清掃一括	剥片	Ob-a	3.1	打面再生剥片
331	a32	清掃一括	打製石鏃	Ob-a	1.4	先端欠損
332	a32	清掃一括	剥片	Ob-a	2.4	幅広

RQ 番号	遺構	層	器種	石材	重さ (g)	備考
333	a32	清掃一括	剥片	Ob-a	1.1	幅広
334	a32	清掃一括	打製石鏃未製品	Ob-a	4.4	
335	a33	清掃一括	二次加工剥片	Ob-a	1.3	縦長
336	a33	清掃一括	剥片	Ob-a	1.4	幅広
337	ab32・33	清掃一括	石核	Ob-a	27	不定形
338	b30		剥片	Ob-a	1	幅広
339	b30		剥片	Ob-a	0.7	縦長
340	b30		剥片	Ob-a	1.2	縦長
341	b30		剥片	Ob-a	1.2	縦長
342	b30		剥片	Ob-a	1.9	横長
343	b30	3層	剥片	Ob-a	0.8	幅広
344	b30		剥片	Ob-a	1.2	幅広
345	b30		剥片	Ob-a	0.4	幅広
346	b30		剥片	Ob-a	1	幅広
347	b30		剥片	Ob-a	4.6	幅広
348	b30		使用痕剥片	Ob-a	1.7	縦長
349	b30		剥片	Ob-a	4.3	幅広
350	b30		剥片	Ob-a	0.3	幅広
351	b30		剥片	Ob-a	0.8	幅広
352	b30		剥片	Ob-a	1.2	横長
353	b30		使用痕剥片	Ob-a	1	縦長
354	b31	3層	剥片	Ob-a	0.7	幅広
355	b31		使用痕剥片	Ob-a	11	斜軸
356	b32	3層	剥片	Ob-a	1.4	幅広
357	b32	清掃一括	原石	An-b	6.7	小礫
358	b33	清掃一括	二次加工剥片	An-a	13.3	幅広
359	b33	清掃一括	剥片	Ob-a	2.3	幅広
360	b33	清掃一括	剥片	Ob-a	2	横長
361	b33	清掃一括	剥片	Ob-a	1.9	縦長
362	b33	清掃一括	剥片	Ob-a	0.8	幅広
363	b33	清掃一括	剥片	Ob-a	0.4	縦長
364	c32	3層	剥片	Ob-a	1.9	幅広
365	c32	3層	剥片	Ob-a	0.8	不定形
366	c32	3層	剥片	Ob-a	1.7	縦長
367	T27		剥片	Ob-a	2.1	縦長
368	V28	4層	石核	Ob-a	9.5	小礫素材・単設打面
369	V28	3層	剥片	Ob-a	0.6	横長
370	V28	4層	石錐	Ob-b	1.9	
371	V28	4層	剥片	Ob-a	1.4	不定形
372	V29	4層	剥片	Ob-a	0.8	縦長
373	V29	4層	原石	Ob-a	4.4	小礫
374	V29	3層	剥片	Ob-a	5.5	幅広
375	V29	3層	剥片	Ob-a	2.6	幅広
376	V29	4層	原石	Ob-d	6.8	小礫
377	V29	4層	剥片	Ob-a	2.3	縦長
378	V29	4層	剥片	Ob-a	0.4	幅広
379	W27	客土一括	剥片	Ob-a	1.3	縦長
380	W27	客土一括	剥片	Ob-a	0.7	縦長
381	W27	客土一括	剥片	Ob-a	9.3	横長
382	W27	3層	剥片	Ob-a	0.6	幅広
383	W27	3層	剥片	Ob-a	1	縦長
384	W27	3層	剥片	Ob-a	0.6	幅広
385	W27	3層	剥片	Ob-a	2.4	縦長
386	W27	3層	剥片	Ob-a	0.8	幅広
387	W27	4層	剥片	Ob-a	2.6	幅広
388	W27	4層	剥片	Ob-a	0.9	幅広
389	W27	客土一括	剥片	Ob-a	2.8	縦長
390	W27	客土一括	剥片	Ob-d	1.4	幅広
391	W27	客土一括	剥片	Ob-a	0.7	斜軸
392	W27	3層	剥片	Ob-a	0.4	幅広
393	W27	3層	剥片	Ob-a	0.2	幅広
394	W27	3層	剥片	Ob-a	0.5	縦長
395	W28	3層	破碎礫	Ob-d	5	小礫
396	W28	3層	剥片	Ob-a	2.2	横長
397	W28	3層	剥片	Ob-a	0.2	幅広

RQ 番号	遺構	層	器種	石材	重さ (g)	備考
398	W28	3層	剥片	0b-a	1.4	不定形
399	W29	4層	剥片	0b-a	0.5	幅広
400	W29	4層	剥片	0b-a	1.9	縦長
401	W29	4層	石核	0b-d	3.3	分割礫素材
402	W29	4層	剥片	0b-a	1.9	幅広
403	W30	4層	剥片	0b-a	10.5	幅広
404	X27	4層	剥片	0b-a	2.8	縦長
405	X28	3層	剥片	0b-a	0.9	縦長
406	X28	3層	剥片	0b-a	0.2	幅広
407	X30	4層	剥片	0b-a	6.4	縦長
408	X30	4層	剥片	0b-a	1.2	幅広
409	X30	4層	使用痕剥片	0b-a	2.4	縦長
410	X30	4層	剥片	0b-a	3.1	縦長
411	X31	4層	剥片	0b-a	3	幅広
412	X31	4層	剥片	0b-a	1.8	縦長
413	X31	4層	二次加工剥片	0b-a	1.4	縦長
414	X31	4層	剥片	0b-a	3.5	横長
415	X28		使用痕剥片	An-a	7.2	横長
416	X30	4層	剥片	0b-a	0.8	幅広
417	X ~ a27・28	3層	剥片	An-a	11	不定形
418	Y28	3層	原石	0b-a	2.9	小礫
419	Y29	3層	剥片	0b-a	4	幅広
420	Y29	3層	剥片	0b-a	0.5	幅広
421	Y29	4層	剥片	0b-a	0.3	横長
422	Y29	3層	剥片	0b-a	0.4	縦長
423	Y29	4層	剥片	An-a	1.2	縦長
424	Y30	3層	剥片	0b-a	1.4	幅広
425	Y30	3層	スクレイパー	0b-a	2.4	幅広剥片素材
426	Y30	3層	剥片	0b-a	1.9	縦長
427	Y30	4層	剥片	0b-a	1	横長
428	Y30	4層	剥片	0b-a	3.4	幅広
429	Y30	4層	剥片	0b-a	0.4	縦長
430	Y31	4層	剥片	0b-a	1.3	幅広
431	Y32	3層	剥片	0b-a	1.7	縦長
432	Y32	3層	剥片	0b-a	6	縦長
433	Y32	3層	二次加工剥片	0b-a	2.2	幅広
434	Y32	4層	打製石鏃	0b-a	0.8	
435	Y33	3層	使用痕剥片	0b-a	5	縦長
436	Y33	3層	剥片	0b-a	1.1	幅広
437	Y33	pit	剥片	0b-a	0.8	幅広
438	Y35	4層	剥片	0b-a	1.5	幅広
439	Y35	4層	剥片	0b-a	1	幅広
440	Y35	客土一括	石核	0b-a	6.3	剥片素材
441	Z24	4層	剥片	0b-a	8.7	幅広
442	Z28	3層	剥片	0b-a	1	縦長
443	Z28	3層	剥片	0b-a	0.8	縦長
444	Z28	攪乱	剥片	0b-a	3.1	不定形
445	Z28	攪乱	剥片	0b-a	4.6	幅広
446	Z28	攪乱	剥片	0b-a	2.8	縦長
447	Z28	攪乱	剥片	0b-a	0.4	幅広
448	Z28	3層	剥片	0b-a	0.4	縦長
449	Z28	3層	剥片	0b-a	1.1	縦長
450	Z28	攪乱	剥片	0b-a	1.3	縦長
451	Z28	攪乱	剥片	0b-a	1.7	幅広
452	Z29	3層	破碎礫	0b-d	5.4	小礫
453	Z30	3層	剥片	0b-a	3.4	幅広
454	Z30	3層	剥片	0b-a	1.6	不定形
455	Z31	3層	剥片	0b-a	1.2	幅広
456	Z31	3層	剥片	0b-a	0.9	縦長
457	Z31	3層	剥片	0b-a	1.6	不定形
458	Z31	4層	二次加工剥片	0b-a	0.6	石鏃未製品?
459	Z31	4層	剥片	0b-a	0.2	幅広
460	Z31	3層	剥片	0b-a	1	縦長
461	Z34	4層	剥片	0b-a	2.1	幅広
462	Z34	4層	剥片	0b-a	0.6	幅広

RQ 番号	遺構	層	器種	石材	重さ (g)	備考
463	Z34	4層	打製石鏃未製品	Ob-a	1.6	
464	Z35	4層	打製石鏃	Ob-a	0.8	
465	X27		剥片	Ob-a	0.4	横長
466	X ~ a27・28	3層	剥片	Ob-a	1.6	縦長
467	X ~ a27・28	3層	剥片	Ob-a	0.5	幅広
468	pit	埋土一括	剥片	Ob-a	0.7	縦長
469		客土一括	使用痕剥片	Ob-a	3.5	幅広
470		客土一括	剥片	Ob-a	4.2	縦長
471		客土一括	剥片	Ob-a	1.1	横長
472		客土一括	剥片	Ob-a	2.9	幅広
473		客土一括	二次加工剥片	Ob-a	3.6	幅広
474		客土一括	剥片	Ob-a	0.8	幅広
475		客土一括	剥片	Ob-a	1.1	幅広
476		客土一括	剥片	Ob-a	0.8	幅広
477		客土一括	剥片	Ob-a	0.6	幅広
478		客土一括	剥片	Ob-a	0.5	幅広
479		表土	剥片	Ob-a	0.6	幅広
480		表土	剥片	Ob-a	2.2	幅広
481		表土	剥片	Ob-a	1.1	不定形
482		表土	原石	Ob-d	2.3	小礫
483		表土	原石	Ob-d	1	小礫
484		表土	剥片	Ob-a	0.8	幅広
485		表土	剥片	Ob-a	2.6	幅広
486		表土	剥片	Ob-a	0.4	幅広
487		表土	剥片	Ob-a	6	幅広
488		表土	剥片	Ob-a	0.6	幅広
489		表土	石核	Ob-a	3	垂角礫素材
490		表土	剥片	Ob-a	1	破片
491		表土	剥片	Ob-a	3.8	縦長
492		表土	分割礫	Ob-d	5	小礫
493		表土	剥片	Ob-a	0.7	幅広
494		表土	剥片	Ob-a	1.1	幅広
495		表土	剥片	Ob-a	1.7	幅広
496		表土	剥片	Ob-a	2	幅広
497		表土	二次加工剥片	Ob-a	1.7	幅広
498		表土	剥片	Ob-a	0.2	縦長
499		表土	剥片	Ob-a	1.1	縦長
500		表土	剥片	Ob-a	0.7	縦長
501		表土	剥片	Ob-a	0.4	縦長
502		表土	剥片	Ob-a	0.9	横長
503		表土	剥片	Ob-a	0.7	破片
504		表土	剥片	Ob-a	2.1	縦長
505		表土	剥片	Ob-a	0.3	縦長
506		表土	剥片	Ob-a	1.4	幅広
507		表土	剥片	Ob-a	1.9	不定形
508		表土	使用痕剥片	Ob-a	0.8	縦長
509		表土	剥片	Ob-a	6.3	幅広
510		表土	剥片	Ob-a	1.8	縦長
511		表土	剥片	Ob-a	2.4	幅広
512		表土	剥片	Ob-a	2.2	幅広
513		表土	剥片	Ob-a	2.9	縦長
514		表土	剥片	Ob-a	0.4	縦長
515		表土	二次加工剥片	Ob-a	0.6	縦長
516		表土	剥片	Ob-a	3.1	縦長
517		表土	スクレイパー	Ob-a	5.4	縦長剥片素材
518		表土	剥片	Ob-a	2.6	縦長
519		表土	剥片	Ob-a	3.1	幅広
520		表土	剥片	Ob-a	1.2	縦長
521		表土	石核	Ob-a	6.2	剥片素材
522		表土	剥片	Ob-a	4.6	縦長
523		表土	石核	Ob-a	5.6	賽子状
524		表土	原石	Ob-d	8.8	小礫
525		表土	剥片	Ob-a	2.7	縦長
526		表土	剥片	Ob-a	1.2	縦長
527		表土	剥片	Ob-a	1.6	幅広

RQ 番号	遺構	層	器種	石材	重さ (g)		備考
528		表土	剥片	0b-a	4.4	縦長	
529		表土	剥片	0b-a	5.7	幅広	
530		表土	二次加工剥片	0b-a	5.8	幅広	
531		表土	剥片	0b-a	3.7	幅広	
532		表土	剥片	0b-a	9.8	幅広	
533		表土	剥片	0b-a	0.9	縦長	
534		表土	剥片	0b-a	1.3	幅広	
535		表土	剥片	0b-a	0.5	幅広	
536		表土	剥片	0b-a	1.6	縦長	
537		表土	剥片	0b-a	0.4	幅広	
538		表土	剥片	0b-a	0.8	幅広	
539		表土	剥片	0b-a	0.2	横長	
540		表土	打製石鏃	0b-a	0.8		
541		表土	剥片	0b-a	0.2	幅広	
542		表土	剥片	0b-a	0.9	縦長	
543		表土	使用痕剥片	0b-a	1.6	縦長	
544		表土	石核	0b-a	3.1	不定形	
545		表土	二次加工剥片	0b-a	0.4	破片	
546		表土	使用痕剥片	0b-a	0.3	縦長	
547		表土	剥片	0b-a	2.8	幅広	
548		表土	剥片	0b-a	0.7	幅広	
549		表土	剥片	0b-a	1	不定形	
550		表土	剥片	0b-a	0.6	幅広	
551		表土	剥片	0b-a	0.4	幅広	
552		表土	剥片	0b-a	0.6	縦長	
553		表土	スクレイパー	0b-a	4	幅広剥片素材	
554		表土	剥片	0b-a	4.1	幅広	
555		表土	剥片	0b-a	2.4	縦長	
556		表土	剥片	0b-a	6.2	縦長	
557		表土	剥片	0b-a	1.7	不定形	
558		表土	剥片	0b-a	2.6	幅広	
559		表土	剥片	0b-a	1.4	縦長	
560		表土	剥片	0b-a	1.2	縦長	
561		表土	剥片	0b-a	2.4	縦長	
562		表土	剥片	0b-a	1	幅広	
563		表土	剥片	0b-a	0.2	横長	
564		表土	剥片	0b-a	9.8	縦長	
565		表土	剥片	0b-a	2.6	縦長	
566		表土	打製石鏃	0b-a	1.1		
567		表土	剥片	0b-a	0.8	横長	
568		表土	剥片	0b-a	1	幅広	
569		表土	二次加工剥片	0b-a	2.4	縦長	
570		表土	原石	0b-a	1.5	小礫	
571		表土	剥片	0b-a	0.7	横長	
572		表土	打製石鏃	0b-a	1.2		
573		表土	剥片	0b-a	0.9	幅広	
574		表土	剥片	0b-a	0.2	幅広	
575		4層	剥片	0b-a	0.4	縦長	
576		4層	分割礫	0b-b	15.1		
577		4層	剥片	0b-a	0.2	不定形	
578		4層	石核	0b-a	2.1	賽子状	
579		4層	剥片	0b-a	0.1	縦長	
580		4層	剥片	0b-a	1.8	斜軸	
581		4層	剥片	0b-a	5.8	幅広	
582		4層	剥片	0b-a	0.2	幅広	
583		4層	剥片	0b-a	1	幅広	
584		4層	剥片	0b-a	0.4	不定形	
585		4層	剥片	0b-a	0.2	不定形	
586		4層	剥片	0b-a	0.6	縦長	
587		4層	剥片	0b-a	0.1	幅広	
588		4層	剥片	0b-a	0.2	幅広	
589		4層	剥片	0b-a	0.4	幅広	
590		4層	剥片	0b-a	0.8	不定形	
591		4層	使用痕剥片	0b-a	1	幅広	
592		攪乱	二次加工剥片	0b-a	1.4	縦長	

RQ 番号	遺構	層	器種	石材	重さ (g)	備考
593	トレンチ		剥片	Ob-a	3	幅広
594	トレンチ		剥片	Ob-a	4.6	横長
595	トレンチ		剥片	Ob-a	2.9	縦長
596	トレンチ		剥片	Ob-a	4	縦長
597	トレンチ		剥片	Ob-a	1.3	縦長
598	トレンチ		剥片	Ob-a	0.8	縦長
599	トレンチ		剥片	Ob-a	4.4	横長
600	トレンチ		剥片	Ob-a	1	幅広
601	トレンチ		碎片	Ob-a	0.2	
602	トレンチ		剥片	Ob-a	0.4	幅広
603	トレンチ		剥片	Ob-a	0.5	不定形
604	トレンチ		剥片	Ob-a	6	縦長
605	SD01	埋 1 層	剥片	Ob-a	1.6	縦長
606	SD01	埋 2 層	剥片	Ob-a	6.6	縦長
607	SD01	埋 2 層	剥片	Ob-a	3	幅広
608	SD01	埋 2 層	剥片	Ob-a	2	縦長
609	SD01	埋 2 層	使用痕剥片	Ob-a	2.1	幅広
610	SD01	埋 2 層	石核	Ob-a	6.4	不定形
611	SD01	埋 2 層	剥片	Ob-a	0.6	幅広
612	SD01	埋 2 層	原石	S	12.1	小礫
613	SD01	埋 2 層	剥片	Ob-a	1.5	縦長
614	SD01	埋 2 層	剥片	Ob-a	0.7	縦長
615	SD01	埋 1・2・3 層	分割礫	Ob-d	11	小礫
616	SD01	埋 5 層	原石	Ob-a	2.2	小礫
617	SD01	埋 5 層	破碎礫	Ob-d	0.6	小礫
618	SD01	埋 5 層	使用痕剥片	Ob-a	1.2	幅広
619	SD01	埋 5 層	原石	Ob-d	7.7	小礫
620	SD01	埋 5 層	剥片	Ob-a	0.9	幅広
621	SD01	埋 5 層	剥片	Ob-a	2.3	幅広
622	SD01	埋 5 層	破碎礫	Ob-d	2	小礫
623	SD01	埋 6 層	剥片	Ob-a	2.1	縦長
624	SD01	埋 6 層	原石	Ob-a	4.8	小礫
626	SD01	埋土一括	石核	Ob-a	5.2	不定形
627	SD01	埋土一括	剥片	Ob-a	1.6	縦長
628	SD01	埋 2 層	剥片	Ob-a	3.7	不定形
629	S101	埋土一括	剥片	Ob-a	1	幅広
630	S101	埋 3 層	原石	Ob-d	12.5	小礫
631	S101	埋 3 層	剥片	Ob-a	5.3	縦長
632	S101	埋 3 層	剥片	An-a	1.4	不定形
633	SD06	埋土一括	剥片	Ob-a	0.9	幅広
634	SD06	埋土一括	石核	Ob-a	13.3	求心状剥離
635	SD06	埋土一括	原石	An-b	1.7	小礫
636	SD08	埋土一括	剥片	Ob-a	1.6	縦長
637	SF02		二次加工剥片	Ob-a	3.1	石鏃未製品?
638	SF03	硬化面上	剥片	Ob-a	2	不定形
639	SF03	埋土一括	使用痕剥片	Ob-a	2.9	幅広
640	SF03	埋土一括	剥片	Ob-a	0.8	幅広
641	SF03	埋土一括	剥片	Ob-a	0.8	破片
642	SF03		石核	Ob-d	2.6	残核
643	SF03		打製石鏃	Ob-a	0.7	
644	SF03		原石	Ob-a	1.5	小礫
645	SF03	埋土一括	剥片	An-a	5.2	横長
646	SF03	客土一括	剥片	Ob-a	3.4	幅広
647	SF03	客土一括	二次加工剥片	Ob-a	1.2	不定形
648	SF03	5e 層	石核	Ob-a	16.1	小礫素材
649	SF03	5e 層	分割礫	Ob-a	8.5	小礫
650	SF03	客土一括	石核	Ob-a	4.9	小礫素材
651	SF03	客土一括	原石	Ob-a	9.7	小礫
652	SF03		剥片	Ob-a	2	縦長
653	SF03		剥片	Ob-a	2.8	横長
654	SF03	基礎面上	二次加工剥片	Ob-a	5	横長
655	SF03	基礎面上	二次加工剥片	Ob-a	3	縦長
656	SF03	基礎面上	剥片	Ob-a	2.8	縦長
657	SF03	基礎面上	剥片	Ob-a	1.5	縦長
658	SF03	基礎面上	剥片	Ob-a	1.3	幅広

RQ 番号	遺構	層	器種	石材	重さ (g)	備考
659	SF03	基礎面上	原石	0b-b	9.7	小礫
660	SF03	基礎面上	剥片	0b-a	1.6	幅広
661	SF03	基礎面上	剥片	0b-a	3.2	幅広
662	SF03		剥片 2点	0b-e	3.5	接合体、いずれも不定形
663	SI04	埋 1 層	剥片	0b-a	1.7	幅広
664	SI04	埋土一括	剥片	0b-a	5.4	幅広
665	SI04	埋土一括	剥片	0b-a	1.3	縦長
666	SI04	埋土一括	剥片	0b-a	1.9	縦長
667	SI04	埋土一括	剥片	0b-a	2	縦長
668	SI04	埋土一括	剥片	0b-a	1.7	縦長
669	SI05	埋 1 層	剥片	0b-a	1.8	横長
670	SI05	埋 2 層	剥片	0b-a	1.5	縦長
671	SI05	埋 2 層	剥片	0b-a	0.5	縦長
672	SI05	埋 2 層	剥片	0b-a	3.9	縦長
673	SI05	埋 4 層	剥片	0b-a	2.7	横長
674	SI05	埋土一括	剥片	0b-a	1.8	幅広
675	SI05	埋土一括	剥片	0b-a	3.9	縦長
676	SI06	埋土一括	剥片	0b-a	8.6	幅広
677	SK02	埋土一括	剥片	0b-a	1.2	縦長
678	Pit	埋土一括	破碎礫	0b-a	3.3	小礫
679	Pit	埋土一括	原石	0b-d	4.1	小礫
680	F3	2 層	剥片	0b-a	0.3	破片
681	F3	2 層	二次加工剥片	0b-a	6.3	幅広
682	F3	3 層	原石	0b-a	13.7	小礫
683	L3	2 層	剥片	0b-a	0.5	横長
684	K4	3 層	剥片	0b-a	9.9	横長
685		2 層	石核	0b-d	3	小礫素材
686		3 層	原石	0b-d	1.4	小礫
687	トレンチ		石核	0b-a	2.3	不定形
688	北トレンチ		原石	0b-d	1.8	小礫
689	トレンチ		原石	0b-a	7.7	小礫
690	試掘トレンチ		二次加工剥片	0b-a	2.3	縦長
691	試掘トレンチ		原石	0b-a	3.9	小礫
692	試掘トレンチ		二次加工剥片	0b-a	1.8	縦長
693	試掘トレンチ		剥片	0b-a	1.7	幅広
694	試掘トレンチ		剥片	0b-a	1	不定形
695	試掘トレンチ		原石	0b-a	4.9	小礫
696	試掘トレンチ		原石	0b-a	3.4	小礫
697		攪乱	使用痕剥片	0b-a	1.6	不定形
698		攪乱	破碎礫	0b-d	1.7	小礫
699		攪乱	剥片	0b-a	1.4	横長
700		攪乱	剥片	0b-a	3.3	幅広
701		攪乱	剥片	0b-d	1.7	幅広
702		攪乱	剥片	0b-a	1.1	幅広
703		攪乱	二次加工剥片	0b-a	0.6	破片
704		攪乱	剥片	0b-c	0.5	幅広
705		攪乱	二次加工剥片	0b-a	0.6	縦長
706		攪乱	剥片	0b-a	6.7	幅広
707		攪乱	二次加工剥片	0b-a	2.7	幅広
708		攪乱	使用痕剥片	0b-a	3.3	幅広
709		攪乱	スクレイパー	0b-a	3.1	縦長剥片素材
710		攪乱	石核	0b-d	6.3	小礫素材
711		攪乱	打製石鏃未製品	0b-a	1.9	
712		攪乱	剥片	0b-a	1.5	幅広
713		攪乱	剥片	0b-a	0.4	幅広
714		攪乱	破碎礫	0b-d	1.3	小礫
715		攪乱	石核	0b-a	2.3	小礫素材
716		攪乱	剥片	0b-a	0.3	縦長
717		攪乱	石核	0b-a	1.9	小礫素材
718		攪乱	剥片	0b-a	0.8	横長
719		攪乱	剥片	0b-a	0.3	破片
720		攪乱	剥片	0b-a	1.4	幅広
721		攪乱	剥片	0b-a	1.5	幅広
722		攪乱	原石	0b-a	0.9	小礫
723		攪乱	分割礫	0b-d	2.7	小礫

RQ 番号	遺構	層	器種	石材	重さ (g)	備考	
724			攪乱	原石	Ob-d	3.2	小礫
725			攪乱	剥片	Ob-a	0.7	幅広
726			攪乱	原石	Ob-a	11.7	小礫
727			攪乱	打製石鏃	Ob-a	0.4	
728			客土一括	原石	Ob-d	6	小礫
729			客土一括	分割礫	Ob-d	2.1	小礫
730			客土一括	剥片	Ob-a	4.9	幅広
731			客土一括	二次加工剥片	Ob-a	0.5	横長
732			客土一括	剥片	Ob-a	0.5	幅広
733			客土一括	使用痕剥片	Ob-a	1.9	幅広
734			客土一括	原石	Ob-d	10.3	小礫
735			客4層	原石	An-b	4	小礫
736			客4層	剥片	Ob-a	2.3	幅広
737			客4層	二次加工剥片	Ob-a	2.1	幅広
738			客4層	スクレイパー	Ob-a	6.2	縦長剥片素材
739			客4層	原石	Ob-a	1.3	小礫
740			客4層	剥片	Ob-a	1.7	縦長
741			客4層	剥片	Ob-a	2.1	幅広
742			客4層	使用痕剥片	Ob-a	1	縦長
743			客4層	スクレイパー	Ob-a	8.3	幅広剥片素材
744			客4層	破碎礫	Ob-d	0.9	小礫
745			客4層	剥片	An-a	8.1	横長
746			客2層	剥片	Ob-e	1.1	不定形
747			客2層	剥片	Ob-e	0.4	不定形
748			客2層	剥片	Ob-a	3.8	不定形
749			客2層	使用痕剥片	Ob-a	0.8	縦長
750			客2層	剥片	Ob-a	1.8	縦長
751			客2層	剥片	Ob-a	0.8	横長
752			客2層	石核	Ob-a	7.7	不定形
753			客2層	石核	Ob-a	8.5	糞子状
754			客3層	剥片	An-a	5.1	横長
755			客3層	破碎礫	Ob-d	3.6	小礫
756			客3層	原石	Ob-d	1.7	小礫
757			客3層	スクレイパー	Ob-a	3.5	幅広剥片素材
758			客3層	二次加工剥片	Ob-a	2.8	幅広
759			客3層	剥片	Ob-c	1.5	幅広
760			客3層	剥片	Ob-a	1.6	縦長
761			客3層	石核	Ob-d	5.7	小礫素材
762			客3層	破碎礫	Ob-d	1.7	小礫
763			客3層	二次加工剥片	Ob-a	3.2	縦長
764			客3層	使用痕剥片	Ob-a	1.9	縦長
765			客3層	剥片	Ob-a	0.6	縦長
766			表土	分割礫	Ob-d	3.4	小礫
767			表土	剥片	Ob-a	0.3	破片
768			客5層	破碎礫	Ob-d	1	小礫
769			客5層	原石	S	1	小礫
770			客5層	剥片	Ob-a	1.3	破片
771			客6層	剥片	Ob-a	4.2	幅広
772			客6層	剥片	Ob-a	0.6	破片
773			客6層	剥片	Ob-a	0.6	幅広
774			客8・9層	石核	Ob-a	2.4	不定形
775			客8・9層	剥片	Ob-a	0.6	幅広
776			客8・9層	剥片	Ob-a	1.5	縦長
778			客8・9層	剥片	Ob-a	1.1	縦長
779			客13層	剥片	An-a	4.3	幅広
780	S107		埋1層	原石	Ob-a	5.7	小礫
781	S110		埋1層	二次加工剥片	Ob-a	4.2	縦長
782	S112		埋1層	打製石鏃未製品	Ob-a	0.9	
783	S114		埋1層	剥片	Ob-a	0.9	縦長
784	S114		埋2層	剥片	Ob-a	0.8	幅広
785	S114		客2層	使用痕剥片	Ob-a	2	縦長
786	S119		埋2層	剥片	Ob-a	1.6	縦長
787	S119		埋土一括	破片	Ob-a	0.1	
788	S119		埋土一括	破片	Ob-a	0.1	
789	S119		埋土一括	破碎礫	Ob-d	0.4	小礫

RQ 番号	遺構	層	器種	石材	重さ (g)	備考
790	SI19	埋 2 層	打製石鏃	An-a	1.1	
791	SI19	埋 2 層	剥片	Ob-a	0.9	縦長
792	P15	客 2 層	使用痕剥片	Ob-a	2.1	縦長
793	Q15	包 3 層	剥片	Ob-a	3.4	幅広
794	Q16	客 2 層	剥片	Ob-a	4.2	不定形
795	Q17	攪乱	剥片	Ob-a	2.8	幅広
796	Q17	包 3 層	剥片	Ob-a	0.7	幅広
797	R18	攪乱	原石	Ob-a	3	小礫
798	R18	客 2 層	二次加工剥片	Ob-a	4.2	幅広
799	S19	客 1 層	剥片	Ob-d	1.4	横長
800	S19	客 1 層	使用痕剥片	Ob-a	2.4	横長
801	T21	客 1 層	使用痕剥片	Ob-a	3.2	幅広
802	U22	客 1 層	使用痕剥片	Ob-a	2.2	縦長
803	V22	客 1 層	二次加工剥片	Ob-a	6.4	幅広
804	V23	客 1 層	石核	Ob-a	8.4	
805	V23	客 1 層	二次加工剥片	Ob-a	0.8	横長
806	V23	客 1 層	二次加工剥片	Ob-a	1.9	縦長
807	V23	客 2 層	剥片	Ob-d	3.6	幅広
808	V24	客 1 層	剥片	Ob-a	1.8	不定形
809	V24	客 2 層	二次加工剥片	Ob-a	2.1	幅広
810	W22	客 2 層	剥片	Ob-a	3.2	幅広
811	W23	客 2 層	剥片	Ob-a	1.5	幅広
812	W24	客 1 層	二次加工剥片	Ob-a	3	縦長
813	W24	客 1 層	剥片	Ob-a	2.7	幅広
814		トレンチ	剥片	Ob-a	0.9	縦長
815		客土一括	剥片	Ob-a	3.3	幅広
816		包 1 層	剥片	Ob-d	0.8	不定形
817			原石	Ob-a	13.3	小礫
818			剥片	Ob-a	3.4	幅広
819			原石	Ob-a	4.6	小礫
820			剥片	Ob-a	0.8	縦長
821			剥片	Ob-a	14.6	縦長
822			原石	Ob-d	10.8	小礫
823			スクレイパー	Ob-a	3.9	縦長剥片素材
824			剥片	An-a	2.9	幅広
825			剥片	Ob-a	3.4	縦長
826			剥片	Ob-a	0.5	縦長
827			打製石鏃	Ob-a	0.8	
828			剥片	Ob-a	0.8	不定形
829		3 層	剥片	Ob-a	1.8	縦長
830		3 層	石核	Ob-a	8.2	亜角礫素材
831		3 層	剥片	Ob-a	1.8	縦長
832		3 層	剥片	Ob-a	2.3	縦長
833		攪乱	打製石鏃	Ob-b	1.5	
834		表土	破碎礫	Ob-d	1.3	小礫
835		9 層	使用痕剥片	Ob-a	1.8	縦長
836	a33		剥片	Ob-a	1.4	幅広
837	a33		二次加工剥片	Ob-a	3.2	平坦剥離
838	a33		剥片	Ob-a	0.4	幅広
839	W27		剥片	Ob-a	9.8	幅広
840	X32		剥片	GS	9.9	横長
841	X32		剥片	Ob-b	3.2	不定形
842	X32		打製石鏃	Ob-a	0.8	
843	Z30		剥片	Ob-a	2.2	幅広
845	Z30		剥片	Ob-a	1.1	幅広
846	Z30		剥片	Ob-a	2.9	縦長
847	Z30		剥片	An-a	1.7	縦長
848	Z35		剥片	Ob-a	0.7	縦長
849	Y30		剥片	Ob-a	0.1	小破片
850	Y30		剥片	Ob-a	5.4	横長
851	Y30		剥片	Ob-a	0.4	幅広
852	Y30		使用痕剥片	Ob-a	2.7	幅広
853	Y30		原石	Ob-d	6.2	小礫
854	Y30		剥片	Ob-a	3.9	縦長
855	Y30		剥片	An-a	1	幅広

RQ 番号	遺構	層	器種	石材	重さ (g)	備考
856	Y30		剥片	Ob-b	3.9	幅広
857	Y30		剥片	GS	0.8	幅広
858	Y30		剥片	Ob-a	1.1	縦長
859	Y30		剥片	Ob-a	0.2	縦長
860	Y30		原石	Ob-d	8.3	小礫
861	Y30		剥片	Ob-a	5	不定形
862	Y30		剥片	Ob-a	0.7	横長
863	Y30		剥片	Ob-a	0.6	横長
864	Y30		スクレイパー	Ob-a	1	破片
865	Y30		剥片	Ob-a	0.5	幅広
866	Y30		石核	Ob-a	0.7	残核
867	Y30		剥片	Ob-a	1.4	横長
868	Y30		剥片	Ob-a	0.8	横長
869	Y30		剥片	Ob-a	3.1	縦長
870	Y30		剥片	Ob-a	0.1	幅広
871	Y30		石錐	Ob-a	2.3	幅広剥片素材
872	Y30		使用痕剥片	Ob-a	0.4	縦長
873	Y30		剥片	Ob-a	0.6	縦長
874	SD05	埋 1 層	剥片	An-a	6.1	縦長
875	SD05	埋 1 層	剥片	An-a	2	縦長
876	SD05	埋 1 層	剥片	An-a	3.3	横長
877	SD05	埋 1 層	石核	An-a	11.5	求心状剥離
878	SD05	埋 2 層	剥片	An-a	13.9	横長
879	SD05	埋 3a 層	二次加工剥片	An-a	1.7	幅広
880	SD05	埋 5 層	剥片	An-a	1.2	幅広
881	SD05	埋 5 層	スクレイパー	An-a	6.1	横長剥片素材
882	SD05	埋土一括	剥片	An-a	0.7	不定形
883	SD05	埋土一括	剥片	An-a	2.3	幅広
884	SD05	埋土一括	剥片	An-a	1.2	幅広
885	SD05	埋土一括	剥片	An-a	0.3	幅広
886	SI17	埋 1 層	石庖丁未製品	M	10.2	
887	SI20	埋 1 層	剥片	Ob-b	1.4	縦長
888	SI20	埋 2 層	剥片	An-a	7.7	横長
889	SI20	埋土一括	破碎礫	An-b	8.8	小礫
890	SI21	埋 1 層	剥片	An-a	0.5	横長
891	SI21	埋 1 層	剥片	An-a	2.3	幅広
892	SI21	埋 3 層	剥片	An-a	0.2	破片
893	SI22	埋 1 層	剥片	An-a	4.9	横長
894	SI22	埋土一括	剥片	An-a	8.1	横長
895	SI23	埋土一括	剥片	An-a	20.9	横長
896	SI29	埋 2 層	剥片	CS	1.6	横長
897	SI29	埋 3 層	剥片	An-a	0.1	幅広
898	SI29	埋 3 層	剥片	An-a	1.5	横長
899	SI29	埋土一括	剥片	Ob-b	8	不定形
900	SI32	埋 1 層	使用痕剥片	An-a	3.6	横長
901	SI32	埋 1 層	剥片	An-a	3.3	横長
902	SI32	埋 2 層	剥片	An-a	0.4	横長
903	SI32	埋土一括	剥片	An-a	3.4	縦長
904	a29	3 層	剥片	An-a	5.5	幅広
905	a30	3 層	剥片	An-a	1.7	幅広
906	V28	4 層	剥片	An-a	12.3	横長
907	W28	4 層	剥片	An-a	4.5	縦長
908	W28	4 層	剥片	GS	5.9	横長
909	X31	3 層	剥片	An-a	2.1	幅広
910	X31	3 層	剥片	An-a	5.5	縦長
911	Y30	3 層	打製石鏃	An-a	2.2	
912	Y32	3 層	剥片	An-a	1.1	縦長
913	Z29	3 層	剥片	An-b	3.2	縦長
914	Z31	3 層	剥片	An-a	1.8	斜軸
915	Z33	4 層	剥片	An-a	0.6	幅広
916		表土	剥片	An-a	4.3	幅広
917		表土	剥片	An-a	0.5	破片
918		表土	打製石鏃	An-a	1	
919		表土	剥片	An-a	0.8	幅広
920	SD01	埋 1 層	剥片	CS	3.8	横長

RQ 番号	遺構	層	器種	石材	重さ (g)	備考
921	SD01	埋 2 層	剥片	GS	6.4	横長
922		攪乱	打製石鏃	Ob-b	1.4	
923		攪乱	剥片	Ob-c	2.7	幅広
924	SI07	埋 1 層	剥片	CS	0.3	不定形
925	SI12	埋 1・2 層	剥片	GS	4.8	横長
926	S19	埋 1 層	剥片	Ch-a	2.5	幅広
927	SI17	埋 2 層	打製石鏃	Ob-a	(1.0)	
928	SI29	埋 1・2 層	打製石鏃	Ob-a	1.5	
929	SI29	埋 1・2 層	打製石鏃未製品	Ob-a	1.5	
930	SI20	埋 1 層	スクレイパー	Ob-a	6.8	縦長剥片素材
931	SI23	埋 1・2 層	スクレイパー	An-a	33.5	幅広剥片素材
932	X33	4 層	打製石鏃	An-b	5.3	
933	SI29	埋 3 層	スクレイパー	An-a	14.2	縦長剥片素材
934	SD01	埋 2 層	石匙	An-a	52.4	
935	SD05	埋 5 層	台形石器	An-a	5.4	
936	SI21	埋土一括	ナイフ型石器	An-a	(7.7)	
937	SD05	埋 2 層	石匙未製品	An-a	(7.8)	
938	SI20	埋 1 層	使用痕剥片	An-a	(3.8)	幅広
939	SI29	埋 2 層	二次加工剥片	An-b	21.0	斜軸剥片素材
940	Y30	3 層	使用痕剥片	Ob-a	2.8	縦長
941	V29	4 層	使用痕剥片	Ob-a	2.2	縦長
942	SD05	埋 2 層	スクレイパー	Ob-a	7.7	縦長剥片素材
943	SD01	埋 3・4 層	打製石鏃	An-a	(0.4)	
944	SD01	埋 3・4 層	打製石鏃	Ob-b	(0.8)	
945	S18	3 層	打製石鏃	Ob-d	1.0	
946		4 層	打製石鏃	Ob-a	(0.8)	
947	W30	4 層	打製石鏃	Ob-b	(0.9)	
948	SI20	埋 1 層	打製石鏃	Ob-a	(0.5)	
949	SI20	埋 1 層	打製石鏃	An-a	(0.7)	
950	SI29	埋 1 層	打製石鏃	An-a	(0.7)	
951	SD05	埋 5 層	打製石鏃	An-a	(0.9)	
952		表土	二次加工剥片	Ob-a	4.1	縦長剥片素材
953	SI20		二次加工剥片	An-a	(4.3)	縦長剥片素材・折れ面あり
954	SI38	埋 1・2 層	剥片	An-a	3.8	幅広
955			打製石鏃	Ob-a	(0.6)	
956	SI20	埋土一括	石核	Ob-a	36.9	
957	SI04	埋土一括	打製石鏃	Ob-a	(1.6)	

※ 166、240、241、242、243、244、245、625、777、844 は、欠番である。

3-3 花粉分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

熊本県玉名市築地字那木野に所在する築地館跡は、小岱山の裾野から玉名平野へと広がる地点に位置する。今回の発掘調査の結果、弥生時代後期の住居跡、溝、後代の掘立柱建物跡、溝等が検出されている。今回の分析調査では、調査区内より検出された2条の溝（SD）の埋土を対象として、古植生に関する情報を得ることを目的として、花粉分析を実施した。

3-3-1 試料

調査対象とする溝は、SD01及びSD05の2条である。SD01は、溝底から出土した土器などから、弥生時代後期後半である可能性が指摘されている。溝の埋土は上位から1層～6層に分層されており、1、2、5、6層はさらに2層に細分されている。分析試料は、1層から2試料（試料番号1、2）、2層から2試料（試料番号3、4）、3層から1試料（試料番号5）、4層から1試料（試料番号6）、5層から2試料（試料番号7、8）、6層から2試料（試料番号9、10）の、計10試料が採取されている。

SD05は、溝底からの出土遺物が乏しかったためその時代観については不明であるが、弥生時代後期とされる住居跡を切って構築されていることから、少なくともそれよりも新しい時代の溝と推測されている。溝の埋土は上位から1層～5層に分層されており、1、4、5層はさらに2層に細分されている。分析試料は、1層から3試料（試料番号1～3）、2層から2試料（試料番号4、5）、3層から1試料（試料番号6）、4層から2試料（7、8）、5層から2試料（試料番号9、10）の、計10試料が採取されている。

以上、2条の溝埋土から採取された土壌試料20点全点について、花粉分析を実施した。

3-3-2 分析方法

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数した。

3-3-3 結果

結果を表9に示す。SD01、及びSD05のいずれの試料においても検出される花粉化石数は少なく、定量分析を行うだけの個体数は得られなかった。また、わずかに検出された花粉化石の保存状態は良好ではなく、多くの花粉外膜が壊れていたり、溶解している状態で産出していた。

わずかに検出された種類をみると、木本花粉ではモミ属、ツガ属、マツ属、スギ属、ヤマモモ属、サワグルミ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属が認められる。検出傾向は、ツガ属、マツ属、スギ属等が多くの試料から産出する。草本花粉では、イネ科、カヤツリグサ科、アカザ科、カラマツソウ属、アブラナ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ亜科が認められる。検出傾向は、イネ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ亜科等が多く産出する。なお花粉化石以外では、シダ類胞子も比較的多く検出されている。また分析残渣中には、微細な炭化植物片も多く認められた。プレパラート内の胞子・炭化植物片の状況を図180に示す。

3-3-4 考察

今回分析対象としたSD01及びSD05のいずれの溝埋土試料においても、花粉化石はほとんど検出されず、古植生推定のための定量解析を行うことができなかった。花粉化石・シダ類胞子の産出状況が悪い場合、元々取り込まれる花粉量が少なかった、あるいは取り込まれた花粉が消失した、という2つの原因があげられる。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壤微生物によって分解・消失するとされている（中村1967、徳永・山内1971、三宅・中越1998等）。また、花粉やシダ類胞子の腐蝕に対する抵抗性は種類により異なり、落葉広葉樹に由来する花粉よりも針葉樹に由来する花粉やシダ類胞子の方が酸化に対する抵抗性が高いとされている（中村1967、徳永・山内1971、三宅・中越

種 類	SD01										SD05											
	1層	2層	3層	4層	5層	6層	7層	8層	9層	10層	1層	2層	3層	4層	5層	6層	7層	8層	9層	10層		
木本花粉	試料番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	モミ属	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
	ツガ属	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
	マツ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	2	-	-	
	スギ属	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	
	ヤマモモ属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	サウグルミ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	コナラ属コナラ亜属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	コナラ属アカガシ亜属	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
草本花粉	イネ科	6	2	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	2	1	-	
	カヤツリグサ科	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	アカザ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	カラマツソウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
	アブラナ科	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ヨモギ属	4	2	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	11	3	-	
	キク亜科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	2	-	-	
	タンポポ科	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	
	不明花粉	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	2	
シダ類孢子	ヒカゲノカズラ属	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	イノモトソウ属	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-
	他のシダ類孢子	66	45	3	29	47	13	8	4	1	1	7	8	4	5	18	13	72	86	11	32	
合 計																						
	木本花粉	4	1	0	1	1	4	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	4	0	0	
	草本花粉	16	4	0	0	0	1	2	0	1	0	4	0	2	0	0	1	2	16	1	4	
	不明花粉	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	2	
	シダ類孢子	69	48	3	29	47	13	8	4	1	1	7	9	4	5	18	13	72	88	12	32	
	総計（不明を除く）	89	53	3	30	48	18	12	4	2	1	11	10	6	5	18	14	78	108	13	36	

表9 花粉分析結果

1998 等)。今回検出された種類をみると、木本類ではモミ属、ツガ属、マツ属、スギ属等の針葉樹に由来する花粉の方が多く認められる他、その他の木本類や草本類においても比較的分解に強い花粉や、分解が進んでも同定可能な花粉が検出されている。珪藻分析等を実施していないため、各溝埋土の詳細な堆積環境は不明であるが、上述のように分解に強い種類が多く認められること、花粉外膜が破損・溶解していることなどを考慮すると、堆積時に取り込まれた花粉が、その後の経年変化により分解・消失し、分解に強い花粉が選択的に残されたと可能性が高い。

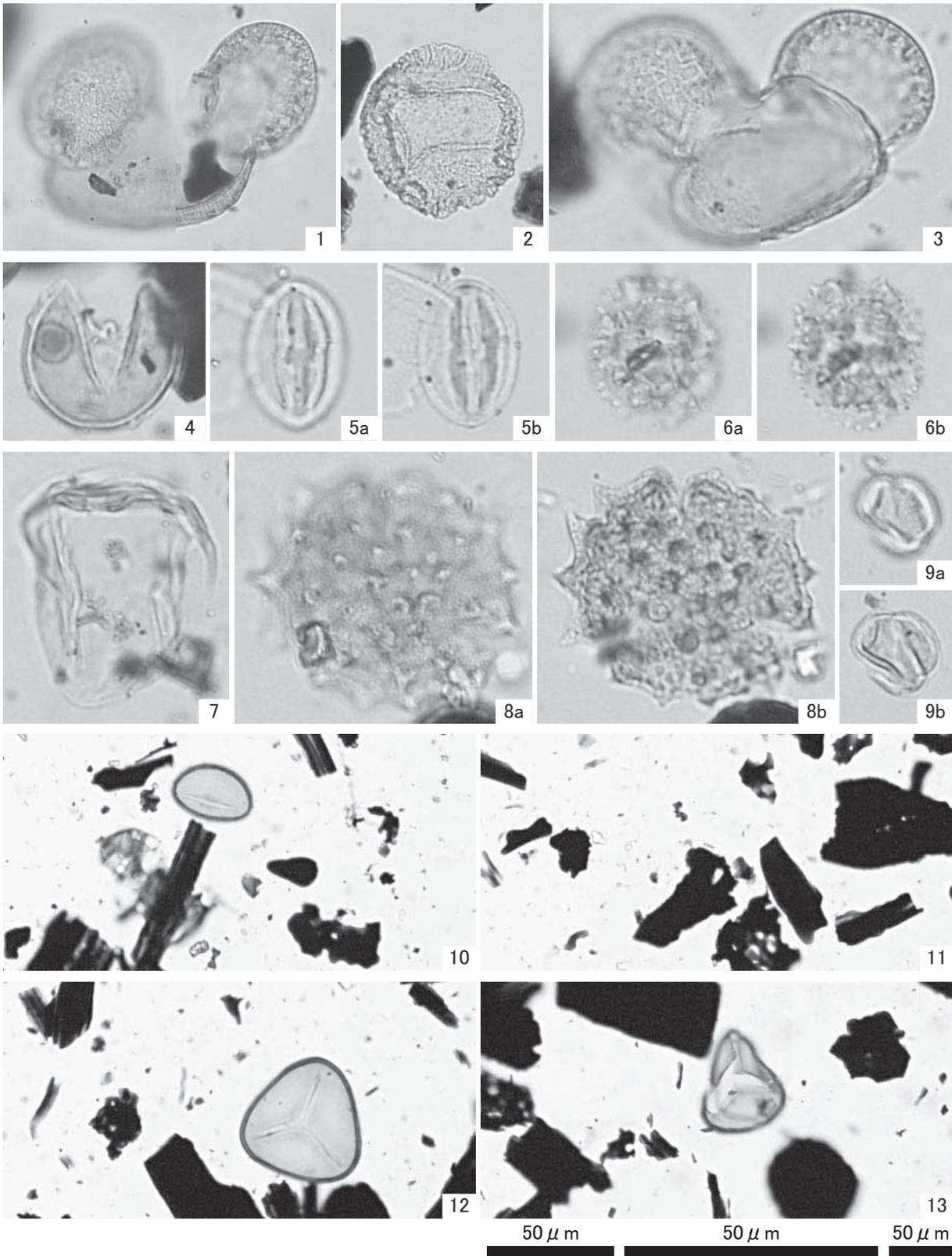
わずかに検出される種類のうち、モミ属、ツガ属、スギ属は温帯性針葉樹であり、ヤマモモ属、コナラ属アカガシ亜属は暖温帯性常緑広葉樹林の構成要素であることから、周囲の森林を構成していた種類にこれらが含まれていたことが窺える。マツ属は、二次林などの代償植生や海岸植生として、周辺森林やその縁辺、海岸沿いなどに生育していたと考えられる。また、SD01 より検出されたサワグルミ属、コナラ属コナラ亜属は、溪谷沿いや河畔等に生育する種を含む分類群であることから、後背丘陵や周辺の溪谷・河川沿い、あるいは、SD01 に水が流れていたとすればその集水域に生育していた可能性がある。宮脇昭によると、本地域周辺の潜在自然植生はミミズバイースダジイ群集、シイモチーシリブカガシ群集、イスノキウラジロガシ群集など、照葉樹林要素であるとされている（宮脇 1981）。検出された種類は、これらの潜在自然植生と矛盾するものではない。

一方草本類は、イネ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ科等が多く認められる。これらは、開けた明るい場所を好む「人里植物」を多く含む分類群であり、その他のカヤツリグサ科、アカザ科、カラマツソウ属、アブラナ科も同様である。よって、これらの草本類は、溝周辺や遺跡内の草地に生育していたと推測される。

（引用文献）

- 三宅尚・中越信和 1998 「森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態」『植生史研究』6、pp15-30
宮脇昭（編著）1981 『日本植生誌』至文堂 p484
中村純 1967 『花粉分析』古今書院 p232

徳永重元・山内輝子 1971 「花粉・胞子」『化石の研究法』
共立出版株式会社 pp50-73



- | | | |
|-------------------------|-------------------------|------------------------|
| 1 . モミ属(西区溝;1) | 2 . ツガ属(西区溝;2) | 3 . マツ属(東区溝;2) |
| 4 . スギ属(西区溝;1) | 5 . コナラ属アカガシ亜属(西区溝;6) | 6 . タンポポ科(西区溝;1) |
| 7 . イネ科(西区溝;1) | 8 . キク亜科(西区溝;1) | 9 . ヨモギ属(東区溝;8) |
| 10 . プレパラート内の状況(西区溝;1) | 11 . プレパラート内の状況(西区溝;10) | 12 . プレパラート内の状況(東区溝;8) |
| 13 . プレパラート内の状況(東区溝;10) | | |

図 180 花粉化石

3-4 放射性炭素年代測定

株式会社パレオ・ラボ

玉名市築地に位置する築地館跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

3-4-1 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表10のとおりである。

試料No.1 (PLD-15697) はSI01より出土した部位不明炭化材である。試料No.2 (PLD-15698) はSK06より出土した部位不明炭化材である。試料No.3 (PLD-15699) はSI17 (西トレンチ) より出土した部位不明炭化材

である。試料No.4 (PLD-15700) はSI17 (東トレンチ) より出土した炭化材で、最外年輪が確認されている。試料No.5 (PLD-15701) はSK09より出土した部位不明炭化材である。試料No.6 (PLD-15702) はSD05地山直上より出土した部位不明炭化材である。試料No.7 (PLD-15703) はSI29埋土2層より出土した部位不明炭化材である。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。

表10 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-15697	遺構：SI01 試料No.1	試料の種類：炭化材 試料の性状：不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N)
PLD-15698	遺構：SK06 試料No.2	試料の種類：炭化材 試料の性状：不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N)
PLD-15699	遺構：SI17 (西トレンチ) 試料No.3	試料の種類：炭化材 試料の性状：不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N)
PLD-15700	遺構：SI17 (東トレンチ) 試料No.4	試料の種類：炭化材 試料の性状：最外年輪 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N)
PLD-15701	遺構：SK09 試料No.5	試料の種類：炭化材 試料の性状：不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N)
PLD-15702	遺構：SD05 (A区) 試料No.6 層位：地山直上	試料の種類：炭化材 試料の性状：不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N)
PLD-15703	遺構：SI29 試料No.7 層位：埋土2層	試料の種類：炭化材 試料の性状：不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N)

得られた 14C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、14C 年代、暦年代を算出した。

3-4-2 結果

表 2 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}C$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した 14C 年代、14C 年代を暦年代に較正した年代範囲を、図 181 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

14C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。14C 年代 (yrBP) の算出には、14C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した 14C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の実験誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の 14C 年代がその 14C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された 14C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、及び半減期の違い (14C の半減期 5730 ± 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

14C 年代の暦年較正には OxCal4.1 (較正曲線データ: Intcal09) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された 14C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は 14C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

3-4-3 考察

以下 2σ 暦年代範囲を基に述べる。弥生時代の土器編年との対応関係については、『弥生時代の実年代 炭素 14 年代をめぐって』(春成・今村編 2004)、「弥生

時代の実年代」(藤尾 2009) を参照した。

SI01 の試料 No. 1 (PLD-15697) は、 1σ 暦年代範囲で 90-100cal AD (7.8%)、124-175cal AD (43.5%) および 191-212cal AD (16.9%)、 2σ 暦年代範囲で 83-223cal AD (95.4%) となり、1 世紀後半～3 世紀前半の範囲を示した。これは弥生時代後期にあたる。

SK06 の試料 No. 2 (PLD-15698) は、 1σ 暦年代範囲で 1682-1698cal AD (10.5%)、1723-1738cal AD (8.6%)、1755-1762cal AD (3.4%)、1803-1816cal AD (7.7%)、1834-1879cal AD (25.1%) および 1916-1937cal AD (12.9%)、 2σ 暦年代範囲で 1675-1778cal AD (38.2%)、1798-1892cal AD (41.4%) および 1908-1942cal AD (15.8%) となり、17 世紀後半～20 世紀前半と近世以降の範囲を示した。

SI17 (西トレンチ) の試料 No. 3 (PLD-15699) は、 1σ 暦年代範囲で 195-111cal BC (68.2%)、 2σ 暦年代範囲で 340-329cal BC (1.7%) および 204-54cal BC (93.7%) となり、紀元前 4 世紀中頃～同 1 世紀中頃の範囲を示した。これは弥生時代中期にあたるが、 1σ 暦年代範囲まで絞り込むと紀元前 2 世紀初頭～後半となり、中期中葉である可能性が高い。

SI17 (東トレンチ) の試料 No. 4 (PLD-15700) は、 1σ 暦年代範囲で 93-97cal AD (2.6%)、125-181cal AD (44.6%) および 187-214cal AD (21.0%)、 2σ 暦年代範囲で 85-225cal AD (95.4%) となり、1 世紀後半～3 世紀前半の範囲を示した。これは弥生時代後期にあたる。

SK09 の試料 No. 5 (PLD-15701) は、 1σ 暦年代範囲で 20-12cal BC (6.8%) および 1cal BC-54cal AD (61.4%)、 2σ 暦年代範囲で 41cal BC-65cal AD (95.4%) となり、紀元前 1 世紀中頃～1 世紀後半の範囲を示した。これは弥生時代中期後葉～後期前半にあたる。

SD05 の試料 No. 6 (PLD-15702) は、 1σ 暦年代範囲で 1399-1426cal AD (68.2%)、 2σ 暦年代範囲で 1323-1347cal AD (18.2%) および 1392-1434cal AD (77.2%) となり、14 世紀前半～15 世紀前半の範囲を示した。これは鎌倉時代末期～室町時代にあたる。

SI29 の試料 No. 7 (PLD-15703) は、 1σ 暦年代範囲で 5-12cal AD (6.2%) および 17cal AD-65cal AD (62.0%)、 2σ 暦年代範囲で 39cal BC-80cal AD (95.4%) となり、

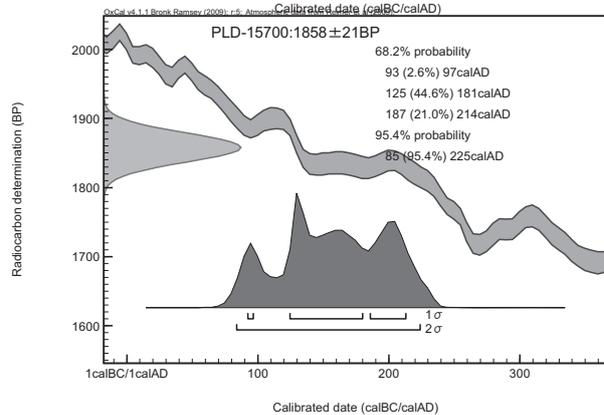
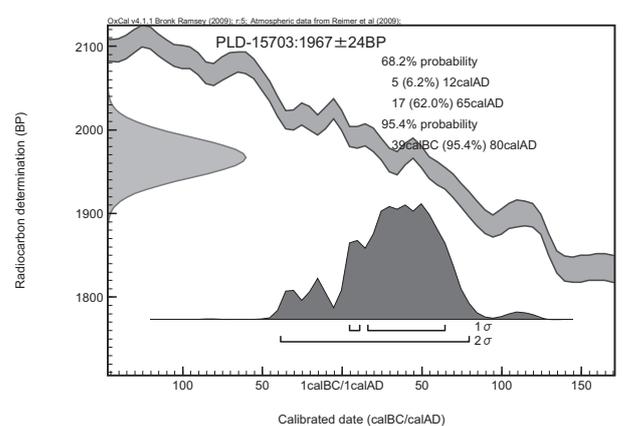
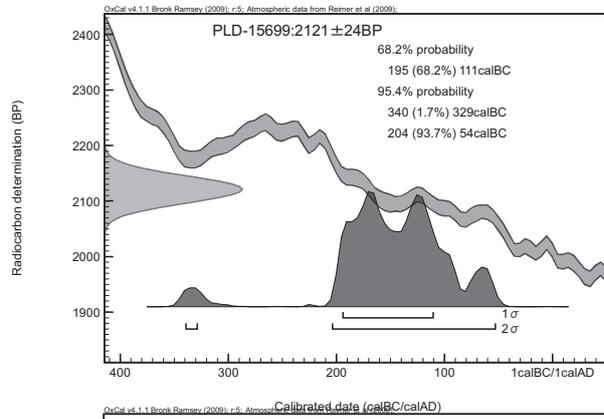
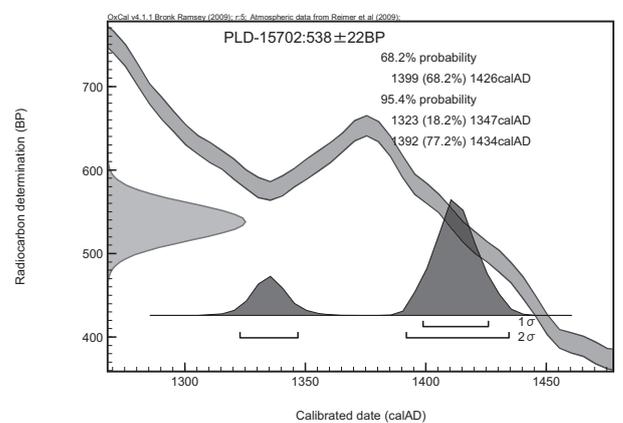
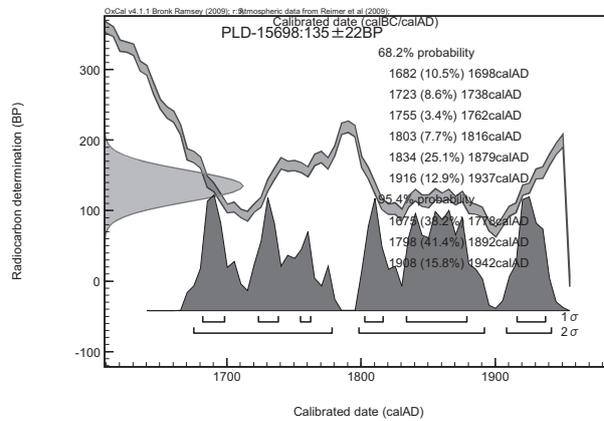
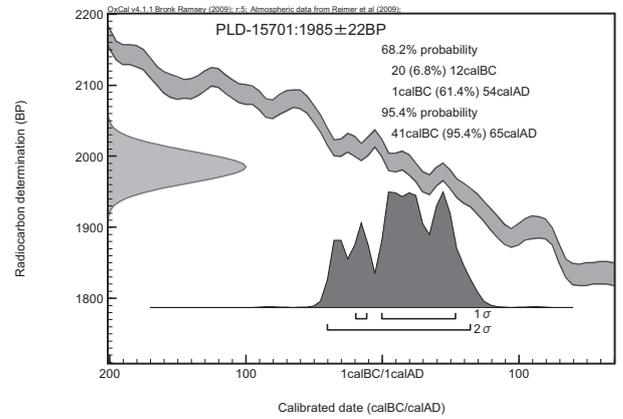
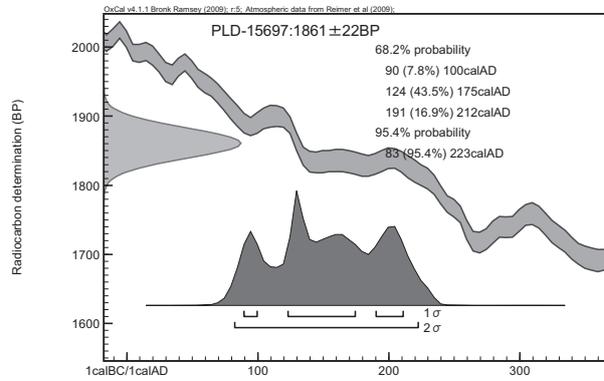


図 181 暦年較正結果

表 11 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-15697 試料No. 1	-24.96 \pm 0.17	1861 \pm 22	1860 \pm 20	90AD (7.8%) 100AD 124AD (43.5%) 175AD 191AD (16.9%) 212AD	83AD (95.4%) 223AD
PLD-15698 試料No. 2	-21.42 \pm 0.28	135 \pm 22	135 \pm 20	1682AD (10.5%) 1698AD 1723AD (8.6%) 1738AD 1755AD (3.4%) 1762AD 1803AD (7.7%) 1816AD 1834AD (25.1%) 1879AD 1916AD (12.9%) 1937AD	1675AD (38.2%) 1778AD 1798AD (41.4%) 1892AD 1908AD (15.8%) 1942AD
PLD-15699 試料No. 3	-25.93 \pm 0.34	2121 \pm 24	2120 \pm 25	195BC (68.2%) 111BC	340BC (1.7%) 329BC 204BC (93.7%) 54BC
PLD-15700 試料No. 4	-26.55 \pm 0.18	1858 \pm 21	1860 \pm 20	93AD (2.6%) 97AD 125AD (44.6%) 181AD 187AD (21.0%) 214AD	85AD (95.4%) 225AD
PLD-15701 試料No. 5	-23.57 \pm 0.24	1985 \pm 22	1985 \pm 20	20BC (6.8%) 12BC 1BC (61.4%) 54AD	41BC (95.4%) 65AD
PLD-15702 試料No. 6	-23.70 \pm 0.37	538 \pm 22	540 \pm 20	1399AD (68.2%) 1426AD	1323AD (18.2%) 1347AD 1392AD (77.2%) 1434AD
PLD-15703 試料No. 7	-28.00 \pm 0.21	1967 \pm 24	1965 \pm 25	5AD (6.2%) 12AD 17AD (62.0%) 65AD	39BC (95.4%) 80AD

紀元前 1 世紀後半～1 世紀後半の範囲を示した。これは弥生時代中期後葉～後期前半にあたる。

木材の場合、最外年輪部分を測定すると枯死・伐採年代が得られるが、内側の部分を測定すると最外部からの年輪分に応じて古い年代が得られる（古木効果）。今回測定した試料は、試料No. 4 以外は最外年輪の確認されていない試料であるため、古木効果の影響を考慮しておく必要がある。

(参考文献)

Bronk Ramsey, C. 1995 Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, pp425-430
 Bronk Ramsey, C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, pp355-363
 藤尾慎一郎 2009 「弥生時代の実年代」『弥生農耕のはじまりとその年代』新弥生時代のはじまり 4 pp9-54 雄山閣。
 春成秀爾・今村峯雄編 2004 『弥生時代の実年代 炭素 14 年代をめぐって』 p 253 学生社

中村俊夫 2000 「放射性炭素年代測定法の基礎」『日本先史時代の 14C 年代』 pp3-20

Reimer, P. J., Baillie, M. G. L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Burr, G. S., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hajdas, I., Heaton, T. J., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., McCormac, F. G., Manning, S. W., Reimer, R. W., Richards, D. A., Southon, J. R., Talamo, S., Turney, C. S. M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C. E. 2009 IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, pp1111-1150.

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ 伊藤茂・尾寄大真・丹生越子・廣田正史・小林紘一
 Zaur Lomtadidze・Ineza Jorjoliani・竹原弘展

3-5 弥生集落の変遷と中世館跡

この築地館跡の発掘調査では、弥生時代後期の集落及び中世館跡が検出された。

いずれも集落の一部、館跡の極く一部が調査されたに過ぎない。しかし、弥生時代後期の集落を構成する条溝、竪穴住居等の各要素を4段階に時期区分して捉えることができるため、弥生時代後期の集落像を示すことができる内容である。また、中世館跡は、その壕の最下層検出試料を用いた放射性炭素14年代測定から、形態が酷似する弥生時代の条溝ではなく、中世の遺構であると確認できるものである。

3-5-1 弥生集落の変遷

築地館跡には弥生時代後期に条溝を備えた集落が営まれている。この集落は小岱山山麓から伸びる台地上に位置し、その東西は迫地形から伸びる支谷で画されている。すなわち、舌状台地の山麓側基部に集落は位置し、有明海に南面し、東には緩斜面を経て菊池川に接続している。

今次調査では側溝を備えた条溝1条、竪穴住居24棟等が確認されたが、これは集落の一部に過ぎず、全体では100棟単位の規模となる弥生集落と推測することができる。

築地館跡で集落の造営が確認できるのは野部田Ⅰ式の時期であり、弥生時代後期前葉と考えられる。集落の存在は野部田Ⅱb式の時期まで確認することができ、弥生時代後期後葉まで営まれたと考えられる。この期間は4段階に時期区分することができ、集落の構造的変遷を追うことができる。なお、条溝の存続時期を限ることができなかつたため、全時期存続したものとしている。

1段階には、3棟の竪穴住居が造営される。この時期から標高が高い東側、低い西側の双方の地区に竪穴住居が位置している。

2段階には、6棟の竪穴住居が造営される。西側の2棟は、条溝からの距離を同じくしているため、この時期に条溝が掘削された可能性がある。東側には4棟の竪穴住居が散在している。東西を比較すれば、東側の地区に集落の中心が形成されはじめたと理解することができる。条溝の掘削、集落中心部の形成は、集落が伸長する段階を迎えていることを示唆する。

3段階には、12棟の竪穴住居が造営される。これは各段階をつうじて最大数であり、切合関係をもつ竪穴住居群も認められる。この段階において、集落は条溝を境として2分化される。条溝の南側には竪穴住居1棟が位置するのみであり、集落は条溝の北側に収まっ

た状況となっている。なお、条溝の南側のSI05には3基の小型炉が営まれており、鍛冶工房となる可能性が高い。その位置は条溝が途切れる直前の条溝屈曲点に面しており、集落の出入口に近い。集落の縁辺部に鍛冶遺構が位置し、遷移する二子塚遺跡例（島津・村上1992）に類似した構造と捉えることができよう。なお、集落の東側では一定の間隔を保って竪穴住居が造営され、広場とも理解できうる空間が生じている。また、竪穴住居の規格にも変化が生じている。ベッド状遺構をもつ竪穴住居は、大小の2種類に分化する。さらに、3段階において切合関係をもつ竪穴住居は、正方形プラン、4本柱建てでベッド状遺構を備えないといった点が共通する。これらの特徴は、特定箇所にて反復造営された特定施設の存在を肯定し、竪穴住居の規模と構造の差異が、建物の用途とその担い手の分化を示唆しているものと考えられる。以上のおり、3段階には集落の規模、構造、機能が膨張しており、集落が隆盛している段階と捉えることができる。

4段階には、2棟の竪穴住居が造営される。集落の東側に位置するSI20とSI33は、3段階と同様の間隔を保って造営されている。竪穴住居の規模の差異も存在し、その位置も条溝の北側を堅守している。すなわち、数が減じたこと以外は前段階と同様である、と評価することができる。集落が衰退する段階でも、その構造と機能は維持されていたのである。

3-5-2 中世館跡の認定

築地館跡は、丘陵上に方形に巡る溝、残存した土塁等を根拠として、中世館跡として認識されている。平成15年度に玉名市が実施した確認調査では中世の土器片が表採されている（末永2006）。

今次調査では条溝1条、掘立柱建物1棟が確認されたが、これは館跡の極く一部に過ぎない。上記の方形壕跡とその周囲が館跡である。なお、掘立柱建

物 SB01 は、弥生時代後期の条溝を切っていることから、条溝 SD05 は放射性炭素年代測定の結果（540 ± 20yrBP）から、中世の遺構であると確認している。SD05 からは弥生土器が出土しているが、その出土量は弥生時代の条溝 SD01 に比して著しく少量であり、居館造営以後、その壕に包含された上古の遺物と結論できる。

(参考文献)

- 島津義昭・村上恭通 1992 『二子塚』 熊本県文化財調査報告 117、熊本県教育委員会
- 末永崇 2006 「16 築地館跡」 『玉名市内遺跡調査報告書』 III、玉名市文化財調査報告 15、玉名市教育委員会

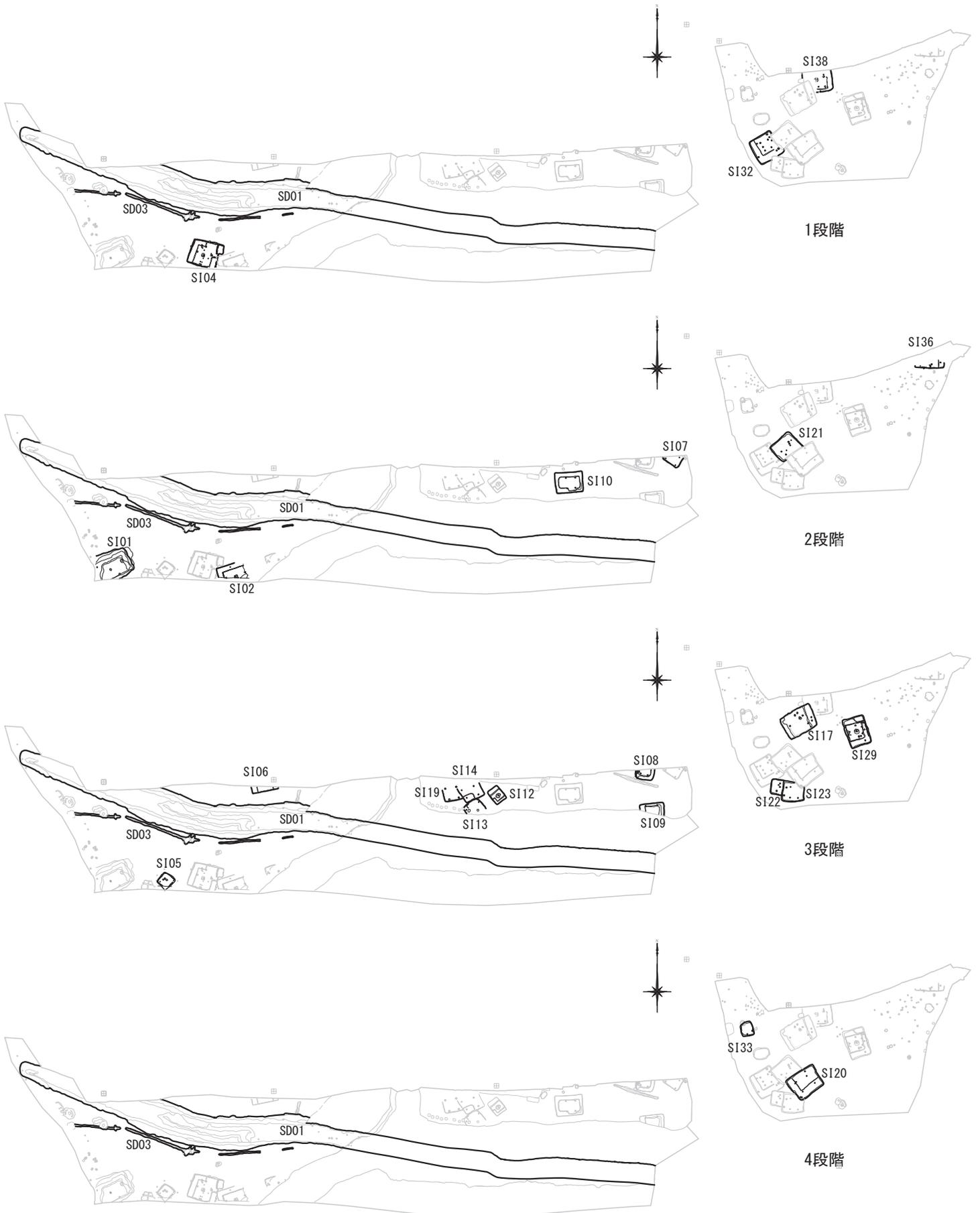


図 182 弥生集落の変遷図 (1/1100)

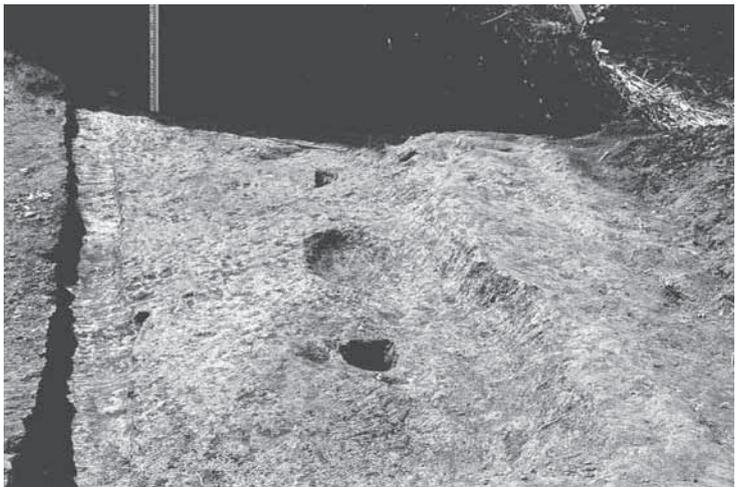
0 20m



4 写真図版



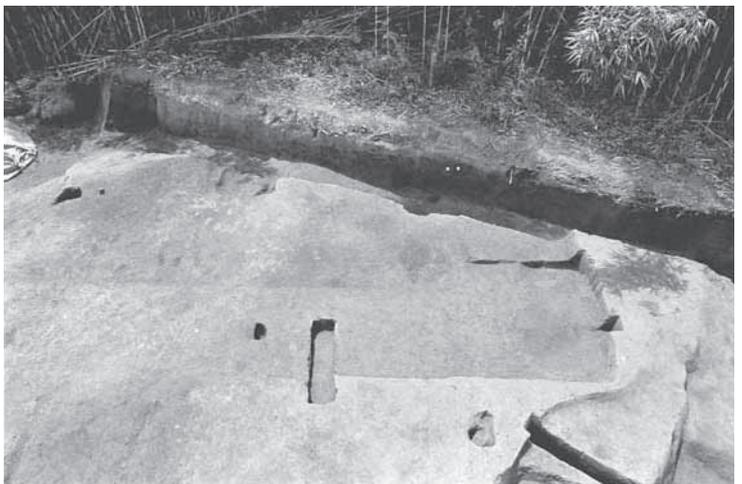
SB01 完掘状況 E→W



SI01 完掘状況 1 N→S



SI01 完掘状況 2 S→N



SI02 完掘状況 1 N→S



SI02 完掘状況 2 NE→SW



SI04 完掘状況 1 NE→SW



SI04 完掘状況 2 NE→SW



SI04 遺物出土状況 S→N

SI05 完掘状況 NE→SW



SI05 遺物出土状況 NE→SW



SI07 完掘状況 S→N



SI08 完掘状況1 N→S



SI08 完掘状況 2 NW→SE



SI09 完掘状況 E→W



SI10 完掘状況 E→W



SI12 完掘状況 E→W





SI13 完掘状況 1 NW→SE



SI13 完掘状況 2 E→W



SI14 完掘状況 E→W



SI15 完掘状況 NW→SE



SI17 完掘状況 NE→SW



SI19 完掘状況 E→W



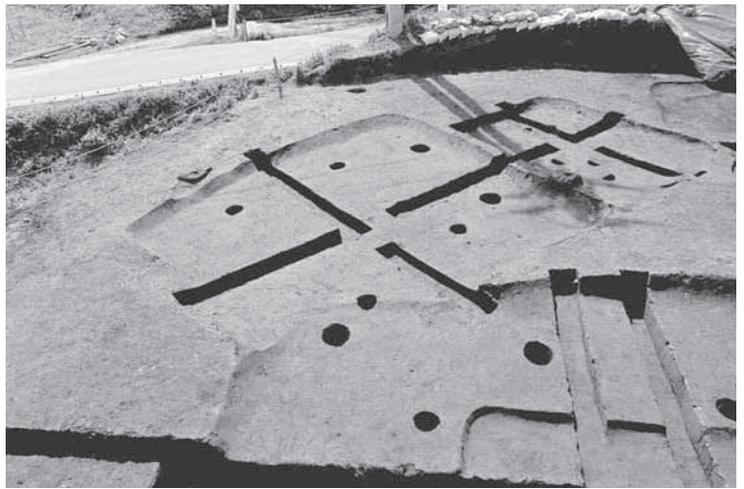
SI20 完掘状況 NE→SW



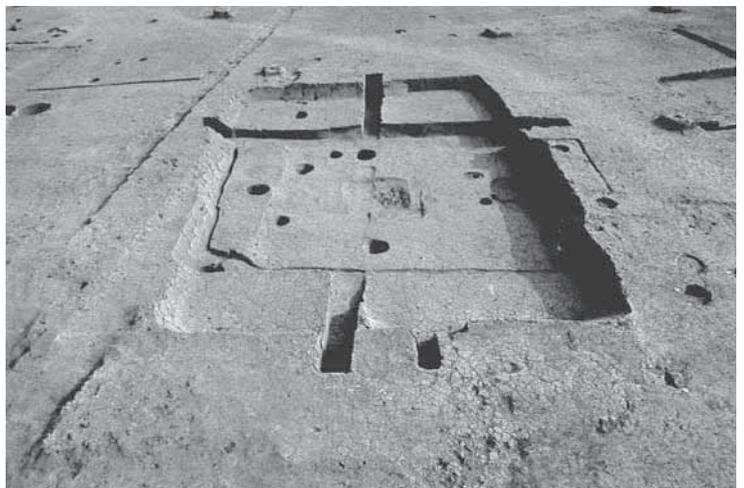
SI21 完掘状況 W→E



SI22 完掘状況 E→W



SI23 完掘状況 E→W



SI29 完掘状況 1 N→S



SI29 完掘状況 2 E→W



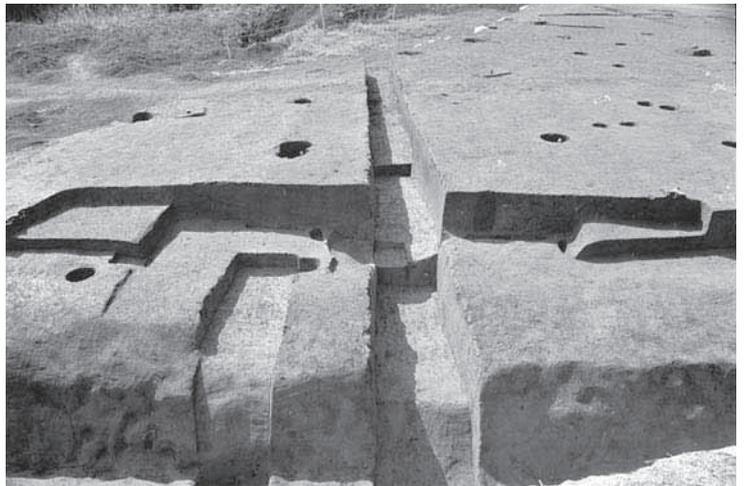
SI32 完掘状況 E→W



SI33 完掘状況 S→N



SI36 完掘状況 1 NW→SE



SI36 完掘状況 2 N→S

SI38 完掘状況 1 NW→SE



SI38 完掘状況 2 NE→SW



SD01 完掘状況 E→W



SD04 完掘状況 E→W



SD05 (A区) 完掘状況 E→W



SD05 (B、C区) 完掘状況 E→W



SK02 完掘状況 SE→NW



SK03 完掘状況 SW→NE



SK04 完掘状況 SW→NE



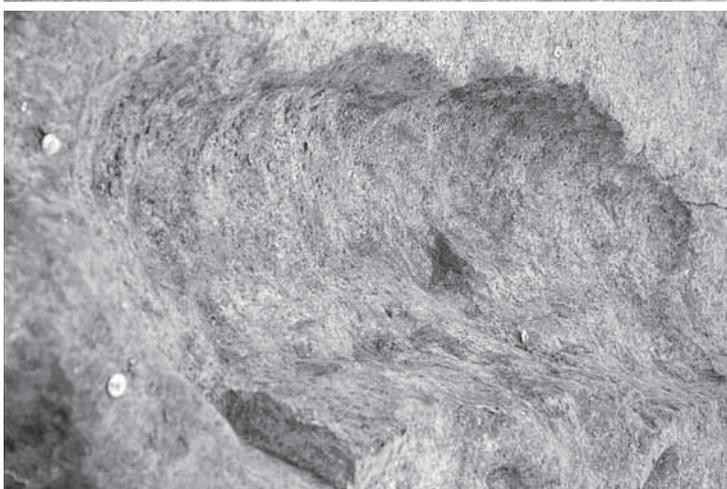
SK05 完掘状況 S→N



SK07 完掘状況 E→W



SK08 完掘状況 E→W

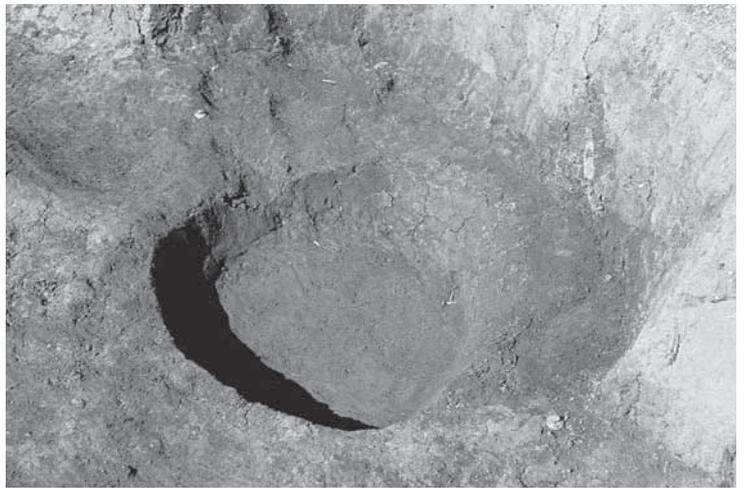




SK10 完掘状況 S→N



SK12 完掘状況 E→W



SK14 完掘状況 S→N



SK17、SK18 完掘状況 E→W



SK19 完掘状況 N→S



SK20 完掘状況 W→E



SK22 完掘状況 E→W



SF01 完掘状況 E→W



SF02 完掘状況 1 E→W



SF02 完掘状況 2 E→W



SF03 完掘状況 E→W



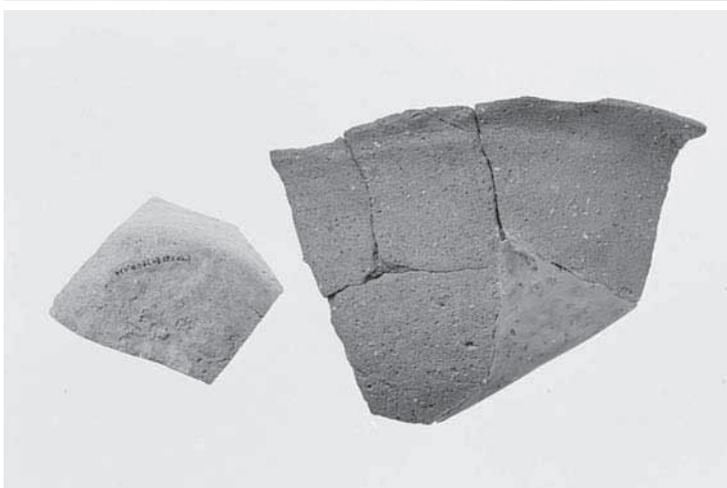
SF05、石橋 検出状況 W→E



SF05、石橋 検出状況 E→W



SI01 出土土器



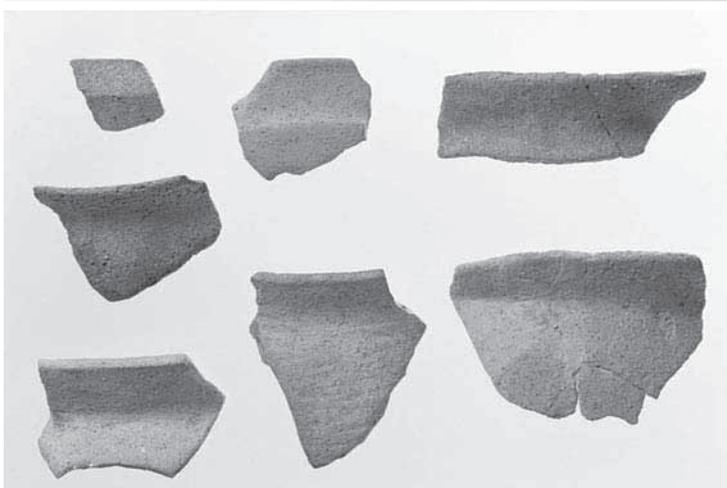
SI02 出土土器



SI04 出土土器



SI05 出土土器 1



SI05 出土土器 2



SI06 出土土器 1



SI06 出土土器 2



SI08 出土土器



SI10 出土土器



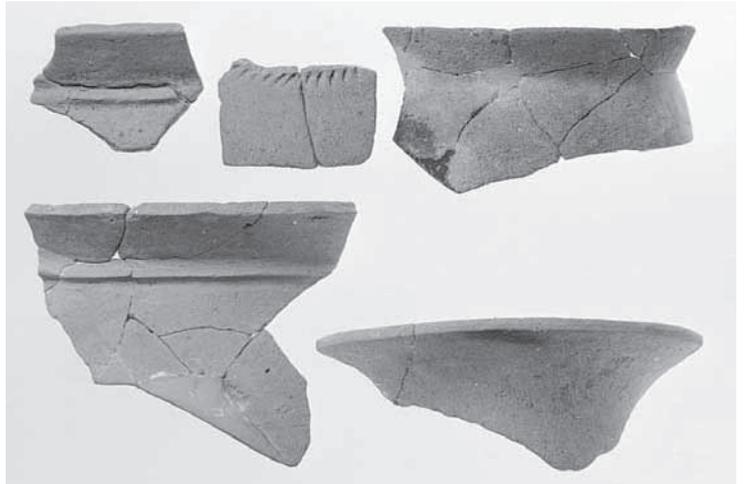
SI12 出土土器 1



SI12 出土土器 2



SI13 出土土器 1



SI13 出土土器 2



SI14 出土土器



SI17 出土土器 1



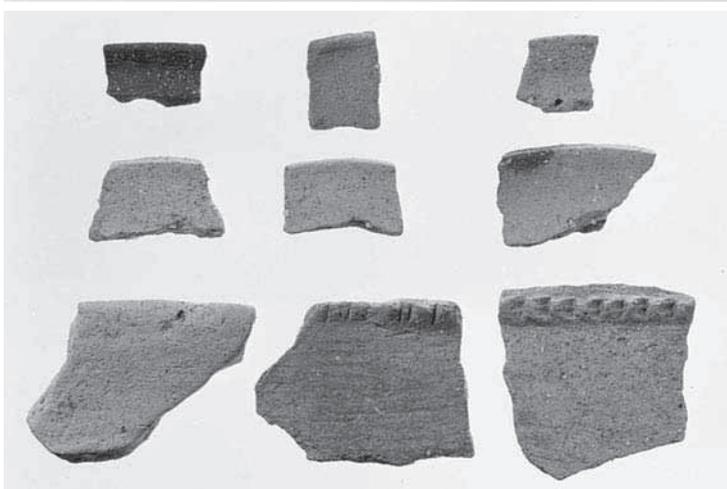
S117 出土土器 2



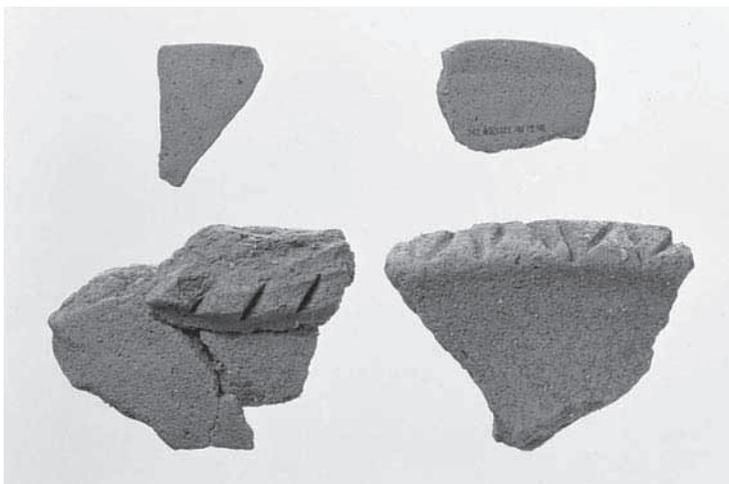
S119 出土土器



S120 出土土器 1



S120 出土土器 2



SI21 出土土器



SI23 出土土器



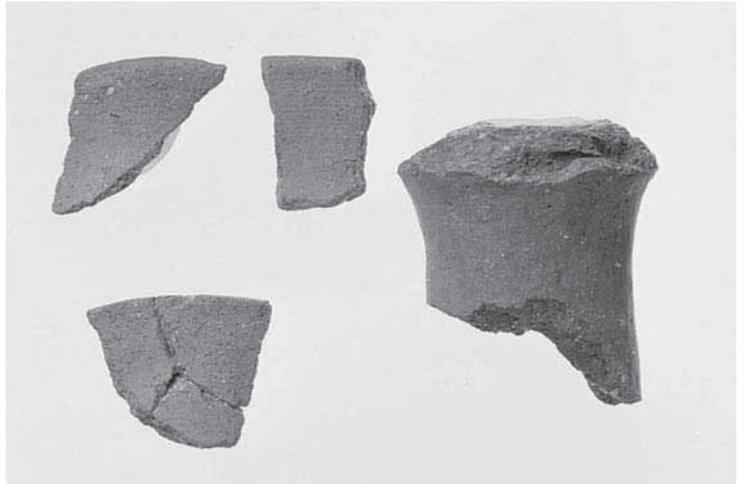
SI29 出土土器



SI32 出土土器 1



SI32 出土土器 2



SI33 出土土器



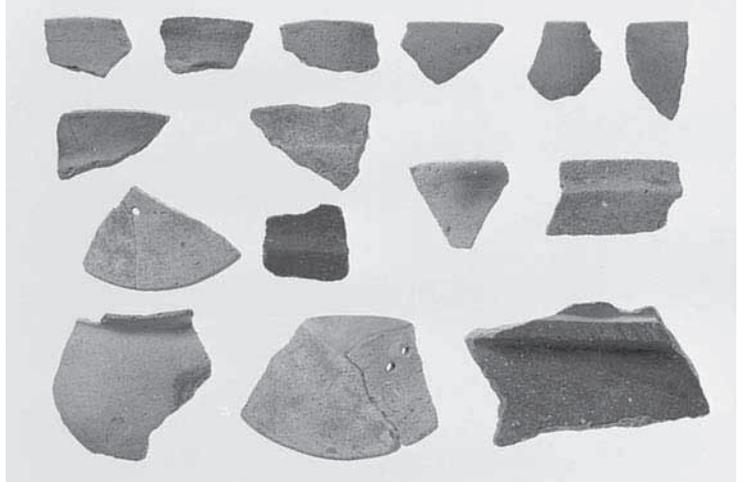
SI36 出土土器



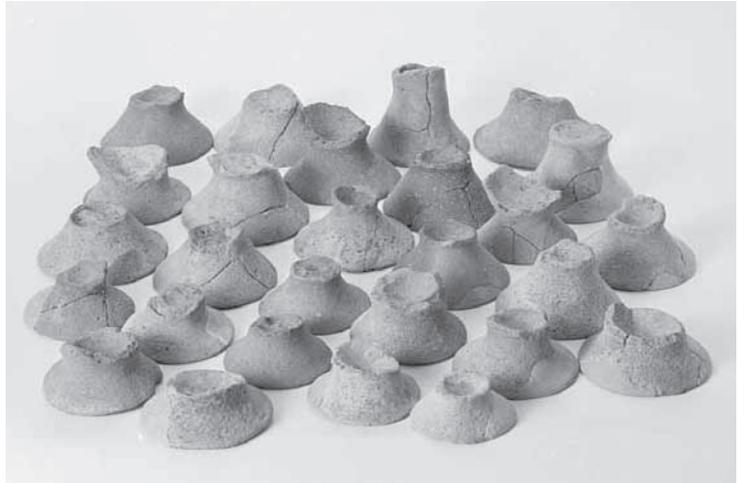
SI38 出土土器 1



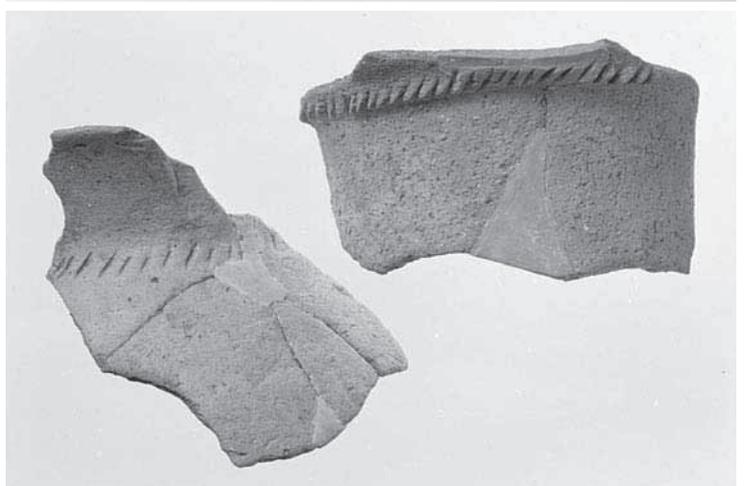
S138 出土土器 2



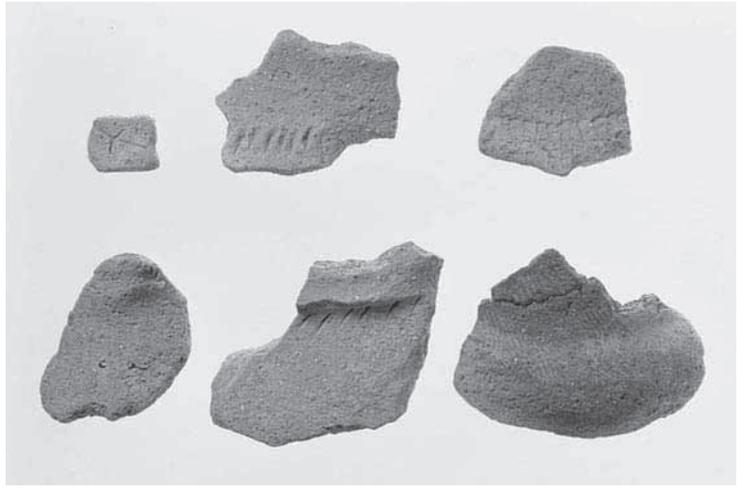
S138 出土土器 3



SD01 出土土器 1



SD01 出土土器 2



SD01 出土土器 3



SD01 出土石器 石皿 1



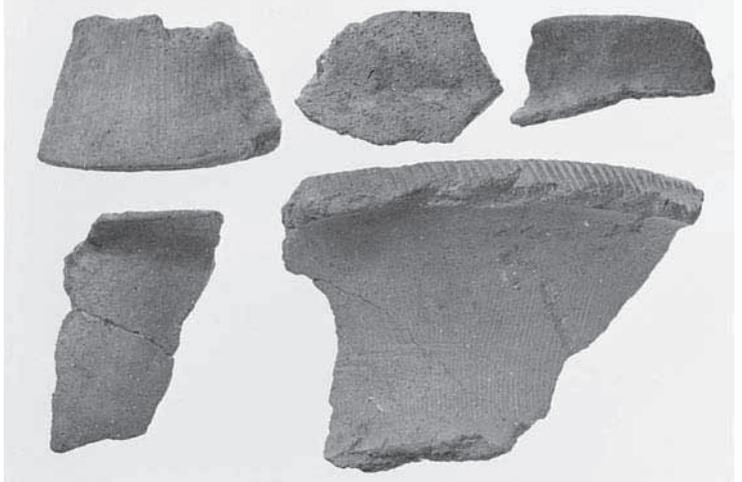
SD01 出土石器 石皿 2



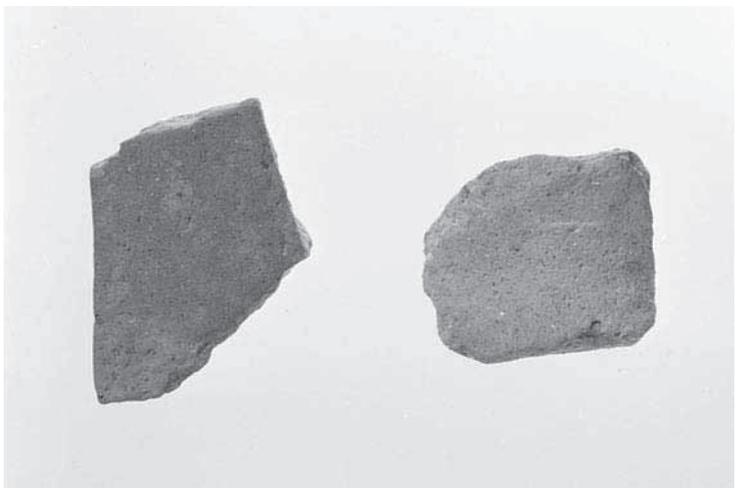
SD05 出土土器



SD06 出土土器 1



SD06 出土土器 2



SD07 出土土器



SD10 出土土器



SK12 出土土器



高坏



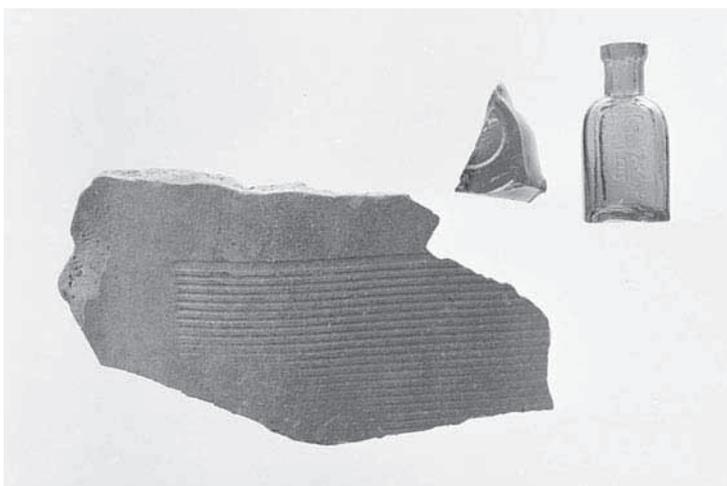
器台



SF03 出土土器 1



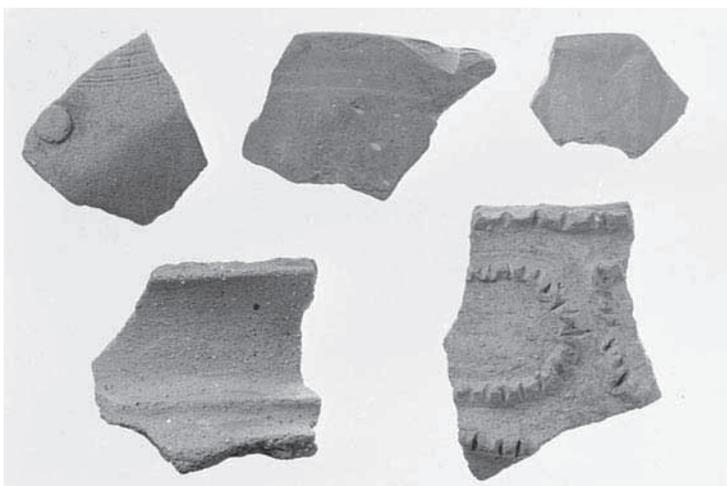
SF03 出土土器 2



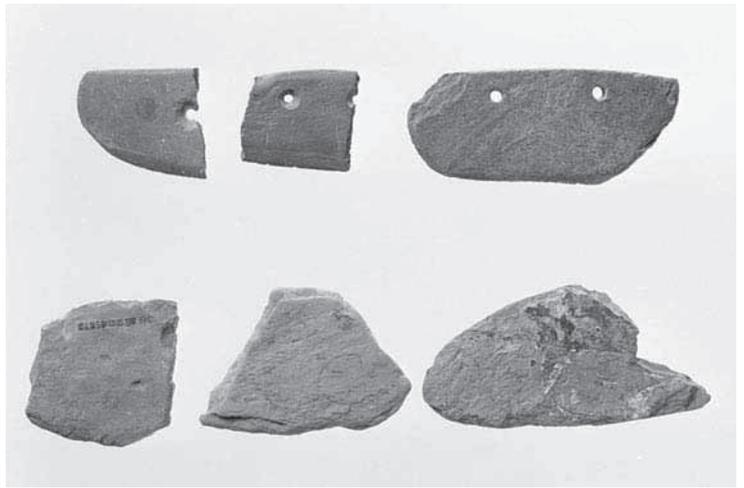
SF05 出土土器



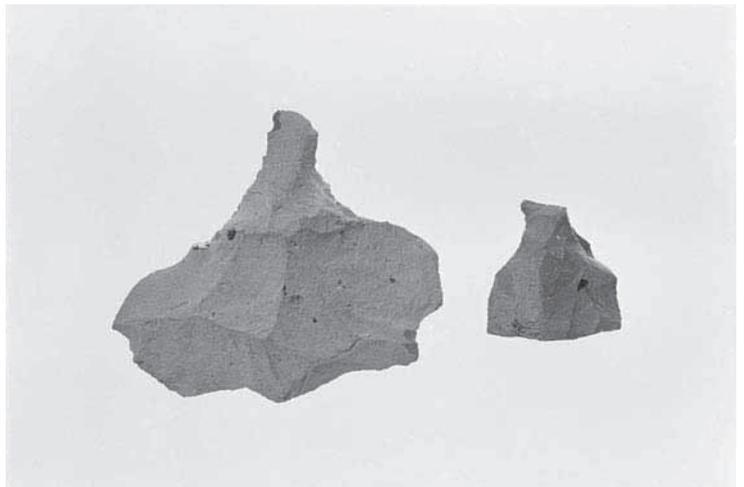
Grid 出土土器 1



Grid 出土土器 2



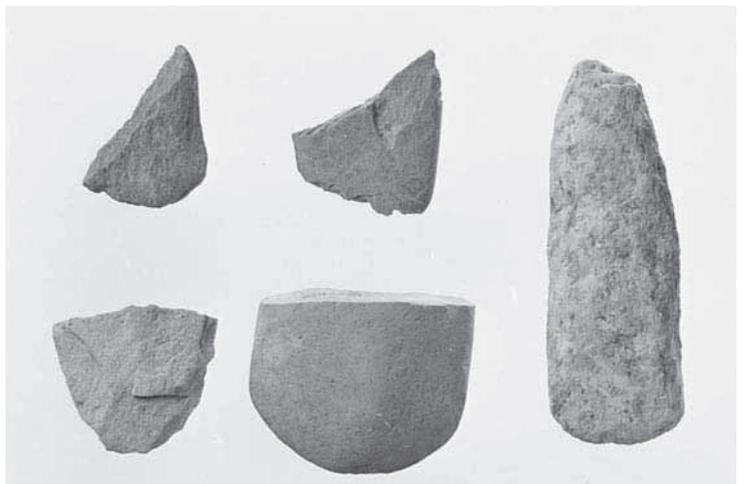
石庖丁



石匙



石鎌



石斧

石ノミ



砥石

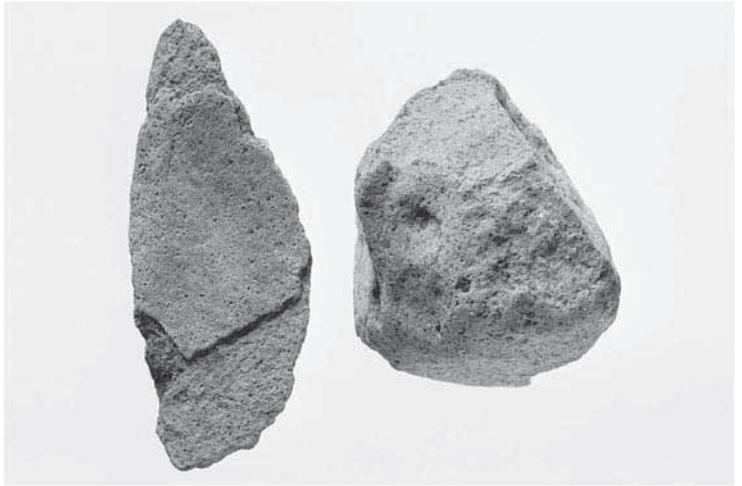


磨石

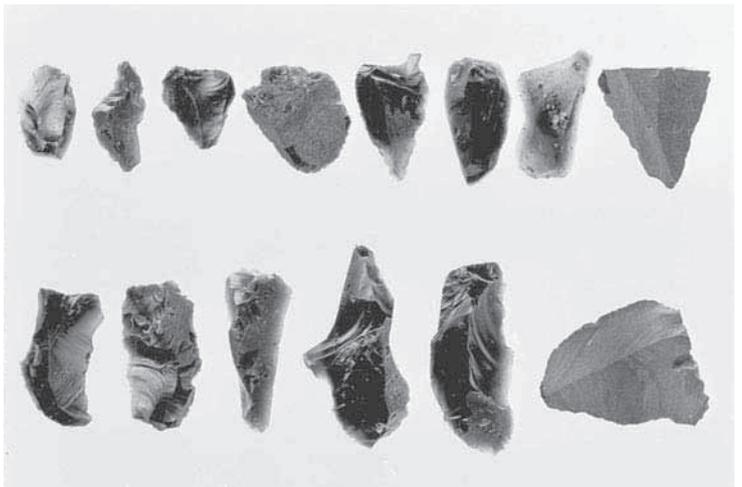


敲石

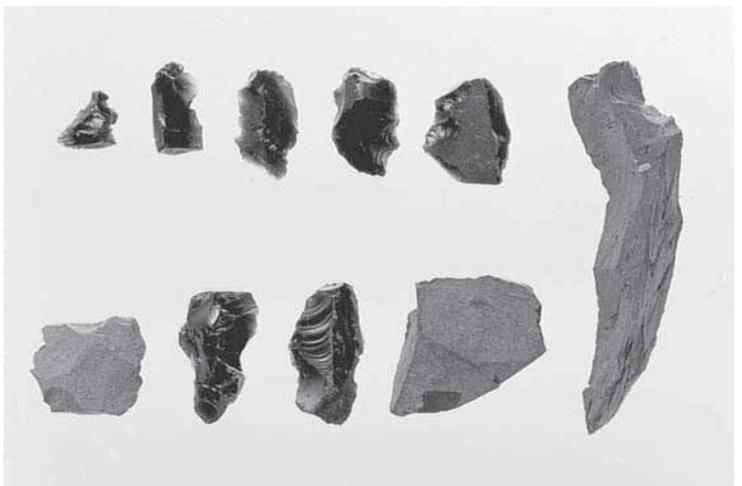




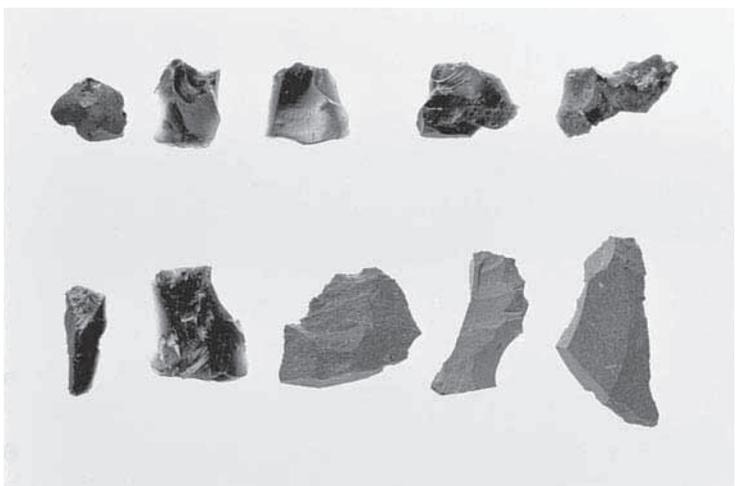
台石



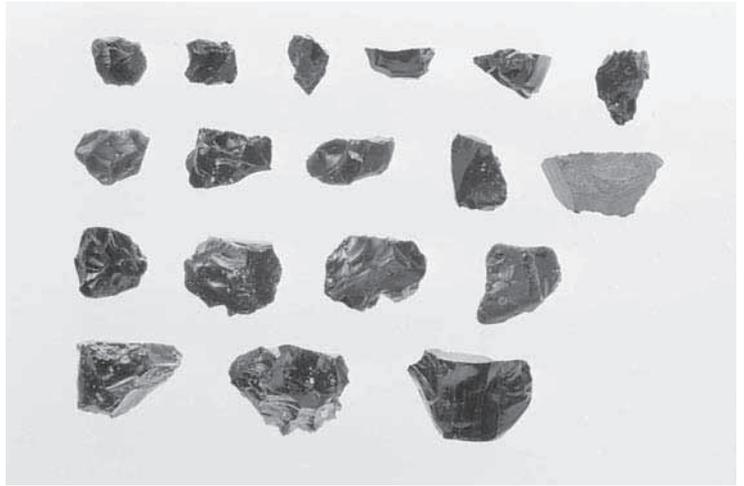
使用痕剥片



二次加工剥片



剥片



石核



ナイフ形石器



台形石器



細石刃



石錐



石鏃



石鏃未製品



楔形石器

報告書抄録

ふりがな	ついじやかたあと
書名	築地館跡
副書名	一般国道208号玉名バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第283集
編集者名	宮崎敬士
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒862-8609 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号 TEL 096-383-1111 (内線6715)
発行年月日	西暦 2013年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ついじやかたあと 築地館跡	くまもとけんたまなし ついじ あぎ なぎの 熊本県玉名市 築地字那木野	43206	168	32度 56分 12秒	130度 31分 53秒	20090421 ～ 20100331	6,647㎡	道路改築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
築地館跡	集落跡	弥生時代 (後期)	竪穴住居 溝 24棟 2条	弥生土器、土錘。 打製石鏃、石匙、 楔形石器、石錐、 搔器、二次加工 剥片、剥片、碎 片、石核、原石、 磨製石鏃、石斧、 砥石、石庖丁、石 皿、磨石、台石、 敲石。袋状斧、圭 頭鏃、棒状工具、 ペンガラ。	弥生時代後期の集落 集落を巡る条溝(環濠)に側溝が付設 住居跡からジョッキ形土器が出土 住居跡から鉄斧、鉄族、ペンガラが出 土 弥生時代の打製石器が多量出土
	城館跡	中世	掘立柱建物 溝 1棟 1条		中世館跡の溝(壕)の一部を発掘 丘陵上に方形に巡る溝、残存した土塁 等が現存している

要約	<p>築地館跡の近傍は、弥生時代後期の遺跡で野部田式を出土する築地遺跡として知られていた。遺跡の詳細範囲確定過程を経て、発掘調査前には、築地館跡の範囲は中世館跡として認識されるようになる。丘陵上に方形に巡る溝、残存した土塁等がその根拠である。今次調査では、竪穴住居24棟、溝2条、土壇等で構成された弥生時代後期の集落、掘立柱建物1棟、溝1条、土壇等で構成される中世館跡が検出された。いずれも集落、館跡の一部分を確認したにすぎない。</p> <p>弥生時代後期の集落は、土器から4段階に時期区分することができる。竪穴住居は、(古)3棟、6棟、12棟、2棟(新)と変遷する。条溝は、下位層に全段階の土器が包含されており、集落が存続した全時期にわたり存在している。石器には太型蛤刃石斧(片)、石庖丁とその未製品等が、鉄器では袋状斧、圭頭鏃、棒状工具等が出土している。後代の溝は、下位層出土の炭化物試料を用いた放射性炭素年代測定値、弥生土器等の遺物出土量が極めて少ないことから中世とした。</p> <p>なお、出土石器947点のうち西北九州産石材が860点(出土比率91%)を占め、西北九州産石材が寡占する状況である。出土石器には旧石器時代から縄紋時代の石器も含まれると考えられるが、出土状況からその大多数が弥生時代に帰属するものである。</p>
----	---

熊本県文化財調査報告 第283集

築地館跡

一般国道 208 号玉名バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

発行年月日 平成 25 年 3 月 31 日

編集・発行 熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本県熊本市中央区水前寺 6-18-1

印刷・製本 オフセット株式会社

〒861-4109 熊本市南区日吉 2-2-32

発 行 者：熊本県教育委員会
所 属：教育総務局文化課
発行年度：平成 24 年度

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 283 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名： 築地館跡

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話： 096-383-1111

URL： <http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日